

# 千葉県子どもの生活実態調査

## 報告書

(令和元年度)

千葉県

## ■目次■

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 実態調査票の配布及び回答数	1
3. 基本属性	2
4. 生活困難層の状況	3
5. 困窮層の割合	4
6. 分析対象について	7
7. 集計方法等について	8
II. 基本集計	9
1. 基本属性	9
(1) 保護者年齢	9
(2) 保護者国籍	10
(3) 世帯の状況	12
2. 子どもの学びの状況	18
(1) 子どもの所有品	18
(2) 将来の夢や目標、希望進路	21
(3) 学校生活、学習理解度、学習の状況	25
(4) これまでに通った教育機関、将来受けさせたい教育	40
3. 生活困窮の状況	45
(1) 住居の状況	45
(2) 教育にかかる費用	55
(3) 家計の状況	59
(4) 子どもの生活水準	73
(5) 10年前の暮らし向き	82
4. 子どもの生活の状況	84
(1) 人間関係	84
(2) いじめ・不登校の悩み	87
(3) 放課後・休日の過ごし方	91
(4) 活動時間	110
(5) 読書	120
(6) 起床・就寝時刻	121
(7) 食事と栄養	124
(8) 居場所支援等の利用意向	142
5. 子ども及び保護者の健康・自己肯定感	151
(1) 子どもの健康状態	151

(2) 子どもの医療機関受診状況.....	161
(3) 保護者の健康状態.....	164
(4) 保護者の医療機関受診状況.....	175
6. 保護者と子ども・地域との関わり .....	182
(1) おうちの大人との関わり.....	182
(2) 子どもとの関わり.....	196
(3) 相談できる人、知人・友人.....	204
7. 保護者のこれまでの経験.....	207
(1) 保護者学歴.....	207
(2) 15歳の頃の状況.....	211
(3) 成人前・子どもをもつてからの経験 .....	214
8. 保護者の就労状況.....	221
(1) 母親の就労状況 .....	221
(2) 父親の就労状況 .....	233
9. 経済的支援制度の利用状況 .....	243
10. 子育て支援制度・相談機関の利用状況 .....	265
(1) 情報の受け取り方.....	265
(2) 子育て支援制度の利用状況.....	269
(3) 相談機関の利用状況.....	286
III. テーマ別集計.....	306
1. 貧困の継続状況別分析.....	306
(1) 保護者.....	307
(2) 子ども.....	316
(3) 考察 .....	320
2. 保護者の国籍別分析 .....	321
(1) 保護者.....	322
(2) 子ども.....	333
(3) 考察 .....	336
IV. 考察 .....	337
1. 子どもの学びの状況 .....	337
(1) 結果概要 .....	337
(2) 考察 .....	337
2. 生活困窮の状況 .....	338
(1) 結果概要 .....	338
(2) 考察 .....	338
3. 子どもの生活の状況 .....	339

(1) 結果概要 .....	339
(2) 考察 .....	339
4. 子ども及び保護者の健康・自己肯定感 .....	340
(1) 結果概要 .....	340
(2) 考察 .....	340
5. 保護者と子ども・地域との関わり .....	341
(1) 結果概要 .....	341
(2) 考察 .....	341
6. 保護者のこれまでの経験 .....	342
(1) 結果概要 .....	342
(2) 考察 .....	342
7. 保護者の就労状況 .....	343
(1) 結果概要 .....	343
(2) 考察 .....	343
8. 経済的支援制度の利用状況 .....	344
(1) 結果概要 .....	344
(2) 考察 .....	344
9. 子育て支援制度・相談機関の利用状況 .....	345
(1) 結果概要 .....	345
(2) 考察 .....	346
<参考資料> .....	348

## I. 調査概要

### 1. 調査目的

千葉県内に住む小学5年生及び中学2年生とその保護者を対象に、子どもの勉強時間、放課後の過ごし方、学校の授業の理解度や、保護者の学歴、就業の状況・収入、スクールソーシャルワーカーといった公的機関の相談体制に対する認知度・利用度等、教育や生活に関連する調査を行い、その結果を取りまとめた。

### 2. 実態調査票の配布及び回答数

実態調査票については、人口規模や地域性のバランスを考慮し、県内の15市町村(柏市、成田市、旭市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、四街道市、匝瑳市、山武市、多古町、睦沢町、長生村)に配布した。

配布数	子ども票・保護者票 各 20,840 件 うち小学5年生：10,903 件 中学2年生：9,937 件
回答者数	子ども票 7,173 件 うち小学5年生：4,273 件 中学2年生：2,780 件 学年不明：120 件 保護者票 7,185 件 うち小学5年生：4,394 件 中学2年生：2,785 件 学年不明：6 件
回答率	子ども票 34.4% うち小学5年生：39.2% 中学2年生：28.0% 保護者票 34.5% うち小学5年生：40.3% 中学2年生：28.0%
配布方法	郵送による質問紙調査法 (学校から子どもに配布をし、子ども・保護者が回答後に直接ポストに投函する方法とした。また、回答した調査票は子ども・保護者それぞれ別の封筒に封入することとし、互いの回答を見ることができないよう配慮した。)
調査実施時期	令和元年9月18日～10月11日

### 3. 基本属性

本調査の回答者の基本属性は以下のとおりである。

図表 1 【子ども】 Q1 学年

	n	割合
小学生	4273	59.6%
中学生	2780	38.8%
無回答	120	1.7%
全体	7173	100.0%

図表 2 【子ども】 Q2 性別

		全体	男子	女子	無回答
小学生	n	4273	1985	2282	6
	割合	100.0%	46.5%	53.4%	0.1%
中学生	n	2780	1272	1410	98
	割合	100.0%	45.8%	50.7%	3.5%

図表 3 【保護者】 Q2 回答者の続柄

		全体	母親	父親	祖父・祖母	おじ・おば など親戚	施設職員	里親	その他	無回答
小学生	n	4394	4000	359	16	0	8	0	0	11
	割合	100.0%	91.0%	8.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%
中学生	n	2785	2537	219	10	3	5	2	2	7
	割合	100.0%	91.1%	7.9%	0.4%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.3%

図表 4 【保護者】 Q3 回答者の年齢

		全体	29歳以下	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	無回答	平均(歳)
小学生	n	4394	14	289	1002	1606	1091	249	143	42.0
	割合	100.0%	0.3%	6.6%	22.8%	36.5%	24.8%	5.7%	3.3%	
中学生	n	2785	1	56	335	938	1013	352	90	44.5
	割合	100.0%	0.0%	2.0%	12.0%	33.7%	36.4%	12.6%	3.2%	

図表 5 【保護者】 Q6~7 世帯タイプ

		全体	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)	無回答
小学生	n	4394	3364	575	266	153	36
	割合	100.0%	76.6%	13.1%	6.1%	3.5%	0.8%
中学生	n	2785	2071	374	193	126	21
	割合	100.0%	74.4%	13.4%	6.9%	4.5%	0.8%

#### 4. 生活困難層の状況

本調査では、首都大学東京子ども・若者貧困研究センター（2017）「東京都子供の生活実態調査報告書」を参考に、子どもの「生活困難」に係る3要素を以下のとおり定義した。

i. 低所得	<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」から、下記的方式で算出される「低所得基準」未達の世帯と定義する。</p> <p>&lt;低所得基準&gt;          世帯所得の中央値 423 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50%          = 134.6 万円</p>
ii. 家計の逼迫	<p>保護者票において、以下の7項目中、<u>1つ以上が該当する場合と定義する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 過去1年以内に経済的な理由で電話料金の滞納があった</li> <li>2. 過去1年以内に経済的な理由で電気料金の滞納があった</li> <li>3. 過去1年以内に経済的な理由でガス料金の滞納があった</li> <li>4. 過去1年以内に経済的な理由で水道料金の滞納があった</li> <li>5. 過去1年以内に経済的な理由で家賃の滞納があった</li> <li>6. 過去1年以内に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」があった</li> <li>7. 過去1年以内に「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があった</li> </ol>
iii. 子どもの体験や所有物の欠如	<p>保護者票において、<u>過去1年以内の子どもの体験や所有物に関する以下15項目のうち、経済的な理由により欠如している項目が3つ以上ある場合と定義する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海水浴に行く</li> <li>2. 博物館・科学館・美術館などに行く</li> <li>3. キャンプやバーベキューに行く</li> <li>4. スポーツ観戦や劇場に行く</li> <li>5. 遊園地やテーマパークに行く</li> <li>6. 毎月おこづかいを渡す</li> <li>7. 毎年新しい洋服・靴を買う</li> <li>8. 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる</li> <li>9. 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）</li> <li>10. お誕生日のお祝いをする</li> <li>11. 1年に1回くらい家族旅行に行く</li> <li>12. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる</li> <li>13. 子どもの年齢にあった本</li> <li>14. 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ</li> <li>15. 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所</li> </ol>

上記3つの要素について、該当する要素の数に応じて以下のとおり生活困難度を分類した。

①困窮層	2つ以上の要素に該当
②周辺層	いずれか1つの要素に該当
③一般層	いずれの要素にも該当しない

なお、上記3要素について1つでも欠損がある場合は無効としたため、生活困難度を算出できるサンプルは4869件（保護者票ベース）となった。

## 5. 困窮層の割合

保護者票における困窮層の割合をみると、全体では困窮層が6.9%、周辺層が12.3%であった。また、3要素に該当する割合はそれぞれ①低所得が4.1%、②家計の逼迫が12.4%、③子どもの体験や所有物の欠如が10.6%となっていた。

図表 6 困窮層・周辺層・一般層の割合（保護者票ベース）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	n	割合	n	割合	n	割合
① 困窮層	337	6.9%	183	6.1%	154	8.2%
② 周辺層	600	12.3%	342	11.4%	258	13.8%
小計 (①+②)	937	19.2%	525	17.5%	412	22.0%
③ 一般層	3932	80.8%	2473	82.5%	1459	78.0%
合計 (①+②+③)	4869	100.0%	2998	100.0%	1871	100.0%

図表 7 生活困難に係る3要素の構成割合（保護者票ベース）

	全体		小学5年生		中学2年生	
	n	割合	n	割合	n	割合
①低所得	201	4.1%	113	3.8%	88	4.7%
②家計の逼迫	606	12.4%	340	11.3%	266	14.2%
③子どもの体験や所有物の欠如	516	10.6%	282	9.4%	234	12.5%

困窮層・周辺層に限定して、生活困難に係る3要素別の構成比を詳細にみたものが、次の図表8である。

図表 8 困窮層・周辺層の割合（保護者票ベース）

<全体>

			人	%	人	%
困窮層	3つに該当	①低所得+②家計の逼迫+③子どもの体験や所有物欠如	49	1.0%	337	6.9%
	2つに該当	① 低所得+②家計の逼迫	28	0.6%		
		①低所得+③子どもの体験や所有物欠如	26	0.5%		
		②家計の逼迫+③子どもの体験や所有物欠如	234	4.8%		
周辺層	1つに該当	① 低所得	98	2.0%	600	12.3%
		② 家計の逼迫	295	6.1%		
		③ 子どもの体験や所有物欠如	207	4.3%		
困窮層と周辺層の計					937	19.2%

<小学5年生>

			人	割合	人	%
困窮層	3つに 該当	①低所得+②家計の逼迫+③子ども の体験や所有物欠如	27	0.9%	183	6.1%
	2つに 該当	①低所得+②家計の逼迫	17	0.6%		
		①低所得+③子どもの体験や所有物 欠如	12	0.4%		
		②家計の逼迫+③子どもの体験や所 有物欠如	127	4.2%		
周辺層	1つに 該当	①低所得	57	1.9%	342	11.4%
		②家計の逼迫	169	5.6%		
		③子どもの体験や所有物欠如	116	3.9%		
困窮層と周辺層の計					525	17.5%

<中学2年生>

			N	%	N	%
困窮層	3つに 該当	①低所得+②家計の逼迫+③子ども の体験や所有物欠如	22	1.2%	154	8.2%
	2つに 該当	①低所得+②家計の逼迫	11	0.6%		
		①低所得+③子どもの体験や所有物 欠如	14	0.7%		
		②家計の逼迫+③子どもの体験や所 有物欠如	107	5.7%		
周辺層	1つに 該当	①低所得	41	2.2%	258	13.8%
		②家計の逼迫	126	6.7%		
		③子どもの体験や所有物欠如	91	4.9%		
困窮層と周辺層の計					412	22.0%

世帯タイプ別に、困窮層・周辺層・一般層の割合をみたものが、次の図表 9 である。これをみると、特に「ひとり親（二世帯）」において困窮層が 25.5%、周辺層が 28.6%と高い割合となっていた。

図表 9 世帯タイプ別 困窮層・周辺層・一般層の割合（保護者票ベース）

<全体>

	全体		ふたり親 (二世帯)		ふたり親 (三世帯)		ひとり親 (二世帯)		ひとり親 (三世帯)	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	337	6.9%	195	5.2%	28	4.7%	82	25.5%	29	17.3%
②周辺層	600	12.3%	397	10.5%	69	11.6%	92	28.6%	41	24.4%
③一般層	3932	80.8%	3181	84.3%	498	83.7%	148	46.0%	98	58.3%

<小学5年生>

	全体		ふたり親 (二世帯)		ふたり親 (三世帯)		ひとり親 (二世帯)		ひとり親 (三世帯)	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	183	6.1%	105	4.5%	17	4.7%	47	24.4%	13	14.4%
②周辺層	342	11.4%	227	9.7%	36	9.9%	58	30.1%	21	23.3%
③一般層	2473	82.5%	2013	85.8%	312	85.5%	88	45.6%	56	62.2%

<中学2年生>

	全体		ふたり親 (二世帯)		ふたり親 (三世帯)		ひとり親 (二世帯)		ひとり親 (三世帯)	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	154	8.2%	90	6.3%	11	4.8%	35	27.1%	16	20.5%
②周辺層	258	13.8%	170	11.9%	33	14.3%	34	26.4%	20	25.6%
③一般層	1459	78.0%	1168	81.8%	186	80.9%	60	46.5%	42	53.8%

## 6. 分析対象について

有効回答となった子ども票・保護者票のうち、子どもと保護者がマッチングできたのは小学5年生では4,243件、中学2年生では2,761件であった。以降の分析においては、子ども票について、生活困難度別や世帯タイプの分析を行うため、子どもと保護者がマッチングできたサンプルのみを分析対象として取り扱う。また、保護者票の分析にあたっては、マッチングの有無にかかわらず、全サンプルを対象とする。分析対象となる保護者・子どもの件数内訳は以下のとおりである。

図表 10 分析対象の件数内訳

(件)

	子ども		保護者	
	小学生	中学生	小学生	中学生
全体※	4,243	2,761	4,394	2,785
困窮層	174	151	183	154
周辺層	331	258	342	258
一般層	2,390	1,444	2,473	1,459
ふたり親（二世代）	3,249	2,051	3,364	2,071
ふたり親（三世代）	556	372	575	374
ひとり親（二世代）	252	191	266	193
ひとり親（三世代）	150	126	153	126

※全体には生活困難度が算出できなかったサンプルも含まれるため、各カテゴリの合計と全体は一致しない。

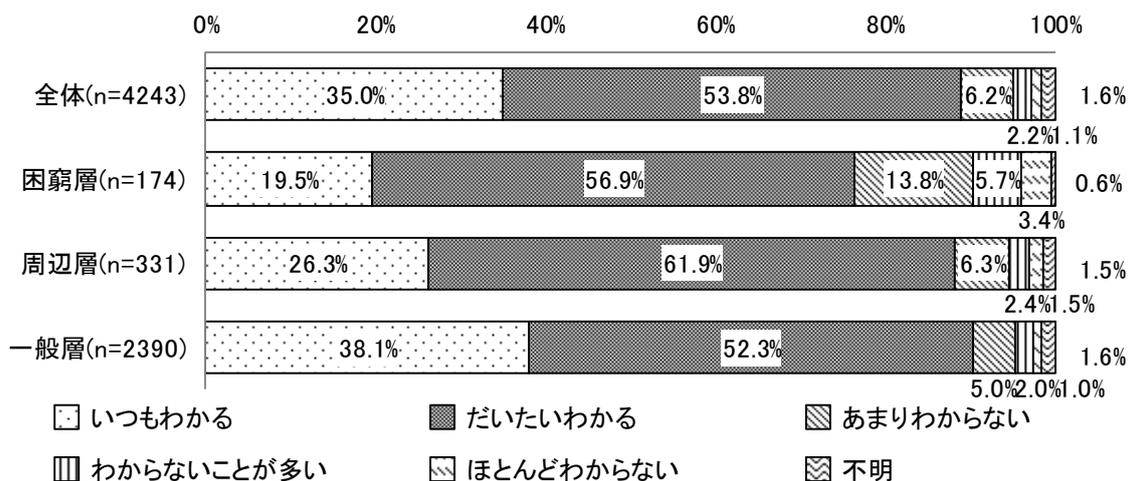
## 7. 集計方法等について

- 各図表の結果数値（％）は小数点第二位以下を四捨五入して表示しているため、各項目の割合の合計が100％に一致しない場合がある。
- 本報告書においては、クロス集計結果の掲載時に、 $\chi^2$ 乗検定によって項目間に統計的に有意な差を認められるかを検定している。その結果、1％水準で有意である場合には $p < .01$ （もしくは[\*\*]）、5％水準で有意である場合には $p < .05$ （もしくは[\*]）とそれぞれ記載している。なお、1％水準で有意であるとは、図表で示している項目間に統計的に差がない確率が1％未満であり、項目間に差があるという差し支えないという意味である。本報告書では、5％水準までを統計的に有意とみなしている。

例) 以下の図表の場合、 $p < .01$  であるため、困窮状況によって学習授業の理解度に有意な差がみられるということが出来る。

### 【子ども】Q31 学校授業の理解度

【小学生】 ( $p < .01$ )



## Ⅱ. 基本集計

### 1. 基本属性

#### (1) 保護者年齢

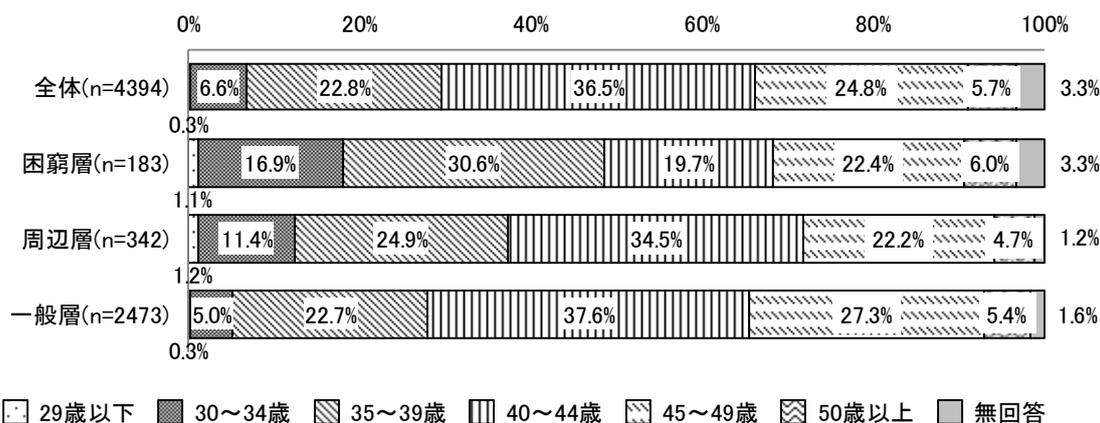
##### ①【保護者】Q3 年齢

小学生の「全体」では、「40～44歳」が36.5%でもっとも割合が高く、次いで「45～49歳」が24.8%となっている。生活困難度別にみると、「30～34歳」の割合は、困窮層(16.9%)、周辺層(11.4%)、一般層(5.0%)の順に高い。

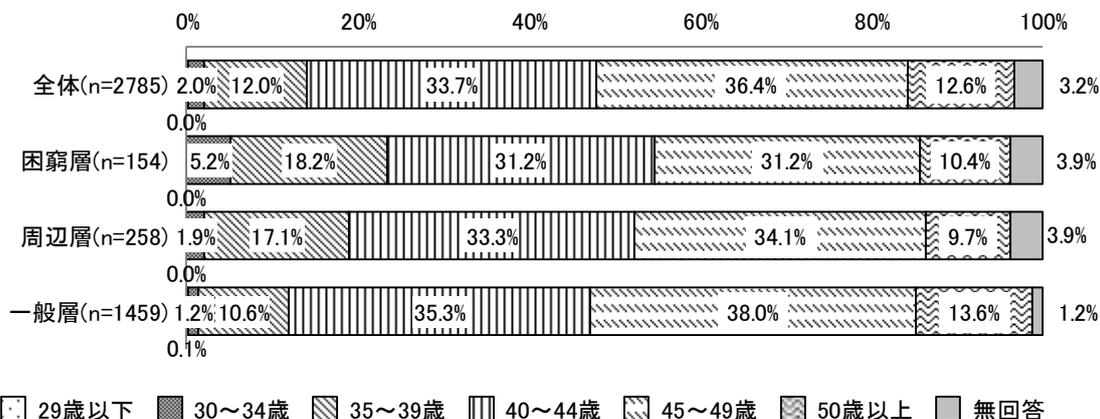
中学生の「全体」では、「45～49歳」が36.4%でもっとも割合が高く、次いで「40～44歳」が33.7%となっている。生活困難度別にみると、「35～39歳」の割合は、困窮層(18.2%)、周辺層(17.1%)、一般層(10.6%)の順に高い。

図表 11 【保護者】Q3 年齢:単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



(2) 保護者国籍

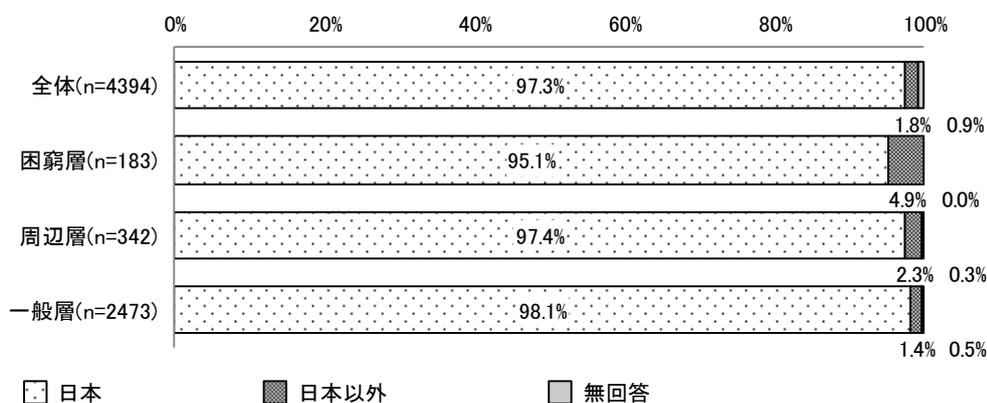
②【保護者】Q4-1 母親の国籍

小学生保護者の「全体」では、「日本」が97.3%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.8%となっている。生活困難度別にみると、「日本以外」の割合は、困窮層(4.9%)、周辺層(2.3%)、一般層(1.4%)の順に高い。

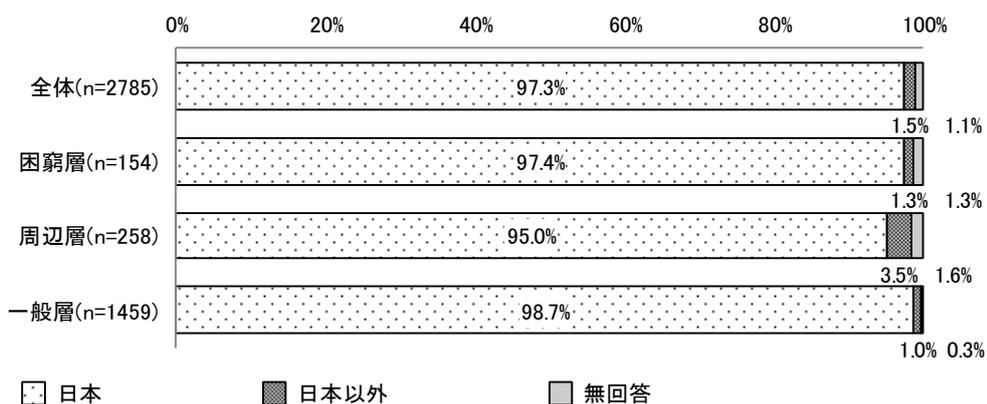
中学生保護者の「全体」では、「日本」が97.3%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.5%となっている。生活困難度別にみると、「日本以外」の割合は、周辺層(3.5%)、困窮層(1.3%)、一般層(1.0%)の順に高い。

図表 12 【保護者】Q4-1 母親の国籍:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



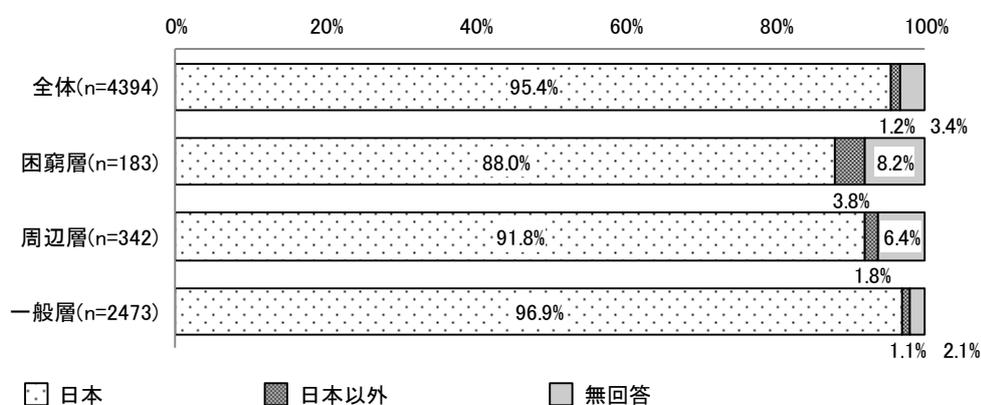
### ③【保護者】Q4-2 父親の国籍

小学生保護者の「全体」では、「日本」が95.4%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が1.2%となっている。生活困難度別にみると、「日本以外」の割合は、困窮層（3.8%）、周辺層（1.8%）、一般層（1.1%）の順に高い。

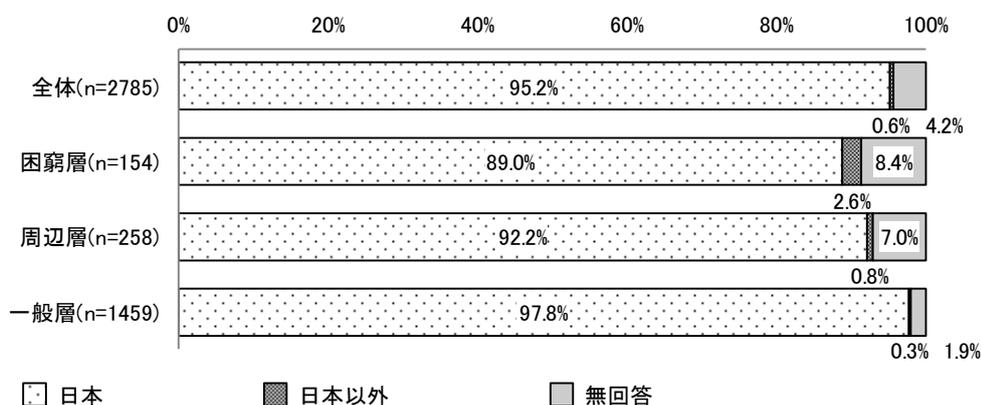
中学生保護者の「全体」では、「日本」が95.2%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が0.6%となっている。生活困難度別にみると、「日本以外」の割合は、困窮層（2.6%）、周辺層（0.8%）、一般層（0.3%）の順に高い。

図表 13 【保護者】Q4-2 父親の国籍:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### (3) 世帯の状況

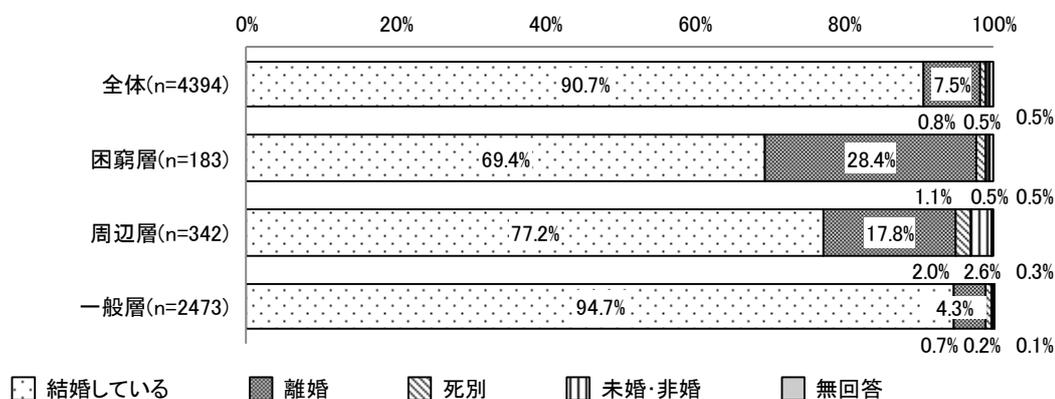
#### ①【保護者】Q5 婚姻状況

小学生保護者の「全体」では、「結婚している」が90.7%でもっとも割合が高く、次いで「離婚」が7.5%となっている。生活困難度別にみると、「離婚」の割合は、困窮層(28.4%)、周辺層(17.8%)、一般層(4.3%)の順に高い。

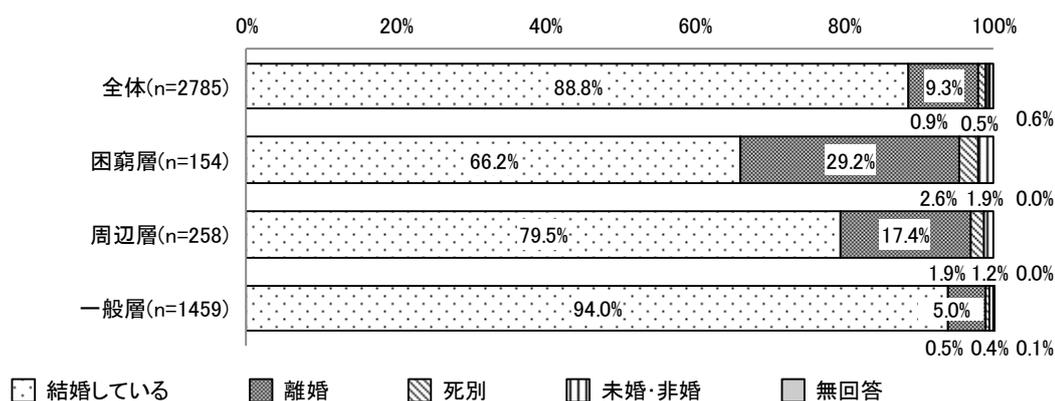
中学生保護者の「全体」では、「結婚している」が88.8%でもっとも割合が高く、次いで「離婚」が9.3%となっている。生活困難度別にみると、「離婚」の割合は、困窮層(29.2%)、周辺層(17.4%)、一般層(5.0%)の順に高い。

図表 14 【保護者】Q5 婚姻状況:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



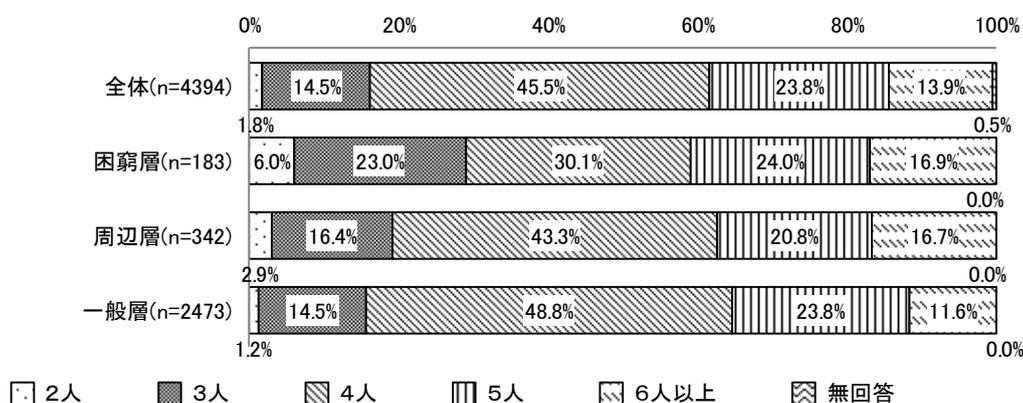
②【保護者】Q6 子どもと同居している家族の人数:合計

小学生保護者の「全体」では、「4人」が45.5%でもっとも割合が高く、次いで「5人」が23.8%となっている。生活困難度別にみると、「4人」の割合は、一般層（48.8%）、周辺層（43.3%）、困窮層（30.1%）の順に高い。

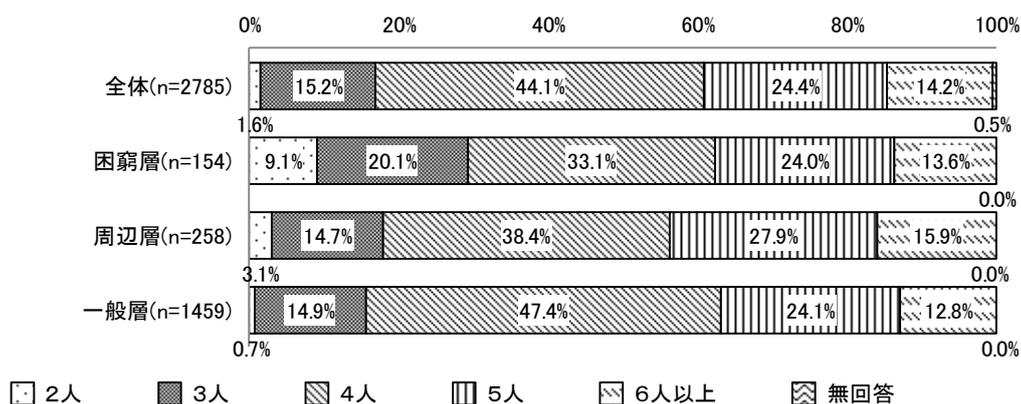
中学生保護者の「全体」では、「4人」が44.1%でもっとも割合が高く、次いで「5人」が24.4%となっている。生活困難度別にみると、「4人」の割合は、一般層（47.4%）、周辺層（38.4%）、困窮層（33.1%）の順に高い。

図表 15 【保護者】Q6 子どもと同居している家族の人数:合計:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



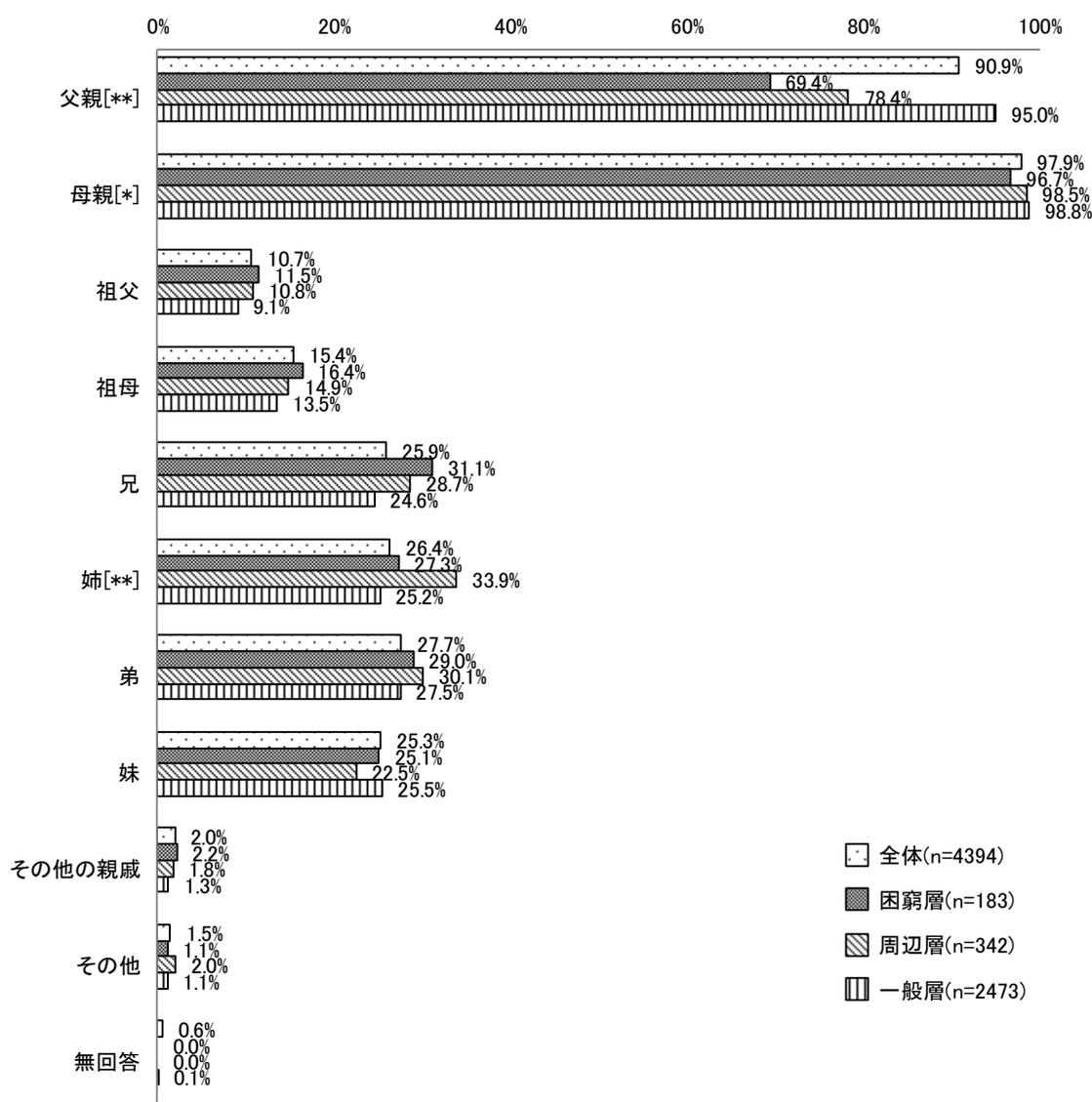
### ③【保護者】Q7 子どもと同居している家族

小学生保護者の「全体」では、「母親」が 97.9%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が 90.9%となっている。生活困難度別にみると、「父親」「母親」「姉」において統計的に有意な差がみられる。

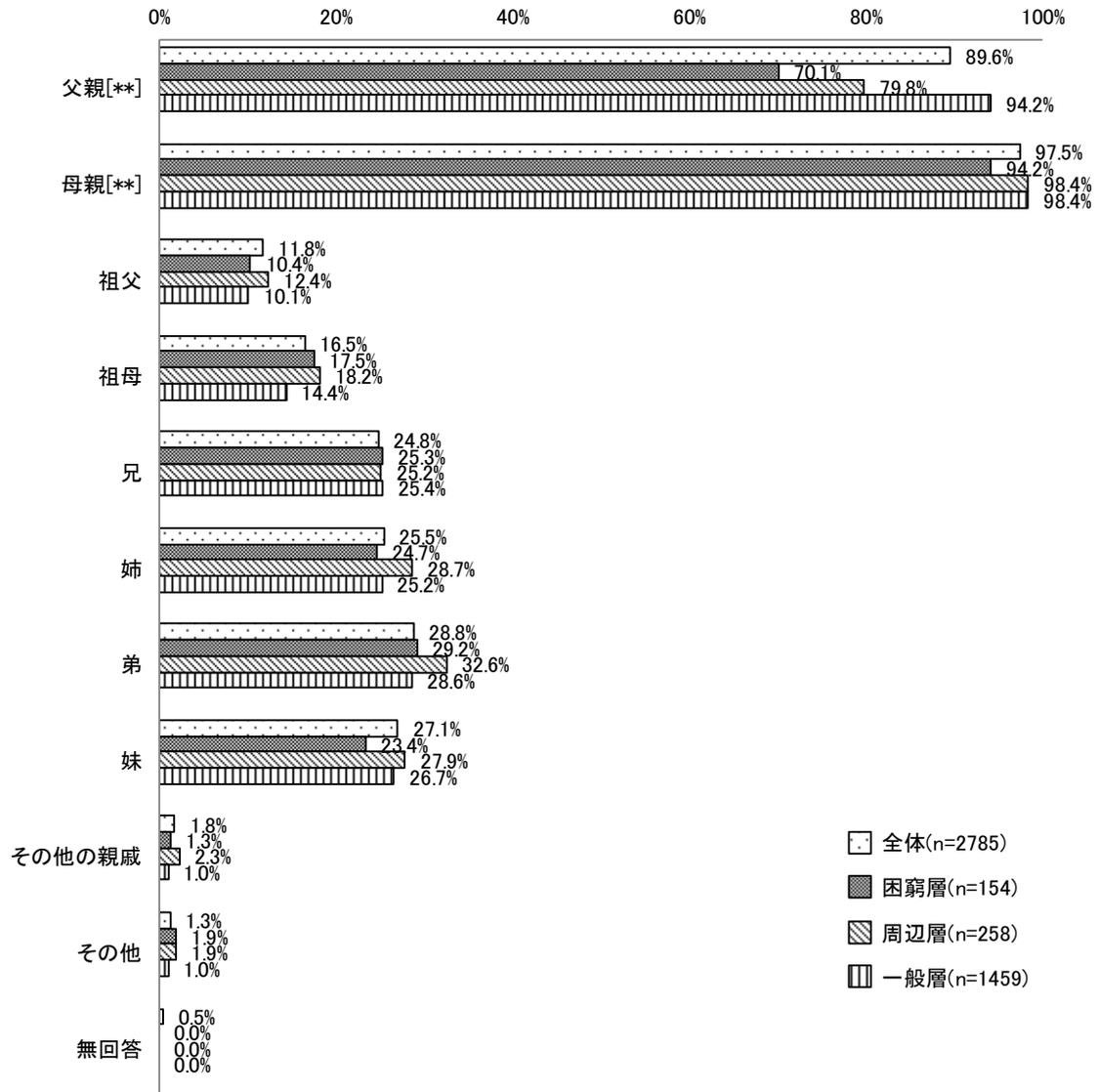
中学生保護者の「全体」では、「母親」が 97.5%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が 89.6%となっている。生活困難度別にみると、「父親」「母親」において統計的に有意な差がみられる。

図表 16 【保護者】Q7 子どもと同居している家族:複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



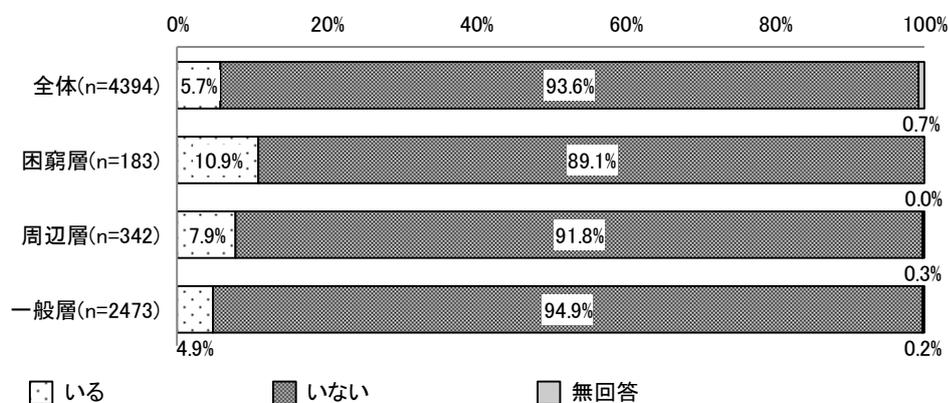
④【保護者】Q8 介護が必要な家族の有無

小学生保護者の「全体」では、「いない」が93.6%、「いる」が5.7%となっている。生活困難度別にみると、「いる」の割合は、困窮層（10.9%）、周辺層（7.9%）、一般層（4.9%）の順に高い。

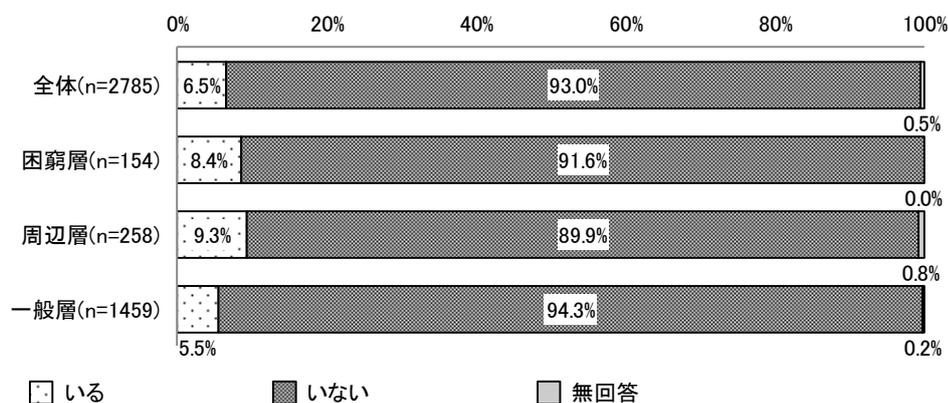
中学生保護者の「全体」では、「いない」が93.0%、「いる」が6.5%となっている。生活困難度別にみると、「いる」の割合は、周辺層（9.3%）、困窮層（8.4%）、一般層（5.5%）の順に高い。

図表 17 【保護者】Q8 介護が必要な家族の有無:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.05)



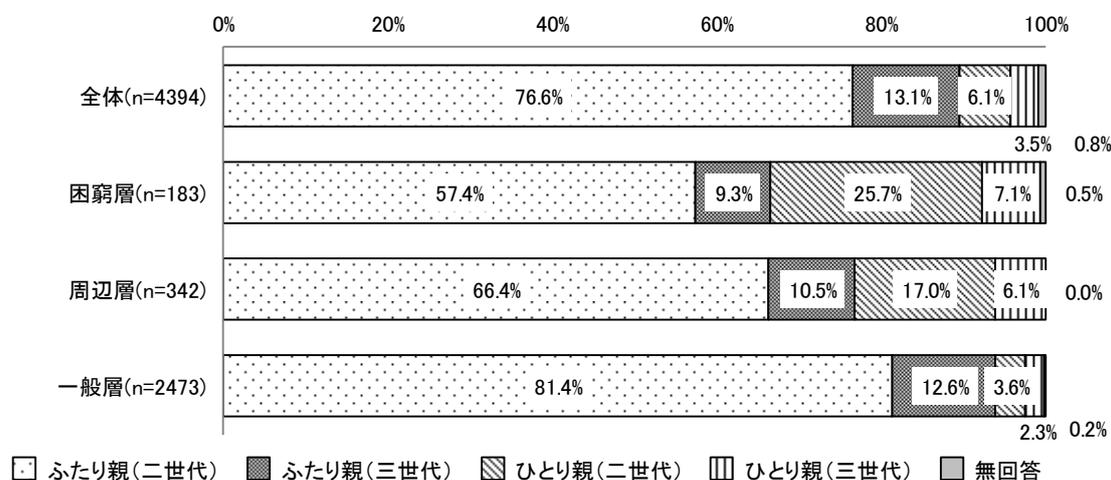
### ⑤【保護者】世帯タイプ

小学生保護者の全体では、「ふたり親（二世代）」が76.6%でもっとも割合が高く、次いで「ふたり親（三世代）」が13.1%となっている。生活困難度別にみると、「ひとり親（二世代）」の割合は、困窮層（25.7%）、周辺層（17.0%）、一般層（3.6%）の順に高い。

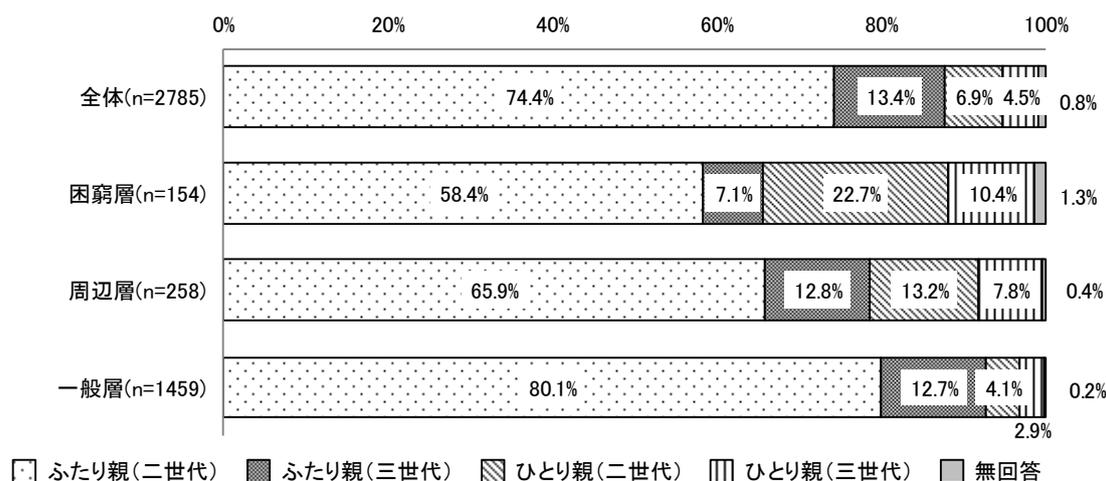
中学生保護者の全体では、「ふたり親（二世代）」が74.4%でもっとも割合が高く、次いで「ふたり親（三世代）」が13.4%となっている。生活困難度別にみると、「ひとり親（二世代）」の割合は、困窮層（22.7%）、周辺層（13.2%）、一般層（4.1%）の順に高い。

図表 18 【保護者】世帯タイプ:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



## 2. 子どもの学びの状況

### (1) 子どもの所有品

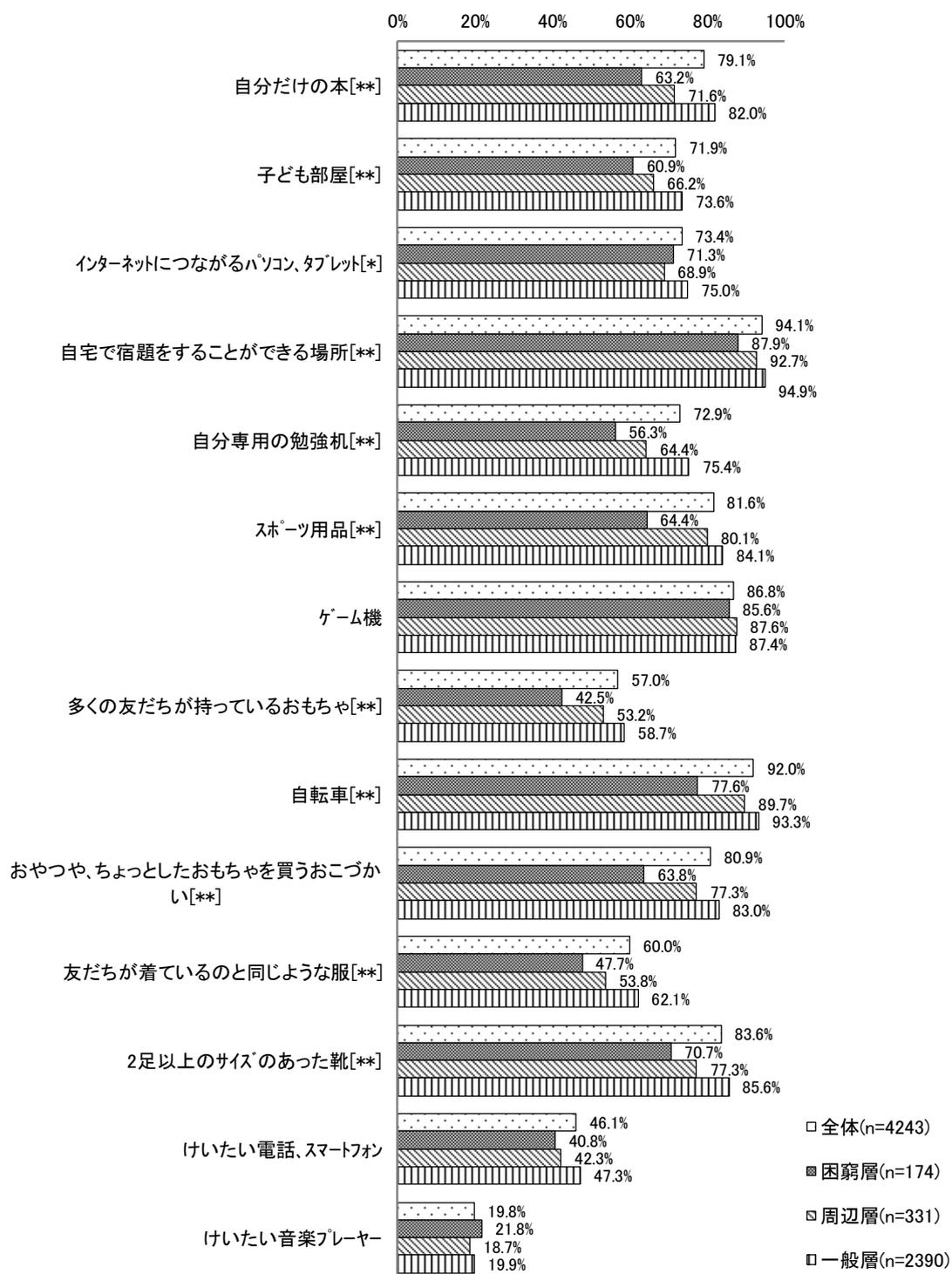
#### ①【子ども】Q3 使用できるもの

小学生について、生活困難度別にみると、「自分だけの本」、「子ども部屋」、「インターネットにつながるパソコン、タブレット」「自宅で宿題をすることができる場所」、「自分専用の勉強机」、「スポーツ用品」、「多くの友だちが持っているおもちゃ」、「自転車」、「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」、「友だちが着ているのと同じような服」、「2足以上のサイズのあった靴」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

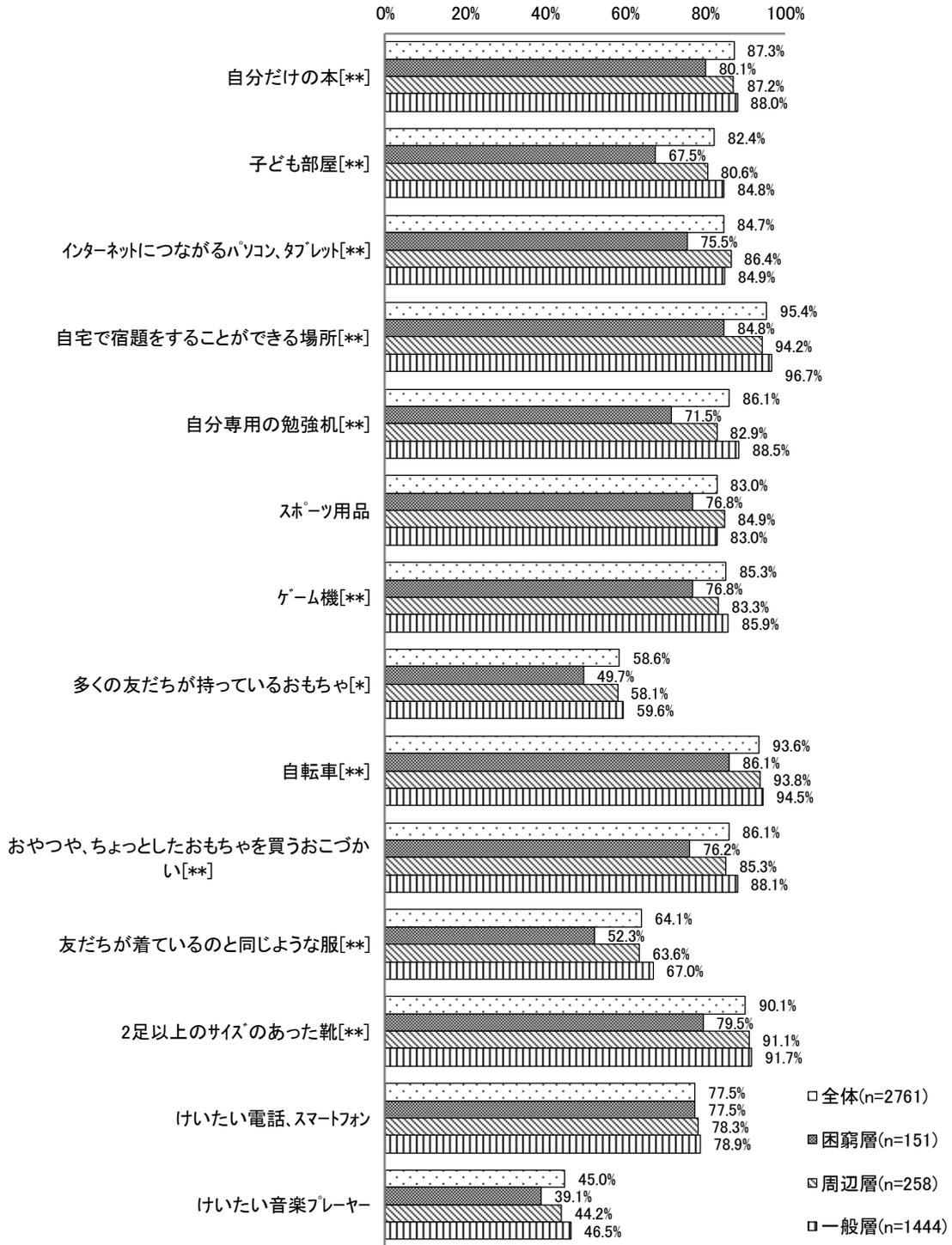
中学生について、生活困難度別にみると、「自分だけの本」、「子ども部屋」、「インターネットにつながるパソコン、タブレット」、「自宅で宿題をすることができる場所」、「自分専用の勉強机」、「ゲーム機」、「多くの友だちが持っているおもちゃ」、「自転車」、「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」、「友だちが着ているのと同じような服」、「2足以上のサイズのあった靴」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 19 【子ども】Q3 使用できるもの\_「ある」の割合（生活困難度別）

<小学生>



<中学生>



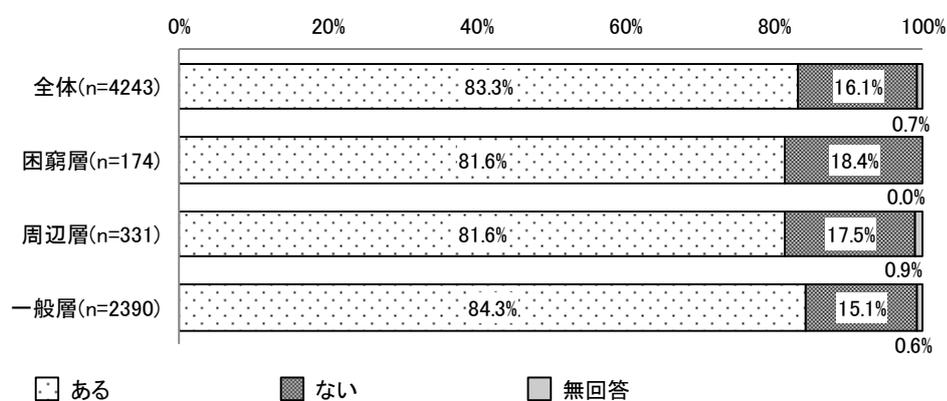
## (2) 将来の夢や目標、希望進路

### ①【子ども】Q4 将来の夢や目標

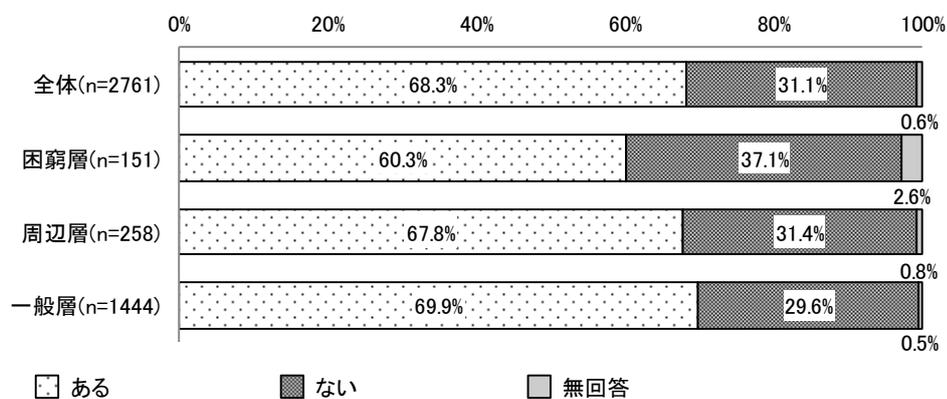
小学生の「全体」では、「ある」が83.3%、「ない」が16.1%となっている。  
 中学生の「全体」では、「ある」が68.3%、「ない」が31.1%となっている。  
 生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 20 【子ども】Q4 将来の夢や目標:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



## ②【子ども】Q5 将来の夢や目標がない理由

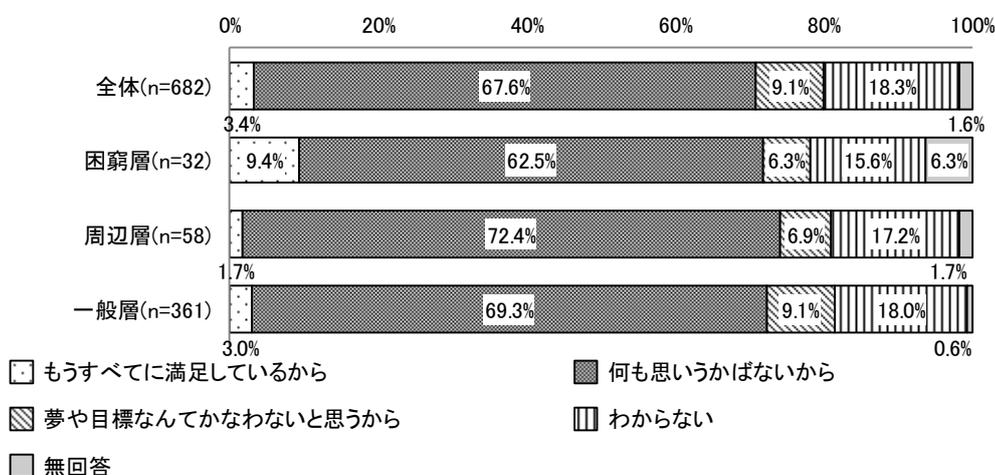
小学生の「全体」では、「何も思いうかばないから」が67.6%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が18.3%となっている。

中学生の「全体」では、「何も思いうかばないから」が72.4%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が18.1%となっている。

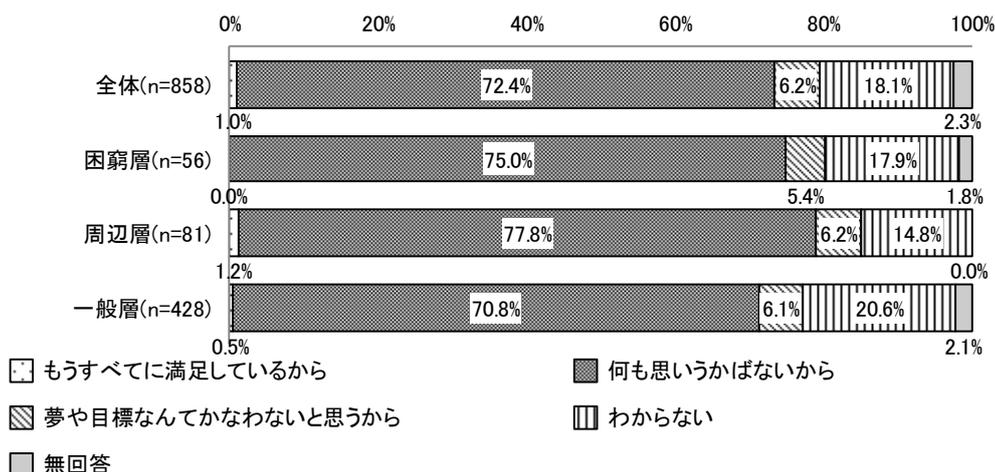
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 21 【子ども】Q5 将来の夢や目標がない理由:単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



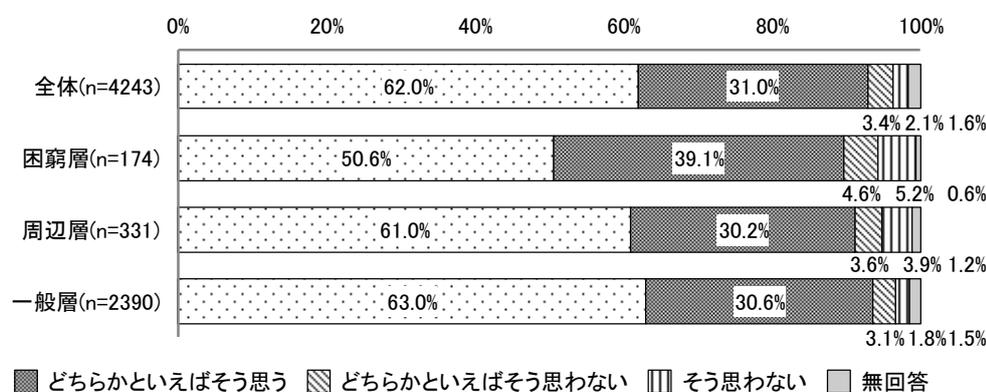
③【子ども】Q6 将来のために、今頑張りたいと思うか

小学生の「全体」では、「そう思う」が62.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が31.0%となっている。生活困難度別にみると、「そう思う」の割合は、一般層（63.0%）、周辺層（61.0%）、困窮層（50.6%）の順に高い。

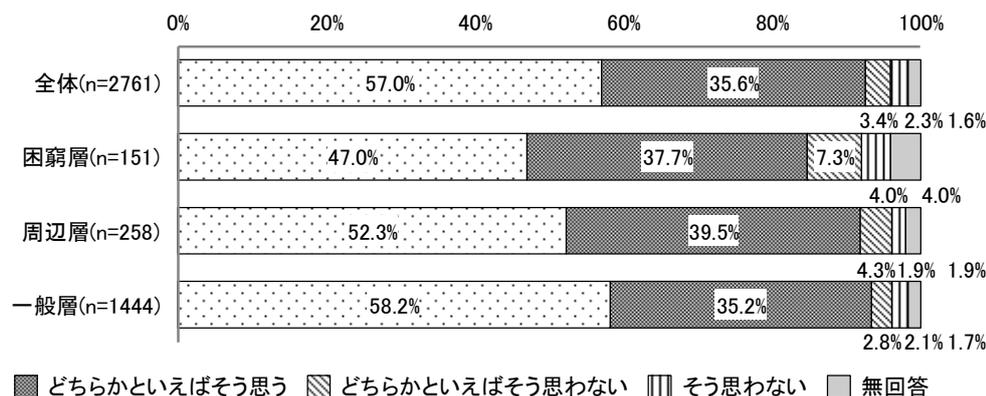
中学生の「全体」では、「そう思う」が57.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が35.6%となっている。生活困難度別にみると、「そう思う」の割合は、一般層（58.2%）、周辺層（52.3%）、困窮層（47.0%）の順に高い。

図表 22 【子ども】Q6 将来のために、今頑張りたいと思うか:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



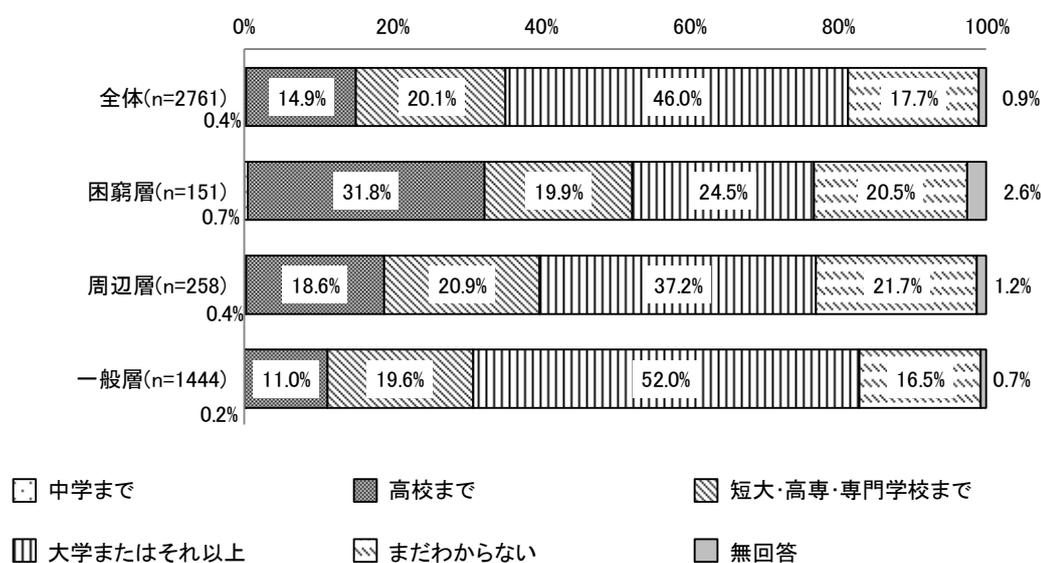
<中学生> (p<.05)



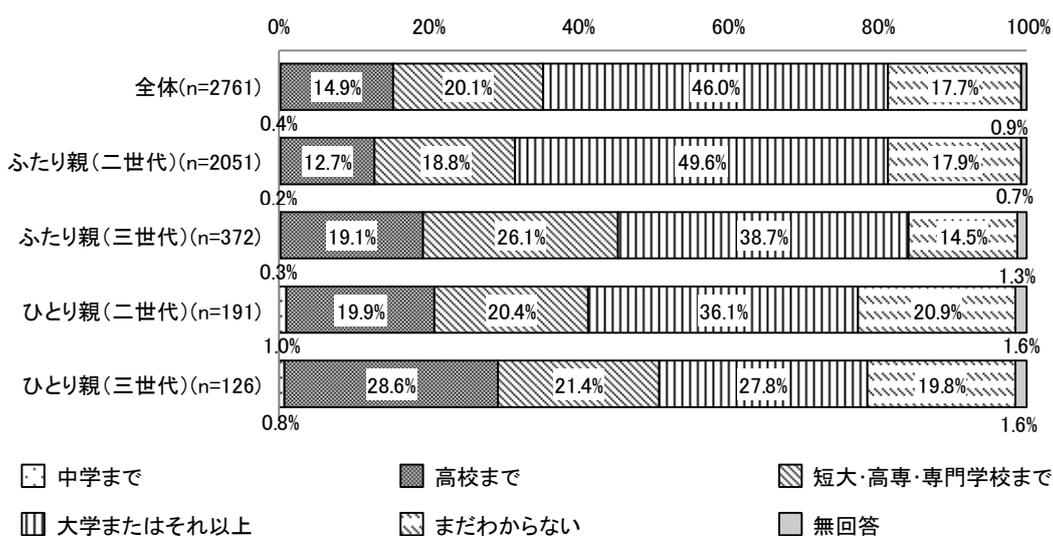
#### ④【子ども】Q7 どの段階まで進学したいか

中学生の「全体」では、「大学またはそれ以上」が46.0%でもっとも割合が高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」が20.1%となっている。生活困難度別にみると、「大学またはそれ以上」の割合は、一般層（52.0%）、周辺層（37.2%）、困窮層（24.5%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「高校まで」の割合は、ひとり親（三世代）（28.6%）、ひとり親（二世代）（19.9%）、ふたり親（三世代）（19.1%）、ふたり親（二世代）（12.7%）の順に高い。

図表 23 【子ども】Q7 どの段階まで進学したいか:単数回答（生活困難度別）  
 <中学生> (p<.01)



図表 24 【子ども】Q7 どの段階まで進学したいか:単数回答（世帯タイプ別）  
 <中学生> (p<.01)



### (3) 学校生活、学習理解度、学習の状況

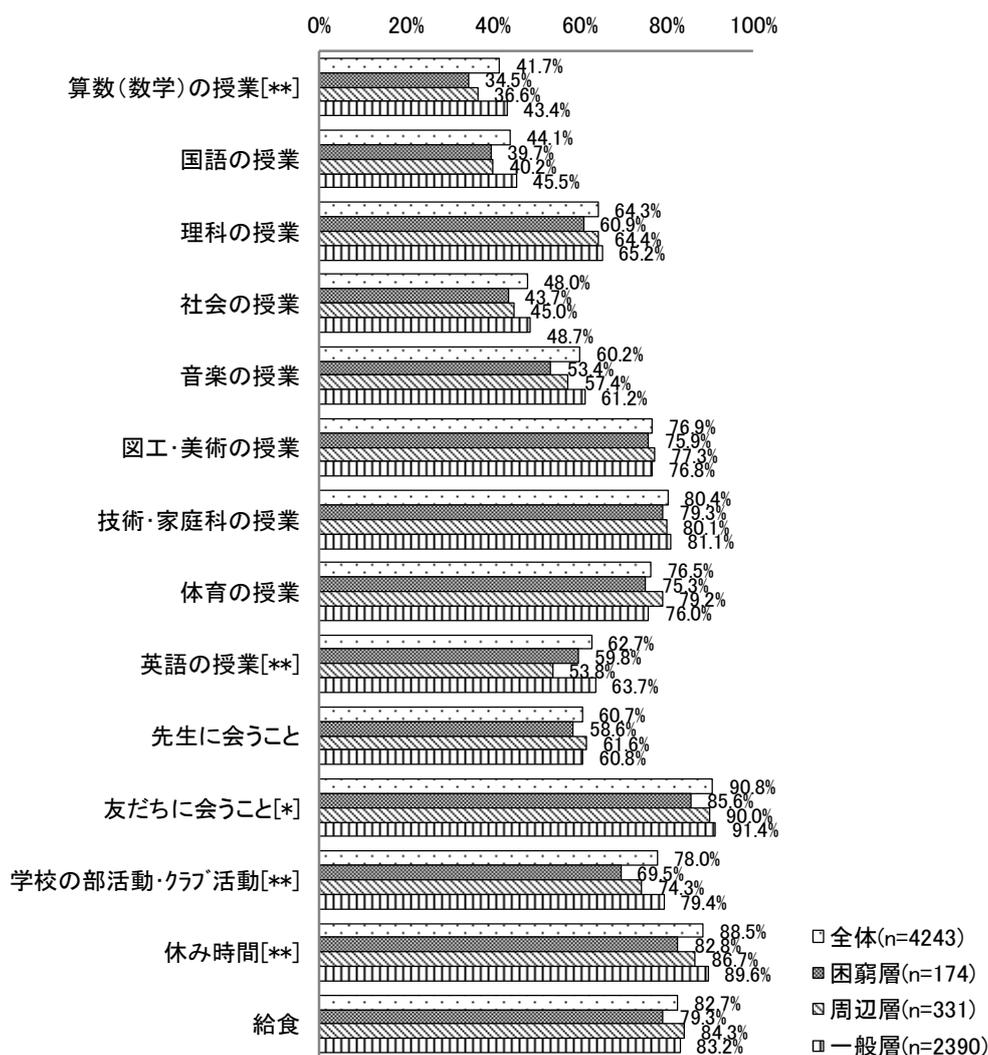
#### ①【子ども】Q30 学校生活

学校生活について、「とても楽しみ」と「楽しみ」を合計した割合をみると、小学生の「全体」では、「友だちに会うこと」が90.8%でもっとも割合が高く、次いで「休み時間」が88.5%となっている。生活困難度別にみると、「算数（数学）の授業」、「英語の授業」、「友だちに会うこと」、「学校の部活動・クラブ活動」、「休み時間」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

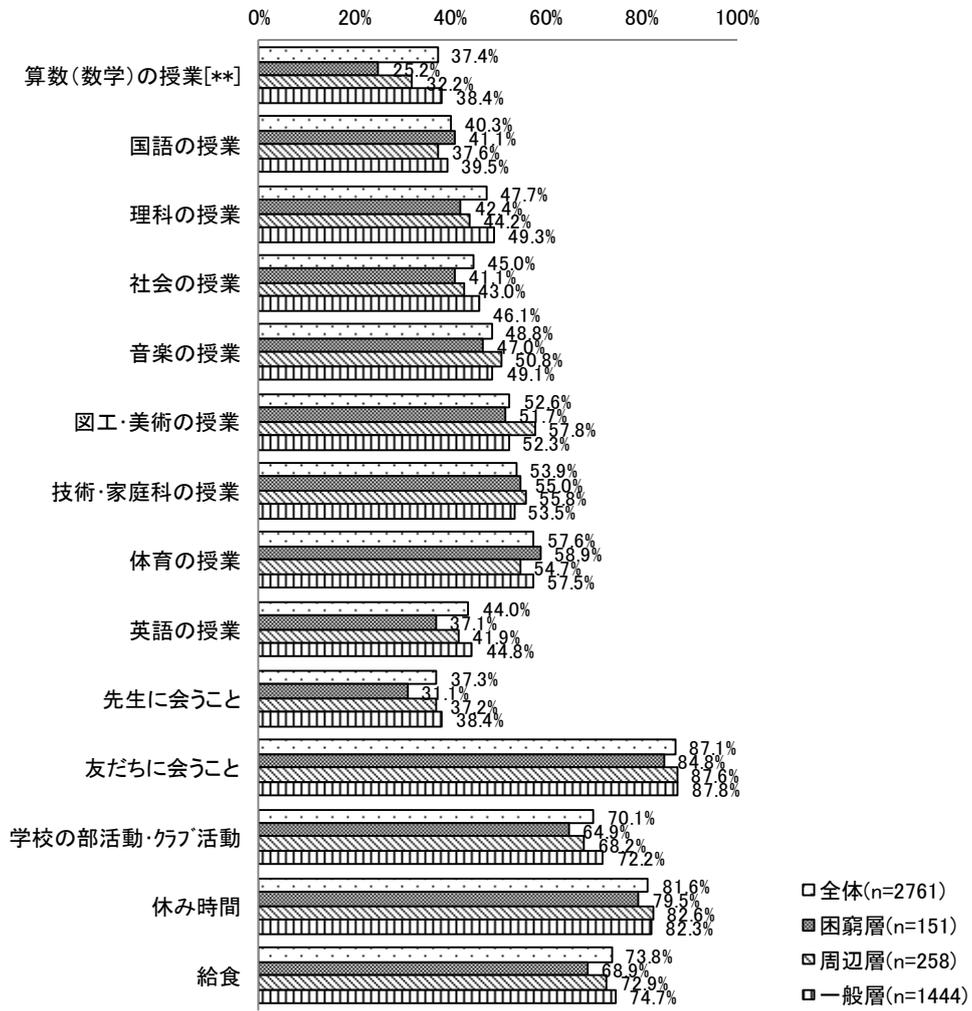
中学生の「全体」では、「友だちに会うこと」が87.1%でもっとも割合が高く、次いで「休み時間」が81.6%となっている。生活困難度別にみると、「算数（数学）の授業」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 25 【子ども】Q30 学校生活\_「とても楽しみ」+「楽しみ」の割合  
(生活困難度別)

<小学生>



<中学生>



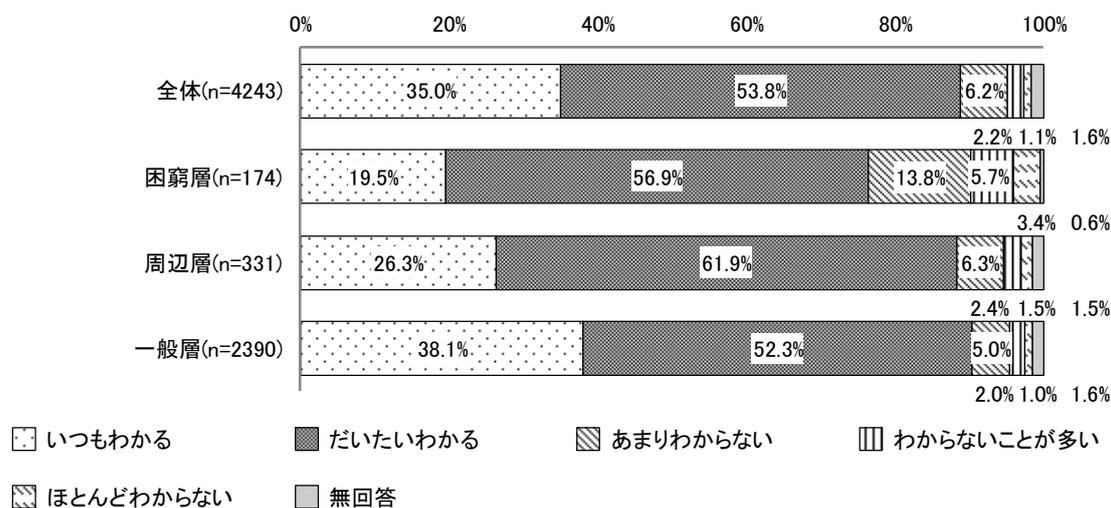
## ②【子ども】Q31 学校の授業がわかるか

小学生の「全体」では、「だいたいわかる」が53.8%でもっとも割合が高く、次いで「いつもわかる」が35.0%となっている。生活困難度別にみると、「いつもわかる」の割合は、一般層（38.1%）、周辺層（26.3%）、困窮層（19.5%）の順に高い。

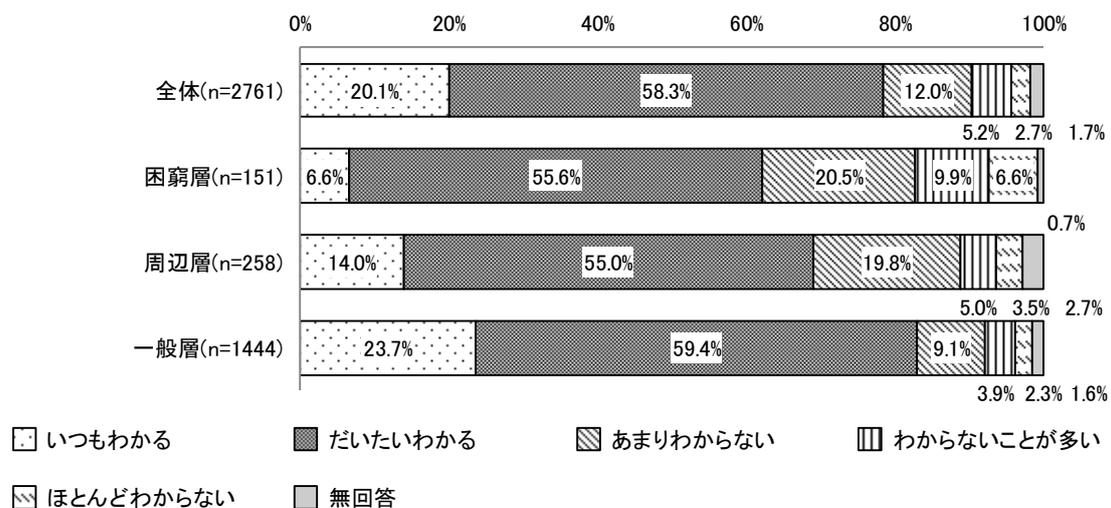
中学生の「全体」では、「だいたいわかる」が58.3%でもっとも割合が高く、次いで「いつもわかる」が20.1%となっている。生活困難度別にみると、「いつもわかる」の割合は、一般層（23.7%）、周辺層（14.0%）、困窮層（6.6%）の順に高い。

図表 26 【子ども】Q31 学校の授業がわかるか:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



③【子ども】Q32 いつごろから、授業がわからないことが多くなったか

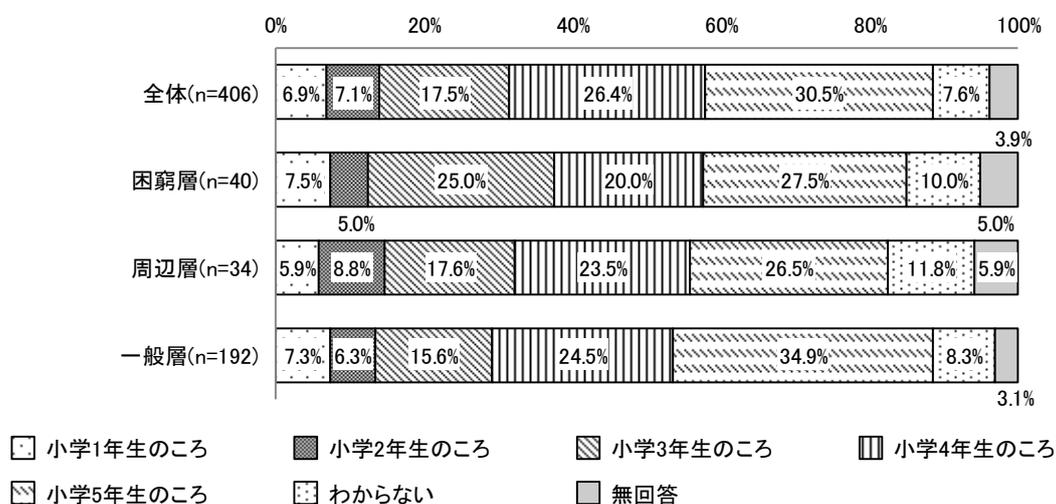
小学生の「全体」では、「小学5年生のころ」が30.5%でもっとも割合が高く、次いで「小学4年生のころ」が26.4%となっている。

中学生の「全体」では、「中学1年生のころ」が41.7%でもっとも割合が高く、次いで「中学2年生になってから」が13.3%となっている。

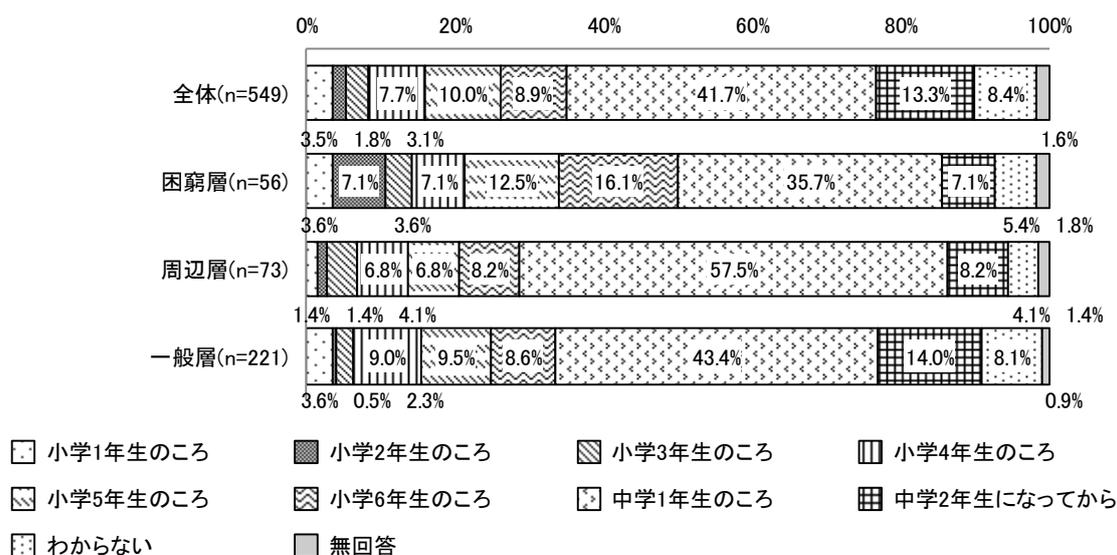
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 27 【子ども】Q32 いつごろから、授業がわからないことが多くなったか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



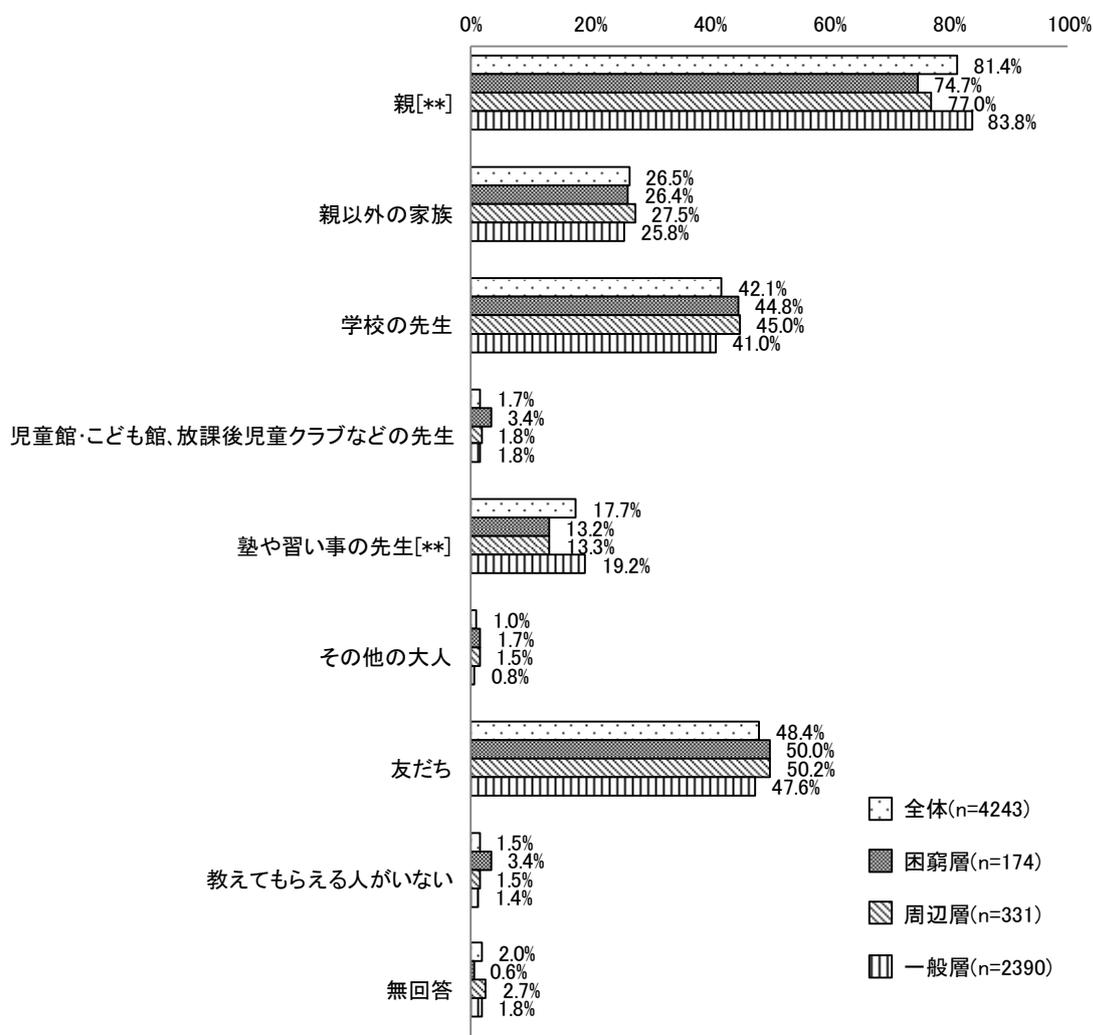
④【子ども】Q33 勉強がわからないときは、誰に教えてもらうか

小学生の「全体」では、「親」が81.4%でもっとも割合が高く、次いで「友だち」が48.4%となっている。小学生について、生活困難度別にみると、「親」、「塾や習い事の先生」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

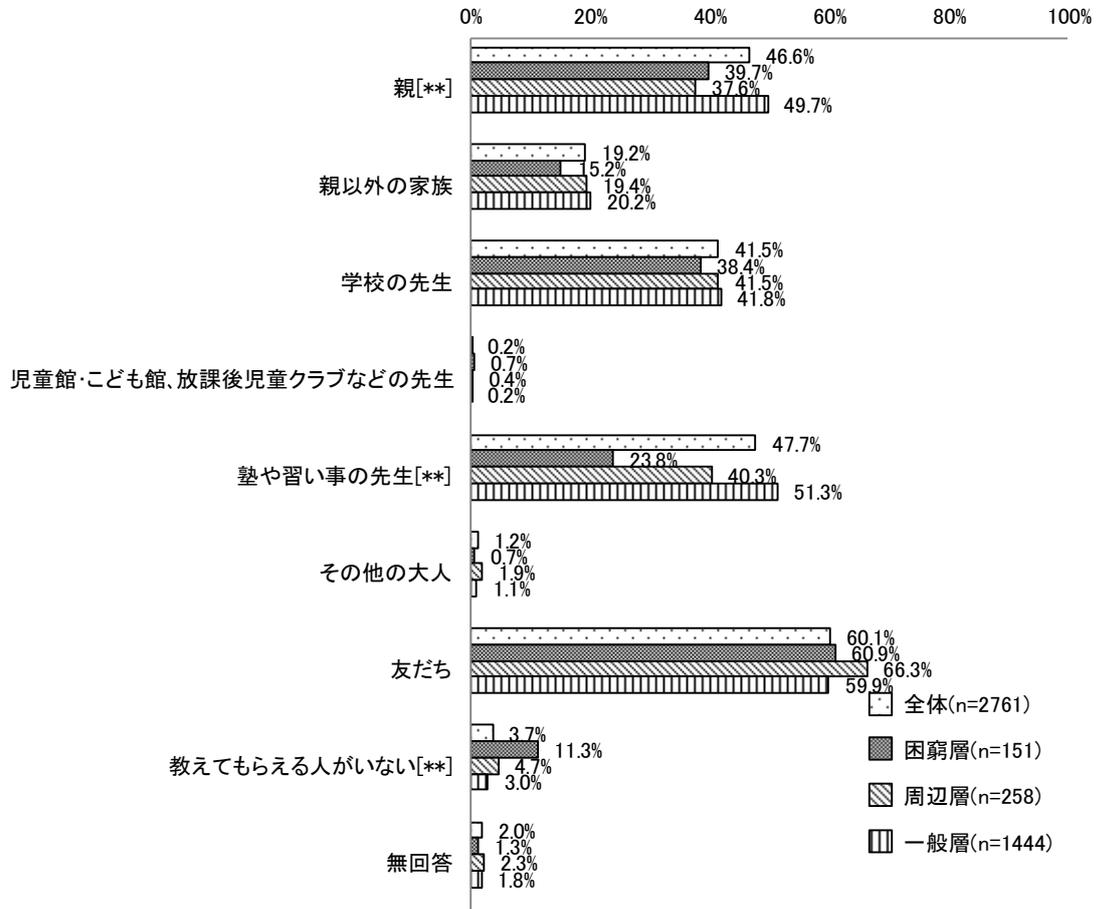
中学生の「全体」では、「友だち」が60.1%でもっとも割合が高く、次いで「塾や習い事の先生」が47.7%となっている。中学生について、生活困難度別にみると、「親」、「塾や習い事の先生」、「教えてもらえる人がいない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 28 【子ども】Q33 勉強がわからないときは、誰に教えてもらうか:複数回答（生活困難度別）

<小学生>



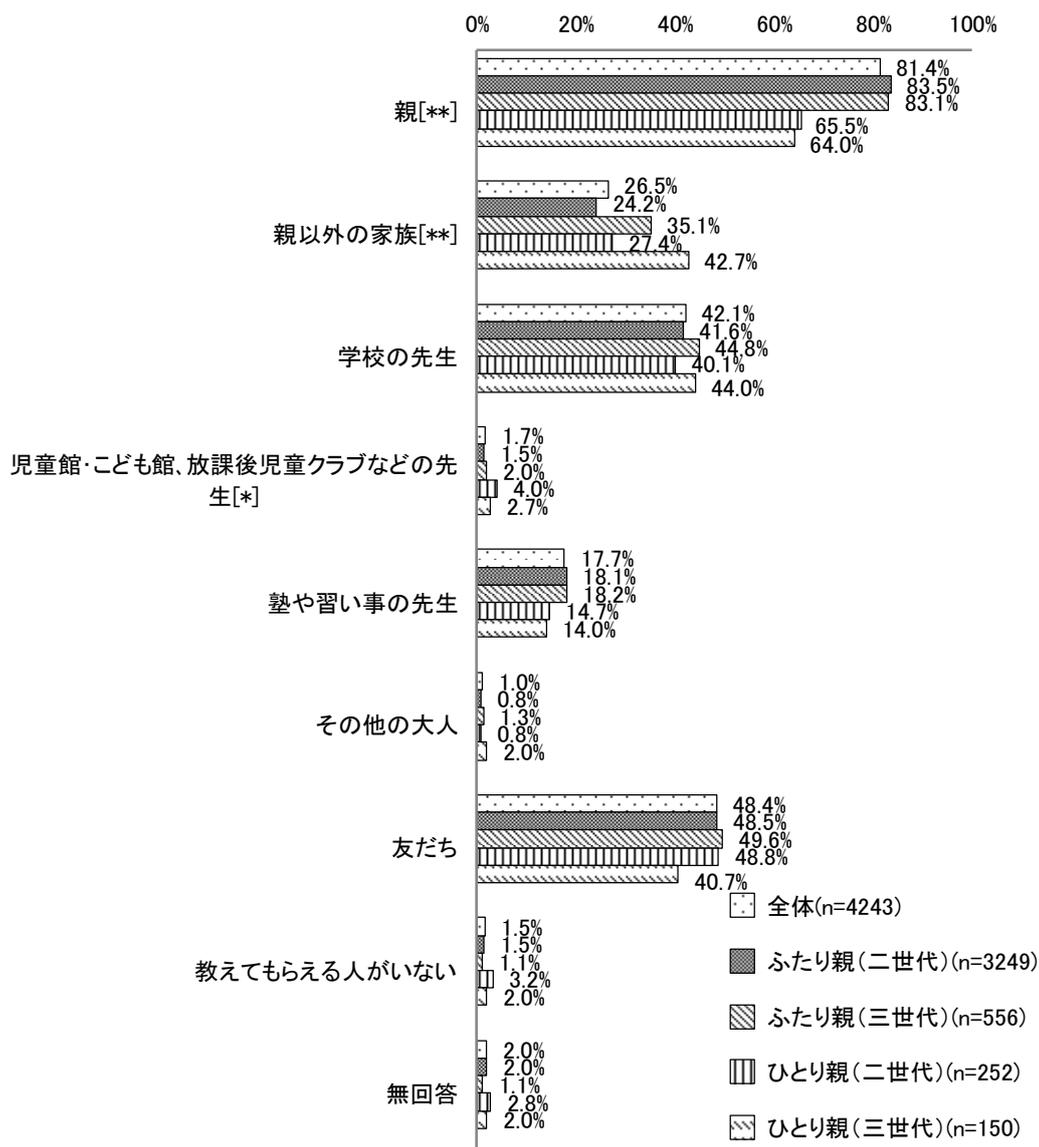
< 中学生 >



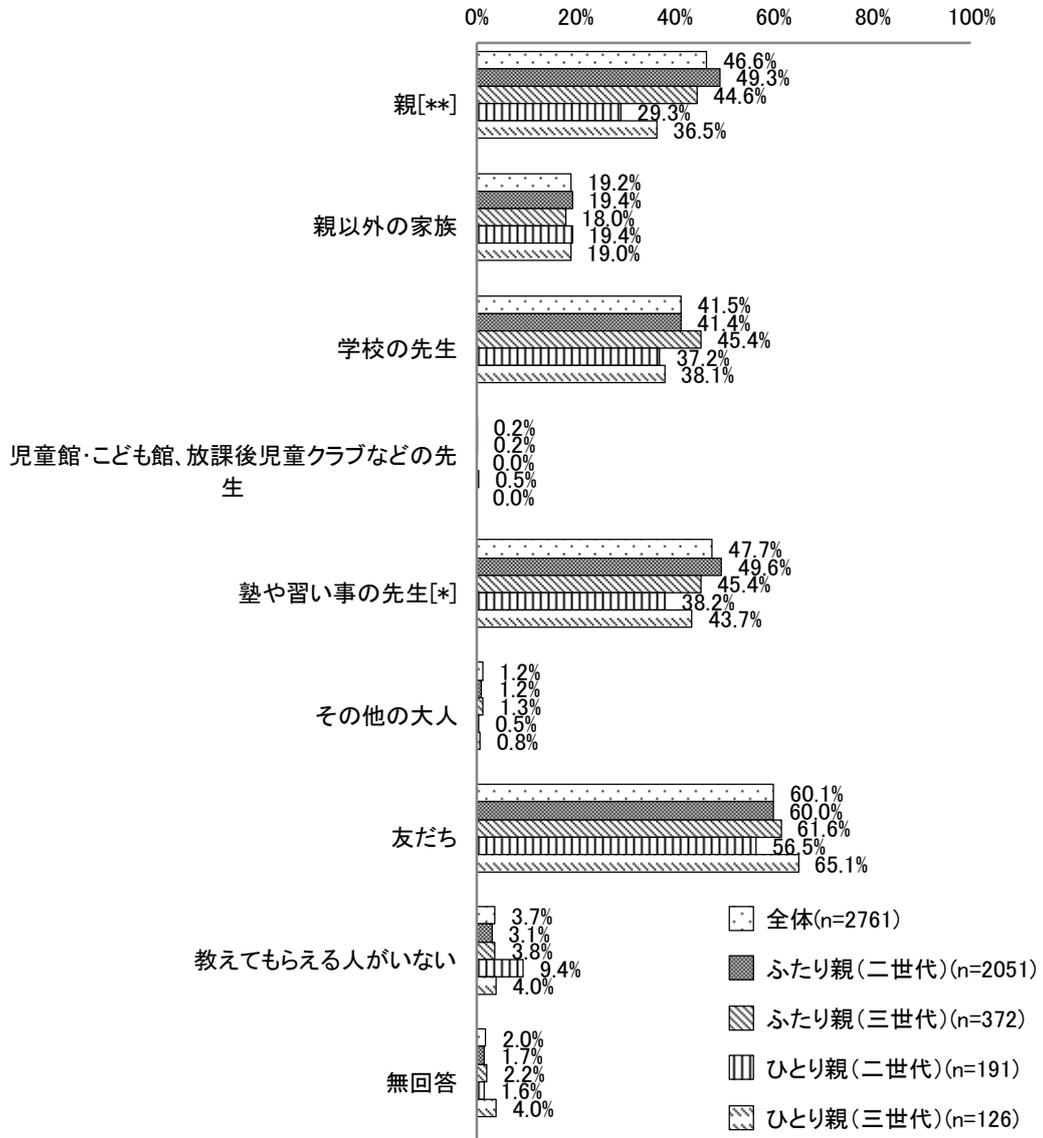
世帯タイプ別にみると、小学生では「親」「親以外の家族」「児童館・こども館、放課後児童クラブなどの先生」、中学生では「親」「塾や習い事の先生」に関して統計的に有意な差がみられる。

図表 29 【子ども】 Q33 勉強がわからないときは、誰に教えてもらうか:複数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生>



<中学生>

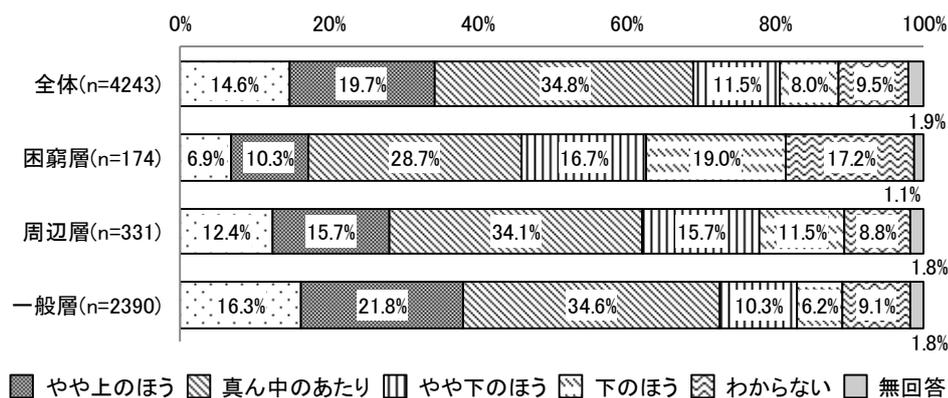


⑤【子ども】Q34 成績は、クラスの中でどのくらいか

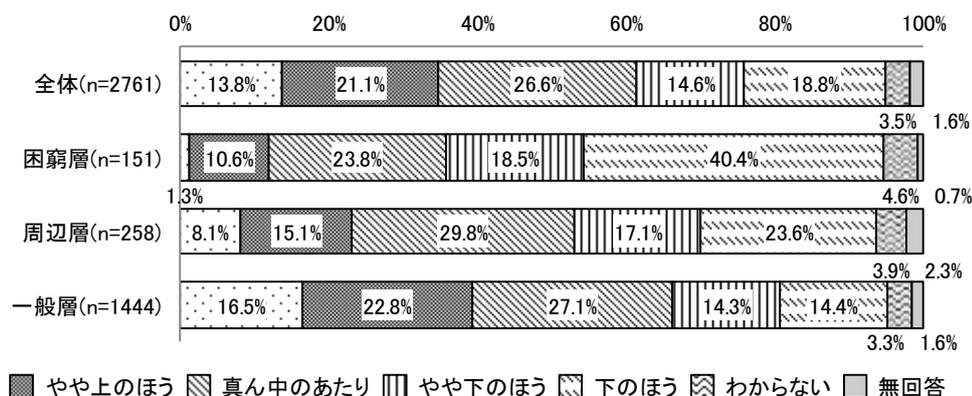
小学生の「全体」では、「真ん中のあたり」が34.8%でもっとも割合が高く、次いで「やや上のほう」が19.7%となっている。生活困難度別にみると、「下のほう」の割合は、困窮層（19.0%）、周辺層（11.5%）、一般層（6.2%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「下のほう」の割合は、ひとり親（三世代）（16.0%）、ひとり親（二世代）（15.9%）、ふたり親（三世代）（7.7%）、ふたり親（二世代）（7.1%）の順に高い。

中学生の「全体」では、「真ん中のあたり」が26.6%でもっとも割合が高く、次いで「やや上のほう」が21.1%となっている。生活困難度別にみると、「下のほう」の割合は、困窮層（40.4%）、周辺層（23.6%）、一般層（14.4%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「下のほう」の割合は、ひとり親（二世代）（31.9%）、ひとり親（三世代）（23.8%）、ふたり親（三世代）（19.4%）、ふたり親（二世代）（17.2%）の順に高い。

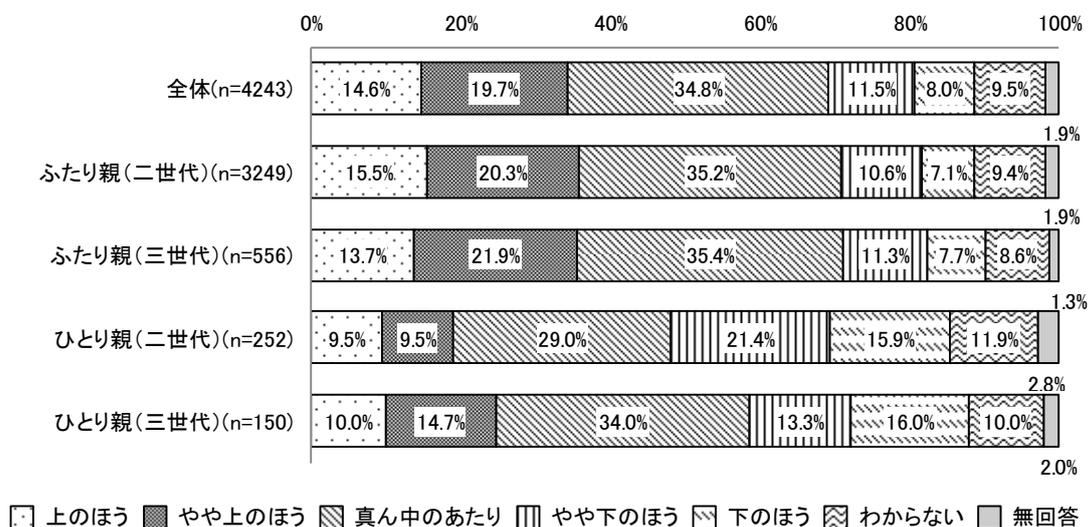
図表 30 【子ども】Q34 成績は、クラスの中でどのくらいか:単数回答（生活困難度別）  
 <小学生> (p<.01)



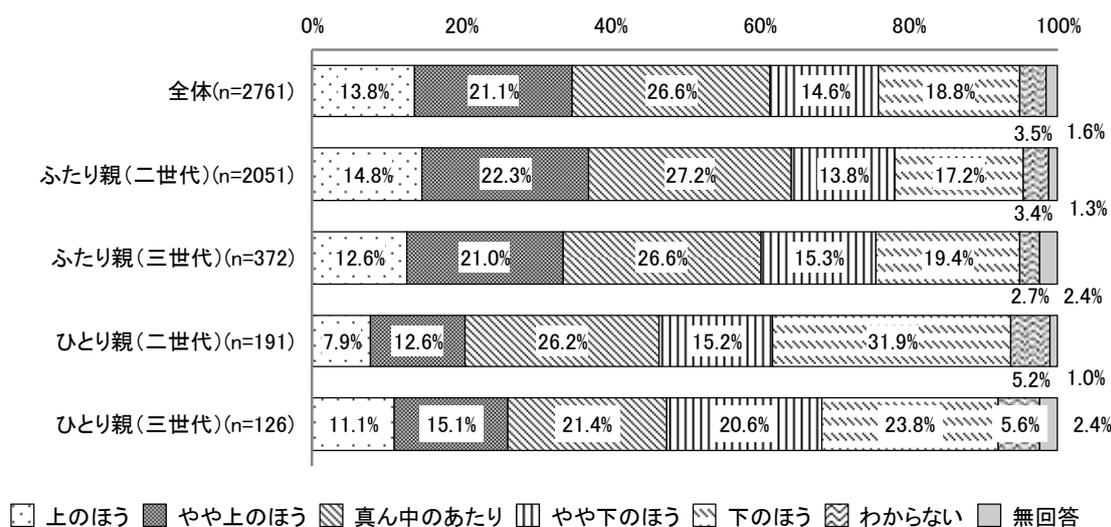
<中学生> (p<.01)



図表 31 【子ども】 Q34 成績は、クラスの中でどのくらいか:単数回答 (世帯タイプ別)  
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



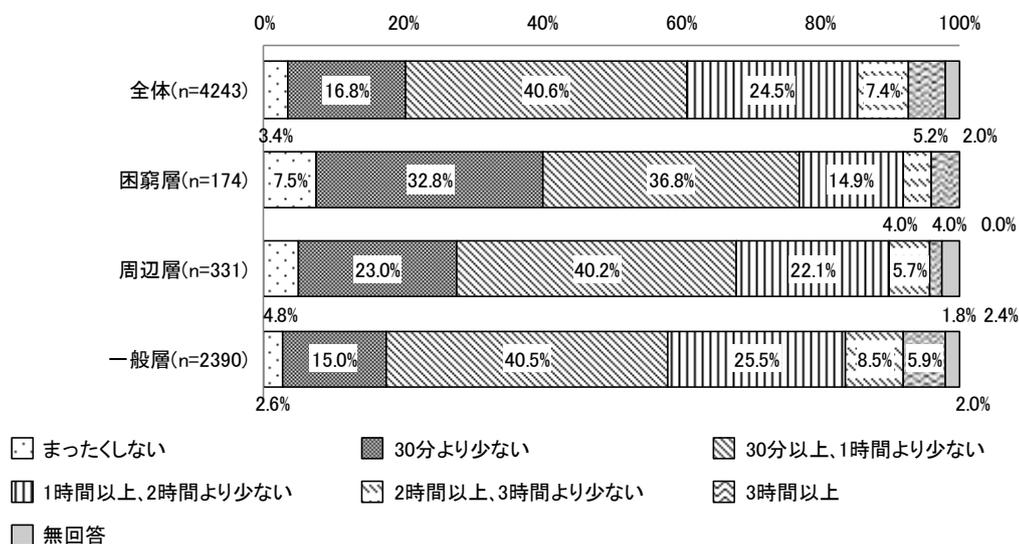
#### ⑥【子ども】Q35 1日あたりの勉強時間

小学生の「全体」では、「30分以上、1時間より少ない」が40.6%でもっとも割合が高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が24.5%となっている。生活困難度別にみると、「30分より少ない」の割合は、困窮層（32.8%）、周辺層（23.0%）、一般層（15.0%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「30分より少ない」の割合は、ひとり親（二世帯）（23.0%）、ひとり親（三世帯）（20.0%）、ふたり親（三世帯）（17.6%）、ふたり親（二世帯）（16.1%）の順に高い。

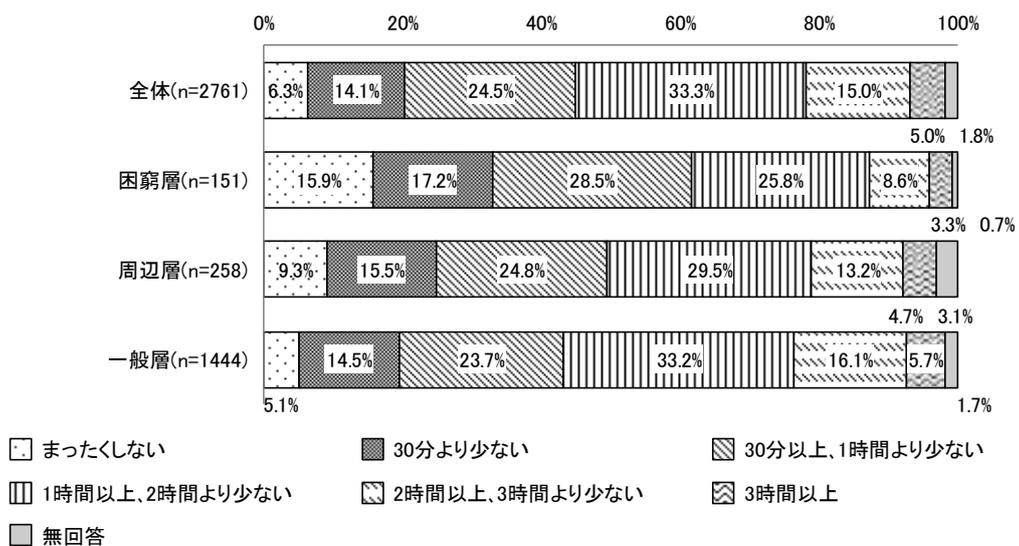
中学生の「全体」では、「1時間以上、2時間より少ない」が33.3%でもっとも割合が高く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が24.5%となっている。生活困難度別にみると、「まったくしない」の割合は、困窮層（15.9%）、周辺層（9.3%）、一般層（5.1%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「まったくしない」の割合は、ひとり親（二世帯）（13.1%）、ひとり親（三世帯）（11.9%）、ふたり親（二世帯）（5.8%）、ふたり親（三世帯）（4.0%）の順に高い。

図表 32 【子ども】 Q35 1日あたりの勉強時間:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)

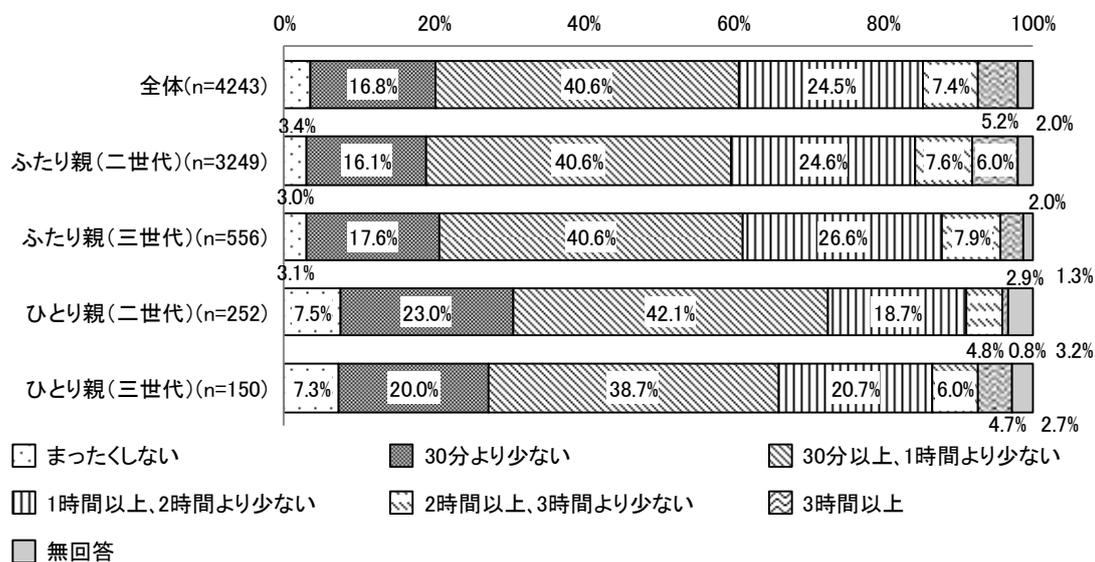


<中学生> (p<.01)

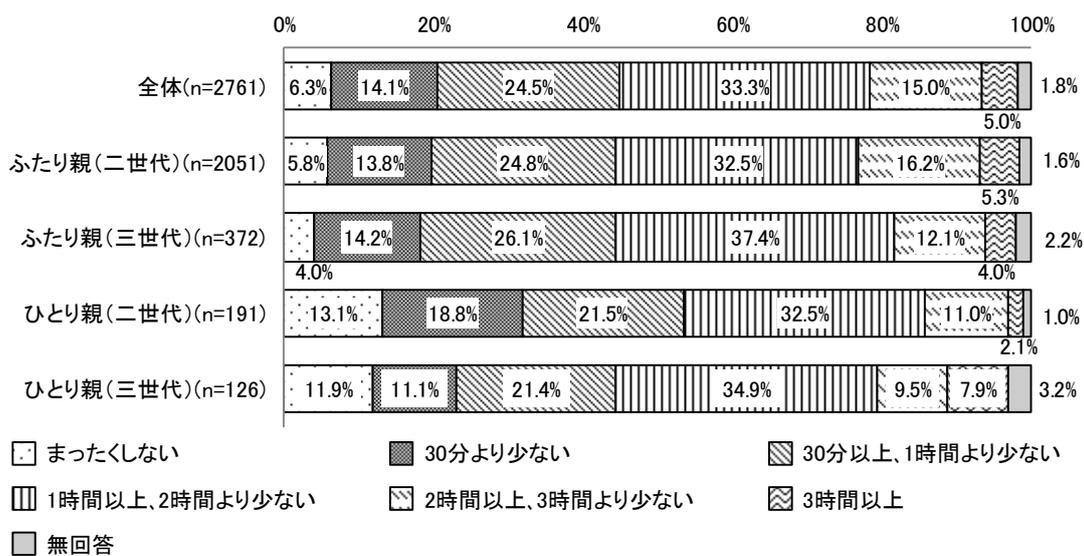


図表 33 【子ども】 Q35 1日あたりの勉強時間:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



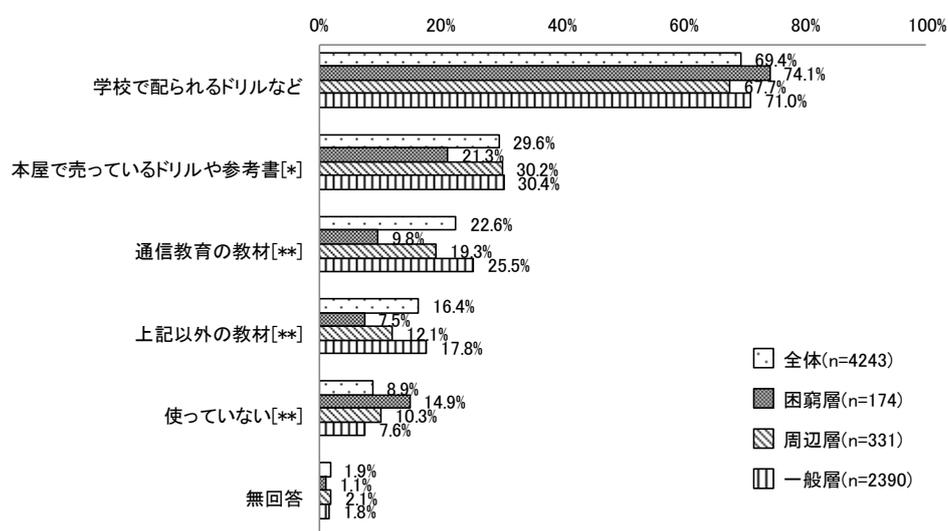
⑦【子ども】Q36 自宅で使っている教材

小学生の「全体」では、「学校で配られるドリルなど」が 69.4%でもっとも割合が高く、次いで「本屋で売っているドリルや参考書」が 29.6%となっている。生活困難度別にみると、「本屋で売っているドリルや参考書」、「通信教育の教材」、「上記以外の教材」、「使っていない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

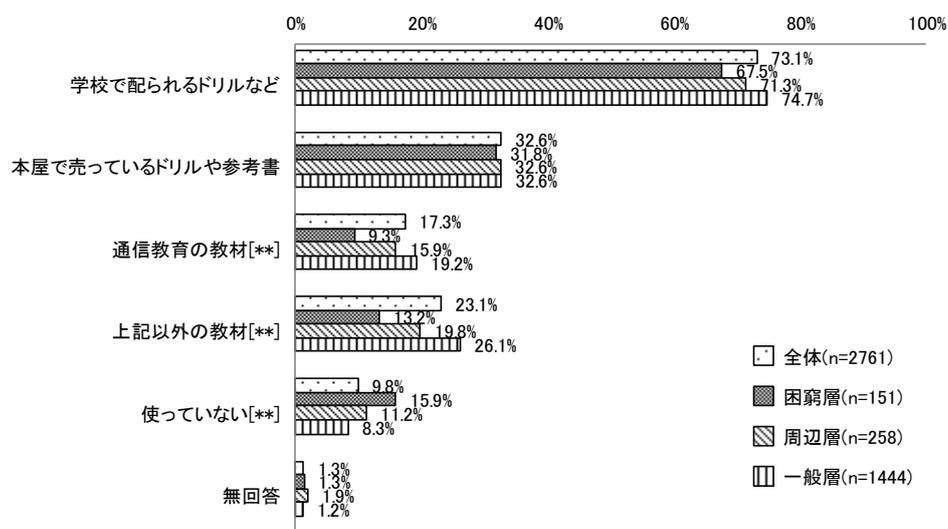
中学生の「全体」では、「学校で配られるドリルなど」が 73.1%でもっとも割合が高く、次いで「本屋で売っているドリルや参考書」が 32.6%となっている。生活困難度別にみると、「通信教育の教材」、「上記以外の教材」、「使っていない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 34 【子ども】Q36 自宅で使っている教材:複数回答（生活困難度別）

<小学生>



<中学生>



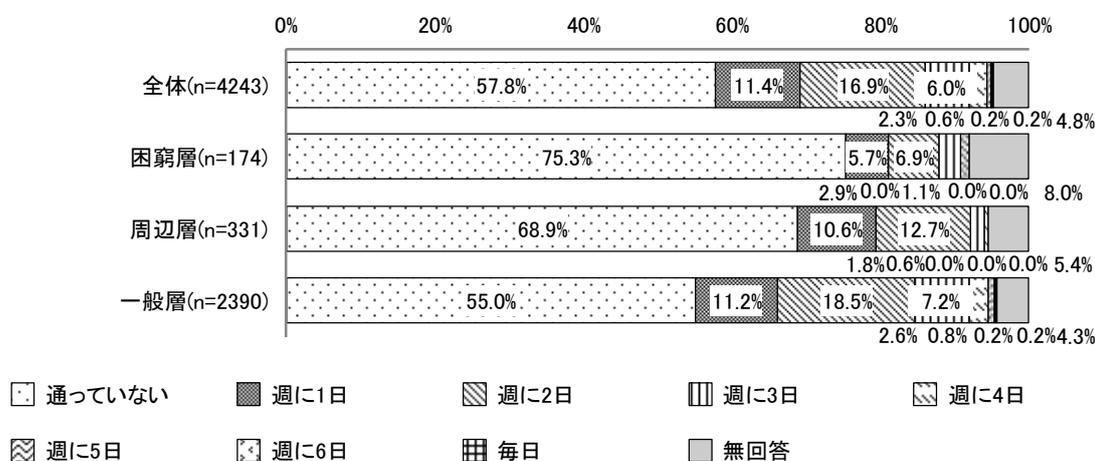
⑧【子ども】Q37 学習塾や家庭教師の日数

小学生の「全体」では、「通っていない」が57.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に2日」が16.9%となっている。生活困難度別にみると、「通っていない」の割合は、困窮層(75.3%)、周辺層(68.9%)、一般層(55.0%)の順に高い。

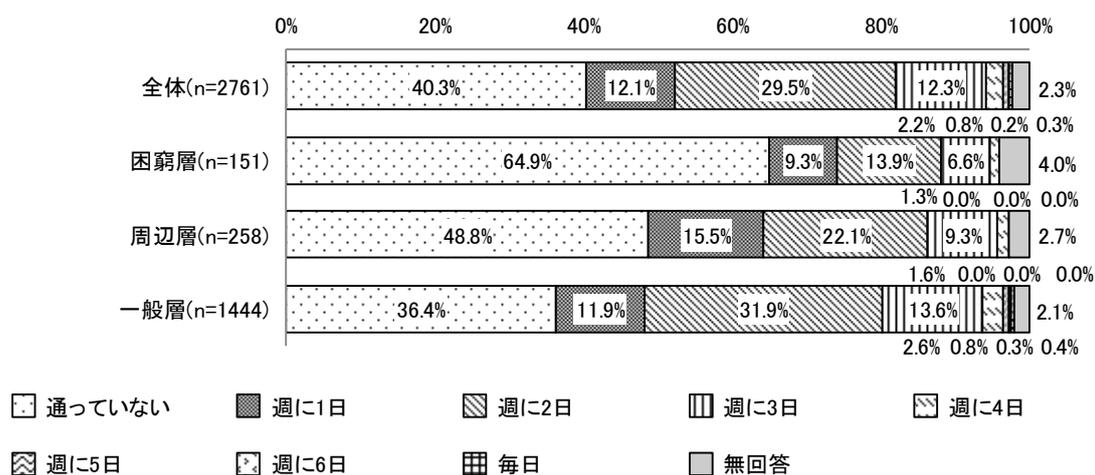
中学生の「全体」では、「通っていない」が40.3%でもっとも割合が高く、次いで「週に2日」が29.5%となっている。生活困難度別にみると、「通っていない」の割合は、困窮層(64.9%)、周辺層(48.8%)、一般層(36.4%)の順に高い。

図表 35 【子ども】Q37 学習塾や家庭教師の日数:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



#### (4) これまでに通った教育機関、将来受けさせたい教育

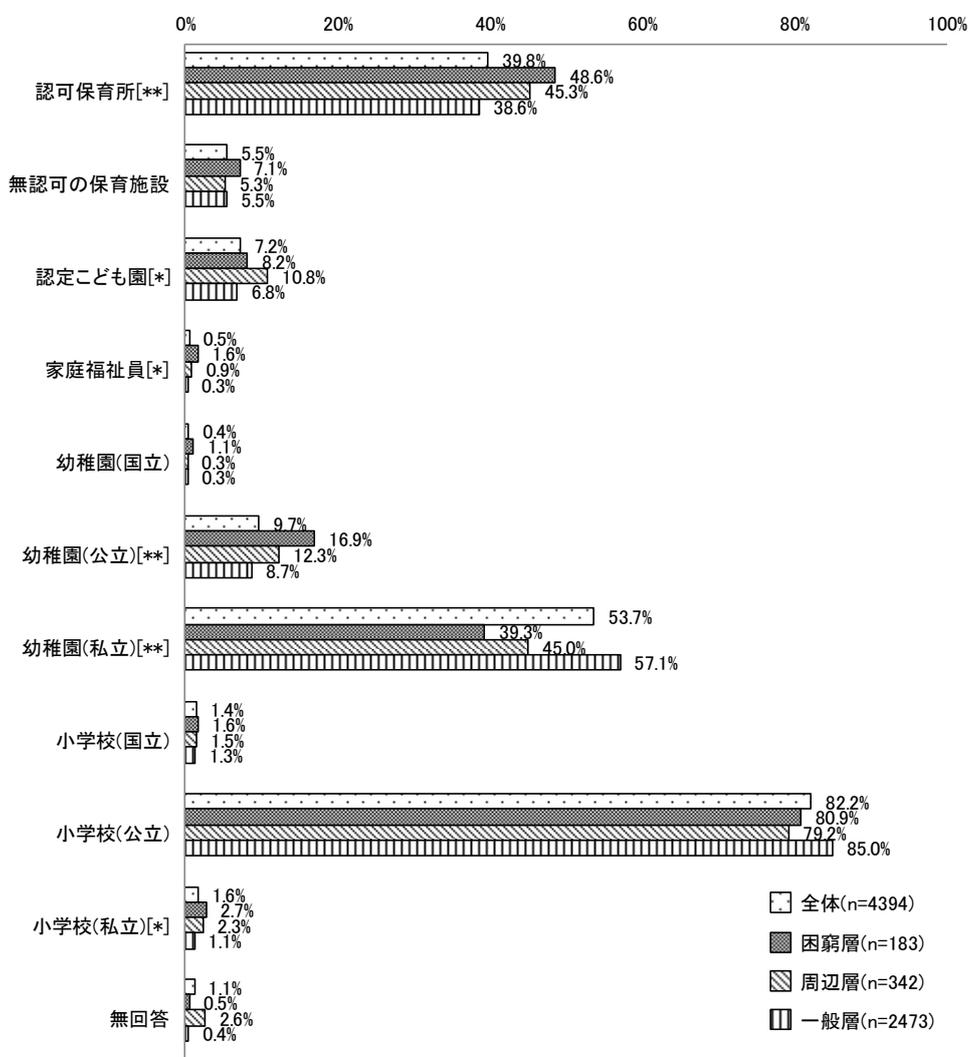
##### ①【保護者】Q38 子どもがこれまでに通ったことのある保育・教育機関等

小学生保護者の「全体」では、「小学校(公立)」が 82.2%でもっとも割合が高く、次いで「幼稚園(私立)」が 53.7%となっている。生活困難度別にみると、「認可保育所」、「認定こども園」、「家庭福祉員」、「幼稚園(公立)」、「幼稚園(私立)」、「小学校(私立)」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

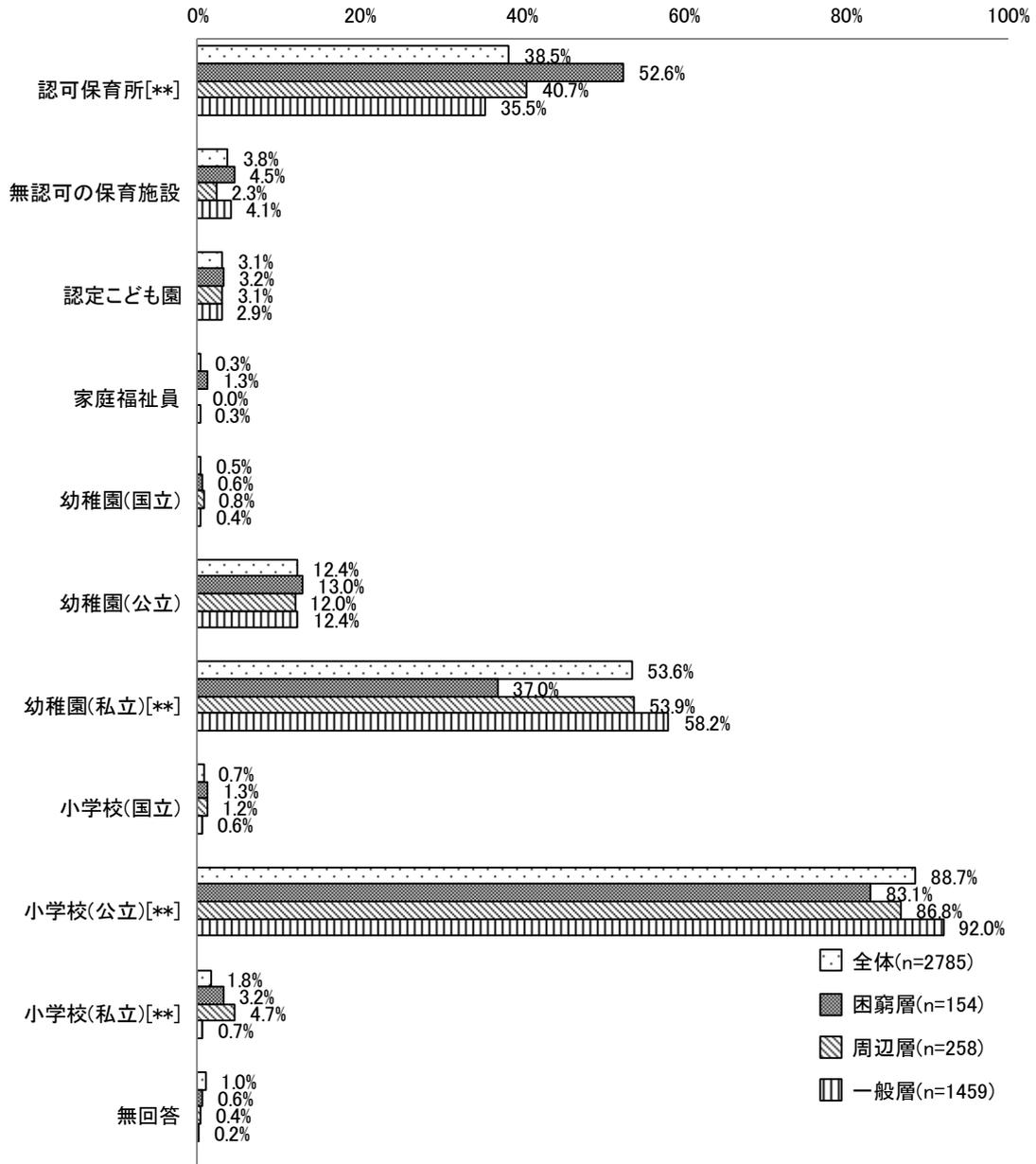
中学生保護者の「全体」では、「小学校(公立)」が 88.7%でもっとも割合が高く、次いで「幼稚園(私立)」が 53.6%となっている。生活困難度別にみると、「認可保育所」、「幼稚園(私立)」、「小学校(公立)」、「小学校(私立)」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 36 Q38 子どもがこれまでに通ったことのある保育・教育機関等:複数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



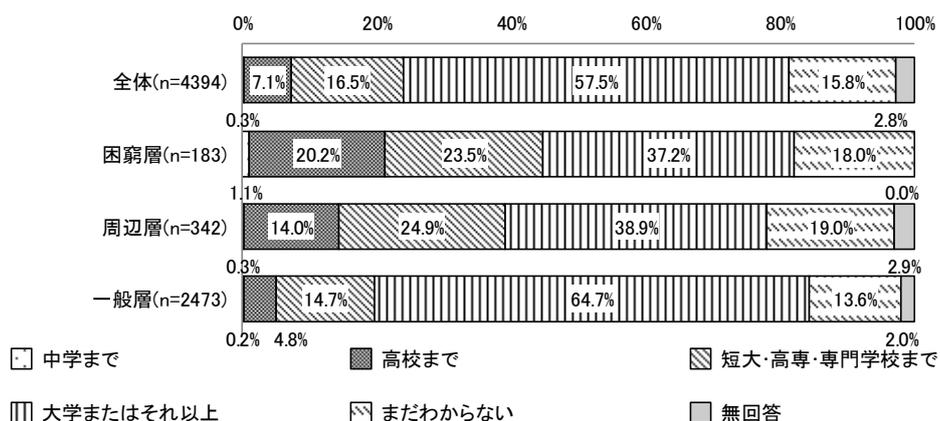
## ②【保護者】Q39 子どもに受けさせたい教育

小学生保護者の「全体」では、「大学またはそれ以上」が 57.5%でもっとも割合が高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」が 16.5%となっている。生活困難度別にみると、「大学またはそれ以上」の割合は、一般層（64.7%）、周辺層（38.9%）、困窮層（37.2%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「大学またはそれ以上」の割合は、ふたり親（二世帯）（60.4%）、ふたり親（三世帯）（51.8%）、ひとり親（二世帯）（45.9%）、ひとり親（三世帯）（43.1%）の順に高い。

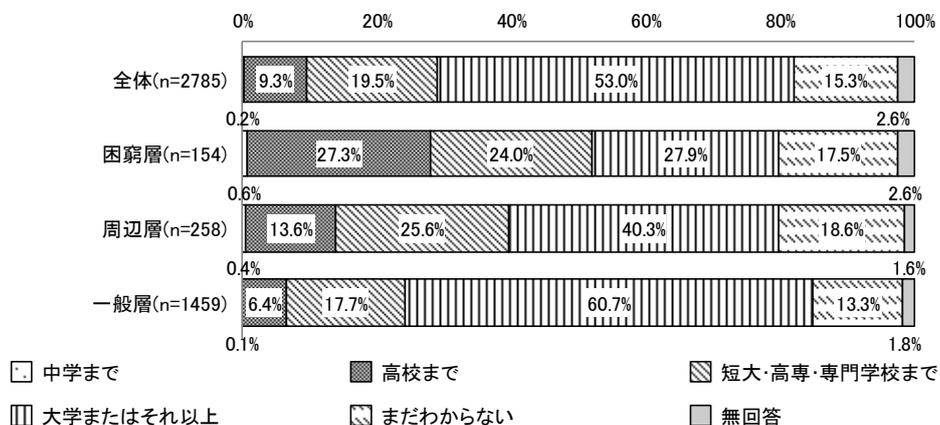
中学生保護者の「全体」では、「大学またはそれ以上」が 53.0%でもっとも割合が高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」が 19.5%となっている。生活困難度別にみると、「大学またはそれ以上」の割合は、一般層（60.7%）、周辺層（40.3%）、困窮層（27.9%）の順に高い。世帯タイプ別にみると、「大学またはそれ以上」の割合は、ふたり親（二世帯）（57.5%）、ひとり親（二世帯）（43.0%）、ふたり親（三世帯）（42.5%）、ひとり親（三世帯）（31.7%）の順に高い。

図表 37 Q39 子どもに受けさせたい教育:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)

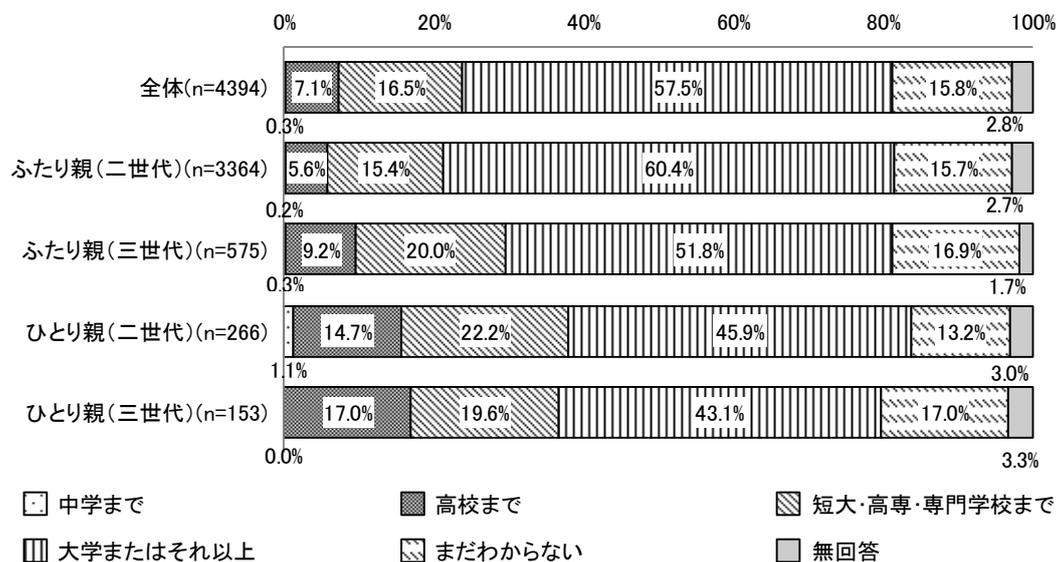


<中学生保護者> (p<.01)

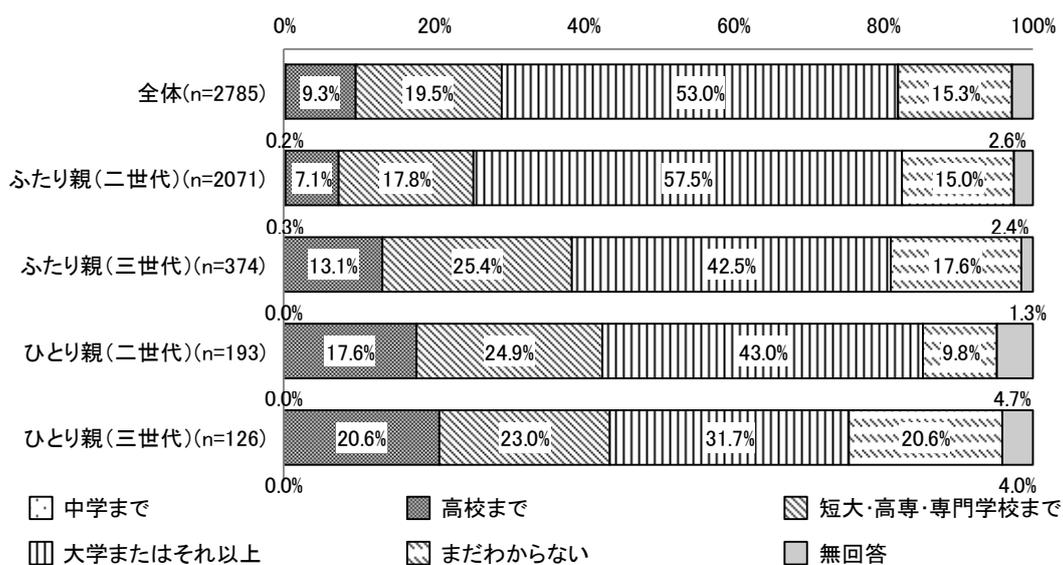


図表 38 Q39 子どもに受けさせたい教育:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### 3. 生活困窮の状況

#### (1) 住居の状況

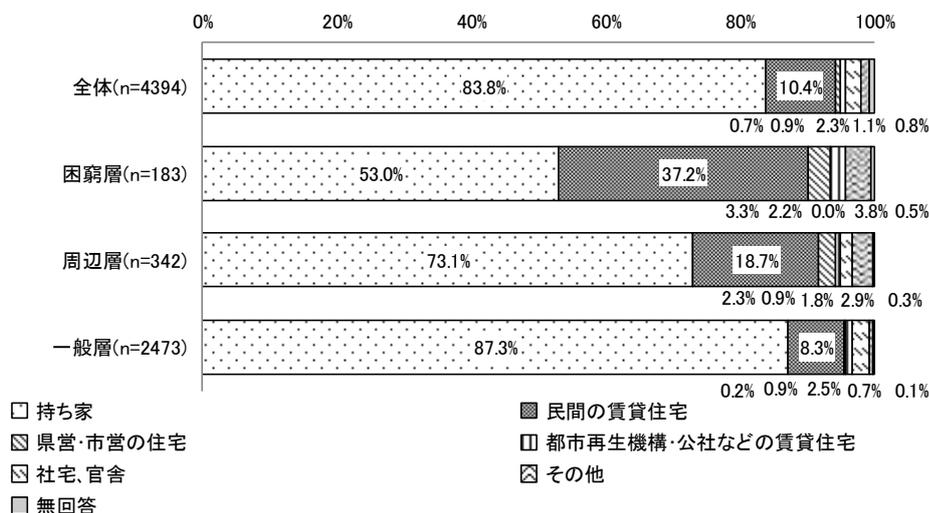
##### ①【保護者】Q19 住居の形態

小学生保護者の「全体」では、「持ち家」が83.8%でもっとも割合が高く、次いで「民間の賃貸住宅」が10.4%となっている。生活困難度別にみると、「持ち家」の割合は、一般層（87.3%）、周辺層（73.1%）、困窮層（53.0%）の順に高い。

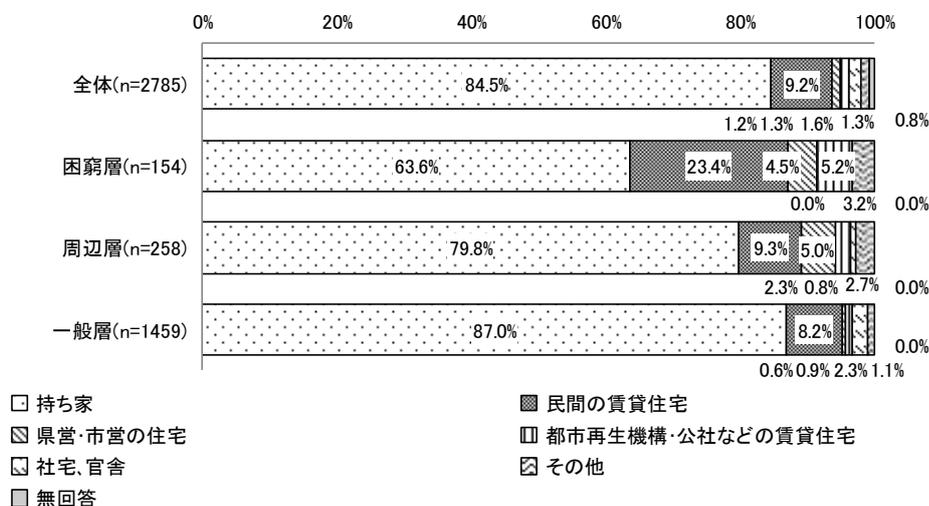
中学生保護者の「全体」では、「持ち家」が84.5%でもっとも割合が高く、次いで「民間の賃貸住宅」が9.2%となっている。生活困難度別にみると、「持ち家」の割合は、一般層（87.0%）、周辺層（79.8%）、困窮層（63.6%）の順に高い。

図表 39 【保護者】Q19 住居の形態:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

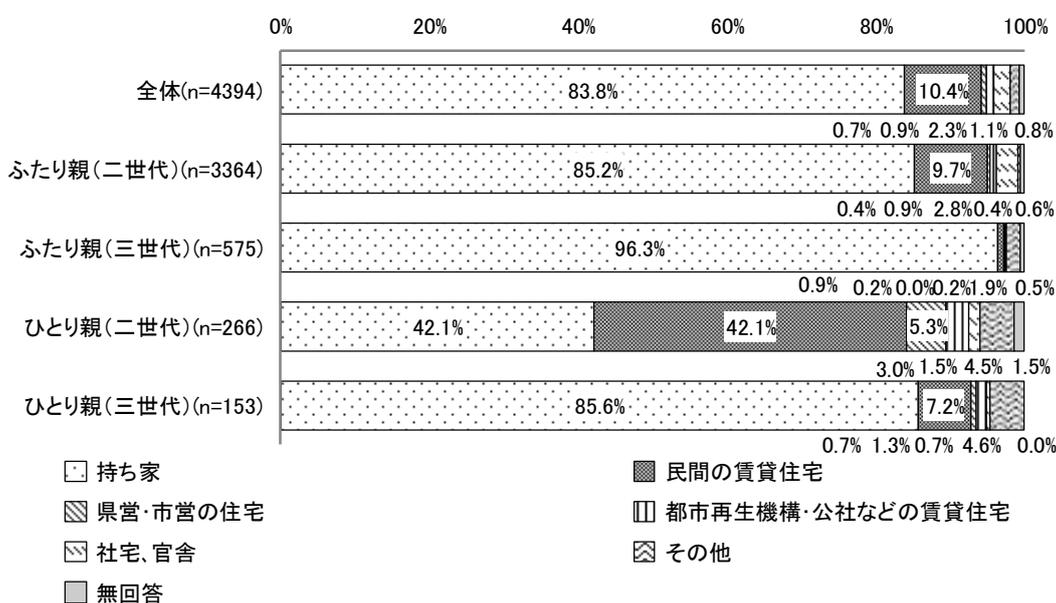


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「持ち家」の割合は、ふたり親（三世代）（96.3%）、ひとり親（三世代）（85.6%）、ふたり親（二世代）（85.2%）、ひとり親（二世代）（42.1%）の順に高い。

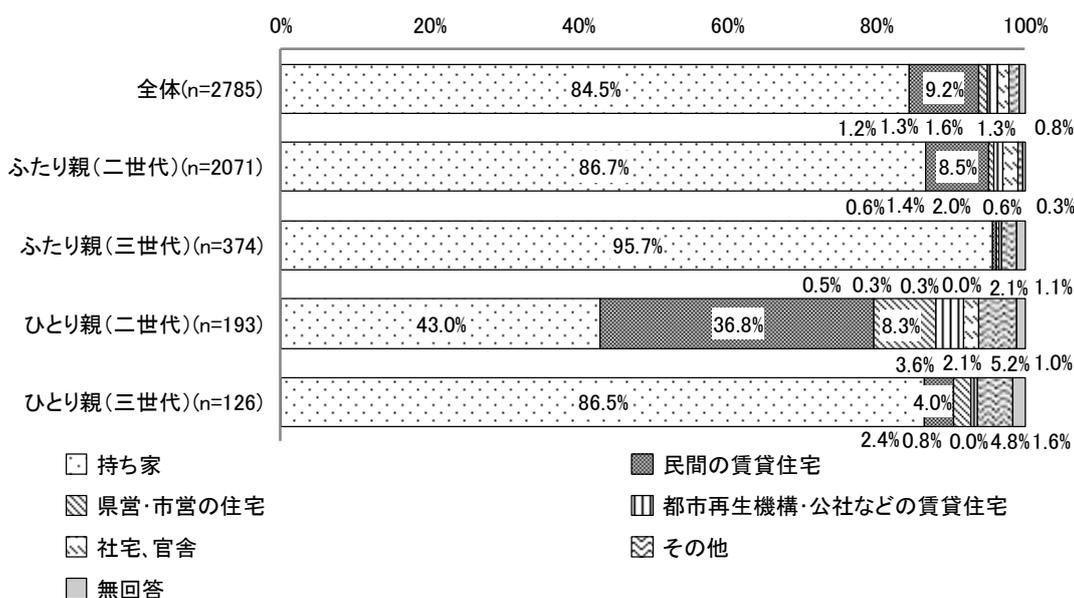
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「持ち家」の割合は、ふたり親（三世代）（95.7%）、ふたり親（二世代）（86.7%）、ひとり親（三世代）（86.5%）、ひとり親（二世代）（43.0%）の順に高い。

図表 40 【保護者】 Q19 住居の形態:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



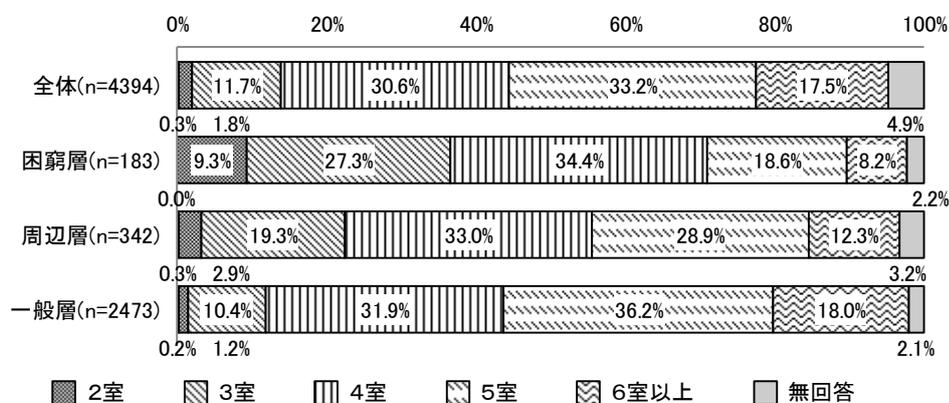
## ②【保護者】Q20-1 住居の部屋数

小学生保護者の「全体」では、「5室」が33.2%でもっとも割合が高く、次いで「4室」が30.6%となっている。生活困難度別にみると、「3室」の割合は、困窮層(27.3%)、周辺層(19.3%)、一般層(10.4%)の順に高い。

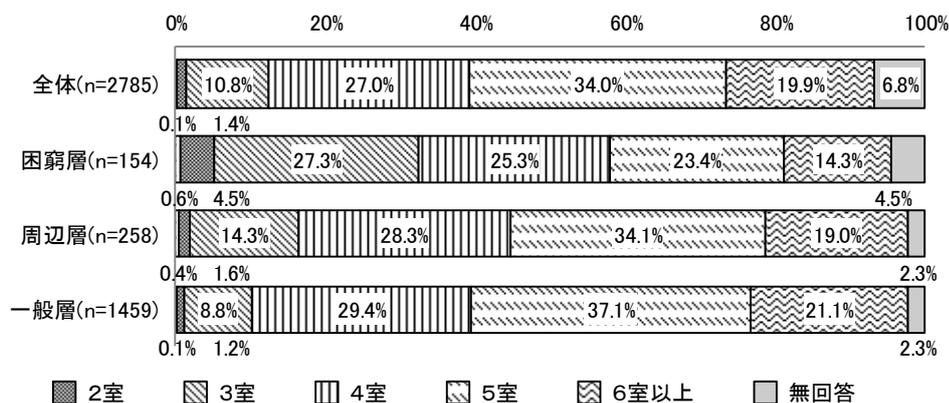
中学生保護者の「全体」では、「5室」が34.0%でもっとも割合が高く、次いで「4室」が27.0%となっている。生活困難度別にみると、「3室」の割合は、困窮層(27.3%)、周辺層(14.3%)、一般層(8.8%)の順に高い。

図表 41 【保護者】Q20-1 住居の部屋数:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

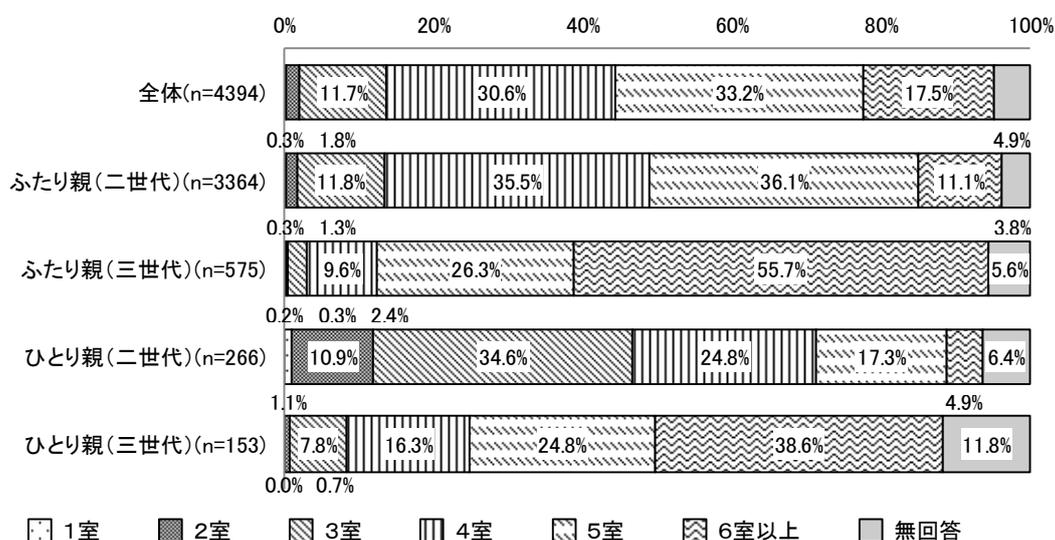


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「6室以上」の割合は、ふたり親（三世代）（55.7%）、ひとり親（三世代）（38.6%）、ふたり親（二世帯）（11.1%）、ひとり親（二世帯）（4.9%）の順に高い。

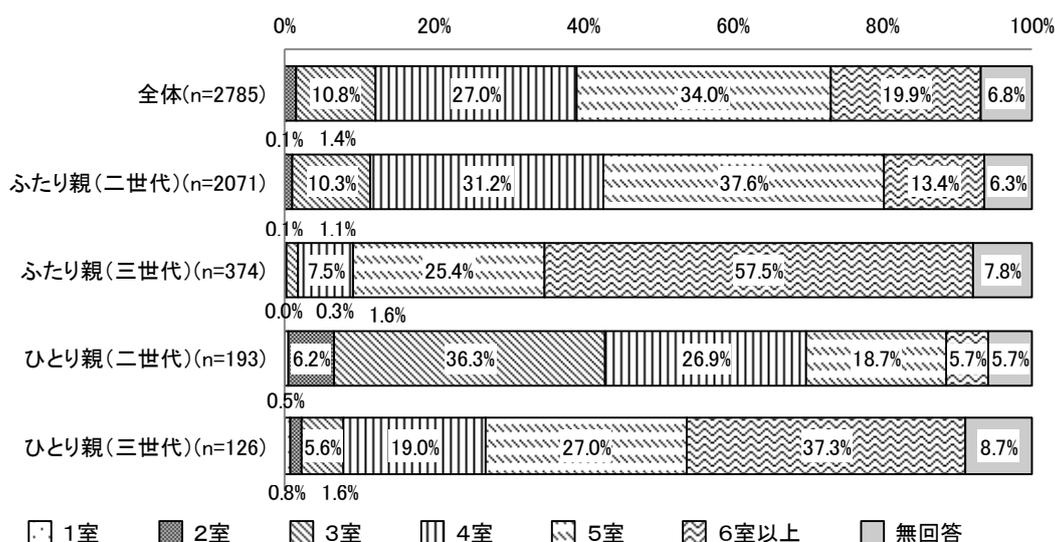
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「6室以上」の割合は、ふたり親（三世代）（57.5%）、ひとり親（三世代）（37.3%）、ふたり親（二世帯）（13.4%）、ひとり親（二世帯）（5.7%）の順に高い。

図表 42 【保護者】Q20-1 住居の部屋数:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



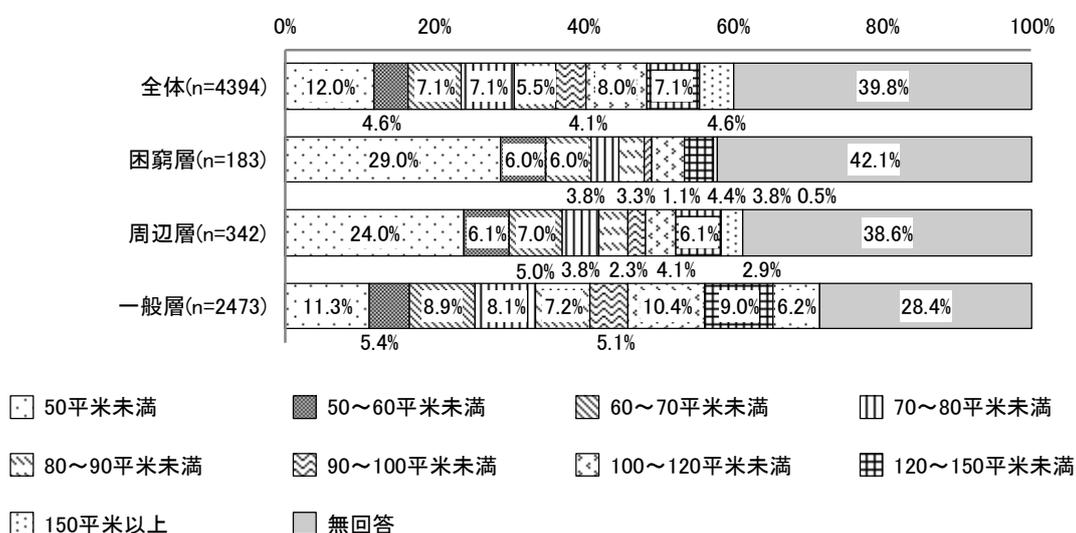
### ③【保護者】Q20-2 住居の部屋の広さ

小学生保護者の「全体」では、「50 平米未満」が 12.0%でもっとも割合が高く、次いで「100～120 平米未満」が 8.0%となっている。生活困難度別にみると、「50 平米未満」の割合は、困窮層（29.0%）、周辺層（24.0%）、一般層（11.3%）の順に高い。

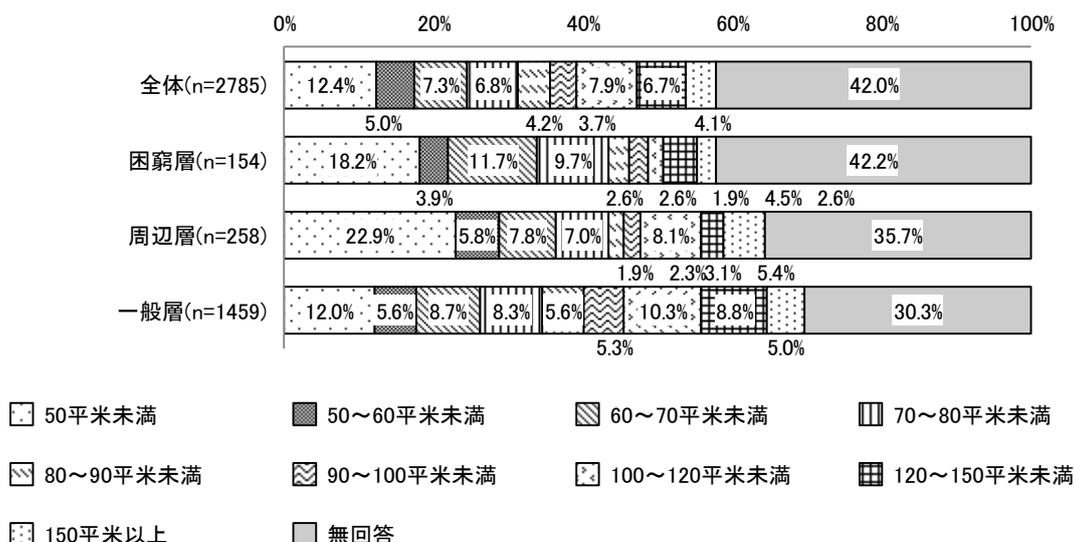
中学生保護者の「全体」では、「50 平米未満」が 12.4%でもっとも割合が高く、次いで「100～120 平米未満」が 7.9%となっている。生活困難度別にみると、「100～120 平米未満」の割合は、一般層（10.3%）、周辺層（8.1%）、困窮層（2.6%）の順に高い。

図表 43 【保護者】Q20-2 住居の部屋の広さ:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

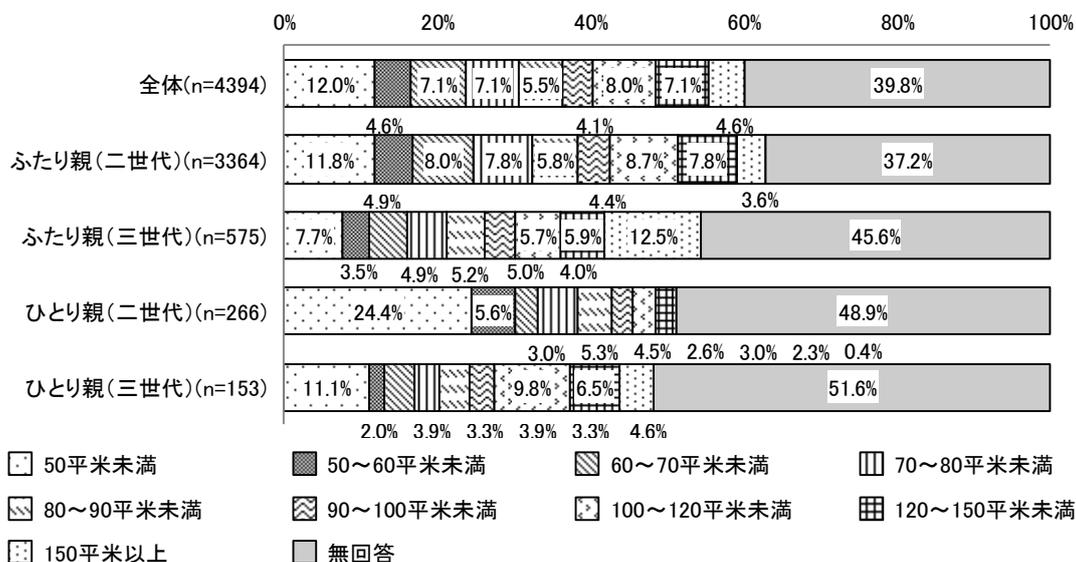


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「50平米未満」の割合は、ひとり親（二世帯）（24.4%）、ふたり親（二世帯）（11.8%）、ひとり親（三世帯）（11.1%）、ふたり親（三世帯）（7.7%）の順に高い。

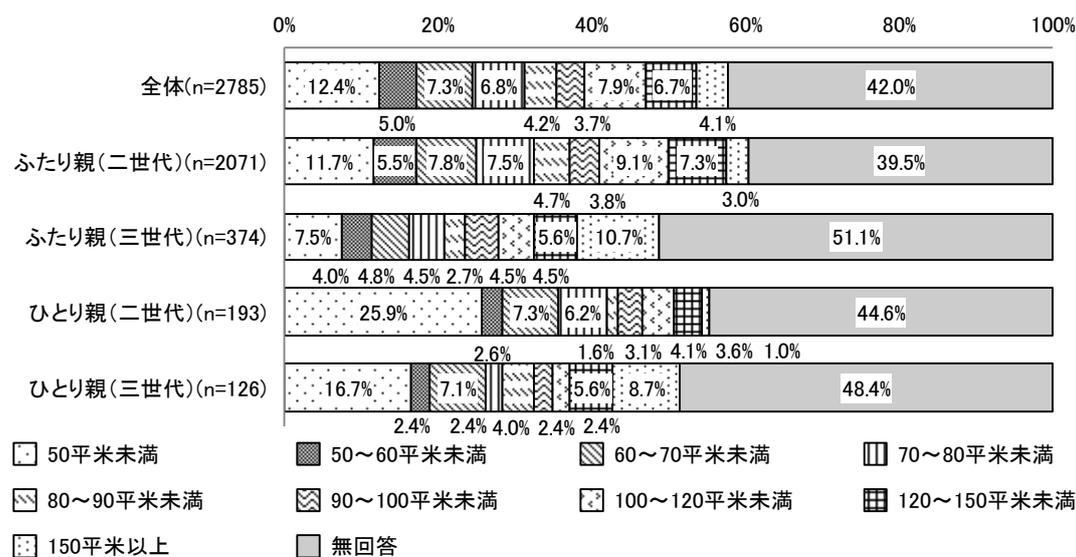
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「50平米未満」の割合は、ひとり親（二世帯）（25.9%）、ひとり親（三世帯）（16.7%）、ふたり親（二世帯）（11.7%）、ふたり親（三世帯）（7.5%）の順に高い。

図表 44 【保護者】 Q20-2 住居の部屋の広さ:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



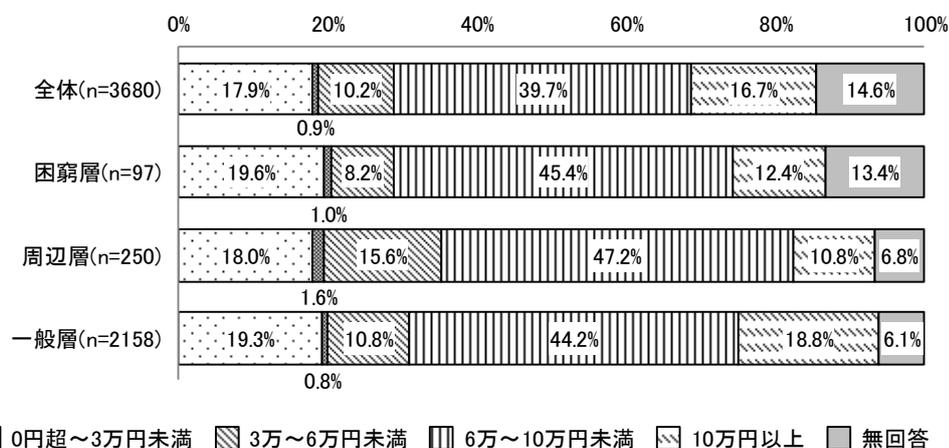
④【保護者】Q21-1 住居費負担\_持ち家

小学生保護者の「全体」では、「6万～10万円未満」が39.7%でもっとも割合が高く、次いで「0円」が17.9%となっている。生活困難度別にみると、「10万円以上」の割合は、一般層（18.8%）、困窮層（12.4%）、周辺層（10.8%）の順に高い。

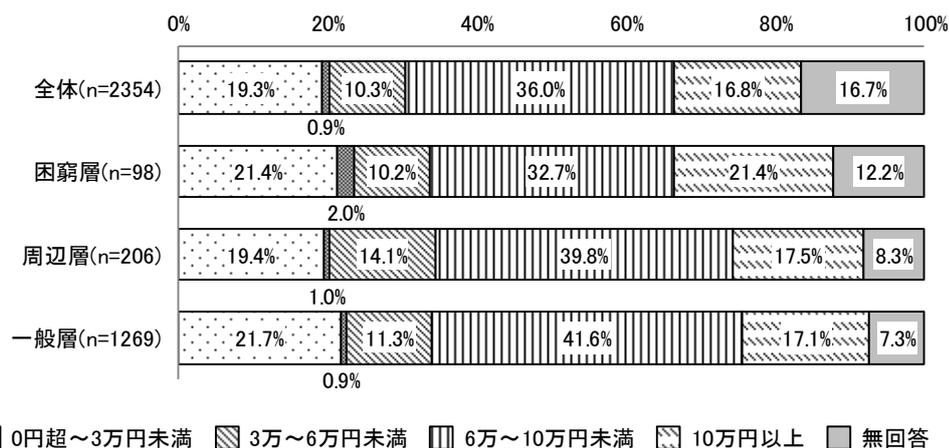
中学生保護者の「全体」では、「6万～10万円未満」が36.0%でもっとも割合が高く、次いで「0円」が19.3%となっている。生活困難度別にみると、統計的な有意差はみられない。

図表 45 【保護者】Q21-1 住居費負担\_持ち家:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.05)



<中学生保護者> (有意差なし)

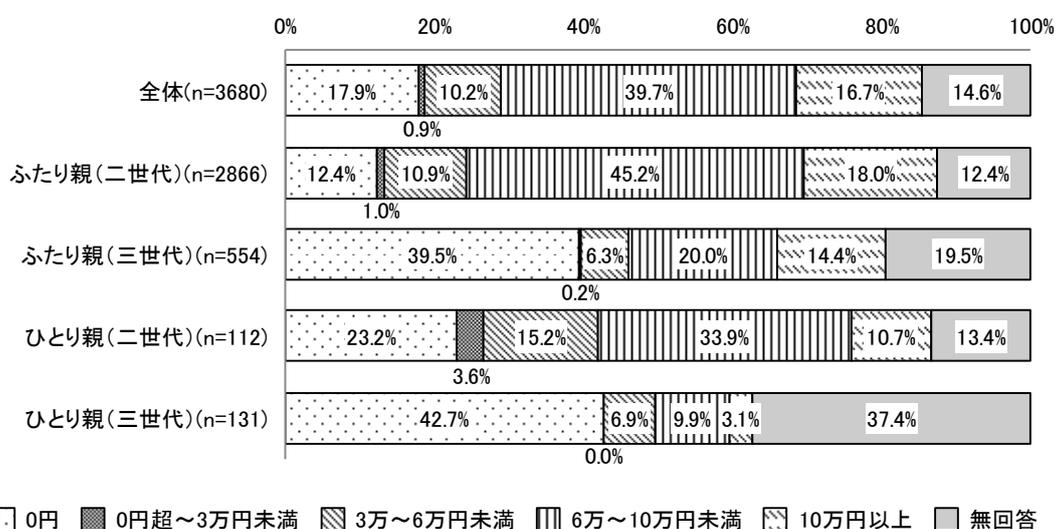


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「0円」の割合は、ひとり親（三世代）（42.7%）、ふたり親（三世代）（39.5%）、ひとり親（二世帯）（23.2%）、ふたり親（二世帯）（12.4%）の順に高い。

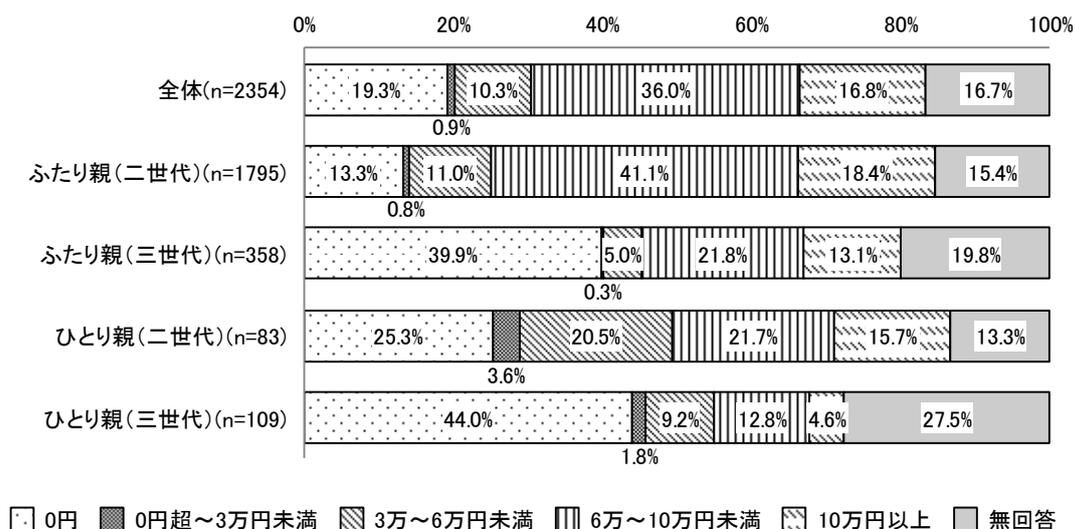
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「0円」の割合は、ひとり親（三世代）（44.0%）、ふたり親（三世代）（39.9%）、ひとり親（二世帯）（25.3%）、ふたり親（二世帯）（13.3%）の順に高い。

図表 46 【保護者】 Q21-1 住居費負担\_持ち家:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



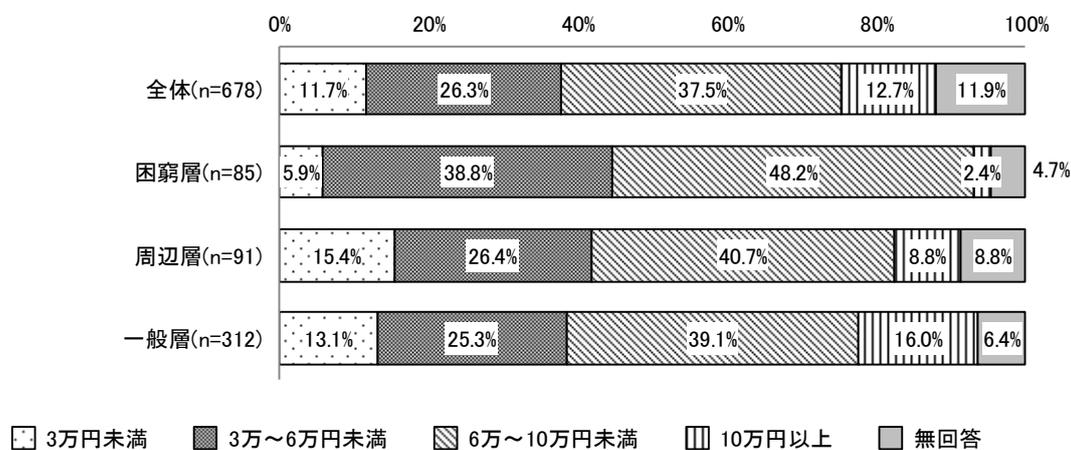
⑤【保護者】Q21-2 住居費負担\_賃貸住宅

小学生保護者の「全体」では、「6万～10万円未満」が37.5%でもっとも割合が高く、次いで「3万～6万円未満」が26.3%となっている。生活困難度別にみると、「6万～10万円未満」の割合は、困窮層（48.2%）、周辺層（40.7%）、一般層（39.1%）の順に高い。

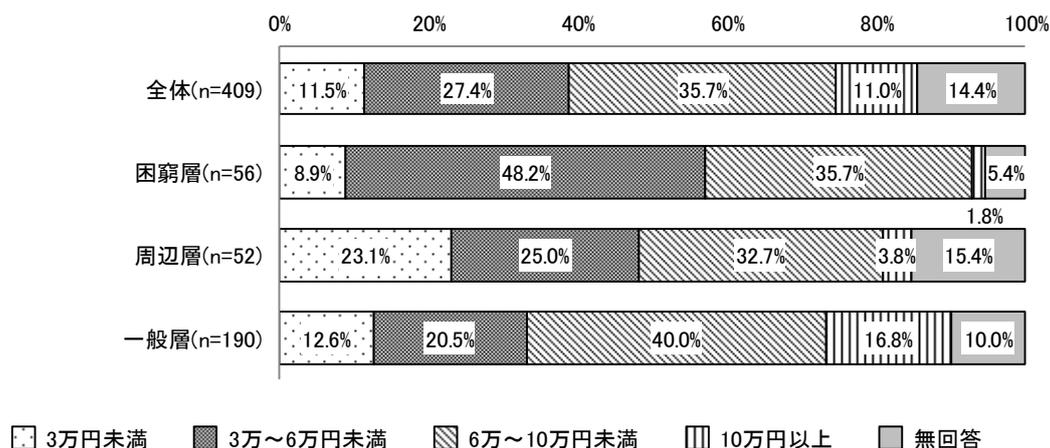
中学生保護者の「全体」では、「6万～10万円未満」が35.7%でもっとも割合が高く、次いで「3万～6万円未満」が27.4%となっている。生活困難度別にみると、「3万～6万円未満」の割合は、困窮層（48.2%）、周辺層（25.0%）、一般層（20.5%）の順に高い。

図表 47 【保護者】Q21-2 住居費負担\_賃貸住宅:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

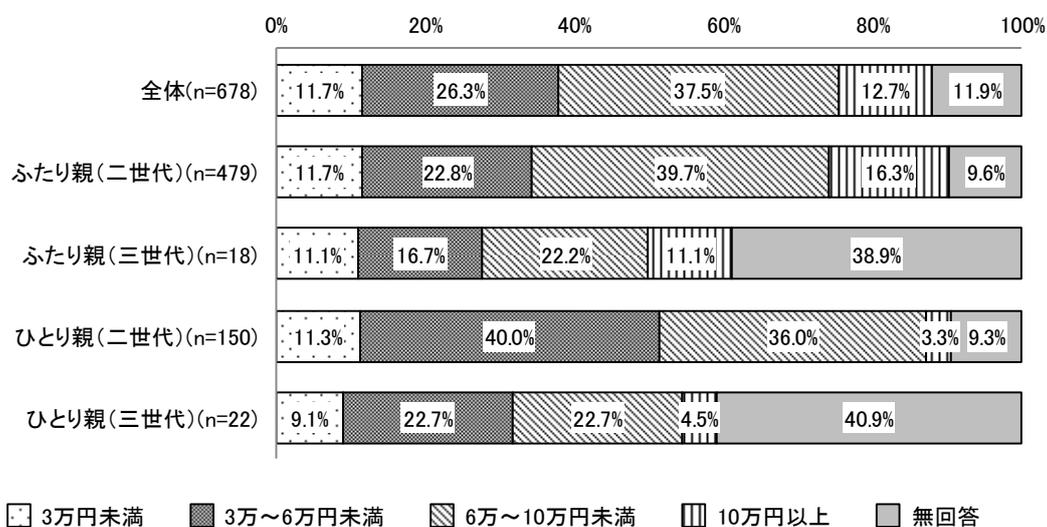


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「3万～6万円未満」の割合は、ひとり親（二世帯）（40.0%）、ふたり親（二世帯）（22.8%）、ひとり親（三世帯）（22.7%）、ふたり親（三世帯）（16.7%）の順に高い。

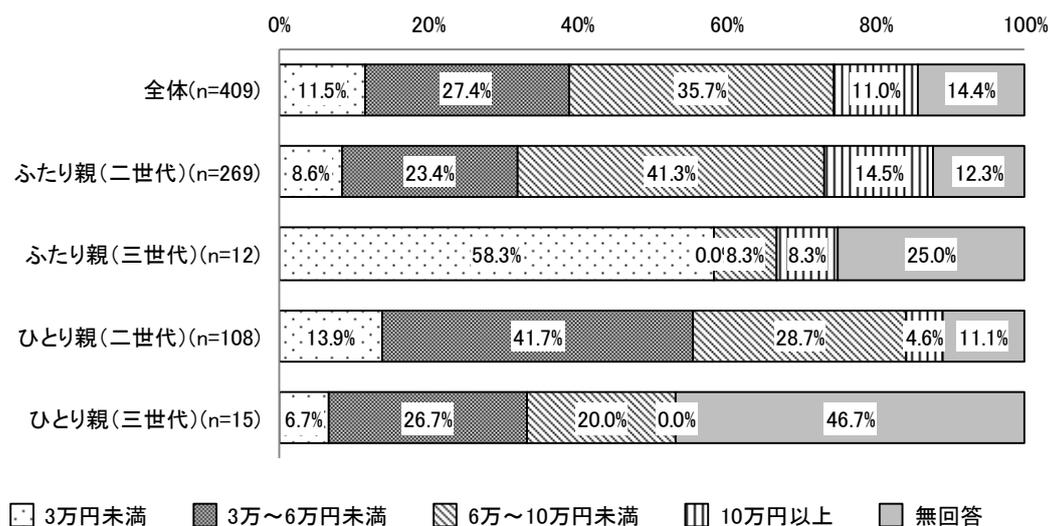
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「3万円未満」の割合は、ふたり親（三世帯）（58.3%）、ひとり親（二世帯）（13.9%）、ふたり親（二世帯）（8.6%）、ひとり親（三世帯）（6.7%）の順に高い。

図表 48 【保護者】 Q21-2 住居費負担\_賃貸住宅:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



## (2) 教育にかかる費用

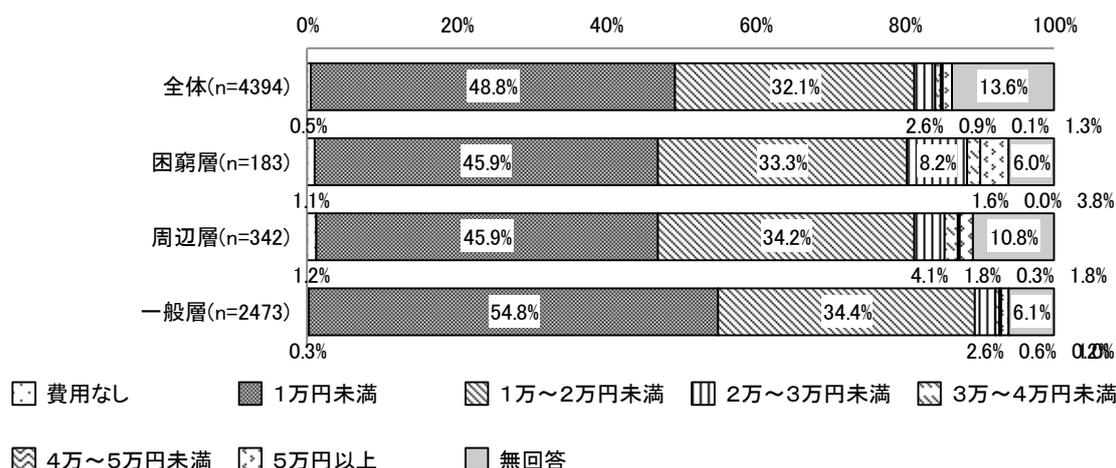
### ①【保護者】Q22-1 学校でかかる費用

小学生保護者の「全体」では、「1万円未満」が48.8%でもっとも割合が高く、次いで「1万～2万円未満」が32.1%となっている。生活困難度別にみると、「1万～2万円未満」の割合は、一般層（34.4%）、周辺層（34.2%）、困窮層（33.3%）の順に高い。

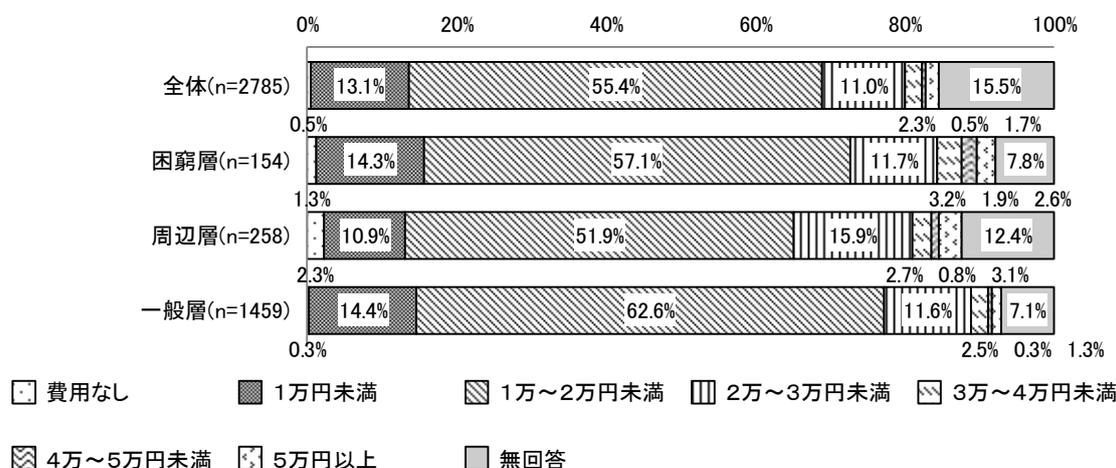
中学生保護者の「全体」では、「1万～2万円未満」が55.4%でもっとも割合が高く、次いで「1万円未満」が13.1%となっている。生活困難度別にみると、「1万～2万円未満」の割合は、一般層（62.6%）、困窮層（57.1%）、周辺層（51.9%）の順に高い。

図表 49 【保護者】Q22-1 学校でかかる費用:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

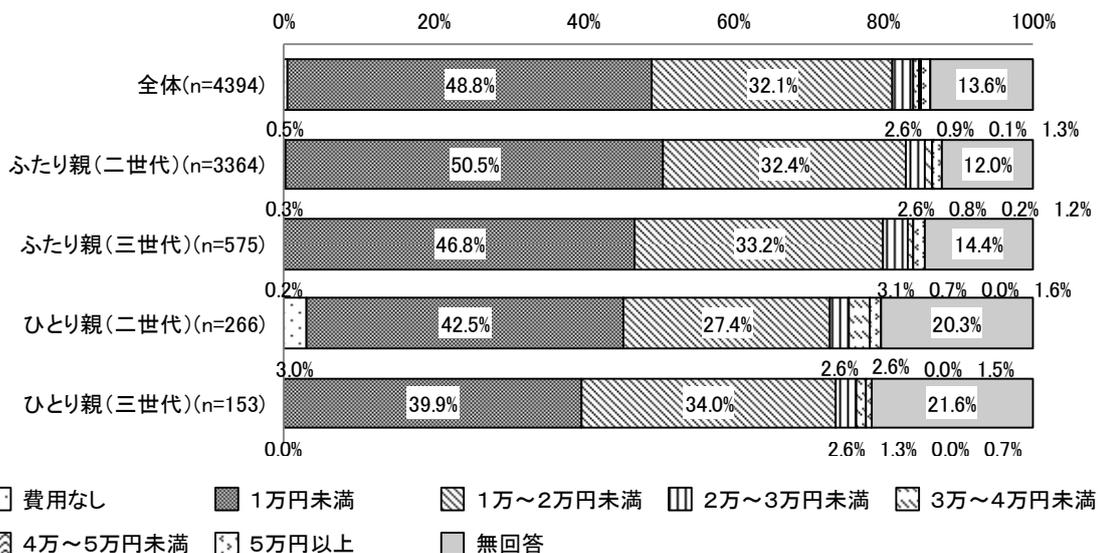


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「1万円未満」の割合は、ふたり親（二世帯）（50.5%）、ふたり親（三世帯）（46.8%）、ひとり親（二世帯）（42.5%）、ひとり親（三世帯）（39.9%）の順に高い。

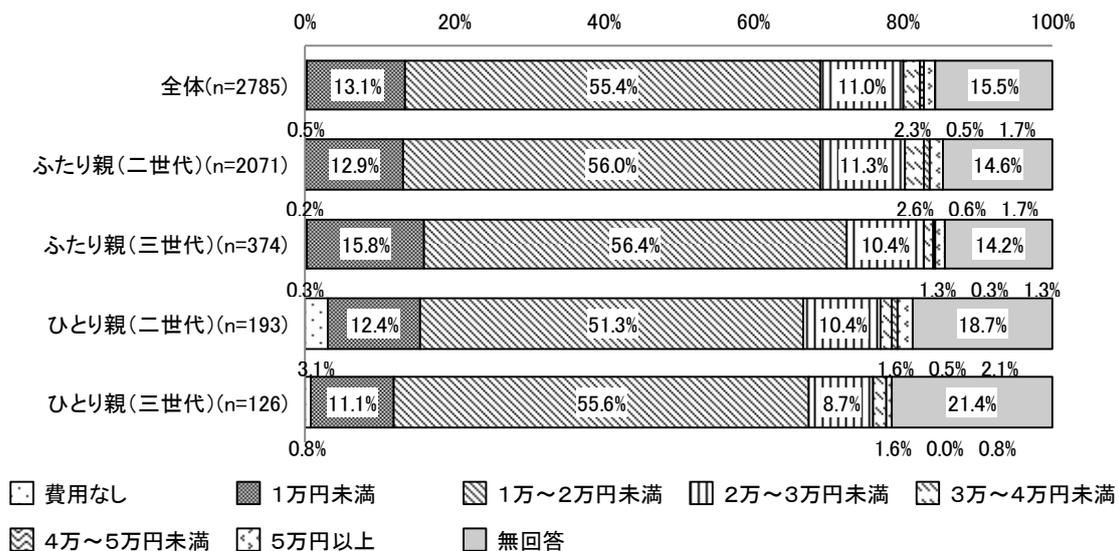
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「1万円未満」の割合は、ふたり親（三世帯）（15.8%）、ふたり親（二世帯）（12.9%）、ひとり親（二世帯）（12.4%）、ひとり親（三世帯）（11.1%）の順に高い。

図表 50 【保護者】Q22-1 学校でかかる費用:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



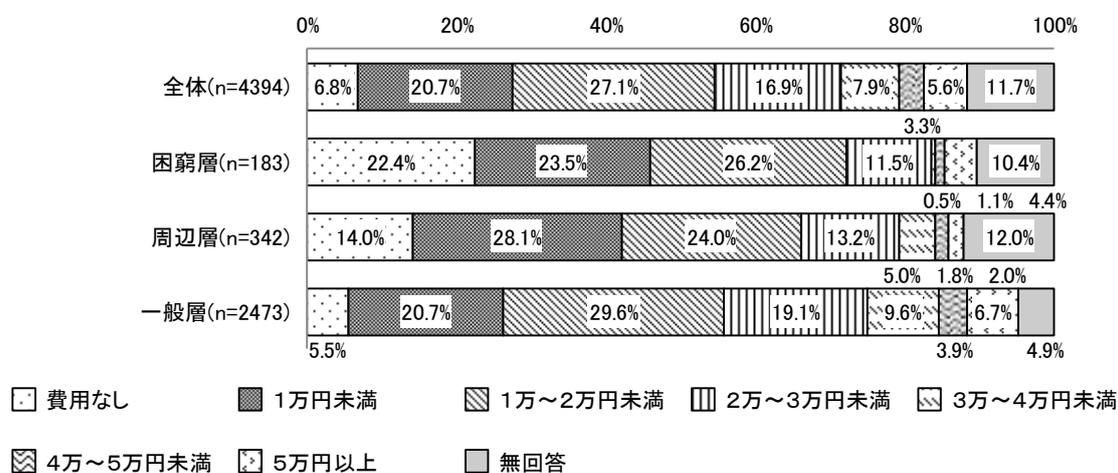
②【保護者】Q22-2 学校外でかかる教育費

小学生保護者の「全体」では、「1万～2万円未満」が27.1%でもっとも割合が高く、次いで「1万円未満」が20.7%となっている。生活困難度別にみると、「費用なし」の割合は、困窮層（22.4%）、周辺層（14.0%）、一般層（5.5%）の順に高い。

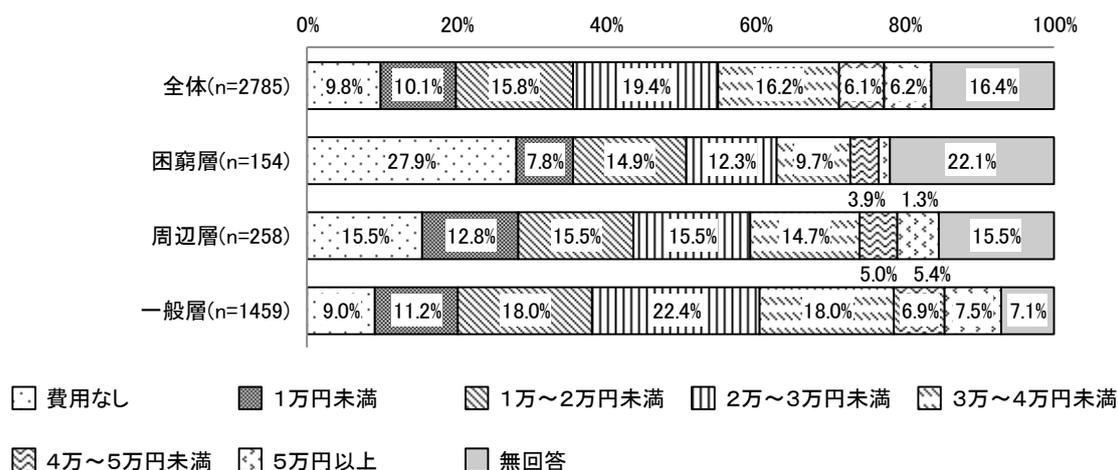
中学生保護者の「全体」では、「2万～3万円未満」が19.4%でもっとも割合が高く、次いで「3万～4万円未満」が16.2%となっている。生活困難度別にみると、「費用なし」の割合は、困窮層（27.9%）、周辺層（15.5%）、一般層（9.0%）の順に高い。

図表 51 【保護者】Q22-2 学校外でかかる教育費:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

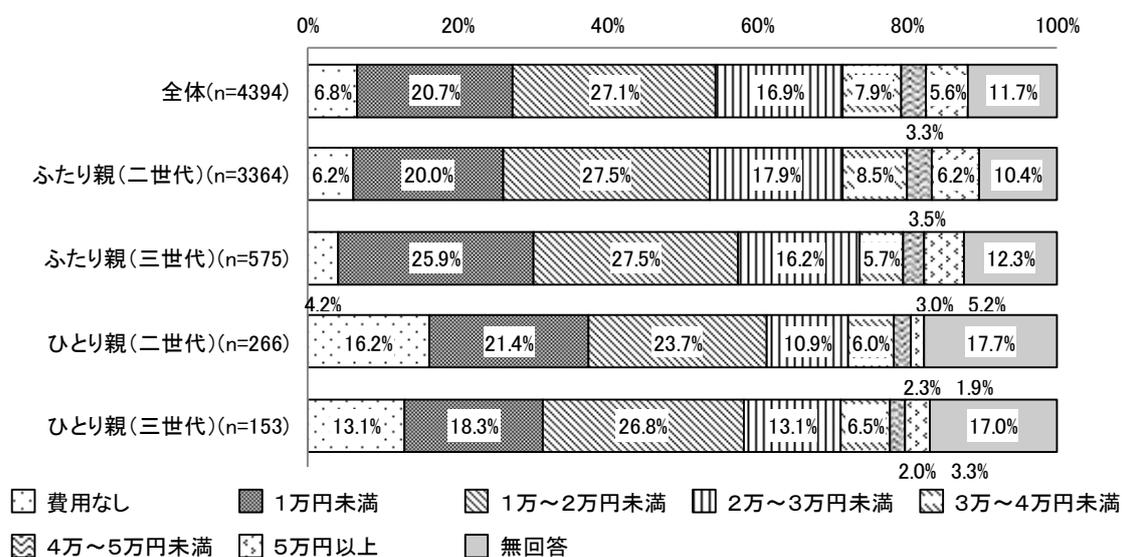


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「費用なし」の割合は、ひとり親（二世帯）（16.2%）、ひとり親（三世帯）（13.1%）、ふたり親（二世帯）（6.2%）、ふたり親（三世帯）（4.2%）の順に高い。

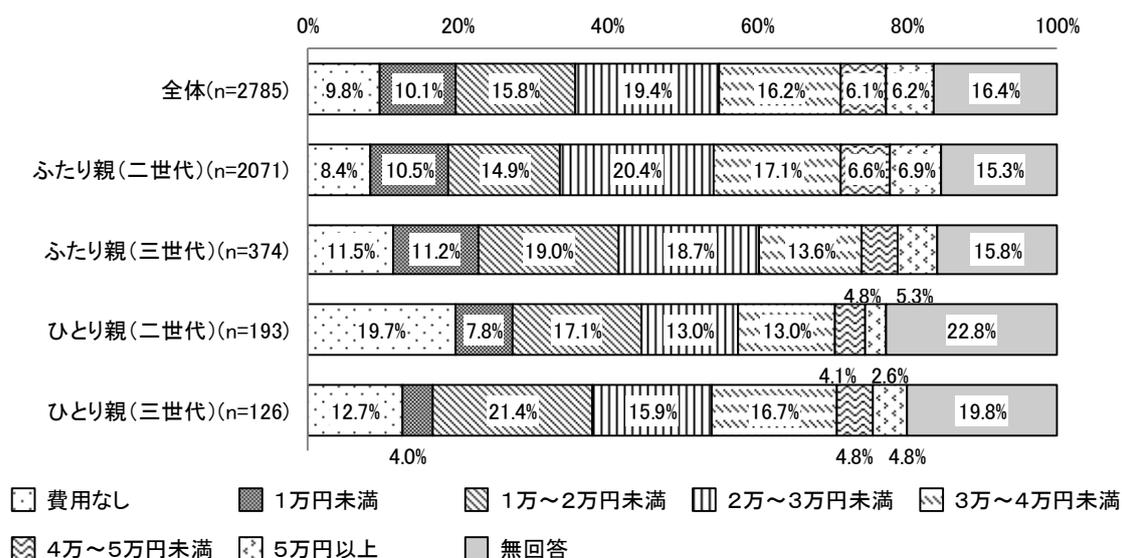
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「費用なし」の割合は、ひとり親（二世帯）（19.7%）、ひとり親（三世帯）（12.7%）、ふたり親（三世帯）（11.5%）、ふたり親（二世帯）（8.4%）の順に高い。

図表 52 【保護者】 Q22-2 学校外でかかる教育費:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### (3) 家計の状況

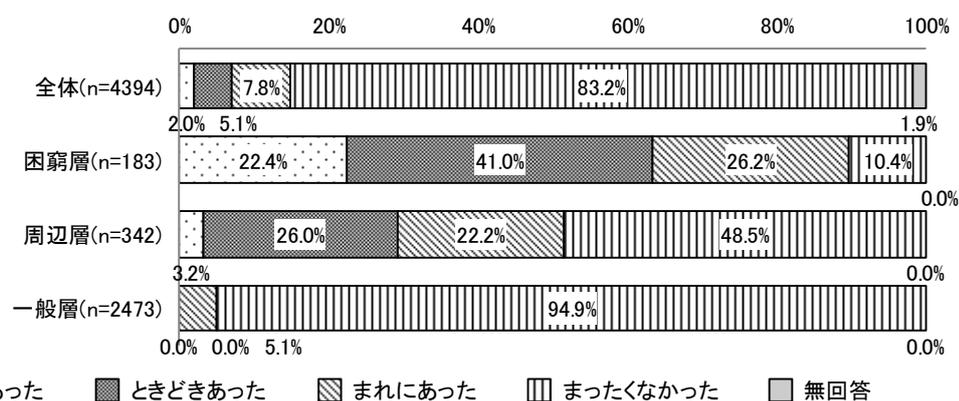
#### ①【保護者】Q23-1 家族が必要とする食料を買えなかったこと

小学生保護者の「全体」では、「まったくなかった」が83.2%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が7.8%となっている。生活困難度別にみると、「まったくなかった」の割合は、一般層（94.9%）、周辺層（48.5%）、困窮層（10.4%）の順に高い。

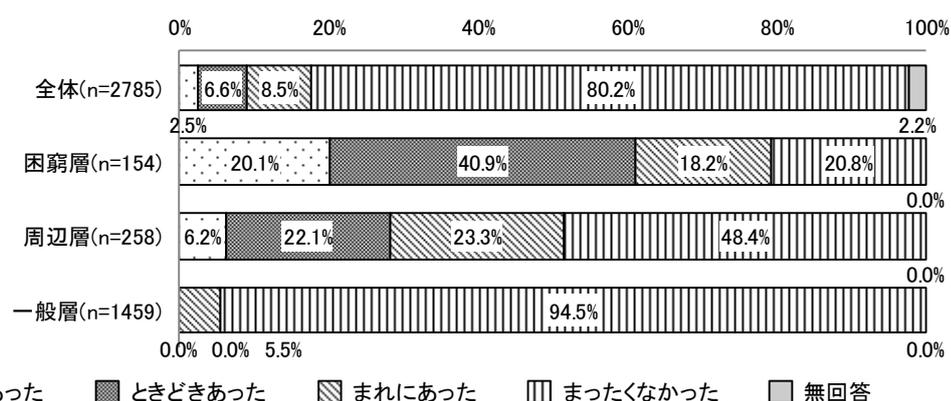
中学生保護者の「全体」では、「まったくなかった」が80.2%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が8.5%となっている。生活困難度別にみると、「まったくなかった」の割合は、一般層（94.5%）、周辺層（48.4%）、困窮層（20.8%）の順に高い。

図表 53 【保護者】Q23-1 家族が必要とする食料を買えなかったこと:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

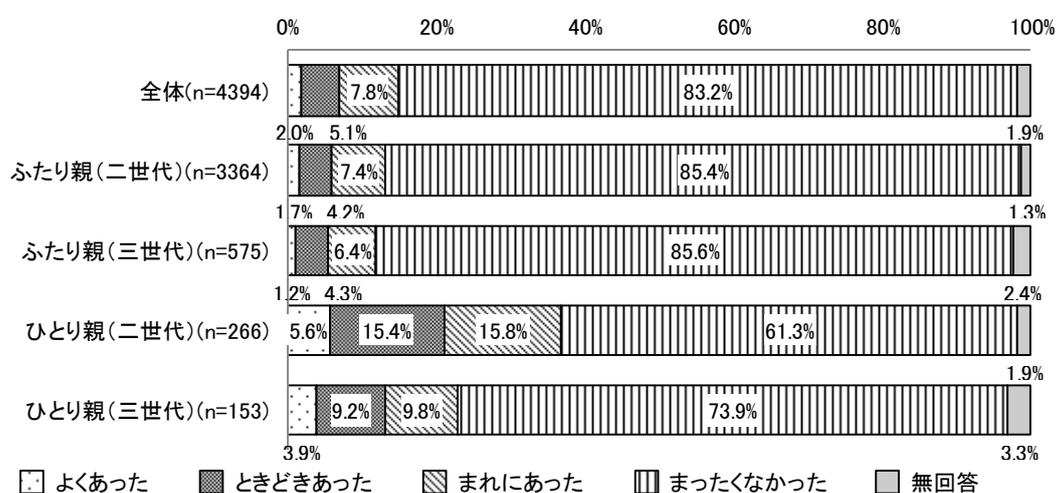


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「まったくなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（85.6%）、ふたり親（二世帯）（85.4%）、ひとり親（三世代）（73.9%）、ひとり親（二世帯）（61.3%）の順に高い。

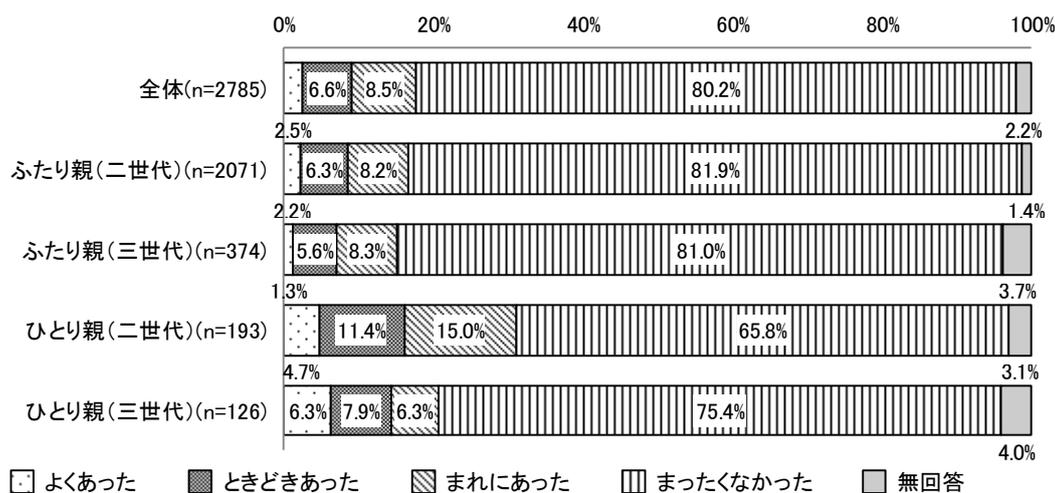
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「まったくなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（81.9%）、ふたり親（三世代）（81.0%）、ひとり親（三世代）（75.4%）、ひとり親（二世帯）（65.8%）の順に高い。

図表 54 【保護者】 Q23-1 家族が必要とする食料を買えなかったこと:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



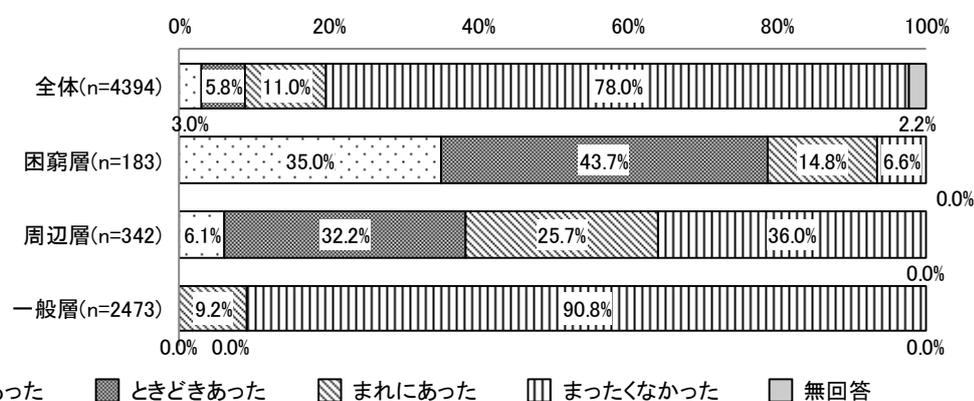
②【保護者】Q23-2 家族が必要とする衣類を買えなかったこと

小学生保護者の「全体」では、「まったくなかった」が78.0%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が11.0%となっている。生活困難度別にみると、「まったくなかった」の割合は、一般層（90.8%）、周辺層（36.0%）、困窮層（6.6%）の順に高い。

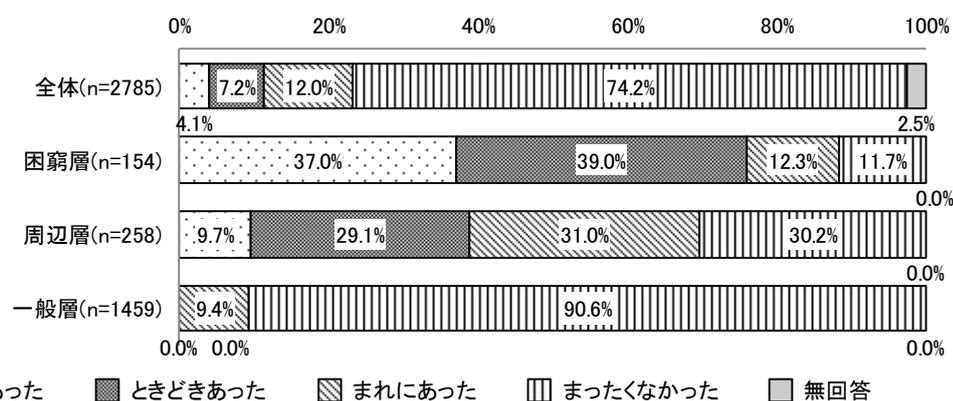
中学生保護者の「全体」では、「まったくなかった」が74.2%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が12.0%となっている。生活困難度別にみると、「まったくなかった」の割合は、一般層（90.6%）、周辺層（30.2%）、困窮層（11.7%）の順に高い。

図表 55 【保護者】Q23-2 家族が必要とする衣類を買えなかったこと:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

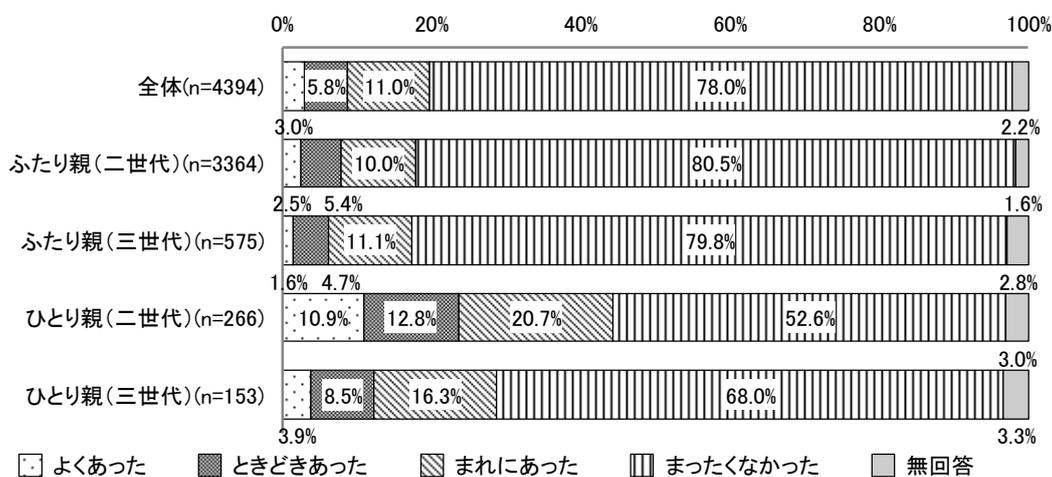


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「まったくなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（80.5%）、ふたり親（三世帯）（79.8%）、ひとり親（三世帯）（68.0%）、ひとり親（二世帯）（52.6%）の順に高い。

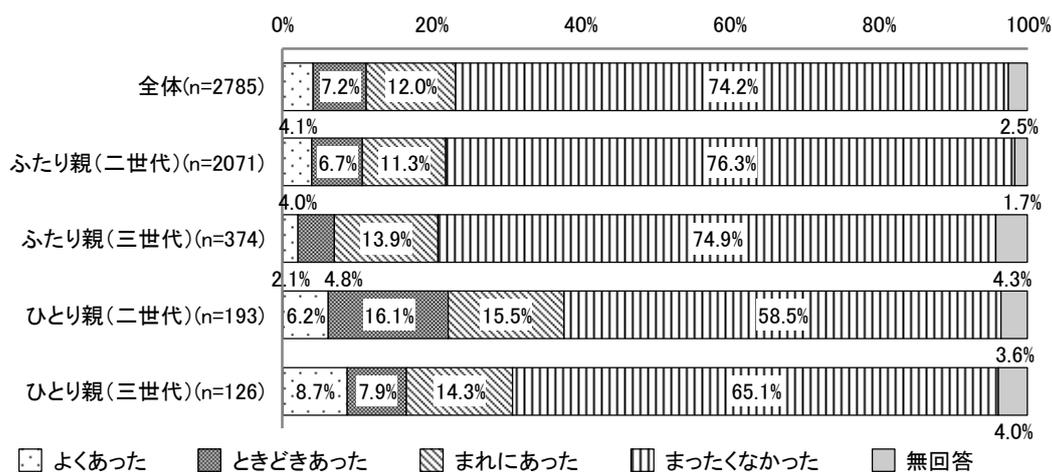
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「まったくなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（76.3%）、ふたり親（三世帯）（74.9%）、ひとり親（三世帯）（65.1%）、ひとり親（二世帯）（58.5%）の順に高い。

図表 56 【保護者】Q23-2 家族が必要とする衣類を買えなかったこと:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### ③【保護者】Q24 経済的理由で支払えなかったこと

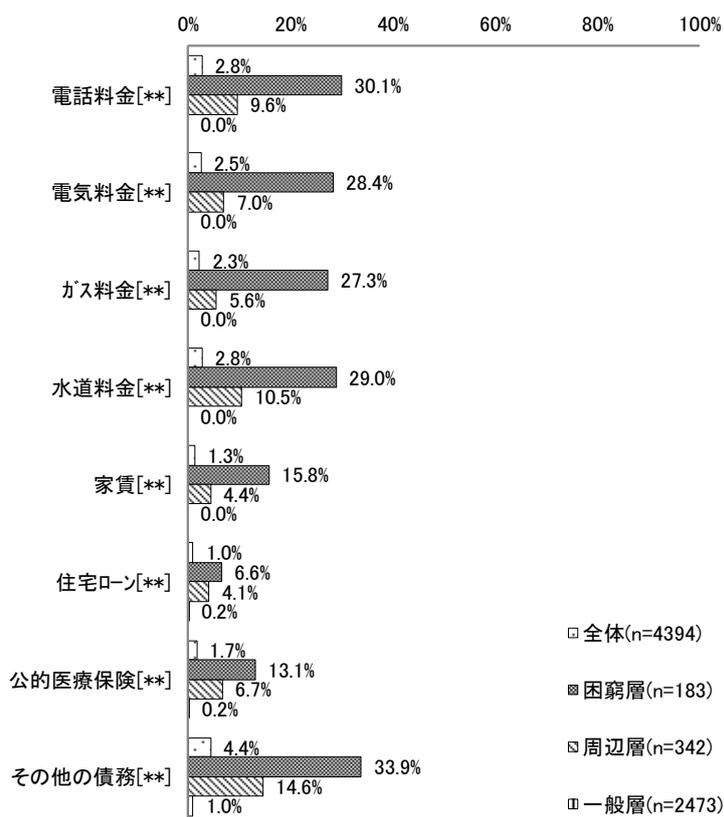
小学生保護者の「全体」では、「その他の債務」が 4.4%でもっとも割合が高く、次いで「電話料金」と「水道料金」が 2.8%となっている。生活困難度別にみると、いずれの項目においても、統計的に有意な差がみられる。

中学生保護者の「全体」では、「その他の債務」が 4.6%でもっとも割合が高く、次いで「電話料金」が 3.7%となっている。生活困難度別にみると、いずれの項目においても、統計的に有意な差がみられる。

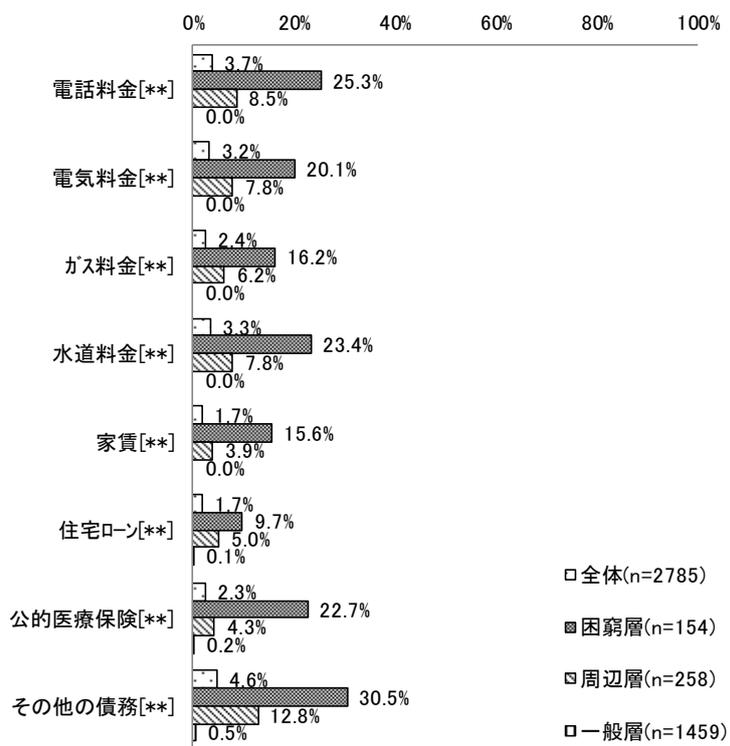
小学生・中学生保護者とも、困窮層においては、「電話料金」「電気料金」「ガス料金」「水道料金」「その他の債務」が支払えなかったことがあったとする割合が約 2～3 割にのぼる。中学生保護者では「公的医療保険」も約 2 割となっている。

図表 57 【保護者】Q24 経済的理由で支払えなかったこと\_「あった」の割合  
(生活困難度別)

<小学生保護者>



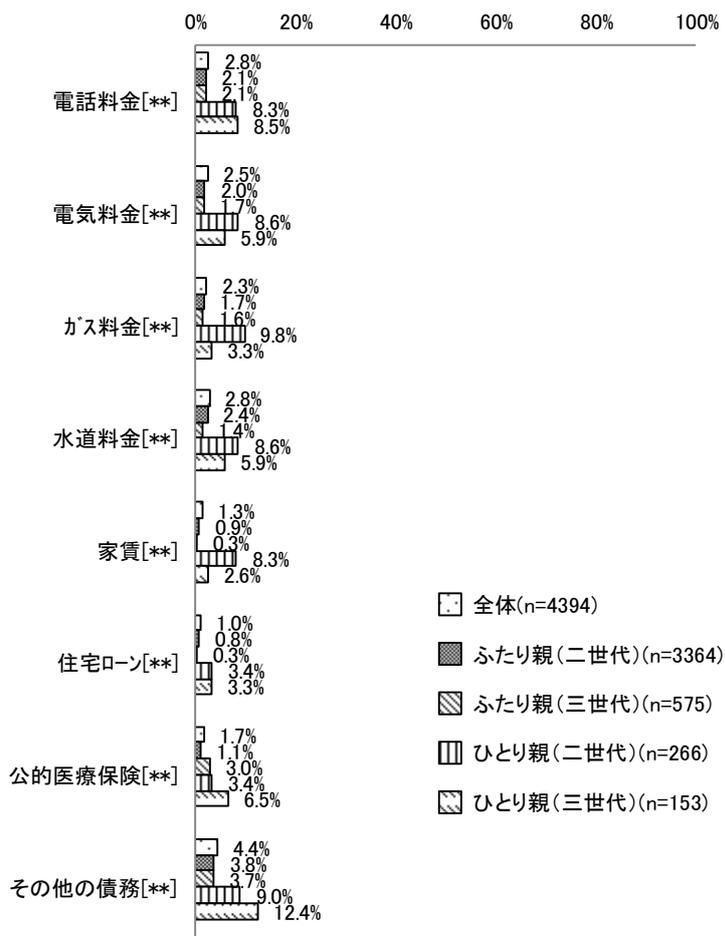
< 中学生保護者 >



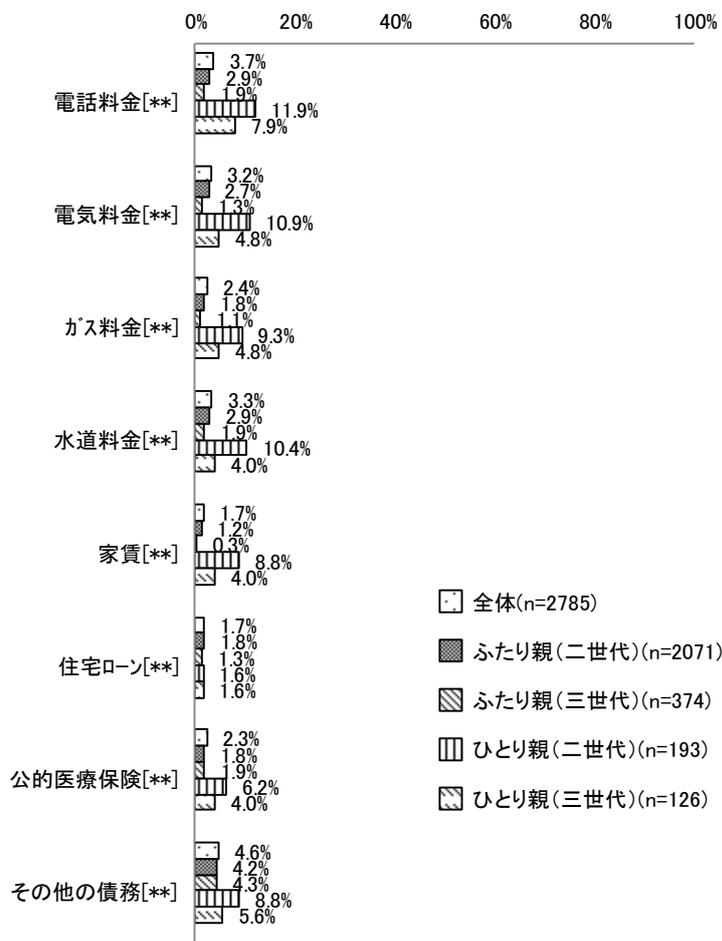
小学生・中学生保護者ともに、世帯タイプ別にみるとすべての項目で有意な差がみられる。特に、「ひとり親（二世帯）」の場合に、「あった」とする割合が高い傾向がある。

図表 58 【保護者】Q24 経済的理由で支払えなかったこと\_「あった」の割合  
(世帯タイプ別)

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



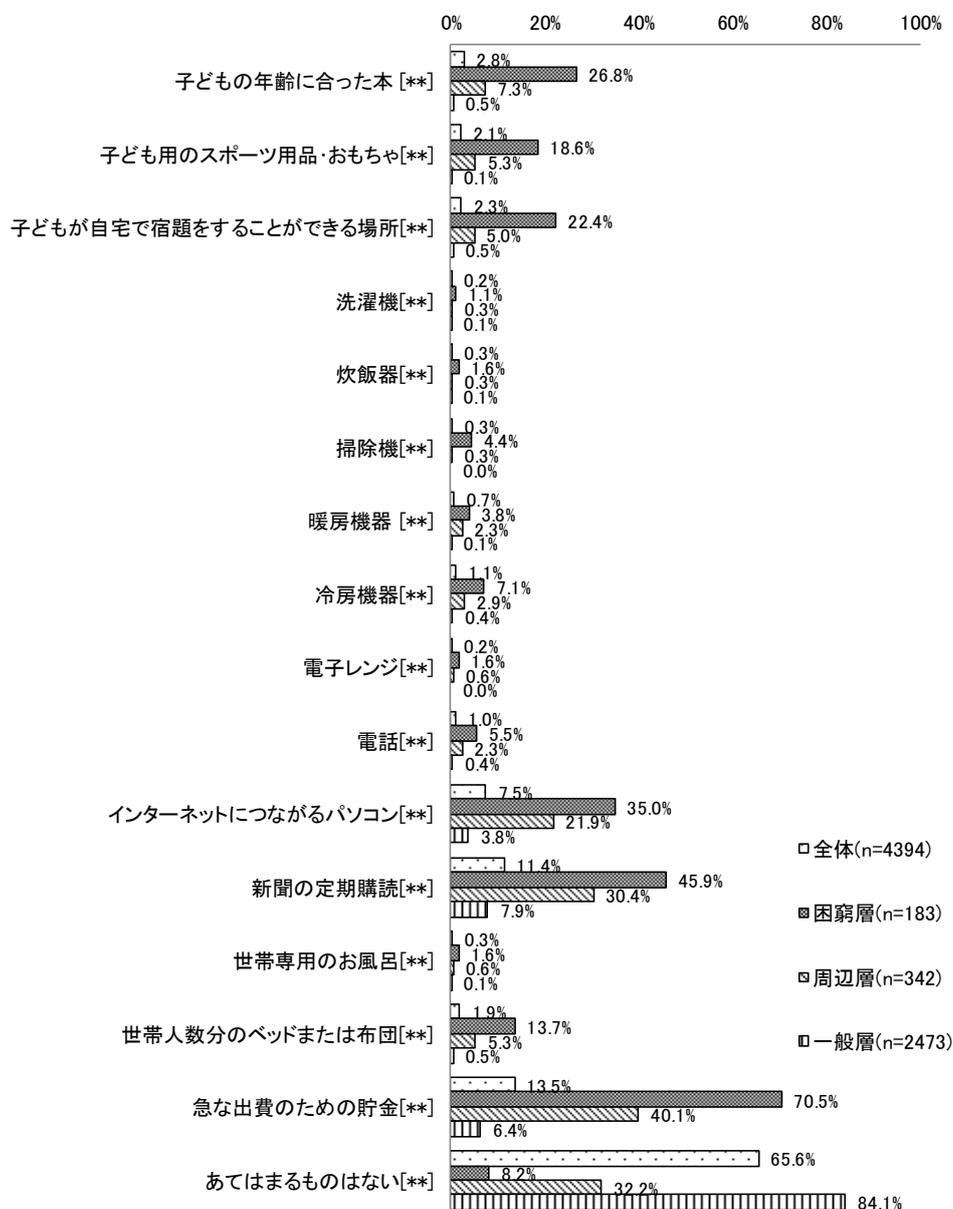
#### ④【保護者】Q25 経済的理由でないもの

小学生保護者の「全体」では、「あてはまるものはない」が65.6%でもっとも割合が高く、次いで「急な出費のための貯金」が13.5%となっている。生活困難度別にみると、いずれの項目においても、統計的に有意な差がみられる。

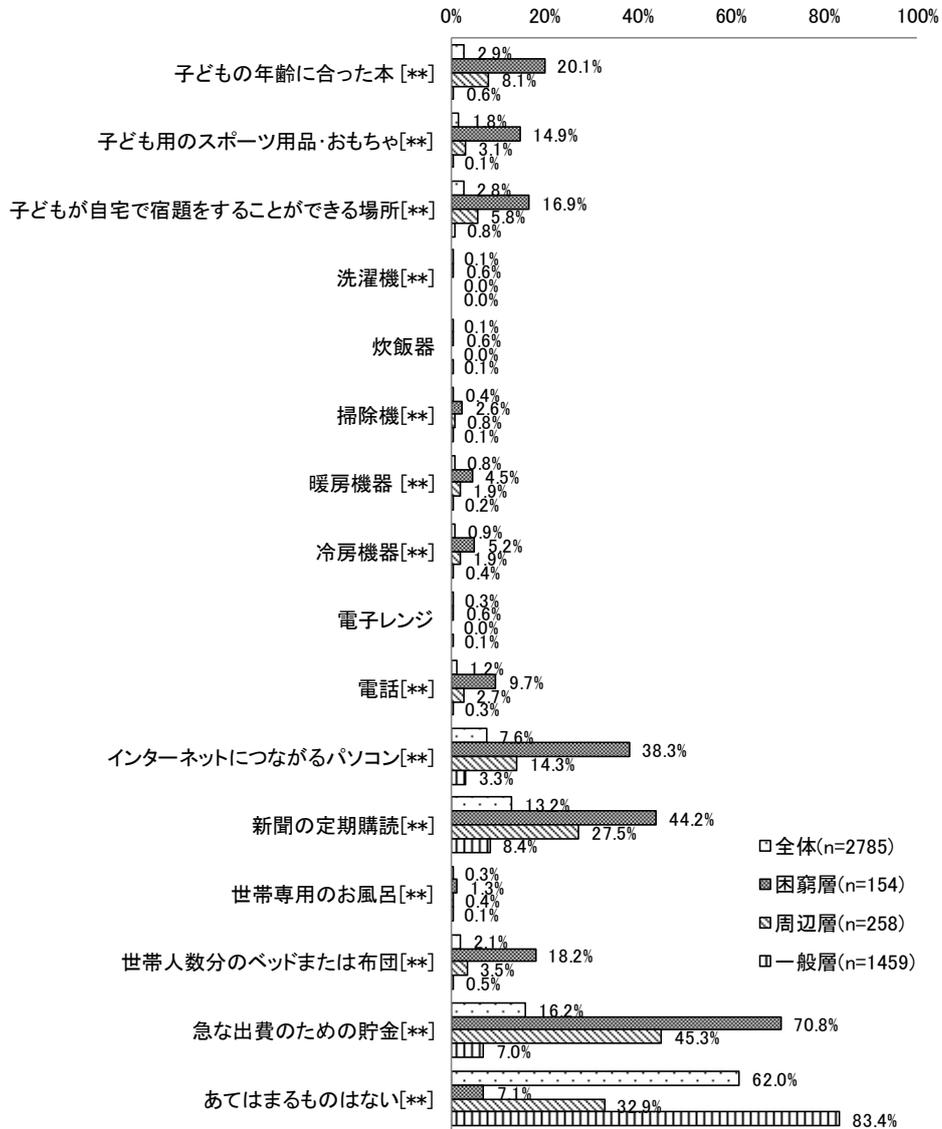
中学生保護者の「全体」では、「あてはまるものはない」が62.0%でもっとも割合が高く、次いで「急な出費のための貯金」が16.2%となっている。生活困難度別にみると、「炊飯器」「電子レンジ」を除いたいずれの項目においても、統計的に有意な差がみられる。

図表 59 【保護者】Q25 経済的理由でないもの:複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



<中学生保護者>

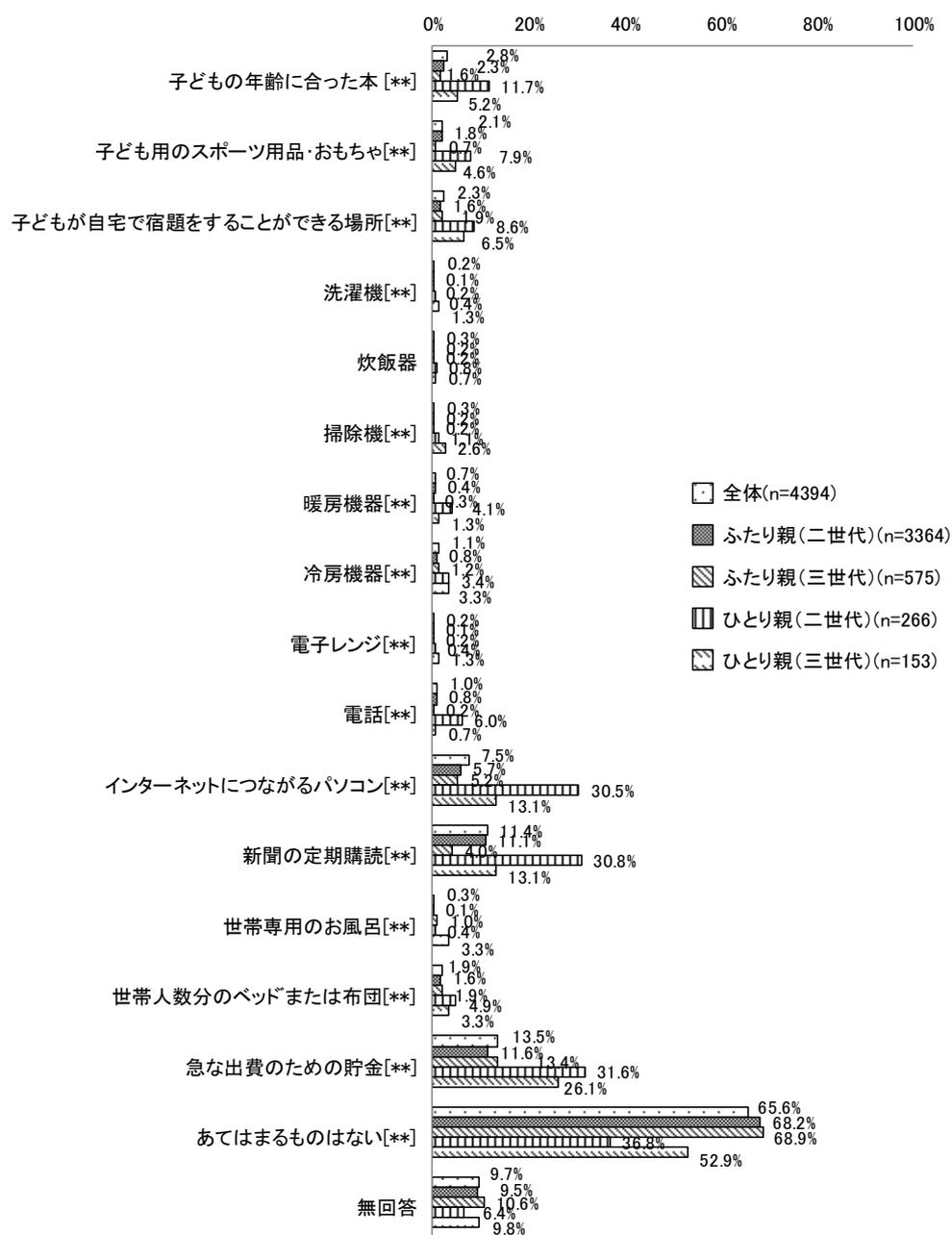


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「炊飯器」を除いたいずれの項目についても統計的に有意な差がみられ、多くの項目で「ひとり親（二世帯）」において高い割合となっている。

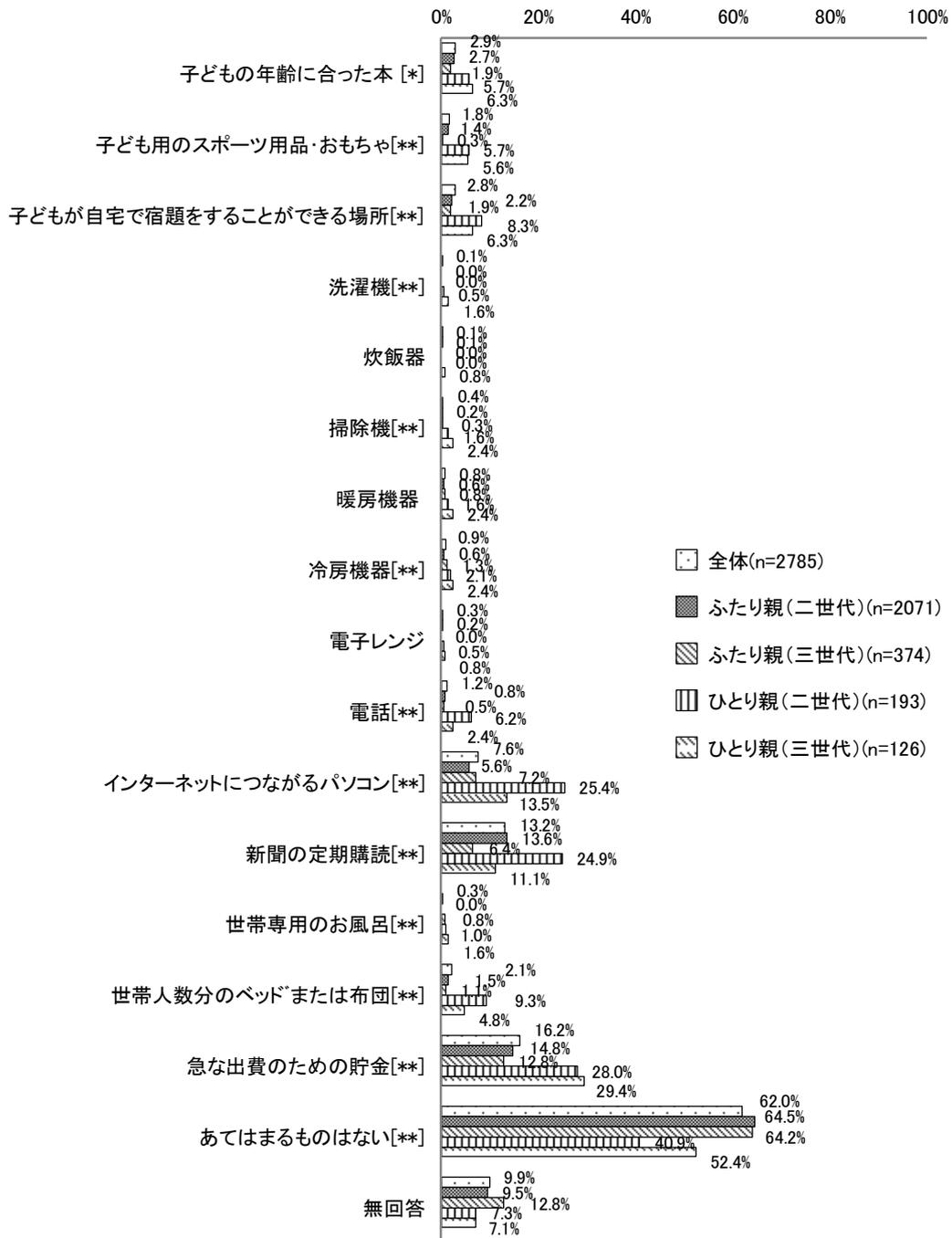
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「炊飯器」「暖房機器」「電子レンジ」を除いたいずれの項目についても、統計的に有意な差がみられる。

図表 60 【保護者】Q25 経済的理由でないもの:複数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者>



<中学生保護者>



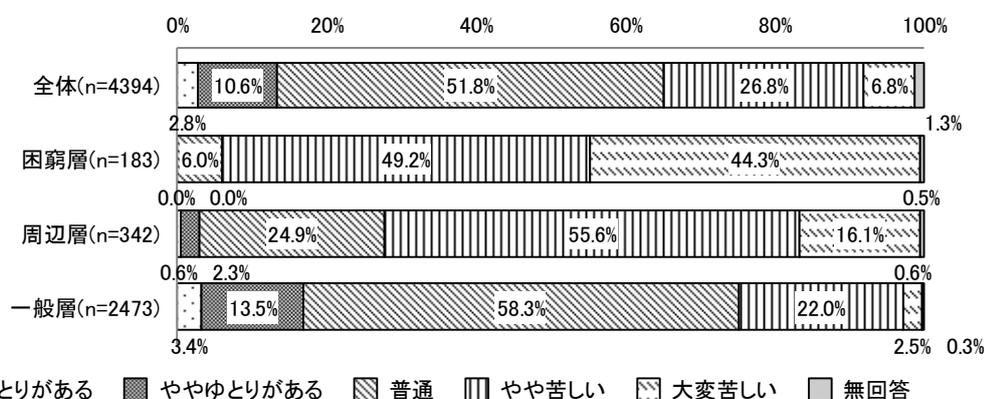
⑤【保護者】Q26 現在の暮らしの状況について

小学生保護者の「全体」では、「普通」が51.8%でもっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が26.8%となっている。生活困難度別にみると、「普通」の割合は、一般層（58.3%）、周辺層（24.9%）、困窮層（6.0%）の順に高い。

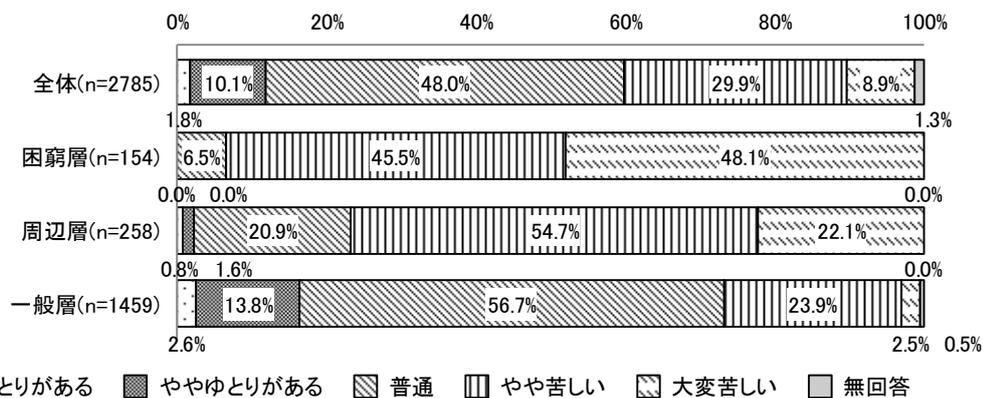
中学生保護者「全体」では、「普通」が48.0%でもっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が29.9%となっている。生活困難度別にみると、「普通」の割合は、一般層（56.7%）、周辺層（20.9%）、困窮層（6.5%）の順に高い。

図表 61 【保護者】Q26 現在の暮らしの状況について:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

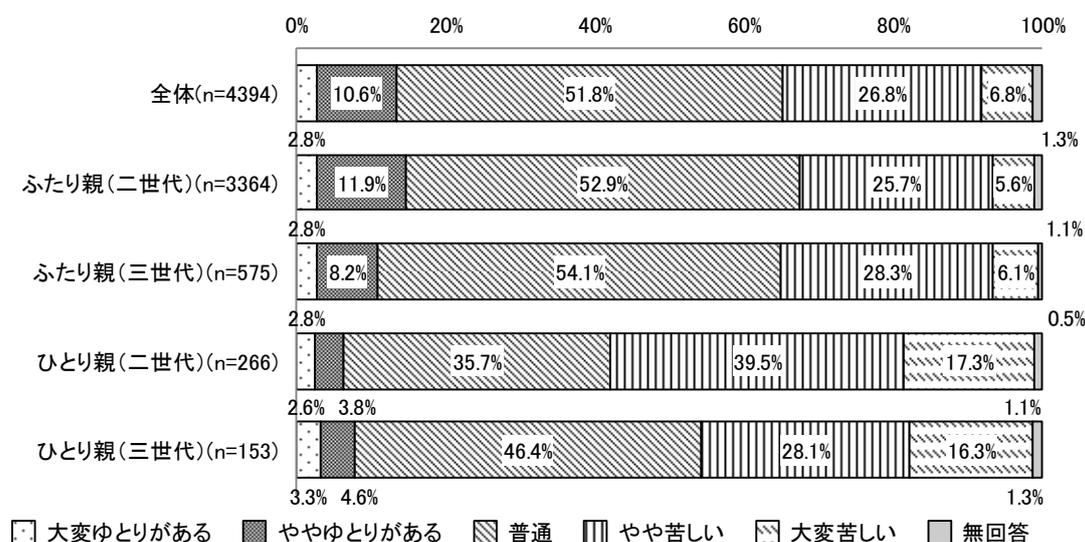


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大変苦しい」の割合は、ひとり親（二世帯）（17.3%）、ひとり親（三世帯）（16.3%）、ふたり親（三世帯）（6.1%）、ふたり親（二世帯）（5.6%）の順に高い。

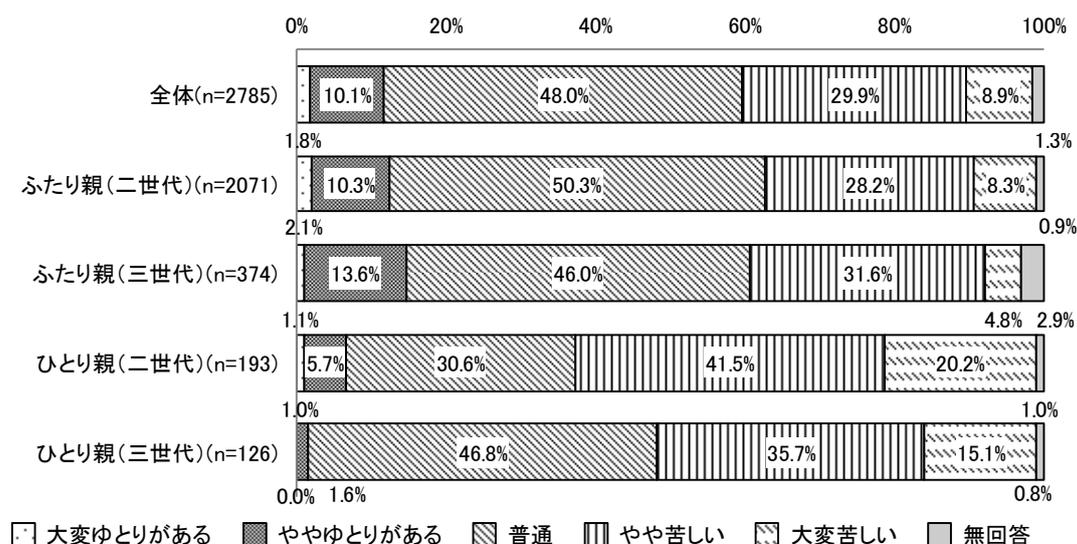
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大変苦しい」の割合は、ひとり親（二世帯）（20.2%）、ひとり親（三世帯）（15.1%）、ふたり親（二世帯）（8.3%）、ふたり親（三世帯）（4.8%）の順に高い。

図表 62 【保護者】 Q26 現在の暮らしの状況について:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



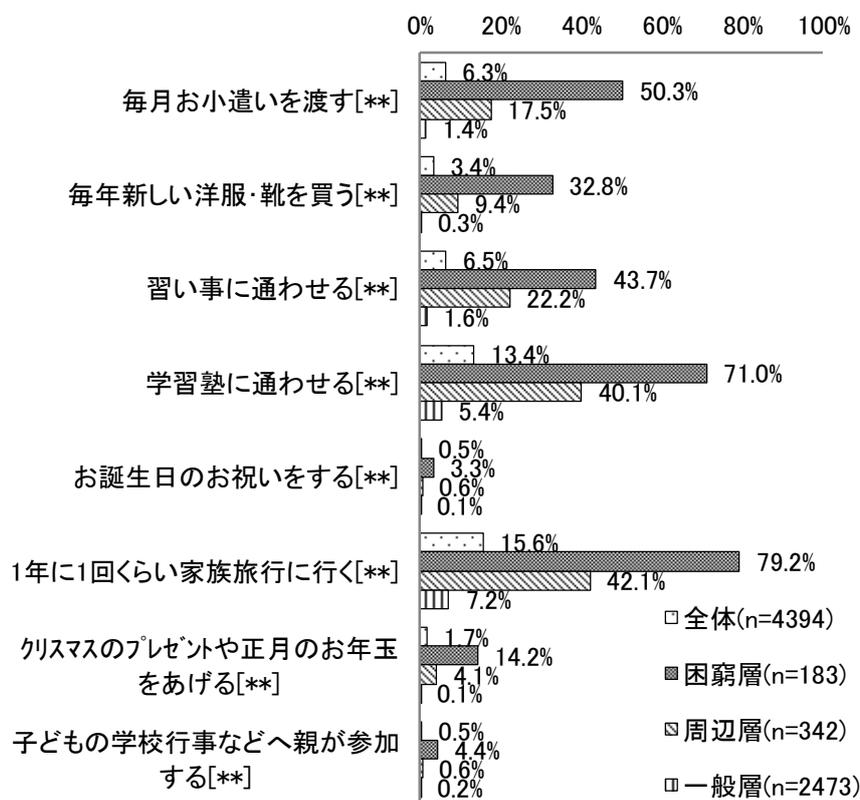
#### (4) 子どもの生活水準

##### ①【保護者】Q41 子どもへの支出

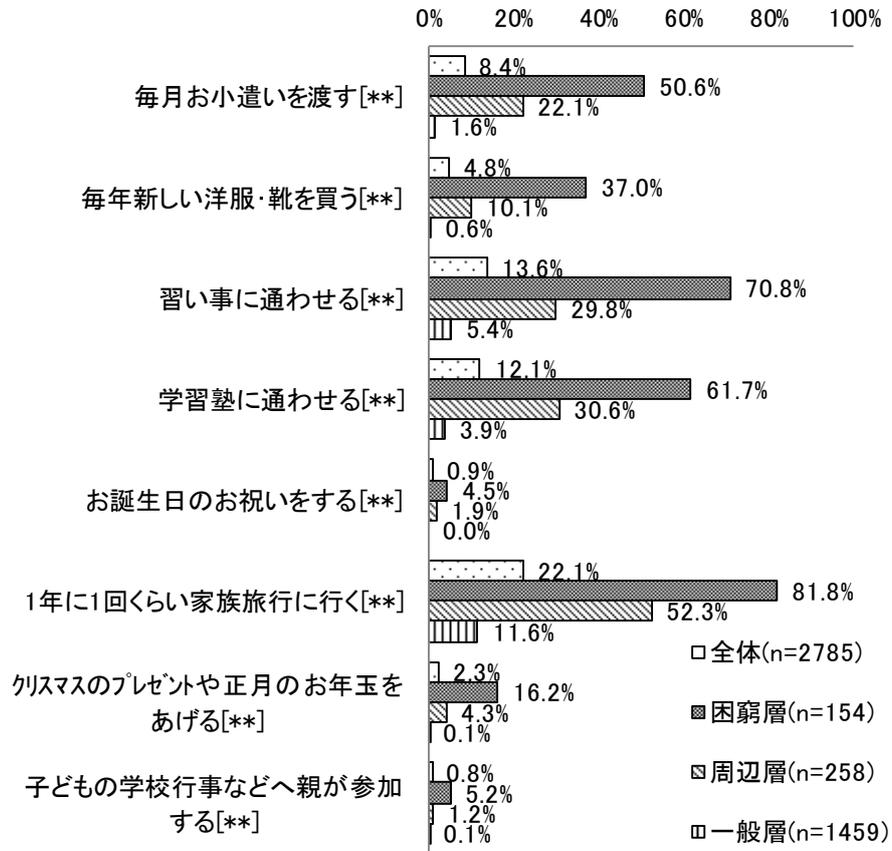
小学生保護者の「全体」では、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が15.6%でもっとも割合が高く、次いで「学習塾に通わせる」が13.4%となっている。生活困難度別にみると、いずれの項目においても、統計的に有意な差がみられる。

中学生保護者の「全体」では、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が22.1%でもっとも割合が高く、次いで「習い事に通わせる」が13.6%となっている。生活困難度別にみると、いずれの項目においても、統計的に有意な差がみられる。

図表 63 【保護者】Q41 子どもへの支出\_「経済的にできない」の割合（生活困難度別）  
 <小学生保護者>

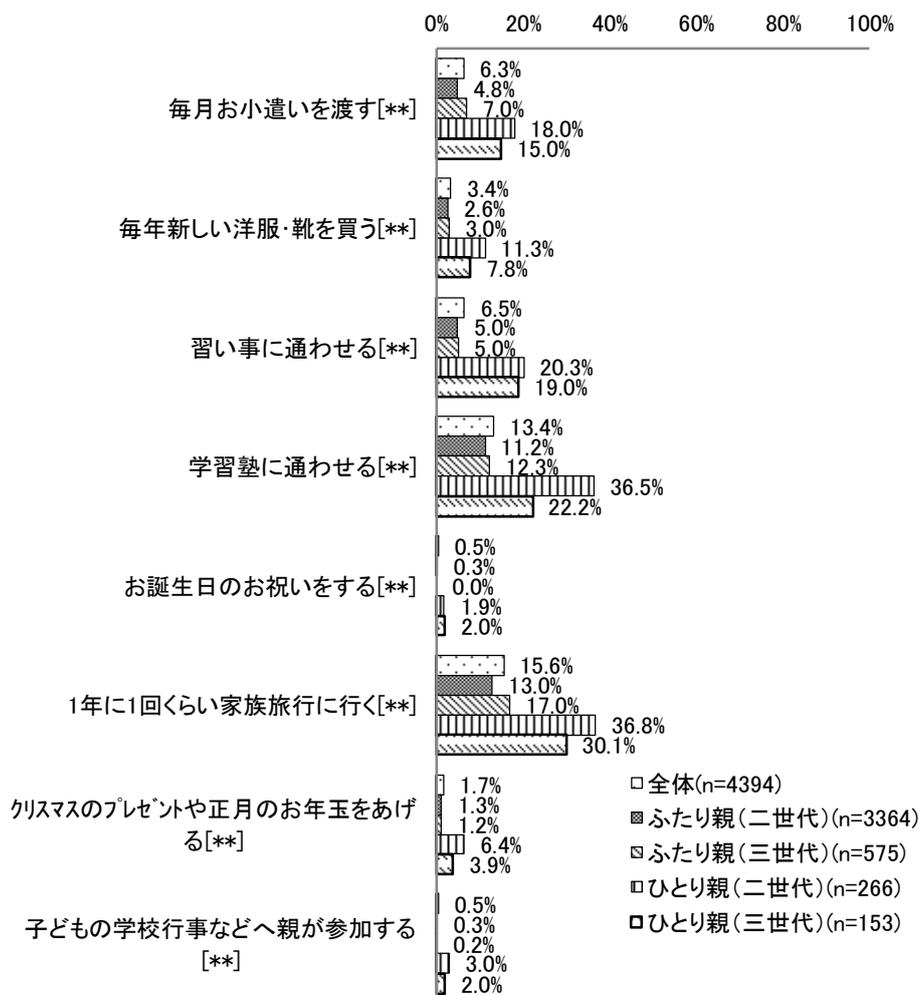


< 中学生保護者 >

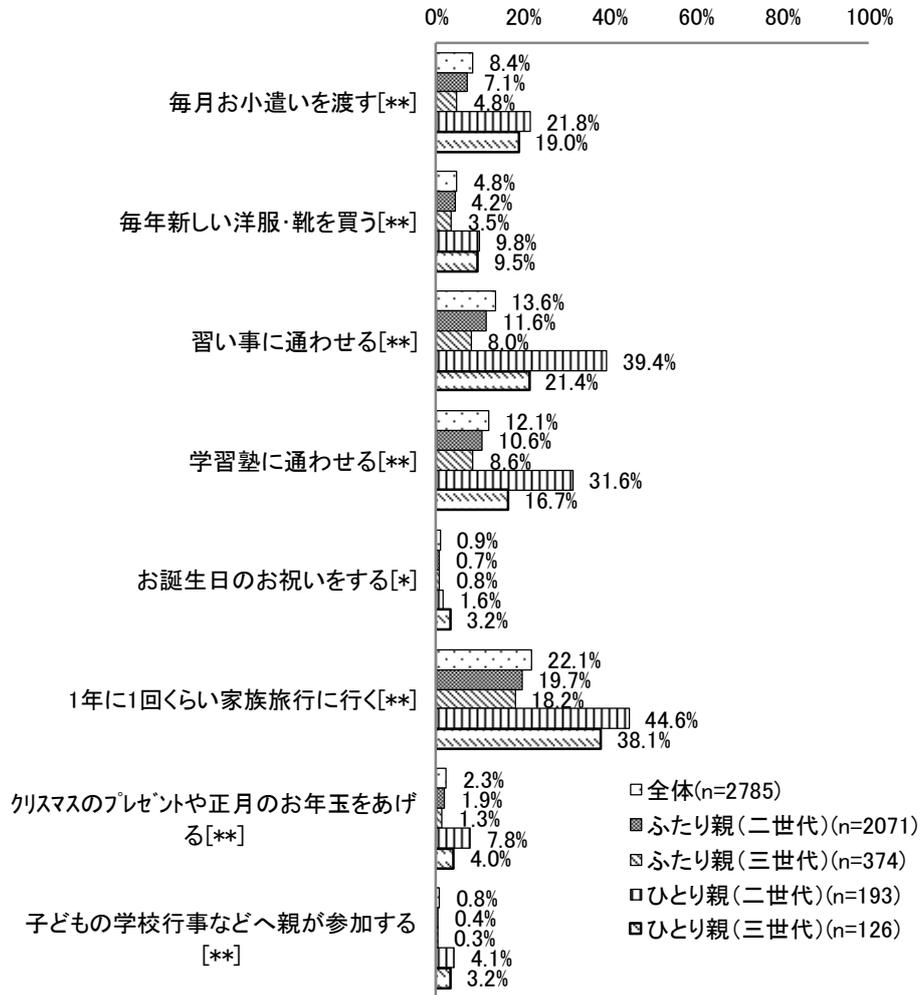


世帯タイプ別にみると、小学生・中学生保護者とも、いずれの項目についても統計的に有意な差がみられる。

図表 64 【保護者】Q41 子どもへの支出\_「経済的にできない」の割合（世帯タイプ別）  
 <小学生保護者>



< 中学生保護者 >



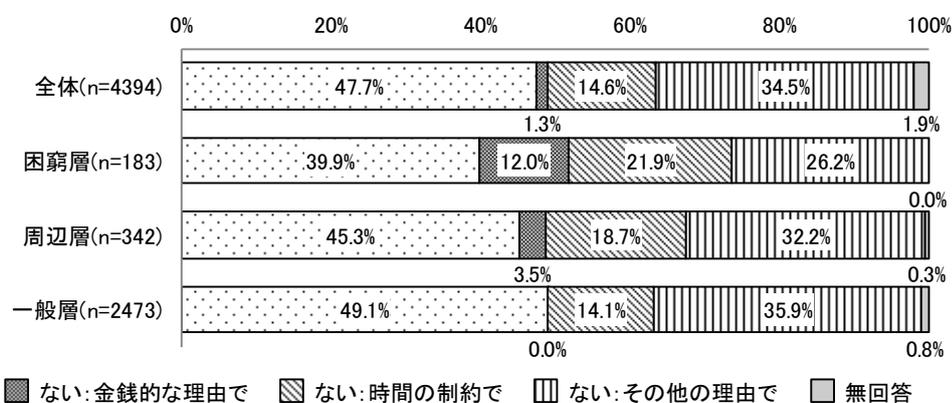
②【保護者】Q42-1 過去1年の体験\_海水浴に行く

小学生保護者の「全体」では、「ある」が47.7%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が34.5%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（12.0%）、周辺層（3.5%）、一般層（0.0%）の順に高い。

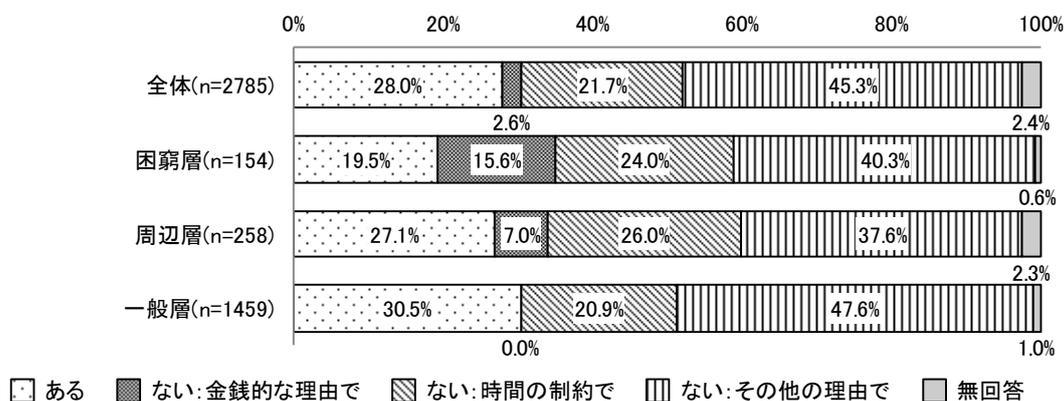
中学生保護者の「全体」では、「ない：その他の理由で」が45.3%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が28.0%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（15.6%）、周辺層（7.0%）、一般層（0.0%）の順に高い。

図表 65 【保護者】Q42-1 過去1年の体験\_海水浴に行く:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



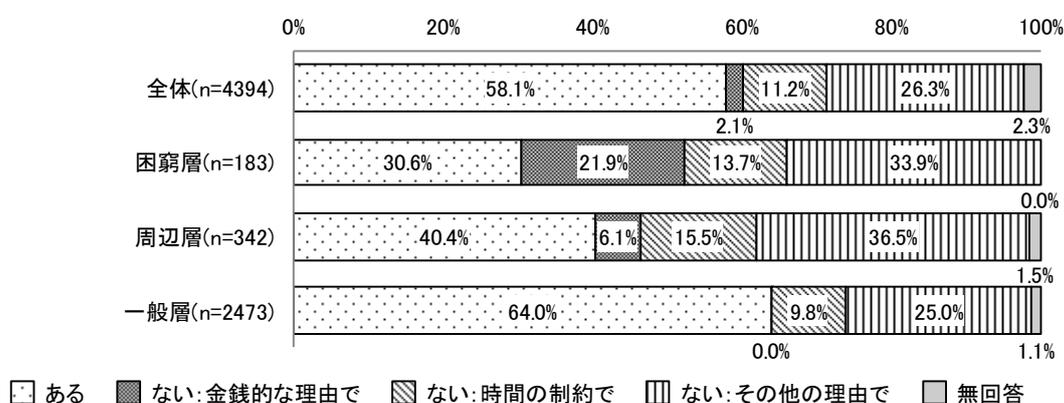
③【保護者】Q42-2 過去1年の体験\_博物館・科学館・美術館などに行く

小学生保護者の「全体」では、「ある」が58.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が26.3%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（21.9%）、周辺層（6.1%）、一般層（0.0%）の順に高い。

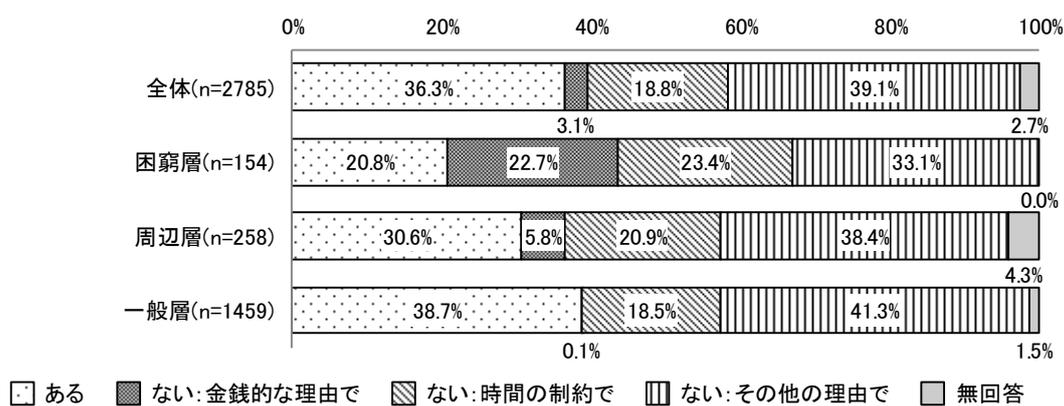
中学生保護者の「全体」では、「ない：その他の理由で」が39.1%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が36.3%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（22.7%）、周辺層（5.8%）、一般層（0.1%）の順に高い。

図表 66 【保護者】Q42-2 過去1年の体験\_博物館・科学館・美術館などに行く:単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



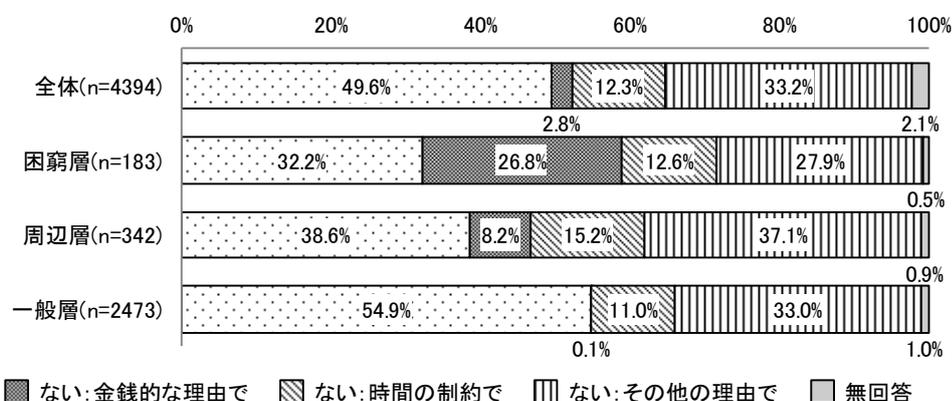
④【保護者】Q42-3 過去1年の体験\_キャンプやバーベキューに行く

小学生保護者の「全体」では、「ある」が49.6%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が33.2%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（26.8%）、周辺層（8.2%）、一般層（0.1%）の順に高い。

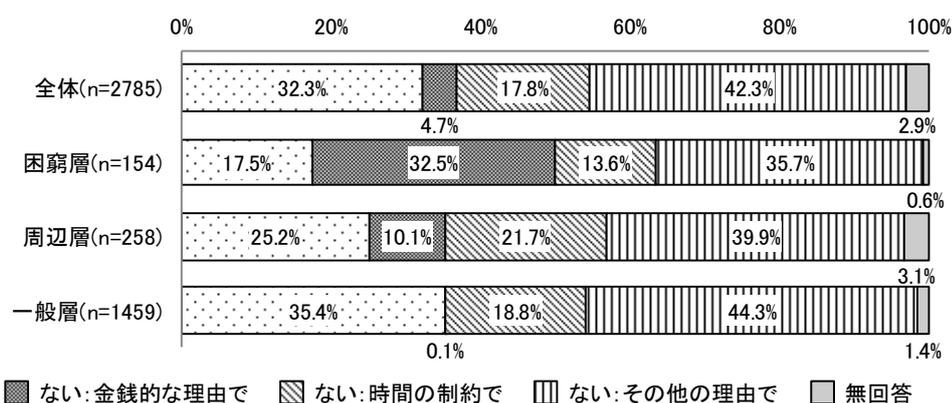
中学生保護者の「全体」では、「ない：その他の理由で」が42.3%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が32.3%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（32.5%）、周辺層（10.1%）、一般層（18.8%）の順に高い。

図表 67 【保護者】Q42-3 過去1年の体験\_キャンプやバーベキューに行く:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



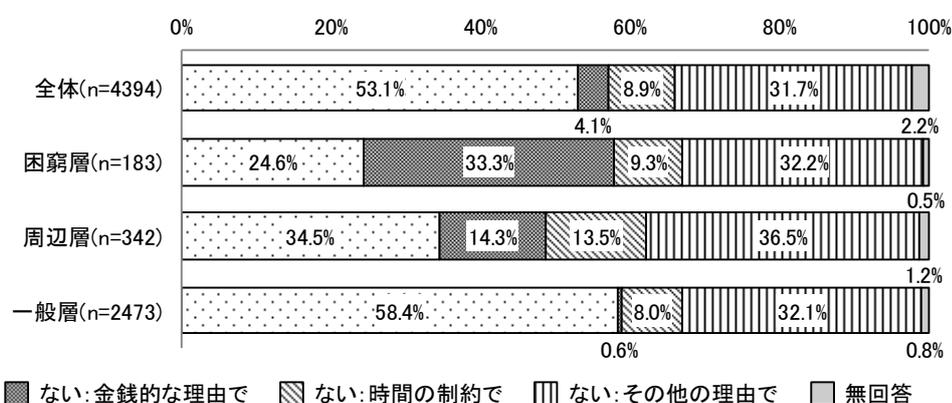
⑤【保護者】Q42-4 過去1年の体験\_スポーツ観戦や劇場に行く

小学生保護者の「全体」では、「ある」が53.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が31.7%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（33.3%）、周辺層（14.3%）、一般層（0.6%）の順に高い。

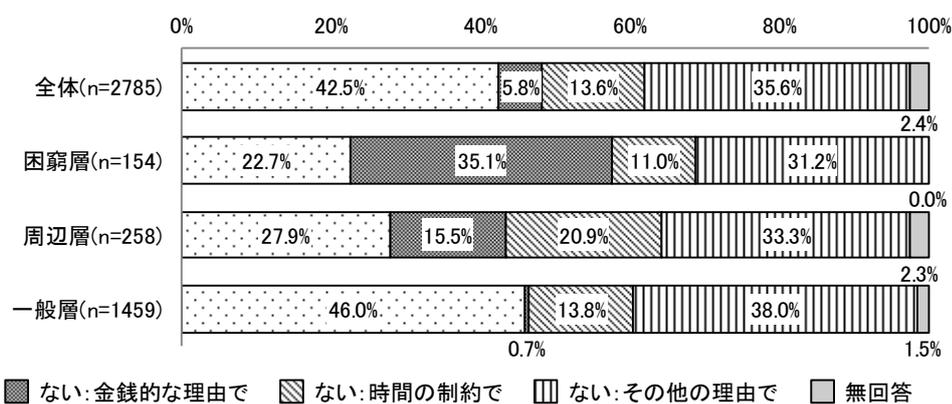
中学生保護者の「全体」では、「ある」が42.5%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が35.6%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（35.1%）、周辺層（15.5%）、一般層（0.7%）の順に高い。

図表 68 【保護者】Q42-4 過去1年の体験\_スポーツ観戦や劇場に行く：単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



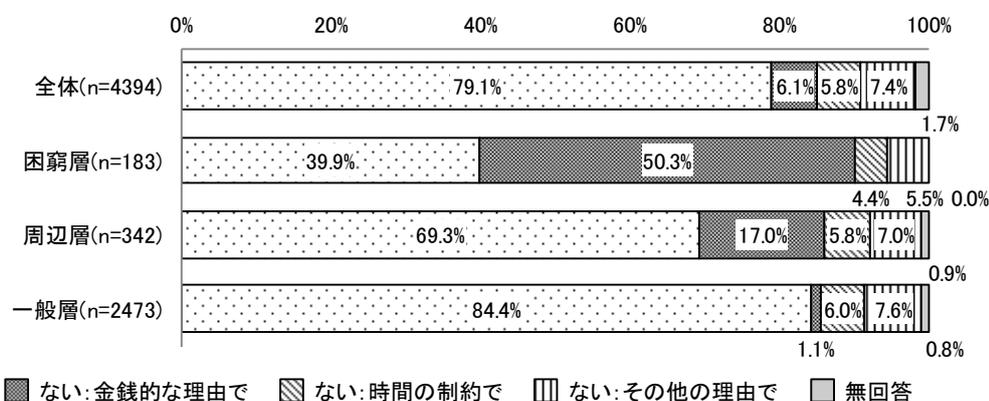
⑥【保護者】Q42-5 過去1年の体験\_遊園地やテーマパークに行く

小学生保護者の「全体」では、「ある」が79.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が7.4%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（50.3%）、周辺層（17.0%）、一般層（1.1%）の順に高い。

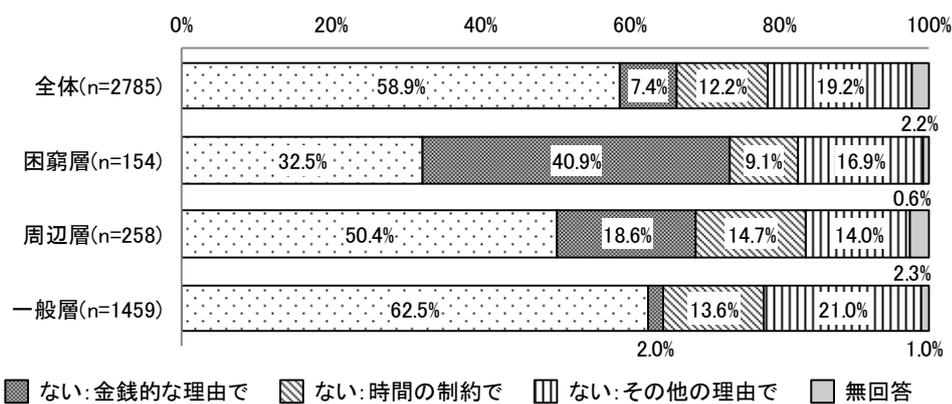
中学生保護者の「全体」では、「ある」が58.9%でもっとも割合が高く、次いで「ない：その他の理由で」が19.2%となっている。生活困難度別にみると、「ない：金銭的な理由で」の割合は、困窮層（40.9%）、周辺層（18.6%）、一般層（2.0%）の順に高い。

図表 69 【保護者】Q42-5 過去1年の体験\_遊園地やテーマパークに行く:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



(5) 10年前の暮らし向き

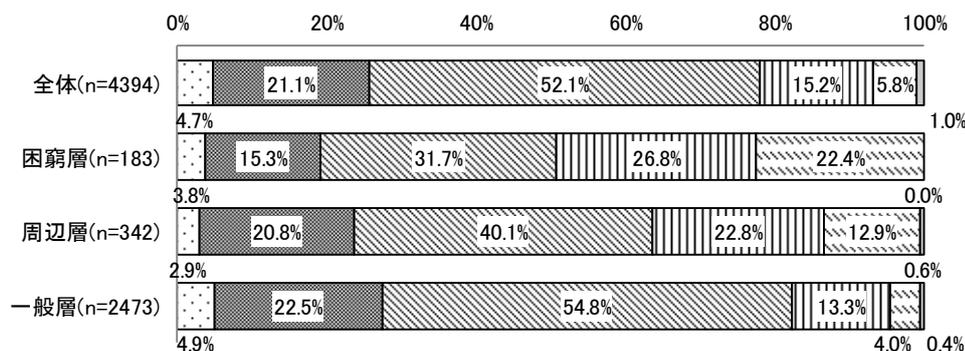
①【保護者】Q50 今から10年前のあなたの家庭の暮らし向き

小学生保護者の「全体」では、「普通」が52.1%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が21.1%となっている。生活困難度別にみると、「普通」の割合は、一般層(54.8%)、周辺層(40.1%)、困窮層(31.7%)の順に高い。

中学生保護者の「全体」では、「普通」が53.2%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が18.3%となっている。生活困難度別にみると、「普通」の割合は、一般層(57.0%)、周辺層(38.8%)、困窮層(29.9%)の順に高い。

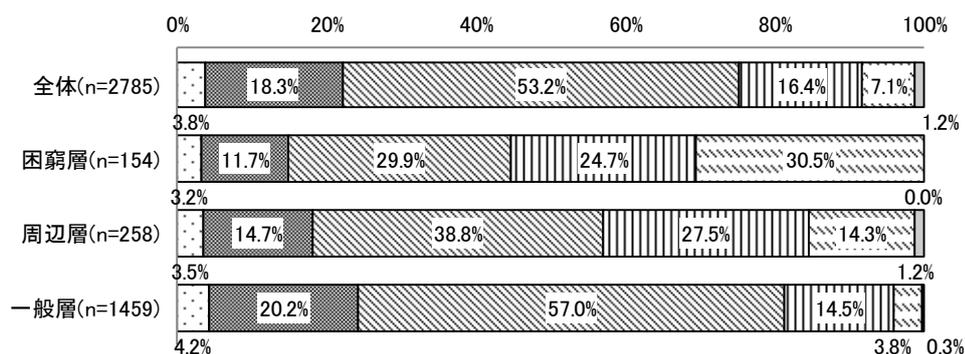
図表 70 【保護者】Q50 今から10年前のあなたの家庭の暮らし向き:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



□ 大変ゆとりがあった ■ ややゆとりがあった ▨ 普通 ▩ やや苦しかった ▩ 大変苦しかった □ 無回答

<中学生保護者> (p<.01)



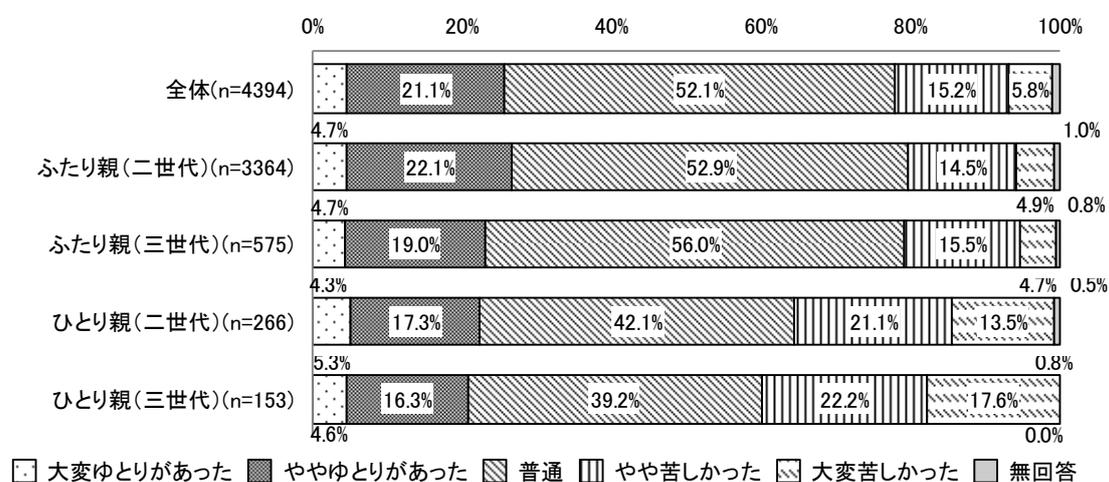
□ 大変ゆとりがあった ■ ややゆとりがあった ▨ 普通 ▩ やや苦しかった ▩ 大変苦しかった □ 無回答

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大変苦しかった」の割合は、ひとり親(三世代) (17.6%)、ひとり親(二世帯) (13.5%)、ふたり親(二世帯) (4.9%)、ふたり親(三世代) (4.7%) の順に高い。

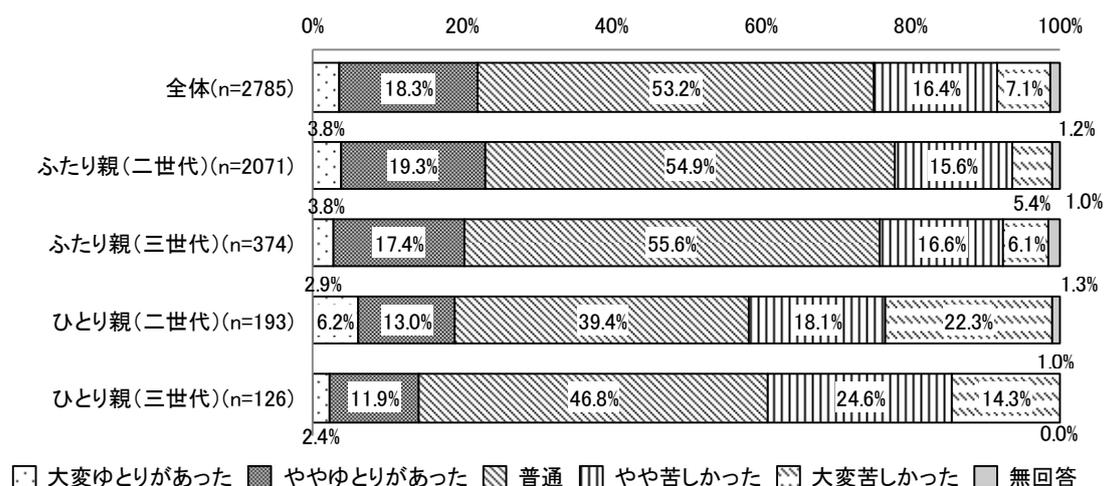
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大変苦しかった」の割合は、ひとり親(二世帯) (22.3%)、ひとり親(三世代) (14.3%)、ふたり親(三世代) (6.1%)、ふたり親(二世帯) (5.4%) の順に高い。

図表 71 【保護者】 Q50 今から 10 年前のあなたの家庭の暮らし向き:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



#### 4. 子どもの生活の状況

##### (1) 人間関係

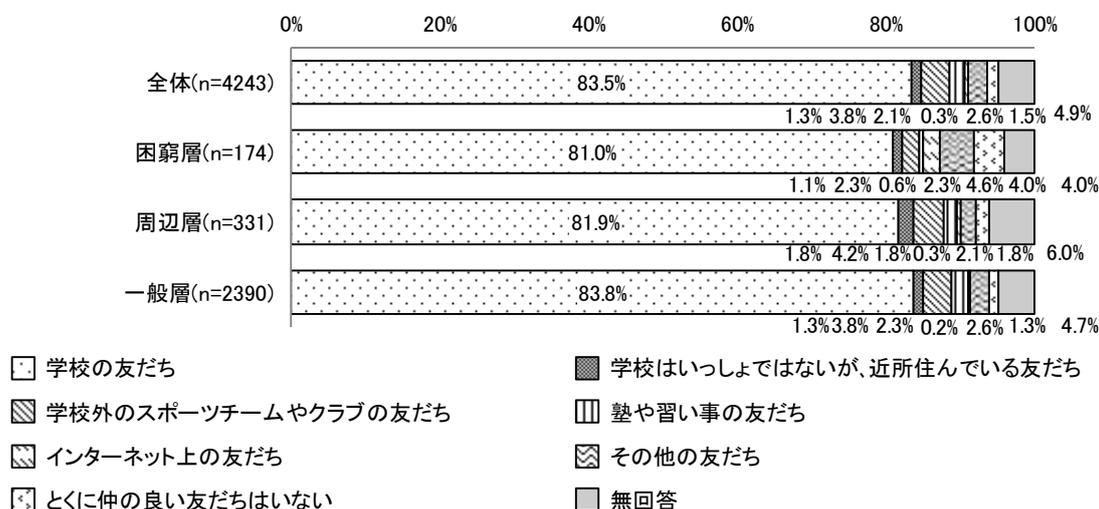
##### ①【子ども】Q8 一番仲が良い友だち

小学生の「全体」では、「学校の友だち」が83.5%でもっとも割合が高く、次いで「学校外のスポーツチームやクラブの友だち」が3.8%となっている。生活困難度別にみると、「学校の友だち」の割合は、一般層(83.8%)、周辺層(81.9%)、困窮層(81.0%)の順に高い。

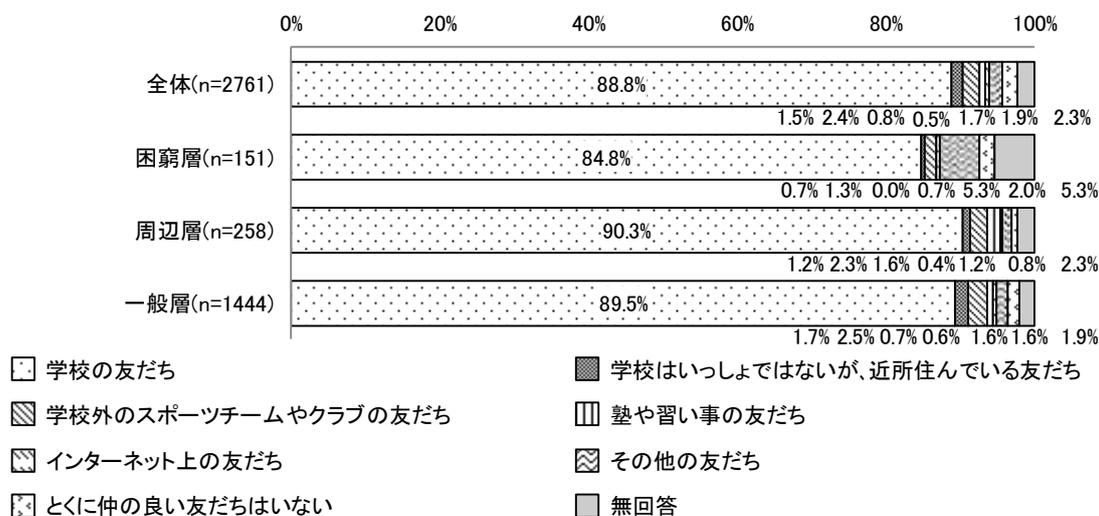
中学生の「全体」では、「学校の友だち」が88.8%でもっとも割合が高く、次いで「学校外のスポーツチームやクラブの友だち」が2.4%となっている。生活困難度別にみると、有意な差はみられない。

図表 72 【子ども】Q8 一番仲が良い友だち:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



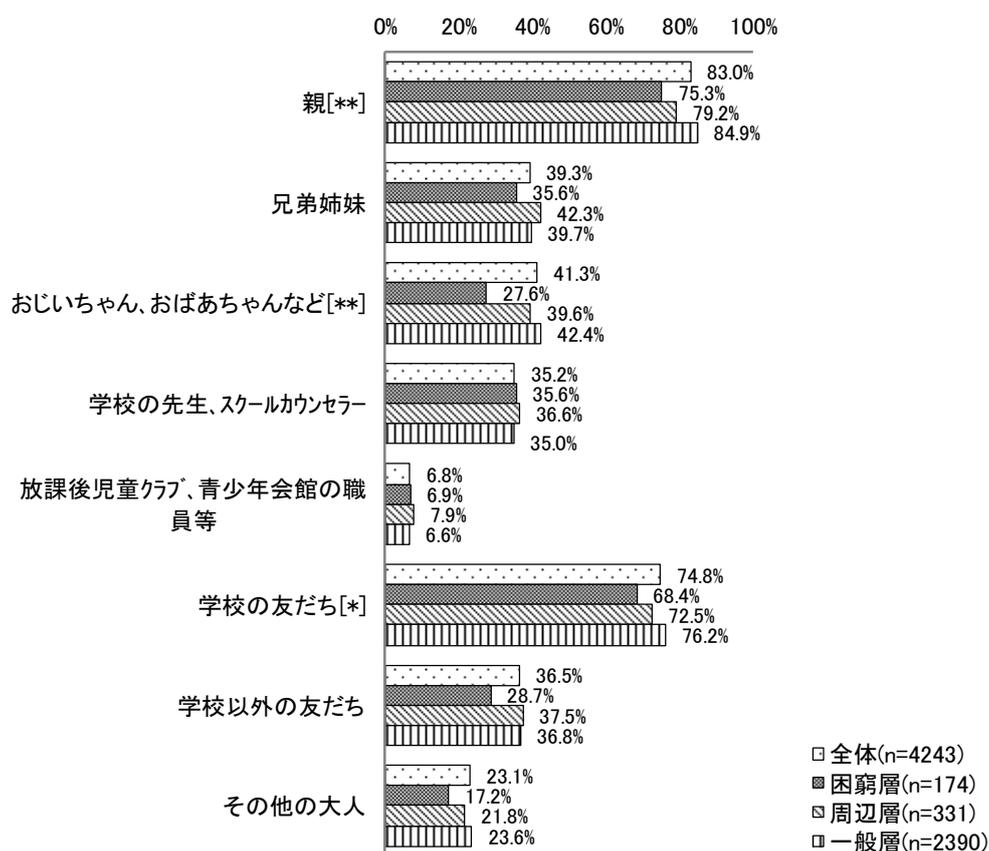
②【子ども】Q9 楽しいこと、困っていること等を話す頻度

「よく話す」「時々話す」を合計した割合をみると、小学生の「全体」では、「親」が83.0%でもっとも高く、次いで「学校の友だち」が74.8%となっている。生活困難度別にみると、「親」「おじいちゃん、おばあちゃんなど」「学校の友だち」について、統計的に有意な差がみられる。

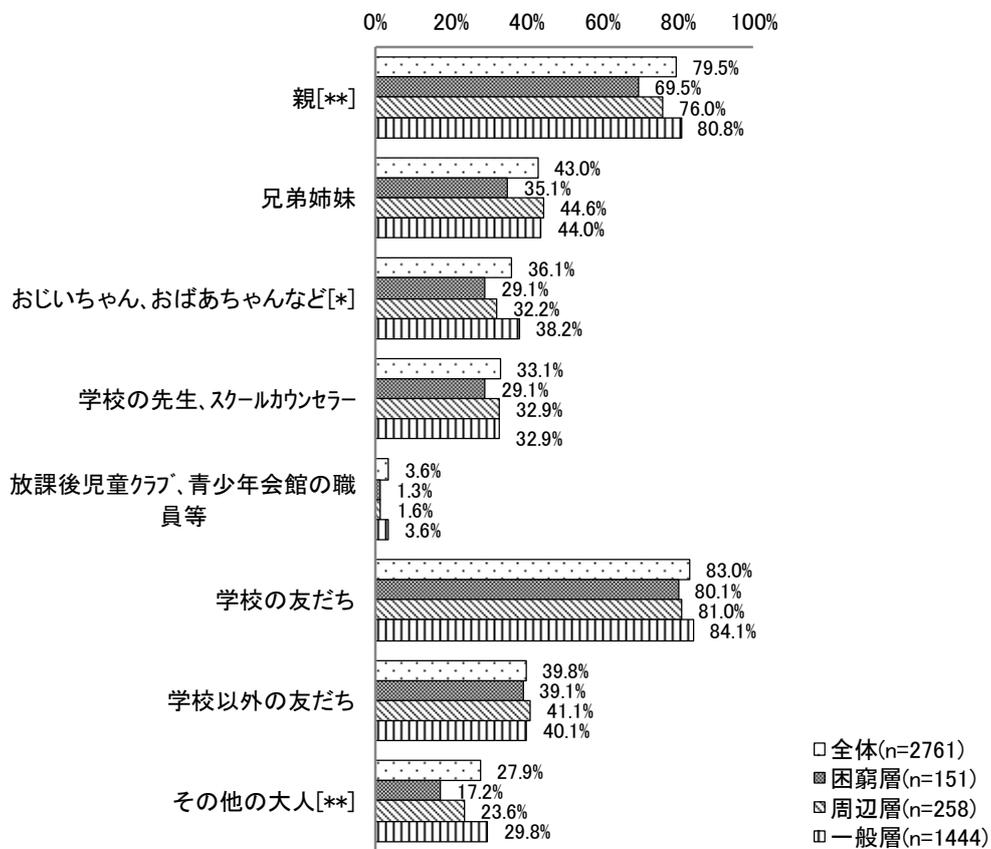
中学生の「全体」では、「学校の友だち」が83.0%ともっとも高く、次いで「親」が79.5%となっている。生活困難度別にみると、「親」「おじいちゃん、おばあちゃんなど」「その他の大人」について統計的に有意な差がみられる。

図表 73 【子ども】Q9-1 楽しいこと、困っていること等を話す頻度  
「よく話す」＋「時々話す」の割合（生活困難度別）

<小学生>



<中学生>



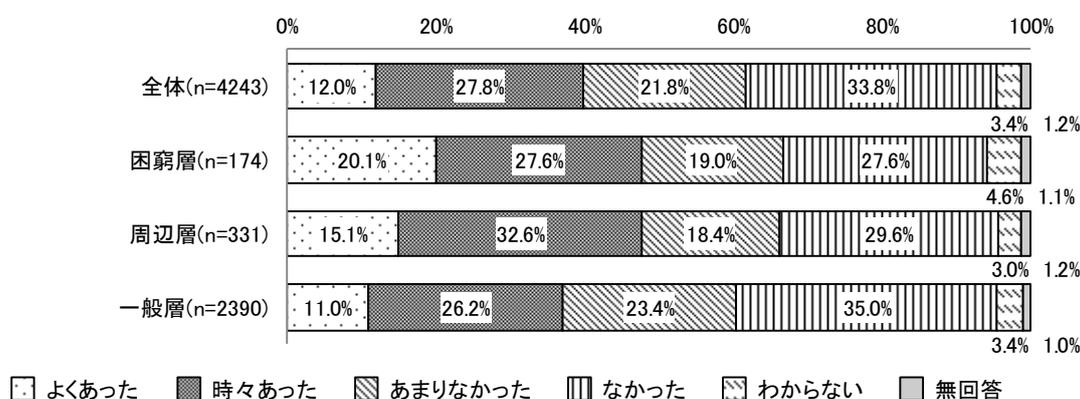
(2) いじめ・不登校の悩み

①【子ども】Q10 いじめ・不登校の悩み

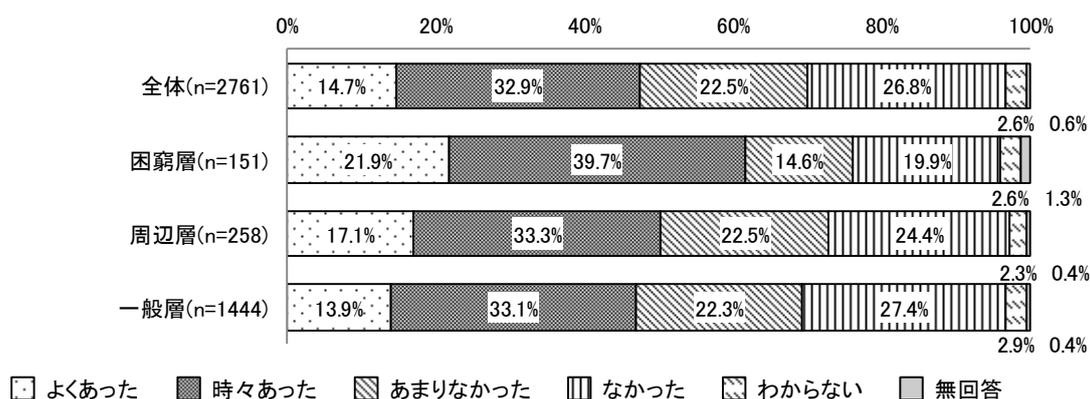
小学生の「全体」では、「なかった」が33.8%でもっとも割合が高く、次いで「時々あった」が27.8%となっている。生活困難度別にみると、「よくあった」の割合が困窮層(20.1%)、周辺層(15.1%)、一般層(11.0%)の順に高い。

中学生の「全体」では、「時々あった」が32.9%でもっとも割合が高く、次いで「なかった」が26.8%となっている。生活困難度別にみると、「よくあった」の回答割合が困窮層(21.9%)、周辺層(17.1%)、一般層(13.9%)の順に高い。

図表 74 【子ども】Q10-1 学校に行きたくないと考えたこと:単数回答(生活困難度別)  
 <小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



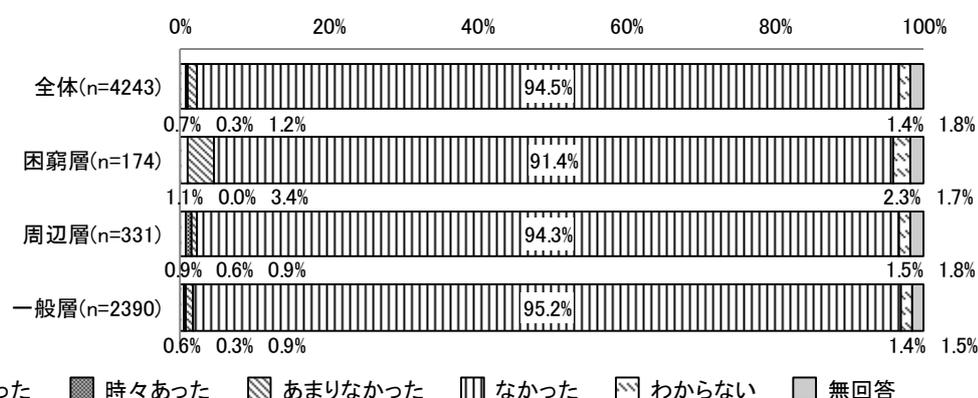
②【子ども】Q10-2 1か月以上学校を休んだこと

小学生の「全体」では、「なかった」が94.5%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が1.4%となっている。生活困難度別にみると統計的に有意な差はみられない。

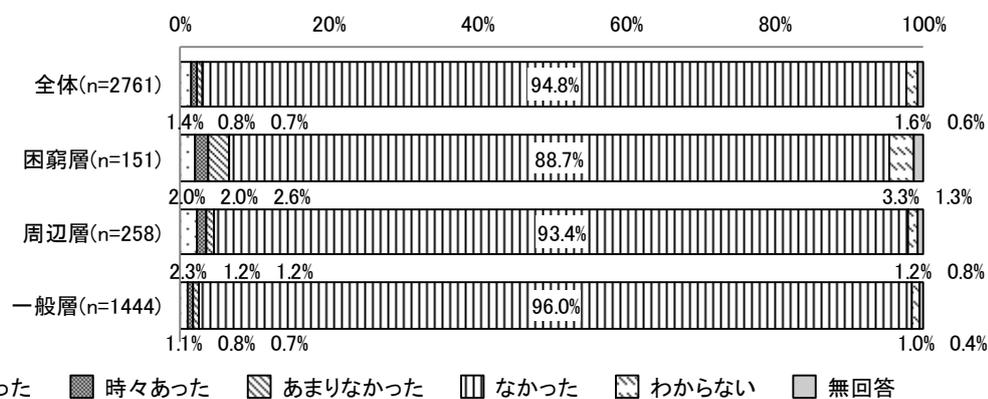
中学生の「全体」では、「なかった」が94.8%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が1.6%となっている。生活困難度別にみると、「なかった」の割合が一般層（96.0%）、周辺層（93.4%）、困窮層（88.7%）の順に高い。

図表 75 【子ども】Q10-2 1か月以上学校を休んだこと:単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（p<.05）



### ③【子ども】Q10-3 いじめられたこと

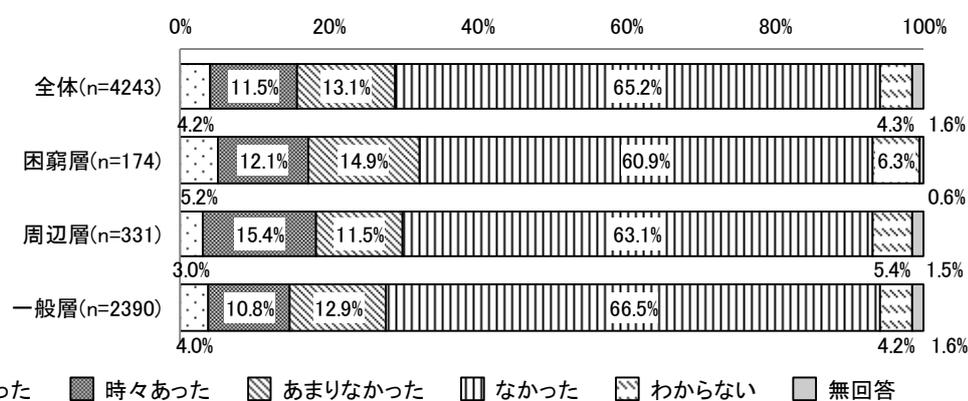
小学生の「全体」では、「なかった」が65.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が13.1%となっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が74.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が9.6%となっている。

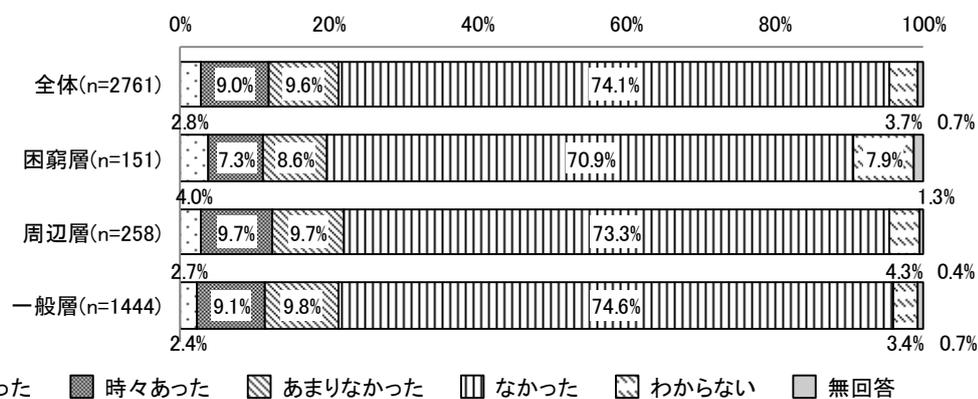
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 76 【子ども】Q10-3 いじめられたこと:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



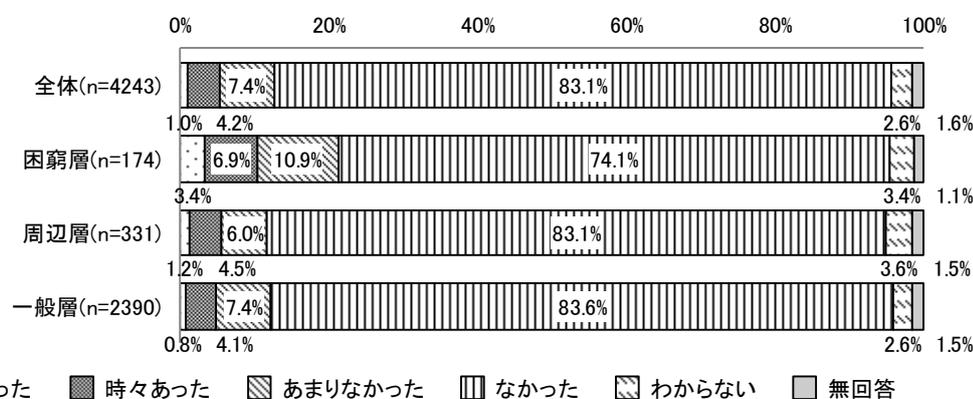
④【子ども】Q10-4 夜遅くまで子どもだけで過ごしたこと

小学生の「全体」では、「なかった」が83.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が7.4%となっている。生活困難度別にみると、「なかった」の割合が、一般層(83.6%)、周辺層(83.1%)、困窮層(74.1%)の順に高い。

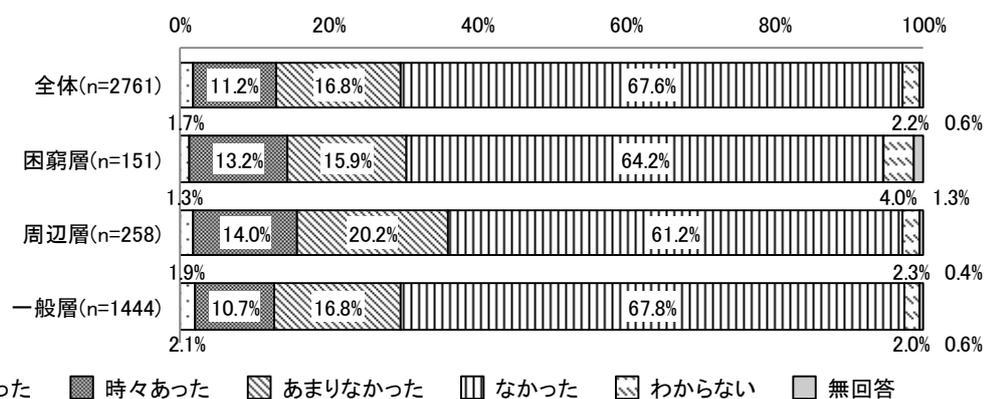
中学生の「全体」では、「なかった」が67.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が16.8%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 77 【子ども】Q10-4 夜遅くまで子どもだけで過ごしたこと:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



(3) 放課後・休日の過ごし方

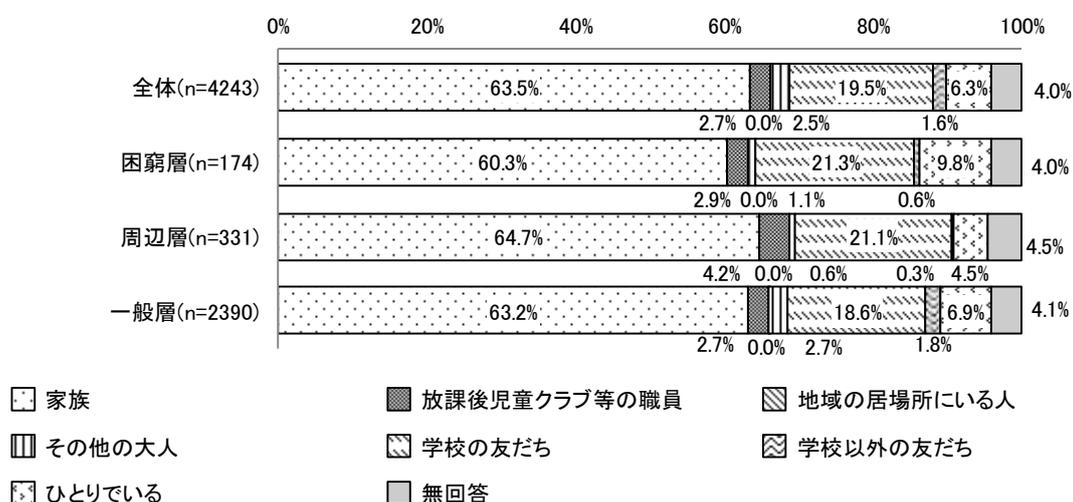
①【子ども】Q11 平日の放課後、一緒に過ごす時間が一番長い人

小学生の「全体」では、「家族」が63.5%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が19.5%となっている。生活困難度別にみると、「ひとりでのいる」の割合が困窮層(9.8%)、一般層(6.9%)、周辺層(4.5%)の順に高い。

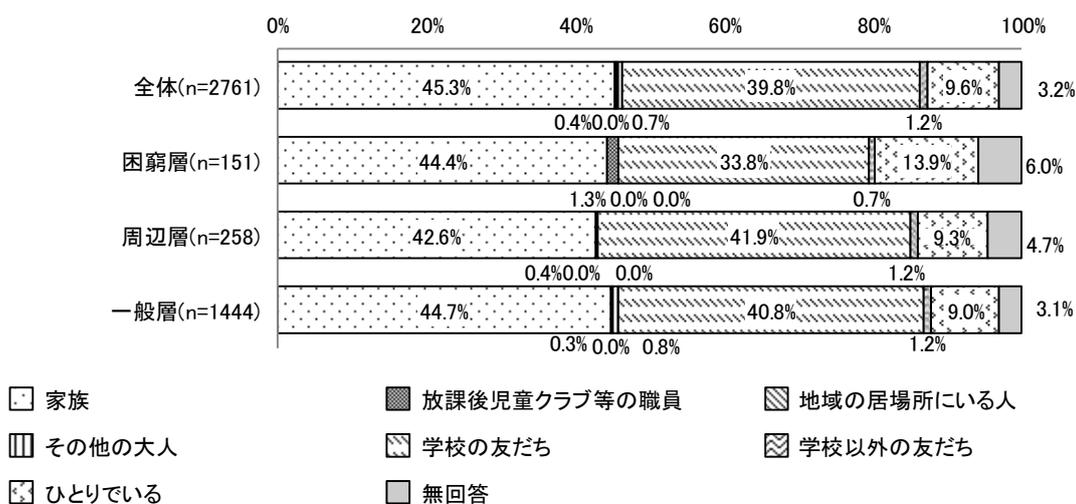
中学生の「全体」では、「家族」が45.3%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が39.8%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 78 【子ども】Q11 平日の放課後、一緒に過ごす時間が一番長い人:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.05)



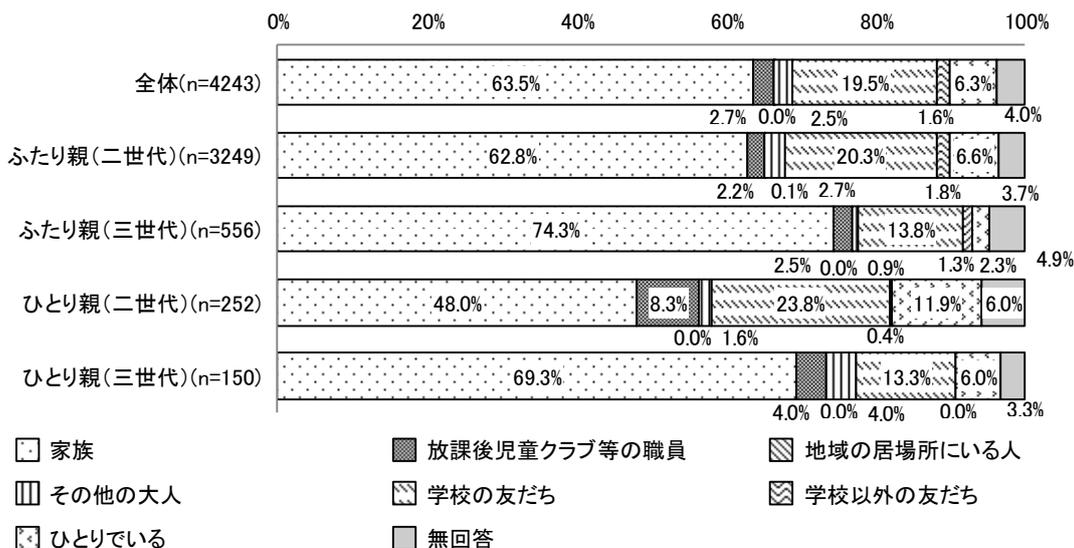
<中学生> (検定不可)



小学生について世帯タイプ別にみると、「ひとりである」の割合が、ひとり親（二世帯）（11.9%）、ふたり親（二世帯）（6.6%）、ひとり親（三世帯）（6.0%）、ふたり親（三世帯）（2.3%）の順に高い。

図表 79 【子ども】 Q11 平日の放課後、一緒に過ごす時間が一番長い人:単数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



※中学生は有意差なし

②【子ども】Q12-1 平日の放課後に過ごす日数\_自分の家

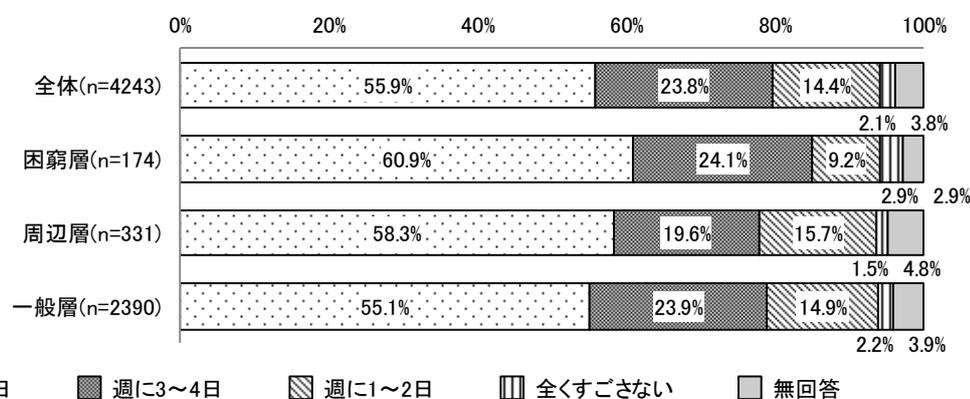
小学生の「全体」では、「毎日」が 55.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 日」が 23.8%となっている。

中学生の「全体」では、「毎日」が 56.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 19.2%となっている。

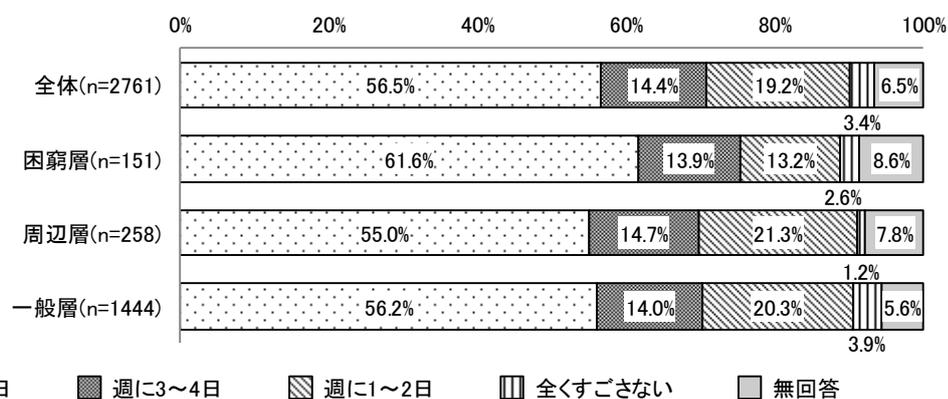
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 80 【子ども】Q12-1 平日の放課後に過ごす日数\_自分の家:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



③【子ども】Q12-2 平日の放課後に過ごす日数\_友だちの家

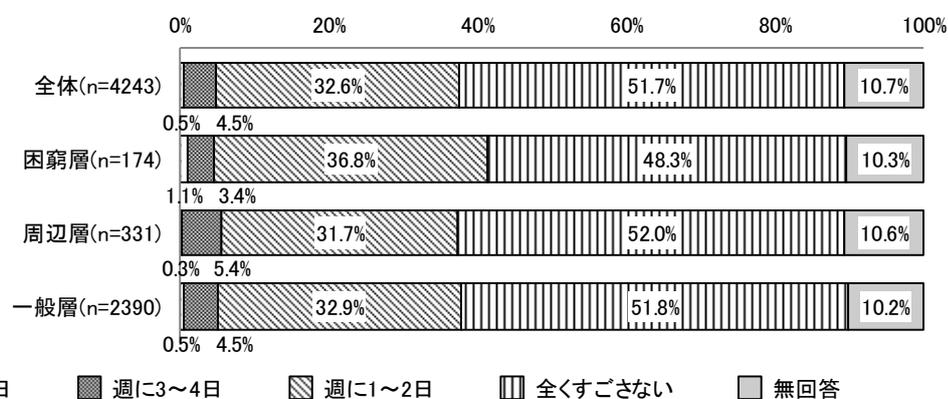
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が51.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が32.6%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が71.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が14.5%となっている。

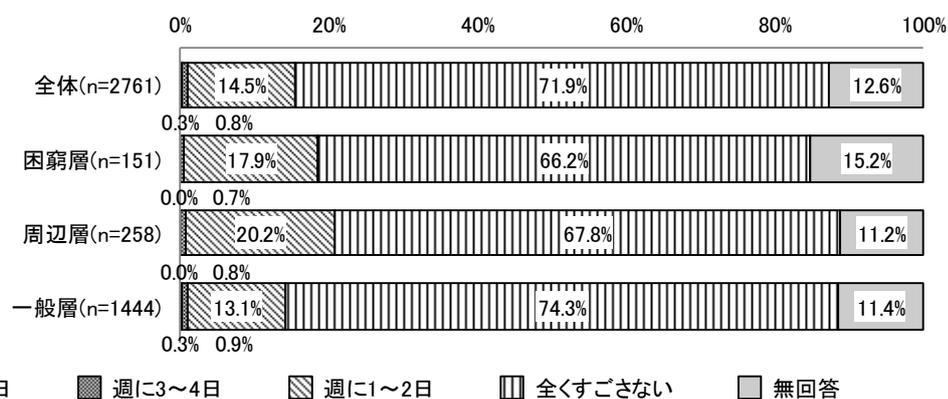
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 81 【子ども】Q12-2 平日の放課後に過ごす日数\_友だちの家:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



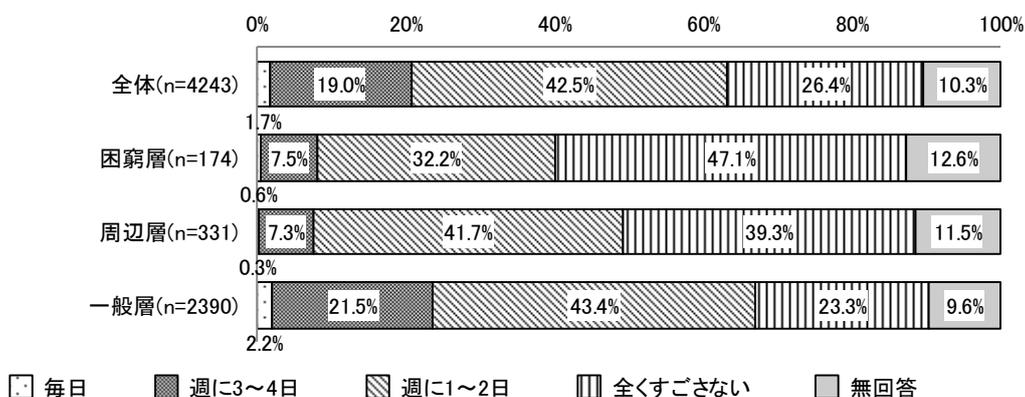
④【子ども】Q12-3 平日の放課後に過ごす日数\_塾や習い事

小学生の「全体」では、「週に1~2日」が42.5%でもっとも割合が高く、次いで「全くすごさない」が26.4%となっている。生活困難度別にみると、「全くすごさない」の割合は、困窮層（47.1%）、周辺層（39.3%）、一般層（23.3%）の順で高い。

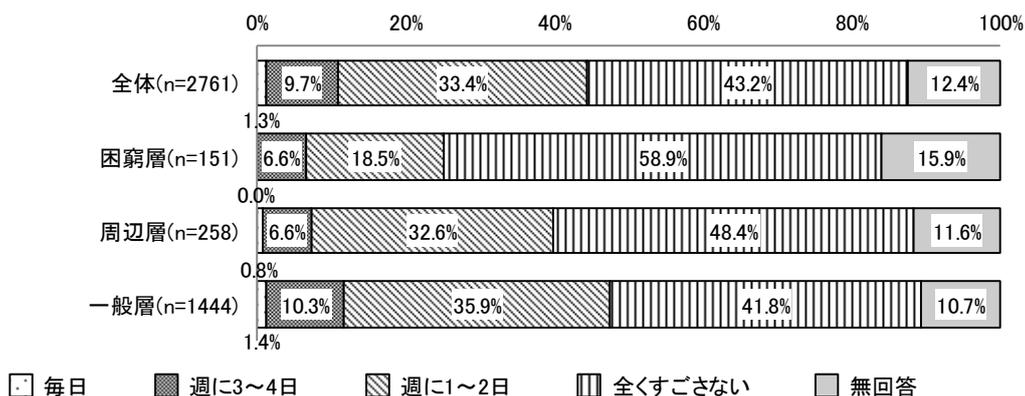
中学生の「全体」では、「全くすごさない」が43.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が33.4%となっている。生活困難度別にみると、「全くすごさない」の割合は、困窮層（58.9%）、周辺層（48.4%）、一般層（41.8%）の順で高い。

図表 82 【子ども】Q12-3 平日の放課後に過ごす日数\_塾や習い事:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



⑤【子ども】Q12-4 平日の放課後に過ごす日数\_放課後児童クラブ、青少年会館等

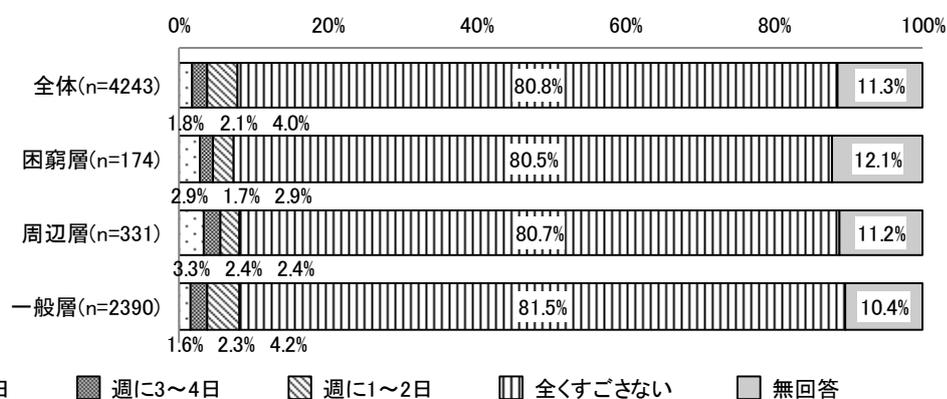
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が80.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が4.0%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が85.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が1.1%となっている。

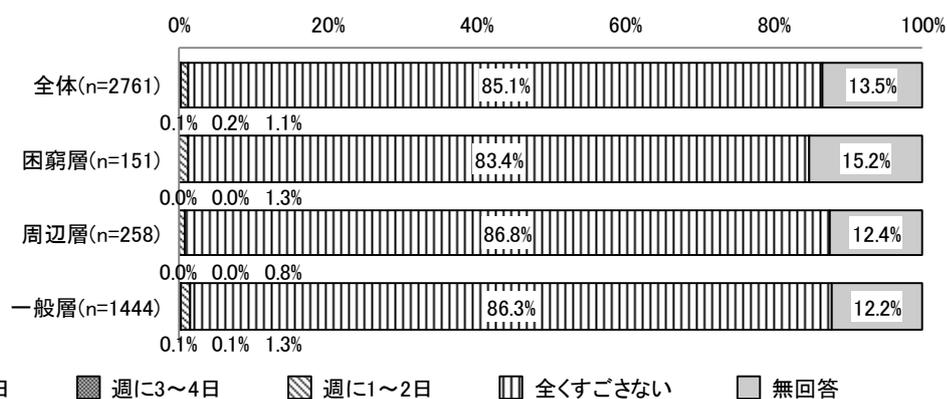
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 83 【子ども】Q12-4 平日の放課後に過ごす日数\_放課後児童クラブ、青少年会館等:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



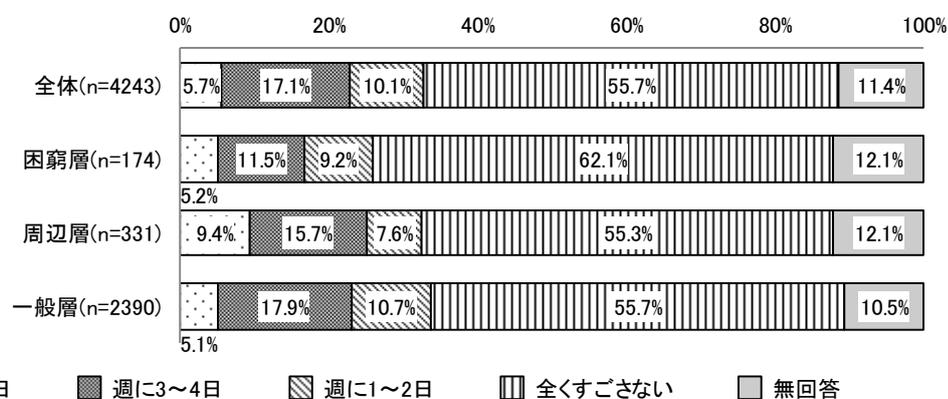
⑥【子ども】Q12-5 平日の放課後に過ごす日数\_学校の部活動

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が55.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4日」が17.1%となっている。生活困難度別にみると、「全くすごさない」の割合が困窮層（62.1%）、一般層（55.7%）、周辺層（55.3%）の順で高い。

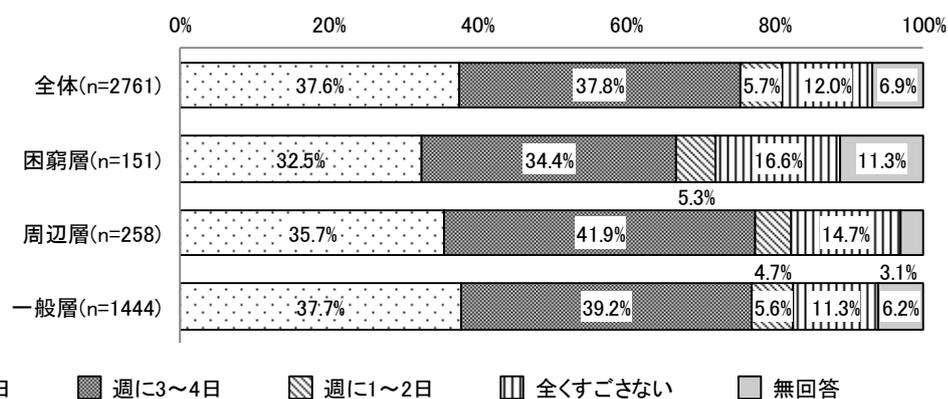
中学生の「全体」では、「週に3~4日」が37.8%でもっとも割合が高く、次いで「毎日」が37.6%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 84 【子ども】Q12-5 平日の放課後に過ごす日数\_学校の部活動:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



⑦【子ども】Q12-6 平日の放課後に過ごす日数\_学校の図書館、教室、校庭

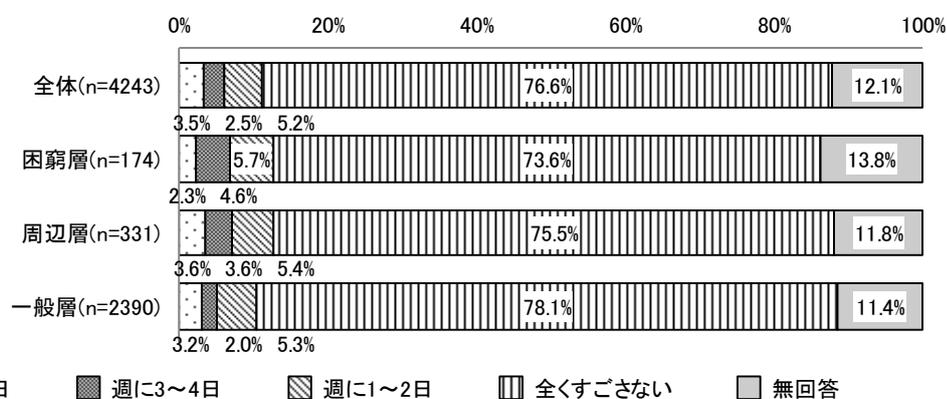
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が76.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が5.2%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が76.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が5.0%となっている。

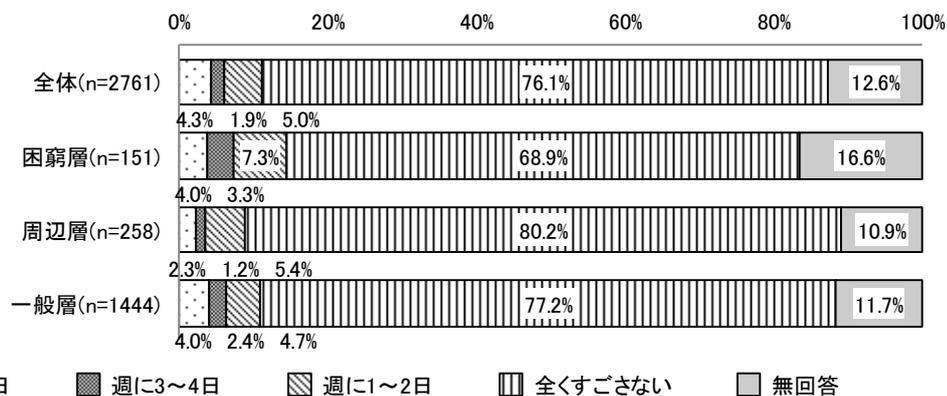
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 85 【子ども】Q12-6 平日の放課後に過ごす日数\_学校の図書館、教室、校庭:  
単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑧【子ども】Q12-7 平日の放課後に過ごす日数\_地域の居場所

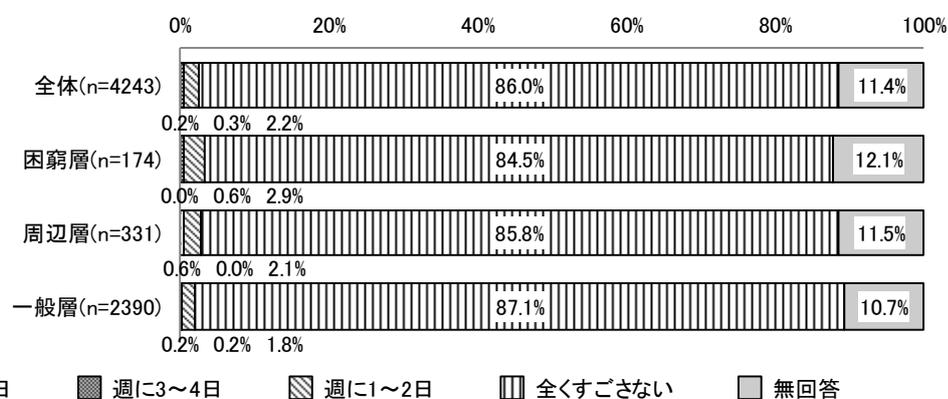
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が86.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が2.2%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が86.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が1.3%となっている。

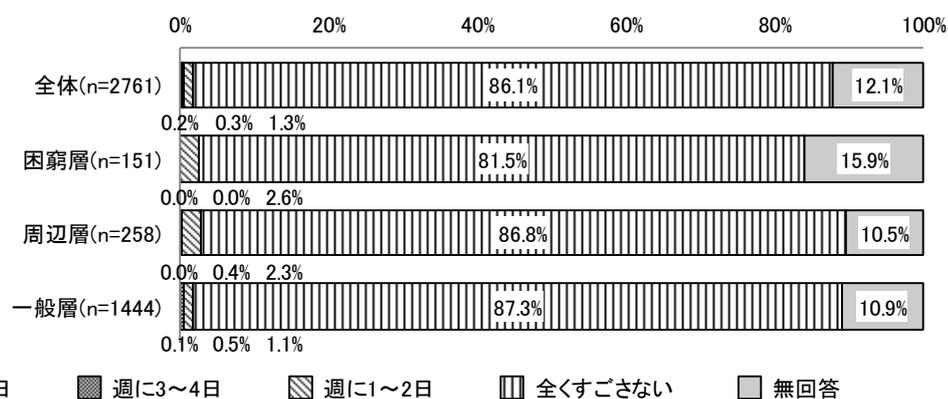
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 86 【子ども】Q12-7 平日の放課後に過ごす日数\_地域の居場所:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑨【子ども】Q12-8 平日の放課後に過ごす日数\_学校外のスポーツクラブの活動の場

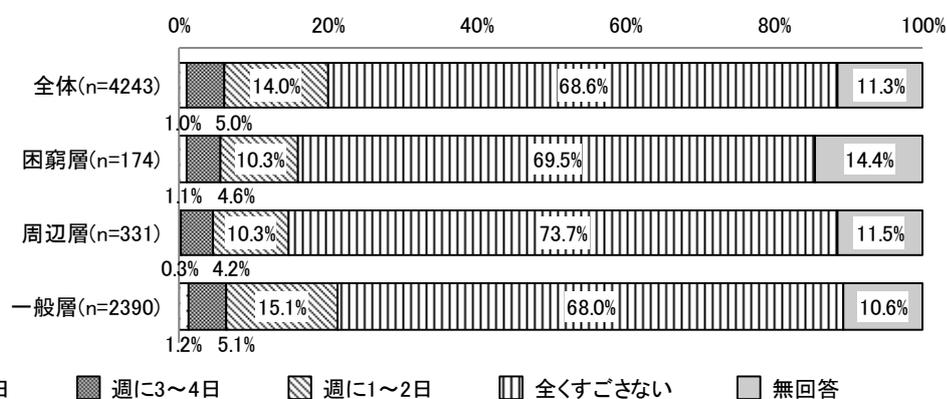
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が68.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が14.0%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が78.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が6.2%となっている。

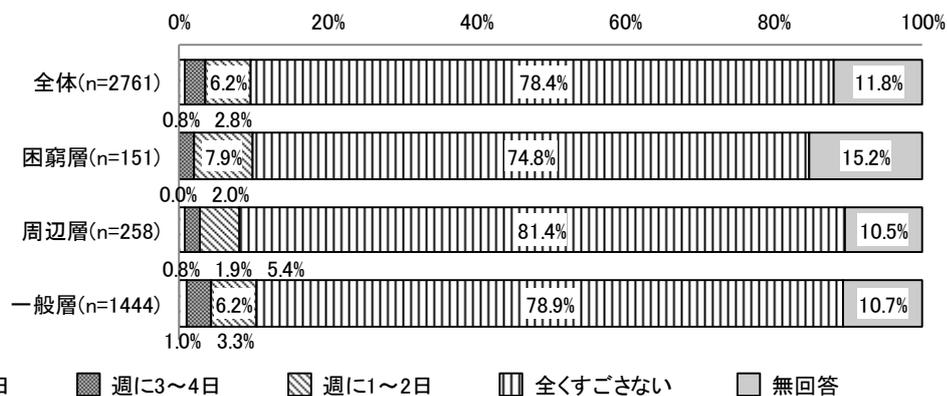
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 87 【子ども】Q12-8 平日の放課後に過ごす日数\_学校外のスポーツクラブの活動の場:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑩【子ども】Q12-9 平日の放課後に過ごす日数\_公園

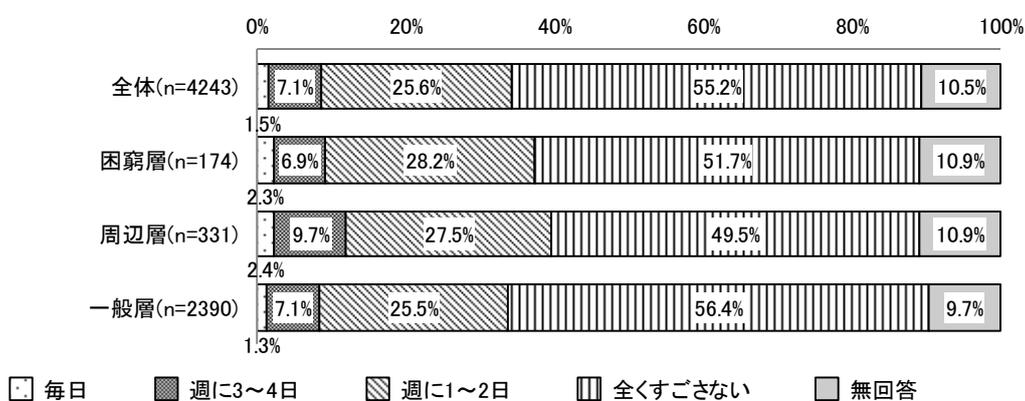
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 55.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が 25.6%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 77.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が 8.9%となっている。

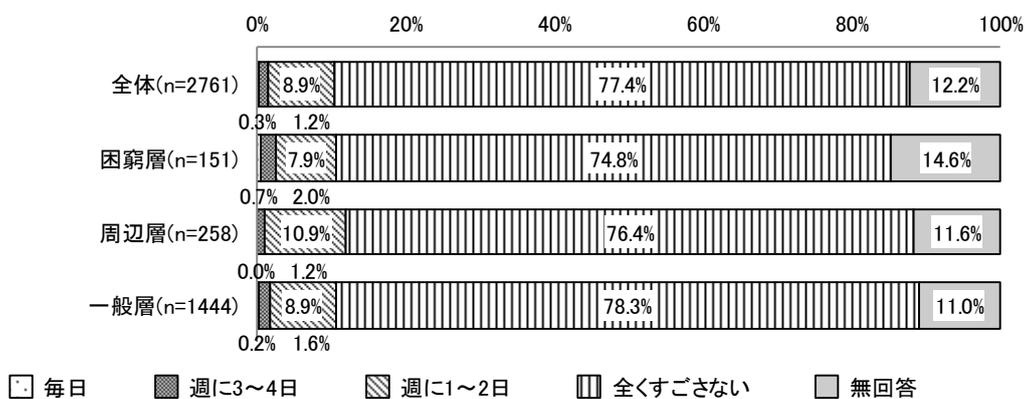
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 88 【子ども】Q12-9 平日の放課後に過ごす日数\_公園:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑪【子ども】Q12-10 平日の放課後に過ごす日数\_図書館

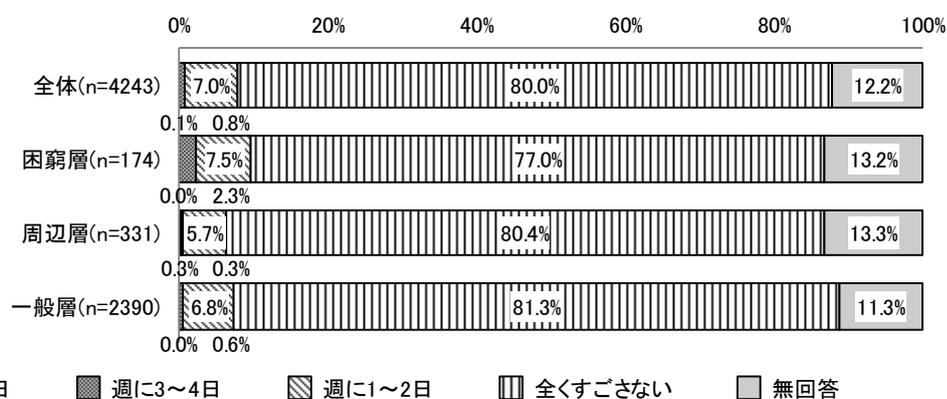
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が80.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が7.0%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が83.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が3.5%となっている。

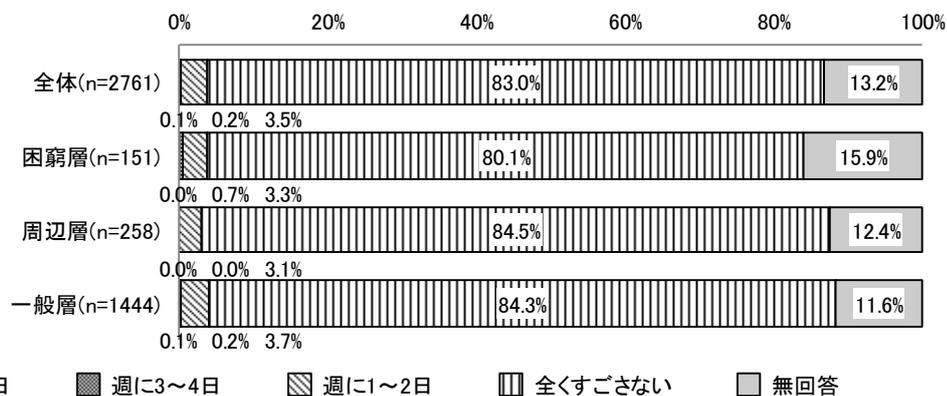
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 89 【子ども】Q12-10 平日の放課後に過ごす日数\_図書館:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑫【子ども】Q12-11 平日の放課後に過ごす日数\_ファストフード店、ショッピングモール、ゲームセンター

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が73.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が13.5%となっている。

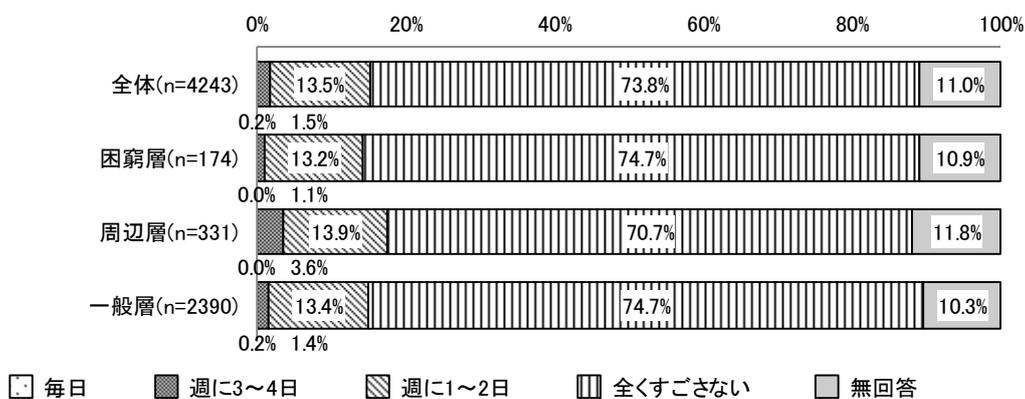
中学生の「全体」では、「全くすごさない」が66.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2日」が18.4%となっている。

生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

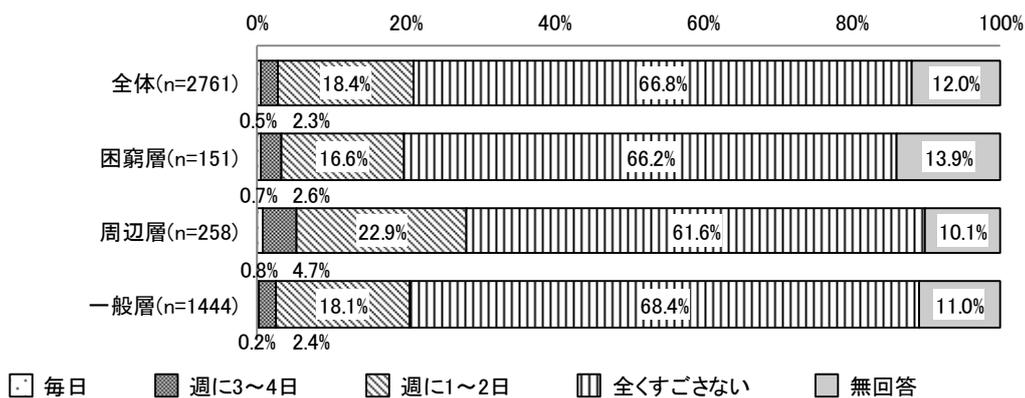
図表 90 【子ども】Q12-11 平日の放課後に過ごす日数

ファストフード店、ショッピングモール、ゲームセンター:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑬【子ども】Q12-12 平日の放課後に過ごす日数\_その他

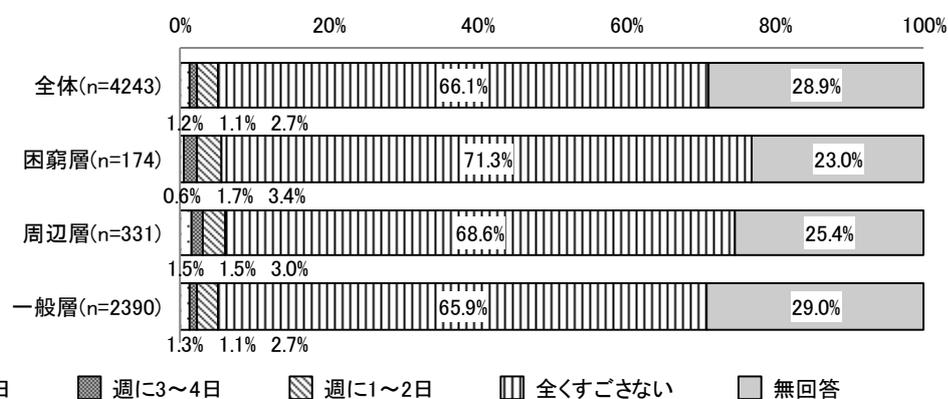
小学生の「全体」では、「全くすごさない」が66.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が2.7%となっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が72.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2日」が0.8%となっている。

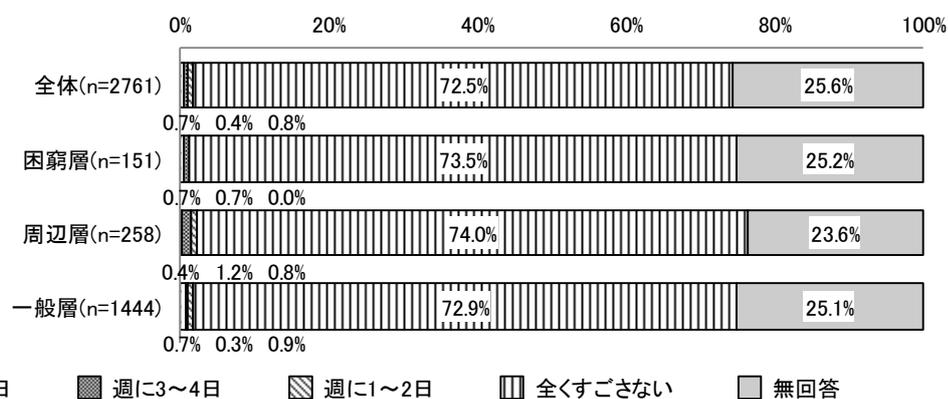
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 91 【子ども】Q12-12 平日の放課後に過ごす日数\_その他:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑭【子ども】Q13 一番ほっとできる居場所

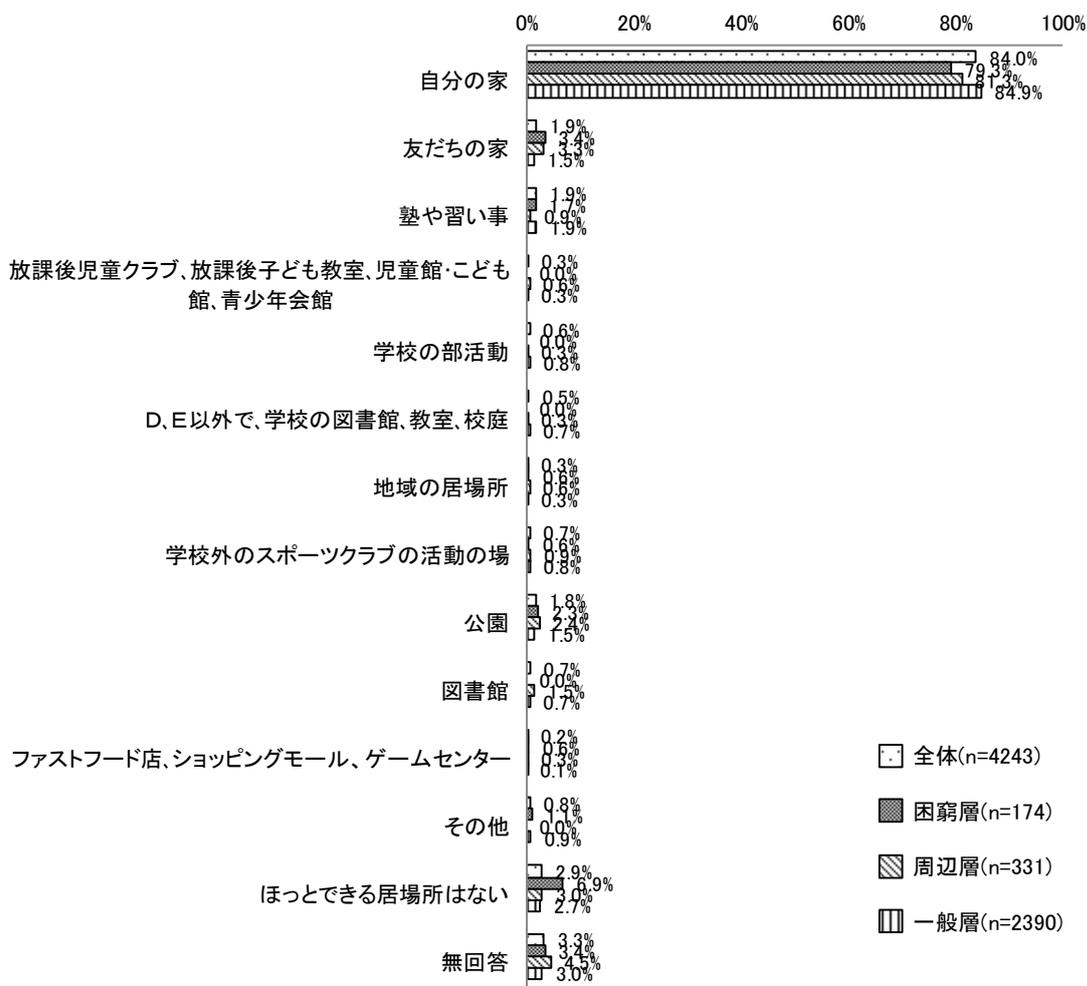
小学生の「全体」では、「自分の家」が84.0%でもっとも割合が高く、次いで「ほっとできる居場所はない」が2.9%となっている。生活困難度別にみると、「ほっとできる居場所はない」の割合は、困窮層(6.9%)、周辺層(3.0%)、一般層(2.7%)の順で高い。

中学生の「全体」では、「自分の家」が82.4%でもっとも割合が高く、次いで「学校の部活動」が4.5%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

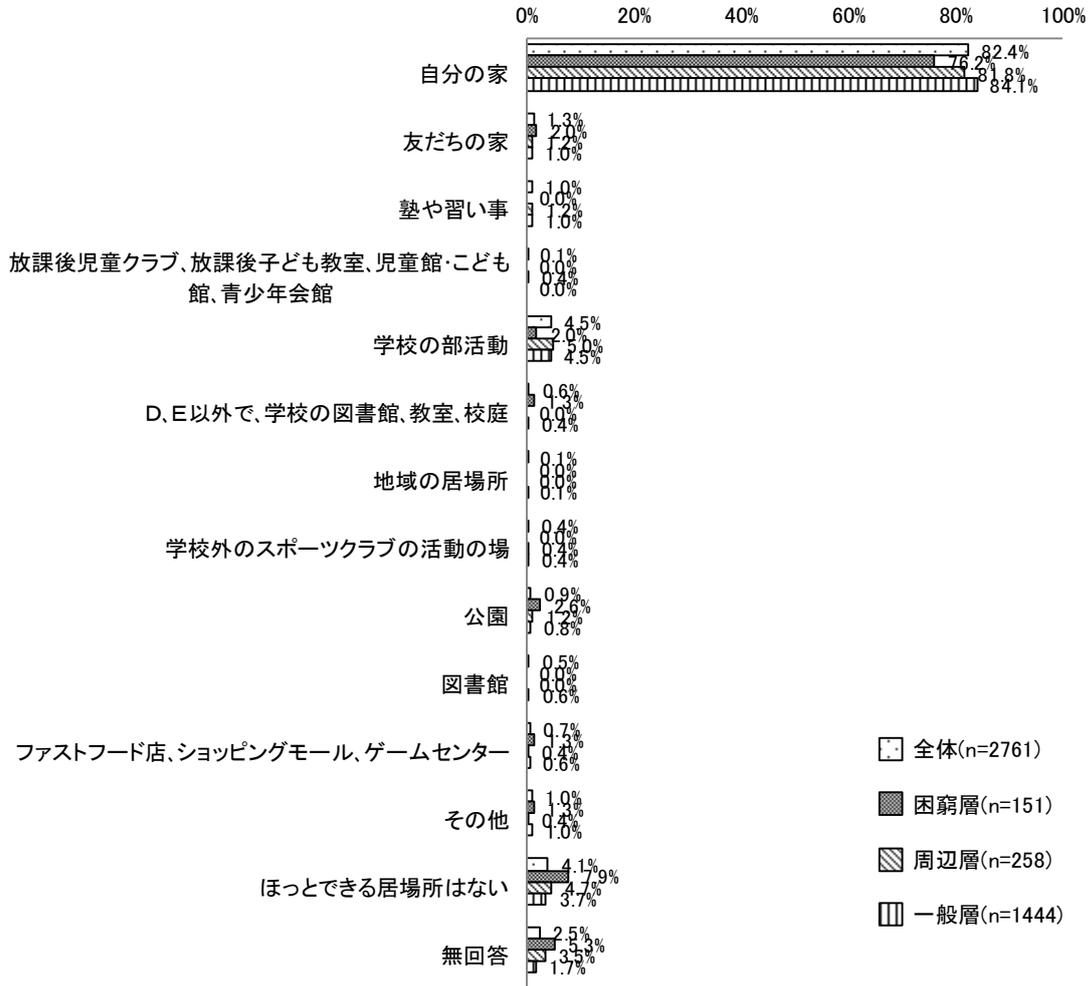
なお、この設問について、「ほっとできる居場所はない」を選択した者とそうでない者とに分類して生活困難度による比較を行うと、小学生・中学生いずれも統計的に有意な差がみられ、困窮層ほど「ほっとできる居場所はない」と回答した割合が高い。

図表 92 【子ども】Q13 一番ほっとできる居場所:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.05)



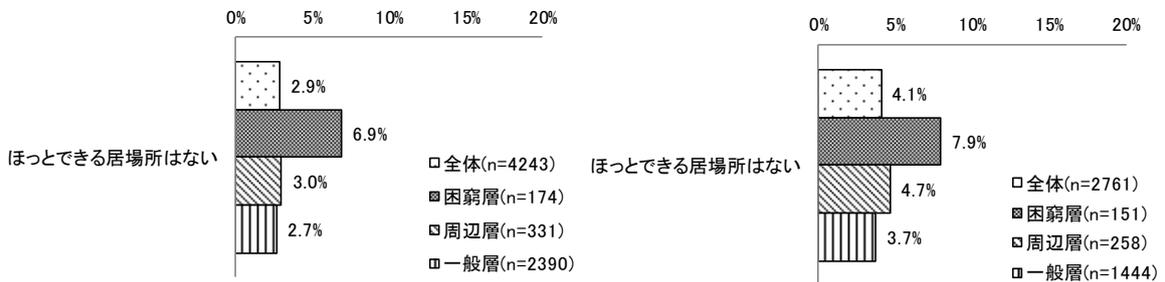
<中学生> (有意差なし)



図表 92-1 【子ども】 Q13 一番ほっとできる居場所はない (生活困難度別)

<小学生> (p<.01)

<中学生> (p<.05)



※「ほっとできる居場所はない」を選択した者とそうでない者について、生活困難度による差の検定を実施

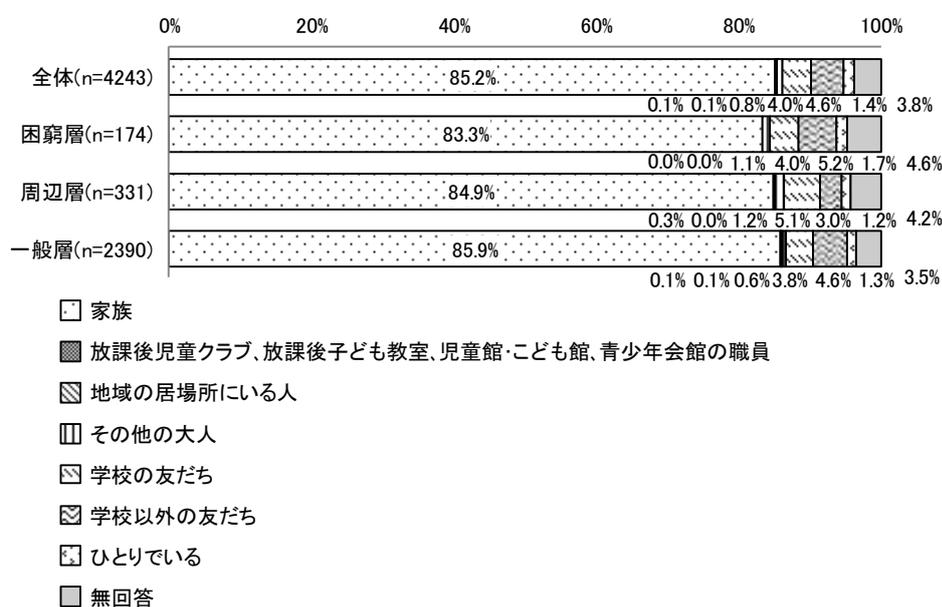
⑮【子ども】Q14 休日に、一緒に過ごす時間が一番長い人

小学生の「全体」では、「家族」が85.2%でもっとも割合が高く、次いで「学校以外の友だち」が4.6%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

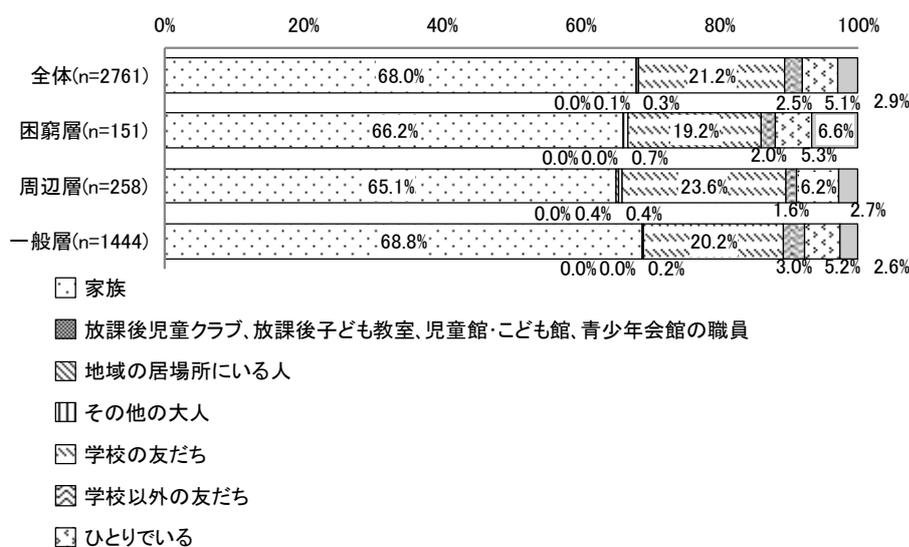
中学生の「全体」では、「家族」が68.0%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が21.2%となっている。

図表 93 【子ども】Q14 休日に、一緒に過ごす時間が一番長い人:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (検定不可)

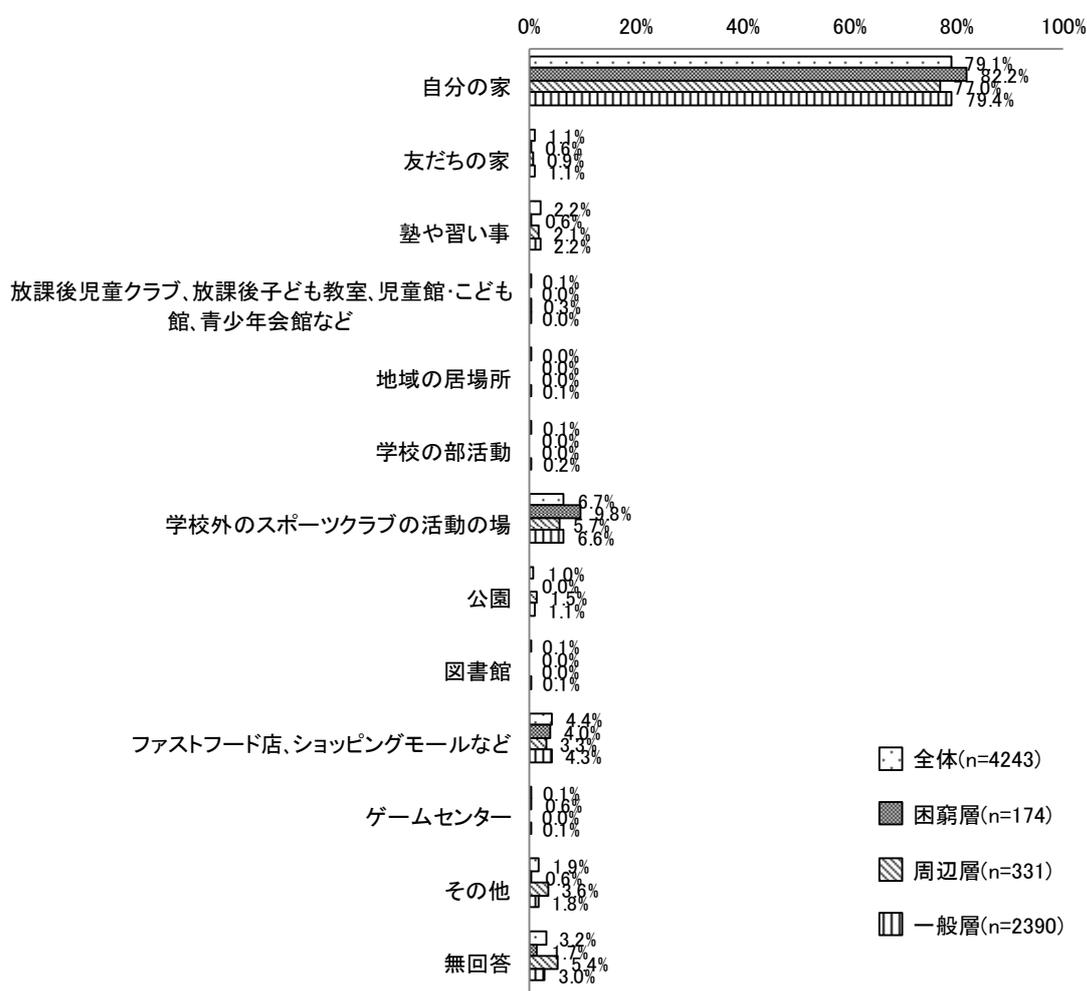


⑩【子ども】Q15 休日に、一番長く過ごす場所

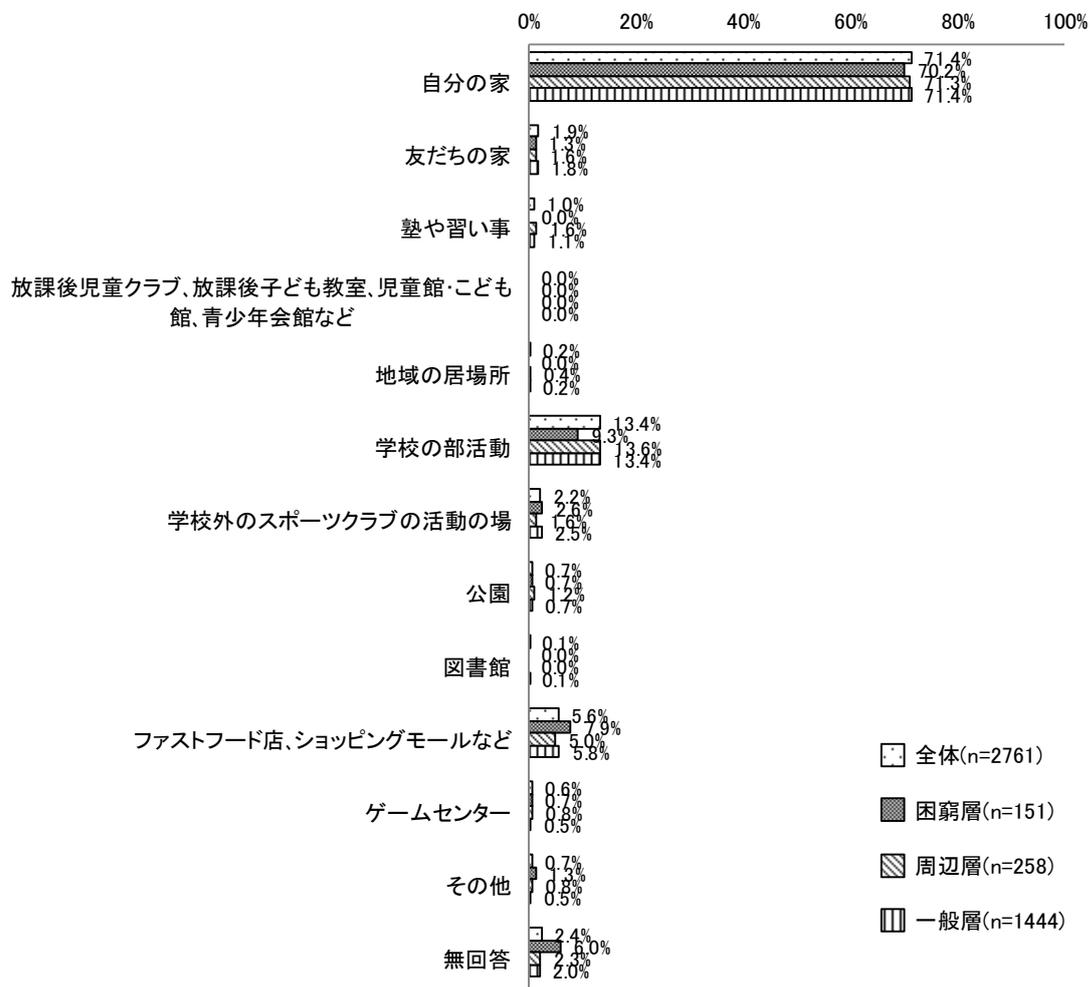
小学生の「全体」では、「自分の家」が79.1%でもっとも割合が高く、次いで「学校外のスポーツクラブの活動の場」が6.7%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

中学生の「全体」では、「自分の家」が71.4%でもっとも割合が高く、次いで「学校の部活動」が13.4%となっている。

図表 94 【子ども】Q15 休日に、一番長く過ごす場所:単数回答 (生活困難度別)  
 <小学生> (有意差なし)



<中学生> (検定不可)



(4) 活動時間

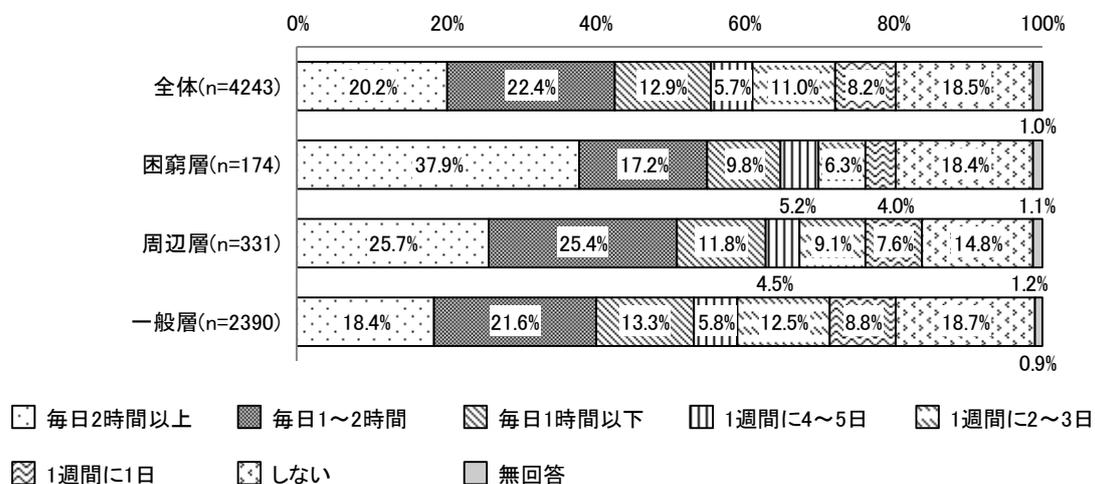
①【子ども】Q17-1 活動時間\_ゲーム機で遊ぶ

小学生の「全体」では、「毎日1～2時間」が22.4%でもっとも割合が高く、次いで「毎日2時間以上」が20.2%となっている。生活困難度別にみると、「毎日2時間以上」の割合は、困窮層(37.9%)、周辺層(25.7%)、一般層(18.4%)の順に高い。

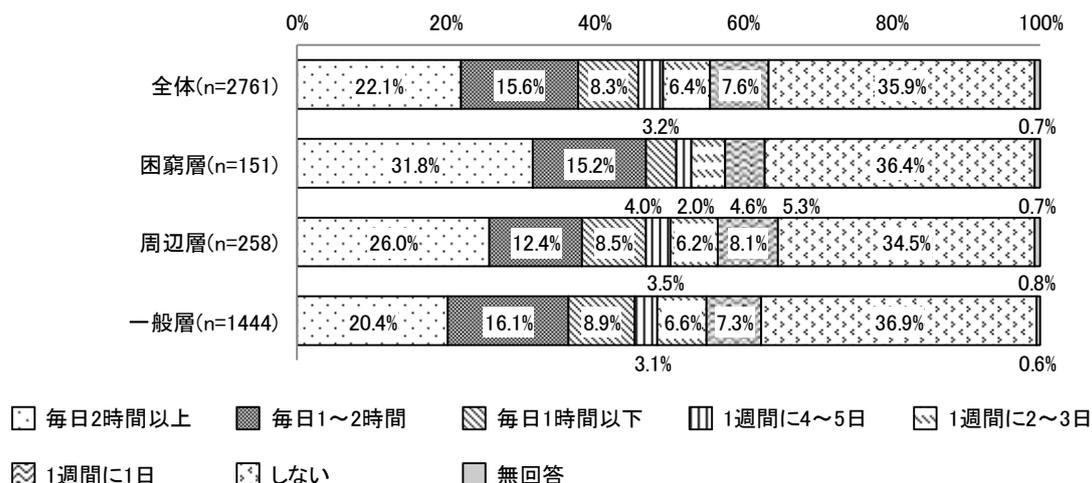
中学生の「全体」では、「しない」が35.9%でもっとも割合が高く、次いで「毎日2時間以上」が22.1%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 95 【子ども】Q17-1 活動時間\_ゲーム機で遊ぶ:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



②【子ども】Q17-2 活動時間\_テレビを見る

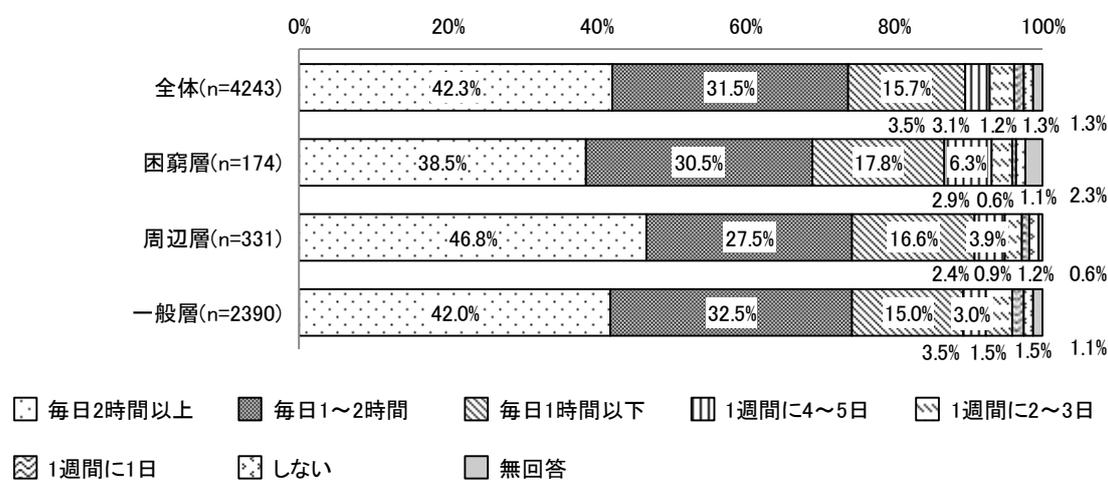
小学生の「全体」では、「毎日2時間以上」が42.3%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1～2時間」が31.5%となっている。

中学生の「全体」では、「毎日2時間以上」が34.8%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1～2時間」が32.7%となっている。

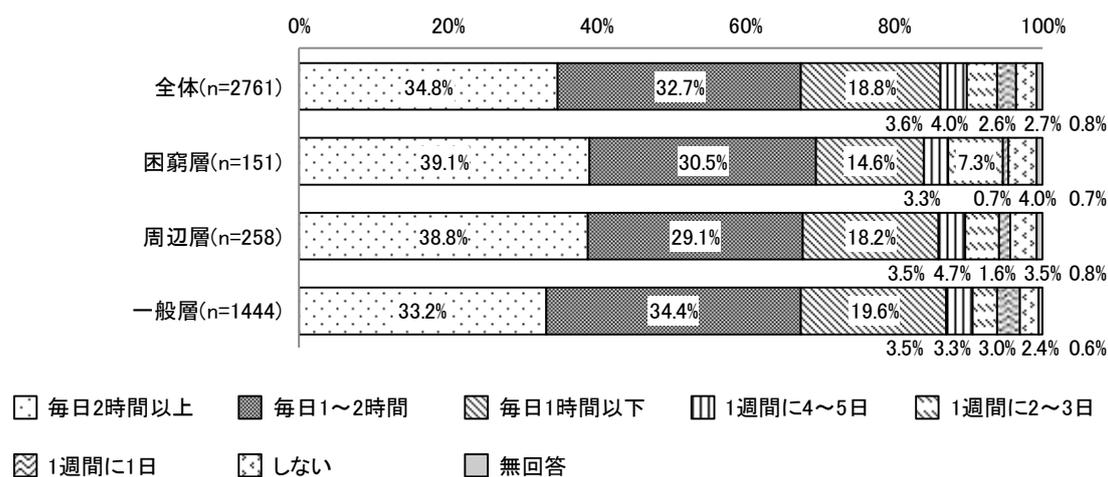
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 96 【子ども】Q17-2 活動時間\_テレビを見る:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



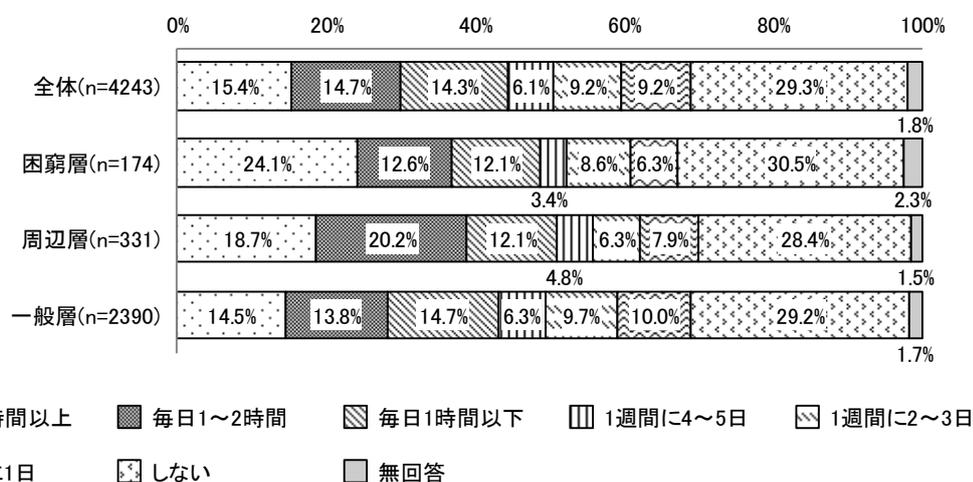
### ③【子ども】Q17-3 活動時間\_インターネットを見る

小学生の「全体」では、「しない」が29.3%でもっとも割合が高く、次いで「毎日2時間以上」が15.4%となっている。生活困難度別にみると、「毎日2時間以上」の割合は、困窮層(24.1%)、周辺層(18.7%)、一般層(14.5%)の順に高い。

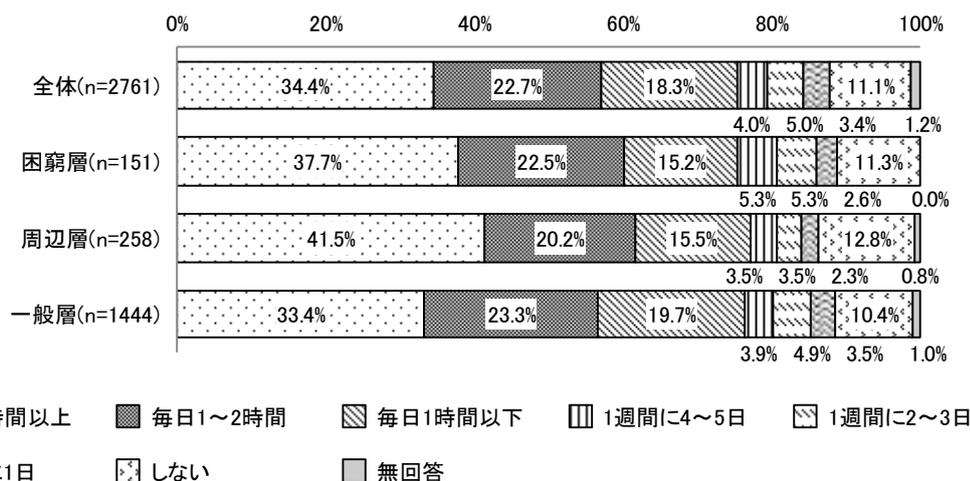
中学生の「全体」では、「毎日2時間以上」が34.4%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1～2時間」が22.7%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 97 【子ども】Q17-3 活動時間\_インターネットを見る:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



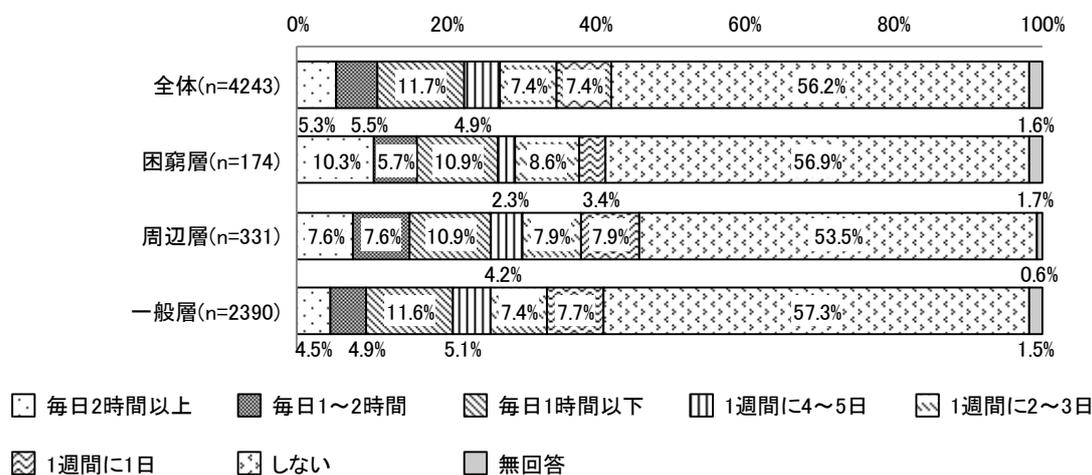
④【子ども】Q17-4 活動時間\_スマートフォン、けいたい電話でメールやLINE をする

小学生の「全体」では、「しない」が56.2%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1時間以下」が11.7%となっている。生活困難度別にみると、「毎日2時間以上」の割合は、困窮層（10.3%）、周辺層（7.6%）、一般層（4.5%）の順に高い。

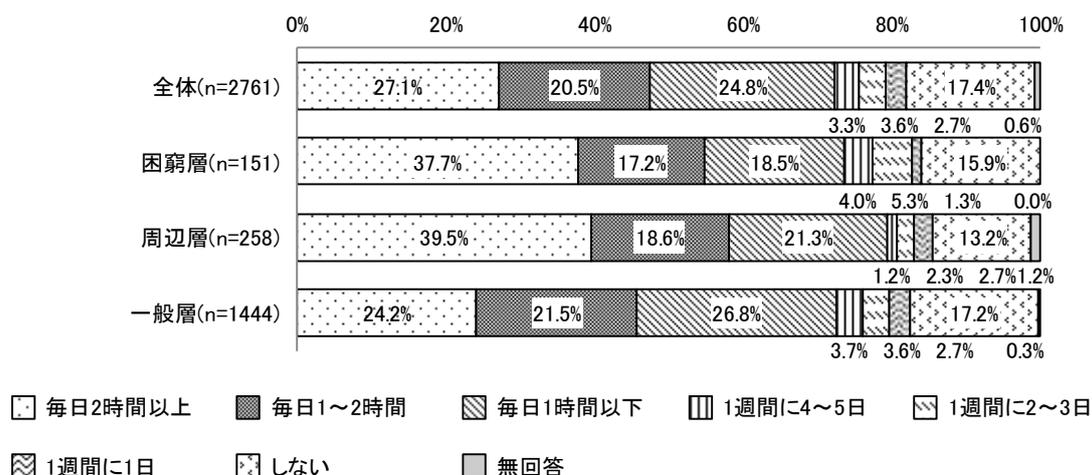
中学生の「全体」では、「毎日2時間以上」が27.1%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1時間以下」が24.8%となっている。生活困難度別にみると、「毎日2時間以上」の割合は、周辺層（39.5%）、困窮層（37.7%）、一般層（24.2%）の順に高い。

図表 98 【子ども】Q17-4 活動時間\_スマートフォン、けいたい電話でメールやLINE をする:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



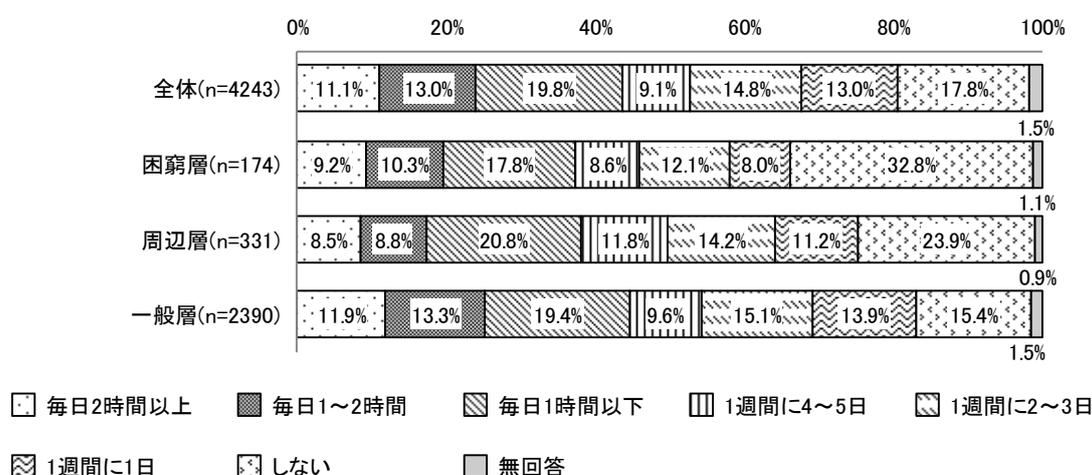
⑤【子ども】Q17-5 活動時間\_室内でのほかの活動

小学生の「全体」では、「毎日1時間以下」が19.8%でもっとも割合が高く、次いで「しない」が17.8%となっている。生活困難度別にみると、「しない」の割合は、困窮層(32.8%)、周辺層(23.9%)、一般層(15.4%)の順に高い。

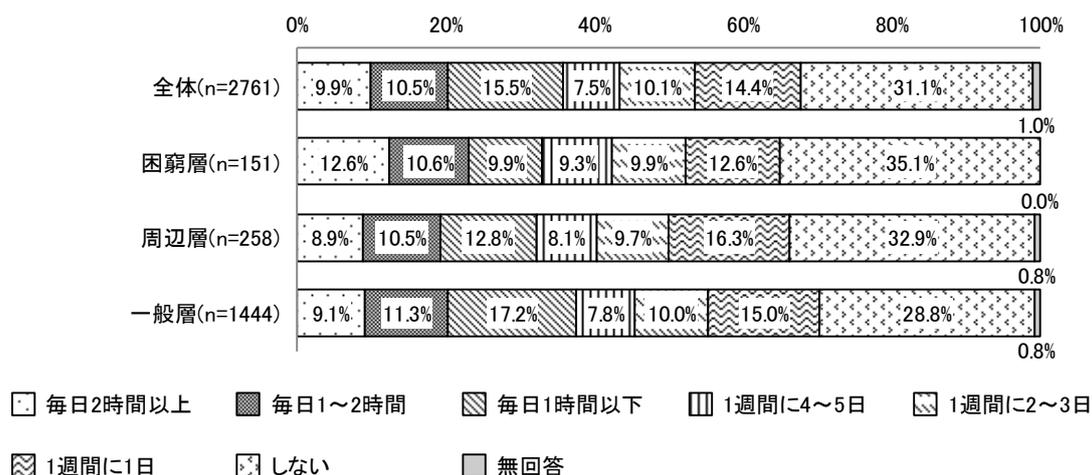
中学生の「全体」では、「しない」が31.1%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1時間以下」が15.5%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 99 【子ども】Q17-5 活動時間\_室内でのほかの活動:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



⑥【子ども】Q17-6 活動時間\_公園で遊ぶ

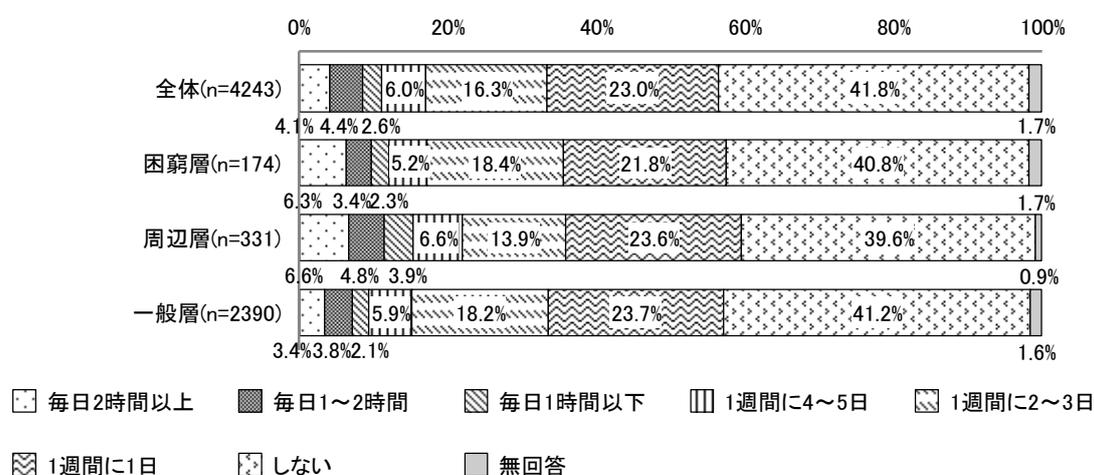
小学生の「全体」では、「しない」が41.8%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に1日」が23.0%となっている。

中学生の「全体」では、「しない」が75.4%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に1日」が13.0%となっている。

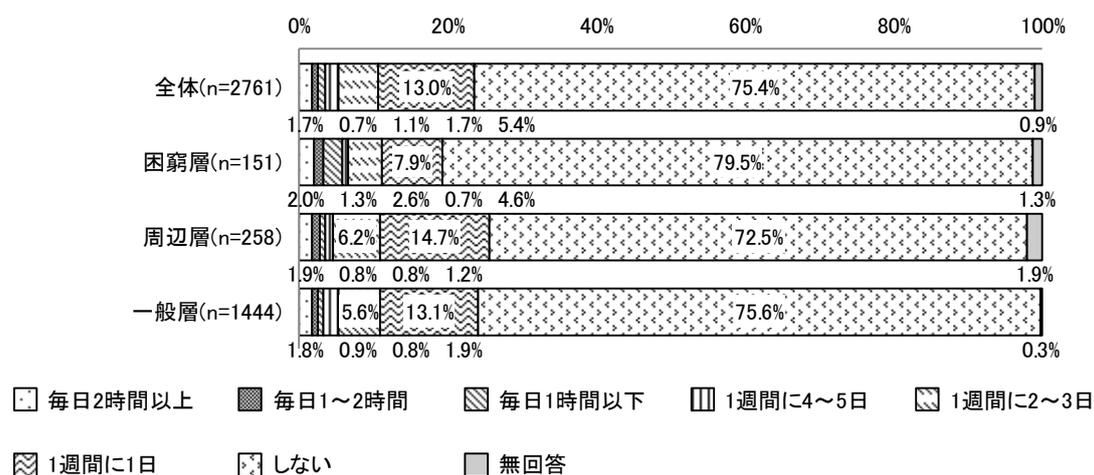
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 100 【子ども】Q17-6 活動時間\_公園で遊ぶ:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



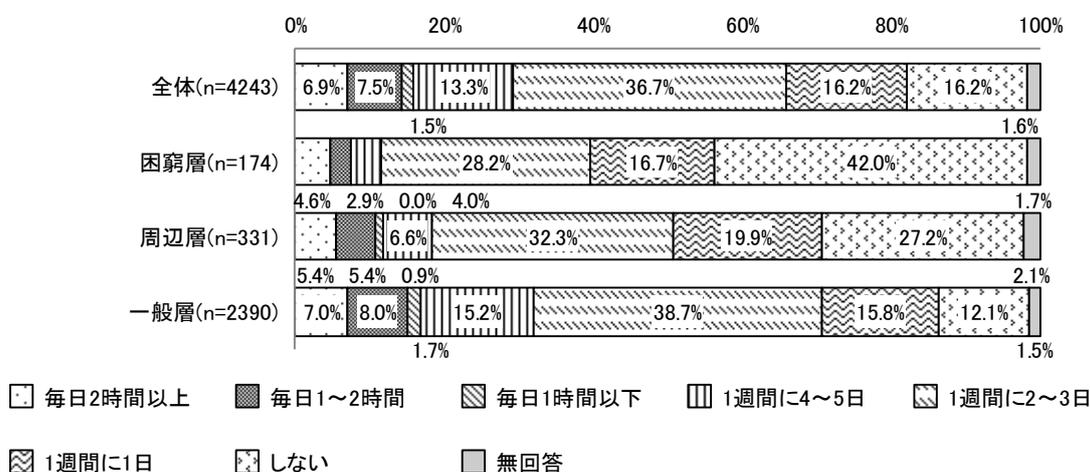
⑦【子ども】Q17-7 活動時間\_塾や習い事

小学生の「全体」では、「1週間に2～3日」が36.7%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に1日」「しない」が16.2%となっている。生活困難度別にみると、「しない」の割合は、困窮層（42.0%）、周辺層（27.2%）、一般層（12.1%）の順に高い。

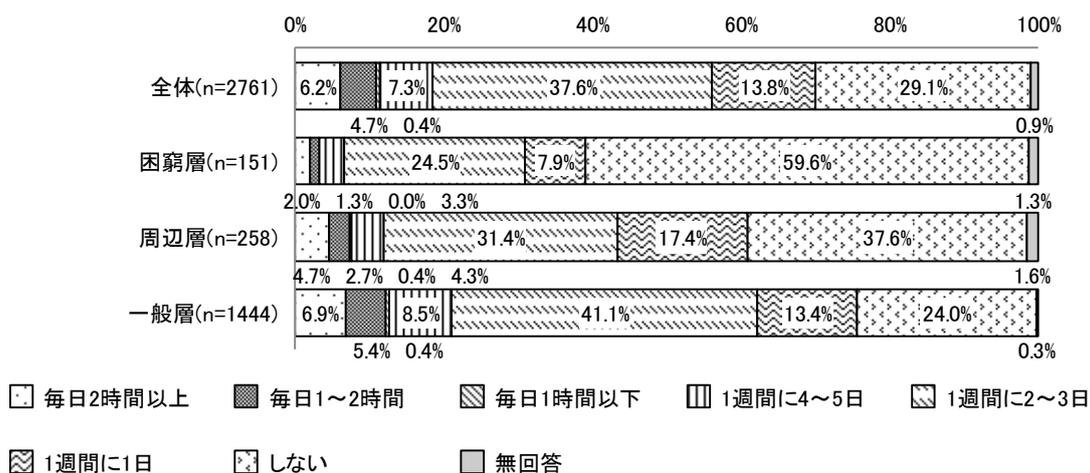
中学生の「全体」では、「1週間に2～3日」が37.6%でもっとも割合が高く、次いで「しない」が29.1%となっている。生活困難度別にみると、「しない」の割合は、困窮層（59.6%）、周辺層（37.6%）、一般層（24.0%）の順に高い。

図表 101 【子ども】Q17-7 活動時間\_塾や習い事:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



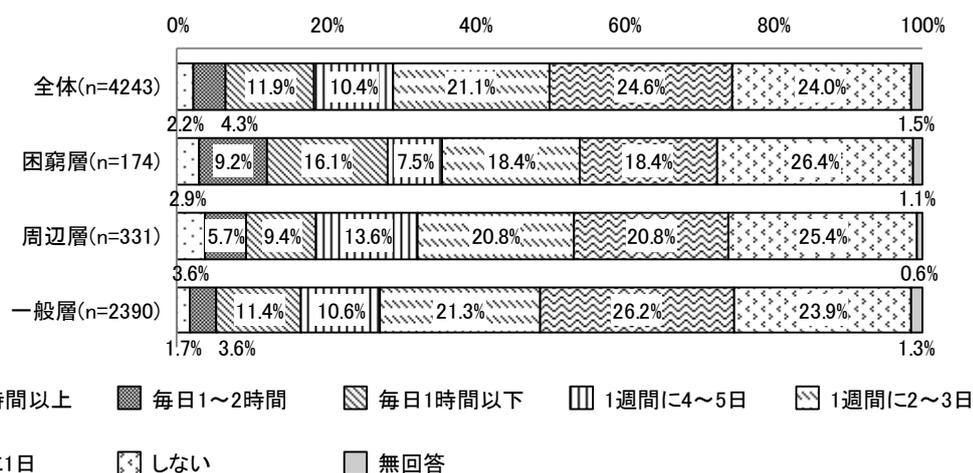
⑧【子ども】Q17-8 活動時間\_家事

小学生の「全体」では、「1週間に1日」が24.6%でもっとも割合が高く、次いで「しない」が24.0%となっている。生活困難度別にみると、「毎日2時間以上」「毎日1~2時間」「毎日1時間以下」を合計した割合は、困窮層(28.2%)、周辺層(18.7%)、一般層(16.7%)の順に高い。

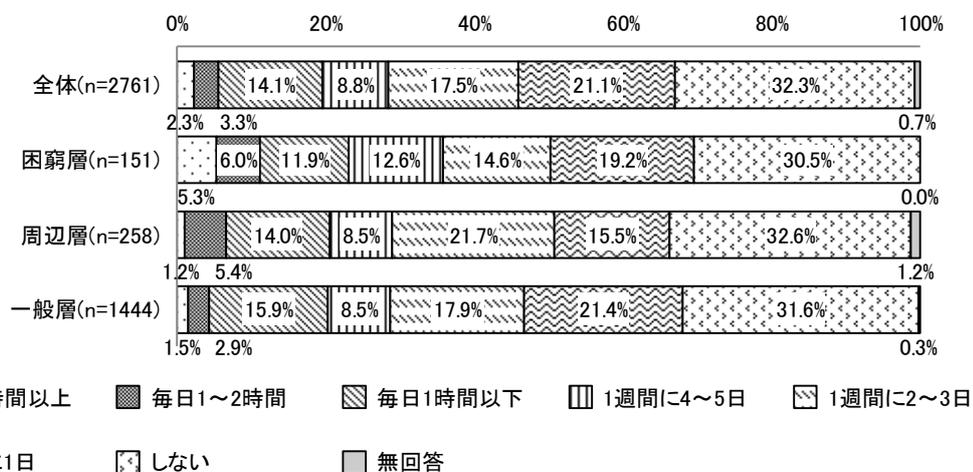
中学生の「全体」では、「しない」が32.3%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に1日」が21.1%となっている。生活困難度別にみると、「毎日2時間以上」「毎日1~2時間」「毎日1時間以下」を合計した割合は、困窮層(23.2%)、周辺層(20.6%)、一般層(20.3%)の順に高い。

図表 102 【子ども】Q17-8 活動時間\_家事:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



⑨【子ども】Q17-9 活動時間\_兄弟姉妹のお世話

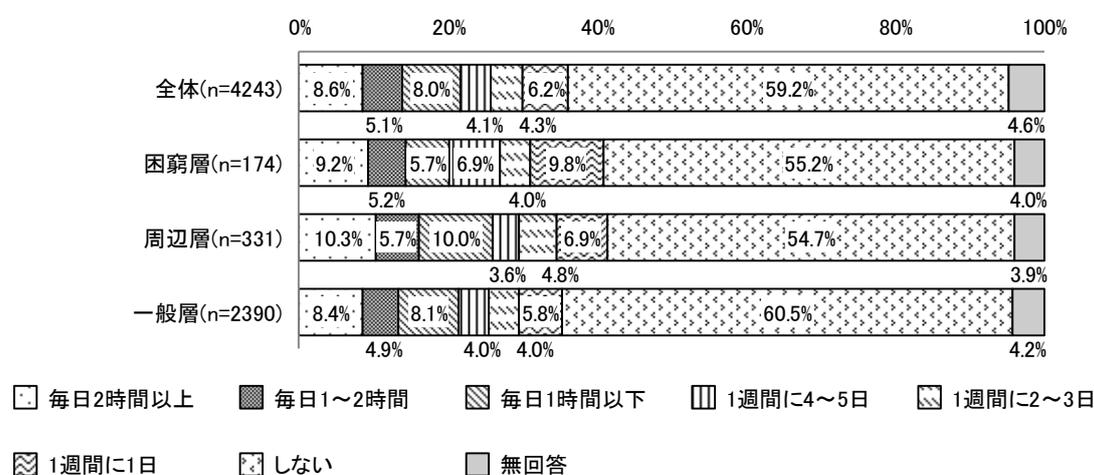
小学生の「全体」では、「しない」が59.2%でもっとも割合が高く、次いで「毎日2時間以上」が8.6%となっている。

中学生の「全体」では、「しない」が69.4%でもっとも割合が高く、次いで「毎日2時間以上」が5.8%となっている。

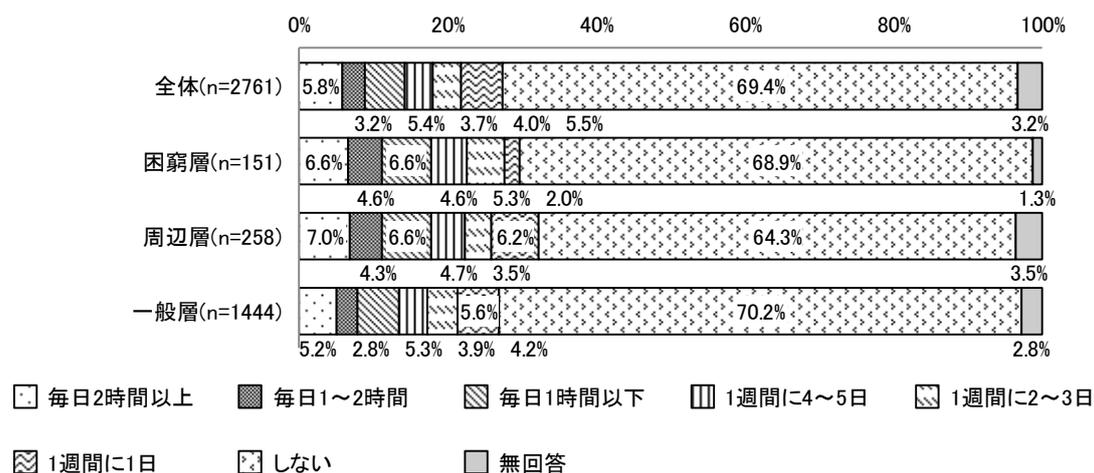
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 103 【子ども】Q17-9 活動時間\_兄弟姉妹のお世話:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑩【子ども】Q17-10 活動時間\_おじいちゃん、おばあちゃんのお世話

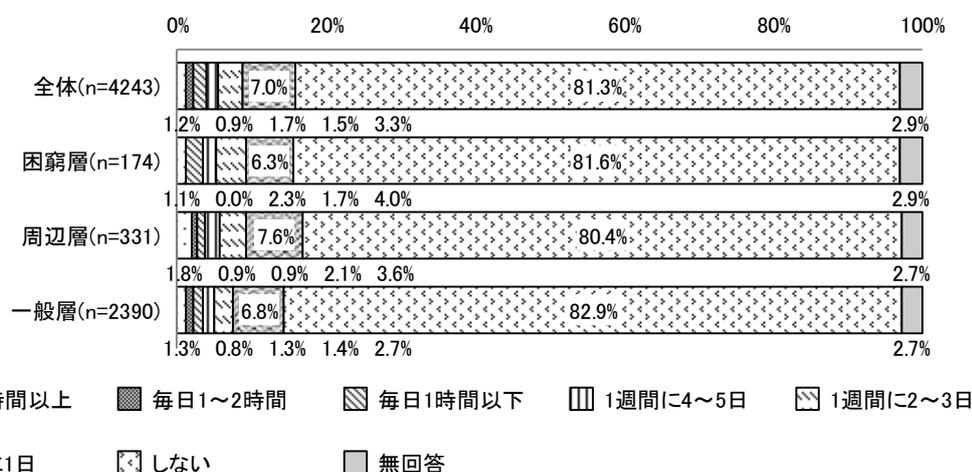
小学生の「全体」では、「しない」が 81.3%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に1日」が 7.0%となっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 87.3%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に1日」が 4.5%となっている。

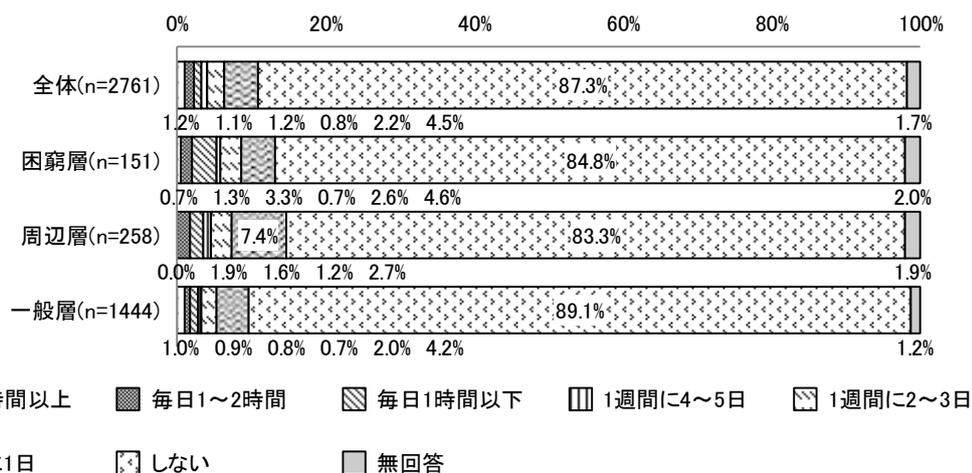
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 104 【子ども】Q17-10 活動時間\_おじいちゃん、おばあちゃんのお世話:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



(5) 読書

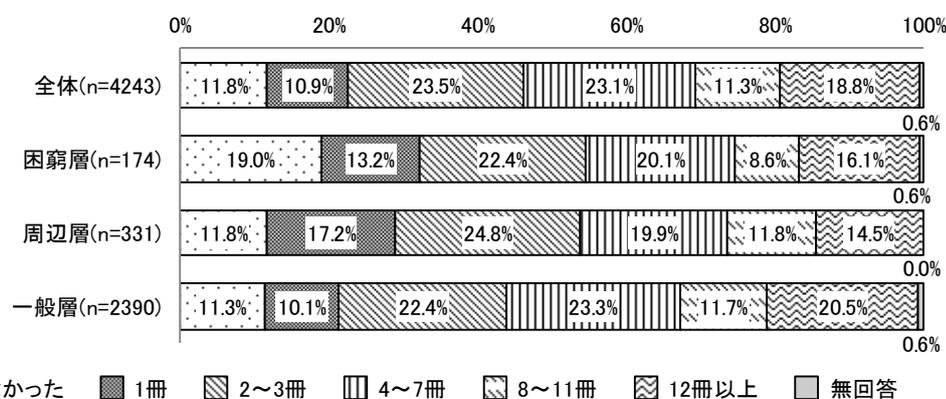
①【子ども】Q18 この1か月の間に読んだ本の数

小学生の「全体」では、「2～3冊」が23.5%でもっとも割合が高く、次いで「4～7冊」が23.1%となっている。生活困難度別にみると、「読まなかった」の割合は困窮層(19.0%)、周辺層(11.8%)、一般層(11.3%)の順に高い。

中学生の「全体」では、「2～3冊」が34.0%でもっとも割合が高く、次いで「1冊」が23.8%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 105 【子ども】Q18 この1か月の間に読んだ本の数:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



(6) 起床・就寝時刻

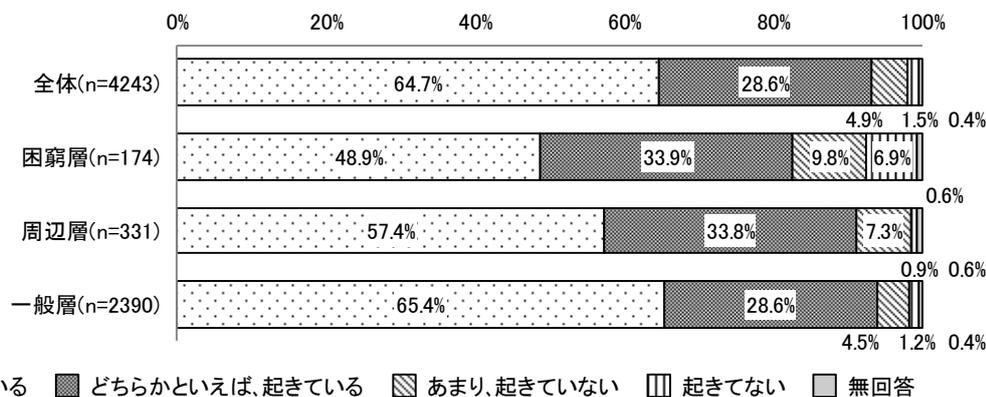
①【子ども】Q19 平日は、ほぼ同じ時刻におきているか

小学生の「全体」では、「起きている」が64.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらかといえば、起きている」が28.6%となっている。生活困難度別にみると、「起きている」の割合は、一般層(65.4%)、周辺層(57.4%)、困窮層(48.9%)の順に高い。

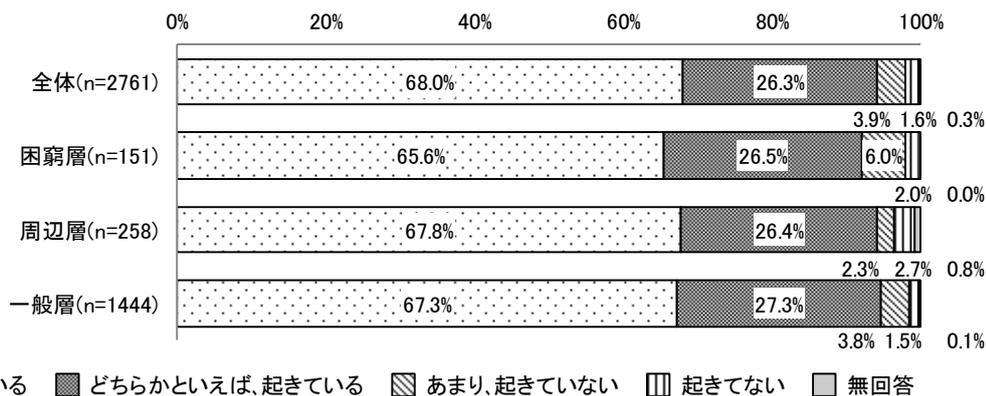
中学生の「全体」では、「起きている」が68.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらかといえば、起きている」が26.3%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 106 【子ども】Q19 平日は、ほぼ同じ時刻におきているか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



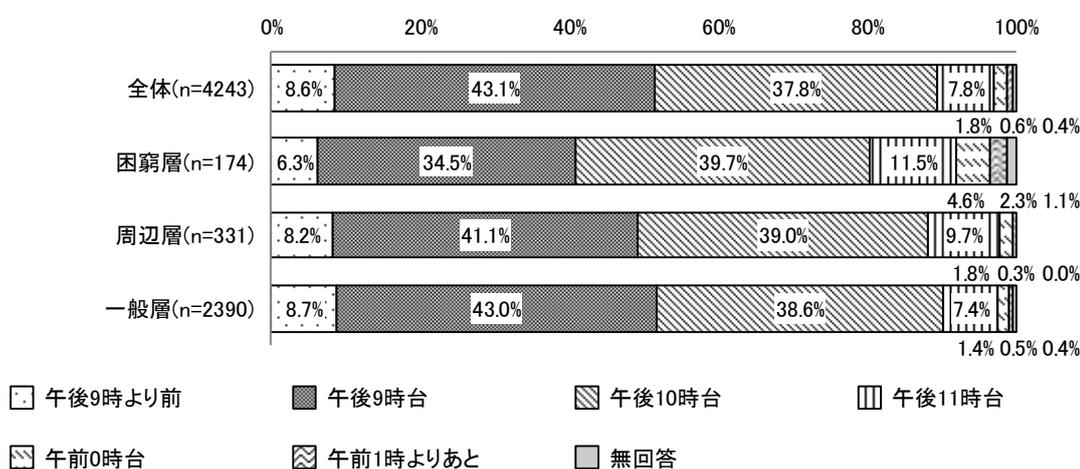
②【子ども】Q20 平日は、だいたい何時に寝ているか

小学生の「全体」では、「午後9時台」が43.1%でもっとも割合が高く、次いで「午後10時台」が37.8%となっている。生活困難度別にみると、「午後9時より前」「午後9時台」を合計した割合は、一般層（51.7%）、周辺層（49.3%）、困窮層（40.8%）の順に高い。

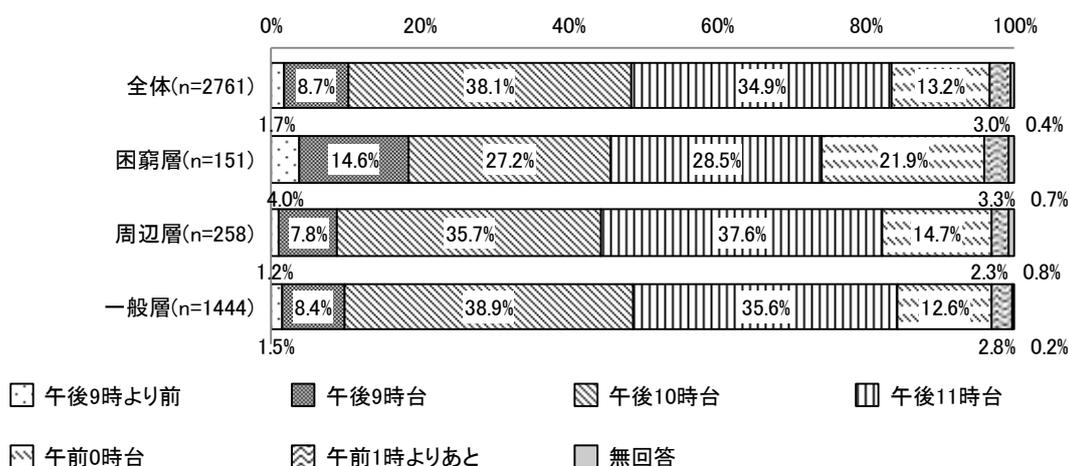
中学生の「全体」では、「午後10時台」が38.1%でもっとも割合が高く、次いで「午後11時台」が34.9%となっている。生活困難度別にみると、「午前0時台」の割合は、困窮層（21.9%）、周辺層（14.7%）、一般層（12.6%）の順に高い。

図表 107 【子ども】Q20 平日は、だいたい何時に寝ているか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



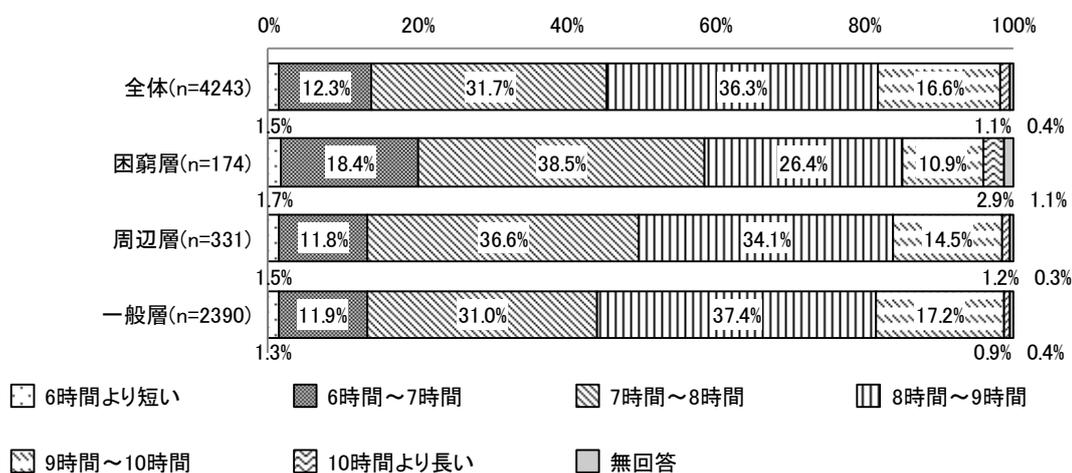
③【子ども】Q21 平日は、だいたい何時間くらい寝ているか

小学生の「全体」では、「8時間～9時間」が36.3%でもっとも割合が高く、次いで「7時間～8時間」が31.7%となっている。生活困難度別にみると、「8時間～9時間」の割合は一般層（37.4%）、周辺層（34.1%）、困窮層（26.4%）の順に高い。

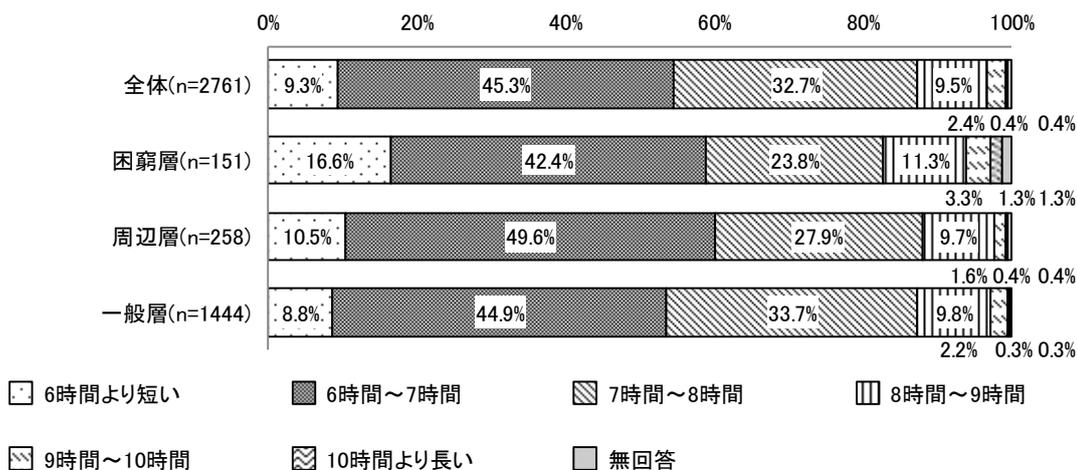
中学生の「全体」では、「6時間～7時間」が45.3%でもっとも割合が高く、次いで「7時間～8時間」が32.7%となっている。生活困難度別にみると、「6時間より短い」の割合は、困窮層（16.6%）、周辺層（10.5%）、一般層（8.8%）の順に高い。

図表 108 【子ども】Q21 平日は、だいたい何時間くらい寝ているか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



(7) 食事と栄養

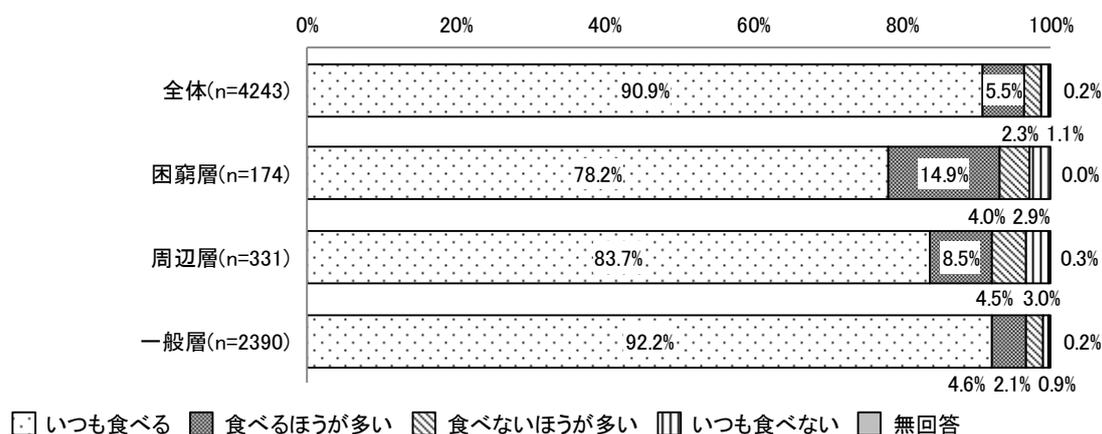
①【子ども】Q22 平日に毎日、朝ごはんを食べているか

小学生の「全体」では、「いつも食べる」が90.9%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が5.5%となっている。生活困難度別にみると、「いつも食べる」の割合は、一般層(92.2%)、周辺層(83.7%)、困窮層(78.2%)の順に高い。

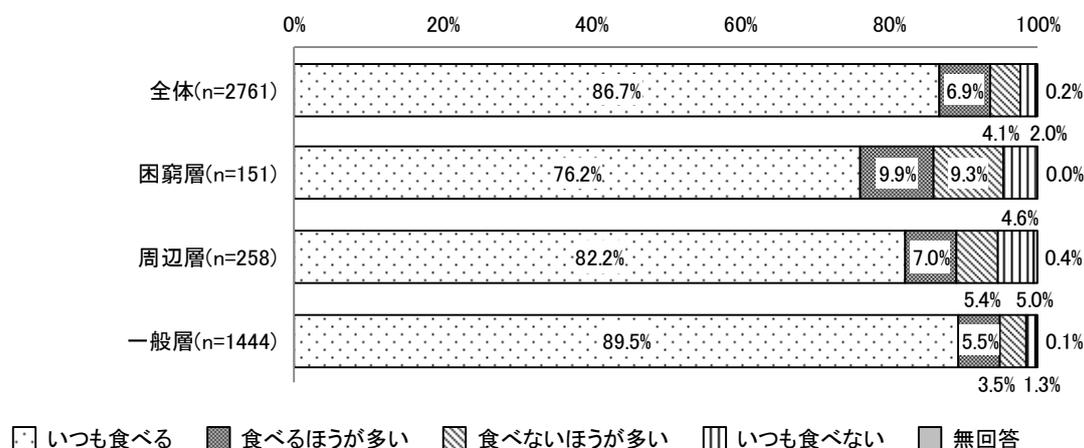
中学生の「全体」では、「いつも食べる」が86.7%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が6.9%となっている。生活困難度別にみると、「いつも食べる」の割合は、一般層(89.5%)、周辺層(82.2%)、困窮層(76.2%)の順に高い。

図表 109 【子ども】Q22 平日に毎日、朝ごはんを食べているか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)

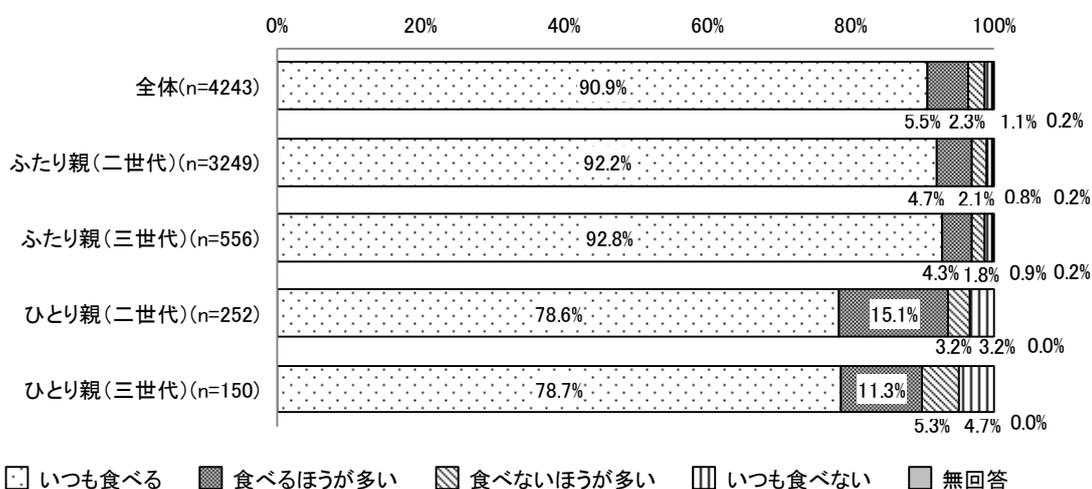


小学生について、世帯タイプ別にみると、「いつも食べる」の割合は、ふたり親（三世代）（92.8%）、ふたり親（二世帯）（92.2%）、ひとり親（三世代）（78.7%）、ひとり親（二世帯）78.6%の順に高い。

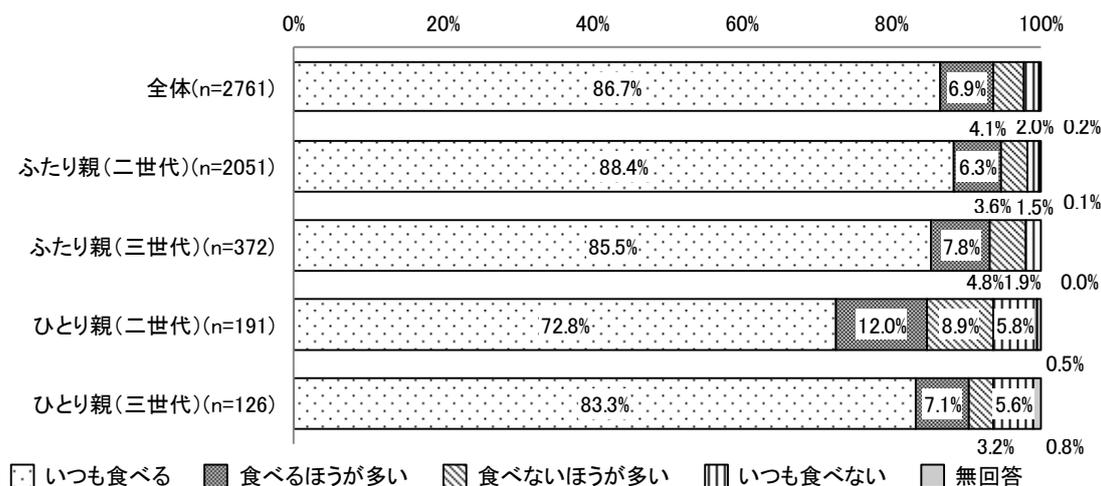
中学生について、世帯タイプ別にみると、「いつも食べる」の割合は、ふたり親（二世帯）（88.4%）、ふたり親（三世代）（85.5%）、ひとり親（三世代）（83.3%）、ひとり親（二世帯）72.8%の順に高い。

図表 110 【子ども】 Q22 平日に毎日、朝ごはんを食べているか:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



## ②【子ども】Q23 朝食を食べない理由

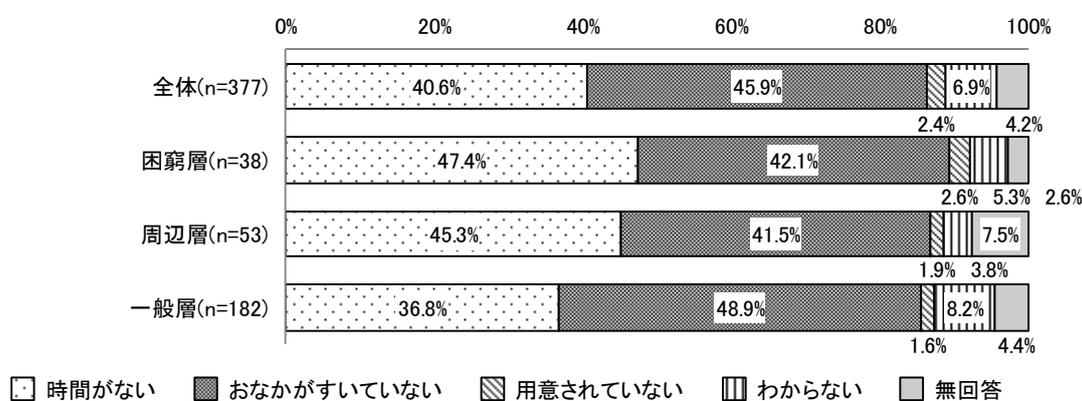
小学生の「全体」では、「おなかがすいていない」が45.9%でもっとも割合が高く、次いで「時間がない」が40.6%となっている。

中学生の「全体」では、「時間がない」が45.2%でもっとも割合が高く、次いで「おなかがすいていない」が42.1%となっている。

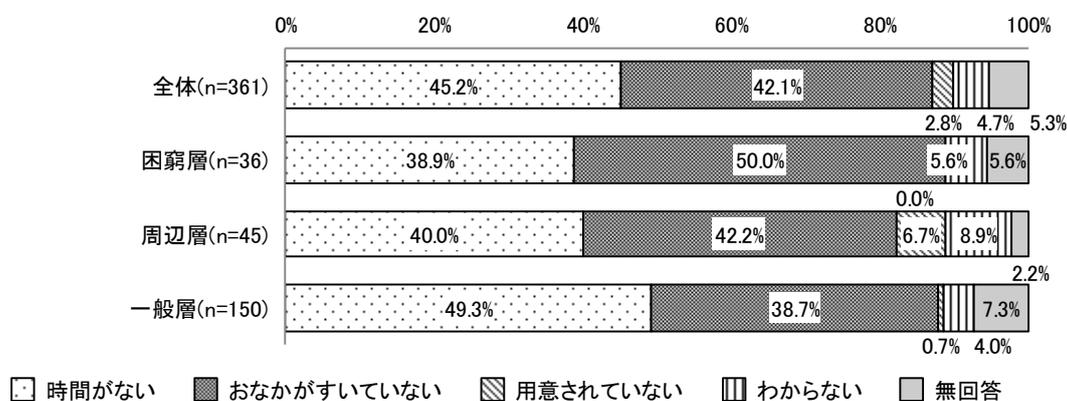
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 111 【子ども】Q23 朝食を食べない理由:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)

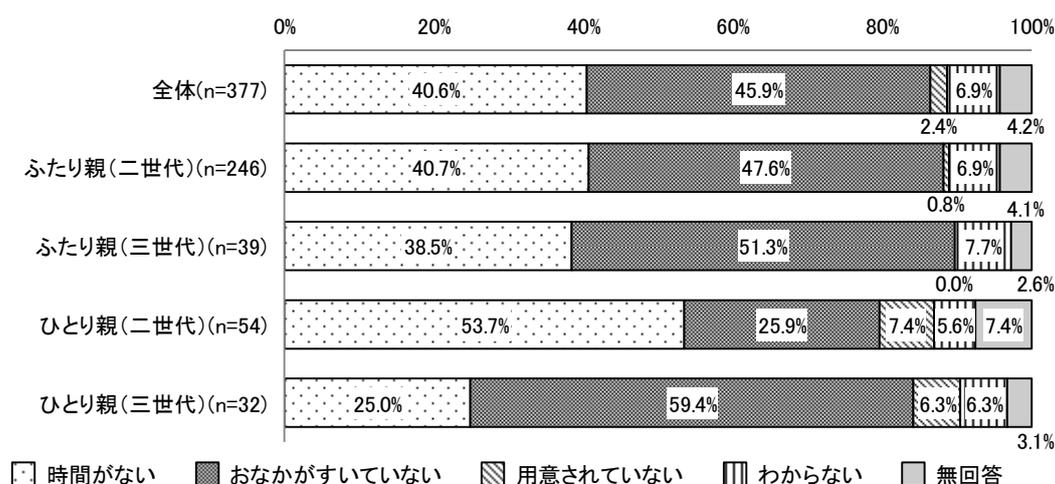


小学生について、世帯タイプ別にみると、「時間がない」の回答割合は、ひとり親（二世帯）（53.7%）、ふたり親（二世帯）（40.7%）、ふたり親（三世帯）（38.5%）、ひとり親（三世帯）（25.0%）の順に高い。また、「用意されていない」の回答割合は、ふたり親世帯ではほぼ0%であるのに対し、ひとり親世帯では約6~7%となっている。

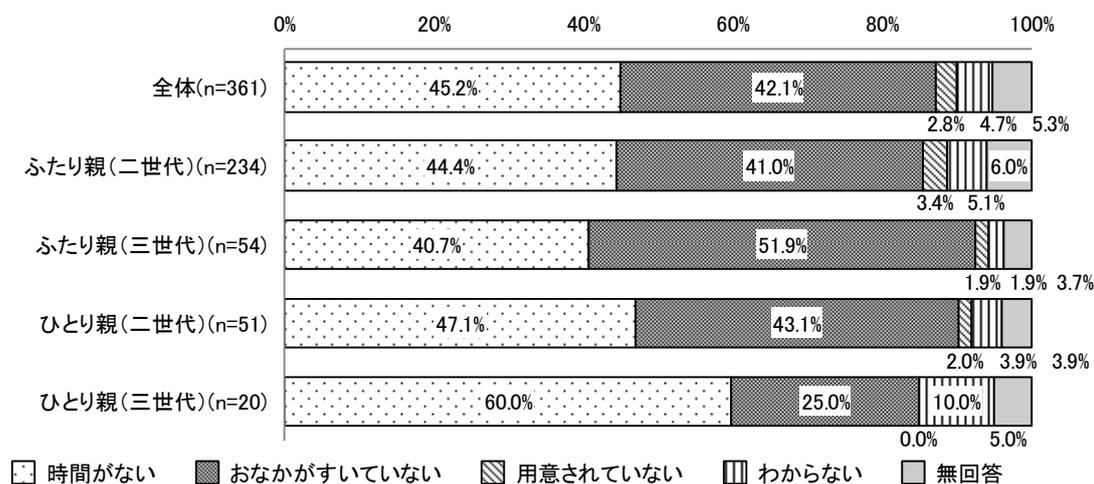
中学生について、世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 112 【子ども】 Q23 朝食を食べない理由:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



③【子ども】Q24 平日に毎日、夕ごはんを食べるか

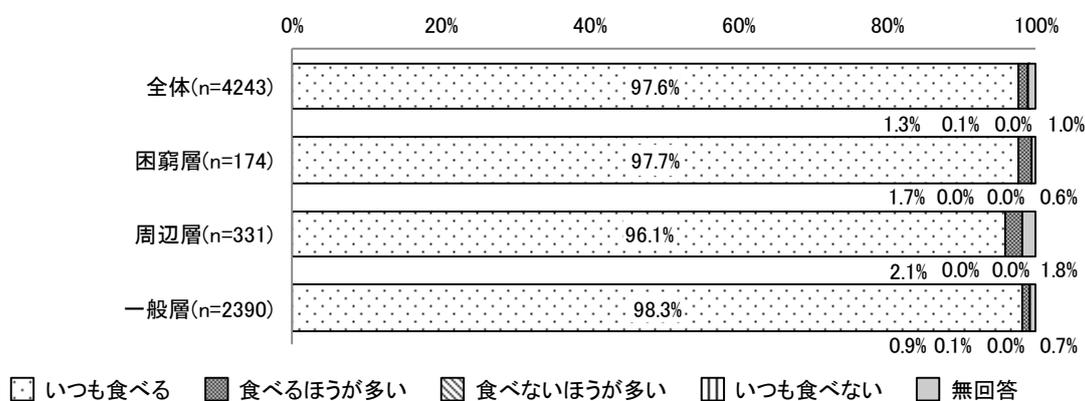
小学生の「全体」では、「いつも食べる」が97.6%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が1.3%となっている。

中学生の「全体」では、「いつも食べる」が95.9%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が2.6%となっている。

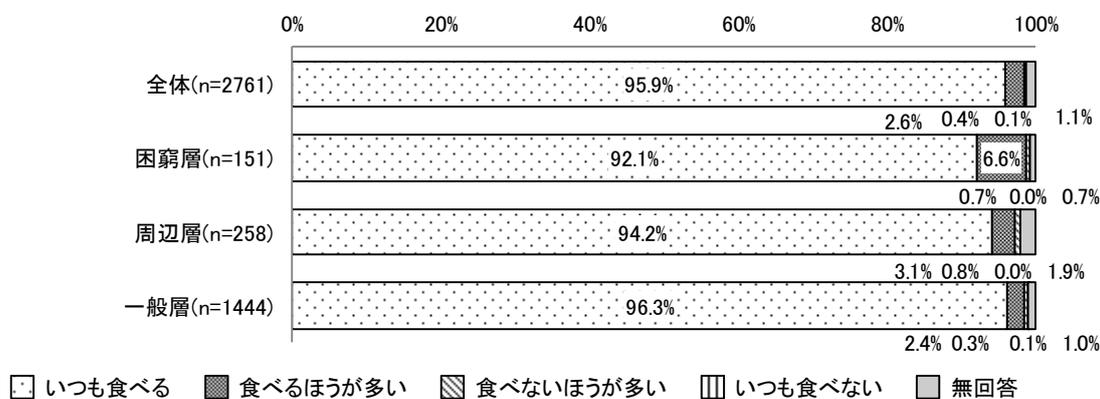
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 113 【子ども】Q24 平日に毎日、夕ごはんを食べるか:単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



#### ④【子ども】Q25 夕食を食べない理由

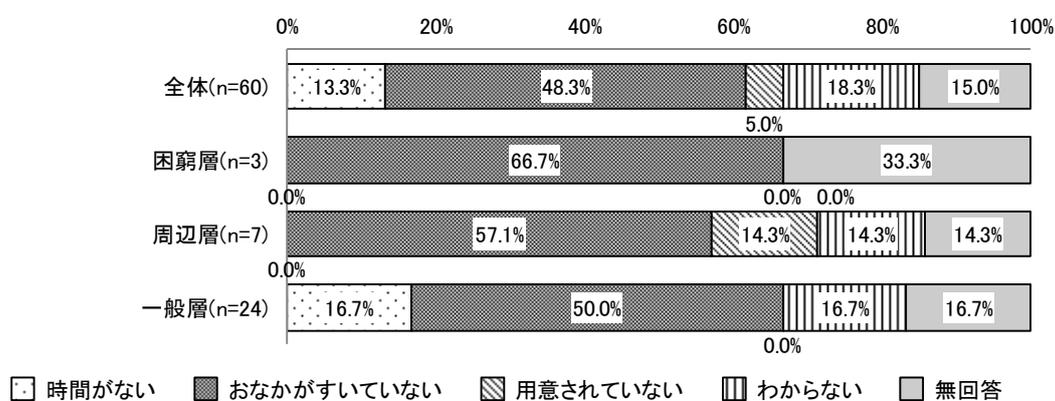
小学生の「全体」では、「おなかがすいていない」が48.3%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が18.3%となっている。

中学生の「全体」では、「おなかがすいていない」が60.2%でもっとも割合が高く、次いで「時間がない」が21.7%となっている。

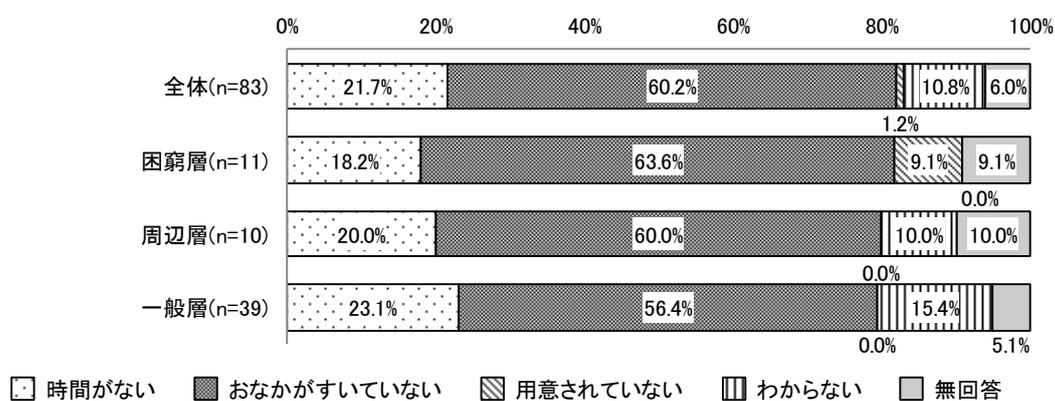
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 114 【子ども】Q25 夕食を食べない理由:単数回答 (生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



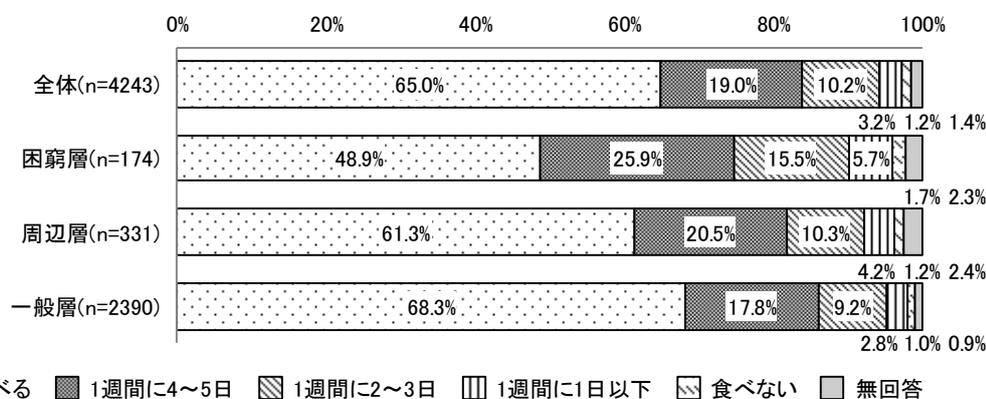
⑤【子ども】Q26-1 食べる頻度\_野菜

小学生の「全体」では、「毎日食べる」が65.0%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に4～5日」が19.0%となっている。生活困難度別にみると、「毎日食べる」の割合は、一般層（68.3%）、周辺層（61.3%）、困窮層（48.9%）の順に高い。

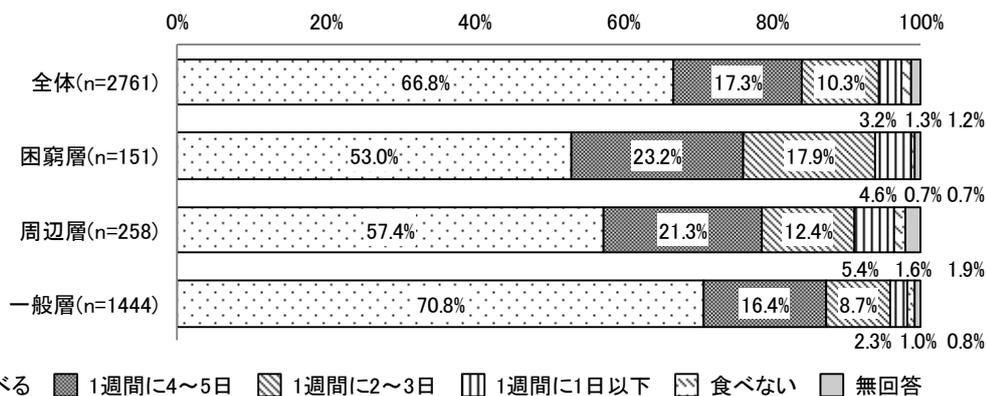
中学生の「全体」では、「毎日食べる」が66.8%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に4～5日」が17.3%となっている。生活困難度別にみると、「毎日食べる」の割合は、一般層（70.8%）、周辺層（57.4%）、困窮層（53.0%）の順に高い。

図表 115 【子ども】Q26-1 食べる頻度\_野菜:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)

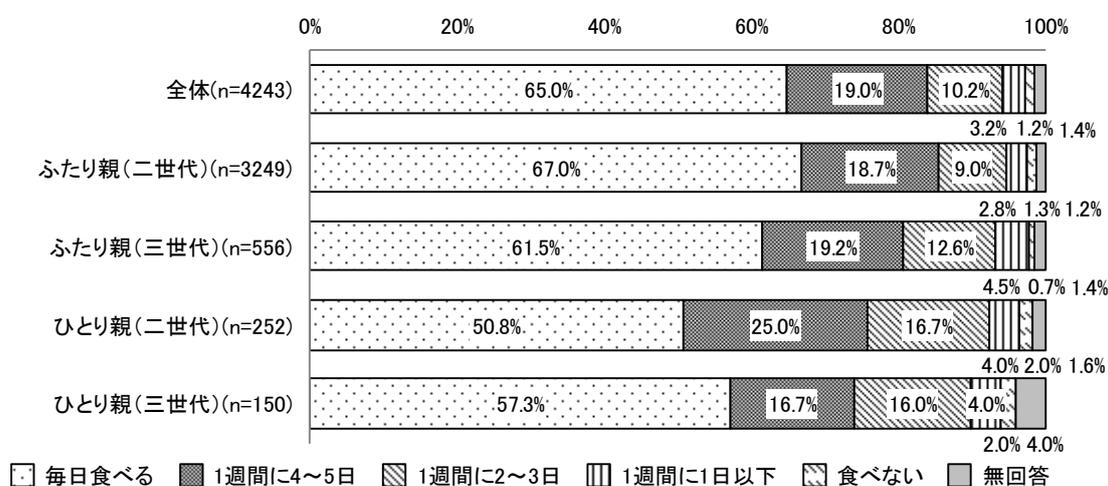


小学生について、世帯タイプ別にみると、「毎日食べる」の割合は、ふたり親（二世  
代）（67.0%）、ふたり親（三世代）（61.5%）、ひとり親（三世代）（57.3%）、ひとり親  
（二世代）（50.8%）の順に高い。

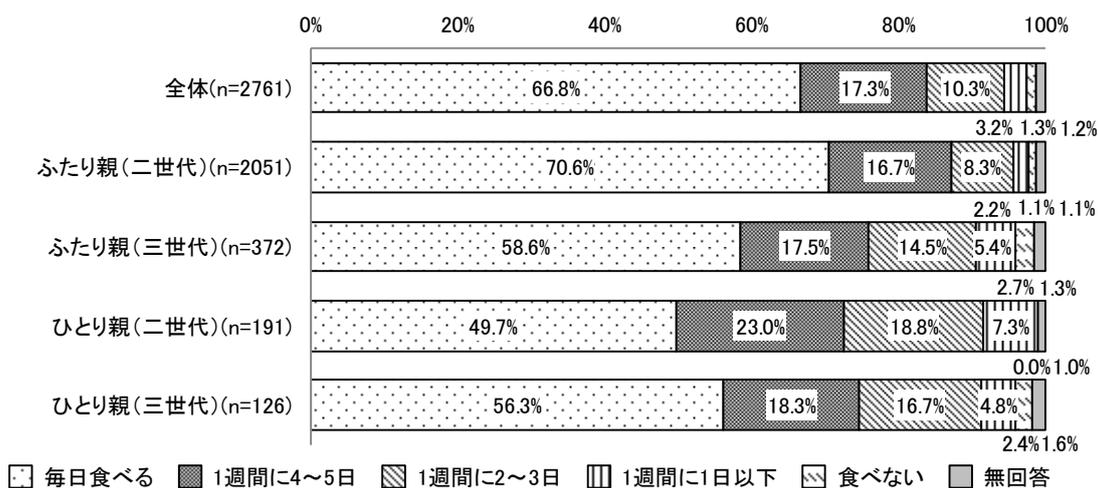
中学生について、世帯タイプ別にみると、「毎日食べる」の割合は、ふたり親（二世  
代）（70.6%）、ふたり親（三世代）（58.6%）、ひとり親（三世代）（56.3%）、ひとり親  
（二世代）（49.7%）の順に高い。

図表 116 【子ども】 Q26-1 食べる頻度\_野菜:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



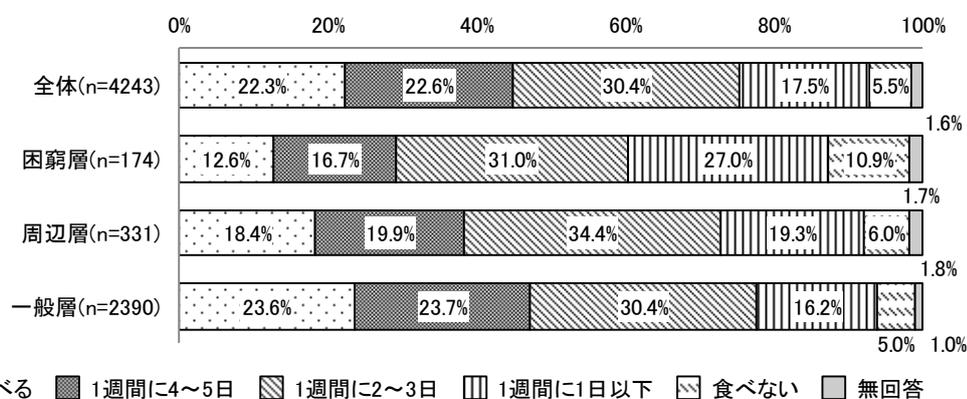
⑥【子ども】Q26-2 食べる頻度\_くだもの

小学生の「全体」では、「1週間に2～3日」が30.4%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に4～5日」が22.6%となっている。生活困難度別にみると、「毎日食べる」の割合は、一般層（23.6%）、周辺層（18.4%）、困窮層（12.6%）の順に高い。

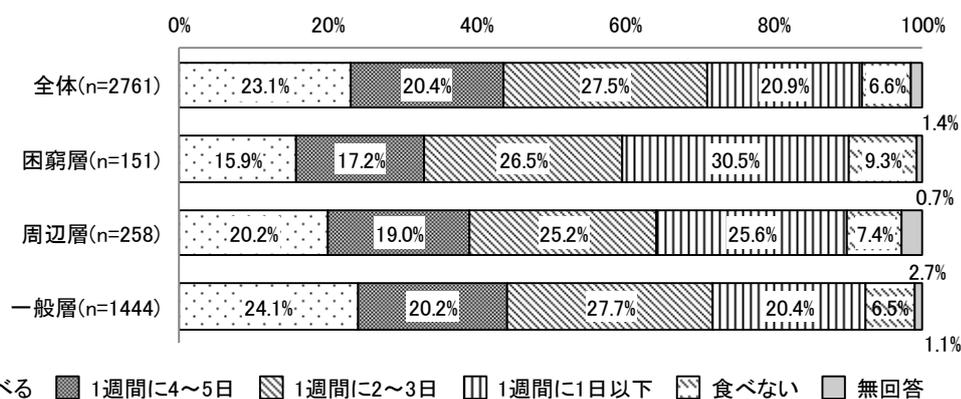
中学生の「全体」では、「1週間に2～3日」が27.5%でもっとも割合が高く、次いで「毎日食べる」が23.1%となっている。生活困難度別にみると、「毎日食べる」の割合は、一般層（24.1%）、周辺層（20.2%）、困窮層（15.9%）の順に高い。

図表 117 【子ども】Q26-2 食べる頻度\_くだもの:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)

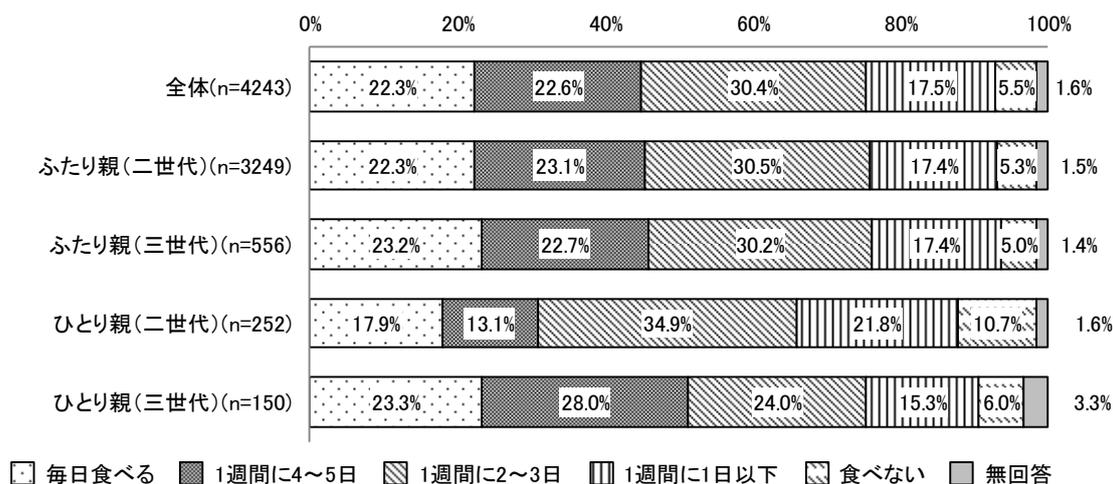


小学生について、世帯タイプ別にみると、「毎日食べる」の割合は、ひとり親（三世代）（23.3%）、ふたり親（三世代）（23.2%）、ふたり親（二世帯）（22.3%）、ひとり親（二世帯）（17.9%）の順に高い。

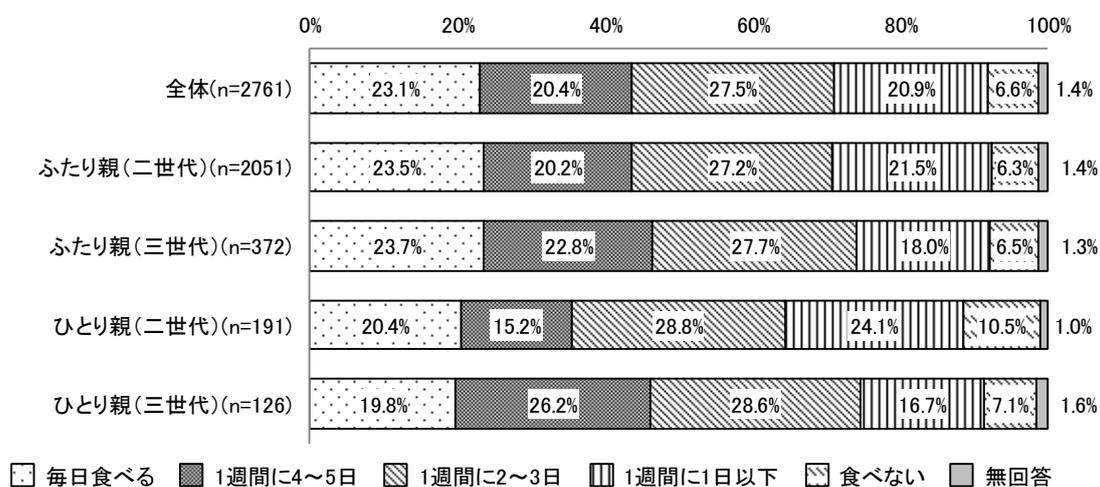
中学生について、世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 118 【子ども】 Q26-2 食べる頻度\_くだもの:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



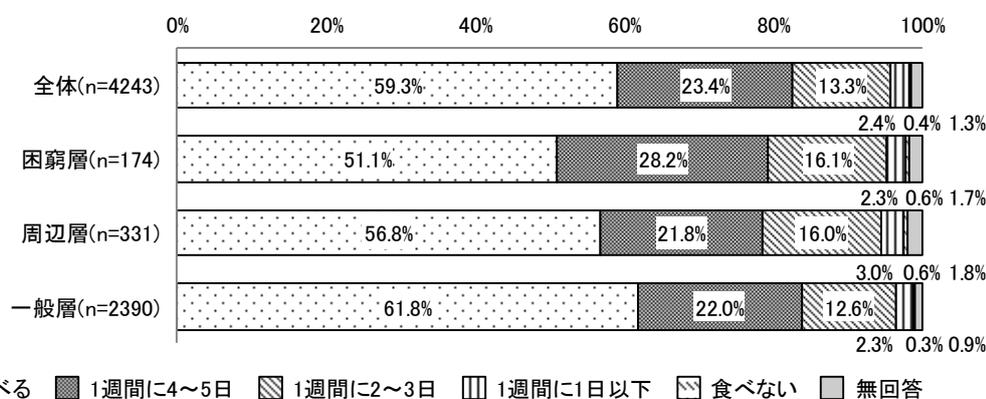
⑦【子ども】Q26-3 食べる頻度\_肉か魚

小学生の「全体」では、「毎日食べる」が59.3%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に4～5日」が23.4%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

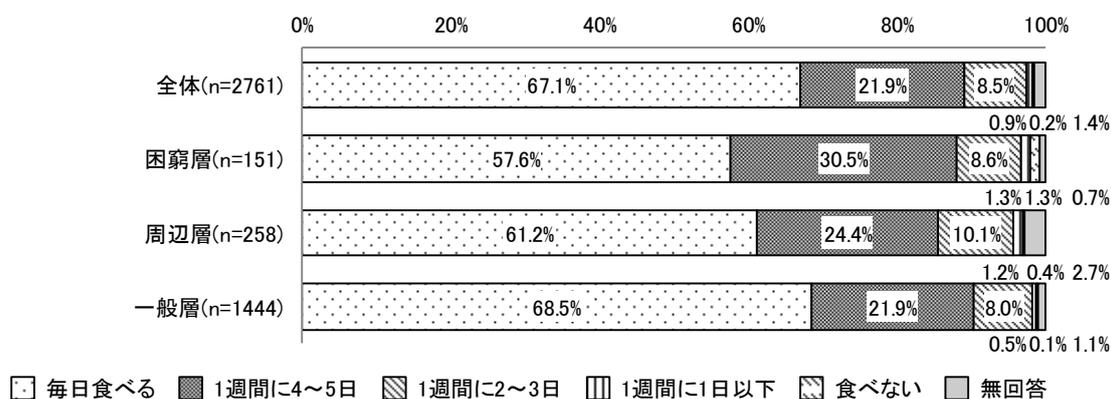
中学生の「全体」では、「毎日食べる」が67.1%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に4～5日」が21.9%となっている。生活困難度別にみると、「毎日食べる」の割合は、一般層（68.5%）、周辺層（61.2%）、困窮層（57.6%）の順に高い。

図表 119 【子ども】Q26-3 食べる頻度\_肉か魚:単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（p<.01）

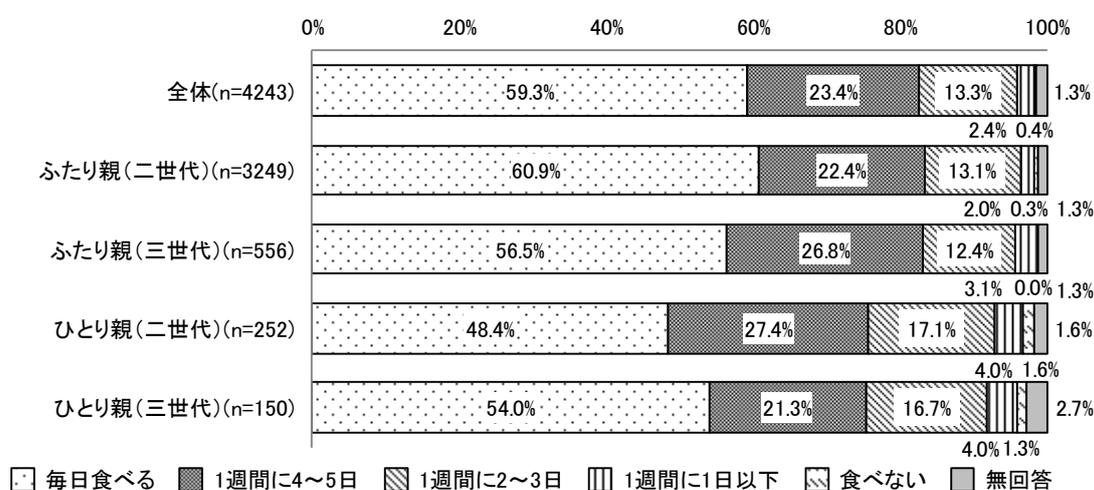


小学生について、世帯タイプ別にみると、「毎日食べる」の割合は、ふたり親（二世  
代）（60.9%）、ふたり親（三世代）（56.5%）、ひとり親（三世代）（54.0%）、ひとり親  
（二世代）（48.4%）の順に高い。

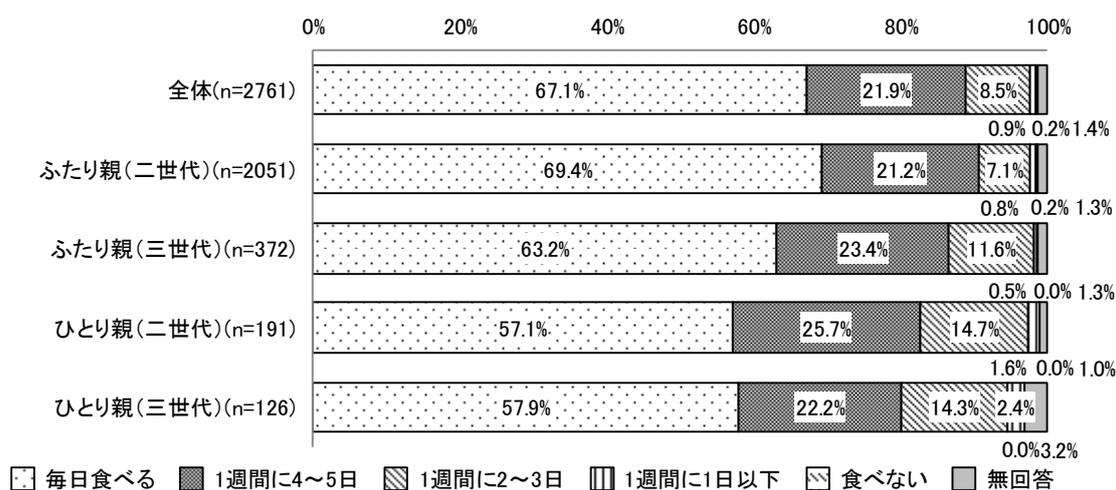
中学生について、世帯タイプ別にみると、「毎日食べる」の割合は、ふたり親（二世  
代）（69.4%）、ふたり親（三世代）（63.2%）、ひとり親（三世代）（57.9%）、ひとり親  
（二世代）（57.1%）の順に高い。

図表 120 【子ども】 Q26-3 食べる頻度\_肉か魚:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



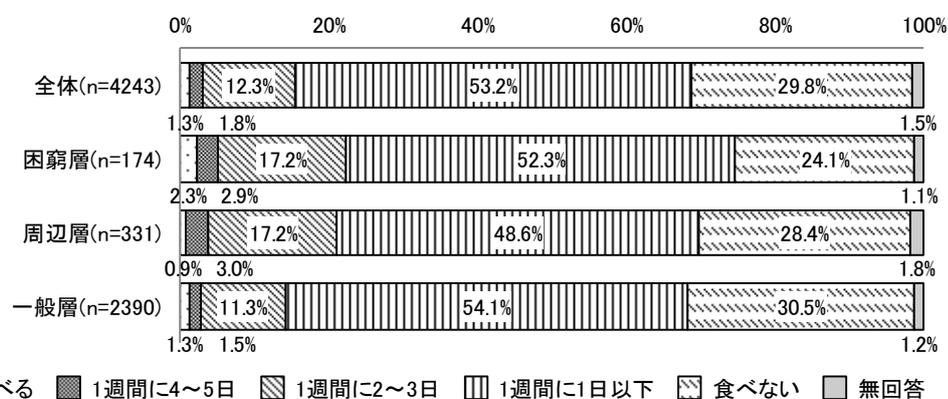
⑧ 【子ども】 Q26-4 食べる頻度\_カップめん・インスタントめん

小学生の「全体」では、「1週間に1日以下」が53.2%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が29.8%となっている。生活困難度別にみると、「食べない」の割合が一般層(30.5%)、周辺層(28.4%)、困窮層(24.1%)の順に高い。

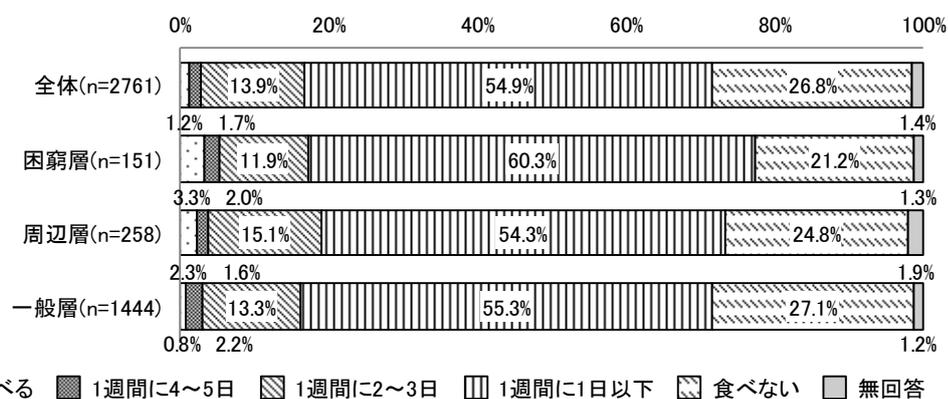
中学生の「全体」では、「1週間に1日以下」が54.9%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が26.8%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 121 【子ども】 Q26-4 食べる頻度\_カップめん・インスタントめん:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)

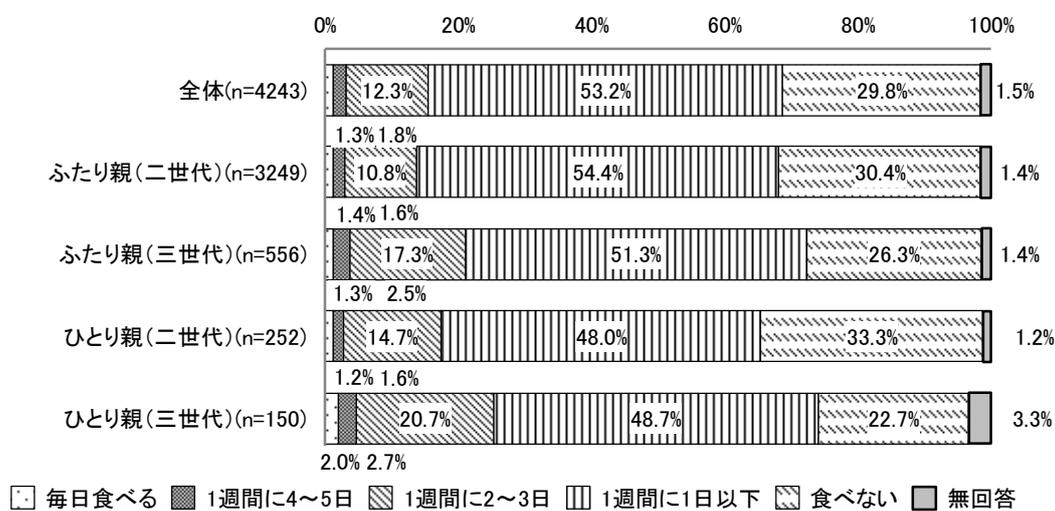


小学生について、世帯タイプ別にみると、「食べない」の回答割合は、ひとり親（二世帯）（33.3%）、ふたり親（二世帯）（30.4%）、ふたり親（三世帯）（26.3%）、ひとり親（三世帯）（22.7%）の順に高い。

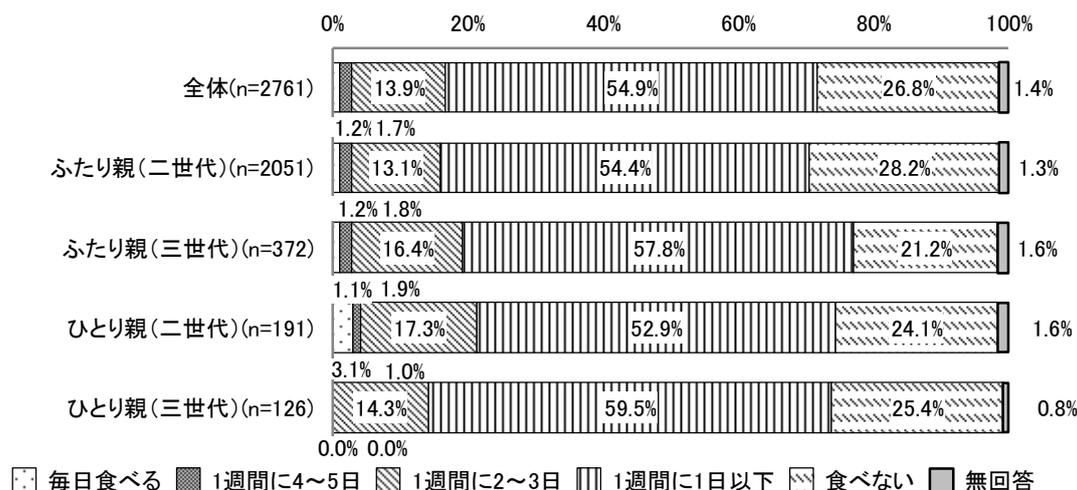
中学生について、世帯タイプ別にみると、「食べない」の回答割合は、ふたり親（二世帯）（28.2%）、ひとり親（三世帯）（25.4%）、ひとり親（二世帯）（24.1%）、ふたり親（三世帯）（21.2%）の順に高い。

図表 122 【子ども】 Q26-4 食べる頻度\_カップめん・インスタントめん:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



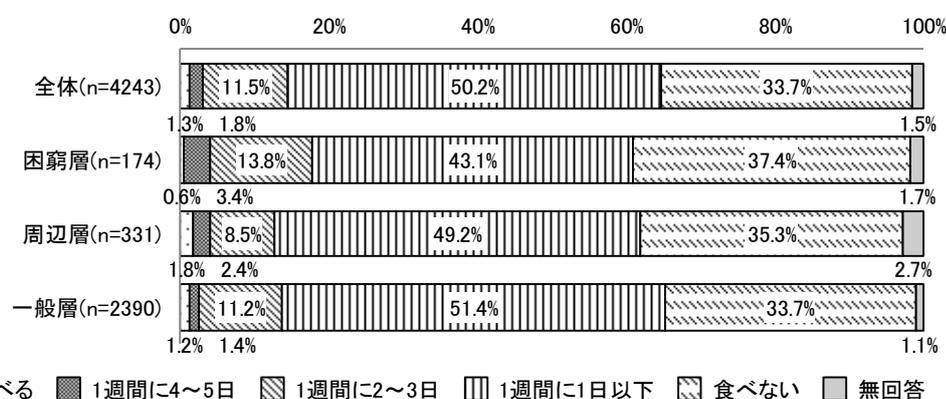
⑨【子ども】Q26-5 食べる頻度\_コンビニのおにぎり・お弁当

小学生の「全体」では、「1週間に1日以下」が50.2%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が33.7%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

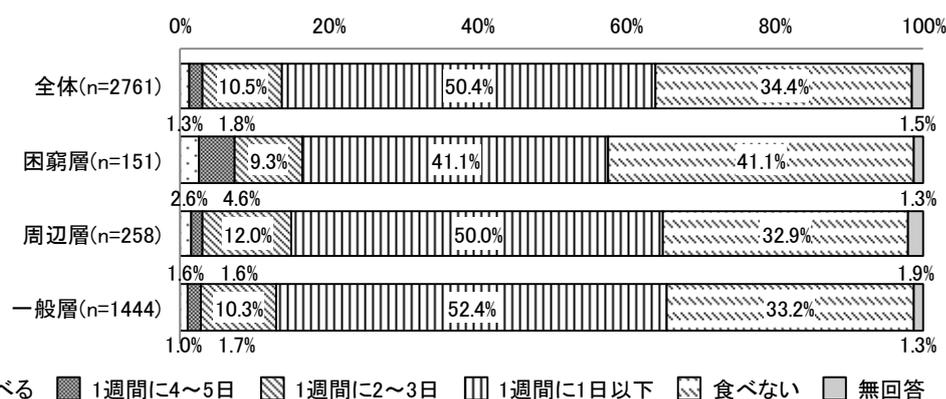
中学生の「全体」では、「1週間に1日以下」が50.4%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が34.4%となっている。生活困難度別にみると、「食べない」の回答割合は、困窮層（41.1%）、一般層（33.2%）、周辺層（32.9%）の順に高い。一方、「毎日食べる」「1週間に4~5日」を合計した割合は、困窮層で7.2%となっている。

図表 123 【子ども】Q26-5 食べる頻度\_コンビニのおにぎり・お弁当:単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（p<.05）

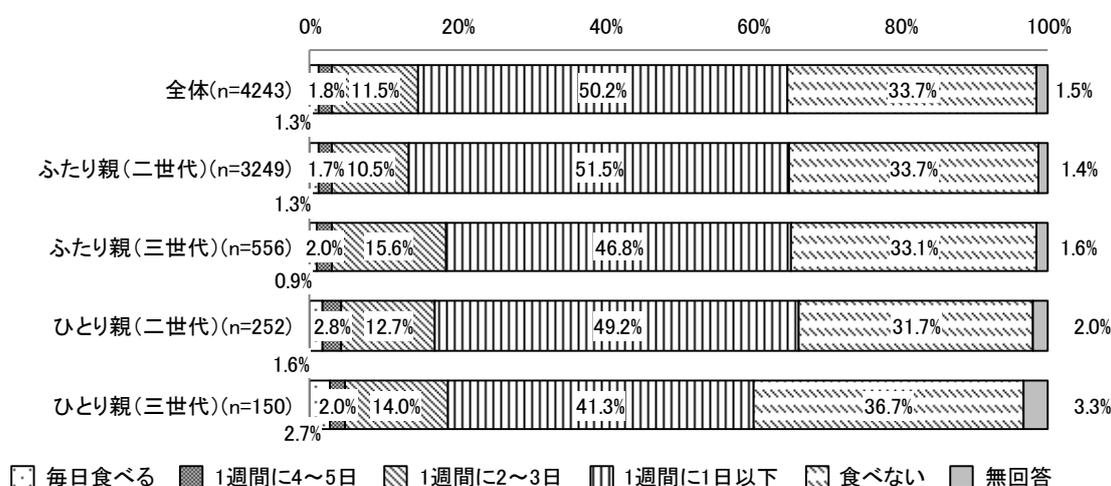


小学生について、世帯タイプ別にみると、「1週間に1日以下」の割合は、ふたり親（二世帯）（51.5%）、ひとり親（二世帯）（49.2%）、ふたり親（三世帯）（46.8%）、ひとり親（三世帯）（41.3%）の順に高い。

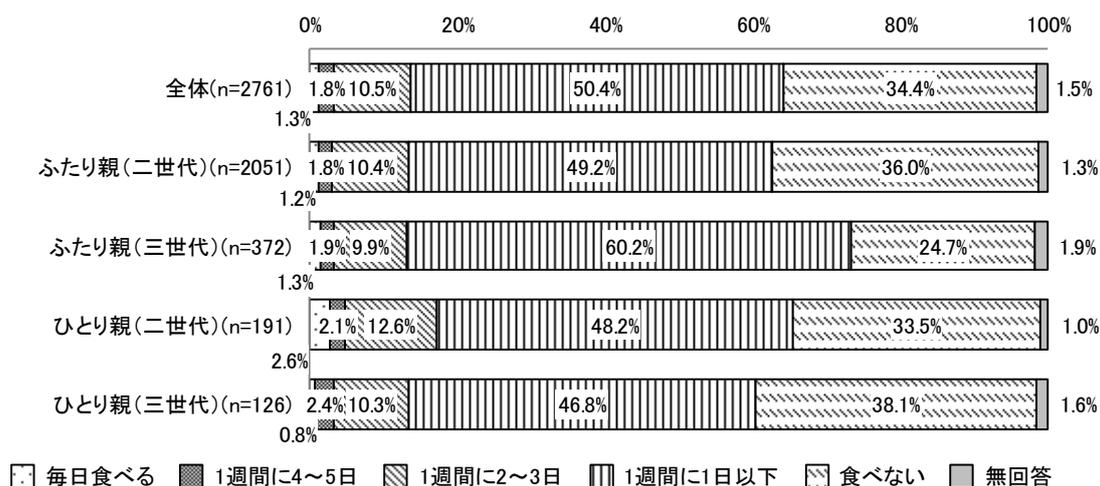
中学生について、世帯タイプ別にみると、「1週間に1日以下」の割合は、ふたり親（三世帯）（60.2%）、ふたり親（二世帯）（49.2%）、ひとり親（二世帯）（48.2%）、ひとり親（三世帯）（46.8%）の順に高い。

図表 124 【子ども】Q26-5 食べる頻度\_コンビニのおにぎり・お弁当:単数回答(世帯タイプ別)

<小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.05)



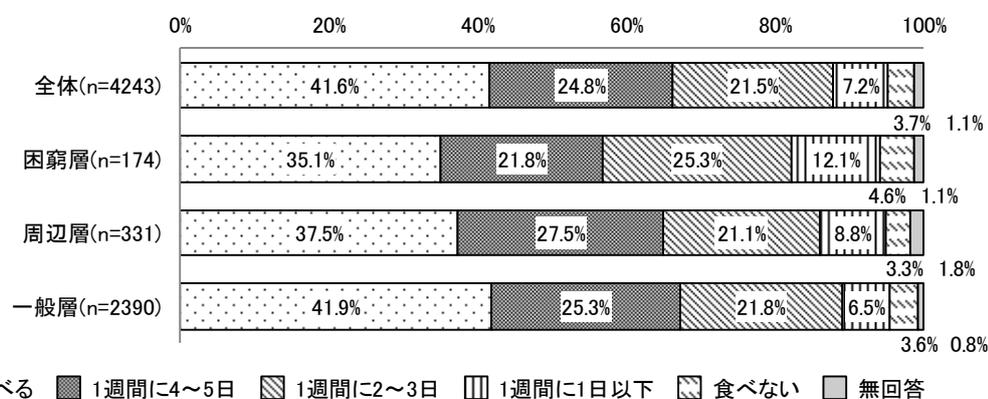
⑩【子ども】Q26-6 食べる頻度\_お菓子

小学生の「全体」では、「毎日食べる」が41.6%でもっとも割合が高く、次いで「1週間に4～5日」が24.8%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

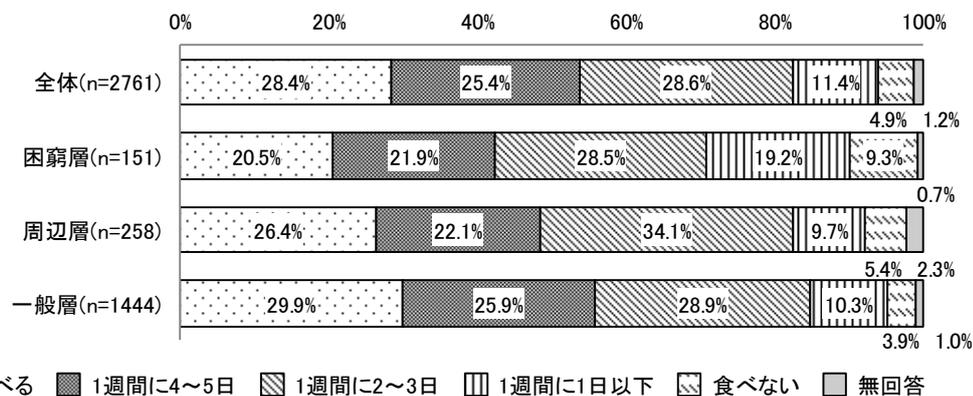
中学生の「全体」では、「1週間に2～3日」が28.6%でもっとも割合が高く、次いで「毎日食べる」が28.4%となっている。生活困難度別にみると、「毎日食べる」の割合が一般層(29.9%)、周辺層(26.4%)、困窮層(20.5%)の順に高い。

図表 125 【子ども】Q26-6 食べる頻度\_お菓子:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (p<.01)

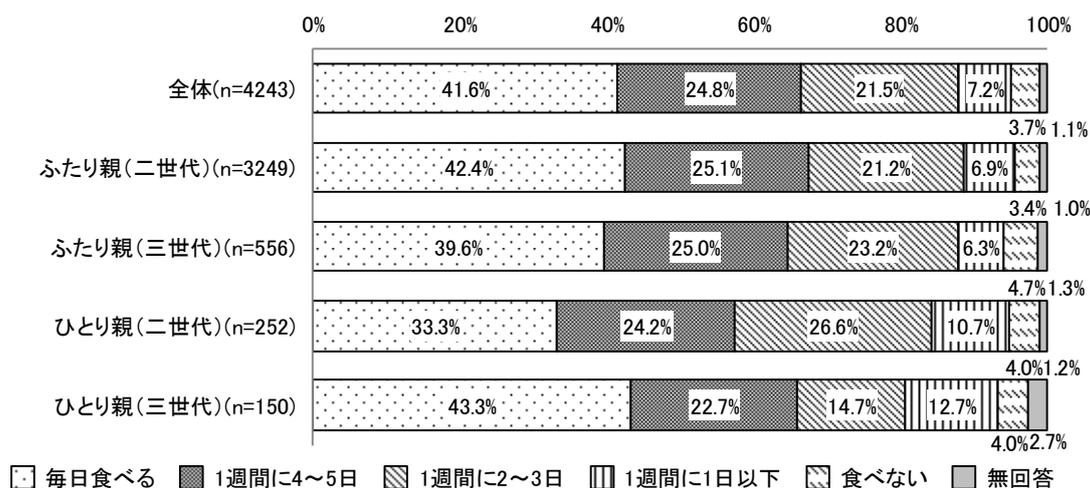


小学生について、世帯タイプ別にみると、「毎日食べる」の割合は、ひとり親（三世代）（43.3%）、ふたり親（二世帯）（42.4%）、ふたり親（三世代）（39.6%）、ひとり親（二世帯）（33.3%）の順に高い。

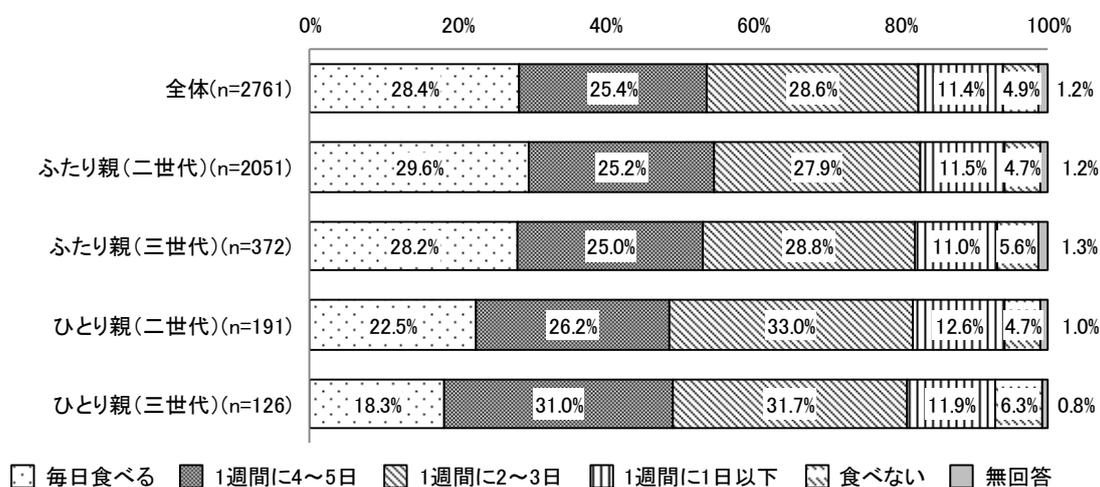
中学生について、世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 126 【子ども】 Q26-6 食べる頻度\_お菓子:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)



(8) 居場所支援等の利用意向

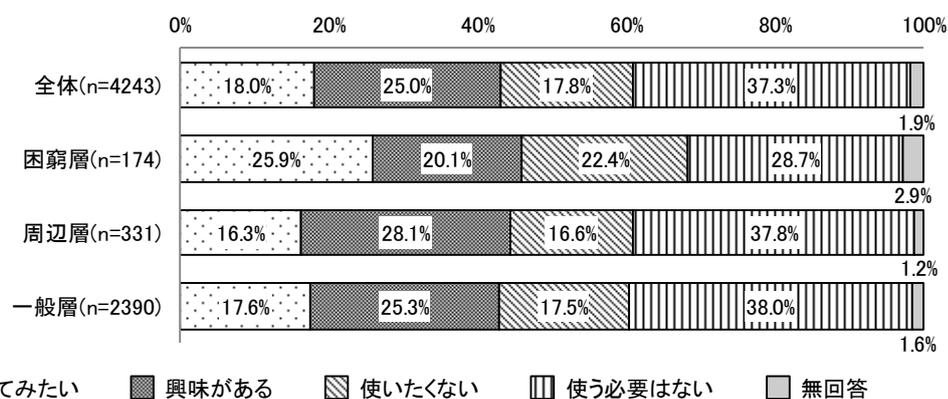
① 【子ども】 Q39-1 平日の放課後に夜までいることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が37.3%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が25.0%となっている。生活困難度別にみると、「使う必要はない」の割合は、一般層(38.0%)、周辺層(37.8%)、困窮層(28.7%)の順に高い。

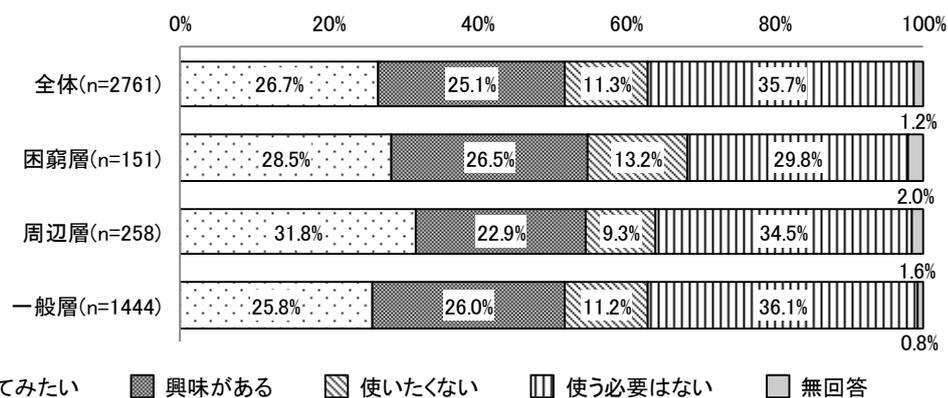
中学生の中学生の「全体」では、「使う必要はない」が35.7%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が26.7%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 127 【子ども】 Q39-1 平日の放課後に夜までいることができる場所:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (p<.05)



<中学生> (有意差なし)

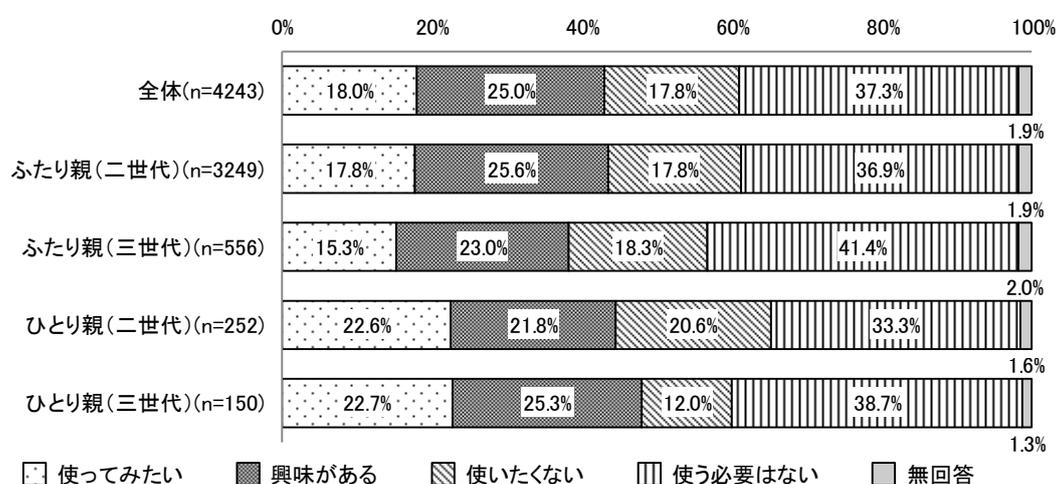


小学生について、世帯タイプ別にみると、「使ってみたい」の割合は、ひとり親（三世代）（22.7%）、ひとり親（二世代）（22.6%）、ふたり親（二世代）（17.8%）、ふたり親（三世代）（15.3%）の順に高い。

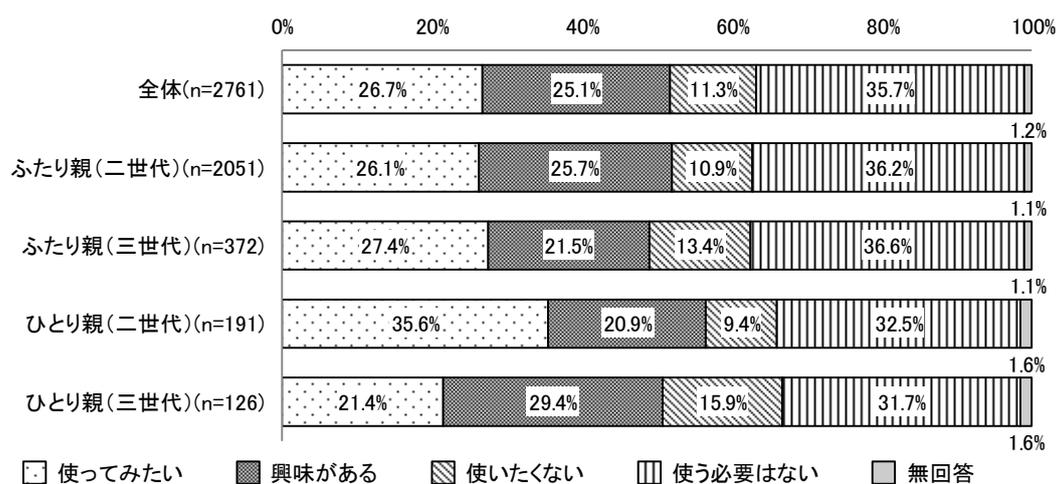
中学生について、世帯タイプ別にみると、「使ってみたい」の割合は、ひとり親（二世代）（35.6%）、ふたり親（三世代）（27.4%）、ふたり親（二世代）（26.1%）、ひとり親（三世代）（21.4%）の順に高い。

図表 128 【子ども】 Q39-1 平日の放課後に夜までいることができる場所:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.05)



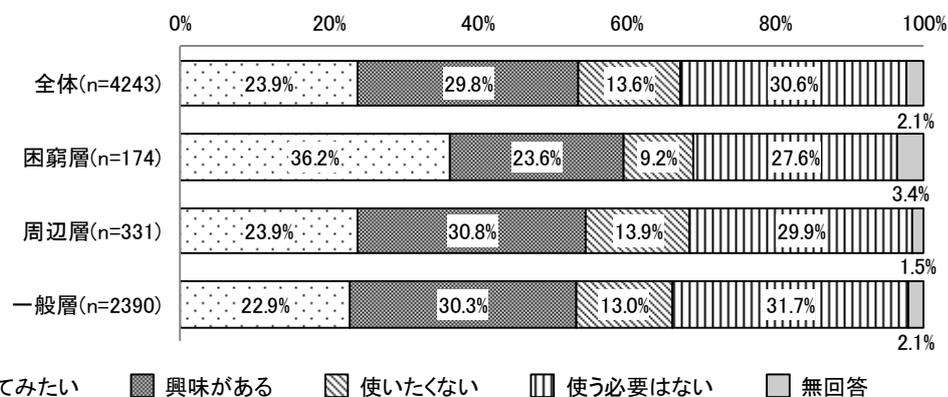
②【子ども】Q39-2 休日にいることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が30.6%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が29.8%となっている。生活困難度別にみると、「使ってみたい」の割合は、困窮層（36.2%）、周辺層（23.9%）、一般層（22.9%）の順に高い。

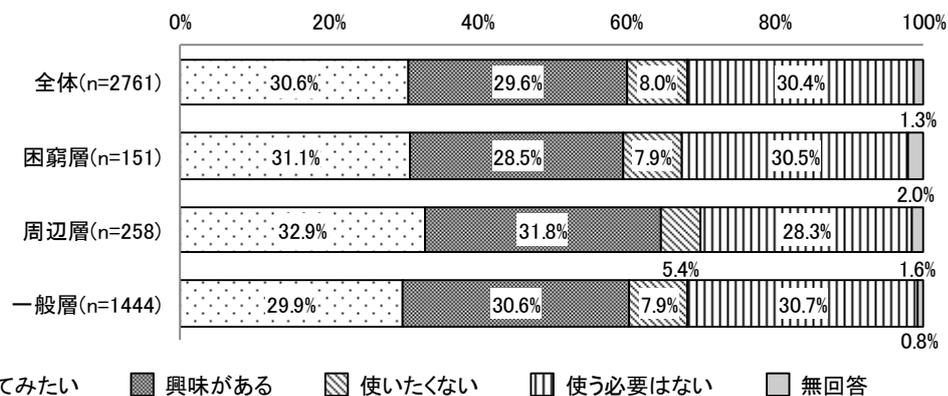
中学生の「全体」では、「使ってみたい」が30.6%でもっとも割合が高く、次いで「使う必要はない」が30.4%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 129 【子ども】Q39-2 休日にいることができる場所:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



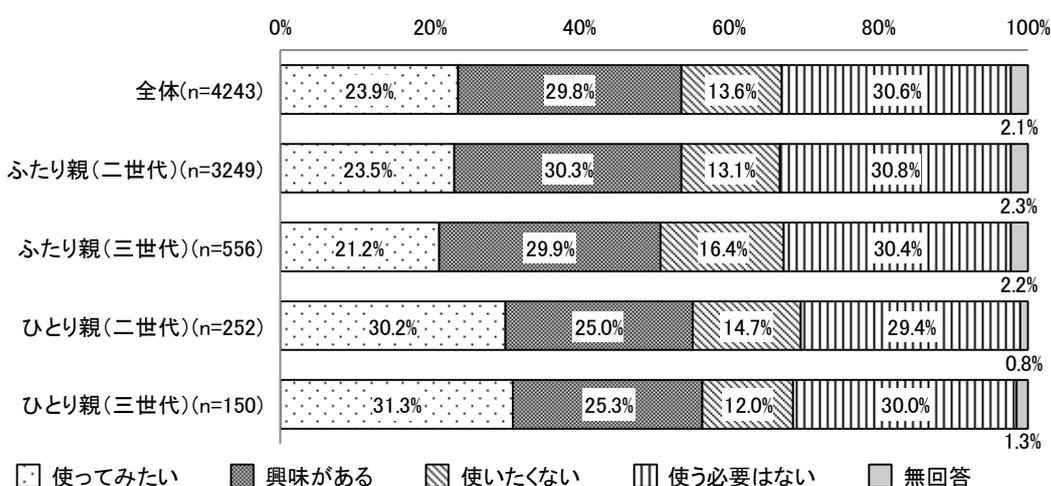
<中学生> (有意差なし)



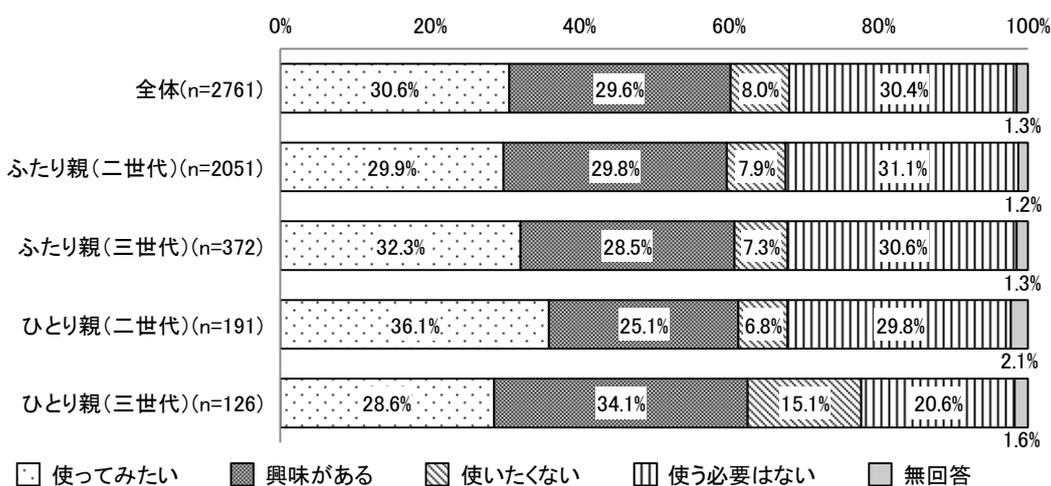
小学生について、世帯タイプ別にみると、「使ってみたい」の割合は、ひとり親（三世代）（31.3%）、ひとり親（二世代）（30.2%）、ふたり親（二世代）（23.5%）、ふたり親（三世代）（21.2%）の順に高い。

中学生について、世帯タイプ別にみると、「使ってみたい」の割合は、ひとり親（二世代）（36.1%）、ふたり親（三世代）（32.3%）、ふたり親（二世代）（29.9%）、ひとり親（三世代）（28.6%）の順に高い。

図表 130 【子ども】 Q39-2 休日にいることができる場所:単数回答（世帯タイプ別）  
 <小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.05)



③【子ども】Q39-3 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

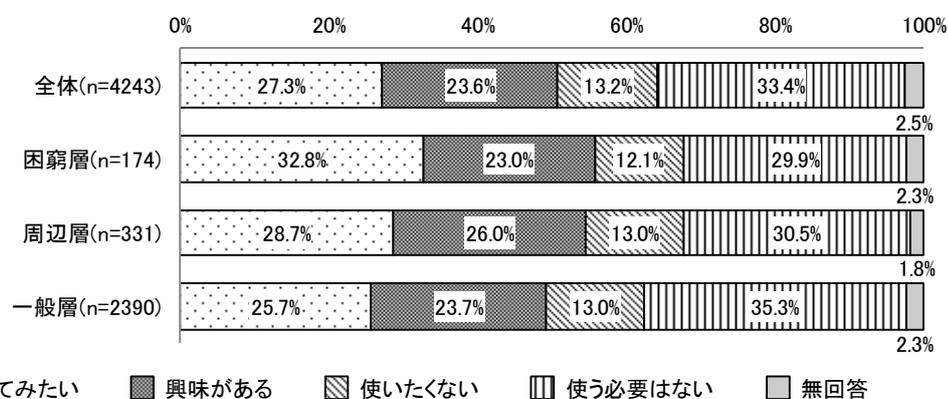
小学生の「全体」では、「使う必要はない」が33.4%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が27.3%となっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が41.1%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が22.6%となっている。

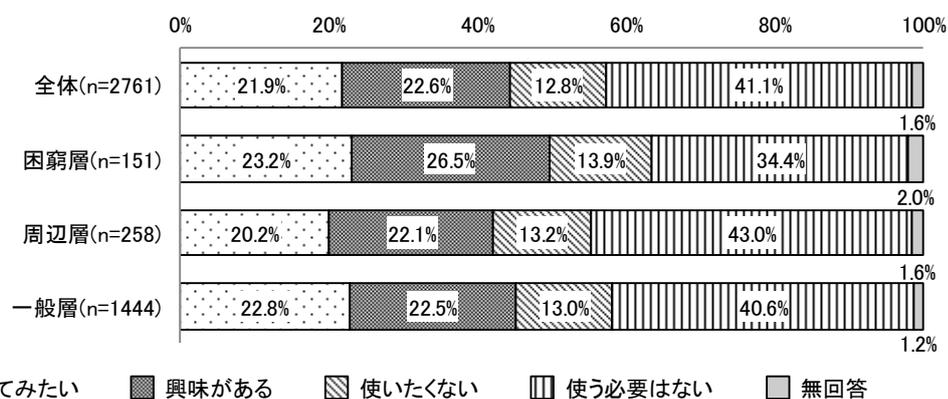
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 131 【子ども】Q39-3 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所：単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



④【子ども】Q39-4 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所

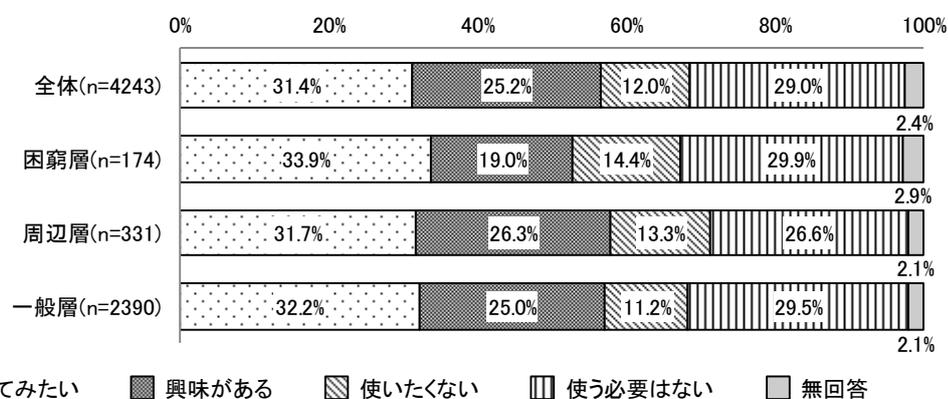
小学生の「全体」では、「使ってみたい」が31.4%でもっとも割合が高く、次いで「使う必要はない」が29.0%となっている。

中学生の「全体」では、「使ってみたい」が35.8%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が28.6%となっている。

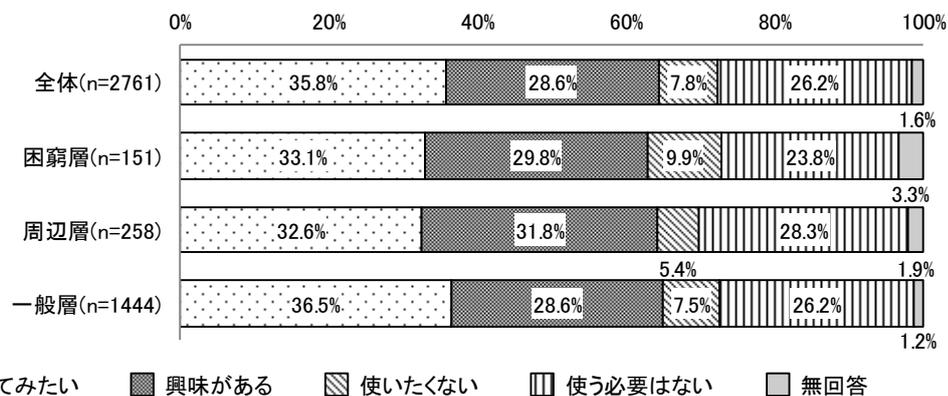
世帯タイプ別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 132 【子ども】Q39-4 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所:  
単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



⑤【子ども】Q39-5 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所

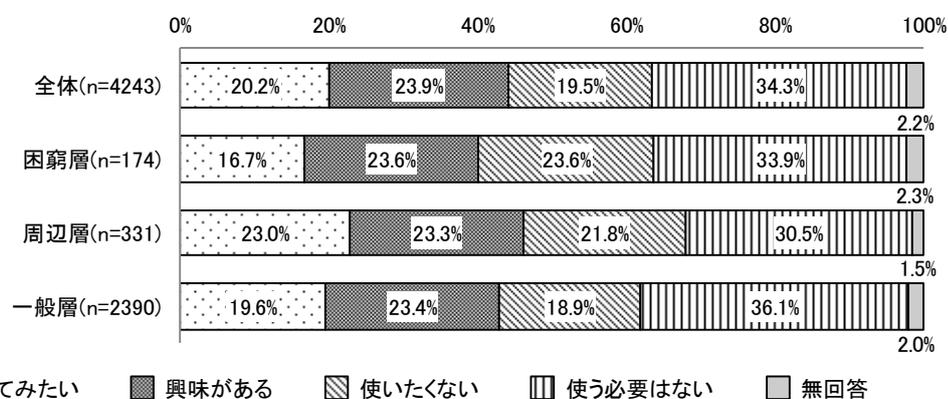
小学生の「全体」では、「使う必要はない」が34.3%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が23.9%となっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が33.6%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が26.6%となっている。

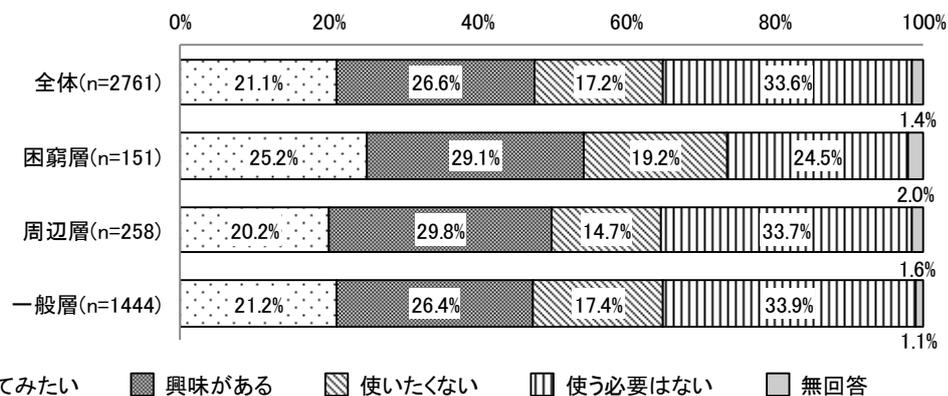
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 133 【子ども】Q39-5 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所：単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



⑥【子ども】Q39-6 なんでも相談できる場所

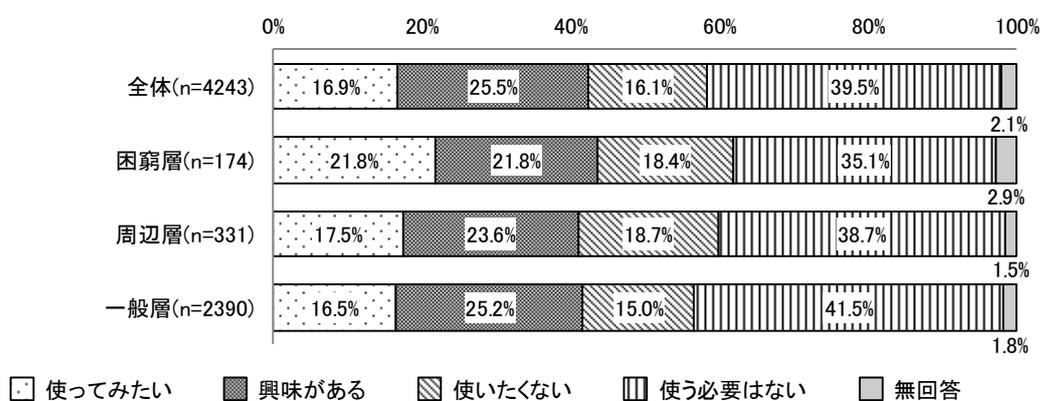
小学生の「全体」では、「使う必要はない」が39.5%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が25.5%となっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が45.1%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が22.5%となっている。

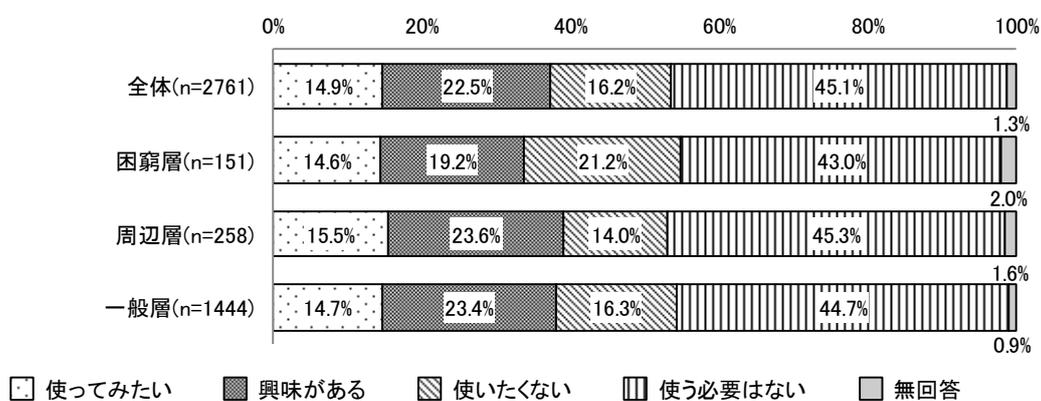
世帯タイプ別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 134 【子ども】Q39-6 なんでも相談できる場所:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑦【子ども】Q39-7 困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人

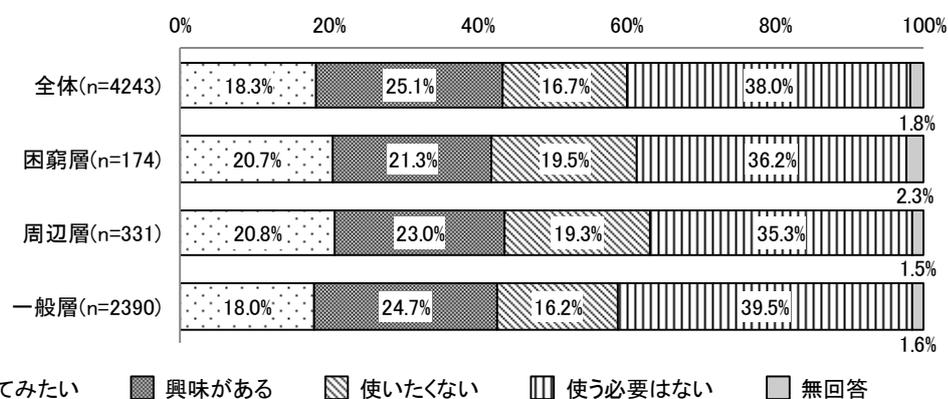
小学生の「全体」では、「使う必要はない」が38.0%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が25.1%となっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が45.5%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が22.1%となっている。

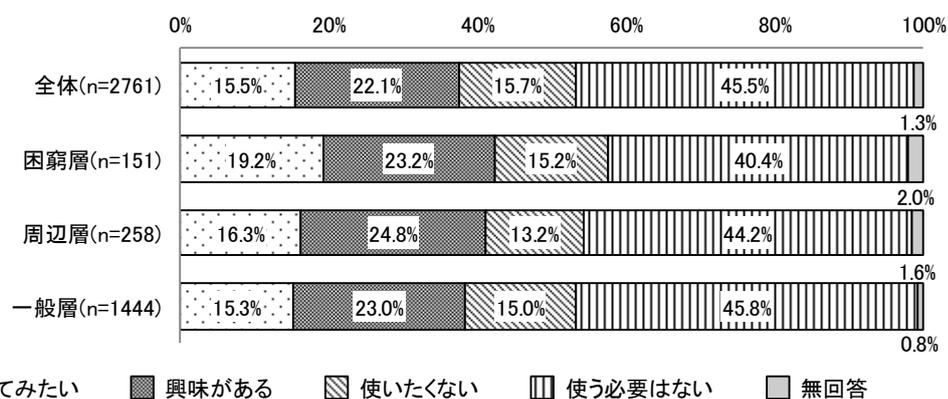
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 135 【子ども】Q39-7 困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人：  
単数回答（生活困難度別）

<小学生>（有意差なし）



<中学生>（有意差なし）



## 5. 子ども及び保護者の健康・自己肯定感

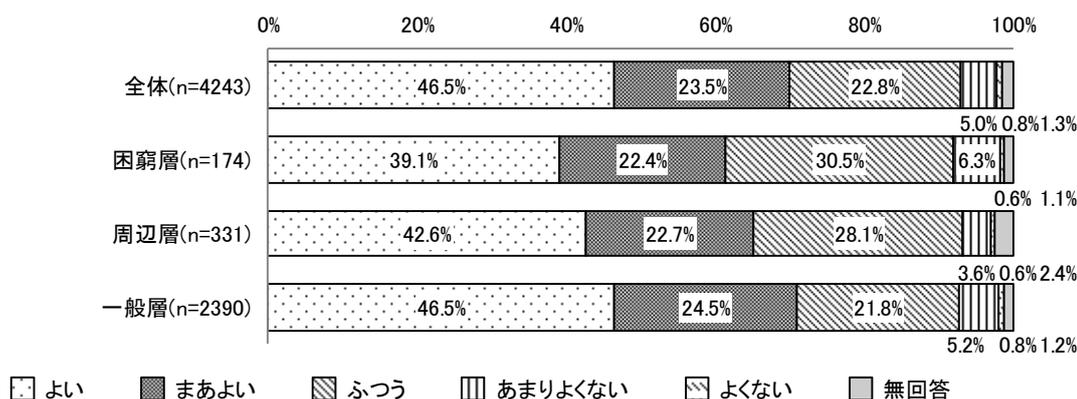
### (1) 子どもの健康状態

#### ①【子ども】Q27 現在の自分の健康状態について

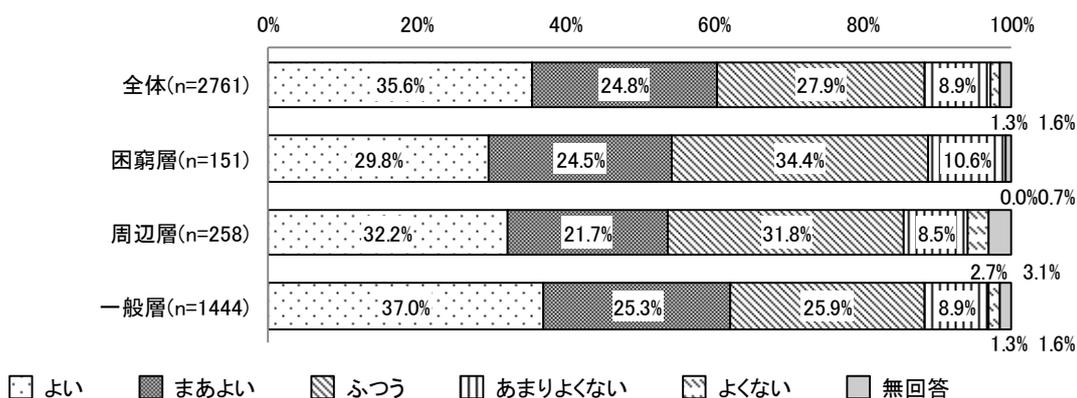
小学生の「全体」では、「よい」が46.5%でもっとも割合が高く、次いで「まあよい」が23.5%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

中学生の「全体」では、「よい」が35.6%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が27.9%となっている。生活困難度別にみると、「よい」の割合は、一般層(37.0%)、周辺層(32.3%)、困窮層(29.8%)の順に高い。

図表 136 【子ども】Q27 現在の自分の健康状態について:単数回答(生活困難度別)  
 <小学生> (有意差なし)



#### <中学生> (p<.05)

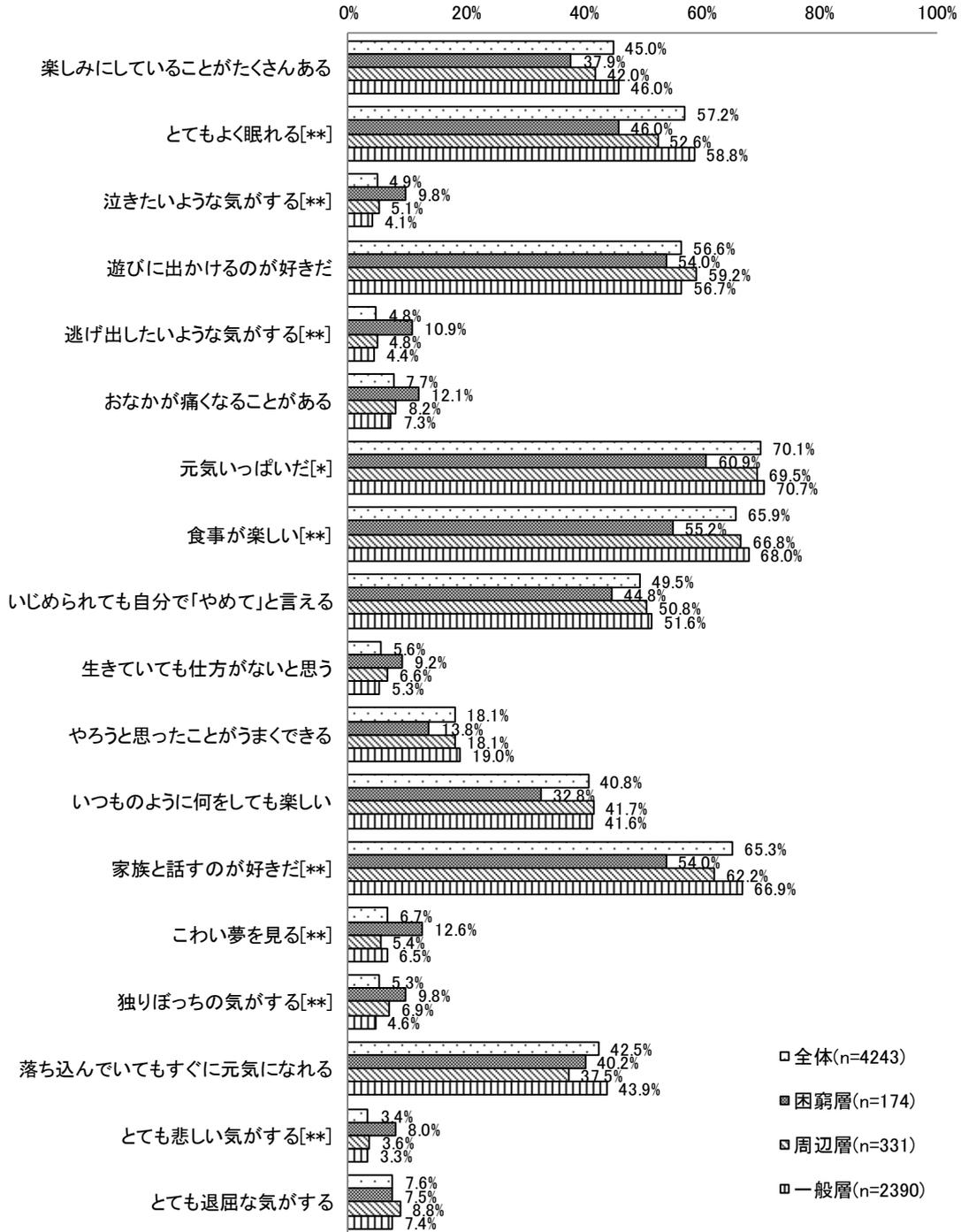


## ②【子ども】Q28 1週間の様子

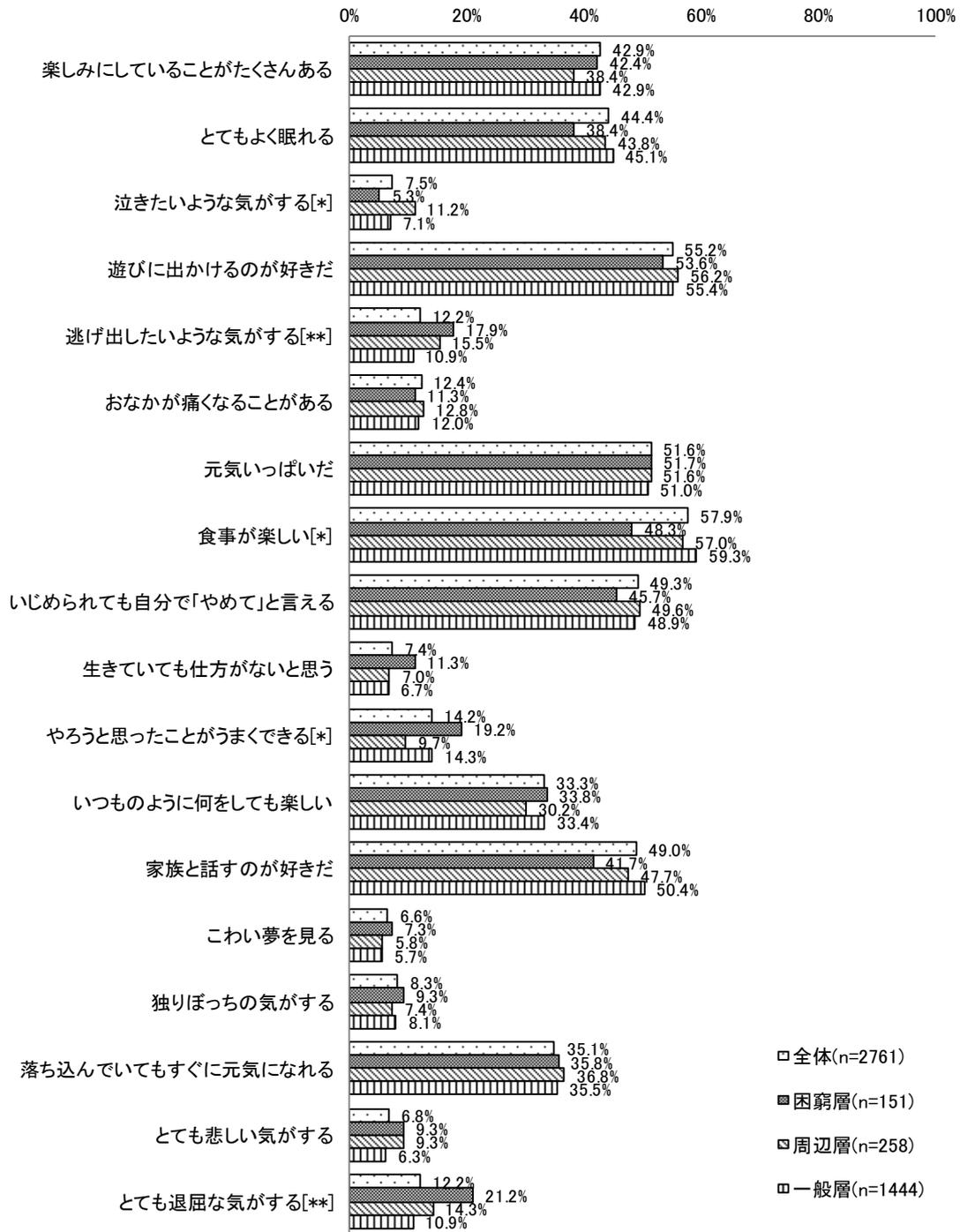
小学生の「全体」について、「いつもそうだ」と回答した割合をみると、「元気いっぱい」が70.1%でもっとも高く、次いで「食事が楽しい」が65.9%となっている。生活困難度別にみると、「とてもよく眠れる」、「泣きたいような気がする」、「逃げ出したいような気がする」、「元気いっぱい」、「食事が楽しい」、「家族と話すのが好きだ」、「こわい夢を見る」、「ひとりぼっちの気がする」、「とても悲しい気がする」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

中学生の「全体」について、「いつもそうだ」と回答した割合をみると、「食事が楽しい」が57.9%でもっとも高く、次いで「遊びに出かけるのが好きだ」が55.2%となっている。生活困難度別にみると、「泣きたいような気がする」、「逃げ出したいような気がする」、「食事が楽しい」、「やろうと思ったことがうまくできる」、とても退屈な気がする」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 137 【子ども】Q28 1週間の様子\_「いつもそうだ」の割合（生活困難度別）  
 <小学生>



<中学生>



### ③【子ども】抑うつ傾向

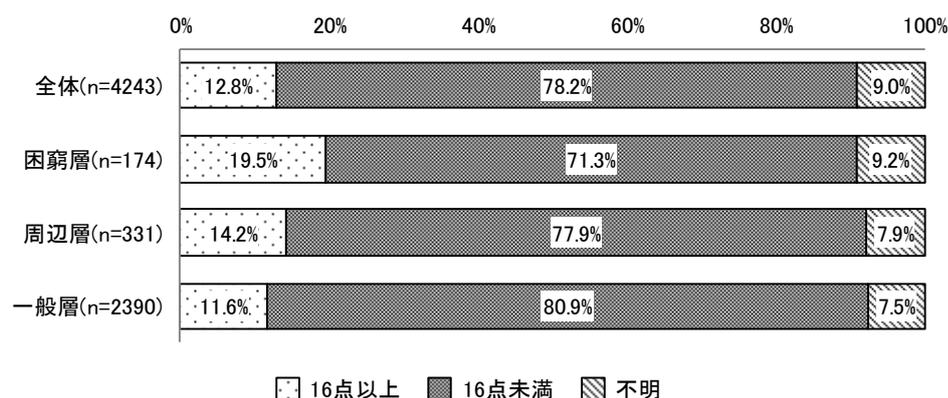
本調査では、小中学生の抑うつ傾向を示す指標として、DSRS-C バールソン児童用抑うつ性尺度を使用した。「東京都子供の生活実態調査報告書」によると、これは、最近1週間の心の状態（18項目）について、子ども自身が3段階評価を行うものであり、各項目は選択肢に応じてそれぞれ0～2点で指標化され、その合計が16点以上であった場合、抑うつ傾向があると判断される<sup>1</sup>。

小学生の「全体」では、「16点以上」が12.8%、「16点未満」が78.2%となっている。生活困難度別にみると、「16点以上」の割合は、困窮層（19.5%）、周辺層（14.2%）、一般層（11.6%）の順に高い。

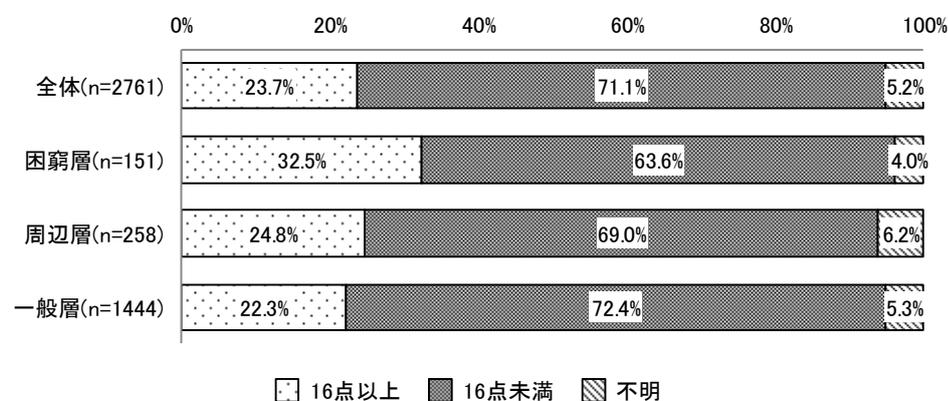
中学生の「全体」では、「16点以上」が23.7%、「16点未満」が71.1%となっている。生活困難度別にみると、「16点以上」の割合は、困窮層（32.5%）、周辺層（24.8%）、一般層（22.3%）の順に高い。

図表 138 【子ども】Q28 抑うつ傾向（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



<sup>1</sup> 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター（2017）「東京都子供の生活実態調査報告書」P.141

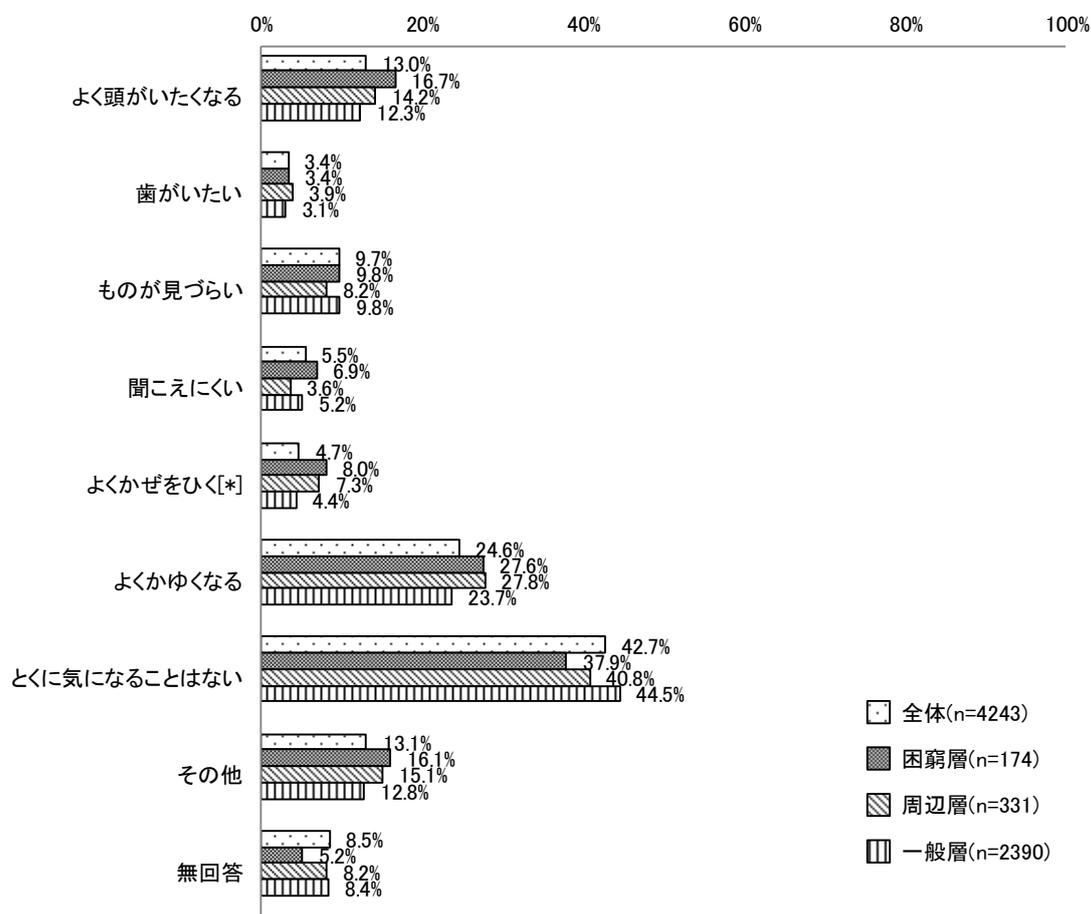
#### ④【子ども】Q29 自分の体で気になること

小学生の「全体」では、「とくに気になることはない」が 42.7%でもっとも割合が高く、次いで「よくかゆくなる」が 24.6%となっている。生活困難度別にみると、「よくかぜをひく」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

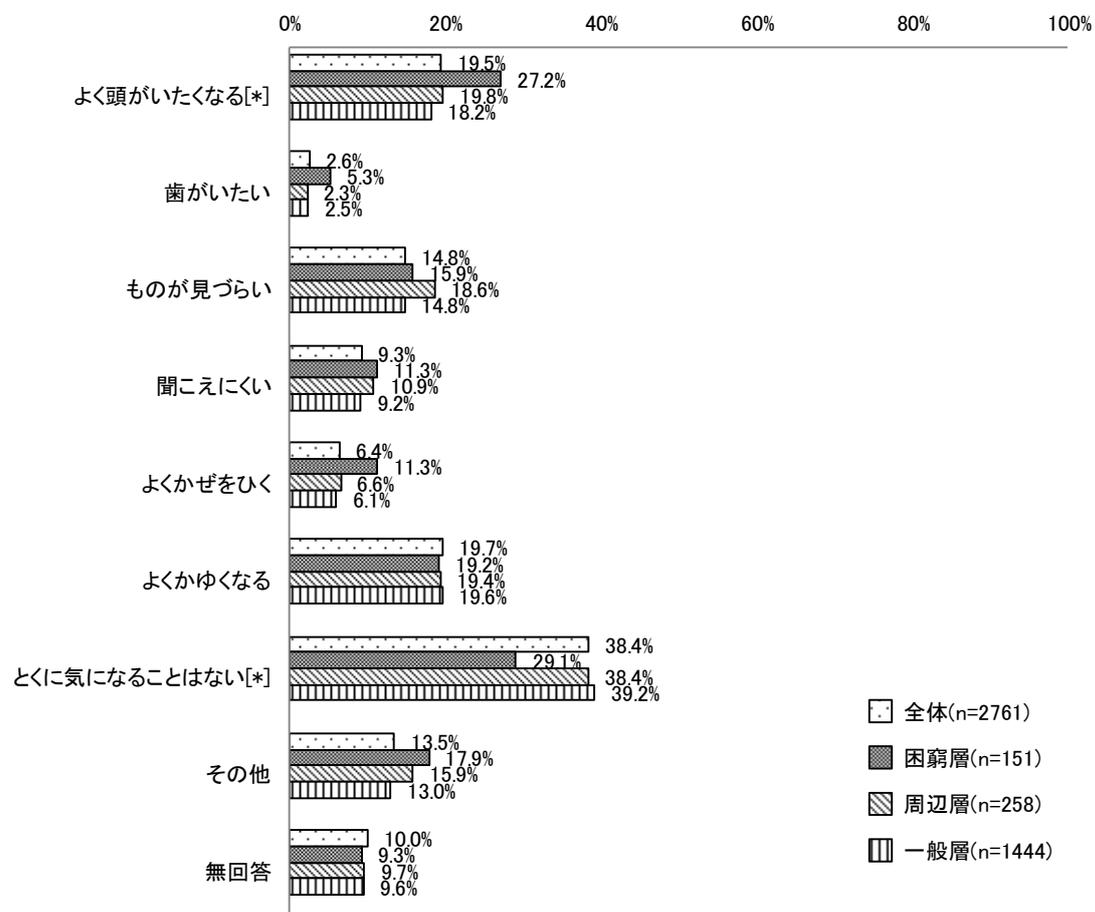
中学生の「全体」では、「とくに気になることはない」が 38.4%でもっとも割合が高く、次いで「よくかゆくなる」が 19.7%となっている。生活困難度別にみると、「よく頭がいたくなる」、「とくに気になることはない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 139 【子ども】Q29 自分の体で気になること:複数回答(生活困難度別)

<小学生>



<中学生>



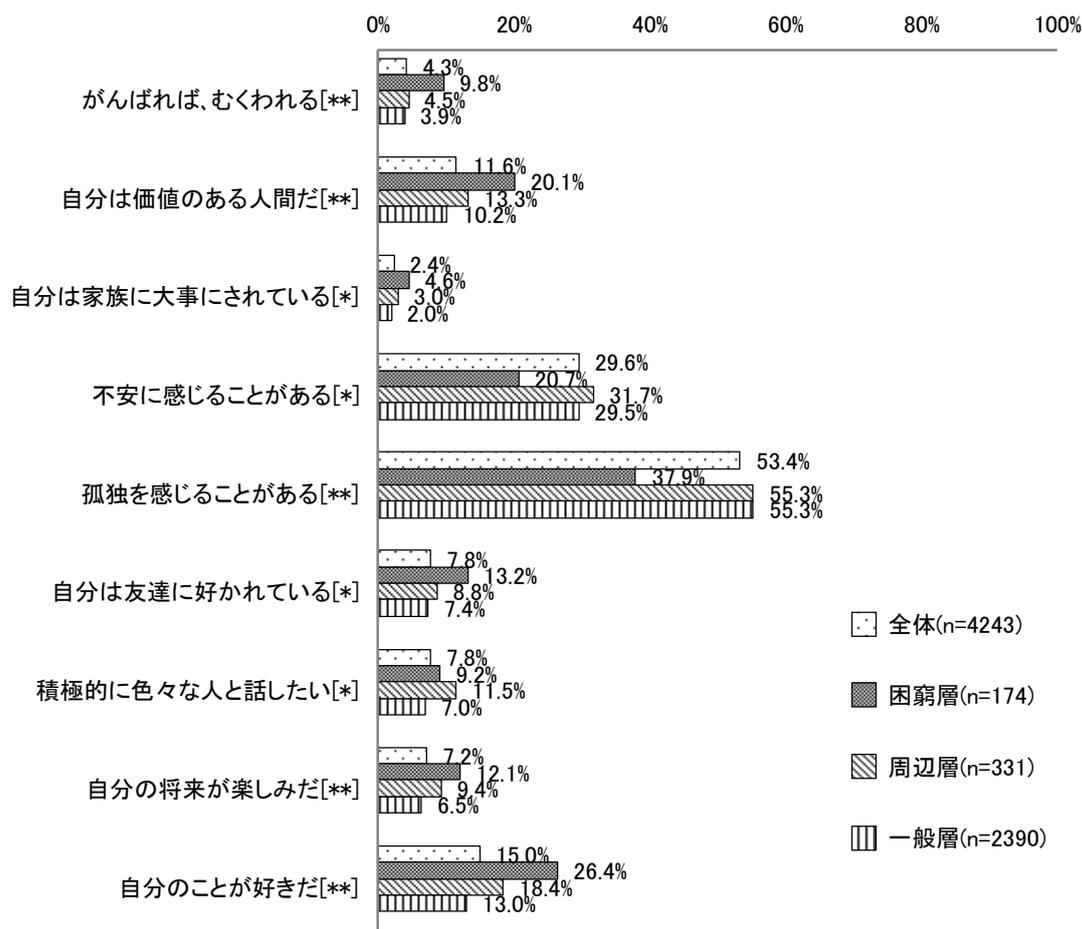
⑤【子ども】Q38 自己肯定感（「思わない」の割合）

小学生の「全体」について、「思わない」と回答した割合をみると、「孤独を感じることもある」が 53.4%でもっとも高く、次いで「不安を感じることもある」が 29.6%となっている。生活困難度別にみると、すべての項目について、統計的に有意な差がみられる。

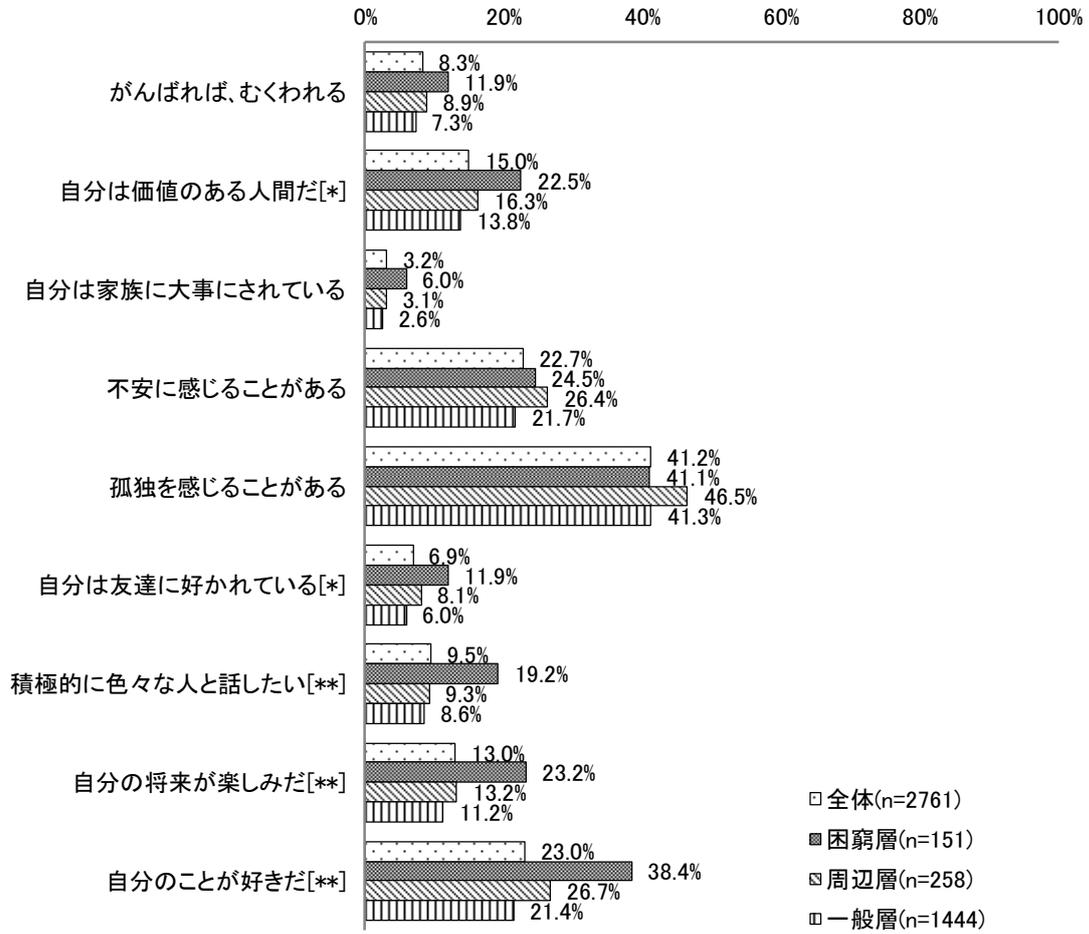
中学生の「全体」について、「思わない」と回答した割合をみると、「孤独を感じることもある」が 41.2%でもっとも高く、次いで「自分のことが好きだ」が 23.0%となっている。生活困難度別にみると、「自分は価値のある人間だ」「自分は友達に好かれている」「積極的に色々な人と話したい」、「自分の将来が楽しみだ」、「自分のことが好きだ」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 140 【子ども】Q38 自己肯定感\_「思わない」の割合（生活困難度別）

<小学生>



<中学生>



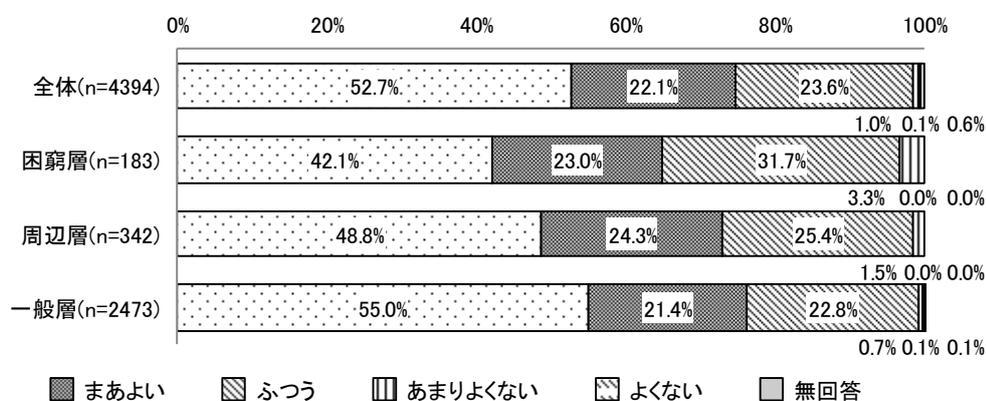
⑥【保護者】Q28 子どもの健康状態

小学生の「全体」では、「よい」が 52.7%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が 23.6%となっている。生活困難度別にみると、「よい」の割合について、一般層（55.0%）、周辺層（48.8%）、困窮層（42.1%）の順に高い。

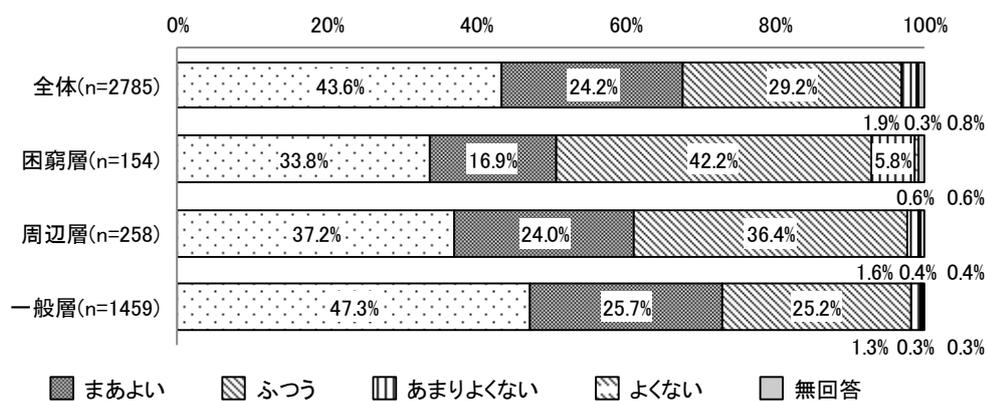
中学生の「全体」では、「よい」が 43.6%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が 29.2%となっている。生活困難度別にみると、「よい」の割合について、一般層（47.3%）、周辺層（37.2%）、困窮層（33.8%）の順に高い。

図表 141 【保護者】Q28 子どもの健康状態:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



## (2) 子どもの医療機関受診状況

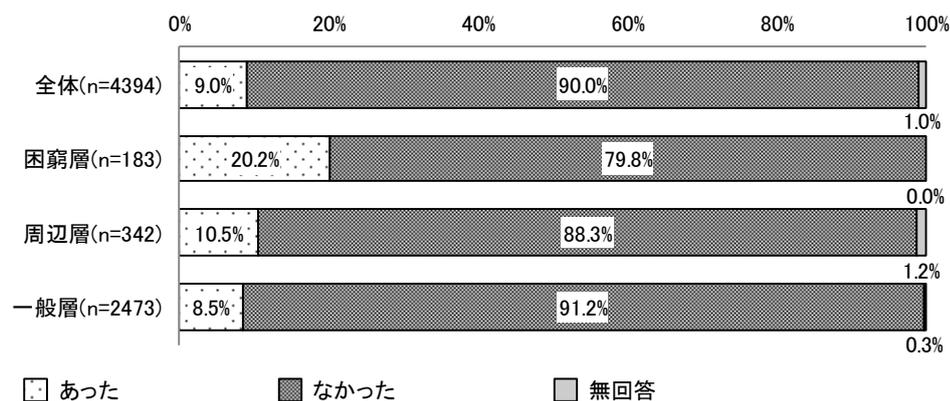
### ①【保護者】Q35 子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったこと

小学生保護者の「全体」では、「なかった」が90.0%、「あった」が9.0%となっている。生活困難度別にみると、「あった」の割合は、困窮層（20.2%）、周辺層（10.5%）、一般層（8.5%）の順に高い。

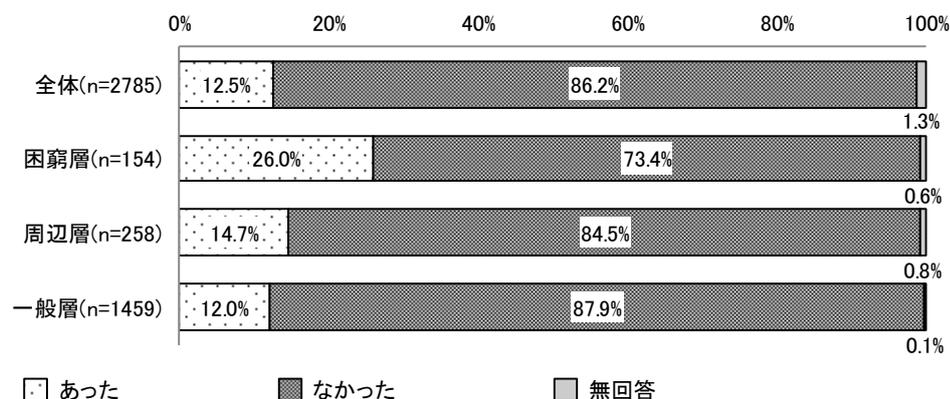
中学生保護者の「全体」では、「なかった」が86.2%、「あった」が12.5%となっている。生活困難度別にみると、「あった」の割合は、困窮層（26.0%）、周辺層（14.7%）、一般層（12.0%）の順に高い。

図表 142 【保護者】Q35 子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったこと:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



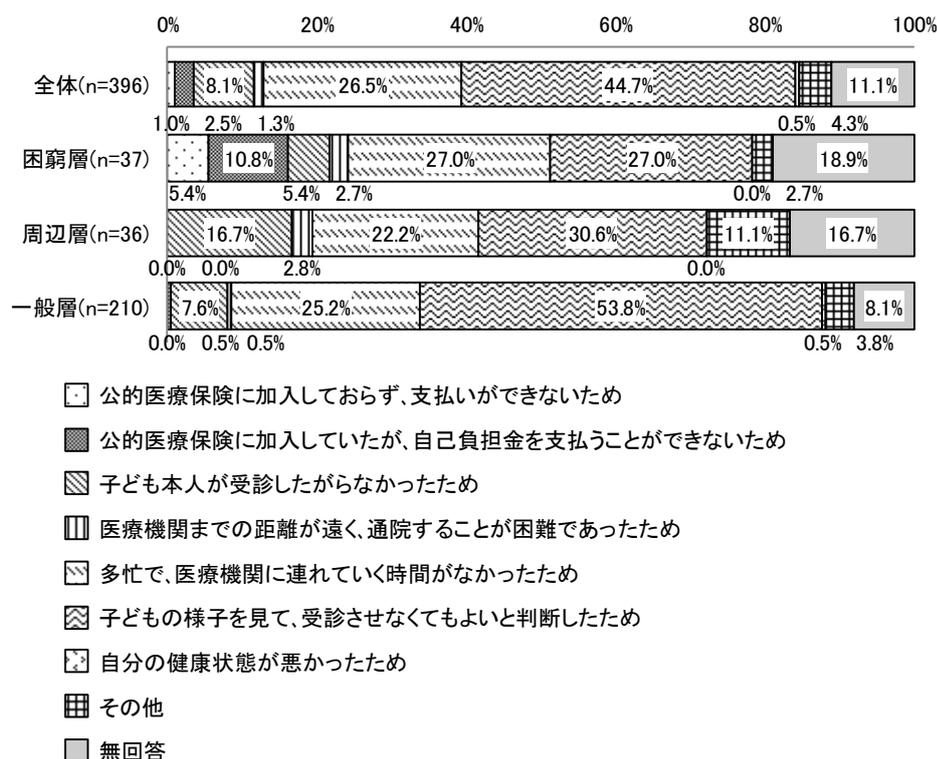
## ②【保護者】Q36 受診させなかった理由

小学生保護者の「全体」では、「子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が44.7%でもっとも割合が高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が26.5%となっている。生活困難度別にみると、「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」の割合は、困窮層（27.0%）、一般層（25.2%）、周辺層（22.2%）の順に高い。

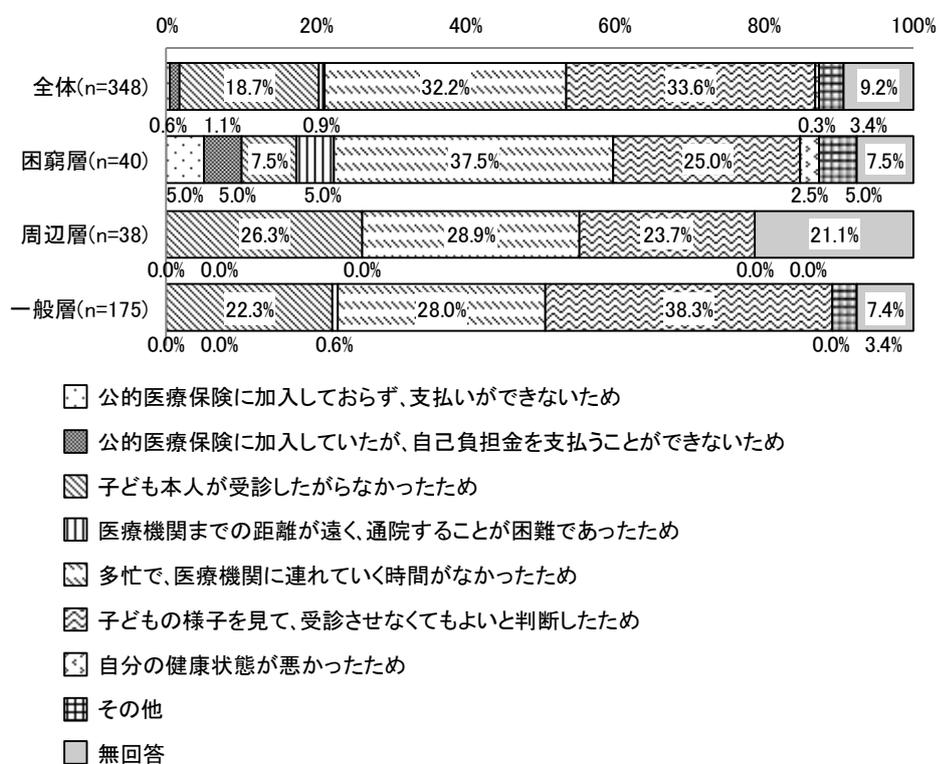
中学生保護者の「全体」では、「子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が33.6%でもっとも割合が高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が32.2%となっている。生活困難度別にみると、「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」の割合は、困窮層（37.5%）、周辺層（28.9%）、一般層（28.0%）の順に高い。

図表 143 【保護者】Q36 受診させなかった理由:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q35 で「あった」と回答した者

### (3) 保護者の健康状態

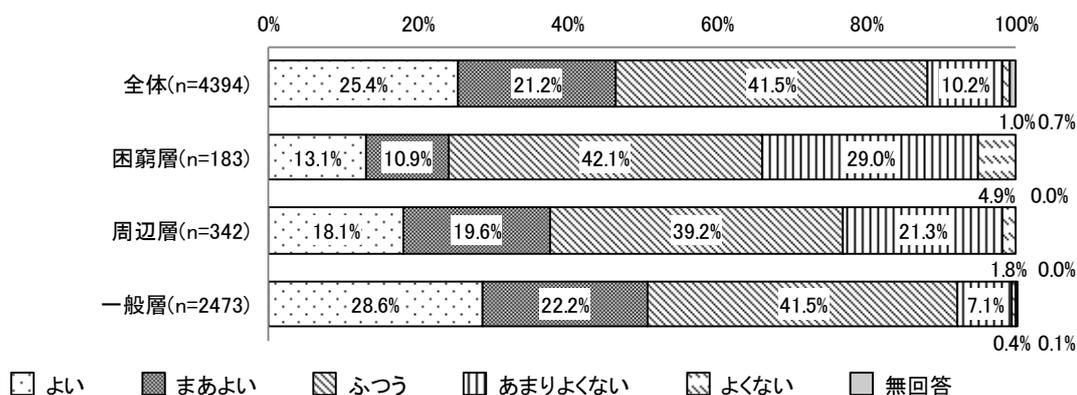
#### ①【保護者】Q27 あなたの健康状態

小学生保護者の「全体」では、「ふつう」が41.5%でもっとも割合が高く、次いで「よい」が25.4%となっている。生活困難度別にみると、「よい」の割合は、一般層（28.6%）、周辺層（18.1%）、困窮層（13.1%）の順に高い。

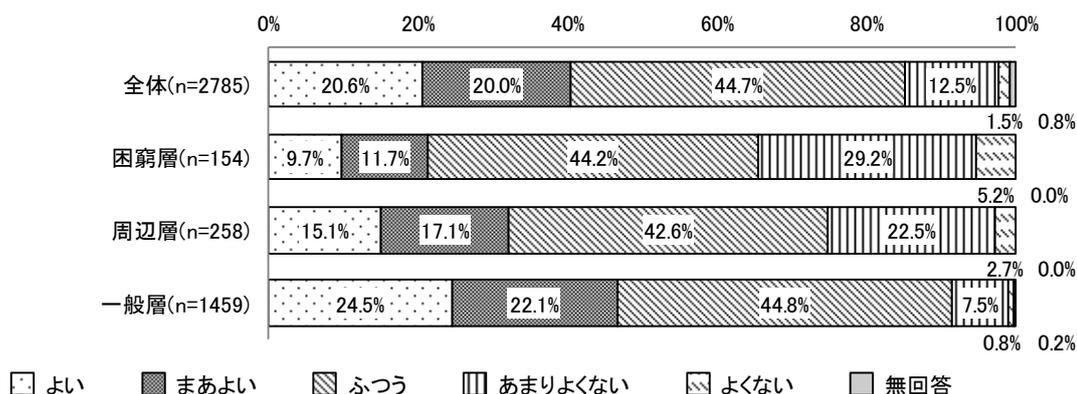
中学生保護者の「全体」では、「ふつう」が44.7%でもっとも割合が高く、次いで「よい」が20.6%となっている。生活困難度別にみると、「よい」の割合は、一般層（24.5%）、周辺層（15.1%）、困窮層（9.7%）の順に高い。

図表 144 【保護者】Q27 あなたの健康状態:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

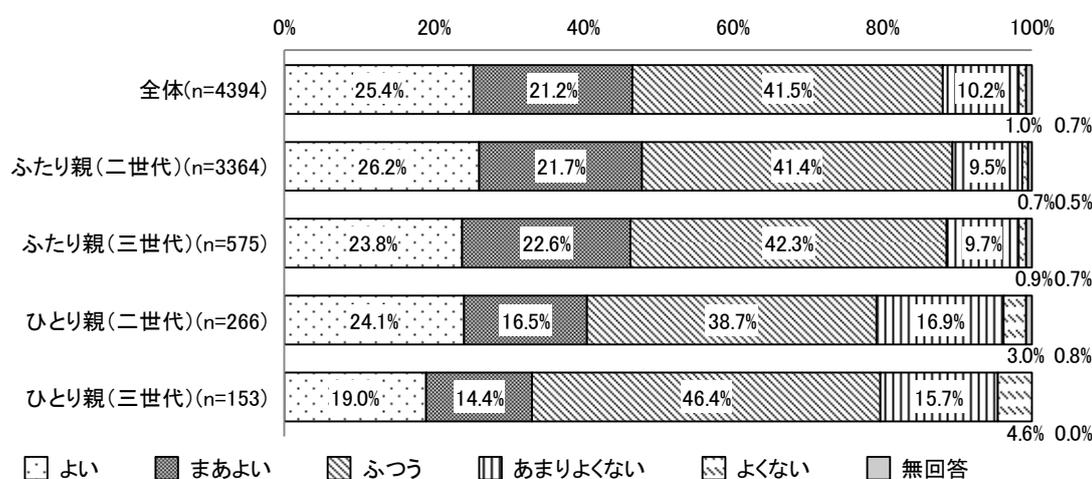


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「よい」の割合は、ふたり親（二世帯）（26.2%）、ひとり親（二世帯）（24.1%）、ふたり親（三世帯）（23.8%）、ひとり親（三世帯）（19.0%）の順に高い。

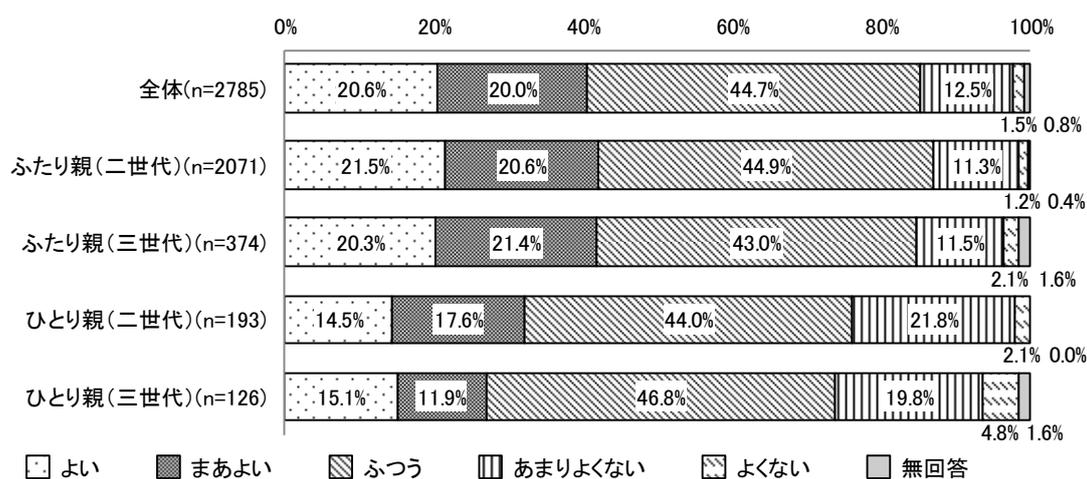
中学生について、世帯タイプ別にみると、「よい」の割合は、ふたり親（二世帯）（21.5%）、ふたり親（三世帯）（20.3%）、ひとり親（三世帯）（15.1%）、ひとり親（二世帯）（14.5%）の順に高い。

図表 145 【保護者】 Q27 あなたの健康状態:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



## ②【保護者】Q29 抑うつ傾向

本調査では、保護者の抑うつ傾向を表す指標として K6 を使用した。「東京都子供の生活実態調査報告書」によると、これは、過去 30 日間での心の状況（6 項目）を指数化し、点数によってそれぞれ「心理的ストレス反応相当（5 点以上）」、「気分・不安障害相当（9 点以上）」、「気分・不安障害相当（10 点以上）」、「重症精神障害相当（13 点以上）」に分類するものである<sup>2</sup>。

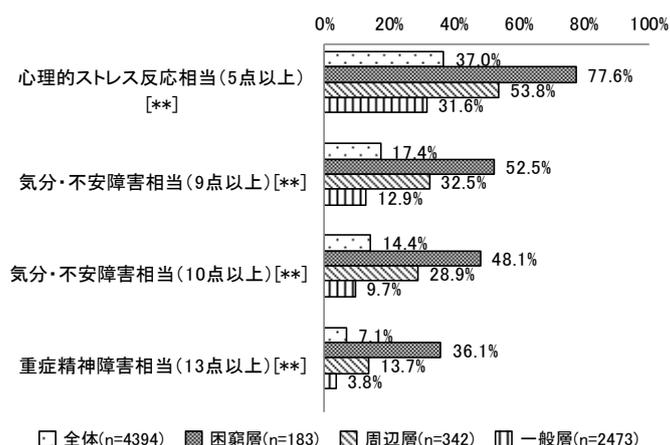
小学生保護者の「全体」では、「心理的ストレス反応相当（5 点以上）」が 37.0%でもっとも割合が高く、次いで「気分・不安障害相当（9 点以上）」が 17.4%となっている。

中学生保護者の「全体」では、「心理的ストレス反応相当（5 点以上）」が 39.2%でもっとも割合が高く、次いで「気分・不安障害相当（9 点以上）」が 19.7%となっている。

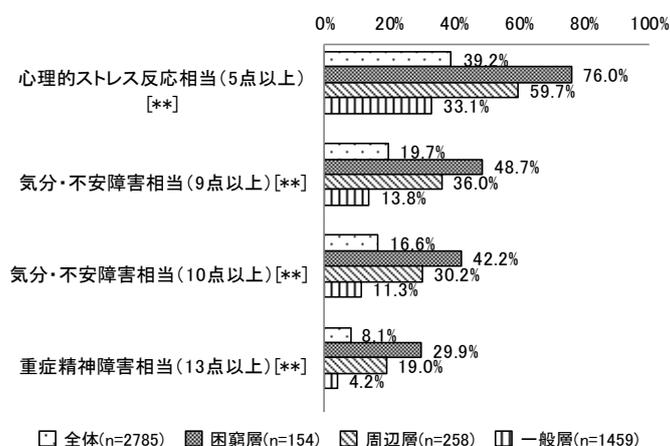
小中学生保護者とも、いずれの段階においても生活困難度によって統計的に有意な差がみられる。

図表 146 【保護者】Q29 K6 指標（生活困難度別）

<小学生保護者>



<中学生保護者>



<sup>2</sup> 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター（2017）「東京都子供の生活実態調査報告書」P.141

### ③【保護者】Q30 自分の体で気になること

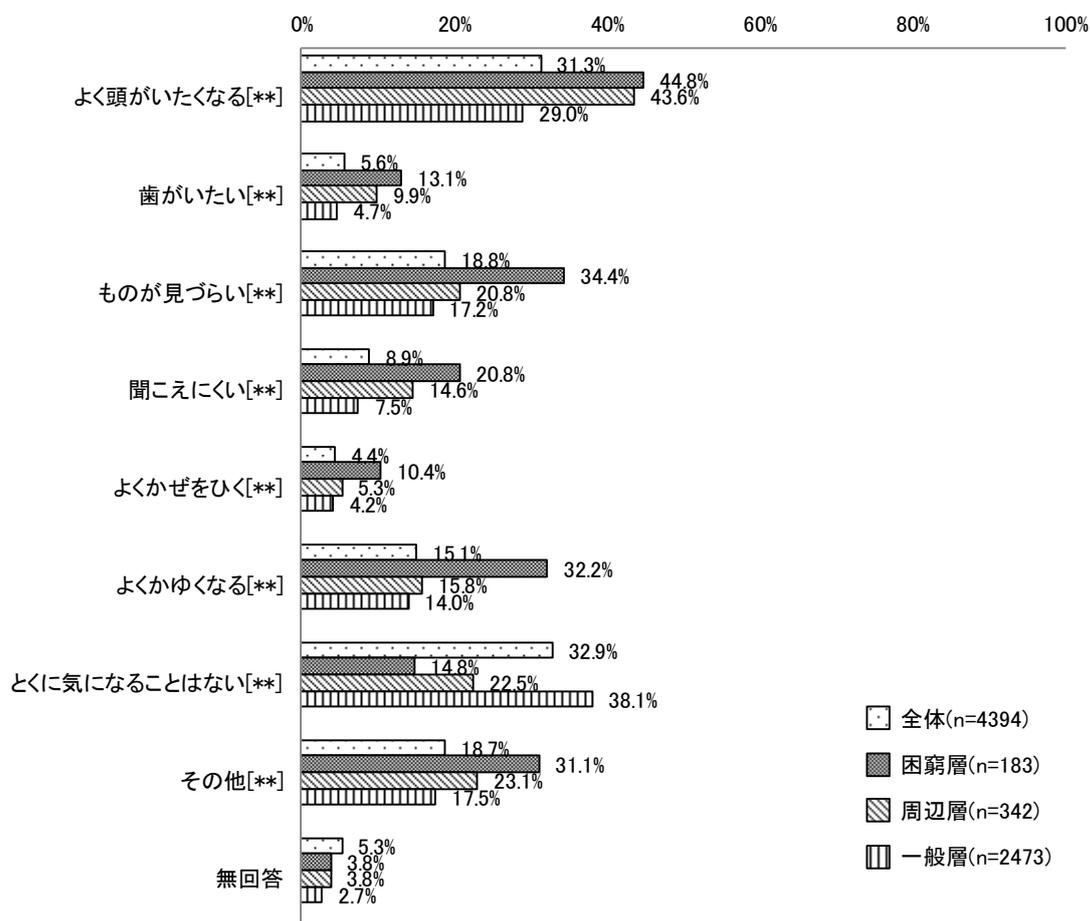
小学生保護者の「全体」では、「とくに気になることはない」が32.9%でもっとも割合が高く、次いで「よく頭がいたくなる」が31.3%となっている。

中学生保護者の「全体」では、「よく頭がいたくなる」が32.0%でもっとも割合が高く、次いで「とくに気になることはない」が28.7%となっている。

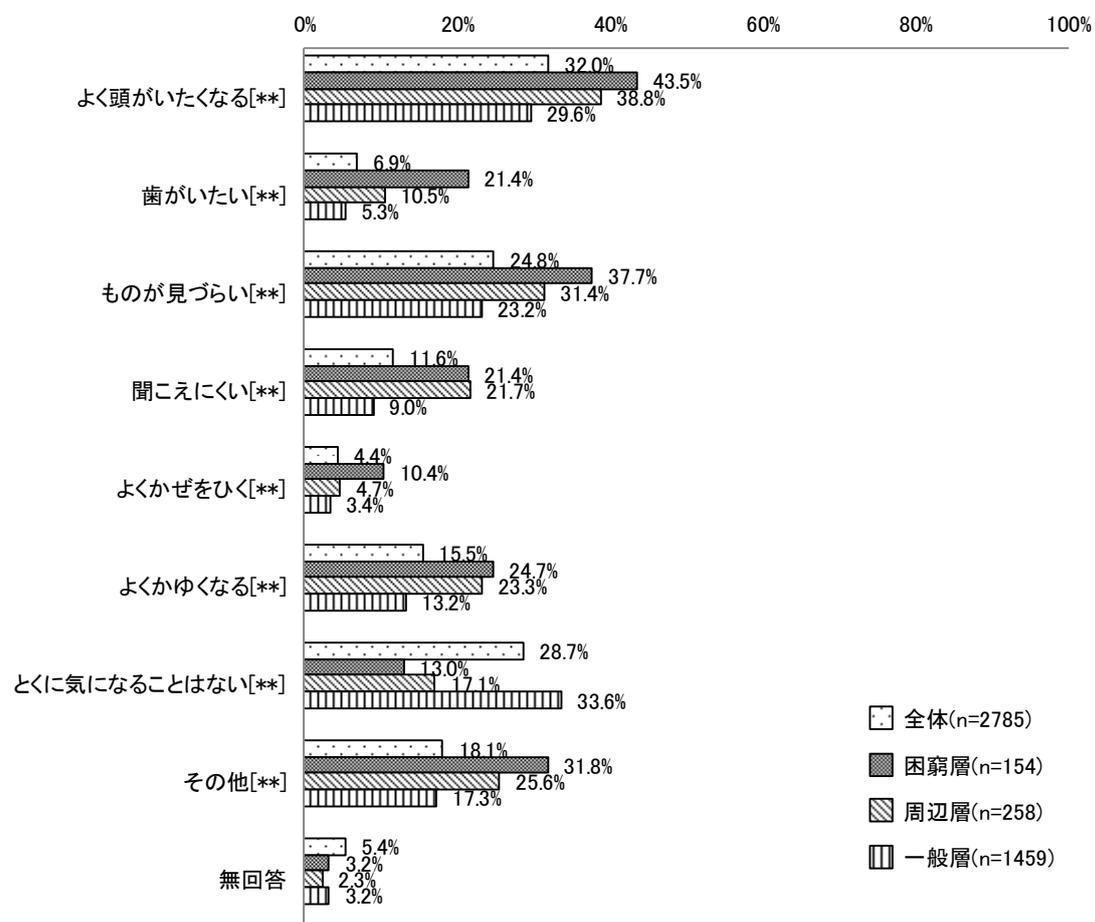
生活困難度別にみると、小学生・中学生保護者とも、すべての項目について統計的に有意な差がみられる。

図表 147 【保護者】Q30 自分の体で気になること:複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



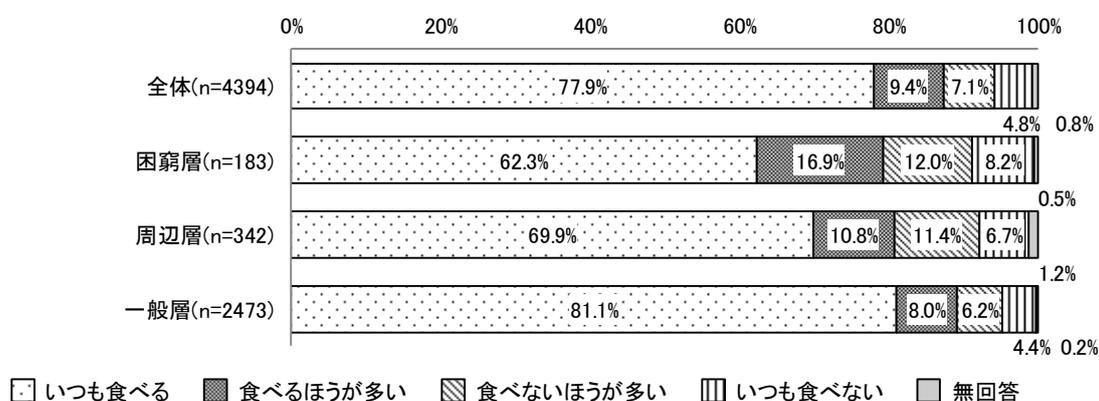
⑤【保護者】Q37 あなたは平日、毎日、朝ごはんを食べるか

小学生保護者の「全体」では、「いつも食べる」が77.9%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が9.4%となっている。生活困難度別にみると、「いつも食べる」の割合は、一般層（81.1%）、周辺層（69.9%）、困窮層（62.3%）の順に高い。

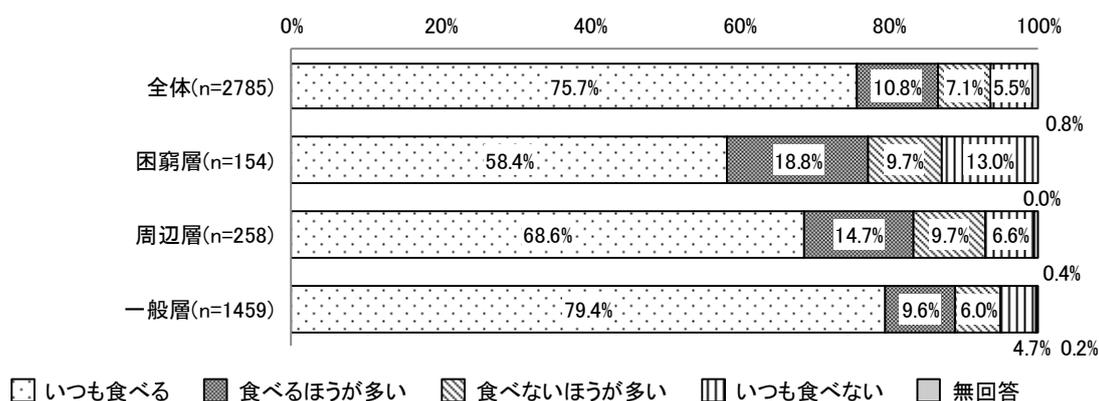
中学生保護者の「全体」では、「いつも食べる」が75.7%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が10.8%となっている。生活困難度別にみると、「いつも食べる」の割合は、一般層（79.4%）、周辺層（68.6%）、困窮層（58.4%）の順に高い。

図表 148 【保護者】Q37 あなたは平日、毎日、朝ごはんを食べるか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

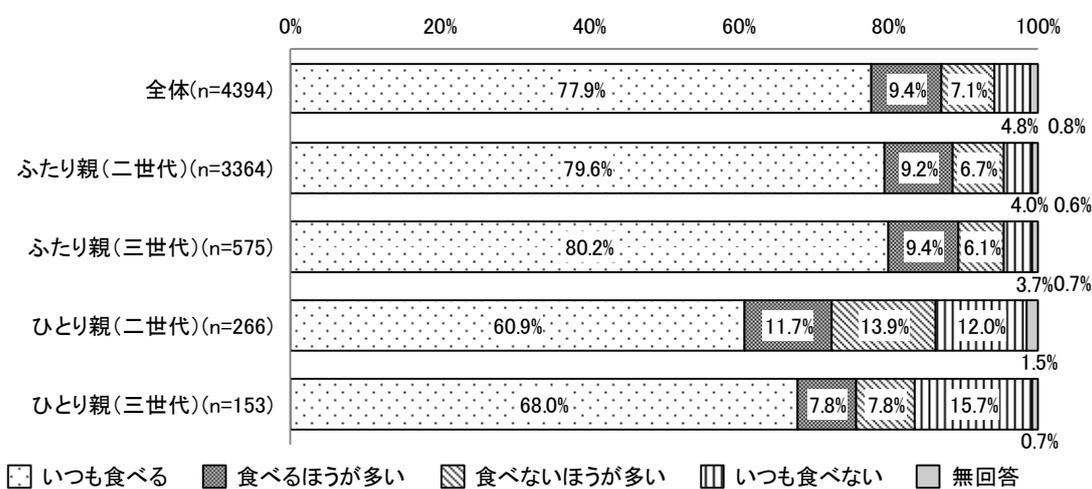


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「いつも食べる」の割合は、ふたり親（三世代）（80.2%）、ふたり親（二世代）（79.6%）、ひとり親（三世代）（68.0%）、ひとり親（二世代）（60.9%）の順に高い。

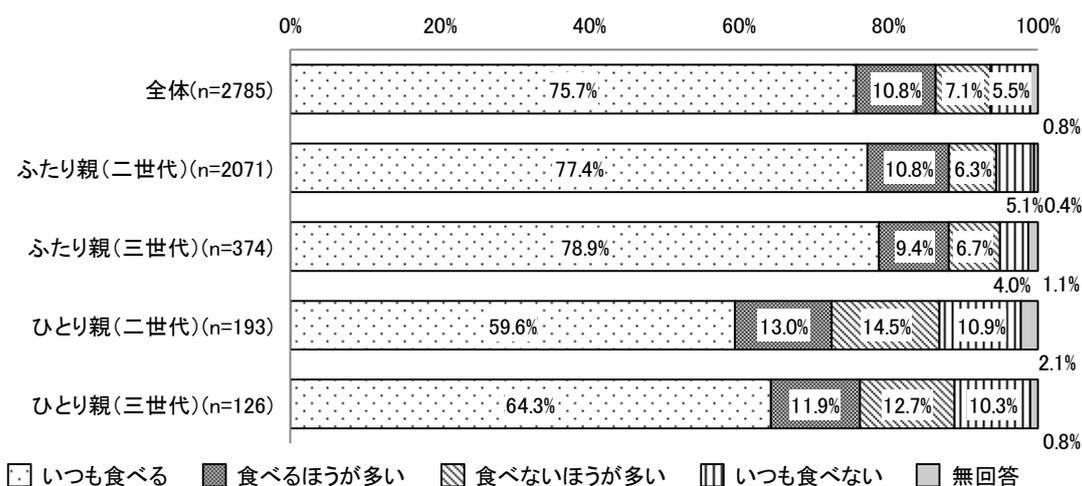
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「いつも食べる」の割合は、ふたり親（三世代）（78.9%）、ふたり親（二世代）（77.4%）、ひとり親（三世代）（64.3%）、ひとり親（二世代）（59.6%）の順に高い。

図表 149 【保護者】 Q37 あなたは平日、毎日、朝ごはんを食べるか:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



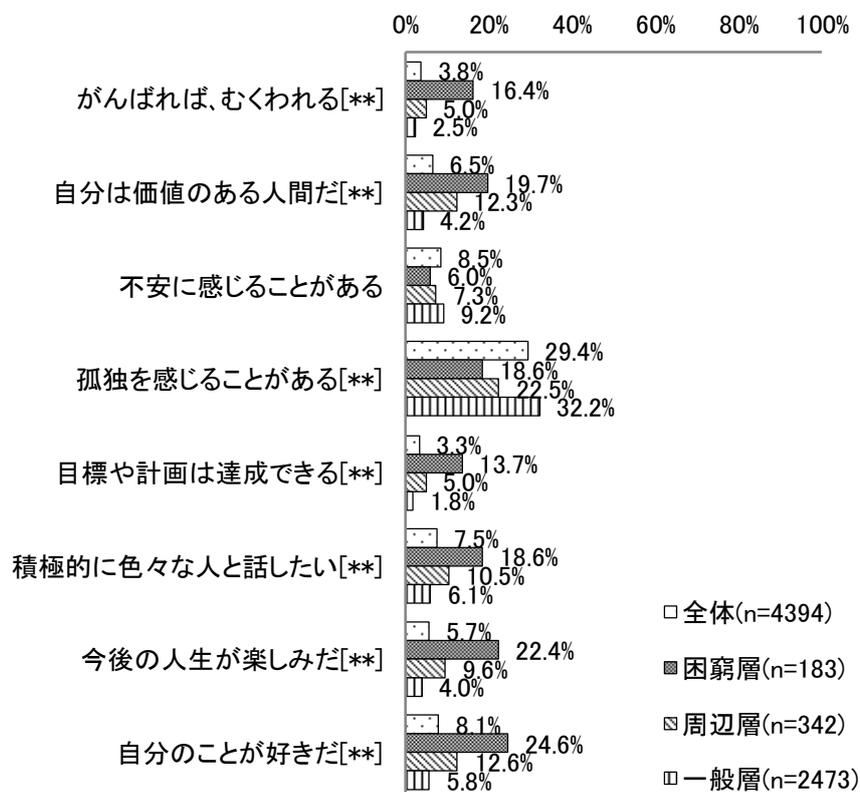
⑥【保護者】Q53 自己肯定感（「思わない」の割合）

小学生保護者の「全体」について、「思わない」と回答した割合をみると、「孤独を感じる  
ことがある」が29.4%でもっとも高く、次いで「不安を感じることもある」が8.5%となっ  
ている。生活困難度別にみると、「不安を感じることもある」を除いてすべての項目で有意  
な差がみられる。

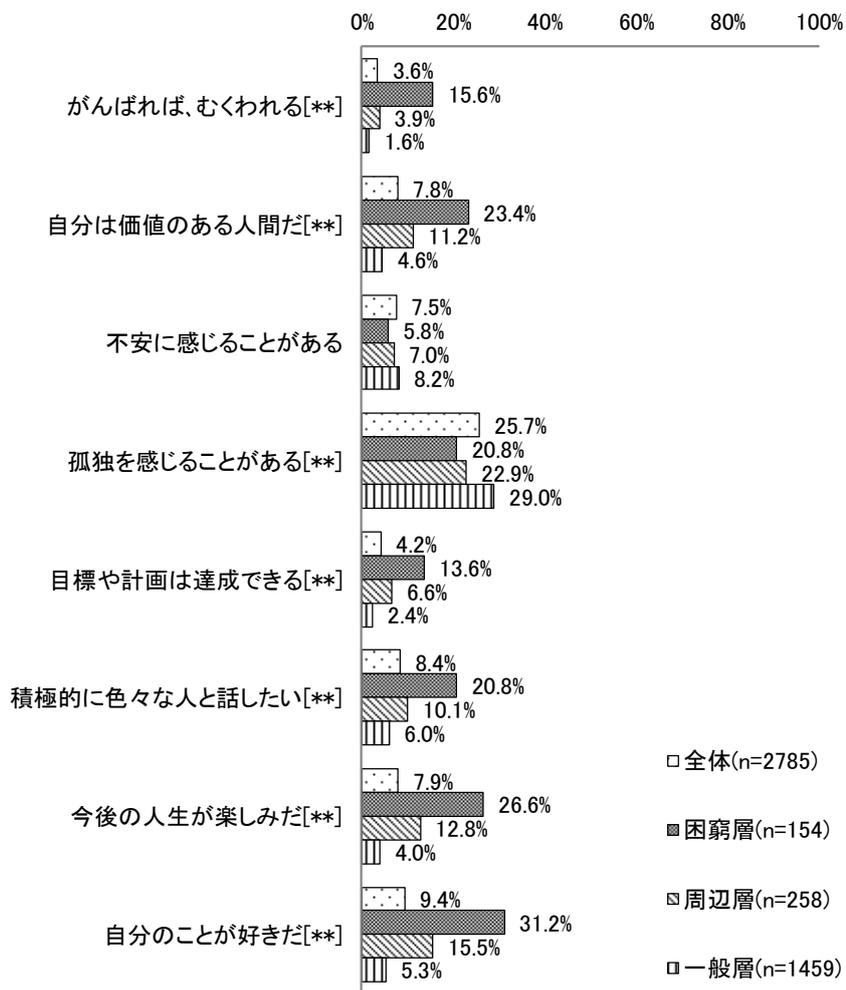
中学生保護者の「全体」について、「思わない」と回答した割合をみると、「孤独を感じる  
ことがある」が25.7%でもっとも高く、次いで「自分のことが好きだ」が9.4%となってい  
る。生活困難度別にみると、「不安を感じることもある」を除いてすべての項目で有意な差  
がみられる。

図表 150 【保護者】Q53-1 自己肯定感\_「思わない」の割合（生活困難度別）

<小学生保護者>



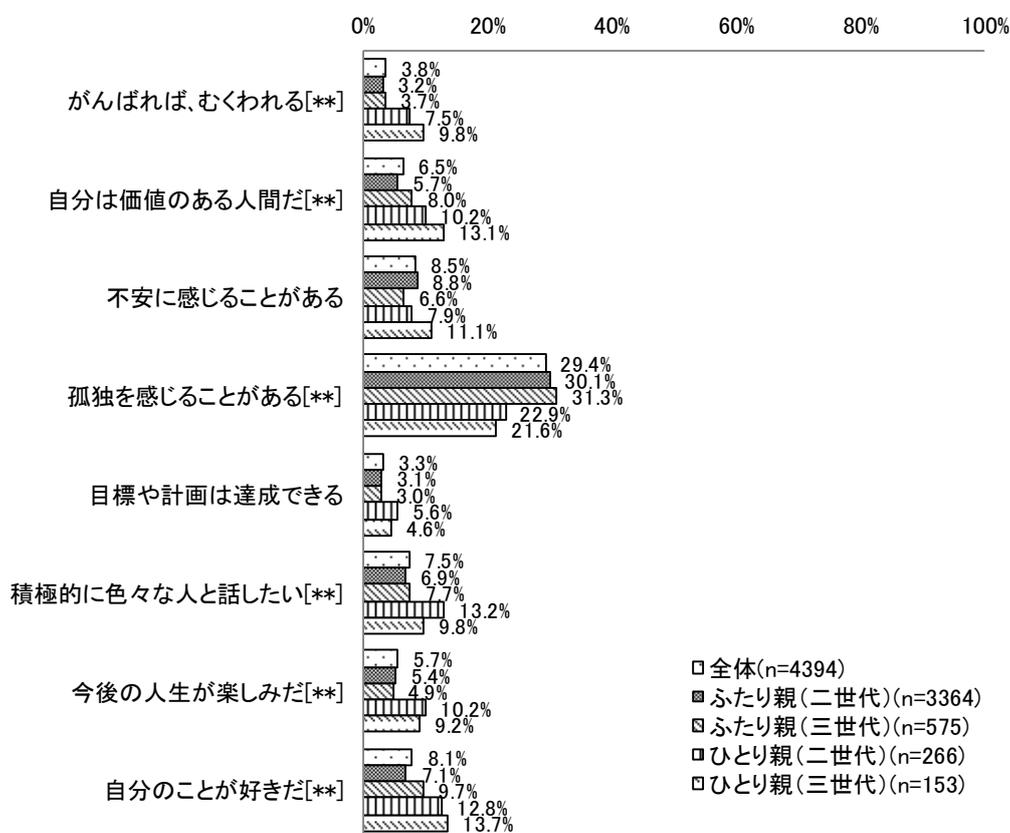
< 中学生保護者 >



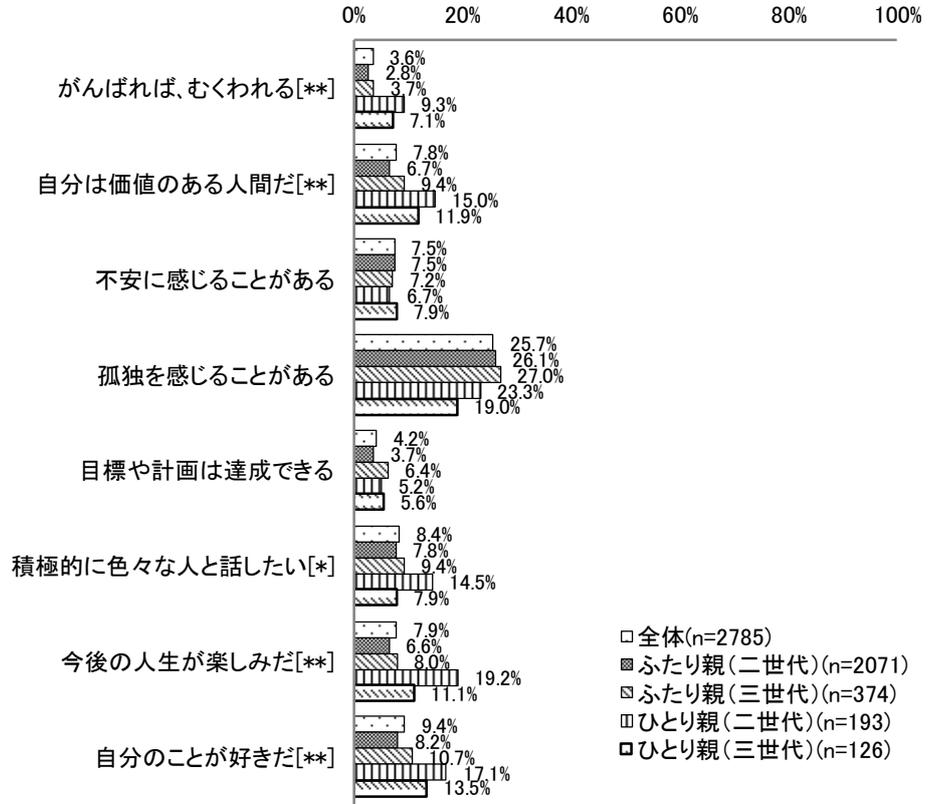
小学生保護者について、「思わない」と回答した割合を世帯タイプ別にみると、「がんばれば、むくわれる」、「自分は価値のある人間だ」、「孤独を感じることもある」、「積極的に色々な人と話したい」、「今後の人生が楽しみだ」、「自分のことが好きだ」について、統計的に有意な差がみられる。

中学生保護者について、「思わない」と回答した割合を世帯タイプ別にみると、「がんばれば、むくわれる」、「自分は価値のある人間だ」、「積極的に色々な人と話したい」、「今後の人生が楽しみだ」、「自分のことが好きだ」について、統計的に有意な差がみられる。

図表 151 【保護者】 Q53 自己肯定感\_「思わない」の割合: (世帯タイプ別)  
 <小学生保護者>



< 中学生保護者 >



#### (4) 保護者の医療機関受診状況

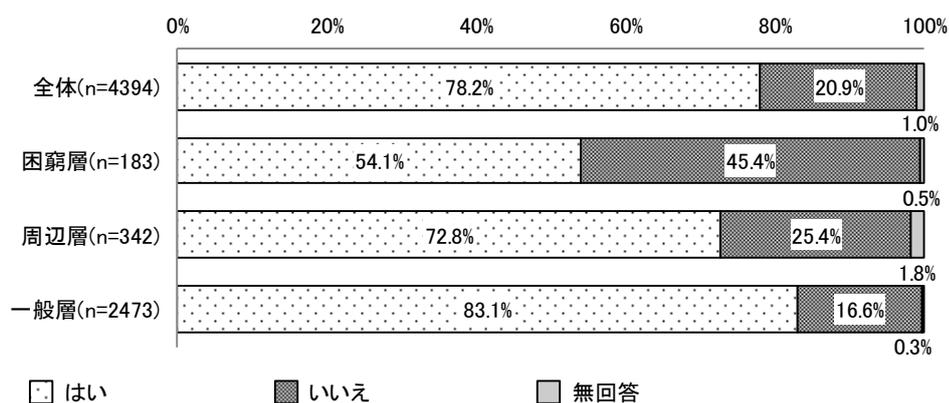
##### ①【保護者】Q31 健康診断やがん検診の定期的な受診

小学生保護者の「全体」では、「はい」が78.2%、「いいえ」が20.9%となっている。生活困難度別にみると、「はい」の割合は、一般層(83.1%)、周辺層(72.8%)、困窮層(54.1%)の順に高い。

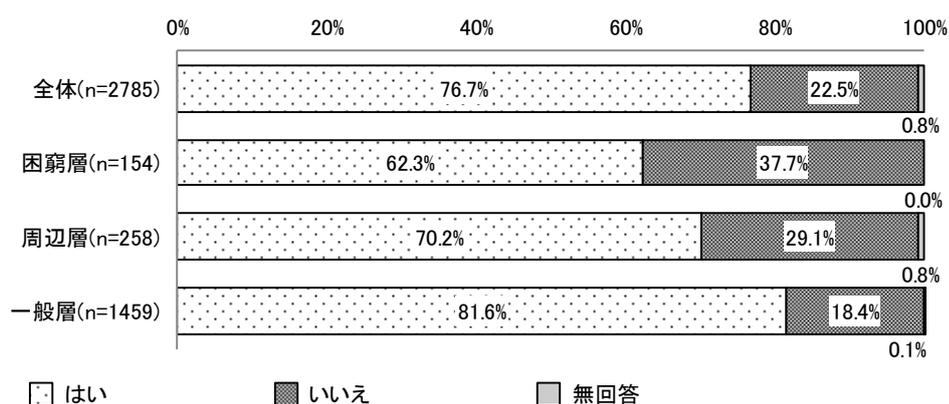
中学生保護者の「全体」では、「はい」が76.7%、「いいえ」が22.5%となっている。生活困難度別にみると、「はい」の割合は、一般層(81.6%)、周辺層(70.2%)、困窮層(62.3%)の順に高い。

図表 152 【保護者】Q31 健康診断やがん検診の定期的な受診:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



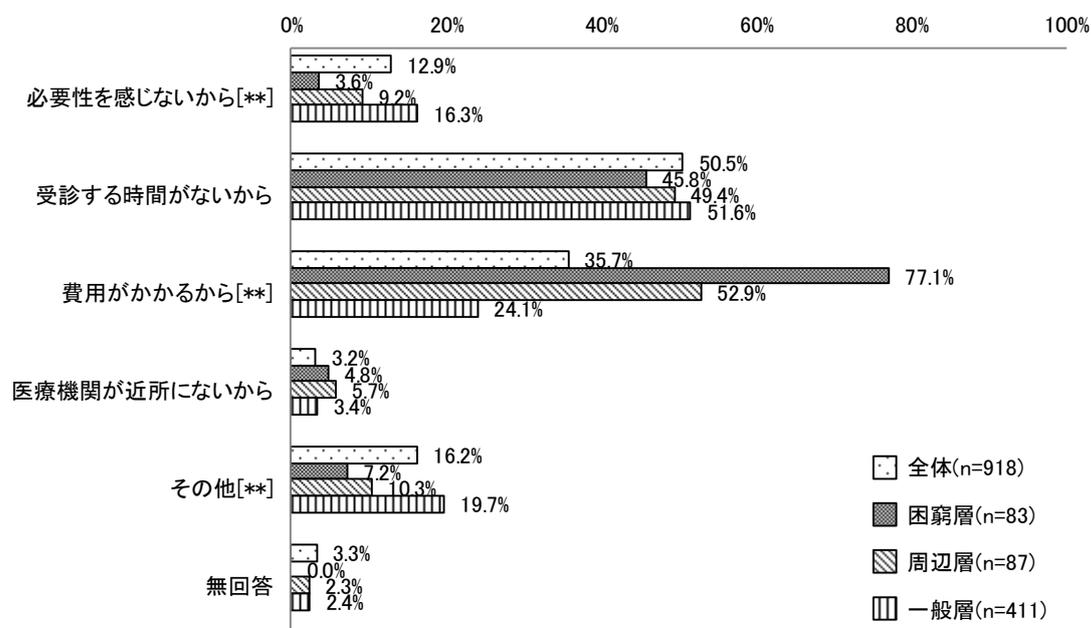
②【保護者】Q32 健康診断やがん検診を定期的に受診していない理由

小学生保護者の「全体」では、「受診する時間がないから」が50.5%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が35.7%となっている。生活困難度別にみると、「必要性を感じないから」、「費用がかかるから」、「その他」について、統計的に有意な差がみられる。

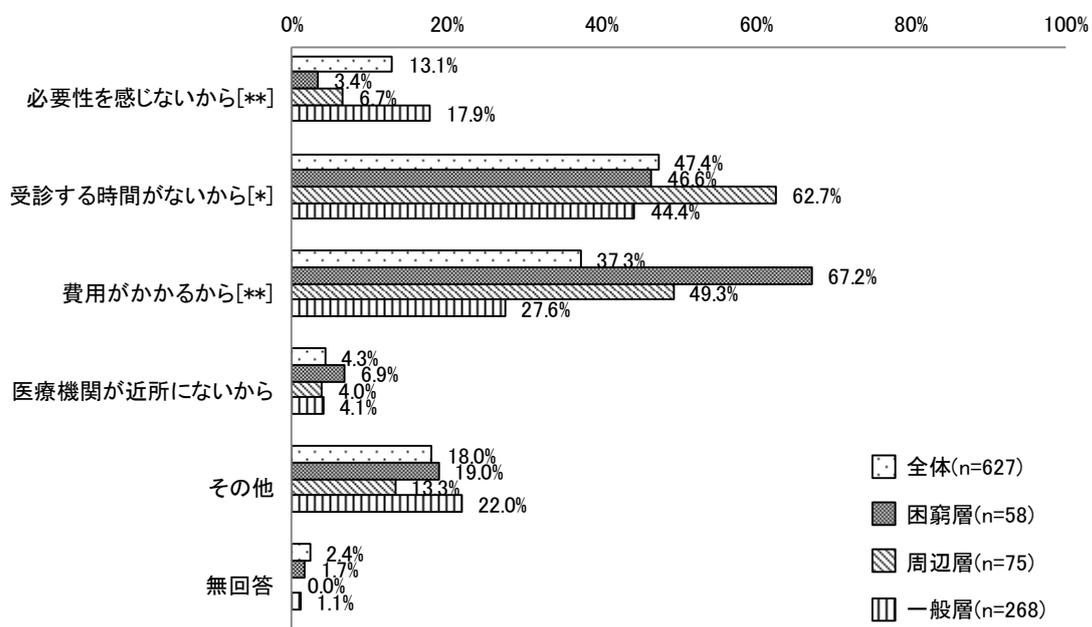
中学生保護者の「全体」では、「受診する時間がないから」が47.4%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が37.3%となっている。生活困難度別にみると、「必要性を感じないから」、「受診する時間がないから」、「費用がかかるから」について、統計的に有意な差がみられる。

図表 153 【保護者】Q32 健康診断やがん検診を定期的に受診していない理由:複数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者>



<中学生保護者>

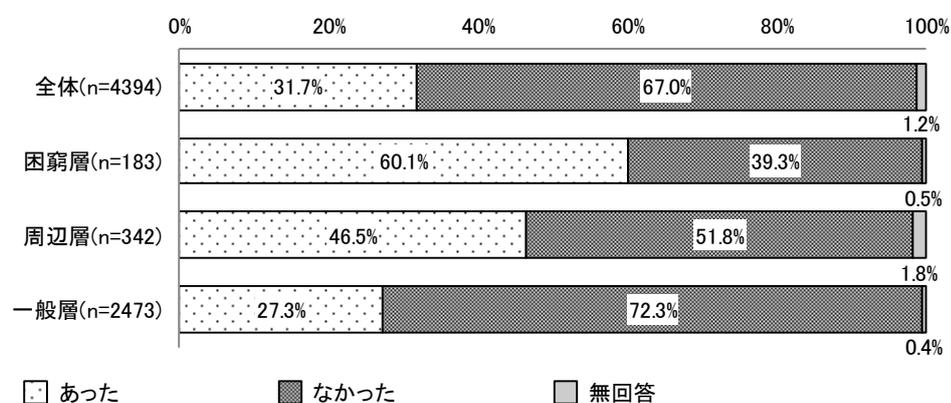


※対象は Q31 で「いいえ」と回答した者

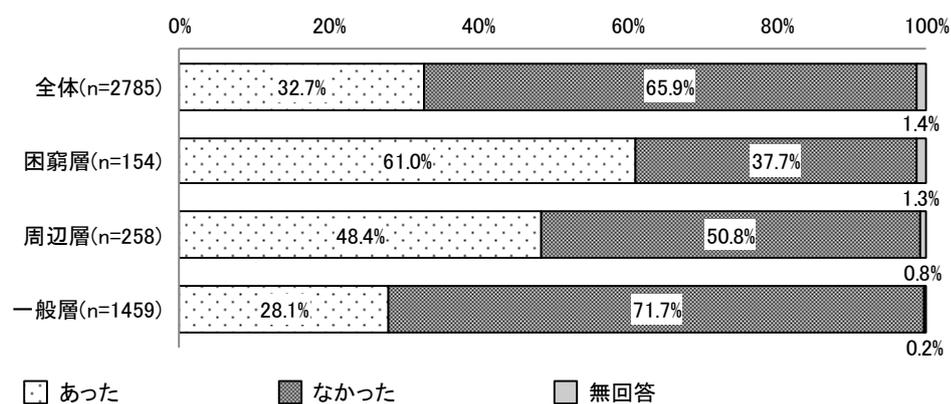
③【保護者】Q33 医療機関で受診した方がよいと思ったが、実際には受診しなかったこと  
 小学生保護者の「全体」では、「なかった」が67.0%、「あった」が31.7%となっている。  
 生活困難度別にみると、「あった」の割合は、困窮層（60.1%）、周辺層（46.5%）、一般層（27.3%）の順に高い。  
 中学生保護者の「全体」では、「なかった」が65.9%、「あった」が32.7%となっている。  
 生活困難度別にみると、「あった」の割合は、困窮層（61.0%）、周辺層（48.4%）、一般層（28.1%）の順に高い。

図表 154 【保護者】Q33 医療機関で受診した方がよいと思ったが、実際には受診しなかったこと：  
 単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

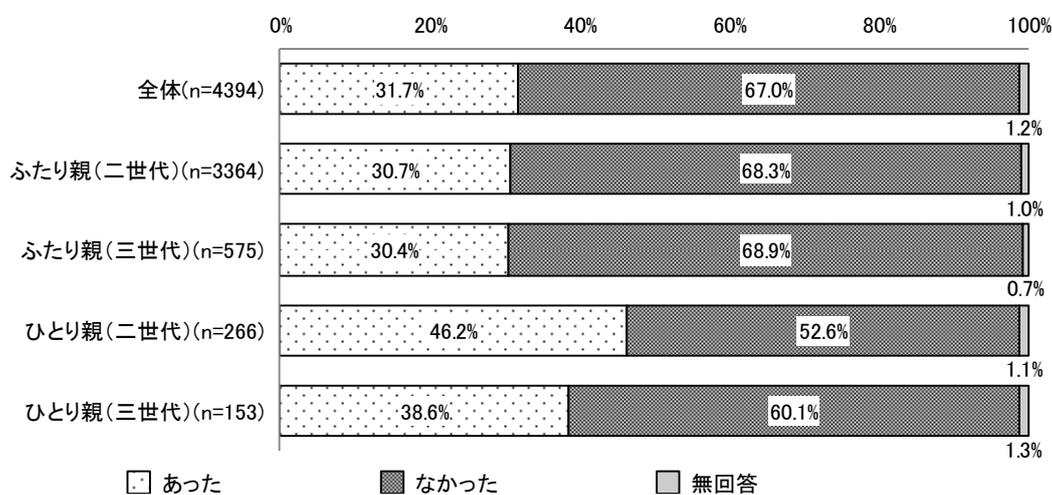


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「あった」の割合は、ひとり親（二世帯）（46.2%）、ひとり親（三世帯）（38.6%）、ふたり親（二世帯）（30.7%）、ふたり親（三世帯）（30.4%）の順に高い。

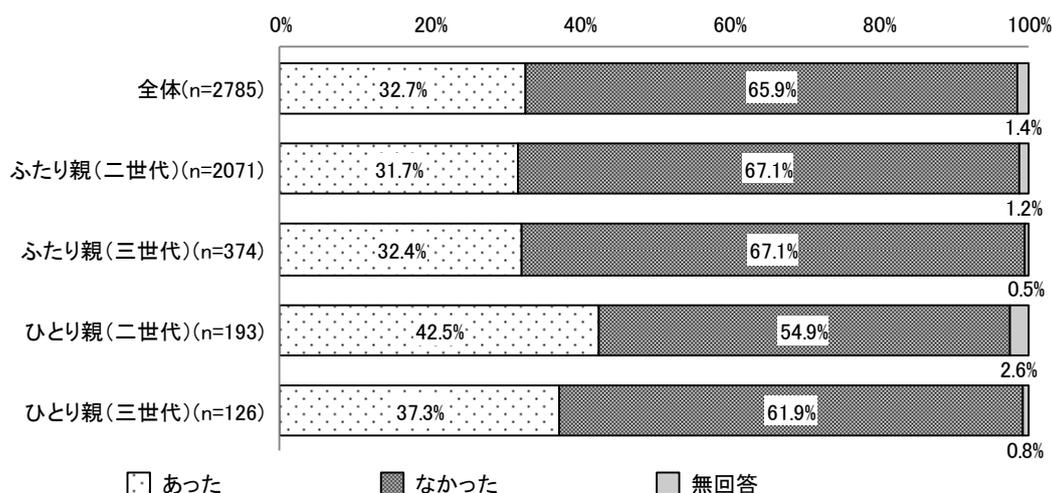
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「あった」の割合は、ひとり親（二世帯）（42.5%）、ひとり親（三世帯）（37.3%）、ふたり親（三世帯）（32.4%）、ふたり親（二世帯）（31.7%）の順に高い。

図表 155 【保護者】 Q33 医療機関で受診した方がよいと思ったが、実際には受診しなかったこと：単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



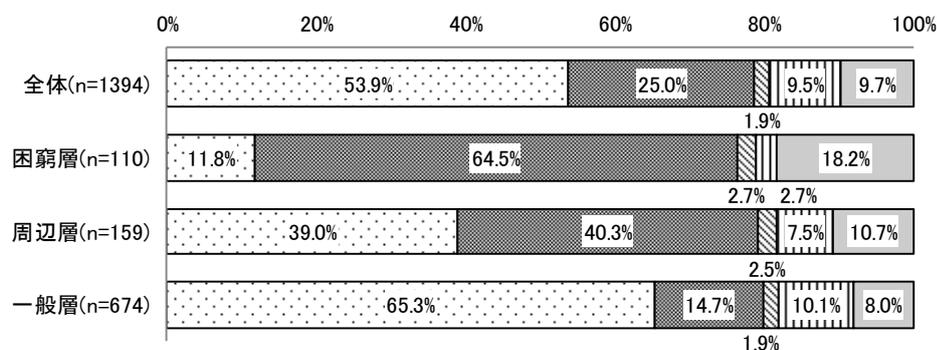
#### ④【保護者】Q34 受診しなかった理由

小学生保護者の「全体」では、「受診する時間がなかったから」が53.9%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が25.0%となっている。生活困難度別にみると、「費用がかかるから」の割合は、困窮層（64.5%）、周辺層（40.3%）、一般層（14.7%）の順に高い。

中学生保護者の「全体」では、「受診する時間がなかったから」が50.8%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が26.6%となっている。生活困難度別にみると、「費用がかかるから」の割合は、困窮層（58.5%）、周辺層（45.6%）、一般層（14.4%）の順に高い。

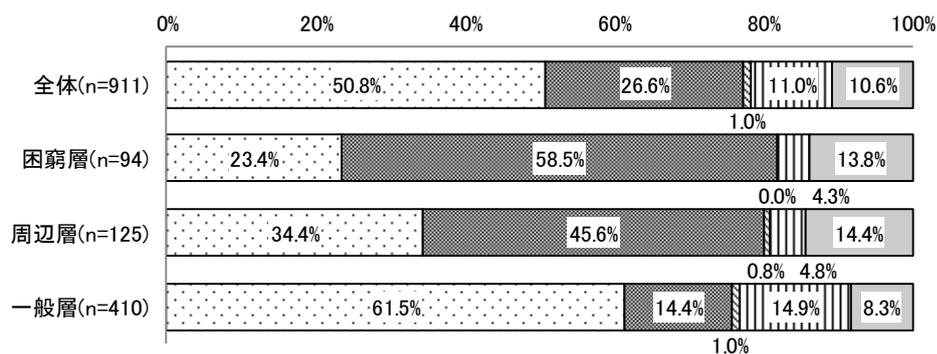
図表 156 【保護者】Q34 受診しなかった理由:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



□ 受診する時間がなかったから ■ 費用がかかるから ▨ 医療機関が近所がないから ▩ その他 □ 無回答

<中学生保護者> (p<.01)



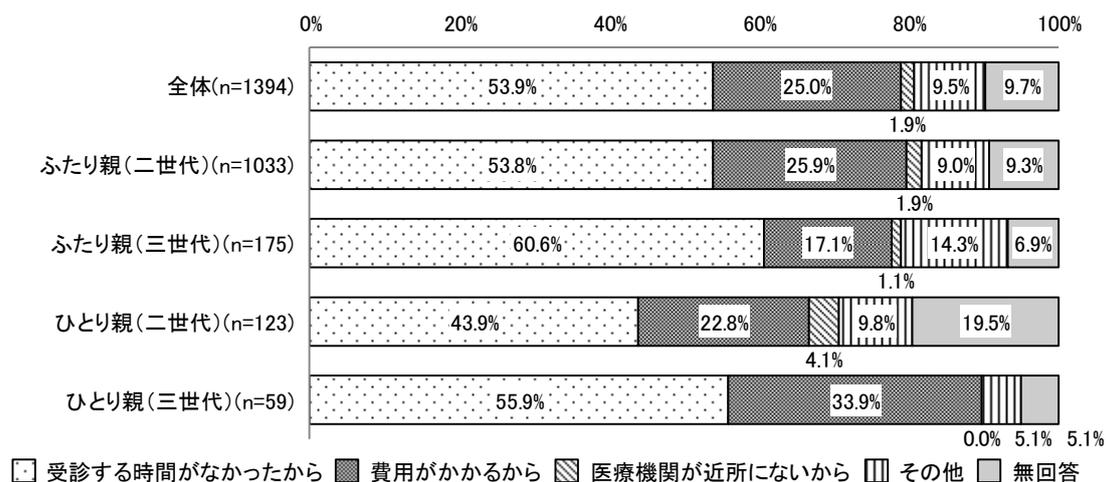
□ 受診する時間がなかったから ■ 費用がかかるから ▨ 医療機関が近所がないから ▩ その他 □ 無回答

※対象は Q33 で「あった」と回答した者

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「費用がかかるから」の割合は、ひとり親（三世代）（33.9%）、ふたり親（二世帯）（25.9%）、ひとり親（二世帯）（22.8%）、ふたり親（三世代）（17.1%）の順に高い。

図表 157 【保護者】 Q34 受診しなかった理由:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.05)



※対象は Q33 で「あった」と回答した者

※中学生保護者は有意差なし

## 6. 保護者と子ども・地域との関わり

### (1) おうちの大人との関わり

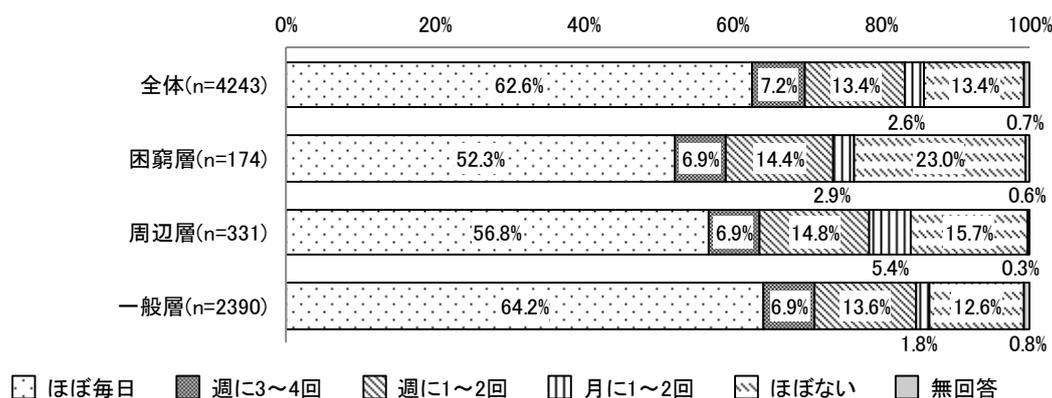
#### ①【子ども】Q16-1 おうちの大人と一緒に朝食をたべるか

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が62.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2回」と「ほぼない」が13.4%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層（23.0%）、周辺層（15.7%）、一般層（12.6%）の順に高い。

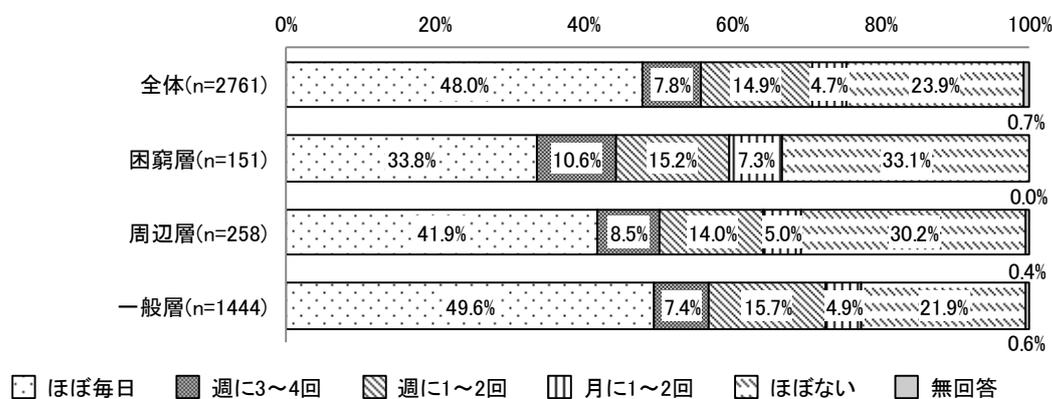
中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が48.0%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が23.9%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層（33.1%）、周辺層（30.2%）、一般層（21.9%）の順に高い。

図表 158 【子ども】Q16-1 おうちの大人と一緒に朝食をたべるか:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)

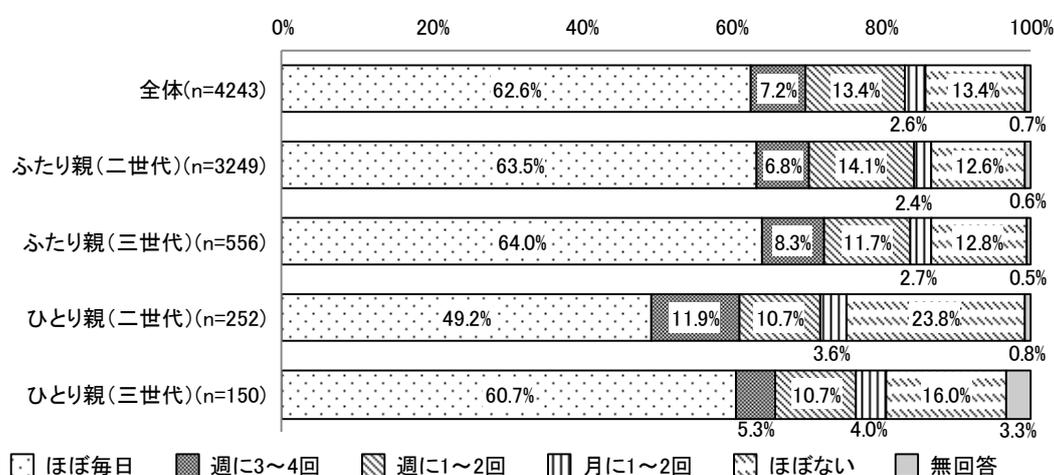


小学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（二世帯）（23.8%）、ひとり親（三世帯）（16.0%）、ふたり親（三世帯）（12.8%）、ふたり親（二世帯）（12.6%）の順に高い。

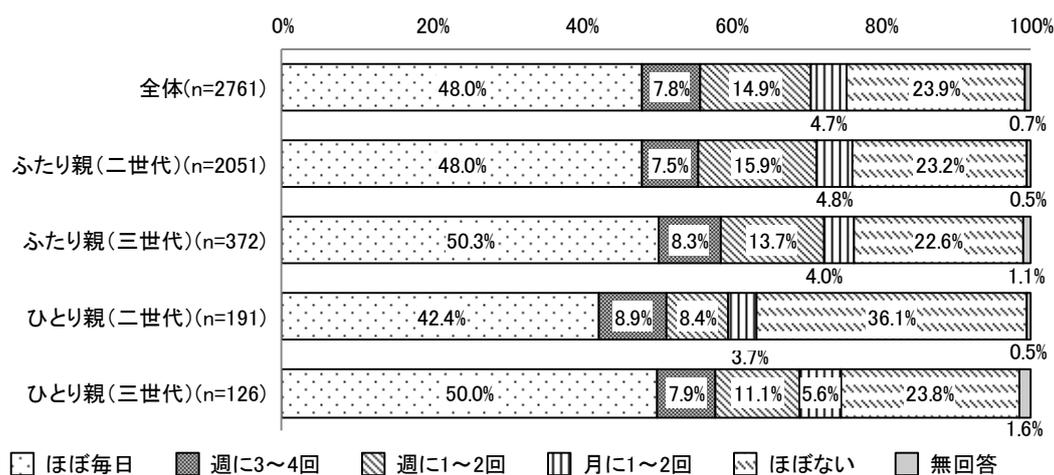
中学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（二世帯）（36.1%）、ひとり親（三世帯）（23.8%）、ふたり親（二世帯）（23.2%）、ふたり親（三世帯）（22.6%）の順に高い。

図表 159 【子ども】Q16-1 おうちの大人と一緒に朝食をたべるか:単数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



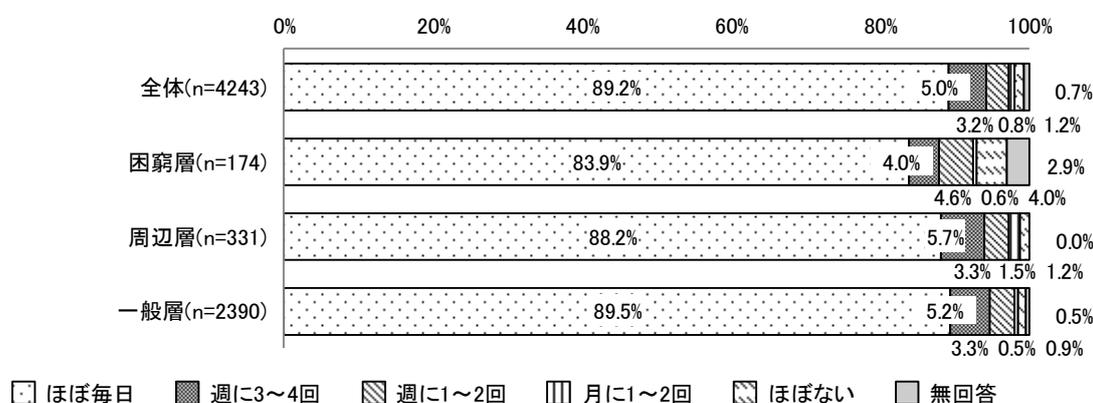
②【子ども】Q16-2 おうちの大人と一緒に夕食を食べるか

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が89.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に3～4回」が5.0%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(4.0%)、周辺層(1.2%)、一般層(0.9%)の順に高い。

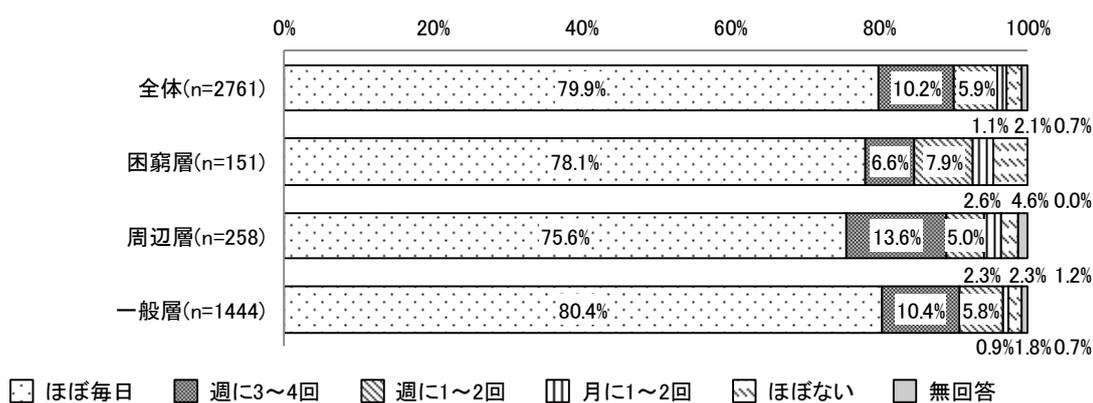
中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が79.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に3～4回」が10.2%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(4.6%)、周辺層(2.3%)、一般層(1.8%)の順に高い。

図表 160 【子ども】Q16-2 おうちの大人と一緒に夕食を食べるか:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.05)



<中学生> (p<.05)

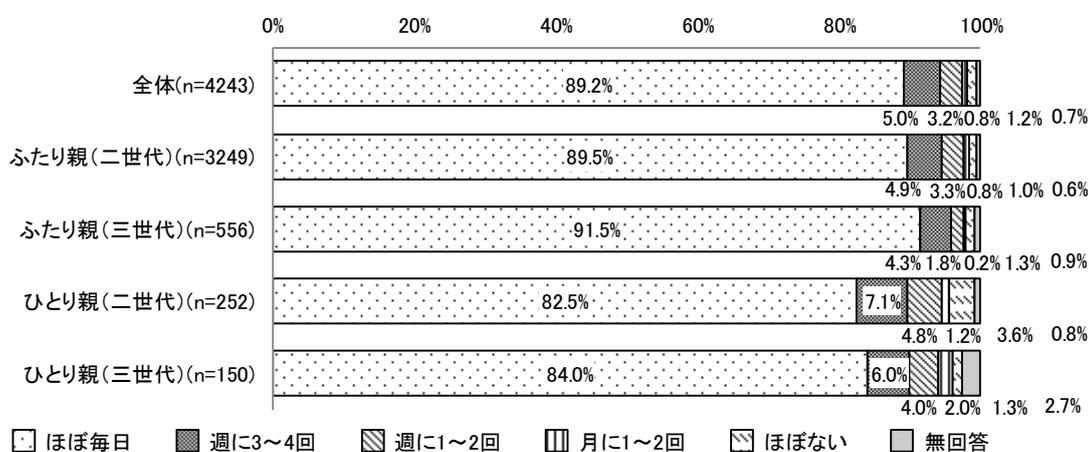


小学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、ふたり親（三世代）（91.5%）、ふたり親（二世帯）（89.5%）、ひとり親（三世代）（84.0%）、ひとり親（二世帯）（82.5%）の順に高い。

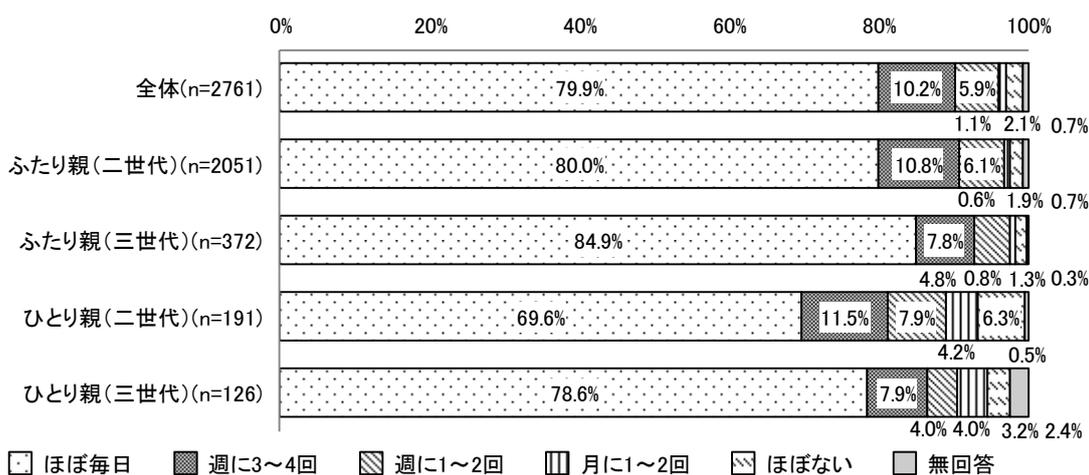
中学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、ふたり親（三世代）（84.9%）、ふたり親（二世帯）（80.0%）、ひとり親（三世代）（78.6%）、ひとり親（二世帯）（69.6%）の順に高い。

図表 161 【子ども】 Q16-2 おうちの大人と一緒に夕食を食べるか:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



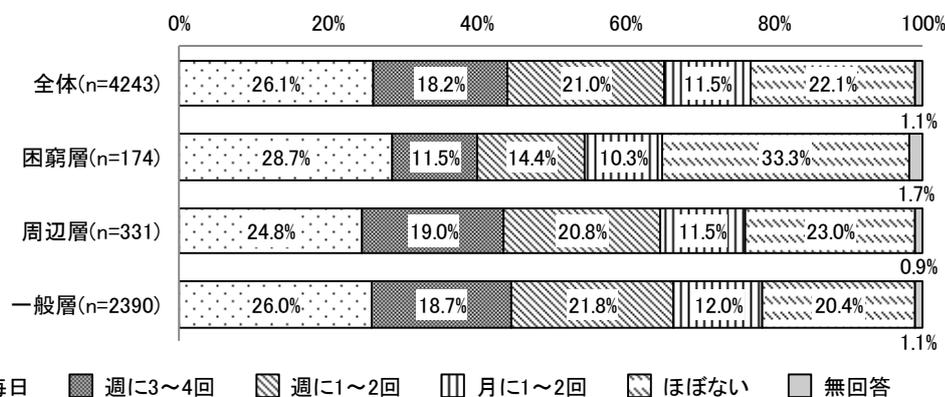
### ③【子ども】Q16-3 おうちの大人に勉強をみてもらうか

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が26.1%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が22.1%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層（33.3%）、周辺層（23.0%）、一般層（20.4%）の順に高い。

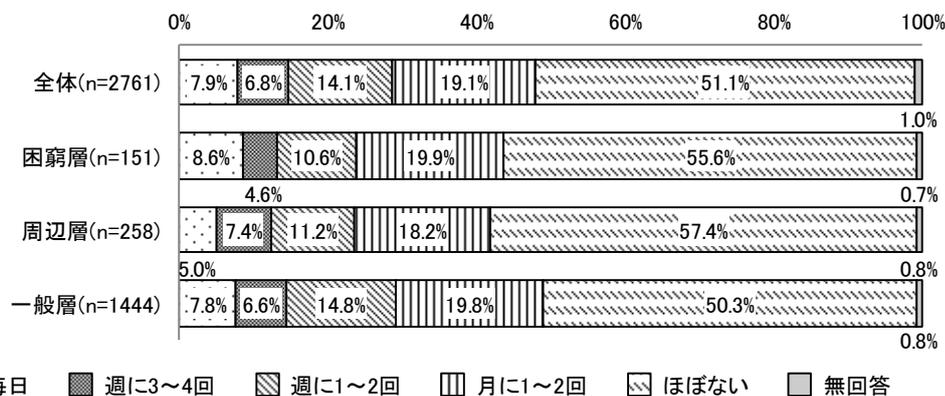
中学生の「全体」では、「ほぼない」が51.1%でもっとも割合が高く、次いで「月に1～2回」が19.1%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 162 【子ども】Q16-3 おうちの大人に勉強をみてもらうか:単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)

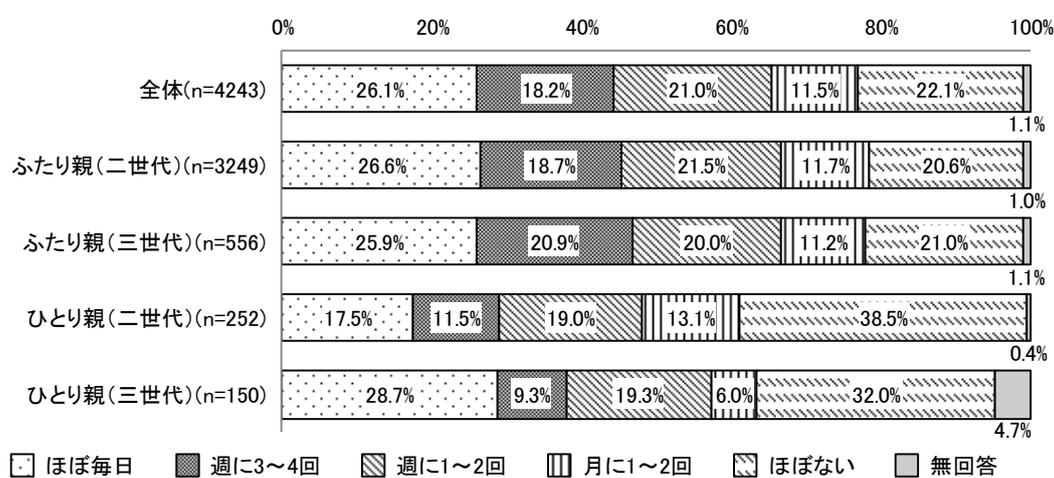


小学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（二世帯）（38.5%）、ひとり親（三世帯）（32.0%）、ふたり親（三世帯）（21.0%）、ふたり親（二世帯）（20.6%）の順に高い。

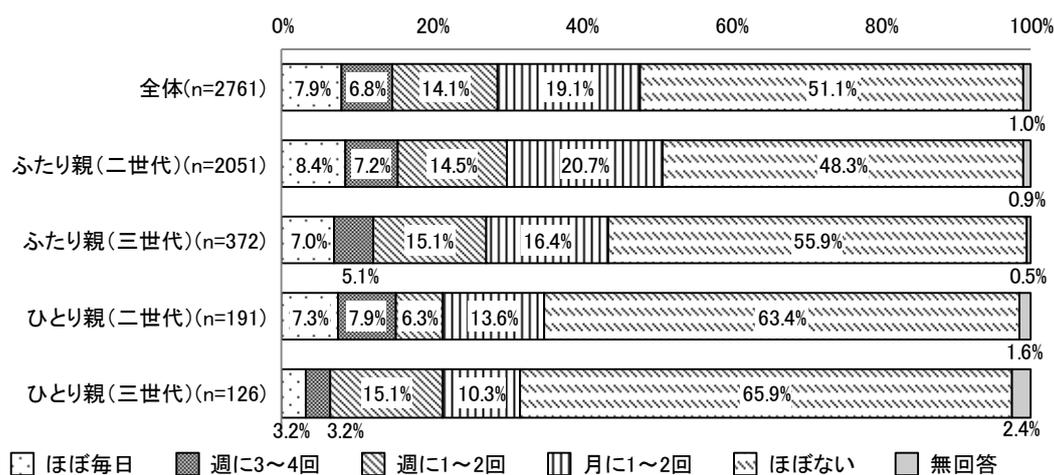
中学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（三世帯）（65.9%）、ひとり親（二世帯）（63.4%）、ふたり親（三世帯）（55.9%）、ふたり親（二世帯）（48.3%）の順に高い。

図表 163 【子ども】 Q16-3 おうちの大人に勉強をみてもらうか:単数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



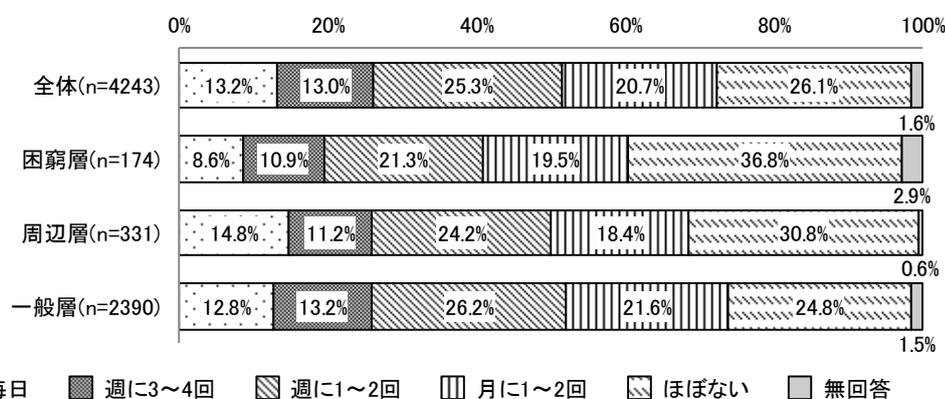
④【子ども】Q16-4 おうちの大人と一緒に遊んだり体を動かしたりするか

小学生の「全体」では、「ほぼない」が26.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に1～2回」が25.3%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(36.8%)、周辺層(30.8%)、一般層(24.8%)の順に高い。

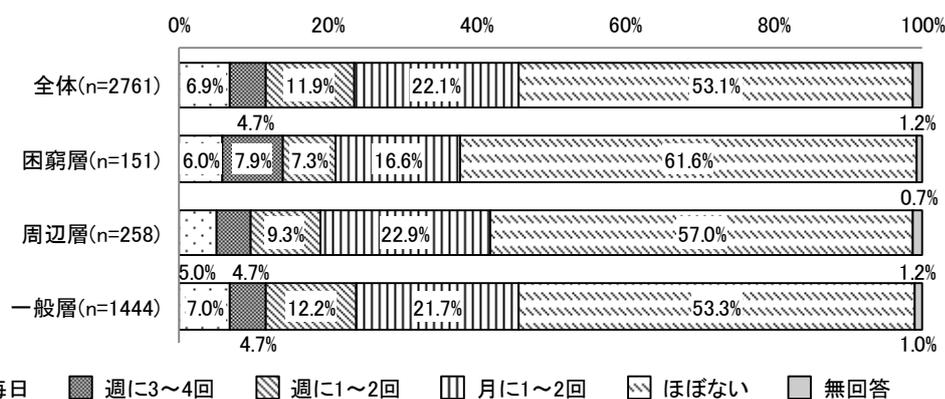
中学生の「全体」では、「ほぼない」が53.1%でもっとも割合が高く、次いで「月に1～2回」が22.1%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 164 【子ども】Q16-4 おうちの大人と一緒に遊んだり体を動かしたりするか：  
単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (有意差なし)

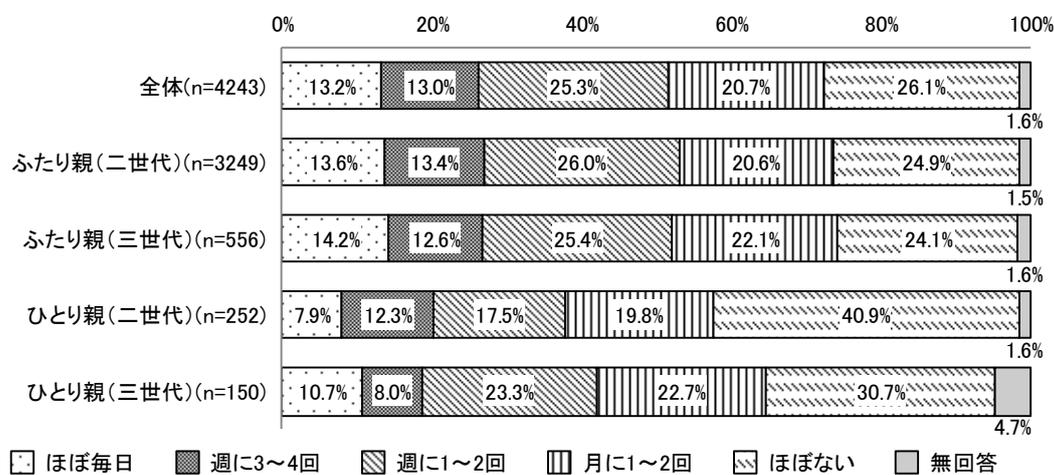


小学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（二世帯）（40.9%）、ひとり親（三世帯）（30.7%）、ふたり親（二世帯）（24.9%）、ふたり親（三世帯）（24.1%）の順に高い。

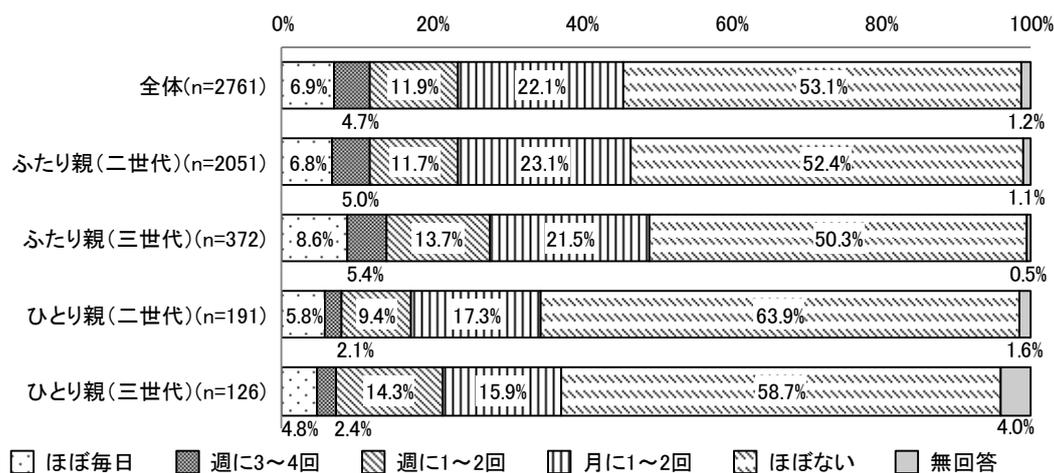
中学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（二世帯）（63.9%）、ひとり親（三世帯）（58.7%）、ふたり親（二世帯）（52.4%）、ふたり親（三世帯）（50.3%）の順に高い。

図表 165 【子ども】 Q16-4 おうちの大人と一緒に遊んだり体を動かしたりするか：  
単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



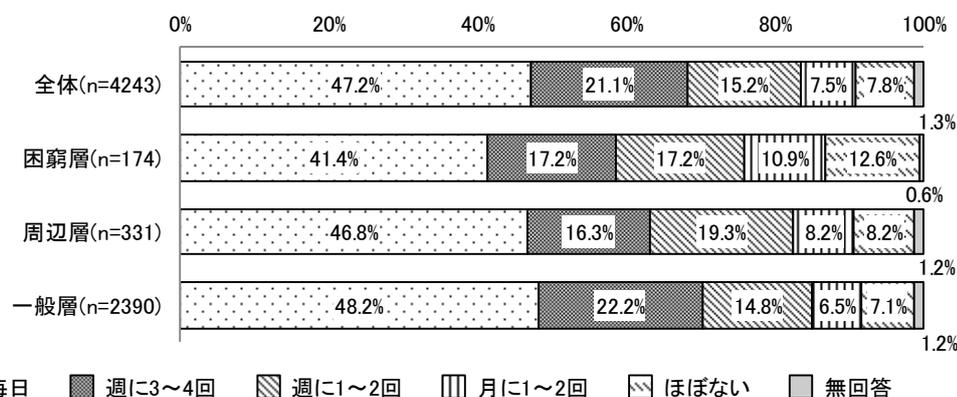
⑤【子ども】Q16-5 おうちの大人と学校生活の話をするか

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が47.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に3～4回」が21.1%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(12.6%)、周辺層(8.2%)、一般層(7.1%)の順に高い。

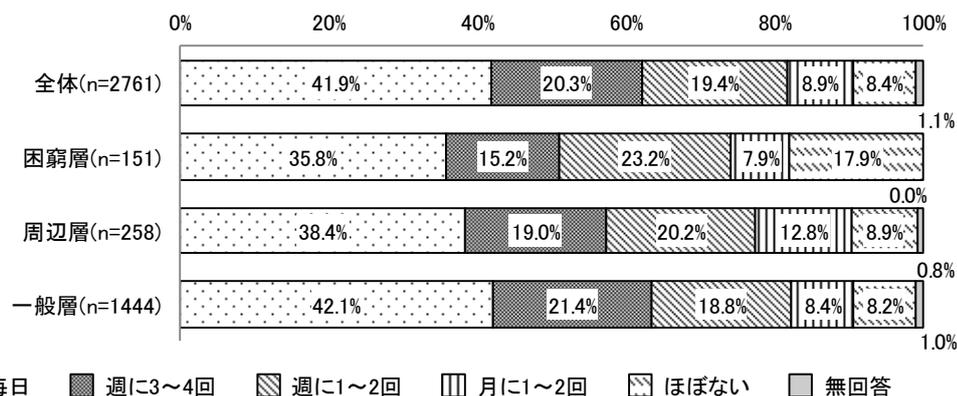
中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が41.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に3～4回」が20.3%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(17.9%)、周辺層(8.9%)、一般層(8.2%)の順に高い。

図表 166 【子ども】Q16-5 おうちの大人と学校生活の話をするか:単数回答(生活困難度別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)

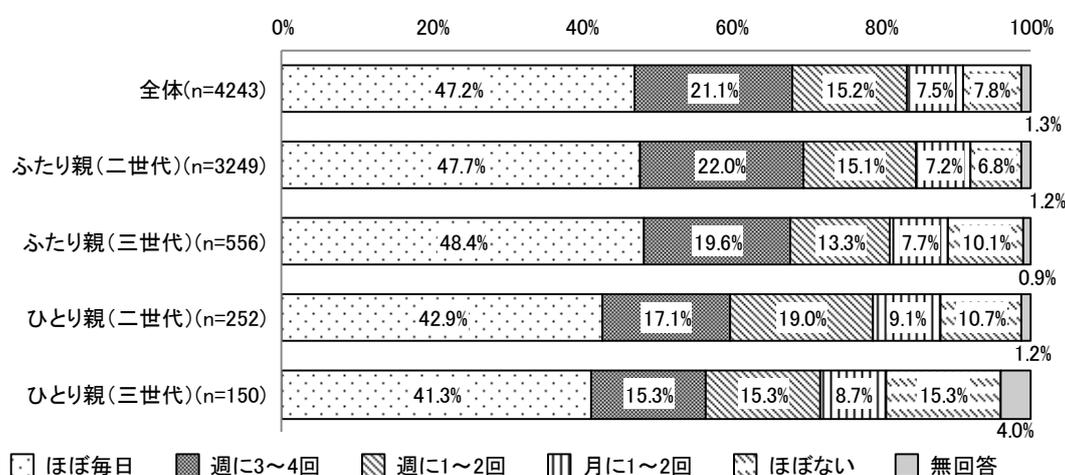


小学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（三世代）（15.3%）、ひとり親（二世帯）（10.7%）、ふたり親（三世代）（10.1%）、ふたり親（二世帯）（6.8%）の順に高い。

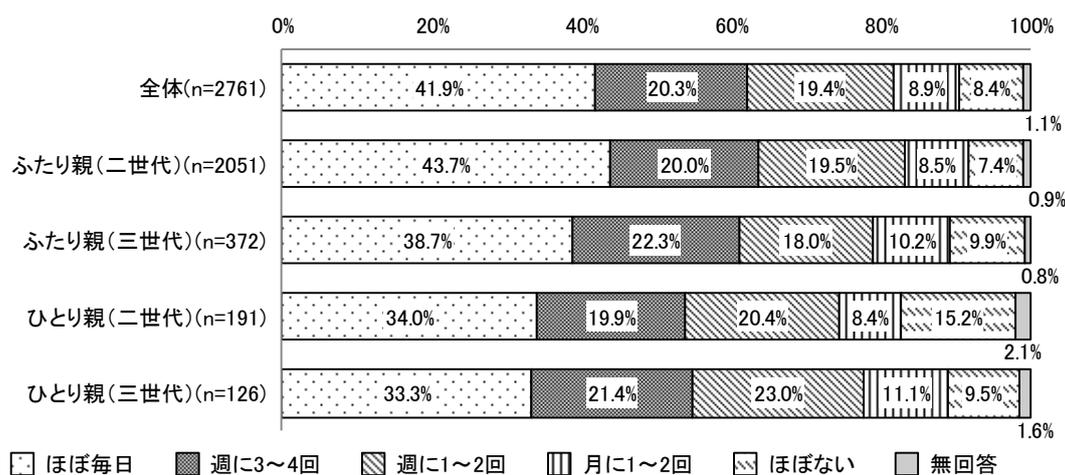
中学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（二世帯）（15.2%）、ふたり親（三世代）（9.9%）、ひとり親（三世代）（9.5%）、ふたり親（二世帯）（7.4%）の順に高い。

図表 167 【子ども】Q16-5 おうちの大人と学校生活の話をするか:単数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.05)



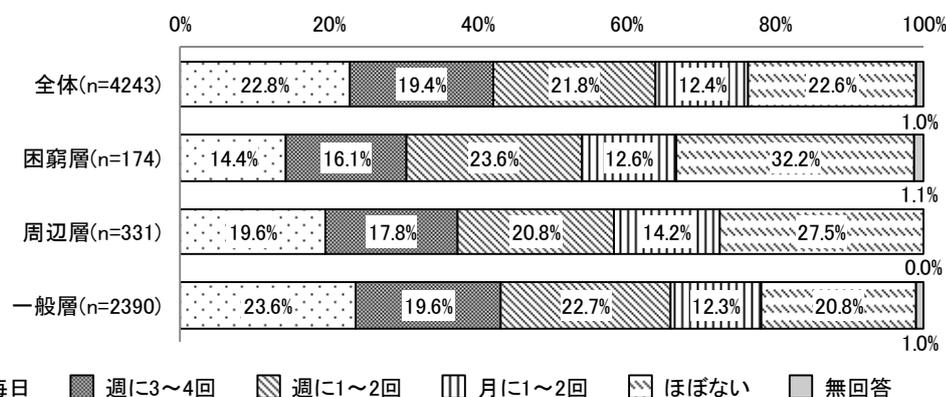
⑥ 【子ども】 Q16-6 おうちの大人とニュースなどの社会のできごとについて話すか

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 22.8%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が 22.6%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層（32.2%）、周辺層（27.5%）、一般層（20.8%）の順に高い。

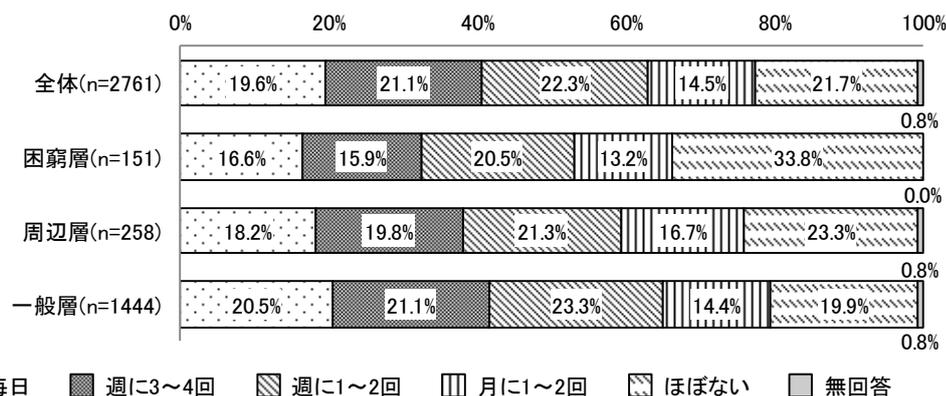
中学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 22.3%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が 21.7%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層（33.8%）、周辺層（23.3%）、一般層（19.9%）の順に高い。

図表 168 【子ども】 Q16-6 おうちの大人とニュースなどの社会のできごとについて話すか：単数回答（生活困難度別）

<小学生> (p<.01)



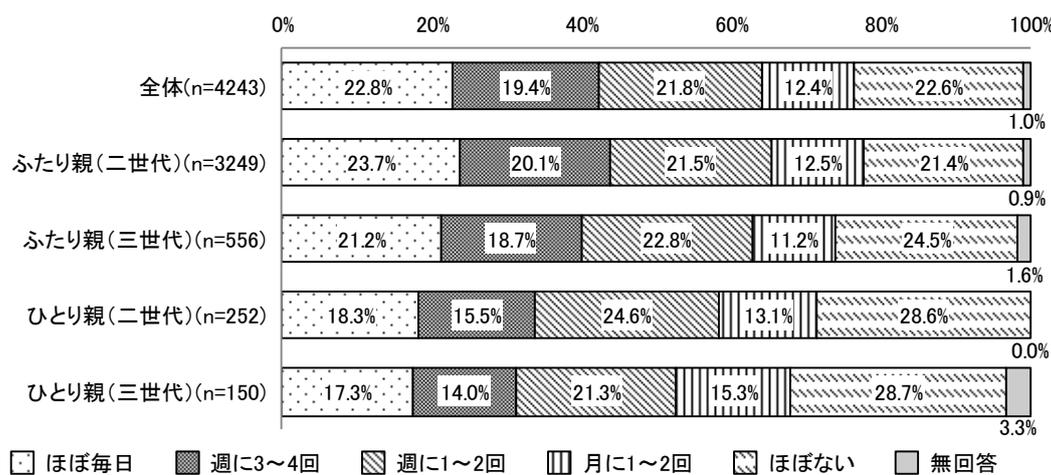
<中学生> (p<.05)



小学生について、世帯タイプ別にみると、「ほぼない」の割合は、ひとり親（三世代）（28.7%）、ひとり親（二世帯）（28.6%）、ふたり親（三世代）（24.5%）、ふたり親（二世帯）（21.4%）の順に高い。

図表 169 【子ども】 Q16-6 おうちの大人とニュースなどの社会のできごとについて話すか：  
単数回答（世帯タイプ別）

<小学生> (p<.05)



※中学生は有意差なし

⑦【子ども】Q16-7 おうちの大人と一緒に料理をするか

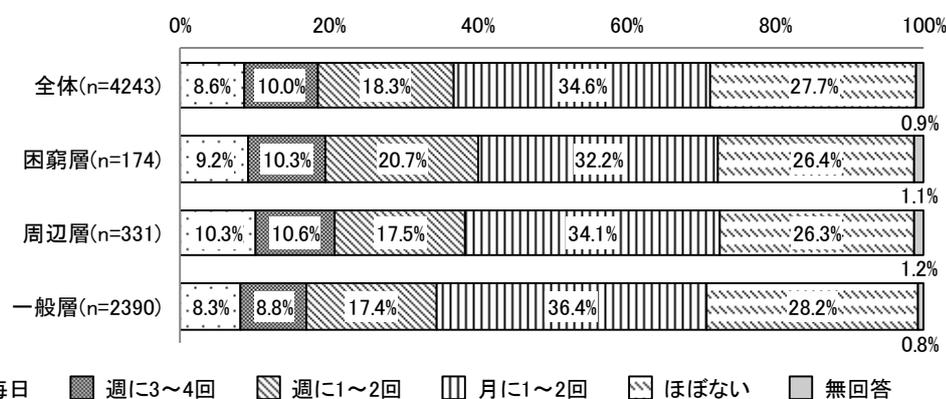
小学生の「全体」では、「月に1～2回」が34.6%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が27.7%となっている。

中学生の「全体」では、「ほぼない」が47.5%でもっとも割合が高く、次いで「月に1～2回」が28.5%となっている。

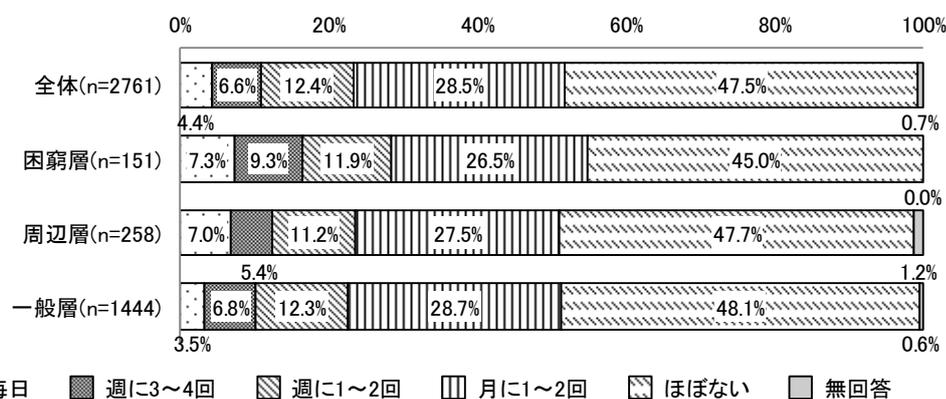
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 170 【子ども】Q16-7 おうちの大人と一緒に料理をするか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



⑧【子ども】Q16-8 おうちの大人と一緒に外出するか

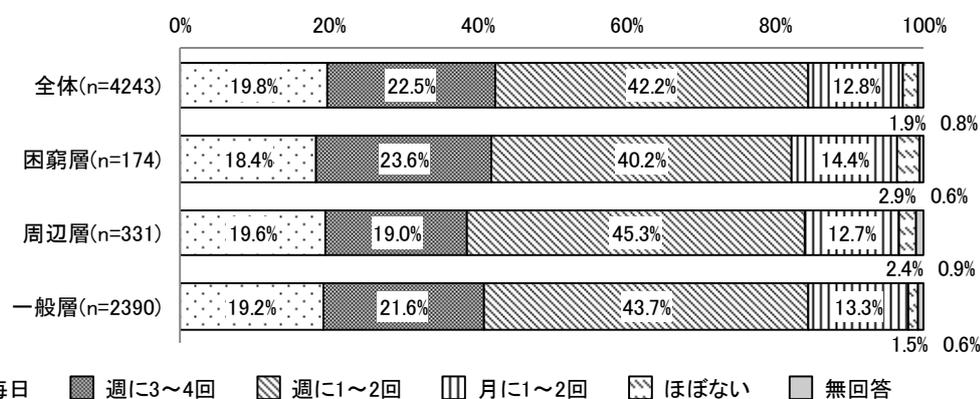
小学生の「全体」では、「週に1～2回」が42.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に3～4回」が22.5%となっている。

中学生の「全体」では、「週に1～2回」が39.2%でもっとも割合が高く、次いで「月に1～2回」が30.0%となっている。

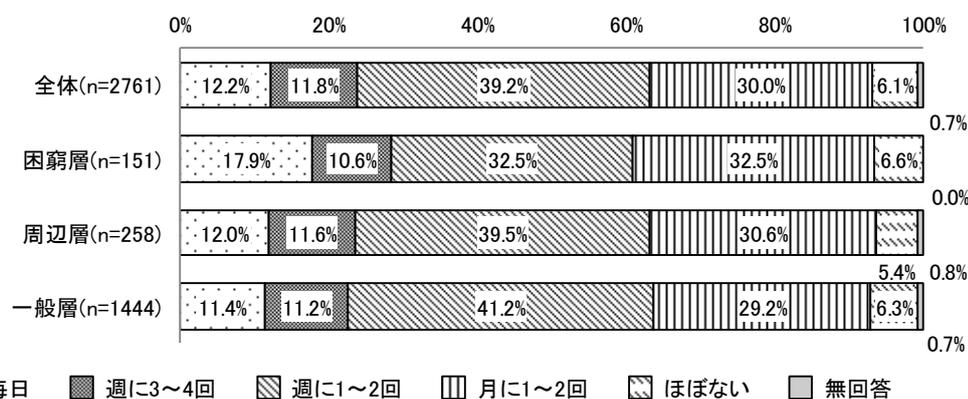
生活困難度別にみると、小中学生いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 171 【子ども】Q16-8 おうちの大人と一緒に外出するか:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生> (有意差なし)



<中学生> (有意差なし)



(2) 子どもとの関わり

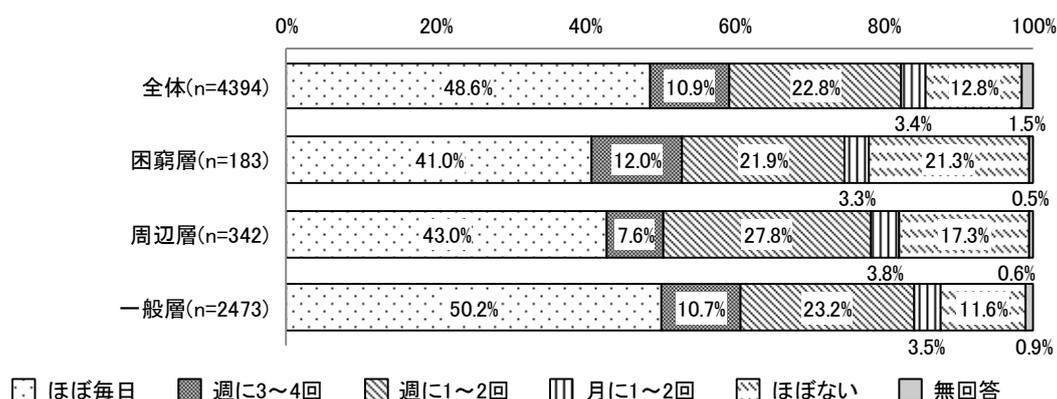
①【保護者】Q43-1 子どもとする頻度\_一緒に朝食をたべる

小学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が48.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2回」が22.8%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(21.3%)、周辺層(17.3%)、一般層(11.6%)の順に高い。

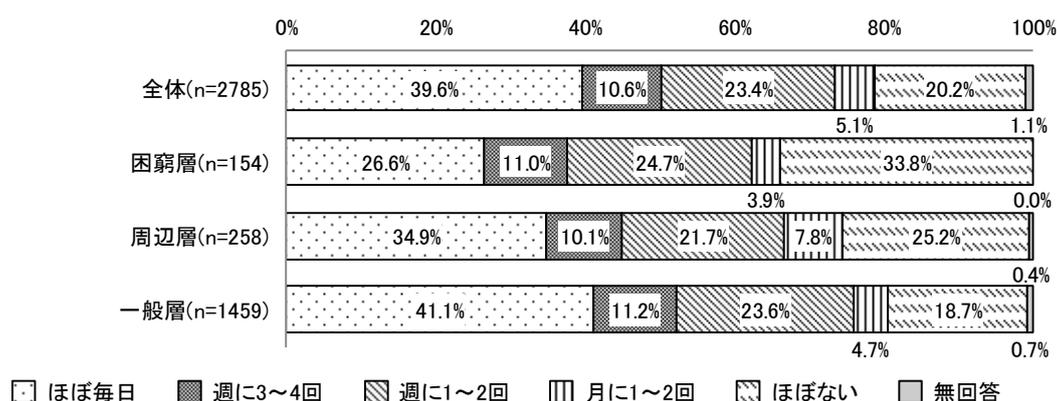
中学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が39.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2回」が23.4%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(33.8%)、周辺層(25.2%)、一般層(18.7%)の順に高い。

図表 172 【保護者】Q43-1 子どもとする頻度\_一緒に朝食をたべる:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



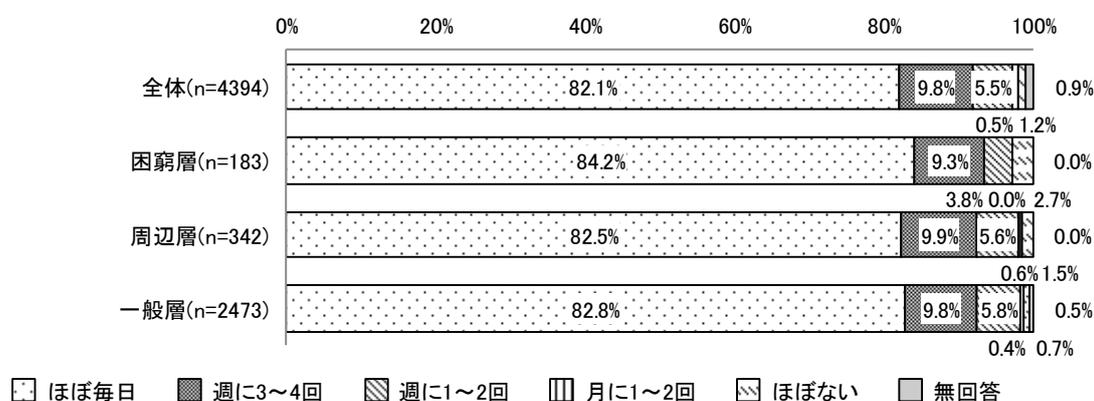
②【保護者】Q43-2 子どもとする頻度\_一緒に夕食をたべる

小学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が82.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4回」が9.8%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

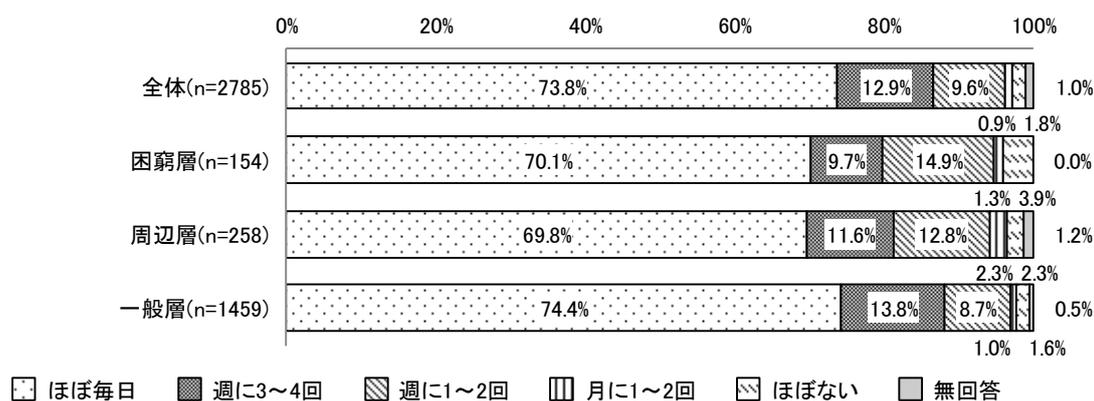
中学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が73.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4回」が12.9%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(3.9%)、周辺層(2.3%)、一般層(1.6%)の順に高い。

図表 173 【保護者】Q43-2 子どもとする頻度\_一緒に夕食をたべる:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (有意差なし)



<中学生保護者> (p<.05)



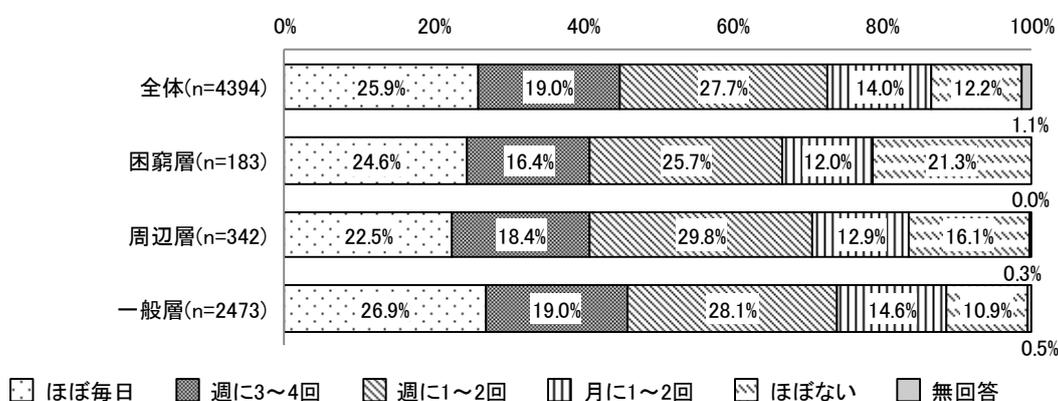
③【保護者】Q43-3 子どもとする頻度\_勉強をみてあげる

小学生保護者の「全体」では、「週に1~2回」が27.7%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が25.9%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(21.3%)、周辺層(16.1%)、一般層(10.9%)の順に高い。

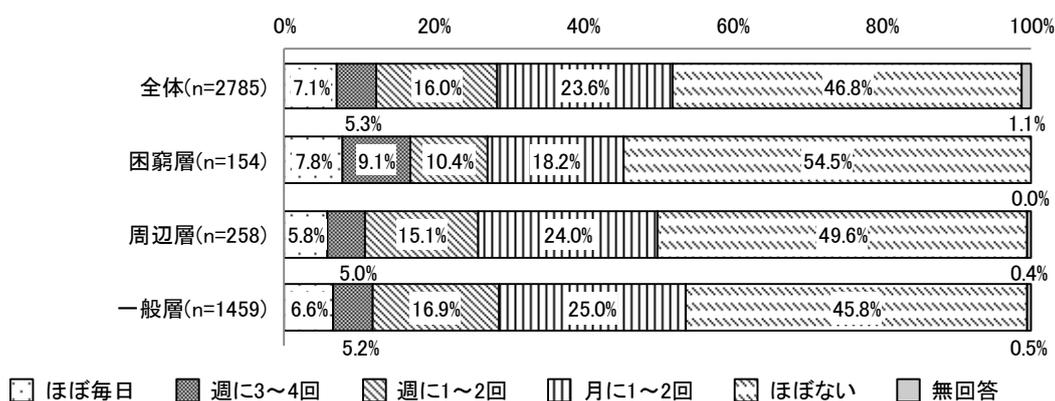
中学生保護者の「全体」では、「ほぼない」が46.8%でもっとも割合が高く、次いで「月に1~2回」が23.6%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 174 【保護者】Q43-3 子どもとする頻度\_勉強をみてあげる:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



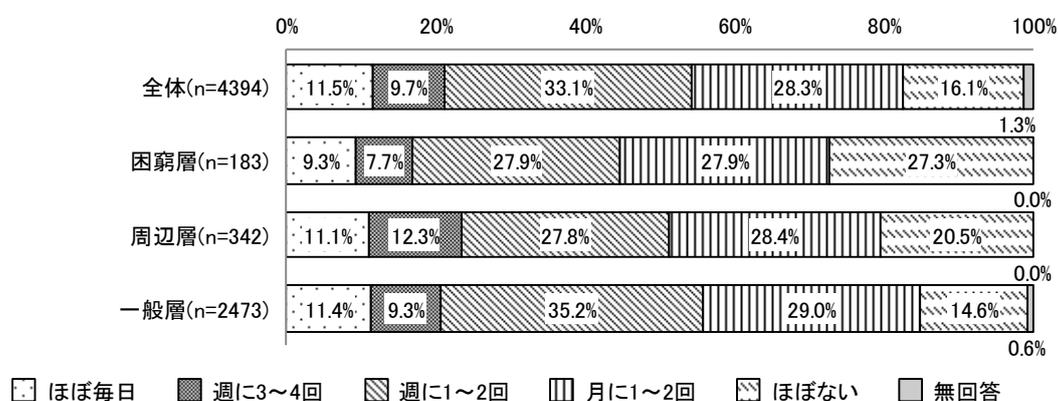
④【保護者】Q43-4 子どもとする頻度\_一緒に遊んだり体を動かしたりする

小学生保護者の「全体」では、「週に1~2回」が33.1%でもっとも割合が高く、次いで「月に1~2回」が28.3%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(27.3%)、周辺層(20.5%)、一般層(14.6%)の順に高い。

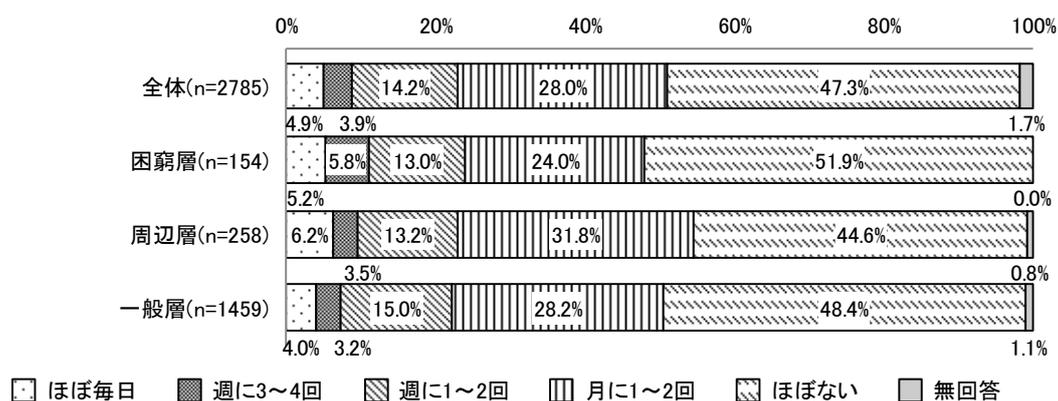
中学生保護者の「全体」では、「ほぼない」が47.3%でもっとも割合が高く、次いで「月に1~2回」が28.0%となっている。生活困難度別にみると、統計的に有意な差はみられない。

図表 175 【保護者】Q43-4 子どもとする頻度\_一緒に遊んだり体を動かしたりする:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



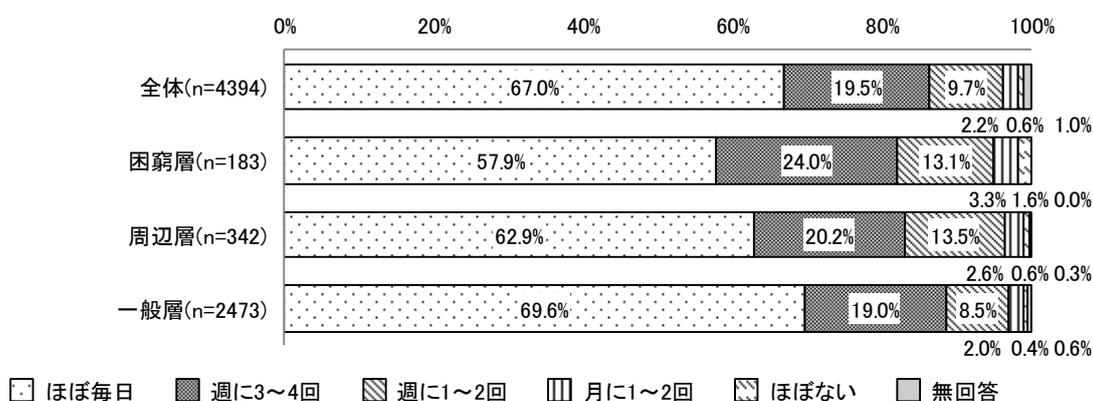
⑤【保護者】Q43-5 子どもとする頻度\_学校生活の話をする

小学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が67.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4回」が19.5%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、一般層(69.6%)、周辺層(62.9%)、困窮層(57.9%)の順に高い。

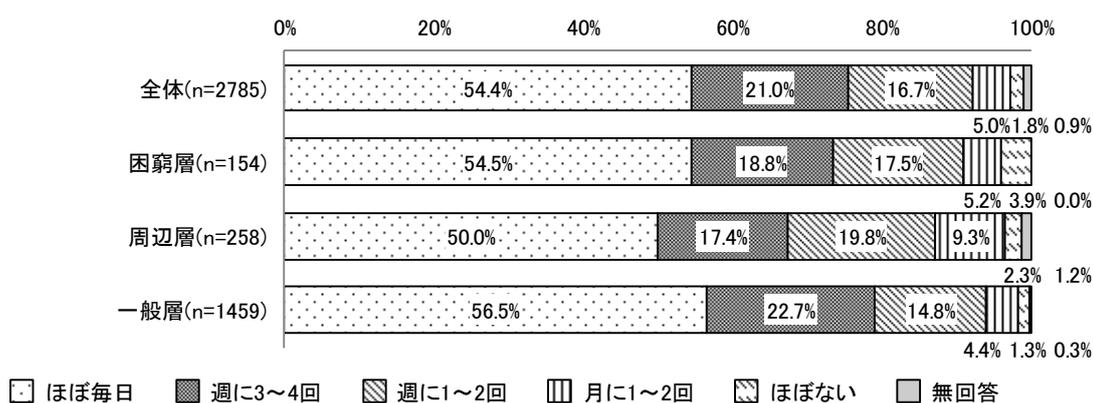
中学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が54.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4回」が21.0%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、一般層(56.5%)、困窮層(54.5%)、周辺層(50.0%)の順に高い。

図表 176 【保護者】Q43-5 子どもとする頻度\_学校生活の話をする:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



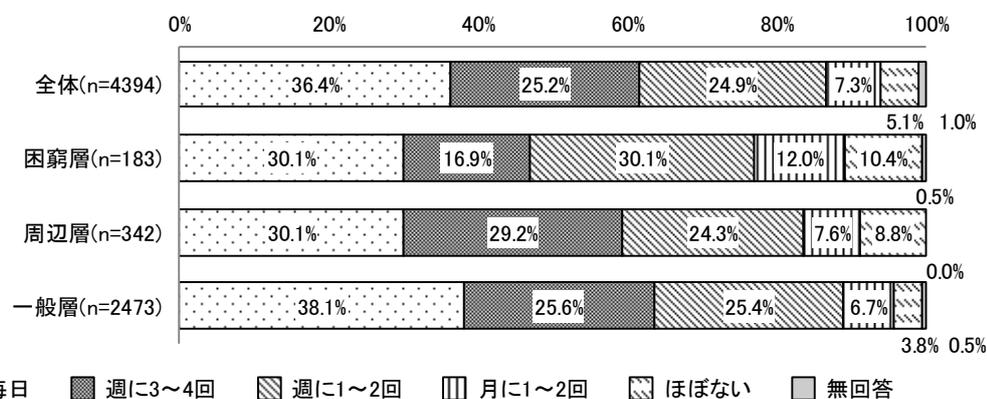
⑥【保護者】Q43-6 子どもとする頻度\_ニュースなどの社会のできごとについて話す

小学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が36.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4回」が25.2%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(10.4%)、周辺層(8.8%)、一般層(3.8%)の順に高い。

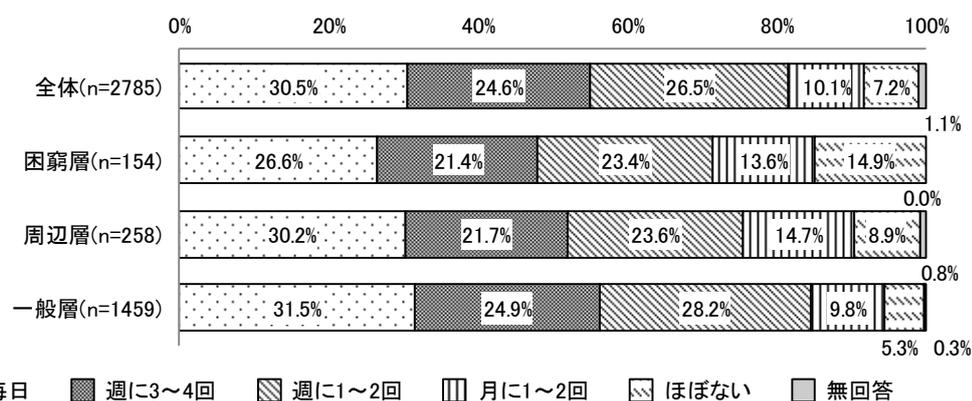
中学生保護者の「全体」では、「ほぼ毎日」が30.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2回」が26.5%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(14.9%)、周辺層(8.9%)、一般層(5.3%)の順に高い。

図表 177 【保護者】Q43-6 子どもとする頻度\_ニュースなどの社会のできごとについて話す:  
単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



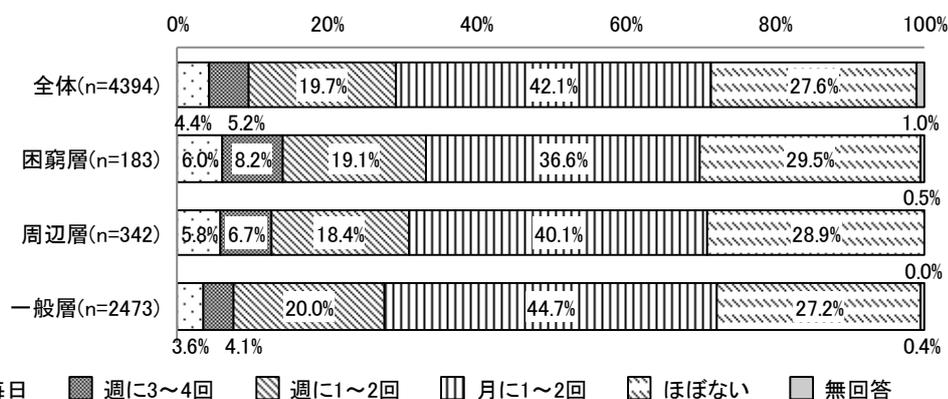
⑦【保護者】Q43-7 子どもとする頻度\_一緒に料理をする

小学生保護者の「全体」では、「月に1~2回」が42.1%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が27.6%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(29.5%)、周辺層(28.9%)、一般層(27.2%)の順に高い。

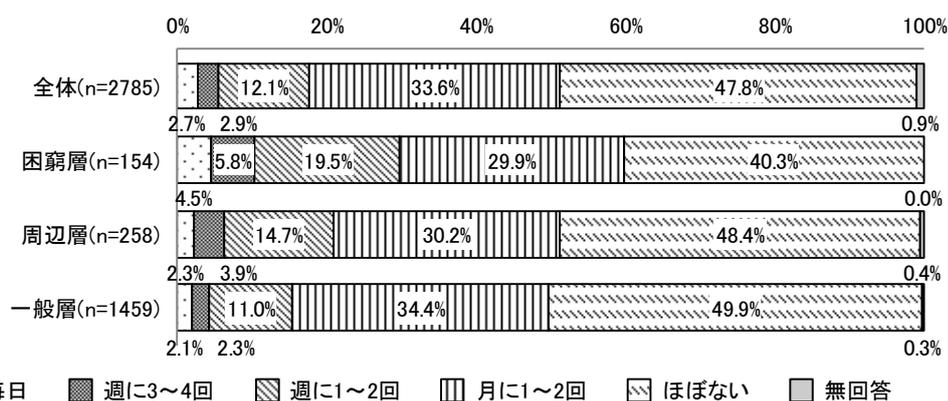
中学生保護者の「全体」では、「ほぼない」が47.8%でもっとも割合が高く、次いで「月に1~2回」が33.6%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、一般層(49.9%)、周辺層(48.4%)、困窮層(40.3%)の順に高い。

図表 178 【保護者】Q43-7 子どもとする頻度\_一緒に料理をする:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



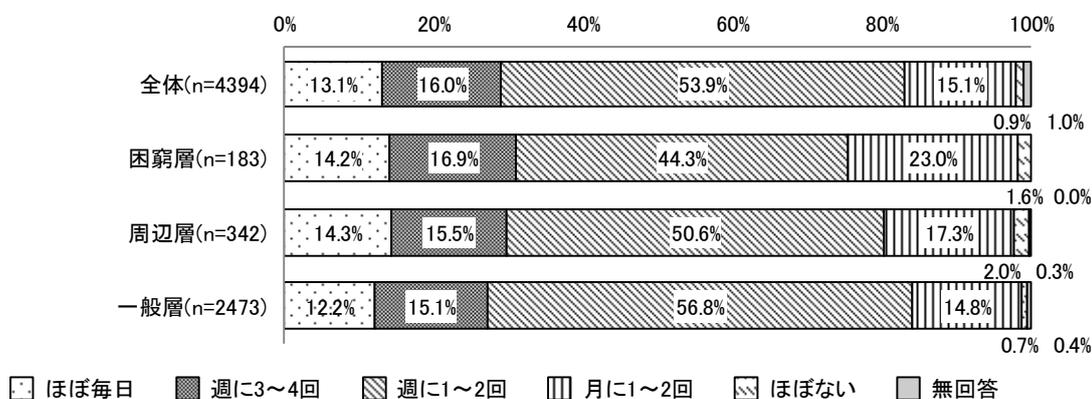
⑧【保護者】Q43-8 子どもとする頻度\_一緒に外出する

小学生保護者の「全体」では、「週に1~2回」が53.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~4回」が16.0%となっている。生活困難度別にみると、「月に1~2回」の割合は、困窮層(23.0%)、周辺層(17.3%)、一般層(14.8%)の順に高い。

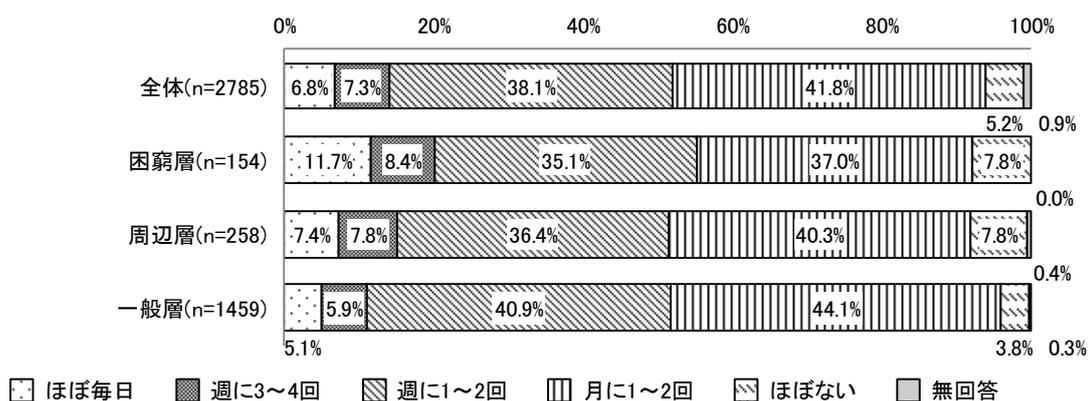
中学生保護者の「全体」では、「月に1~2回」が41.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に1~2回」が38.1%となっている。生活困難度別にみると、「ほぼない」の割合は、困窮層(7.8%)、周辺層(7.8%)、一般層(3.8%)の順に高い。

図表 179 【保護者】Q43-8 子どもとする頻度\_一緒に外出する:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### (3) 相談できる人、知人・友人

#### ①【保護者】Q44~46 相談相手、近隣の友人・知人

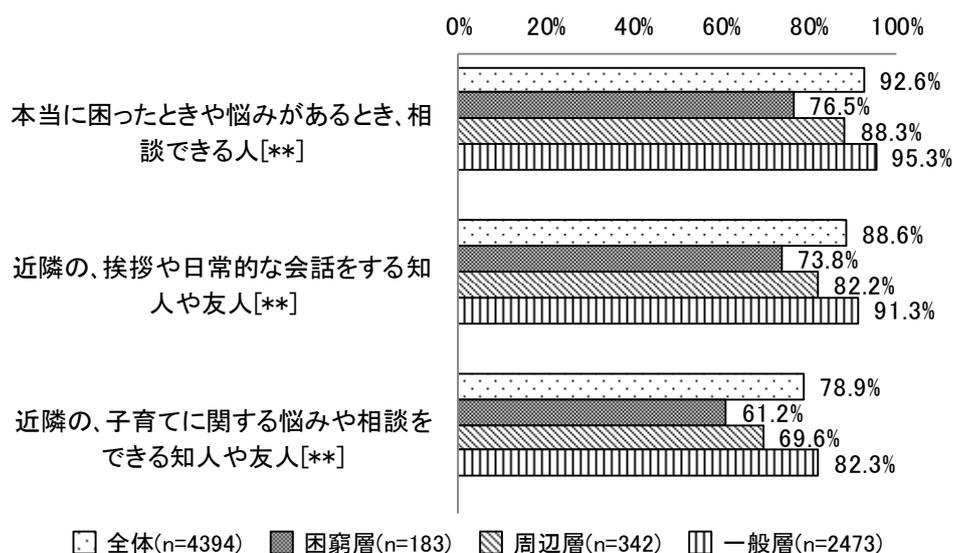
小学生保護者の「全体」について、「いる」と回答した割合をみると、「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人」が92.6%でもっとも高く、次いで「近隣の、挨拶や日常的な会話をする知人や友人」が88.6%となっている。

中学生保護者の「全体」について、「いる」と回答した割合をみると、「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人」が90.6%でもっとも高く、次いで「近隣の、挨拶や日常的な会話をする知人や友人」が87.1%となっている。

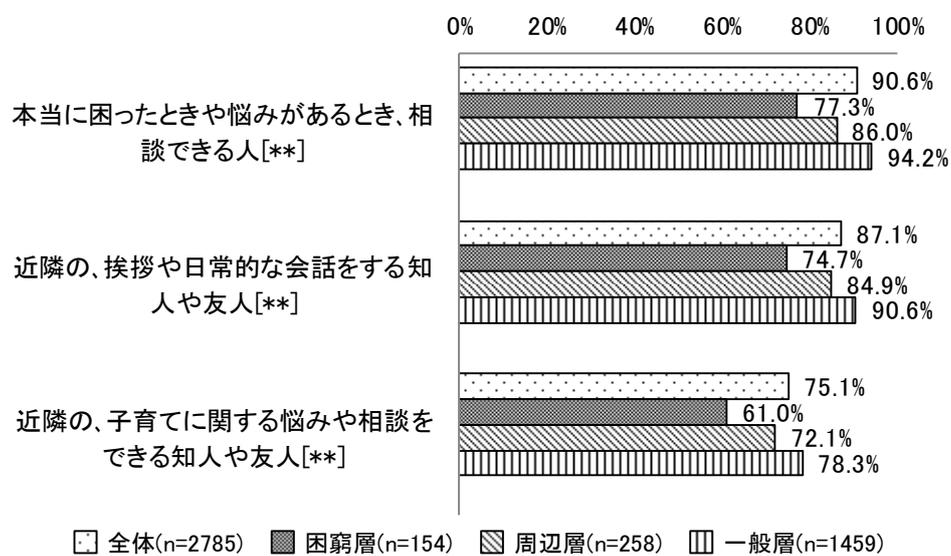
生活困難度別にみると、小学生・中学生保護者ともに、いずれの項目についても統計的に有意な差がみられ、一般層ほど「いる」と回答する割合が高い。

図表 180 【保護者】Q44~46 相談相手、近隣の友人・知人\_「いる」の割合  
(生活困難度別)

<小学生保護者>



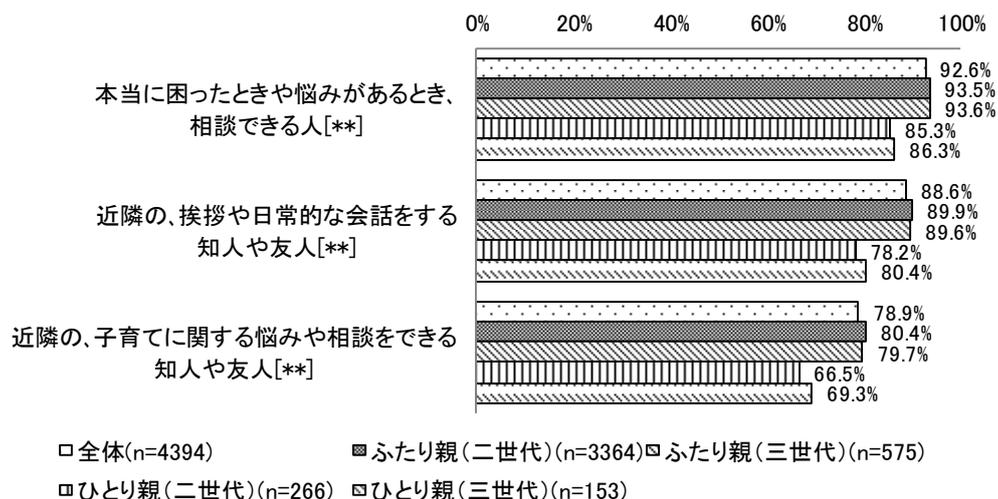
< 中学生保護者 >



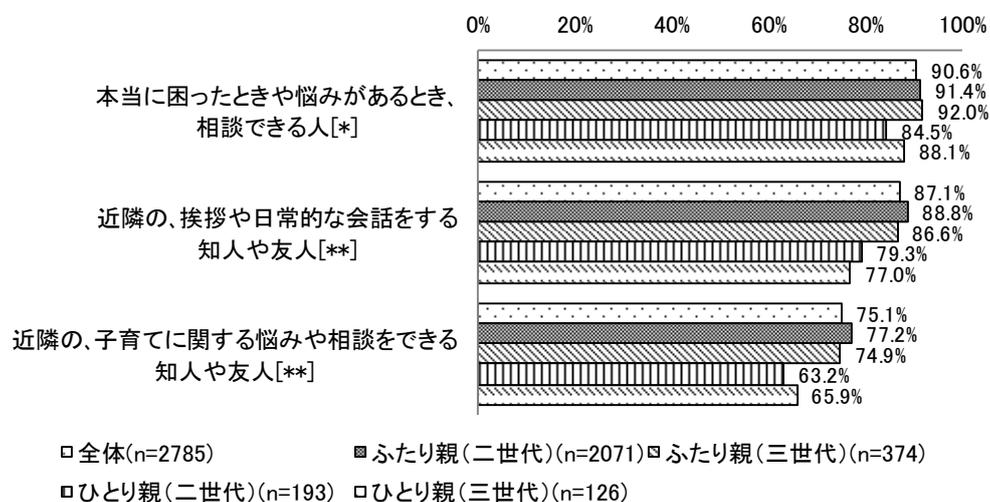
世帯タイプ別にみると、小学生・中学生保護者ともに、いずれの項目についても統計的に有意な差がみられ、ふたり親の世帯ほど「いる」と回答する割合が高い。

図表 181 【保護者】 Q44~46 相談相手、近隣の友人・知人\_「いる」の割合  
(世帯タイプ別)

<小学生保護者>



<中学生保護者>



## 7. 保護者のこれまでの経験

### (1) 保護者学歴

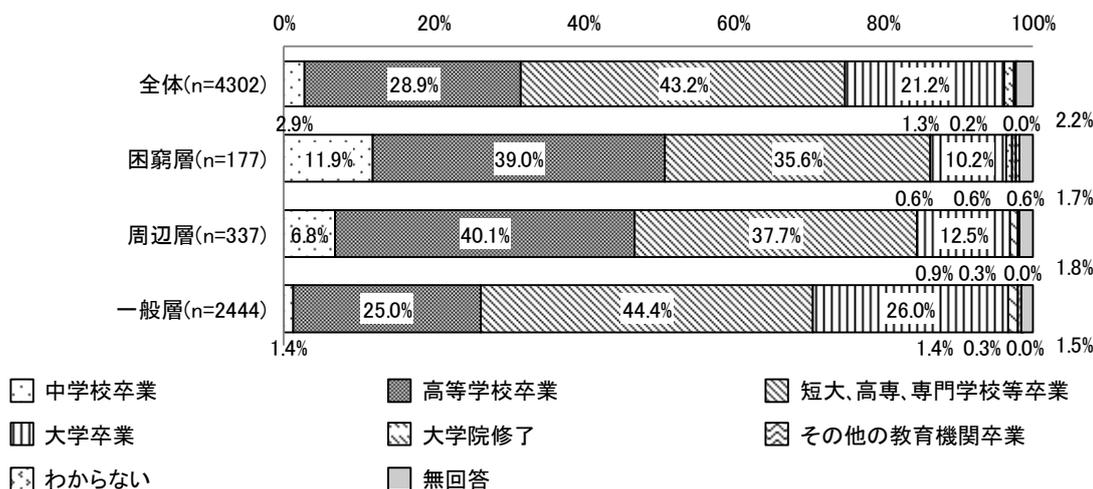
#### ①【保護者】Q47-1 母親の最終学歴

小学生保護者の「全体」では、「短大、高専、専門学校等卒業」が43.2%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校卒業」が28.9%となっている。生活困難度別にみると、「大学卒業」の割合は、一般層（26.0%）、周辺層（12.5%）、困窮層（10.2%）の順に高い。

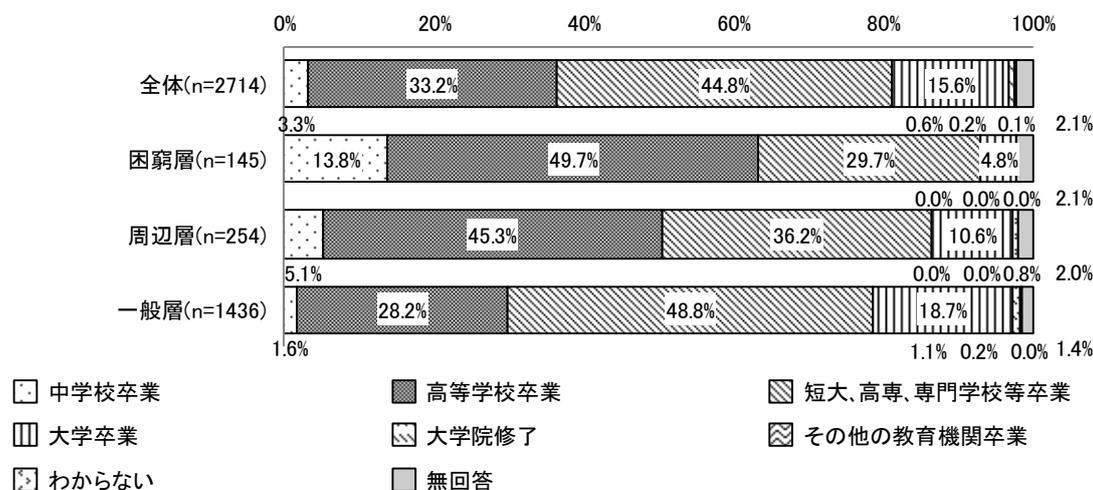
中学生保護者の「全体」では、「短大、高専、専門学校等卒業」が44.8%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校卒業」が33.2%となっている。生活困難度別にみると、「大学卒業」の割合は、一般層（18.7%）、周辺層（10.6%）、困窮層（4.8%）の順に高い。

図表 182 【保護者】Q47-1 母親の最終学歴:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



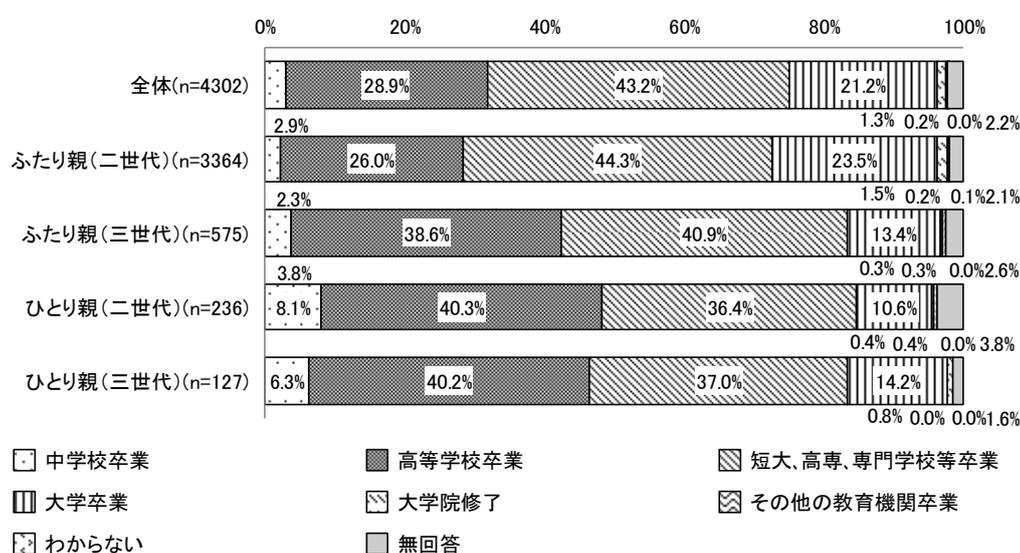
※対象は保護者票 Q7 で母親と同居していると回答した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大学卒業」の割合は、ふたり親（二世帯）（23.5%）、ひとり親（三世代）（14.2%）、ふたり親（三世代）（13.4%）、ひとり親（二世帯）（10.6%）の順に高い。

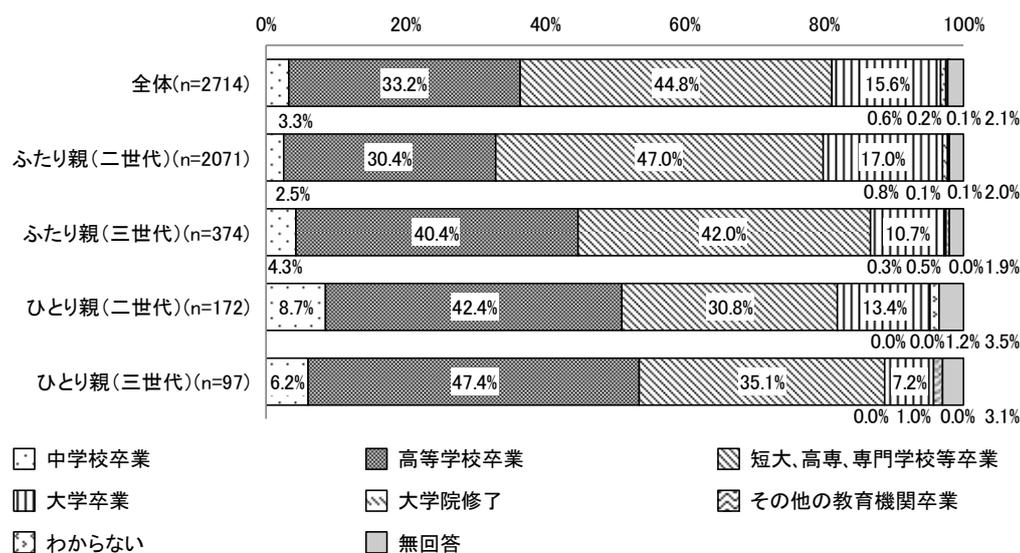
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大学卒業」の割合は、ふたり親（二世帯）（17.0%）、ひとり親（二世帯）（13.4%）、ふたり親（三世代）（10.7%）、ひとり親（三世代）（7.2%）の順に高い。

図表 183 【保護者】 Q47-1 母親の最終学歴:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は保護者票 Q7 で母親と同居していると回答した世帯

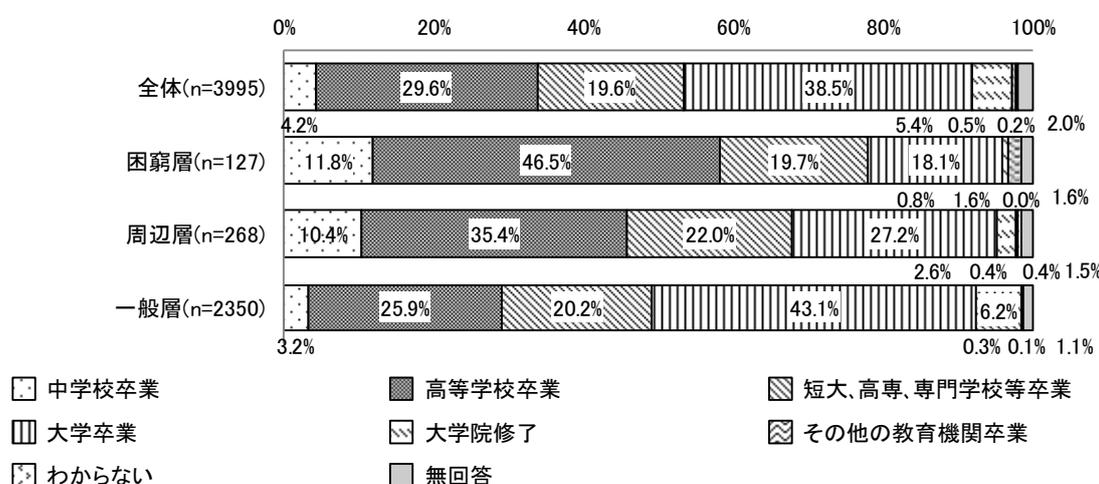
②【保護者】Q47-2 父親の最終学歴

小学生保護者の「全体」では、「大学卒業」が38.5%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校卒業」が29.6%となっている。生活困難度別にみると、「大学卒業」の割合は、一般層（43.1%）、周辺層（27.2%）、困窮層（18.1%）の順に高い。

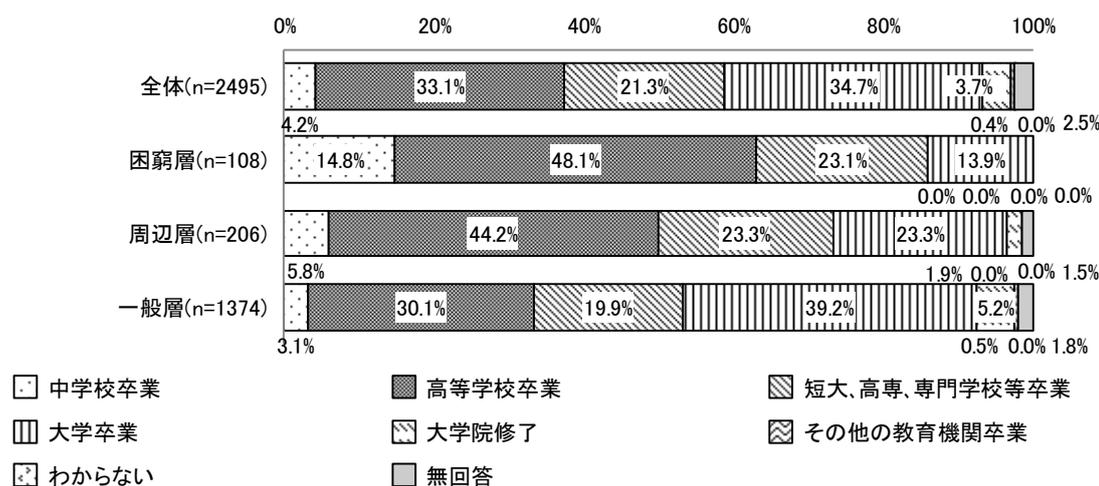
中学生保護者の「全体」では、「大学卒業」が34.7%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校卒業」が33.1%となっている。

図表 184 【保護者】Q47-2 父親の最終学歴:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (検定不可)



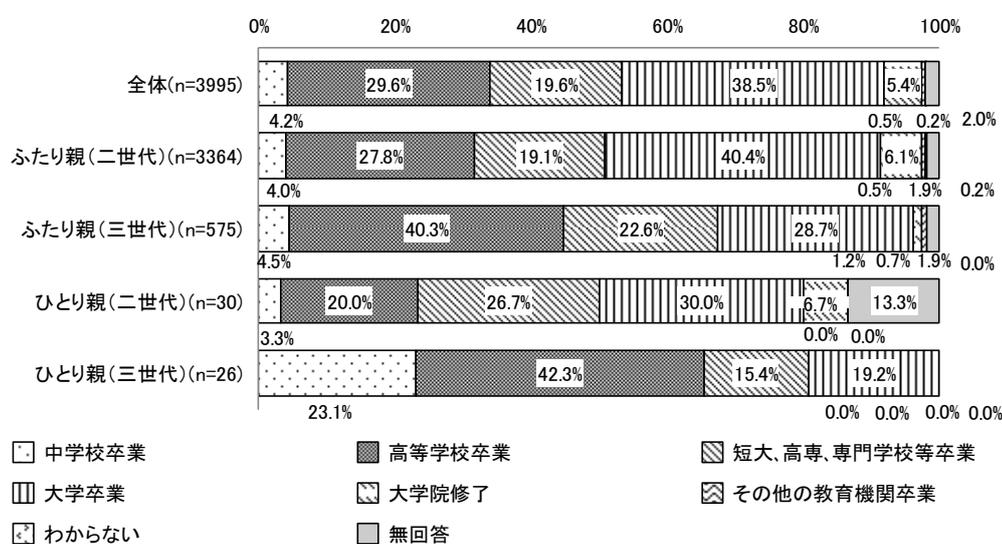
※対象は保護者票 Q7 で父親と同居していると回答した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大学卒業」の割合は、ふたり親（二世帯）（40.4%）、ひとり親（二世帯）（30.0%）、ふたり親（三世帯）（28.7%）、ひとり親（三世帯）（19.2%）の順に高い。

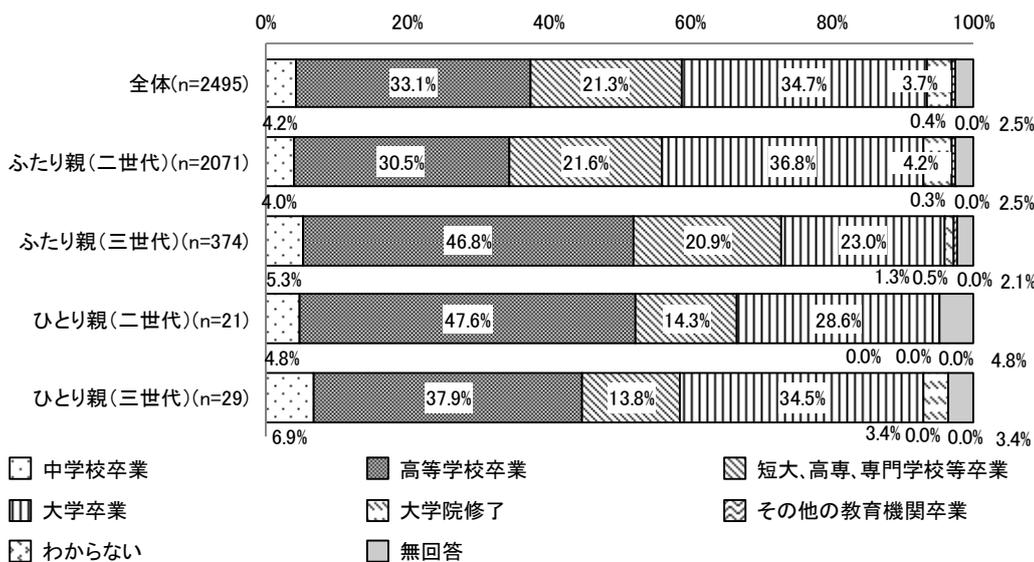
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「大学卒業」の割合は、ふたり親（二世帯）（36.8%）、ひとり親（三世帯）（34.5%）、ひとり親（二世帯）（28.6%）、ふたり親（三世帯）（23.0%）の順に高い。

図表 185 【保護者】 Q47-2 父親の最終学歴:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は保護者票 Q7 で父親と同居していると回答した世帯

(2) 15歳の頃の状況

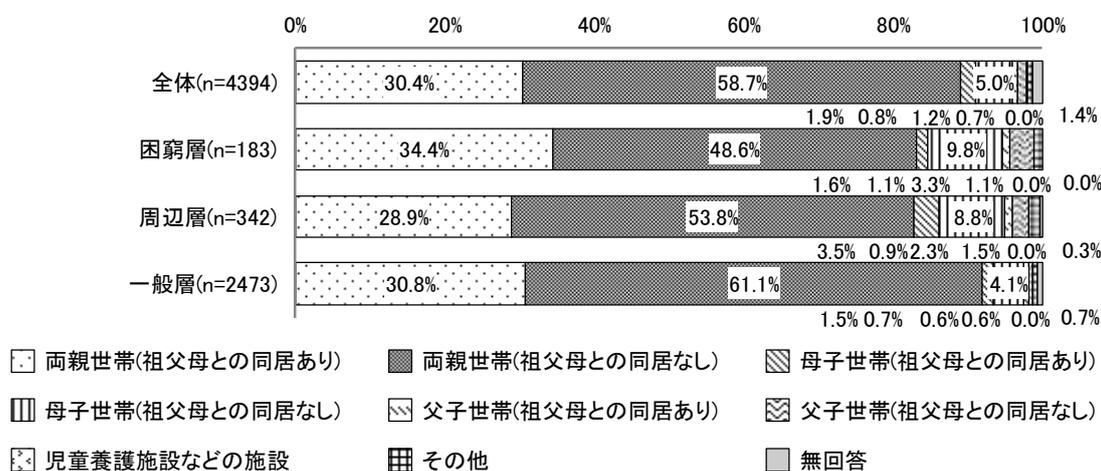
①【保護者】Q48 あなたが15歳の頃の家庭の様子

小学生保護者の「全体」では、「両親世帯(祖父母との同居なし)」が58.7%でもっとも割合が高く、次いで「両親世帯(祖父母との同居あり)」が30.4%となっている。

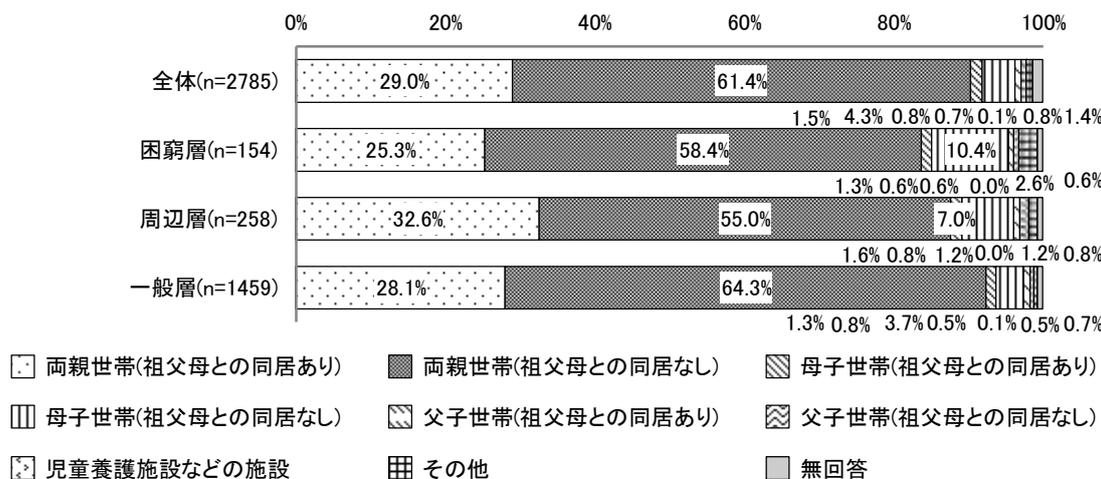
中学生保護者の「全体」では、「両親世帯(祖父母との同居なし)」が61.4%でもっとも割合が高く、次いで「両親世帯(祖父母との同居あり)」が29.0%となっている。生活困難度別にみると、「両親世帯(祖父母との同居なし)」の割合は、一般層(64.3%)、困窮層(58.4%)、周辺層(55.0%)の順に高い。

図表 186 【保護者】Q48 あなたが15歳の頃の家庭の様子:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (検定不可)



<中学生保護者> (p<.01)

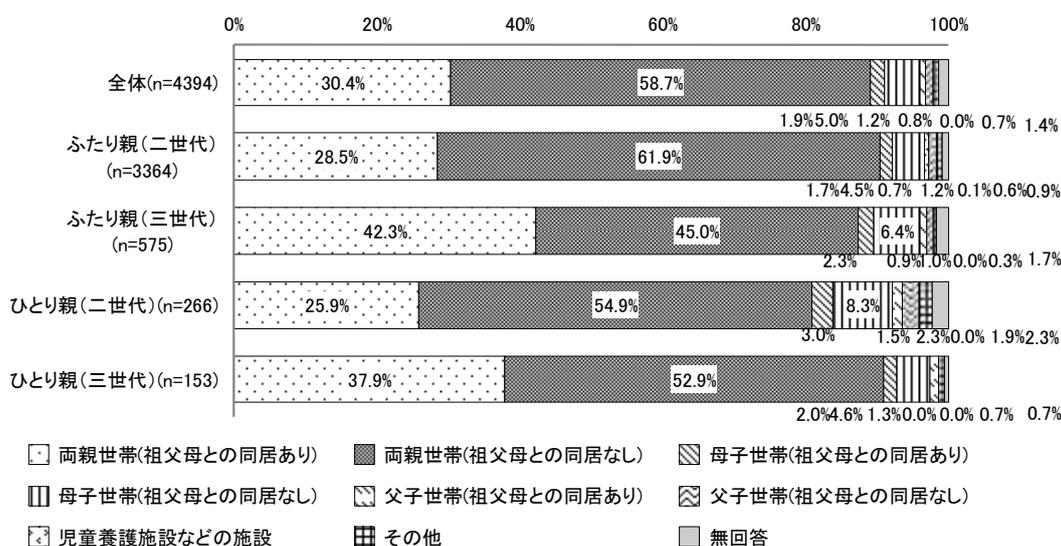


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「両親世帯（祖父母との同居なし）」の割合は、ふたり親（二世帯）（61.9%）、ひとり親（二世帯）（54.9%）、ひとり親（三世帯）（52.9%）、ふたり親（三世帯）（45.0%）の順に高い。

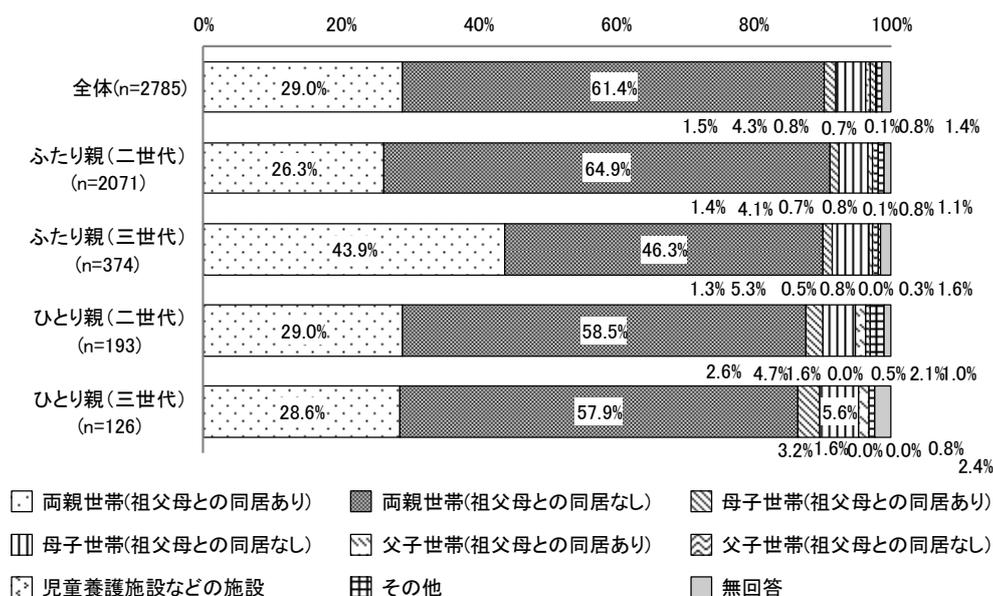
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「両親世帯（祖父母との同居なし）」の割合は、ふたり親（二世帯）（64.9%）、ひとり親（二世帯）（58.5%）、ひとり親（三世帯）（57.9%）、ふたり親（三世帯）（46.3%）の順に高い。

図表 187 【保護者】 Q48 あなたが 15 歳の頃の家庭の様子:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



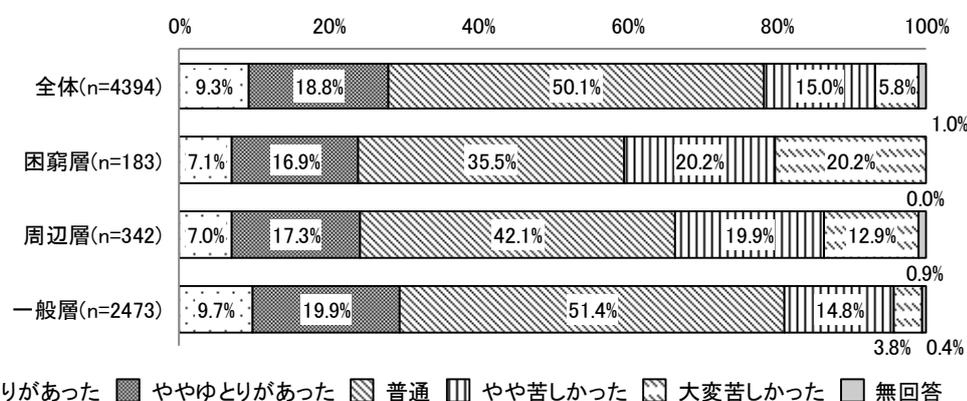
②【保護者】Q49 あなたが15歳の頃の家庭の暮らし向き

小学生保護者の「全体」では、「普通」が50.1%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が18.8%となっている。生活困難度別にみると、「大変苦しかった」の割合は、困窮層（20.2%）、周辺層（12.9%）、一般層（3.8%）の順に高い。

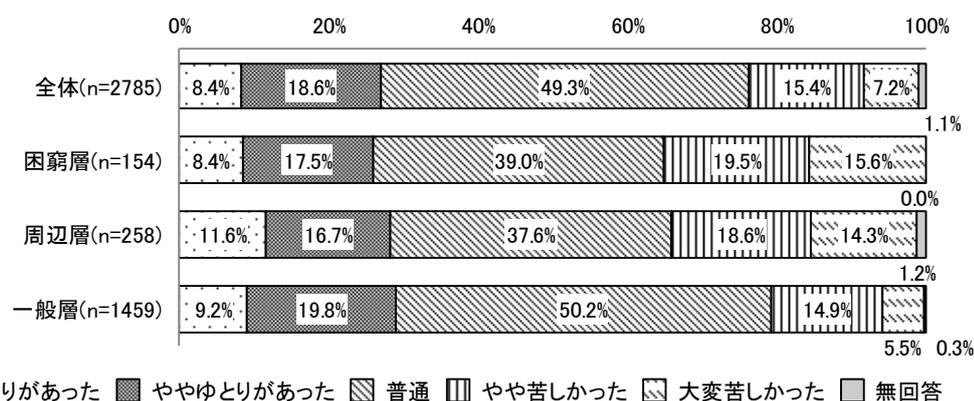
中学生保護者の「全体」では、「普通」が49.3%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が18.6%となっている。生活困難度別にみると、「大変苦しかった」の割合は、困窮層（15.6%）、周辺層（14.3%）、一般層（5.5%）の順に高い。

図表 188 【保護者】Q49 あなたが15歳の頃の家庭の暮らし向き:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### (3) 成人前・子どもをもってからの経験

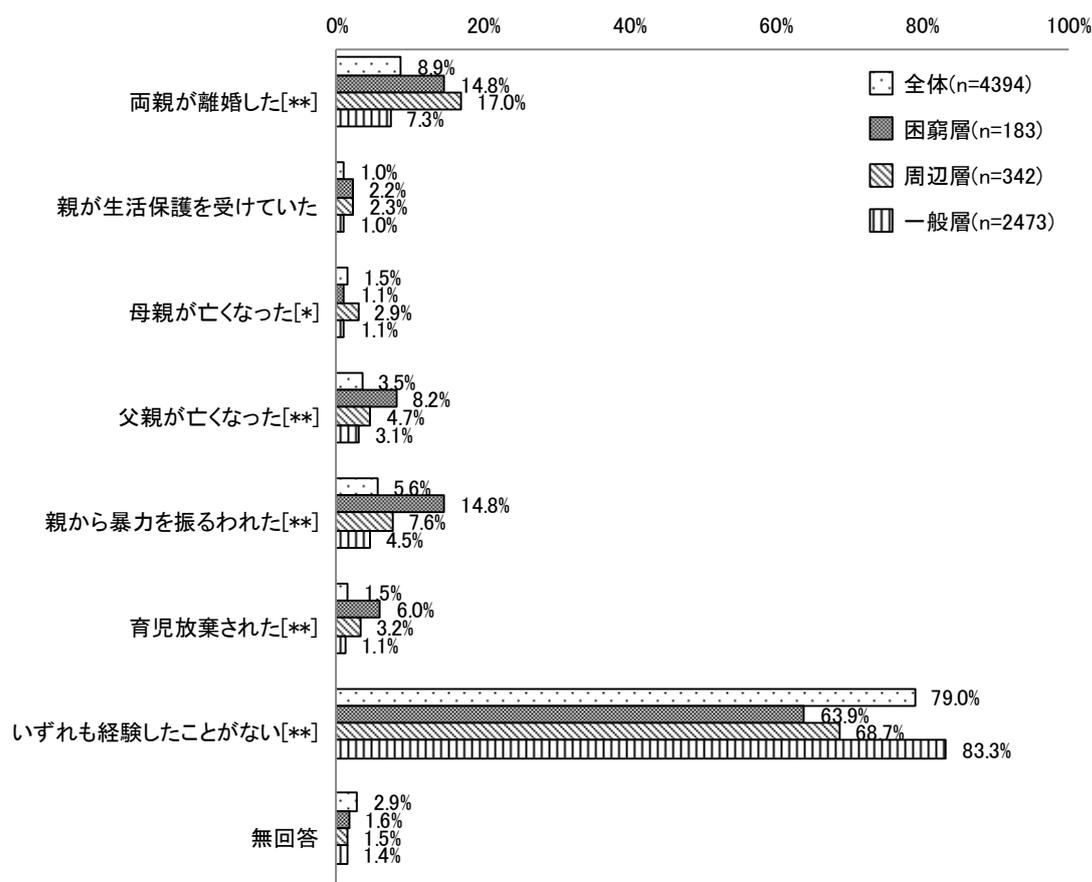
#### ①【保護者】Q51 あなたが成人する前に体験したこと

小学生保護者の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が79.0%でもっとも割合が高く、次いで「両親が離婚した」が8.9%となっている。生活困難度別にみると、「両親が離婚した」、「母親が亡くなった」、「父親が亡くなった」、「親から暴力を振るわれた」、「育児放棄された」、「いずれも経験したことがない」について、統計的に有意な差がみられる。

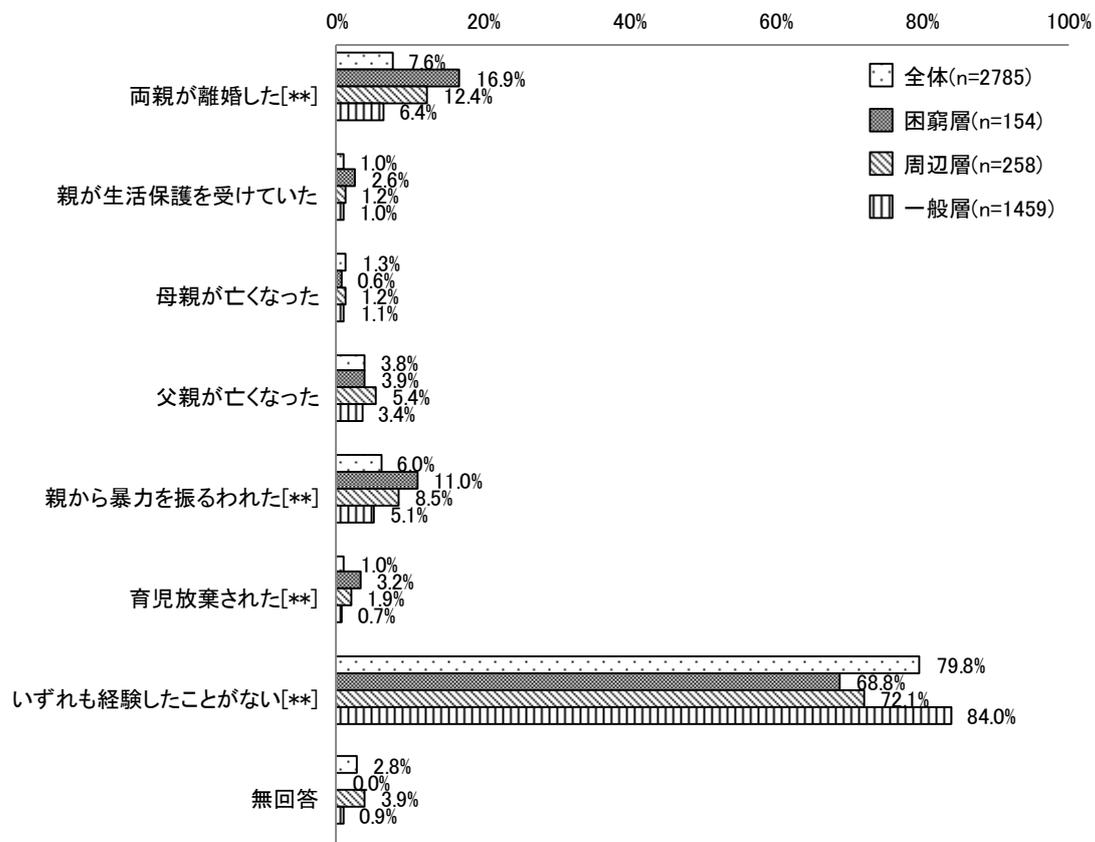
中学生保護者の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が79.8%でもっとも割合が高く、次いで「両親が離婚した」が7.6%となっている。生活困難度別にみると、「両親が離婚した」、「親から暴力を振るわれた」、「育児放棄された」、「いずれも経験したことがない」について、統計的に有意な差がみられる。

図表 189 【保護者】Q51 あなたが成人する前に体験したこと:複数回答(生活困難度別)

<小学生保護者>



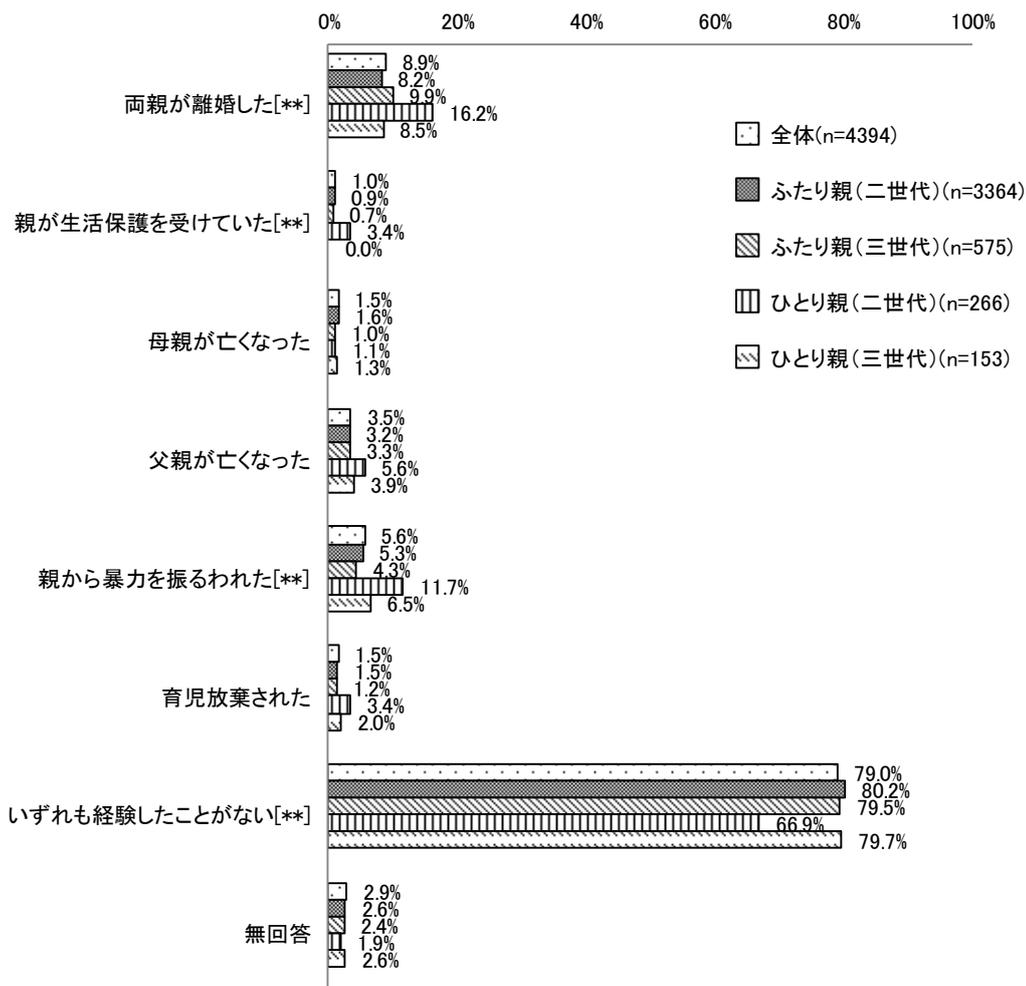
< 中学生保護者 >



小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「両親が離婚した」、「親が生活保護を受けていた」、「親から暴力を振るわれた」、「いずれも経験したことがない」について、統計的に有意な差がみられる。

図表 190 【保護者】Q51 あなたが成人する前に体験したこと:複数回答(世帯タイプ別)

<小学生保護者>



※中学生保護者は有意差なし

## ②【保護者】Q52 子どもをもってから経験したこと

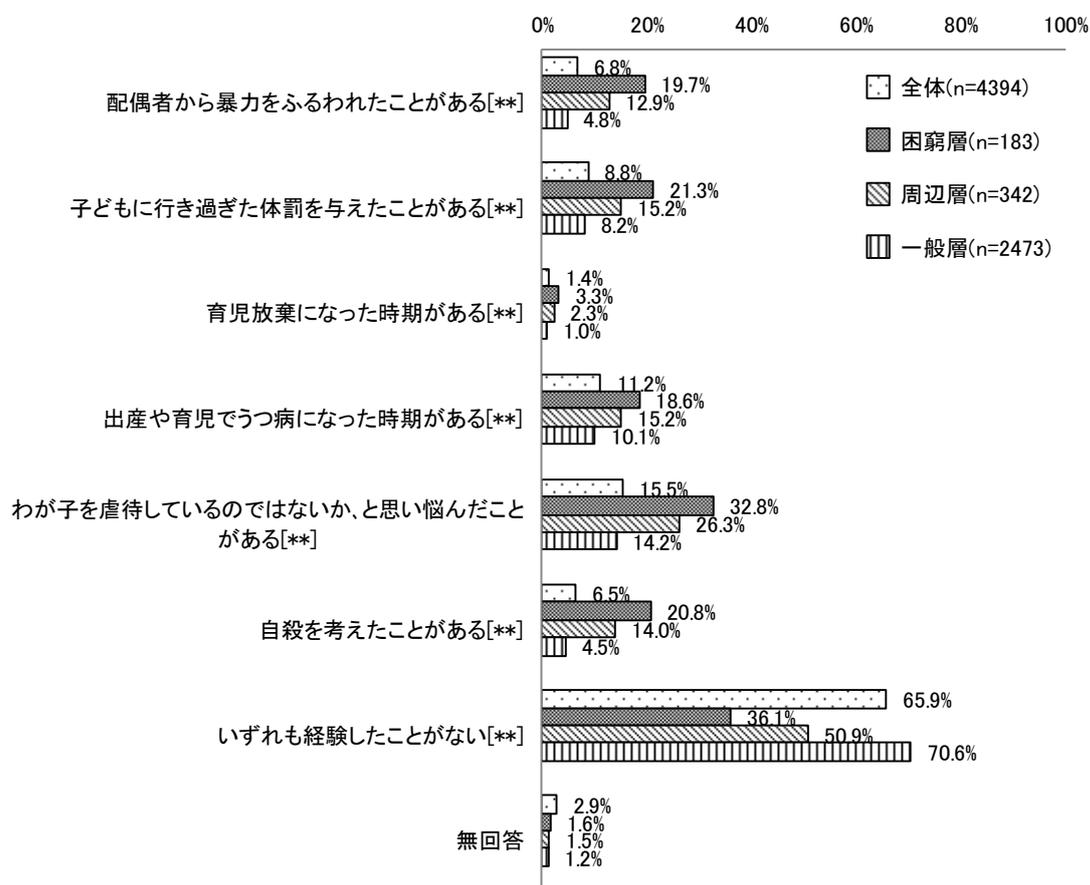
小学生保護者の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が65.9%でもっとも割合が高く、次いで「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が15.5%となっている。

中学生保護者の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が67.1%でもっとも割合が高く、次いで「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が13.2%となっている。

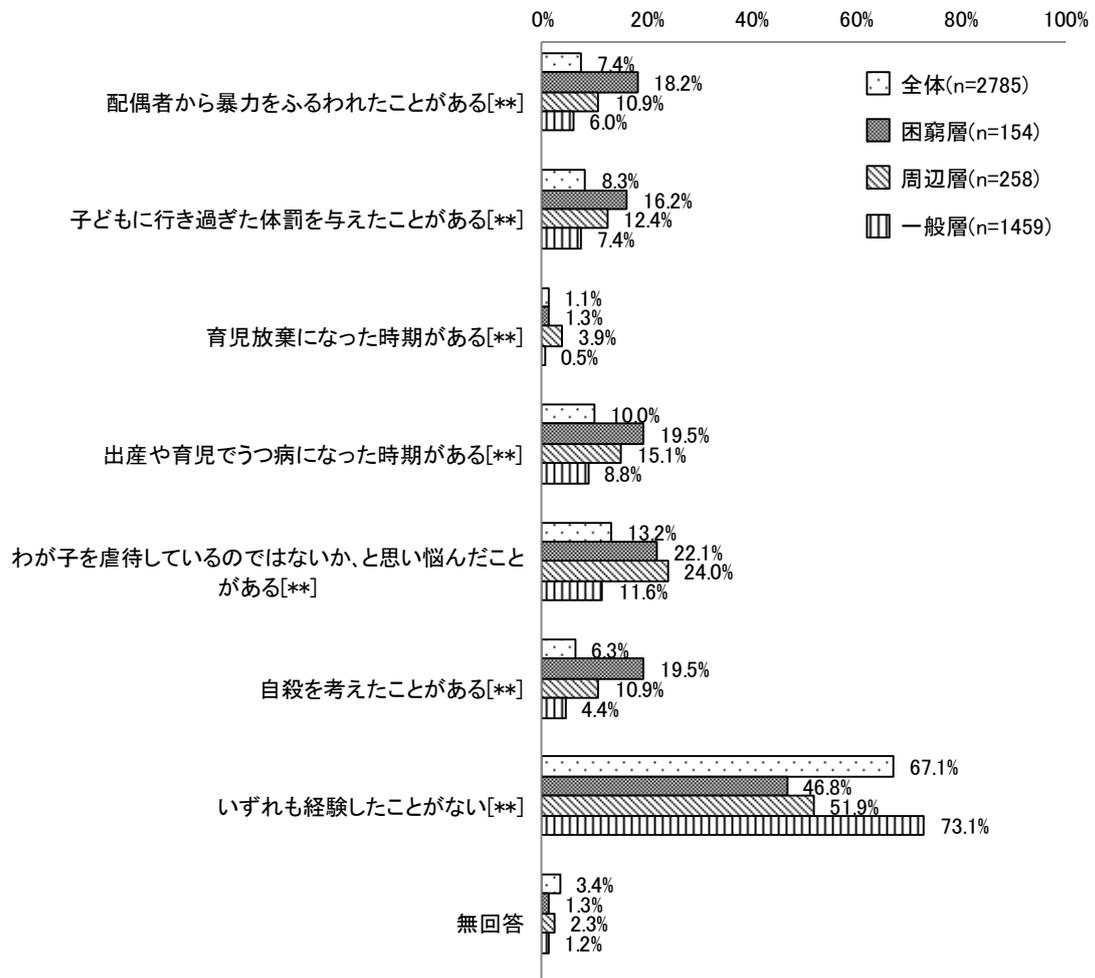
生活困難度別にみると、小中学生保護者とも、いずれの項目についても統計的に有意な差がみられ、「いずれも経験したことがない」を除いて困窮層ほど高い割合となっている。

図表 191 【保護者】Q52 子どもをもってから経験したこと:複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >

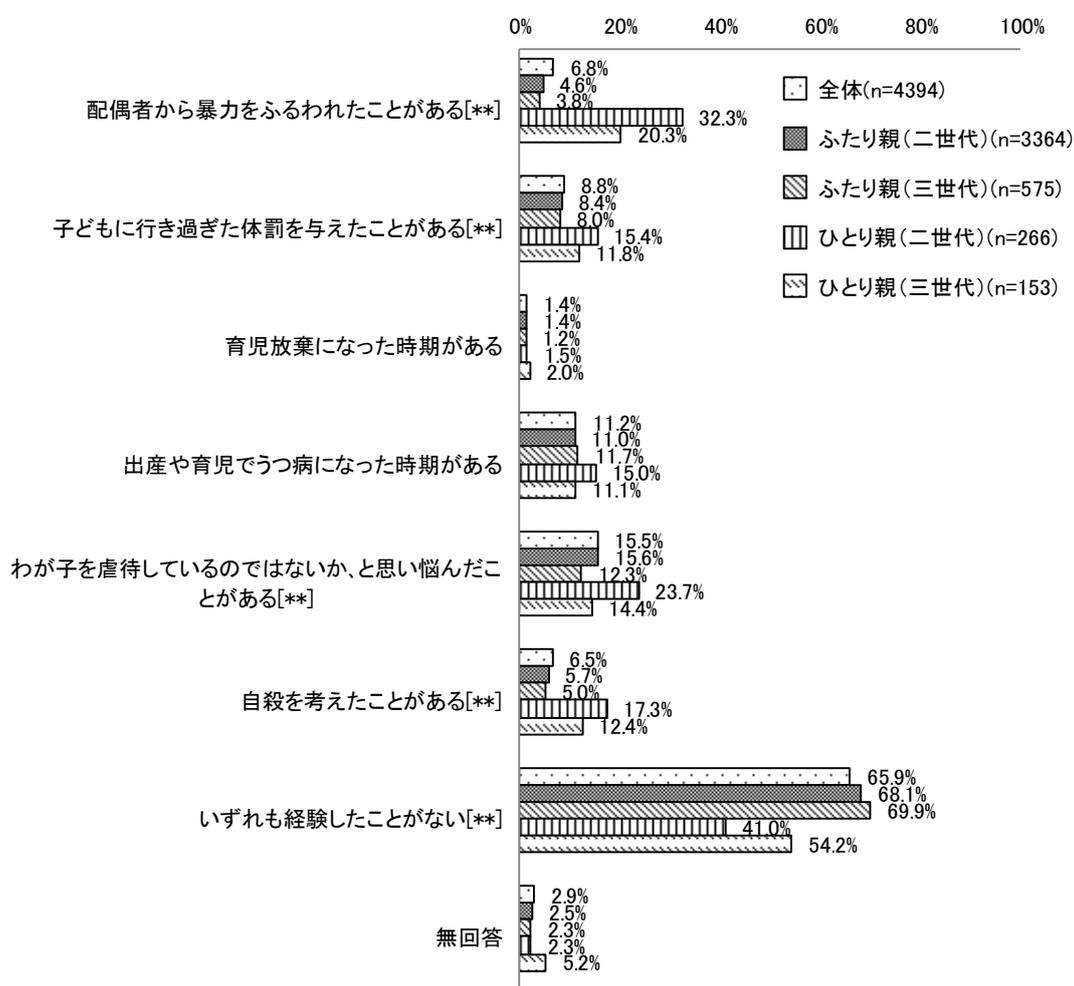


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「配偶者から暴力をふるわれたことがある」、「子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」、「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」、「自殺を考えたことがある」、「いずれも経験したことがない」について、統計的に有意な差がみられる。

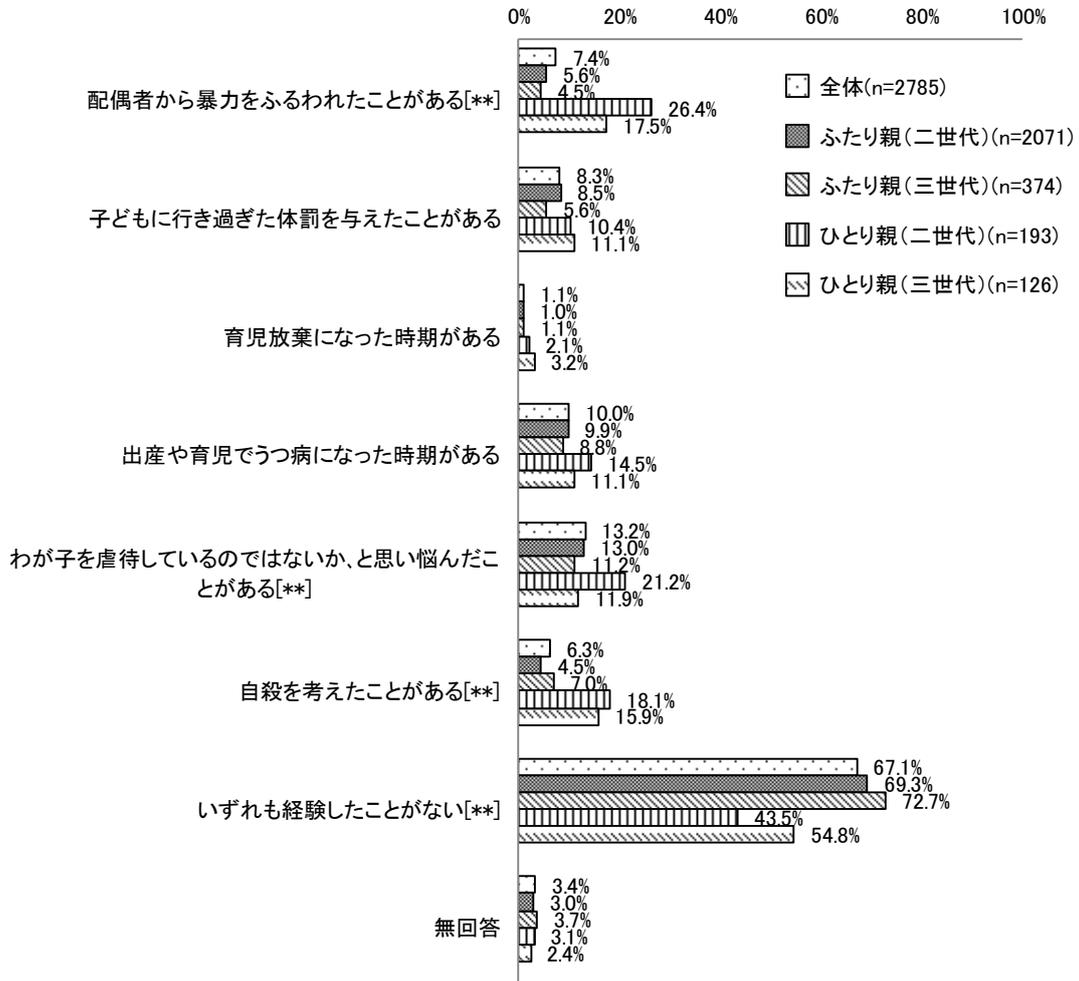
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「配偶者から暴力をふるわれたことがある」、「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」、「自殺を考えたことがある」、「いずれも経験したことがない」について、統計的に有意な差がみられる。

図表 192 【保護者】 Q52 子どもをもってから経験したこと:複数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



## 8. 保護者の就労状況

### (1) 母親の就労状況

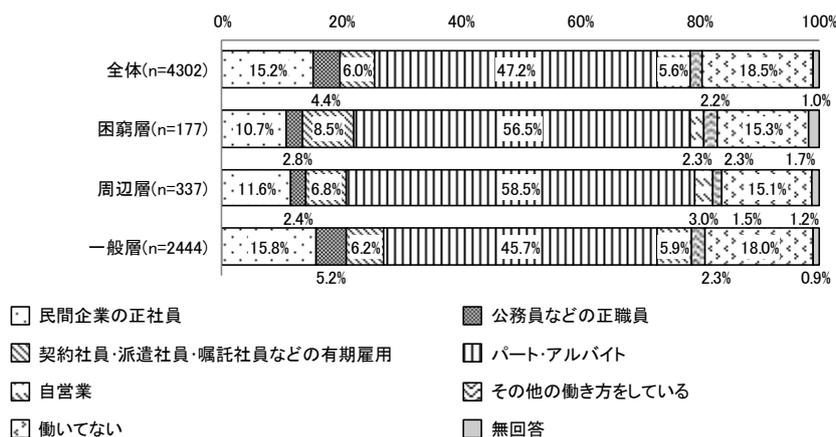
#### ①【保護者】Q9 母親\_現在の就業状況

小学生保護者の「全体」では、「パート・アルバイト」が 47.2%でもっとも割合が高く、次いで「働いてない」が 18.5%となっている。生活困難度別にみると、「民間企業の正社員」の割合は、一般層（15.8%）、周辺層（11.6%）、困窮層（10.7%）の順に高い。

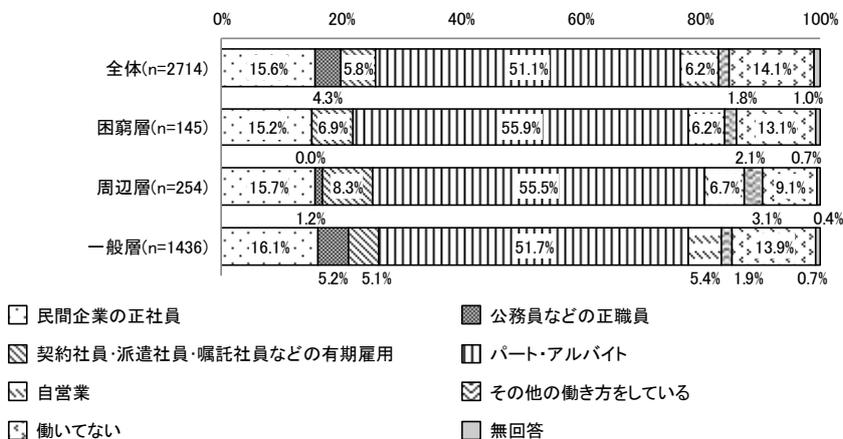
中学生保護者の「全体」では、「パート・アルバイト」が 51.1%でもっとも割合が高く、次いで「民間企業の正社員」が 15.6%となっている。生活困難度別にみると、「公務員などの正職員」の割合は、一般層（5.2%）、周辺層（1.2%）、困窮層（0.0%）の順に高い。

図表 193 【保護者】Q9 母親\_現在の就業状況:単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



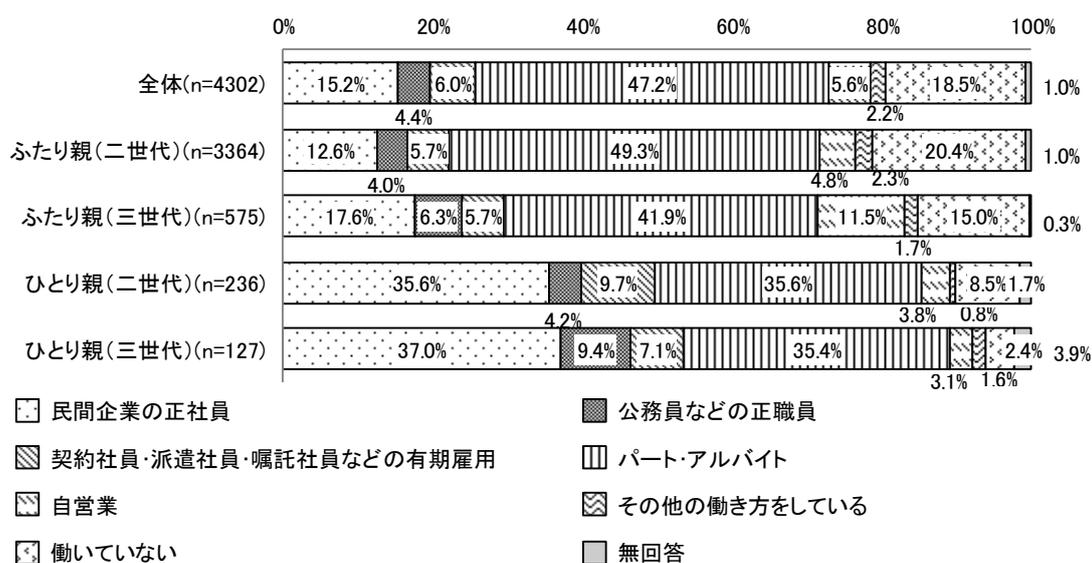
※対象は保護者票 Q7 で母親と同居していると回答した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「民間企業の正社員」の割合は、ひとり親（三世代）（37.0%）、ひとり親（二世代）（35.6%）、ふたり親（三世代）（17.6%）、ふたり親（二世代）（12.6%）の順に高い。

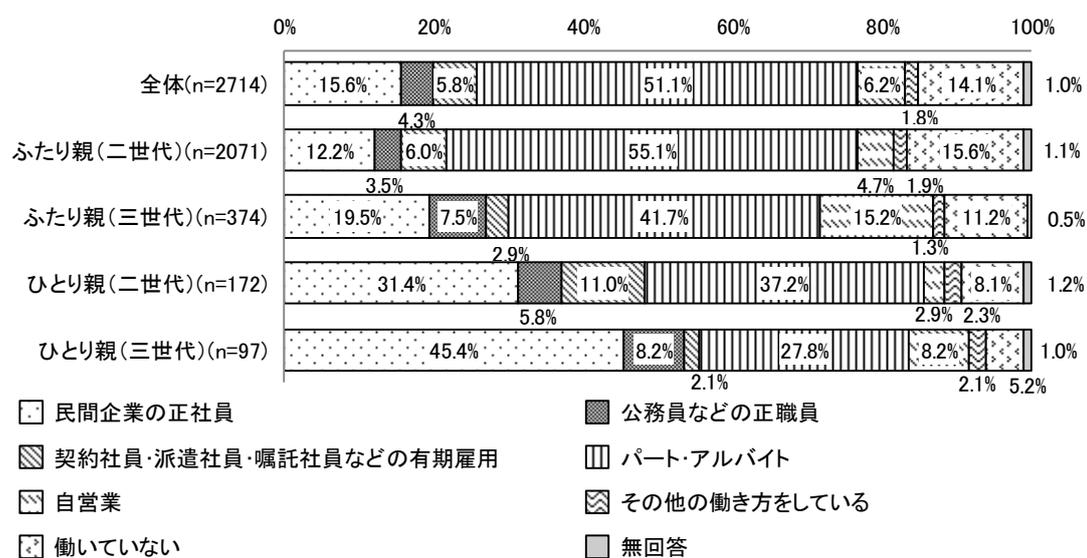
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「民間企業の正社員」の割合は、ひとり親（三世代）（45.4%）、ひとり親（二世代）（31.4%）、ふたり親（三世代）（19.5%）、ふたり親（二世代）（12.2%）の順に高い。

図表 194 【保護者】 Q9 母親\_現在の就業状況:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

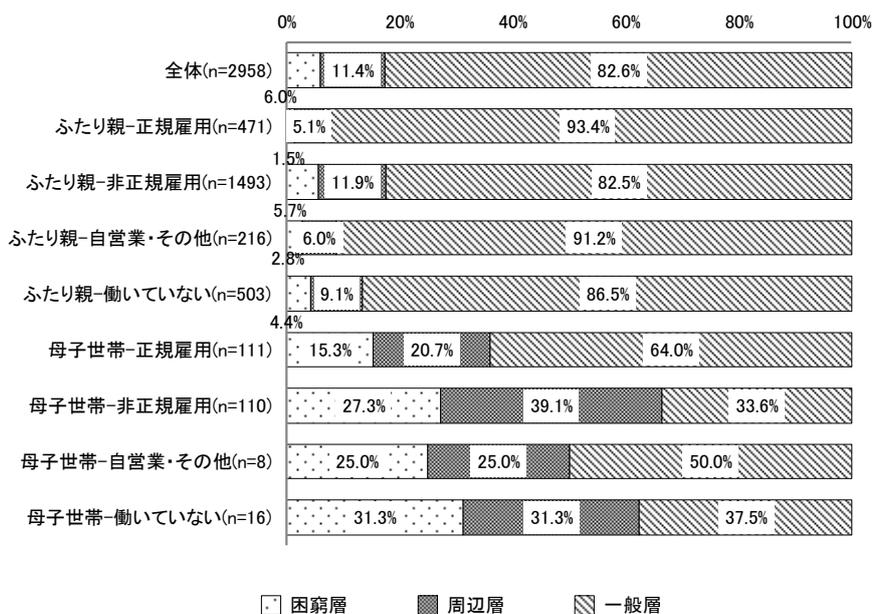


※対象は保護者票 Q7 で母親と同居していると回答した世帯

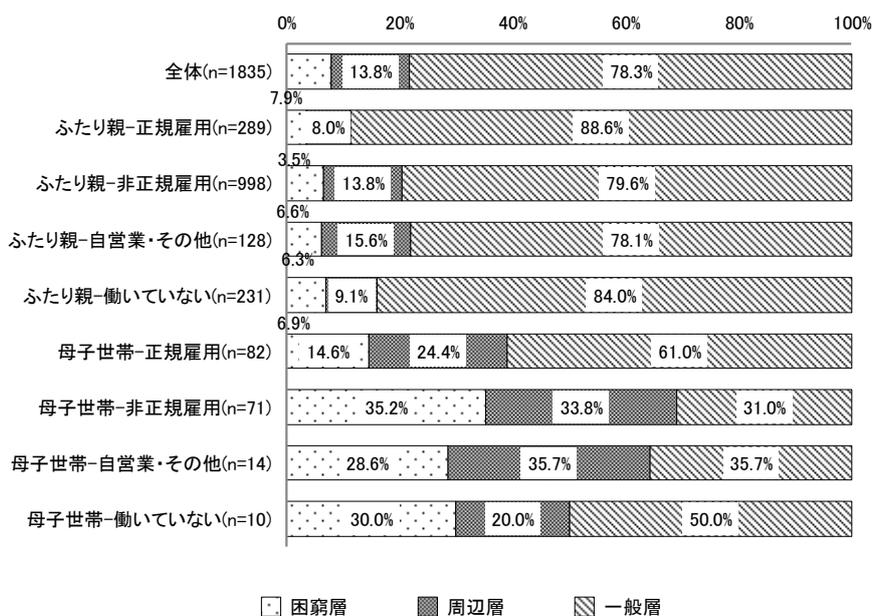
世帯タイプと就業形態の組み合わせ別に生活困難度をみると、小学生・中学生保護者ともに、母子世帯で母親が非正規雇用、自営業・その他、働いていない場合に、困窮層の割合が約3割となっている。

図表 195 【保護者】生活困難度（世帯タイプ×就業状況別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

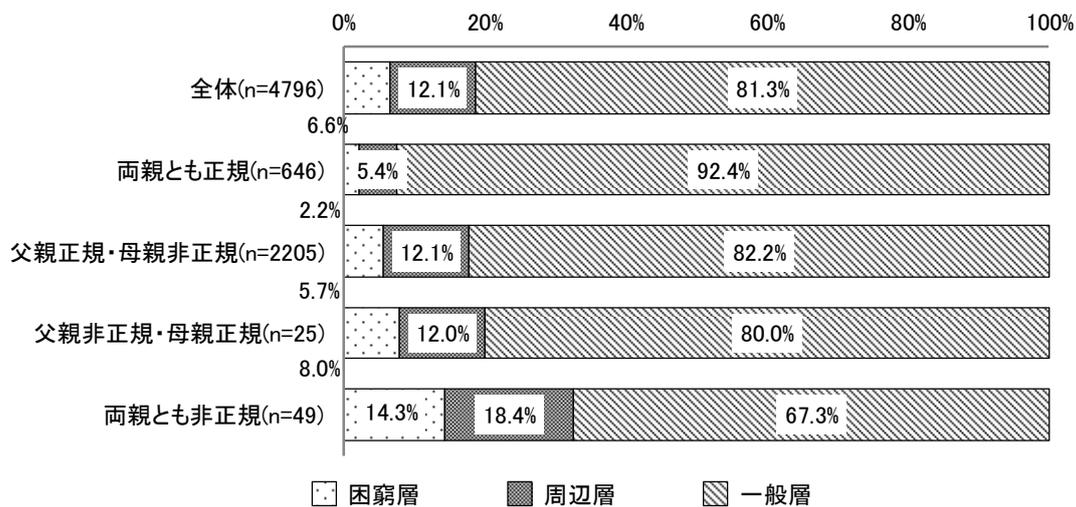


※対象は保護者票 Q7 で母親と同居していると回答した世帯

また、両親が共働きである家庭に限定して、共働きの形態別に生活困難度をみると、「両親とも非正規」の場合に困窮層の割合が14.3%と他に比べて高くなっている。

図表 196 【保護者】生活困難度（共働きの形態別）

<保護者全体> (p<.01)



※対象は Q7 で父母が同居していると回答し、父母とも働いている家庭

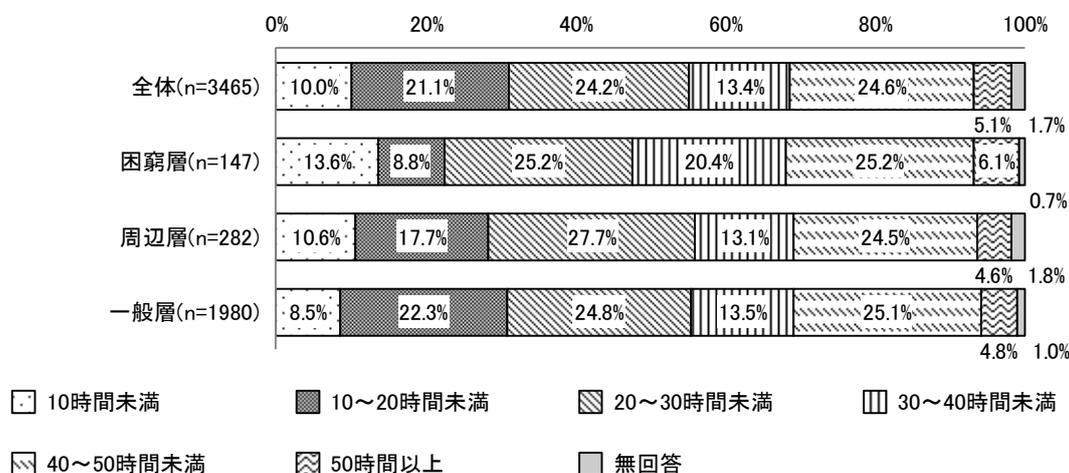
②【保護者】Q10 母親\_一週間の平均労働時間

小学生保護者の「全体」では、「40～50時間未満」が24.6%でもっとも割合が高く、次いで「20～30時間未満」が24.2%となっている。生活困難度別にみると、「10～20時間未満」の割合は、一般層（22.3%）、周辺層（17.7%）、困窮層（8.8%）の順に高い。

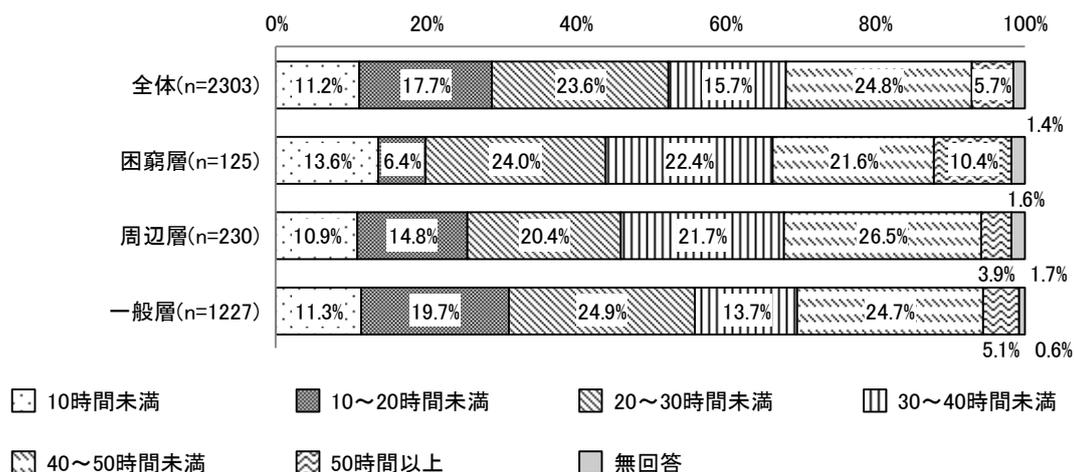
中学生保護者の「全体」では、「40～50時間未満」が24.8%でもっとも割合が高く、次いで「20～30時間未満」が23.6%となっている。生活困難度別にみると、「10～20時間未満」の割合は、一般層（19.7%）、周辺層（14.8%）、困窮層（6.4%）の順に高い。

図表 197 【保護者】Q10 母親\_一週間の平均労働時間:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



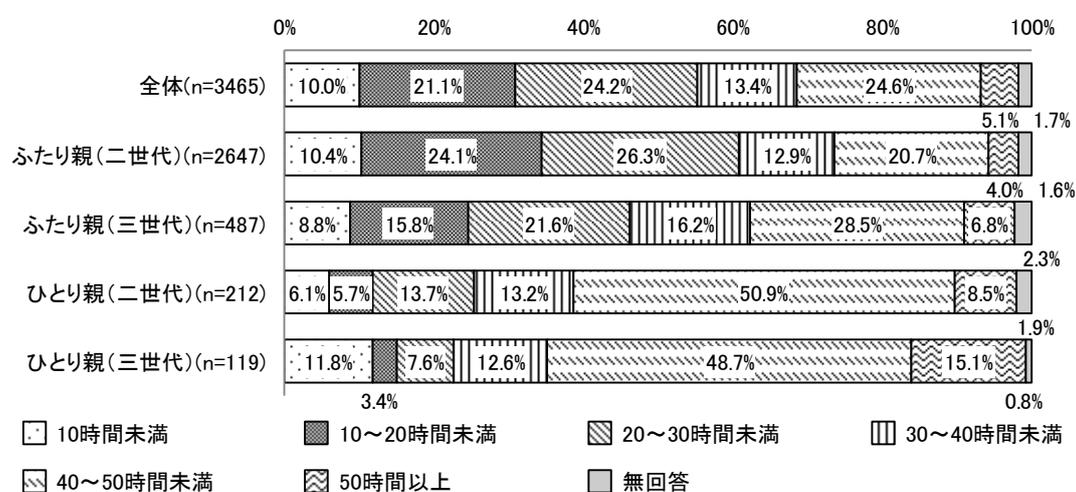
※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「40～50 時間未満」の割合は、ひとり親（二世帯）（50.9%）、ひとり親（三世帯）（48.7%）、ふたり親（三世帯）（28.5%）、ふたり親（二世帯）（20.7%）の順に高い。

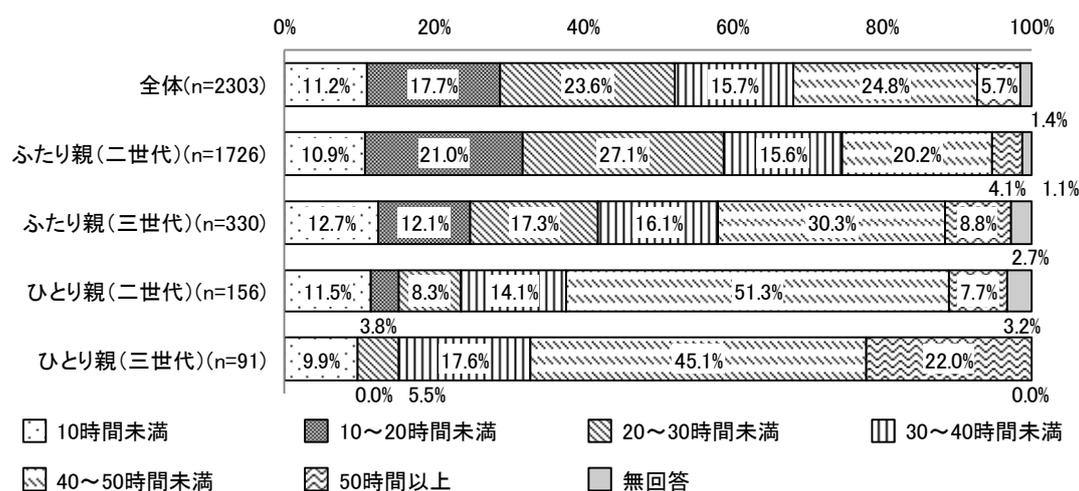
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「40～50 時間未満」の割合は、ひとり親（二世帯）（51.3%）、ひとり親（三世帯）（45.1%）、ふたり親（三世帯）（30.3%）、ふたり親（二世帯）（20.2%）の順に高い。

図表 198 【保護者】 Q10 母親\_一週間の平均労働時間:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

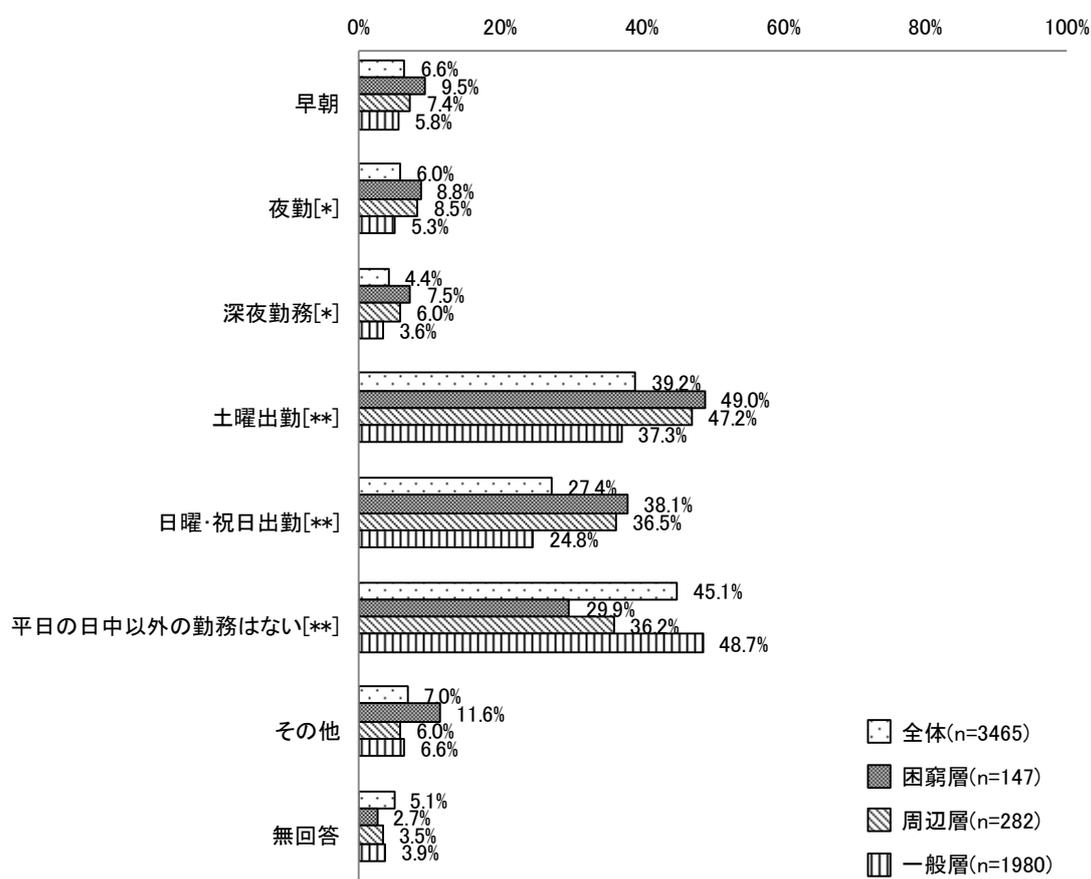
### ③【保護者】 Q11 母親\_平日の日中以外の勤務

小学生保護者の「全体」では、「平日の日中以外の勤務はない」が45.1%でもっとも割合が高く、次いで「土曜出勤」が39.2%となっている。生活困難度別にみると、「夜勤」、「深夜勤務」、「土曜出勤」、「日曜・祝日出勤」、「平日の日中以外の勤務はない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

中学生保護者の「全体」では、「土曜出勤」が44.2%でもっとも割合が高く、次いで「平日の日中以外の勤務はない」が40.4%となっている。生活困難度別にみると、「夜勤」、「深夜勤務」、「日曜・祝日出勤」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

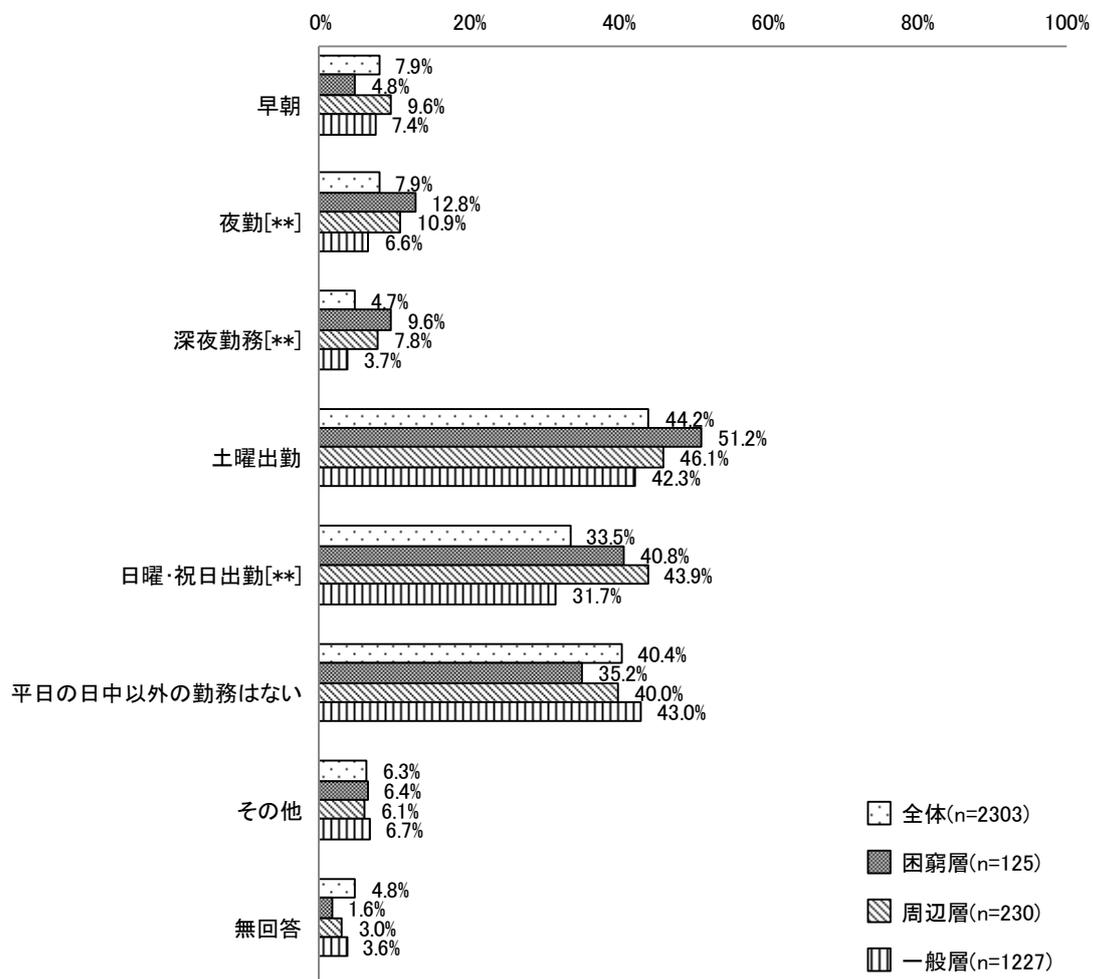
図表 199 【保護者】 Q11 母親\_平日の日中以外の勤務:複数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者>



※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

< 中学生保護者 >

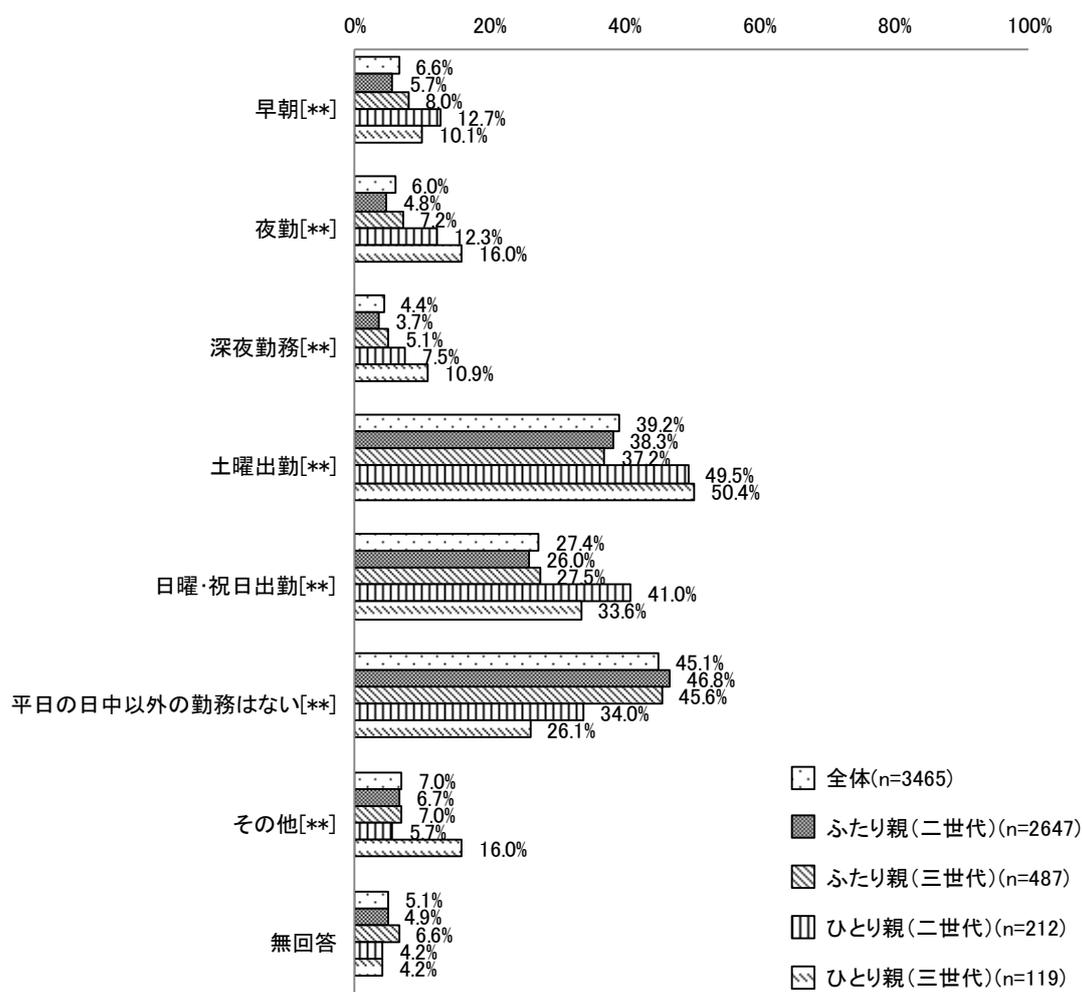


※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「早朝」、「夜勤」、「深夜勤務」、「土曜出勤」、「日曜・祝日出勤」、「平日の日中以外の勤務はない」、「その他」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

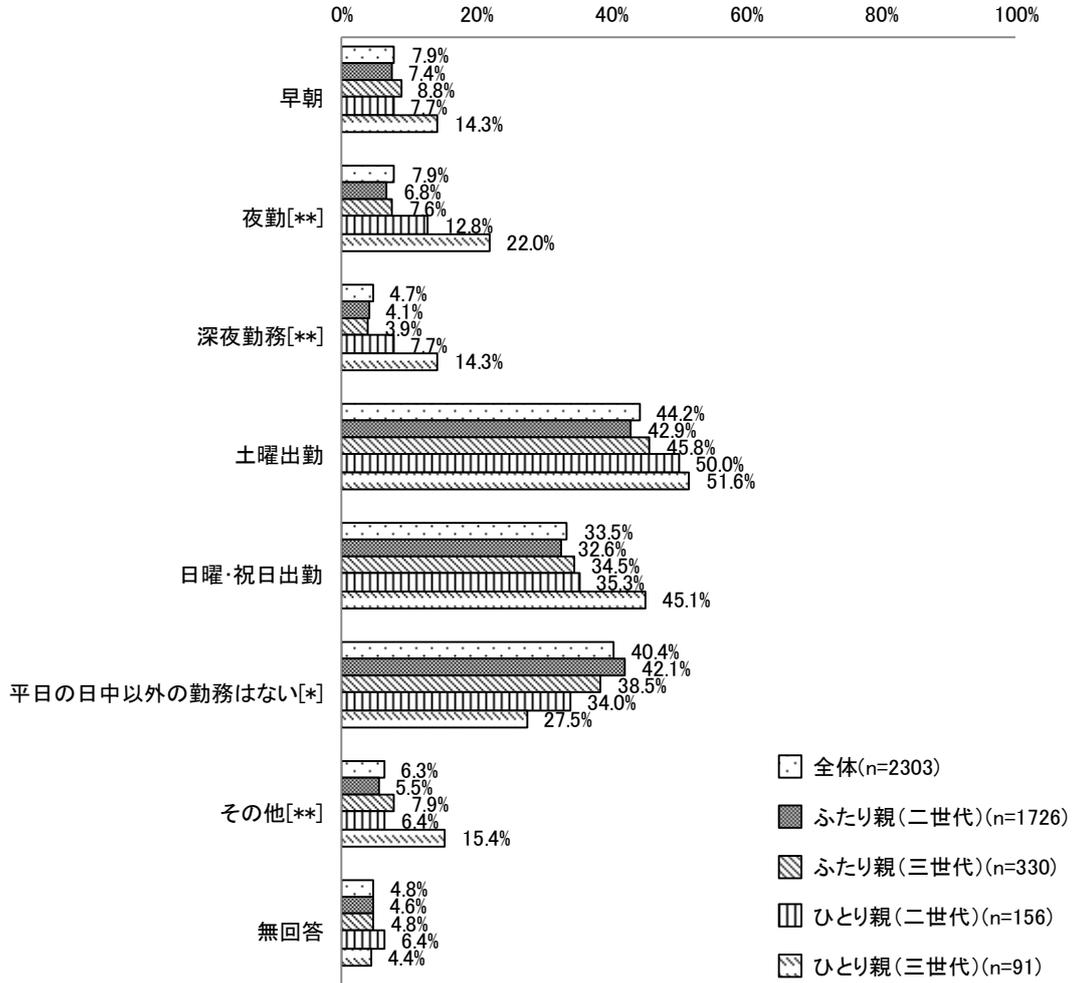
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「夜勤」、「深夜勤務」、「平日の日中以外の勤務はない」、「その他」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 200 【保護者】 Q11 母親\_平日の日中以外の勤務:複数回答 (世帯タイプ別)  
 <小学生保護者>



※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

< 中学生保護者 >



※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

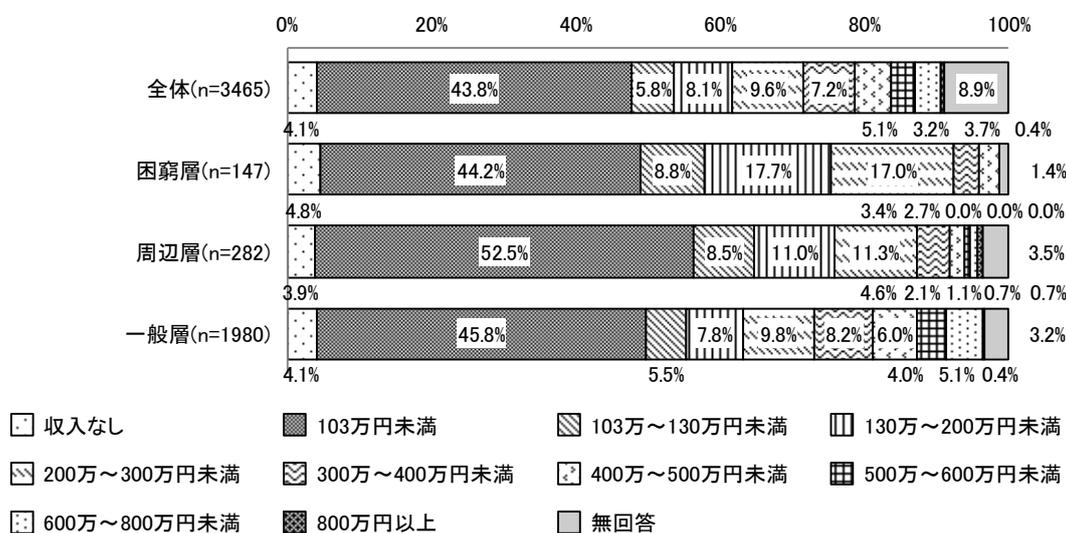
#### ④【保護者】Q12 母親\_昨年の収入

小学生保護者の「全体」では、「103万円未満」が43.8%でもっとも割合が高く、次いで「200万円～300万円未満」が9.6%となっている。生活困難度別にみると、「200万円～300万円未満」の割合は、困窮層（17.0%）、周辺層（11.3%）、一般層（9.8%）の順に高い。

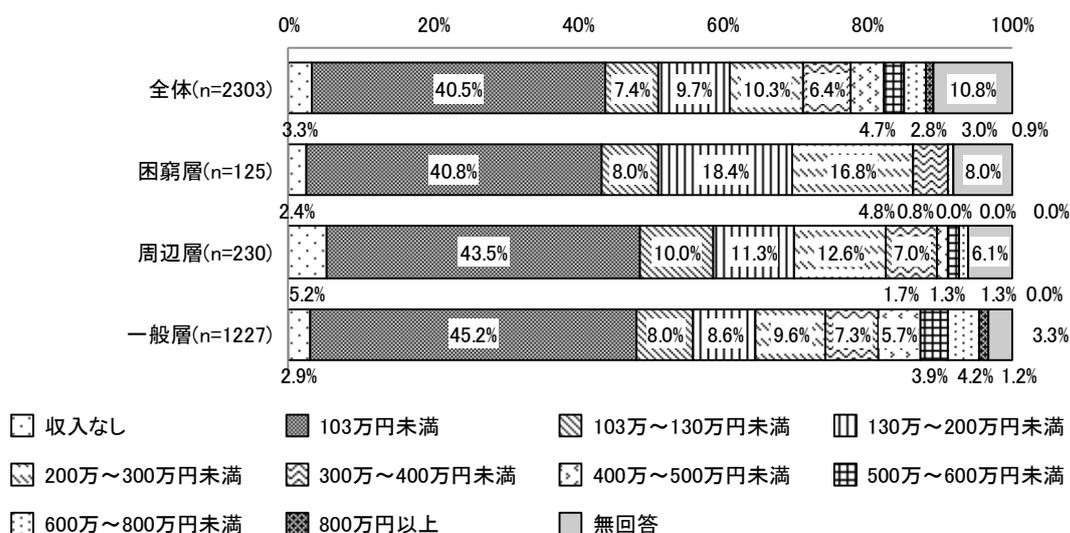
中学生保護者の「全体」では、「103万円未満」が40.3%でもっとも割合が高く、次いで「200万円～300万円未満」が10.3%となっている。生活困難度別にみると、「200万円～300万円未満」の割合は、困窮層（16.8%）、周辺層（12.6%）、一般層（9.6%）の順に高い。

図表 201 【保護者】Q12 母親\_昨年の収入:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



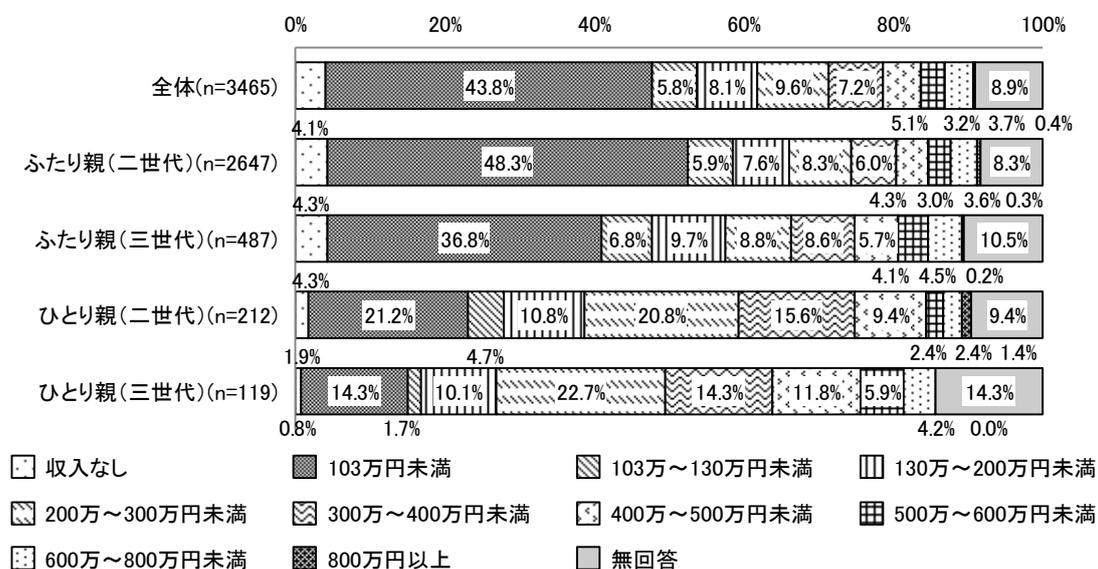
※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「103万円未満」の割合は、ふたり親（二世帯）（48.3%）、ふたり親（三世帯）（36.8%）、ひとり親（二世帯）（21.2%）、ひとり親（三世帯）（14.3%）の順に高い。

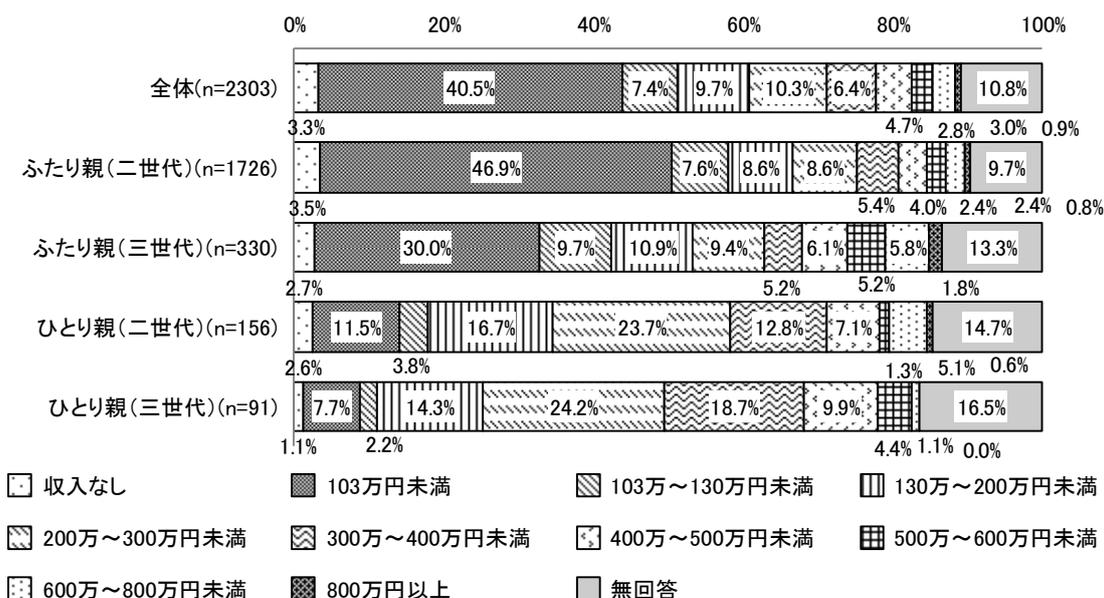
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「103万円未満」の割合は、ふたり親（二世帯）（46.9%）、ふたり親（三世帯）（30.0%）、ひとり親（二世帯）（11.5%）、ひとり親（三世帯）（7.7%）の順に高い。

図表 202 【保護者】Q12 母親\_昨年の収入:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q9 で母親が「働いていない」以外を選択した世帯

## (2) 父親の就労状況

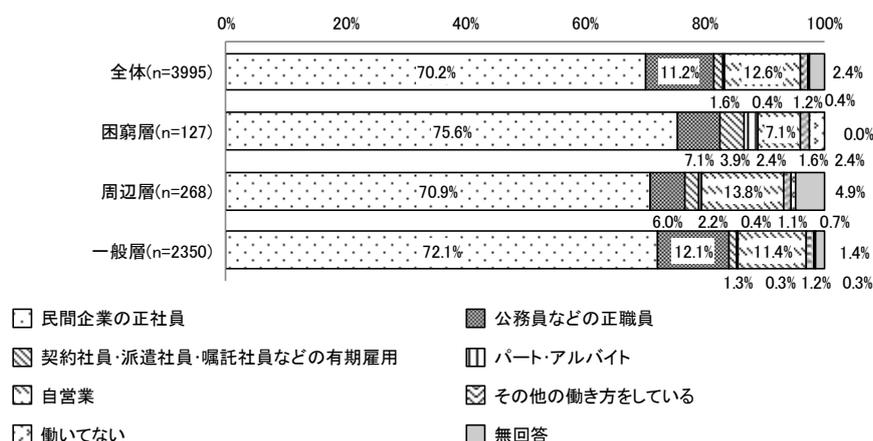
### ①【保護者】Q13 父親\_現在の就業状況

小学生保護者の「全体」では、「民間企業の正社員」が70.2%でもっとも割合が高く、次いで「自営業」が12.6%となっている。生活困難度別にみると、「契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用」の割合は、困窮層(3.9%)、周辺層(2.2%)、一般層(1.3%)の順に高い。

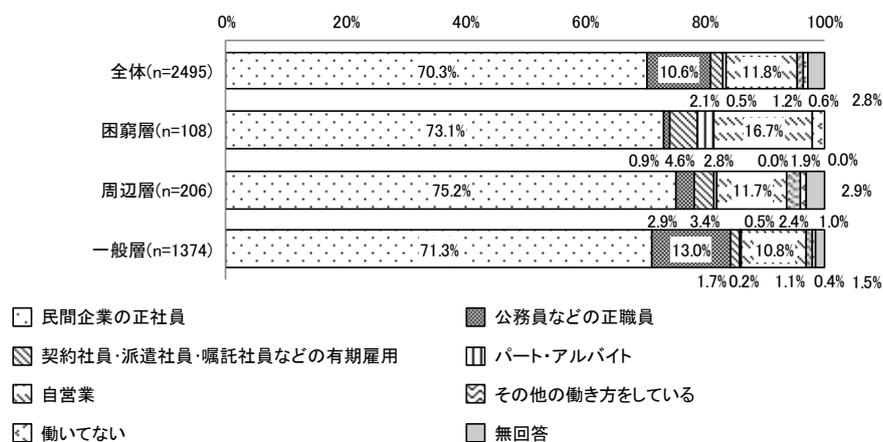
中学生保護者の「全体」では、「民間企業の正社員」が70.3%でもっとも割合が高く、次いで「自営業」が11.8%となっている。生活困難度別にみると、「契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用」の割合は、困窮層(4.6%)、周辺層(3.4%)、一般層(0.2%)の順に高い。

図表 203 【保護者】Q13 父親\_現在の就業状況:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



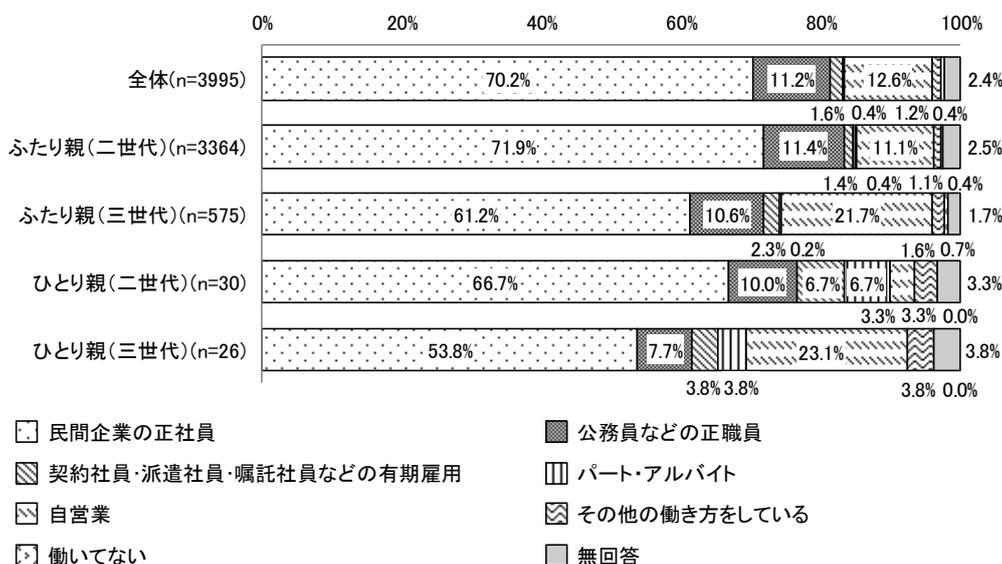
※対象は保護者票 Q7 で父親と同居していると回答した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「自営業」の割合は、ひとり親（三世代）（23.1%）、ふたり親（三世代）（21.7%）、ふたり親（二世代）（11.1%）ひとり親（二世代）（6.7%）の順に高い。

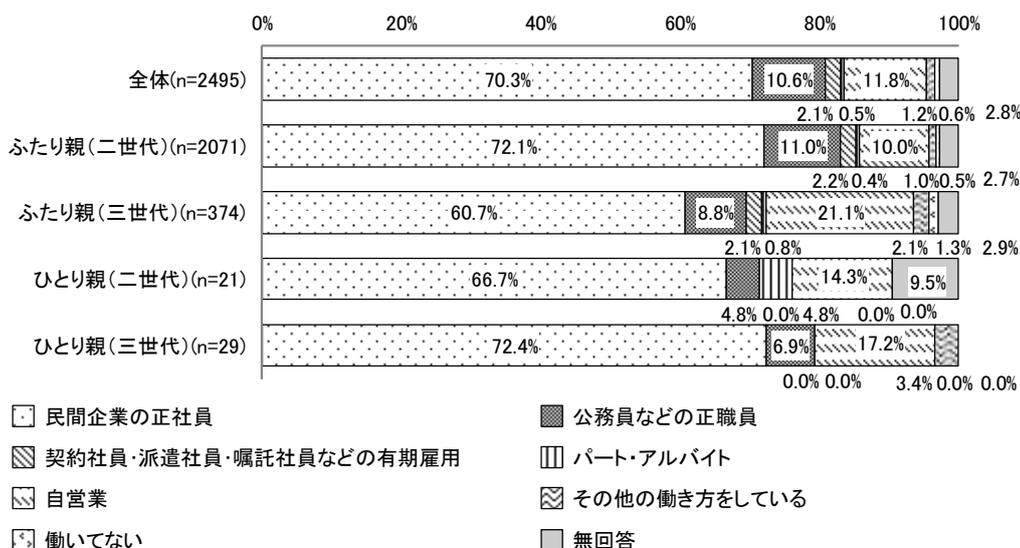
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「自営業」の割合は、ふたり親（三世代）（21.1%）、ひとり親（三世代）（17.2%）、ひとり親（二世代）（14.3%）、ふたり親（二世代）（10.0%）の順に高い。

図表 204 【保護者】 Q13 父親\_現在の就業状況:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は保護者票 Q7 で父親と同居していると回答した世帯

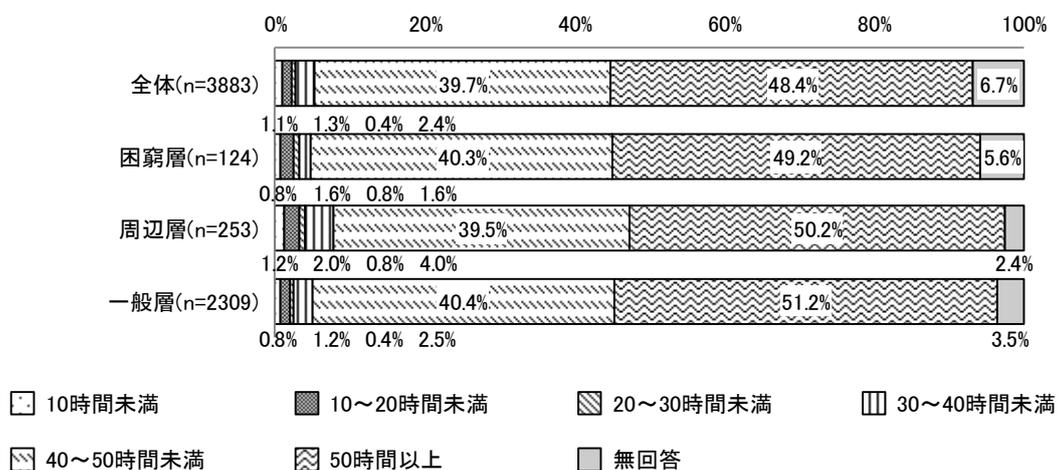
②【保護者】Q14 父親\_一週間の平均労働時間

小学生保護者の「全体」では、「50 時間以上」が 48.4%でもっとも割合が高く、次いで「40～50 時間未満」が 39.7%となっている。生活困難度別にみると、小学生保護者では統計的に有意な差はみられない。

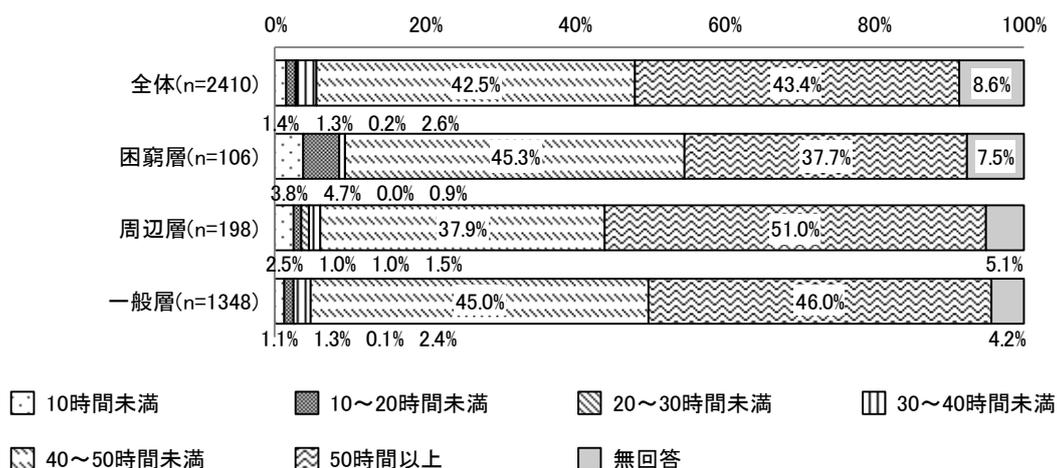
中学生保護者の「全体」では、「50 時間以上」が 43.4%でもっとも割合が高く、次いで「40～50 時間未満」が 42.5%となっている。生活困難度別にみると、「10 時間未満」の割合は、困窮層（3.8%）、周辺層（2.5%）、一般層（1.1%）の順に高い。

図表 205 【保護者】Q14 父親\_一週間の平均労働時間:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>（有意差なし）



<中学生保護者>（p<.01）



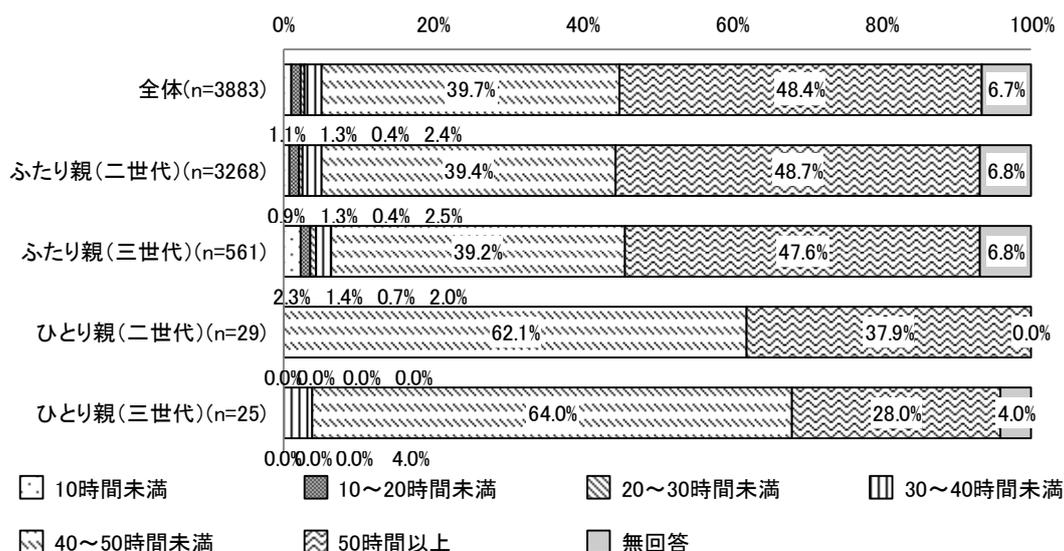
※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

小学生保護者について世帯タイプ別にみると、統計的に有意な差はみられない。

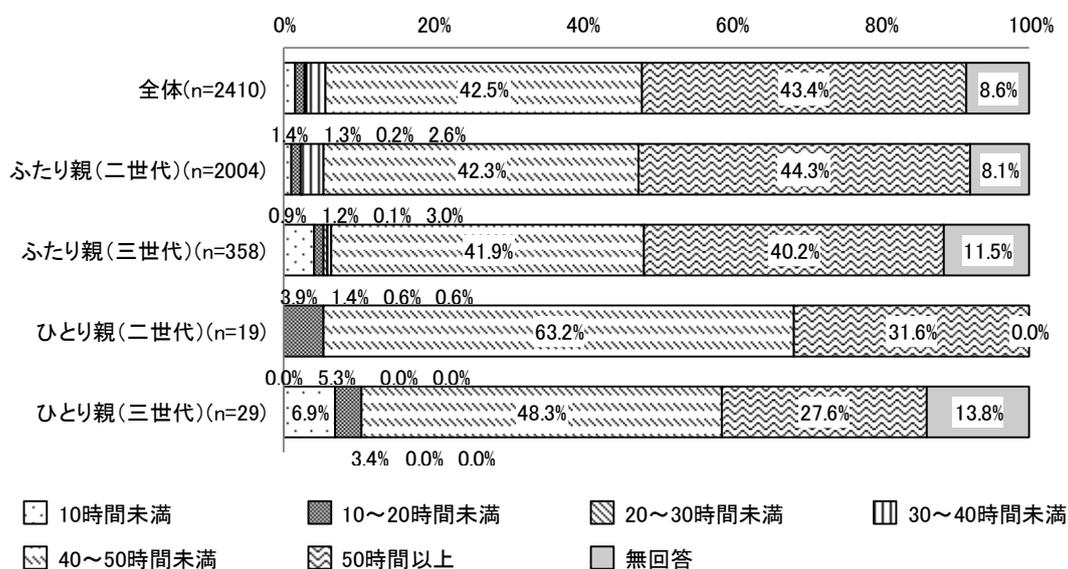
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「40～50 時間未満」の割合は、ひとり親（二世代）（63.2%）、ひとり親（三世代）（48.3%）、ふたり親（二世代）（42.3%）、ふたり親（三世代）（41.9%）の順に高い。

図表 206 【保護者】 Q14 父親\_一週間の平均労働時間:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者>（有意差なし）



<中学生保護者>（p<.01）



※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

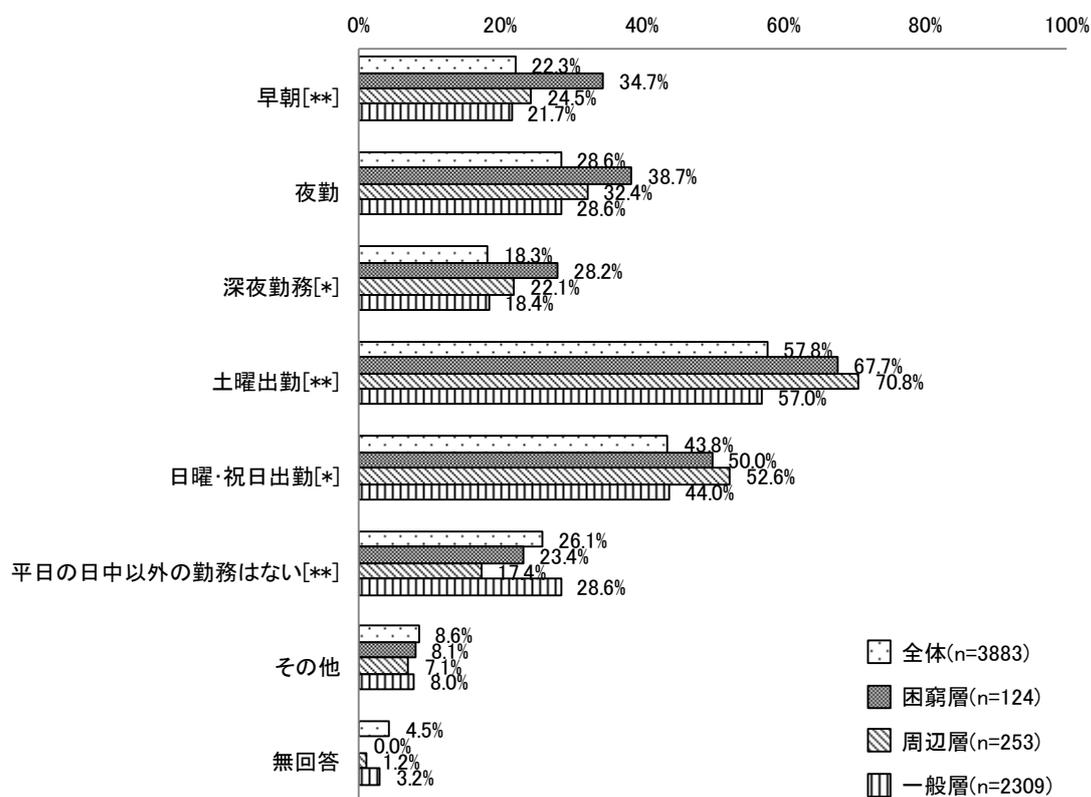
### ③【保護者】Q15 父親\_平日の日中以外の勤務

小学生保護者の「全体」では、「土曜出勤」が57.8%でもっとも割合が高く、次いで「日曜・祝日出勤」が43.8%となっている。生活困難度別にみると、「早朝」、「深夜勤務」、「土曜出勤」、「日曜・祝日出勤」、「平日の日中以外の勤務はない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

中学生保護者の「全体」では、「土曜出勤」が55.8%でもっとも割合が高く、次いで「日曜・祝日出勤」が42.1%となっている。生活困難度別にみると、「早朝」、「土曜出勤」、「日曜・祝日出勤」、「平日の日中以外の勤務はない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

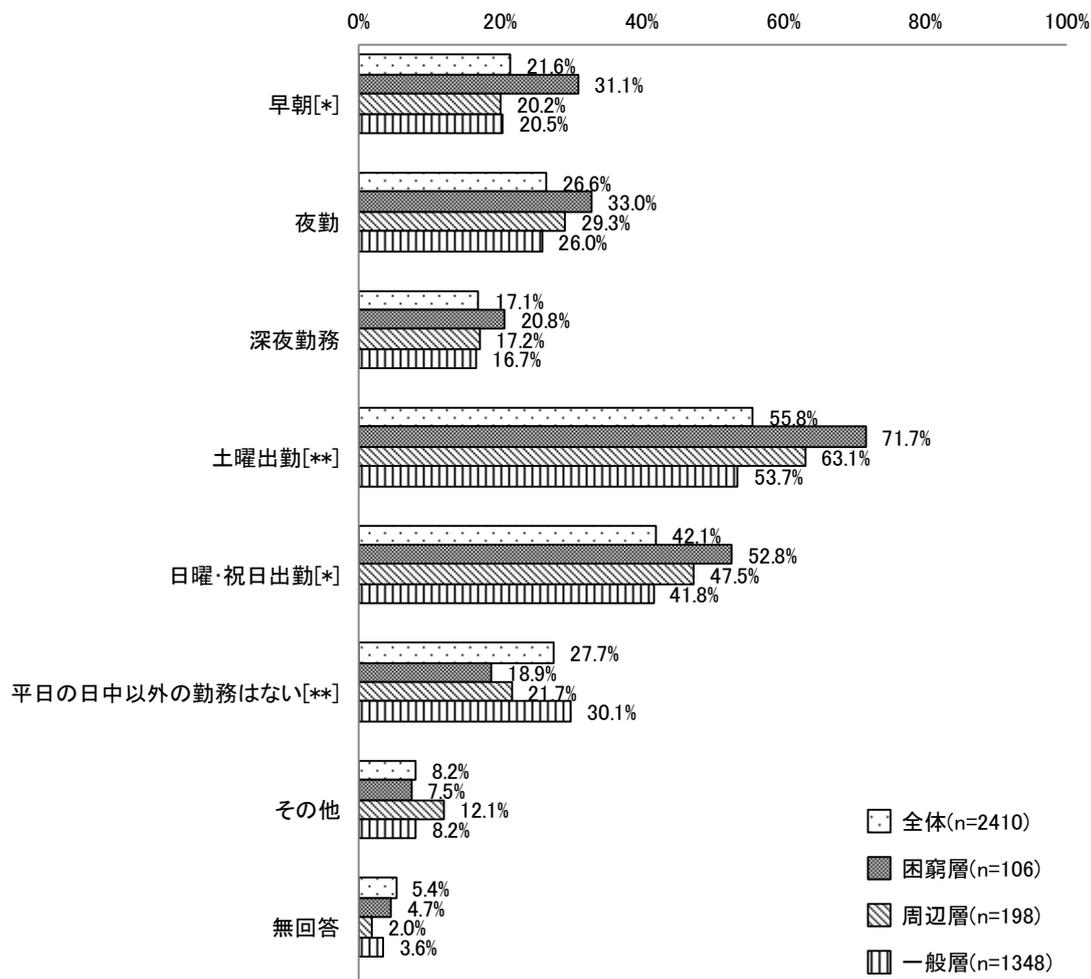
図表 207 【保護者】Q15 父親\_平日の日中以外の勤務:複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

< 中学生保護者 >

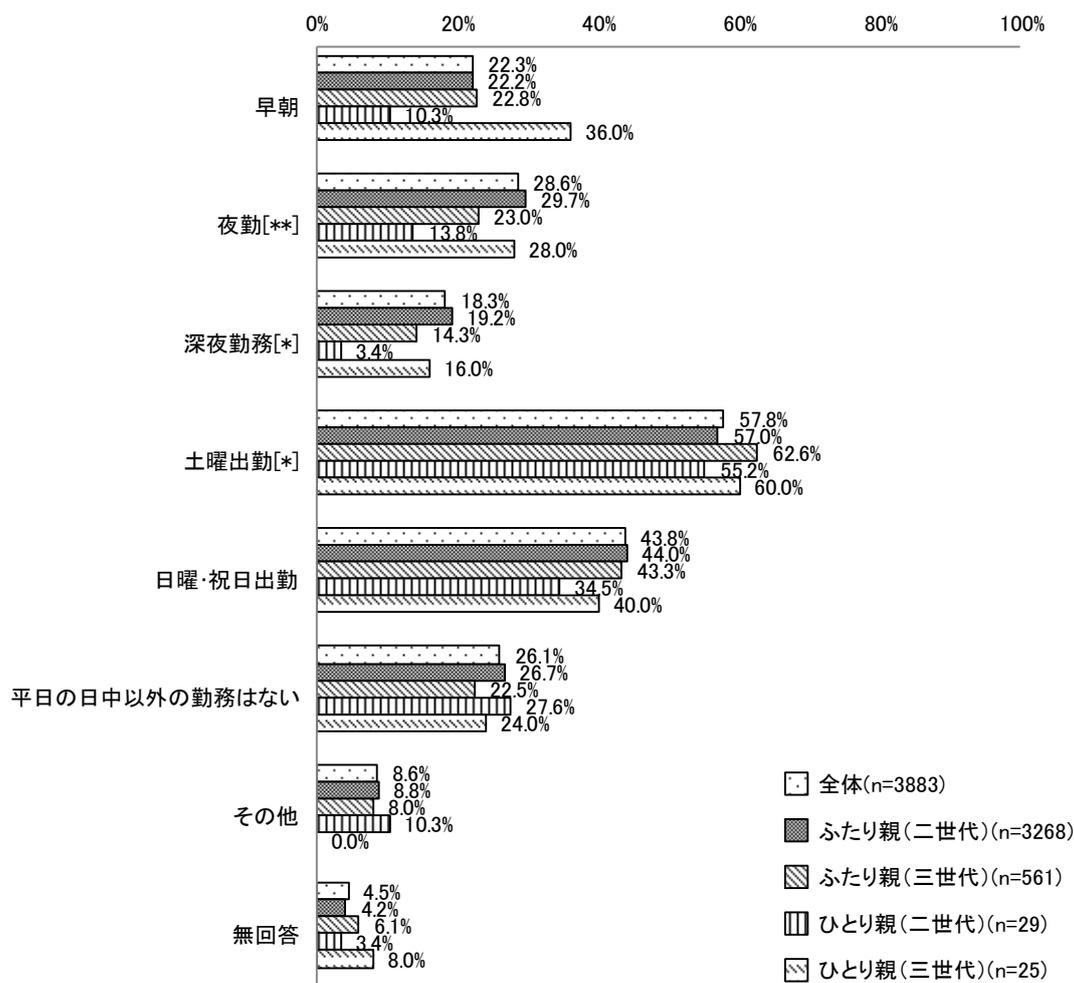


※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「夜勤」、「深夜勤務」、「土曜出勤」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

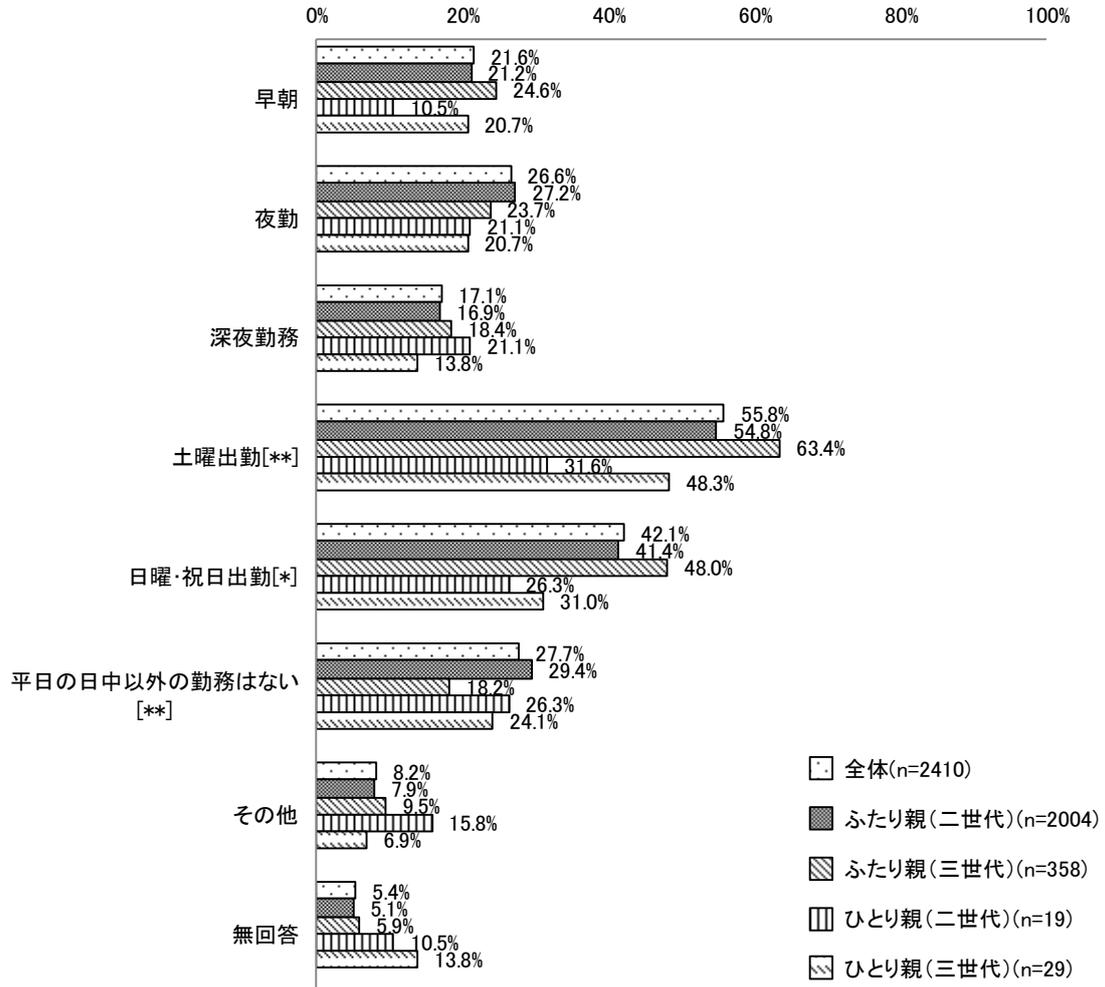
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「土曜出勤」、「日曜・祝日出勤」、「平日の日中以外の勤務はない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 208 【保護者】 Q15 父親\_平日の日中以外の勤務:複数回答 (世帯タイプ別)  
 <小学生保護者>



※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

< 中学生保護者 >



※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

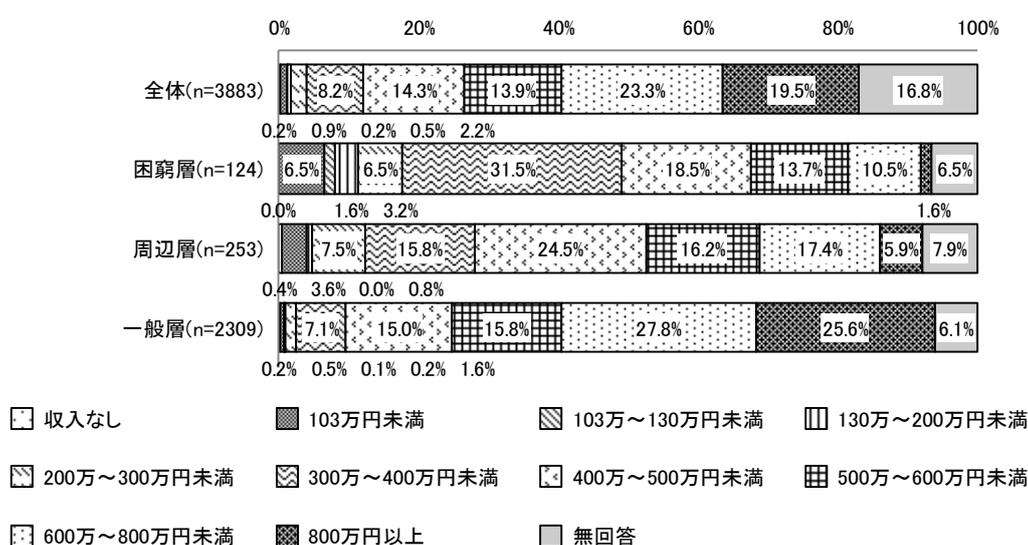
#### ④【保護者】Q16 父親\_昨年の収入

小学生保護者の「全体」では、「600万～800万円未満」が23.3%でもっとも割合が高く、次いで「800万円以上」が19.5%となっている。生活困難度別にみると、「300万～400万円未満」の割合は、困窮層（31.5%）、周辺層（15.8%）、一般層（7.1%）の順に高い。

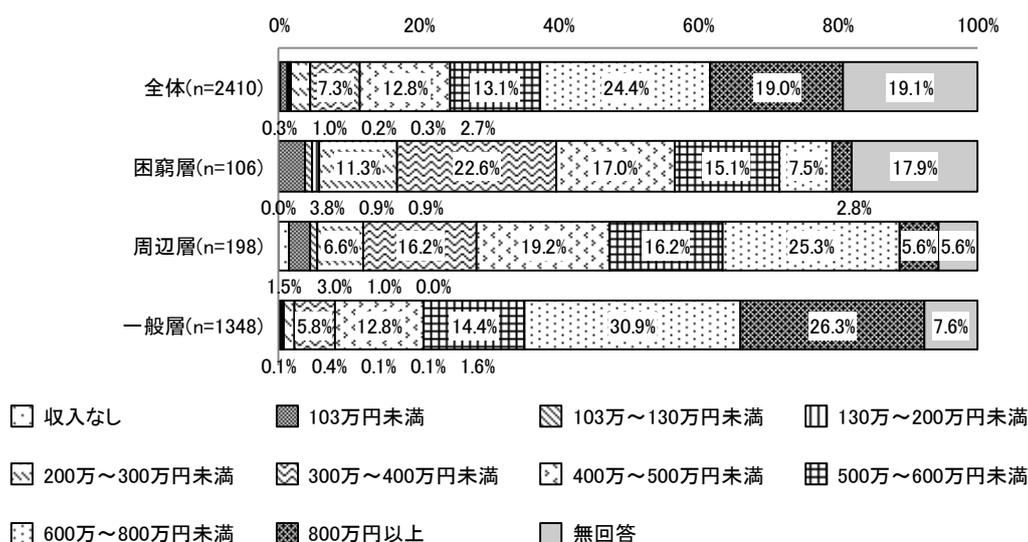
中学生保護者の「全体」では、「600万～800万円未満」が24.4%でもっとも割合が高く、次いで「800万円以上」が19.0%となっている。生活困難度別にみると、「300万～400万円未満」の割合は、困窮層（22.6%）、周辺層（16.2%）、一般層（5.8%）の順に高い。

図表 209 【保護者】Q16 父親\_昨年の収入:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



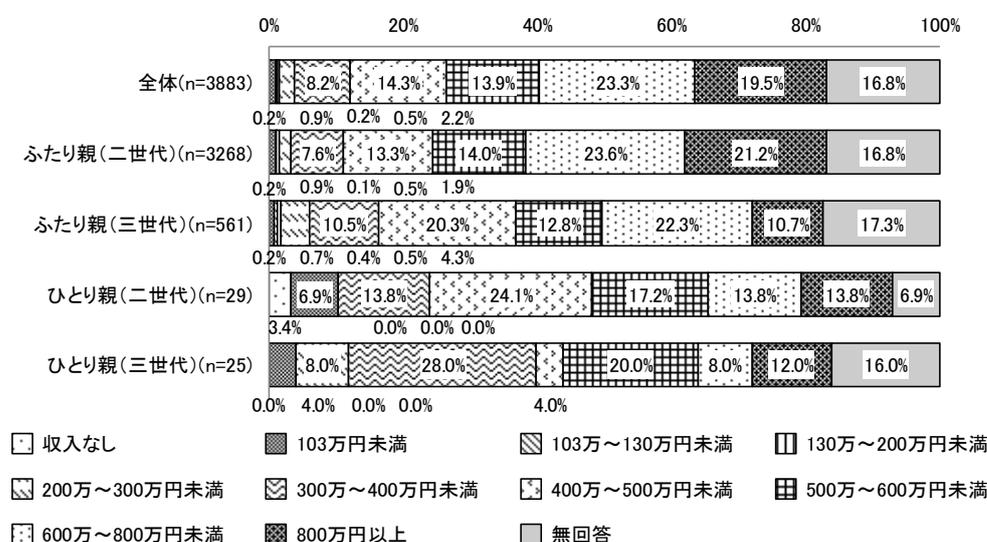
※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「300～400万円未満」の割合は、ひとり親（三世代）（28.0%）、ひとり親（二世代）（13.8%）、ふたり親（三世代）（10.5%）ふたり親（二世代）（7.6%）の順に高い。

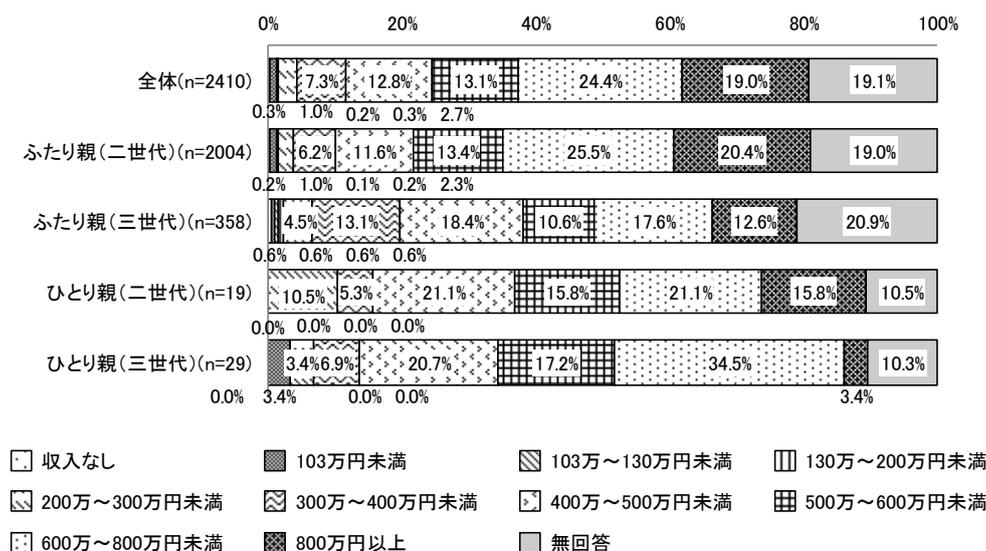
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「800万円以上」の割合は、ふたり親（二世代）（20.4%）、ひとり親（二世代）（15.8%）、ふたり親（三世代）（12.6%）ひとり親（三世代）（3.4%）の順に高い。

図表 210 【保護者】Q16 父親\_昨年の収入:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q13 で父親が「働いていない」以外を選択した世帯

## 9. 経済的支援制度の利用状況

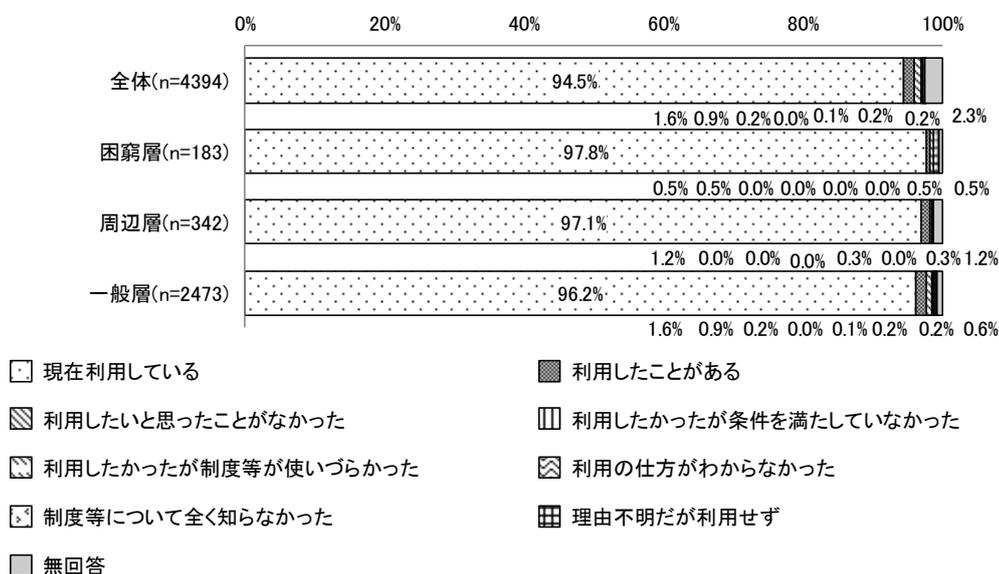
### ①【保護者】Q56-1 利用状況\_児童手当

小学生保護者の「全体」では、「現在利用している」が94.5%でもっとも割合が高く、次いで「利用したことがある」が1.6%となっている。

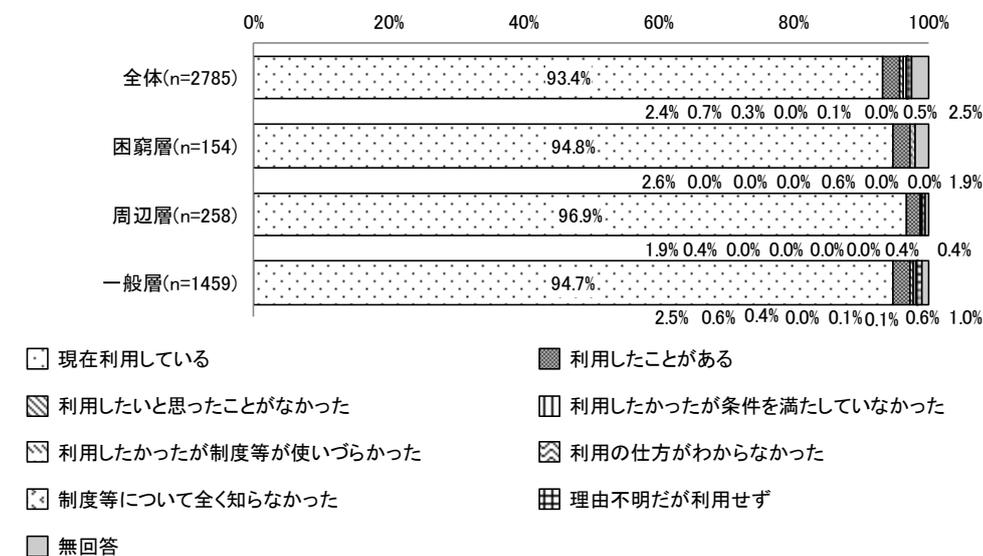
中学生保護者の「全体」では、「現在利用している」が93.4%でもっとも割合が高く、次いで「利用したことがある」が2.4%となっている。

図表 211 【保護者】Q56-1 利用状況\_児童手当:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>（検定不可）



<中学生保護者>（検定不可）



②【保護者】Q56-1-1 利用したことはないが興味がある\_児童手当

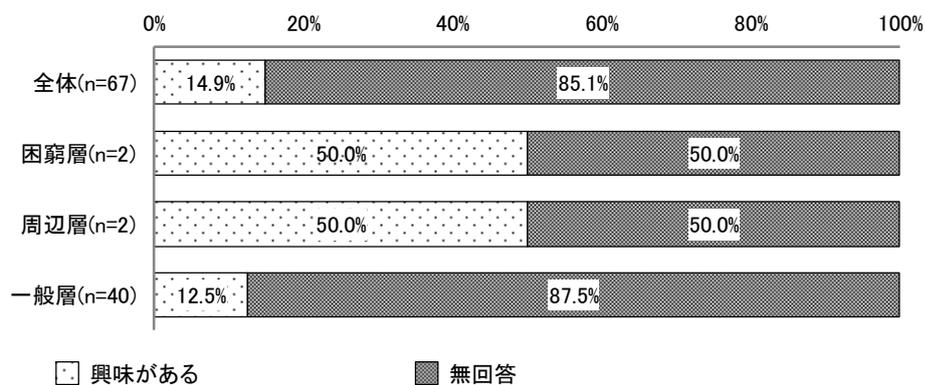
小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が14.9%となっている。

中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が33.3%となっている。

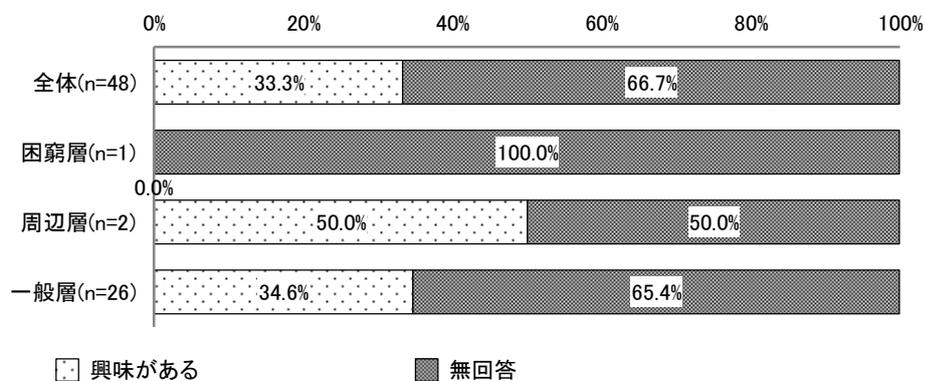
生活困難度別にみると、小中学生保護者いずれも統計的に有意な差はみられない。

図表 212 【保護者】Q56-1-1 利用したことはないが興味がある\_児童手当:単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (有意差なし)



<中学生保護者> (有意差なし)



※対象は Q56-1 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を選択した者

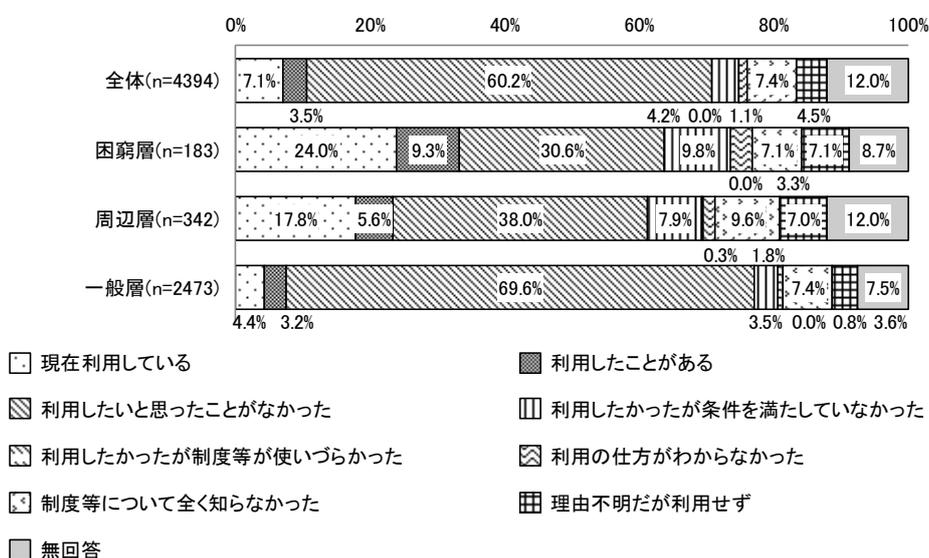
### ③【保護者】Q56-2 利用状況\_児童扶養手当

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が60.2%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が7.4%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(69.6%)、周辺層(38.0%)、困窮層(30.6%)の順に高い。

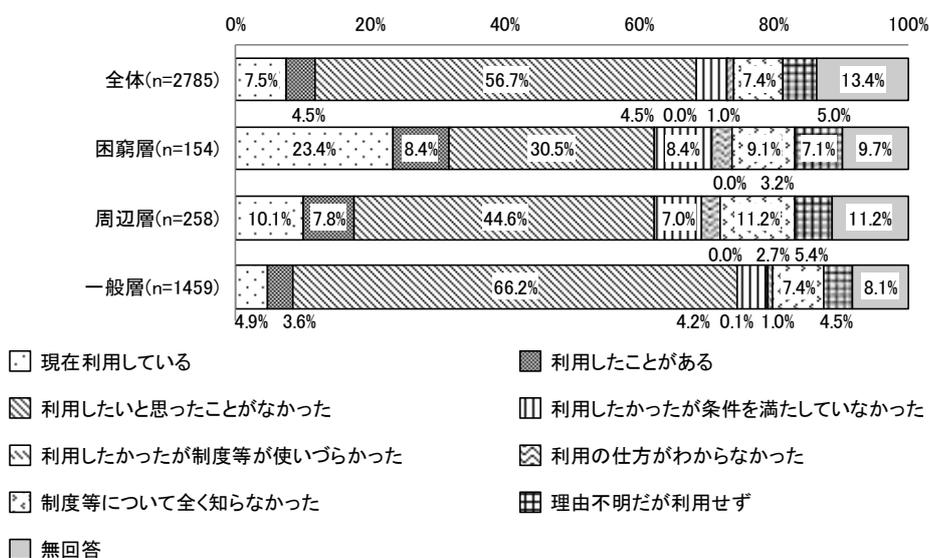
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が56.7%でもっとも割合が高く、次いで「現在利用している」が7.5%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(66.2%)、周辺層(44.6%)、困窮層(30.5%)の順に高い。

図表 213 【保護者】Q56-2 利用状況\_児童扶養手当:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

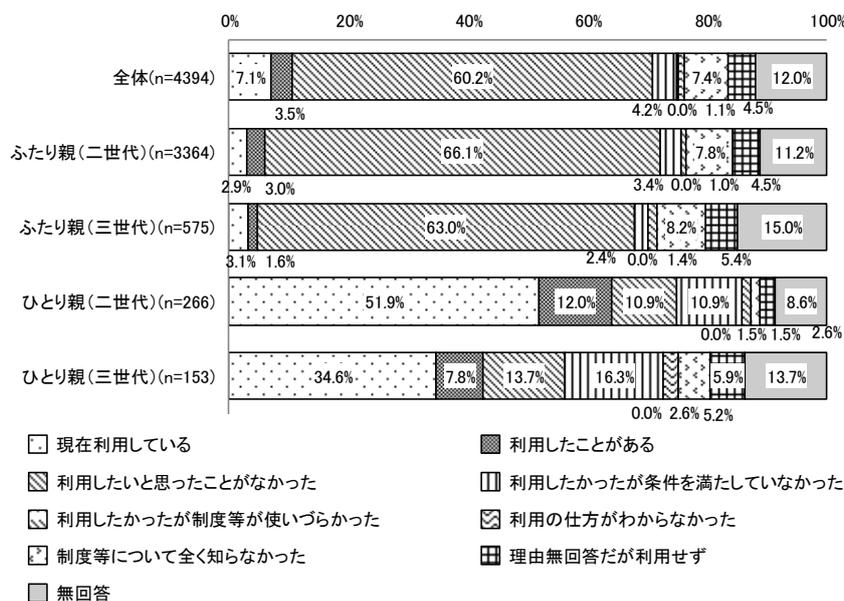


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（66.1%）、ふたり親（三世帯）（63.0%）、ひとり親（三世帯）（13.7%）ひとり親（二世帯）（10.9%）の順に高い。

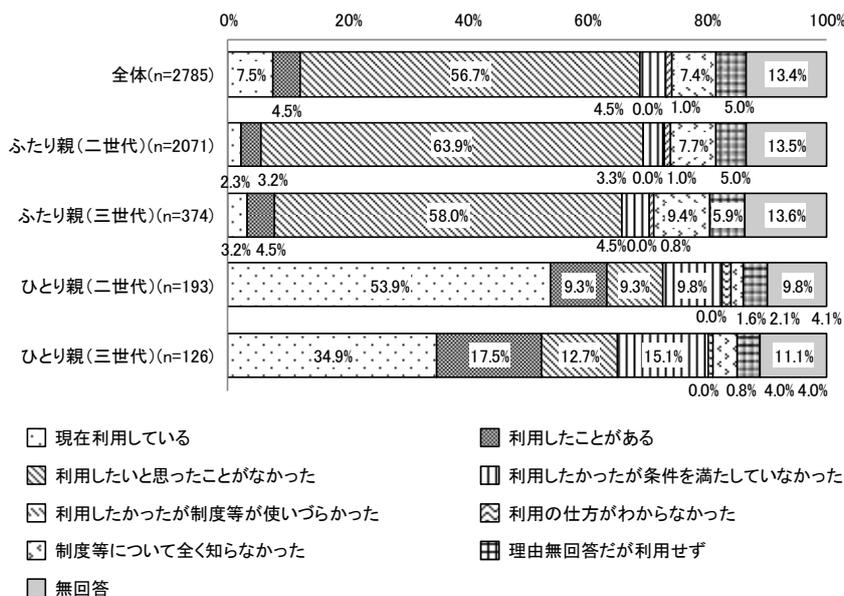
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（63.9%）、ふたり親（三世帯）（58.0%）、ひとり親（三世帯）（12.7%）、ひとり親（二世帯）（9.3%）の順に高い。

図表 214 【保護者】Q56-2 利用状況\_児童扶養手当:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



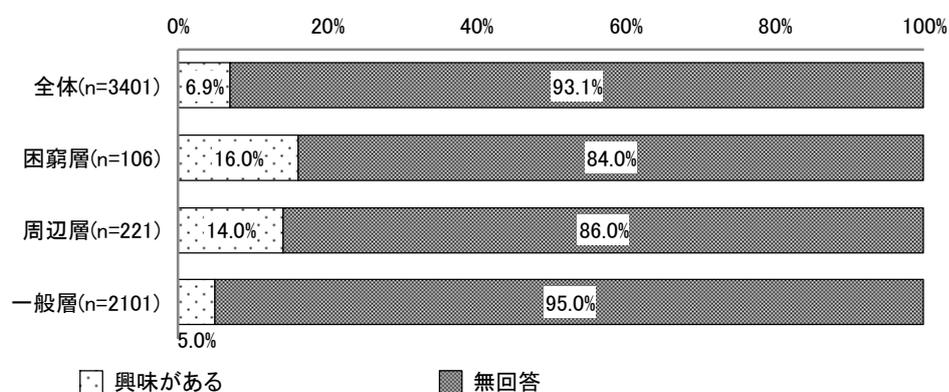
④【保護者】Q56-2-1 利用したことはないが興味がある\_児童扶養手当

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が6.9%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（16.0%）、周辺層（14.0%）、一般層（5.0%）の順に高い。

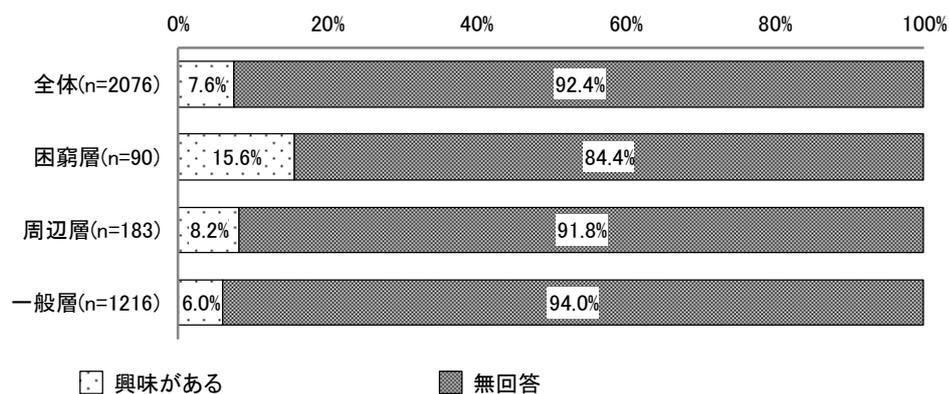
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.6%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（15.6%）、周辺層（8.2%）、一般層（6.0%）の順に高い。

図表 215 【保護者】Q56-2-1 利用したことはないが興味がある\_児童扶養手当:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-2 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

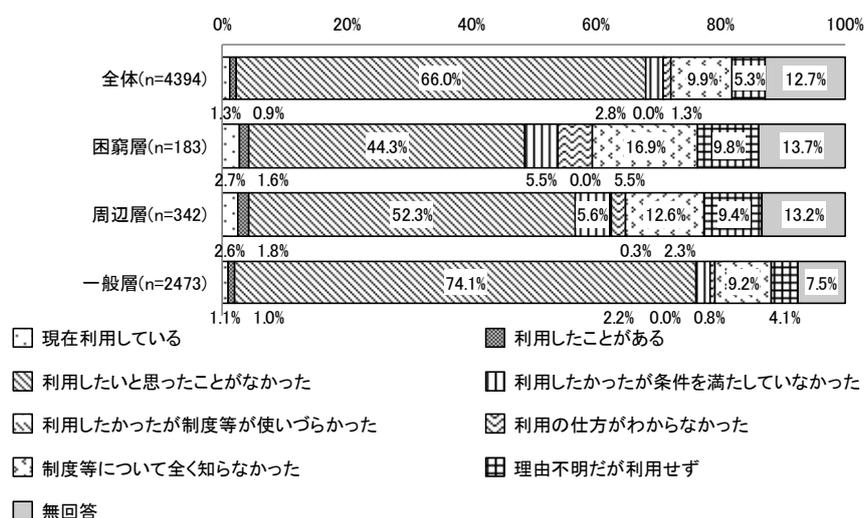
⑤【保護者】Q56-3 利用状況\_特別児童扶養手当

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が66.0%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が9.9%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(74.1%)、周辺層(52.3%)、困窮層(44.3%)の順に高い。

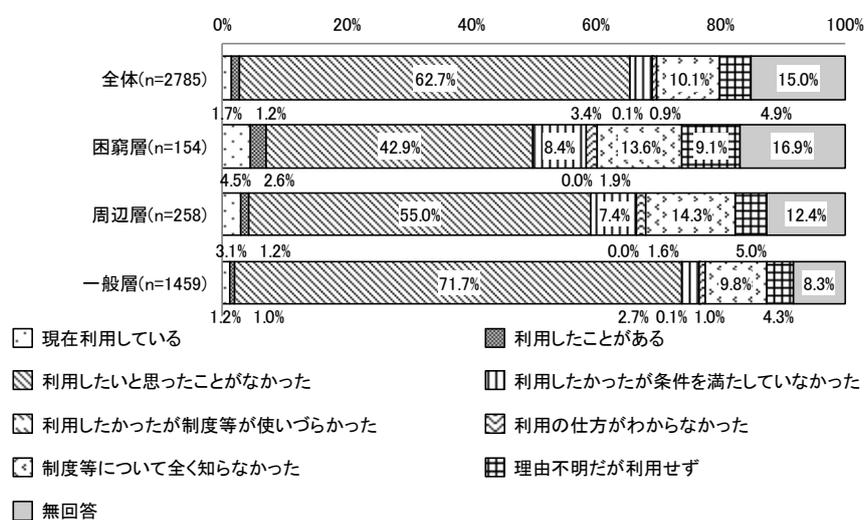
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が62.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が10.1%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(71.7%)、周辺層(55.0%)、困窮層(42.9%)の順に高い。

図表 216 【保護者】Q56-3 利用状況\_特別児童扶養手当:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



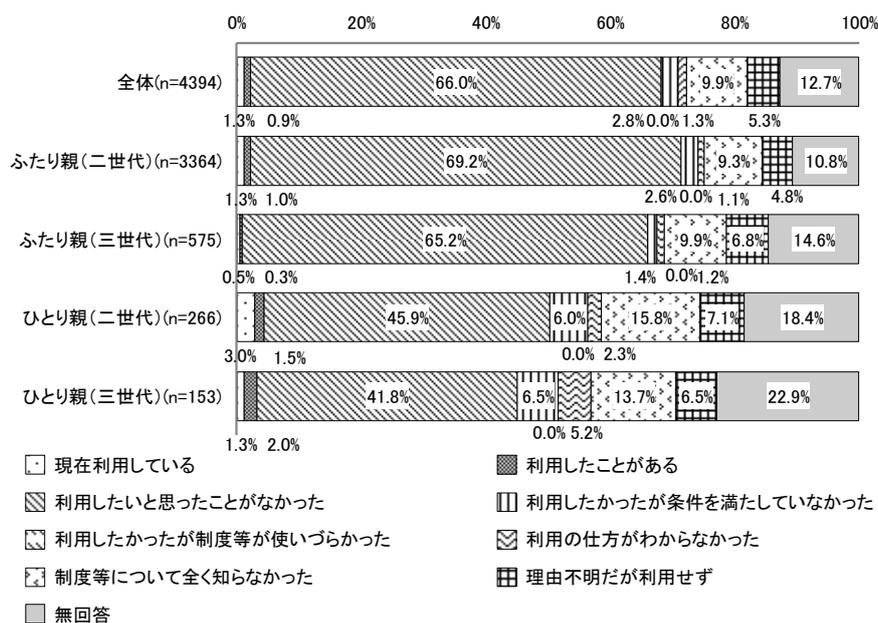
<中学生保護者> (p<.01)



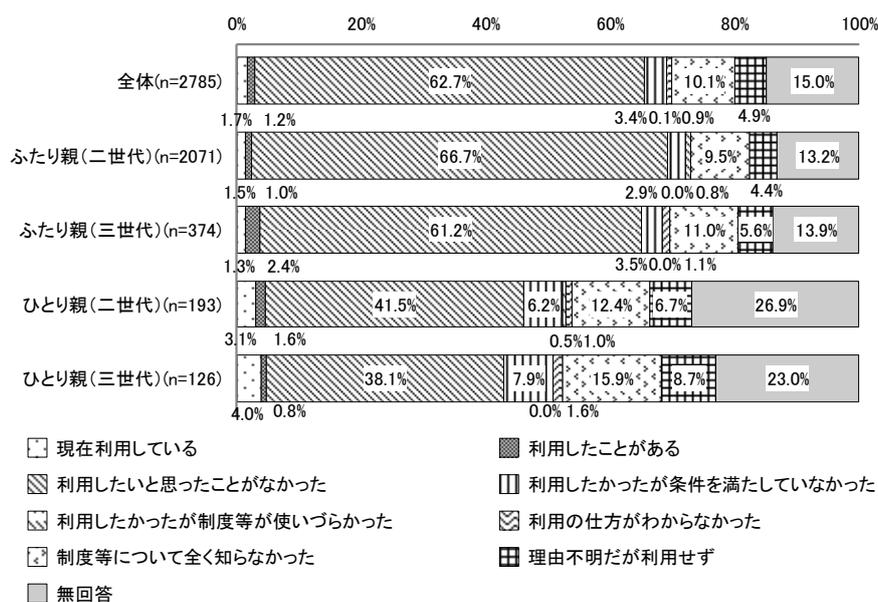
小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（69.2%）、ふたり親（三世帯）（65.2%）、ひとり親（二世帯）（45.9%）ひとり親（三世帯）（41.8%）の順に高い。

中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（66.7%）、ふたり親（三世帯）（61.2%）、ひとり親（二世帯）（41.5%）、ひとり親（三世帯）（38.1%）の順に高い。

図表 217 【保護者】Q56-3 利用状況\_特別児童扶養手当:単数回答（世帯タイプ別）  
 <小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



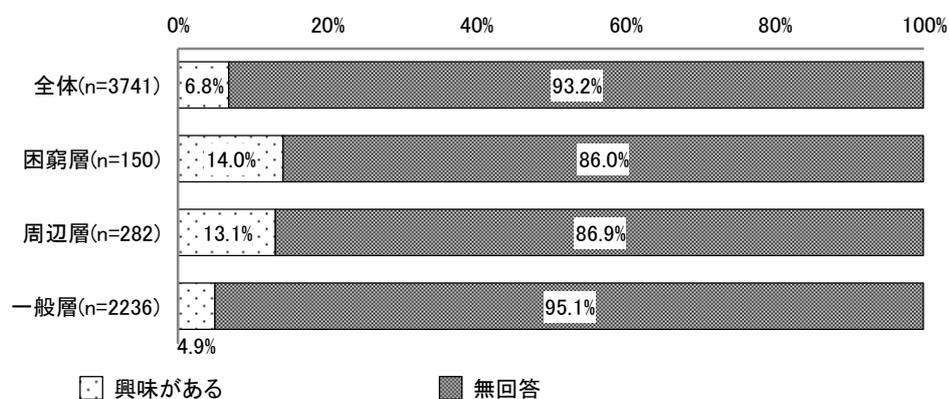
⑥【保護者】Q56-3-1 利用したことはないが興味がある\_特別児童扶養手当

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が6.8%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（14.0%）、周辺層（13.1%）、一般層（4.9%）の順に高い。

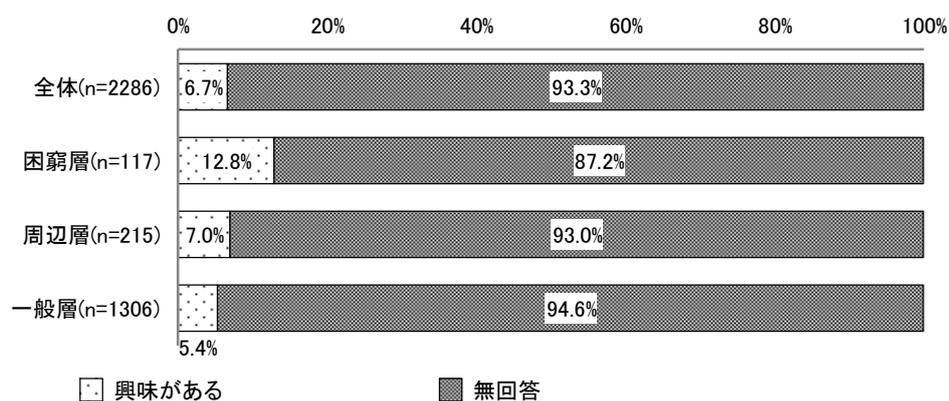
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が6.7%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（12.8%）、周辺層（7.0%）、一般層（5.4%）の順に高い。

図表 218 【保護者】Q56-3-1 利用したことはないが興味がある\_特別児童扶養手当：  
単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-3 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

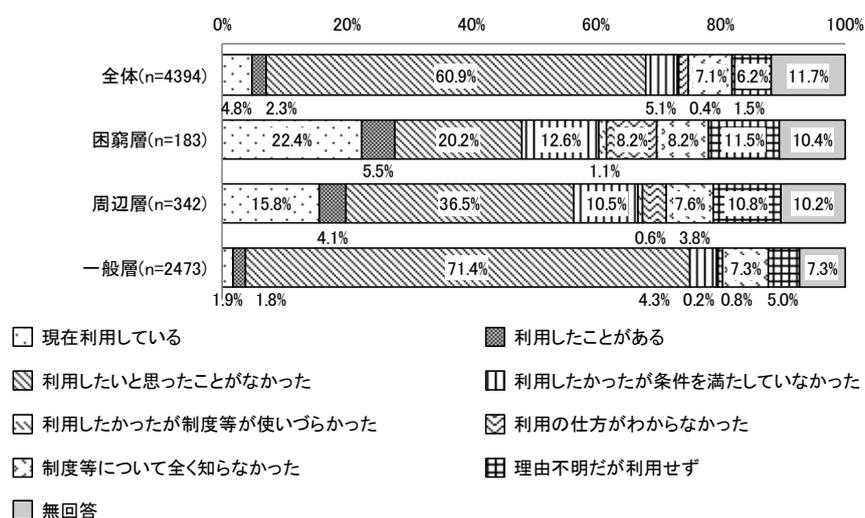
⑦【保護者】Q56-4 利用状況\_就学援助費

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が60.9%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が7.1%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(71.4%)、周辺層(36.5%)、困窮層(20.2%)の順に高い。

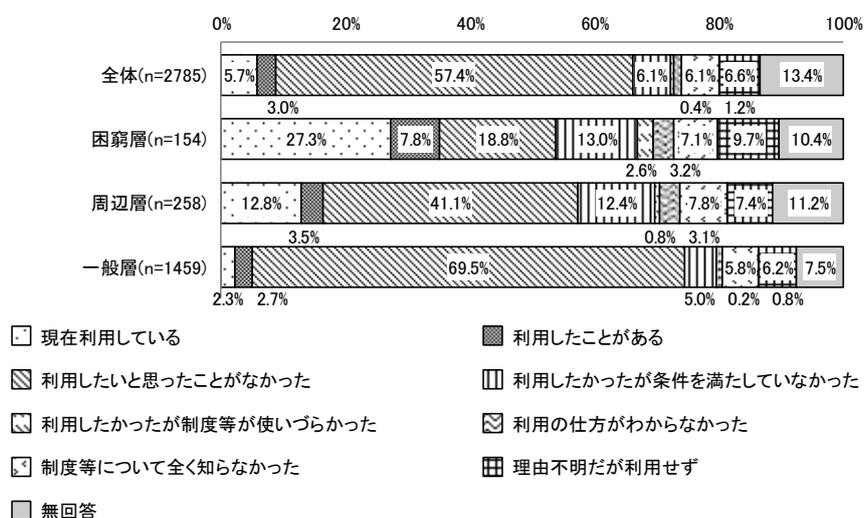
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が57.4%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が6.6%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(69.5%)、周辺層(41.1%)、困窮層(18.8%)の順に高い。

図表 219 【保護者】Q56-4 利用状況\_就学援助費:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

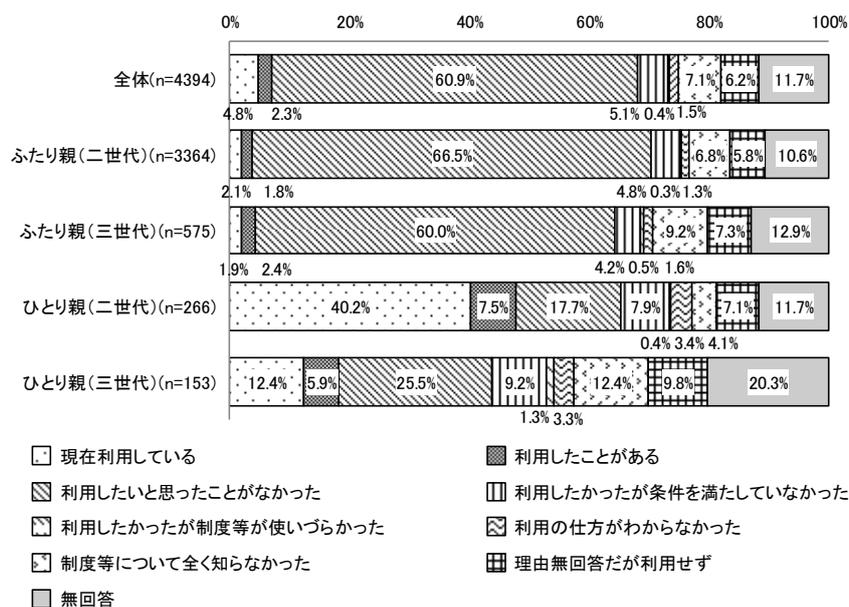


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（66.5%）、ふたり親（三世帯）（60.0%）、ひとり親（三世帯）（25.5%）ひとり親（二世帯）（17.7%）の順に高い。

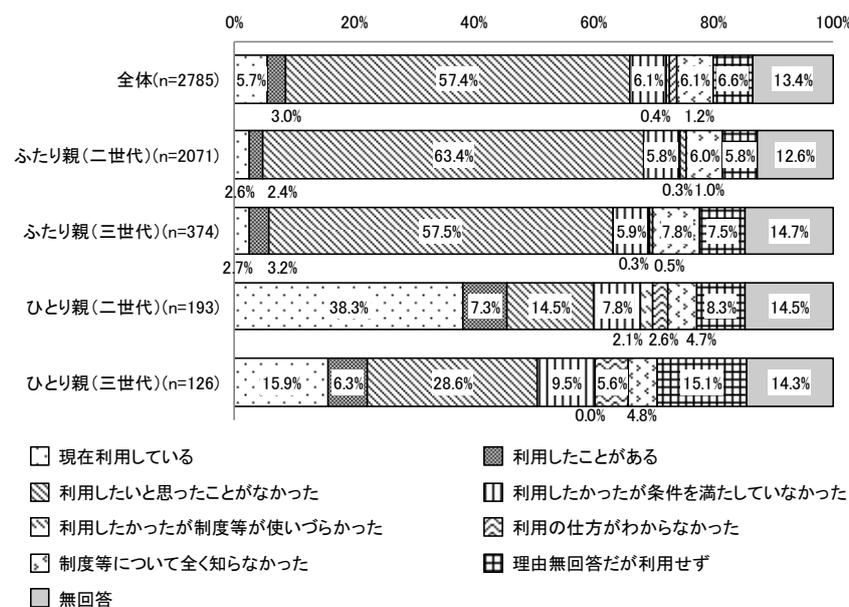
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（63.4%）、ふたり親（三世帯）（57.5%）、ひとり親（三世帯）（28.6%）、ひとり親（二世帯）（14.5%）の順に高い。

図表 220 【保護者】 Q56-4 利用状況\_就学援助費:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



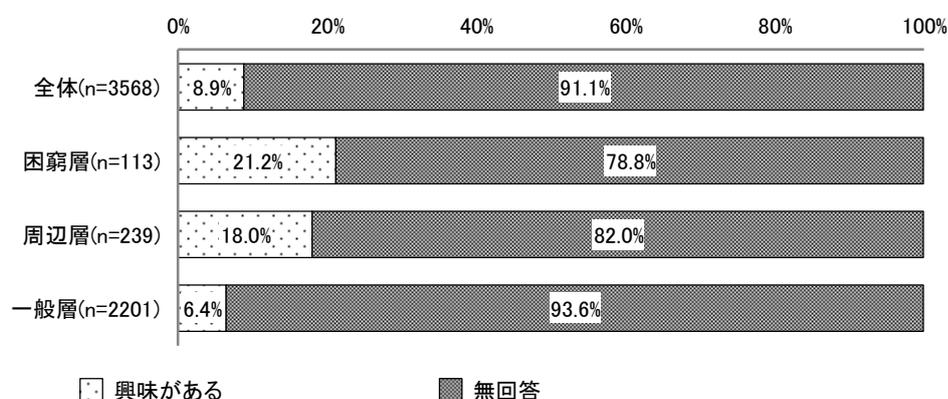
⑧【保護者】Q56-4-1 利用したことはないが興味がある\_就学援助費

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が8.9%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（21.2%）、周辺層（18.0%）、一般層（6.4%）の順に高い。

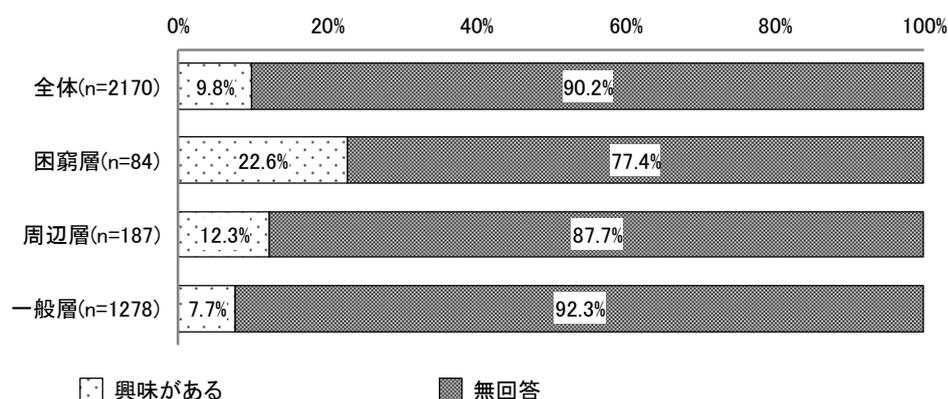
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が9.8%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（22.6%）、周辺層（12.3%）、一般層（7.7%）の順に高い。

図表 221 【保護者】Q56-4-1 利用したことはないが興味がある\_就学援助費:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-4 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

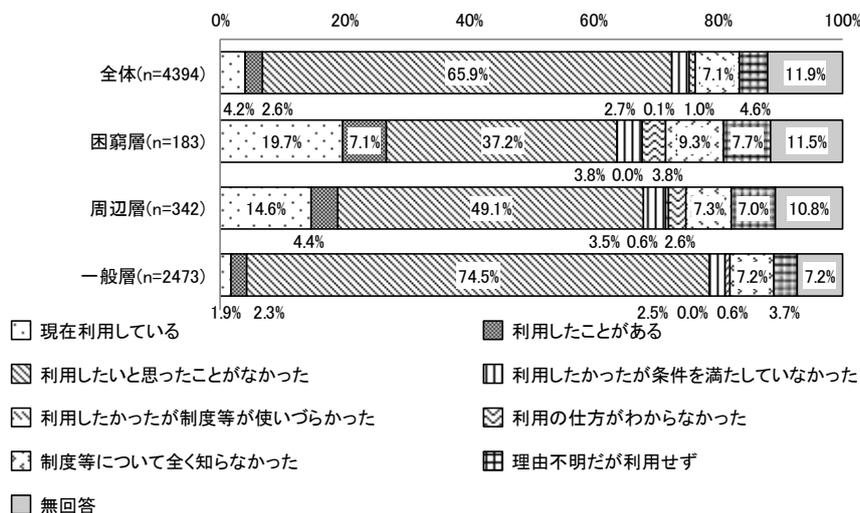
⑨【保護者】Q56-5 利用状況\_ひとり親家庭等医療費等助成

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が65.9%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が7.1%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(74.5%)、周辺層(49.1%)、困窮層(37.2%)の順に高い。

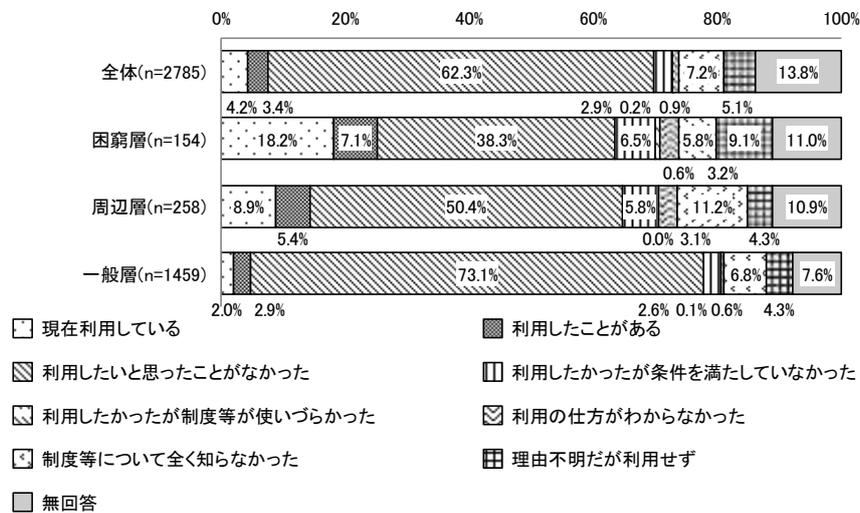
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が62.3%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が7.2%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(73.1%)、周辺層(50.4%)、困窮層(38.3%)の順に高い。

図表 222 【保護者】Q56-5 利用状況\_ひとり親家庭等医療費等助成:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

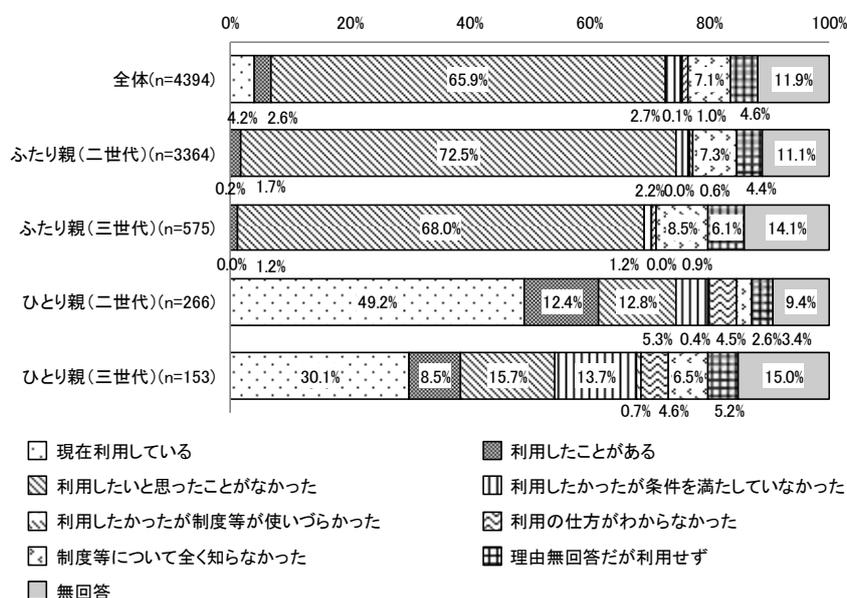


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（72.5%）、ふたり親（三世帯）（68.0%）、ひとり親（三世帯）（15.7%）ひとり親（二世帯）（12.8%）の順に高い。

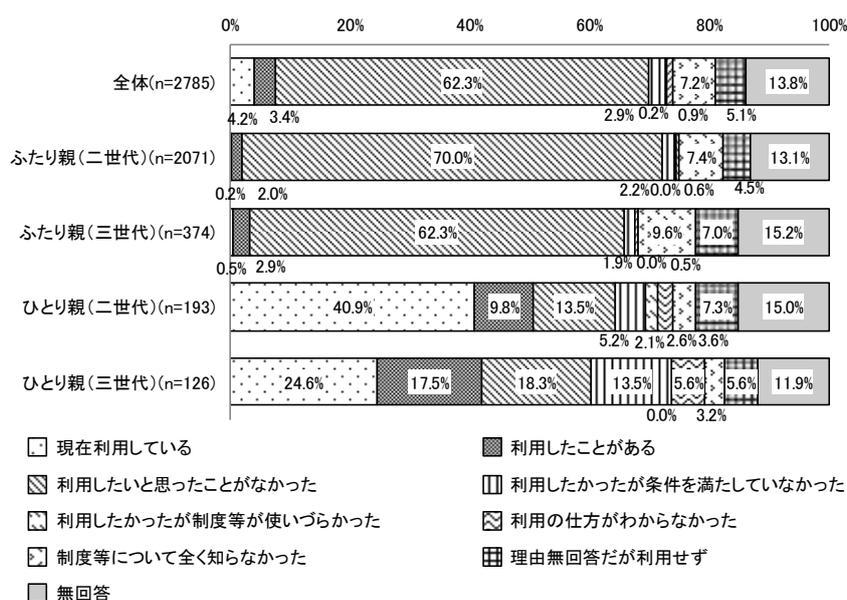
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（70.0%）、ふたり親（三世帯）（62.3%）、ひとり親（三世帯）（18.3%）ひとり親（二世帯）（13.5%）の順に高い。

図表 223 【保護者】 Q56-5 利用状況\_ひとり親家庭等医療費等助成:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



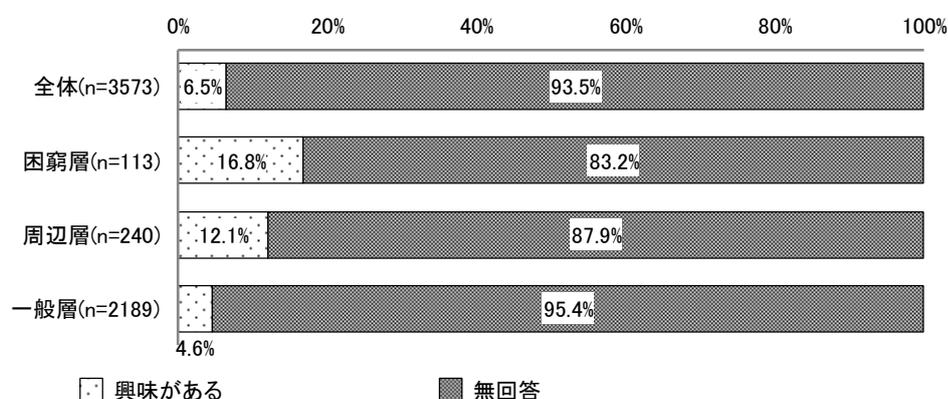
⑩【保護者】Q56-5-1 利用したことはないが興味がある\_ひとり親家庭等医療費等助成

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が6.5%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（16.8%）、周辺層（12.1%）、一般層（4.6%）の順に高い。

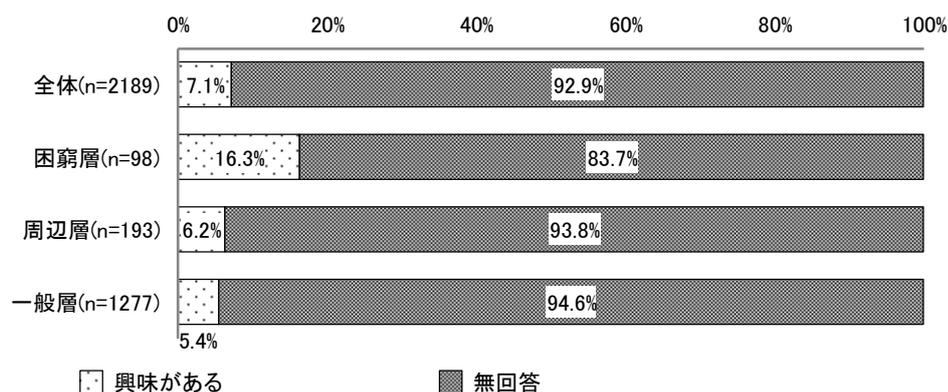
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.1%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（16.3%）、周辺層（6.2%）、一般層（5.4%）の順に高い。

図表 224 【保護者】Q56-5-1 利用したことはないが興味がある\_ひとり親家庭等医療費等助成:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-5 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

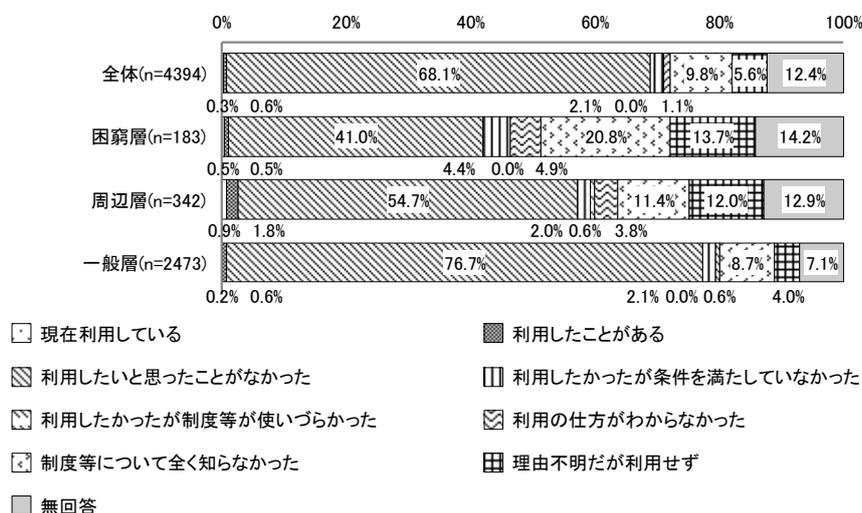
⑪【保護者】Q56-6 利用状況\_母子・父子・寡婦福祉資金

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が68.1%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が9.8%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（76.7%）、周辺層（54.7%）、困窮層（41.0%）の順に高い。

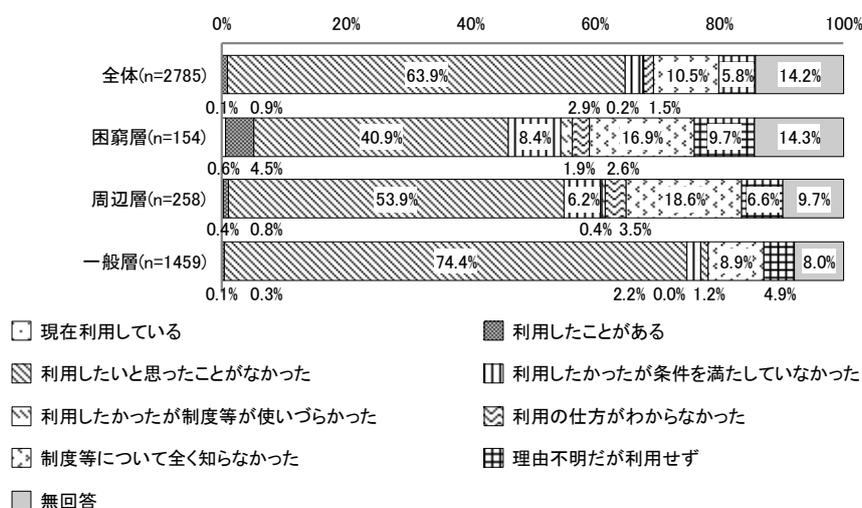
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が63.9%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が10.5%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（74.4%）、周辺層（53.9%）、困窮層（40.9%）の順に高い。

図表 225 【保護者】Q56-6 利用状況\_母子・父子・寡婦福祉資金:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

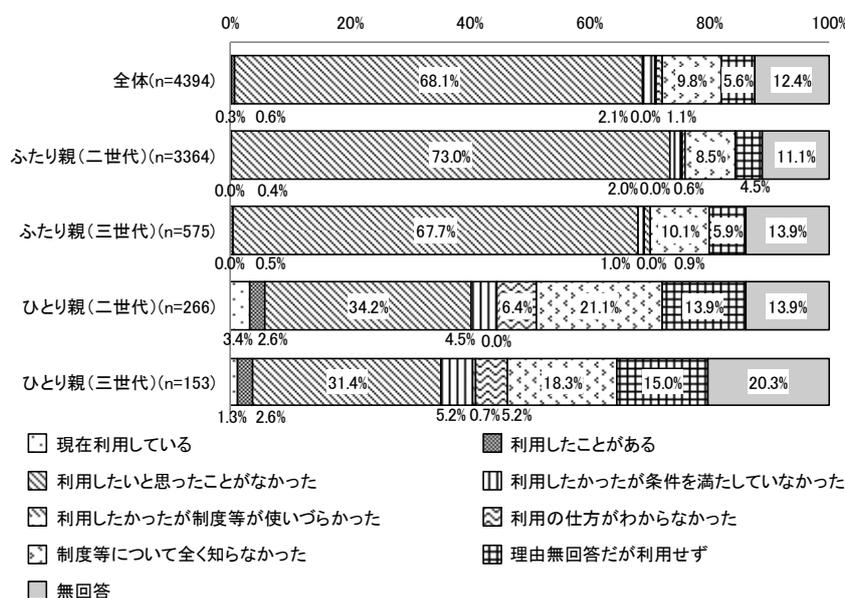


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（73.0%）、ふたり親（三世帯）（67.7%）、ひとり親（二世帯）（34.2%）ひとり親（三世帯）（31.4%）の順に高い。

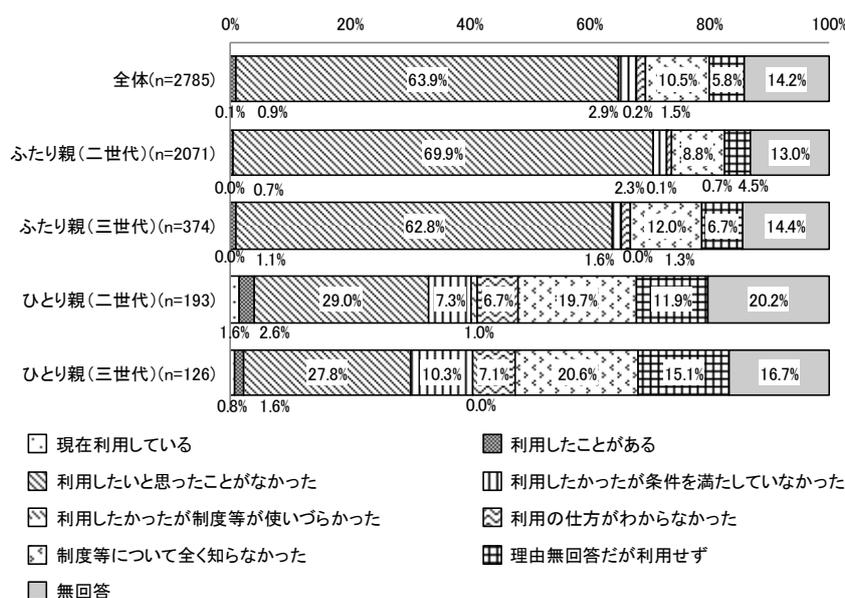
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（69.9%）、ふたり親（三世帯）（62.8%）、ひとり親（二世帯）（29.0%）ひとり親（三世帯）（27.8%）の順に高い。

図表 226 【保護者】Q56-6 利用状況\_母子・父子・寡婦福祉資金:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



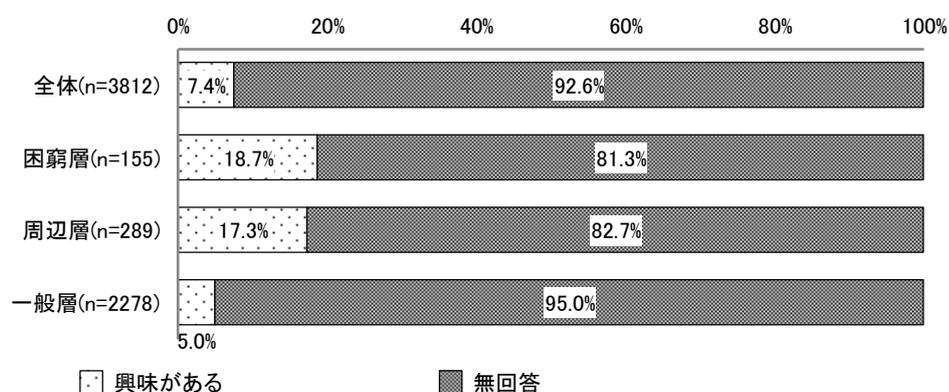
⑫【保護者】Q56-6-1 利用したことはないが興味がある\_母子・父子・寡婦福祉資金

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.4%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（18.7%）、周辺層（17.3%）、一般層（5.0%）の順に高い。

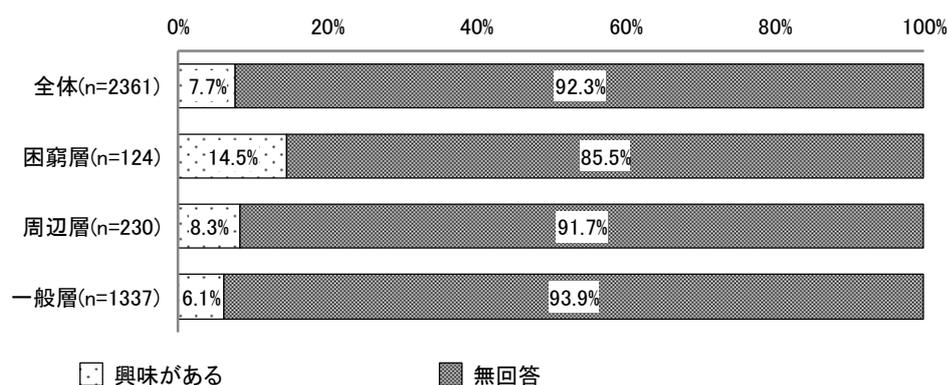
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.7%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（14.5%）、周辺層（8.3%）、一般層（6.1%）の順に高い。

図表 227 【保護者】Q56-6-1 利用したことはないが興味がある\_母子・父子・寡婦福祉資金:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-6 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

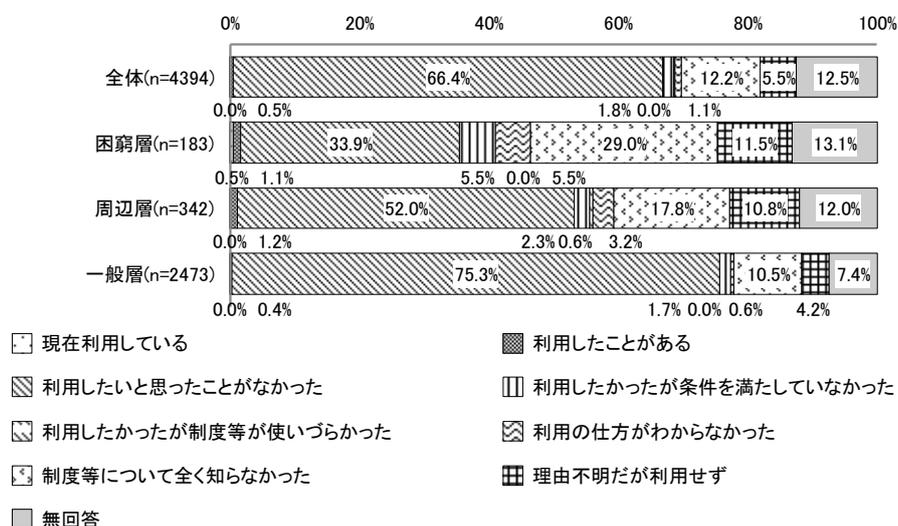
⑬【保護者】Q56-7 利用状況\_生活福祉資金

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が66.4%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が12.2%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（75.3%）、周辺層（52.0%）、困窮層（33.9%）の順に高い。

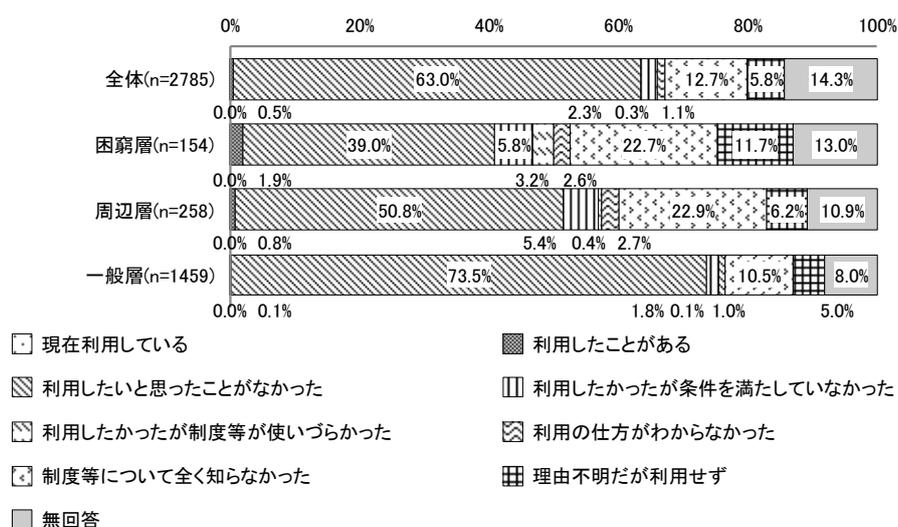
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が63.0%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が12.7%となっている。

図表 228 【保護者】Q56-7 利用状況\_生活福祉資金:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



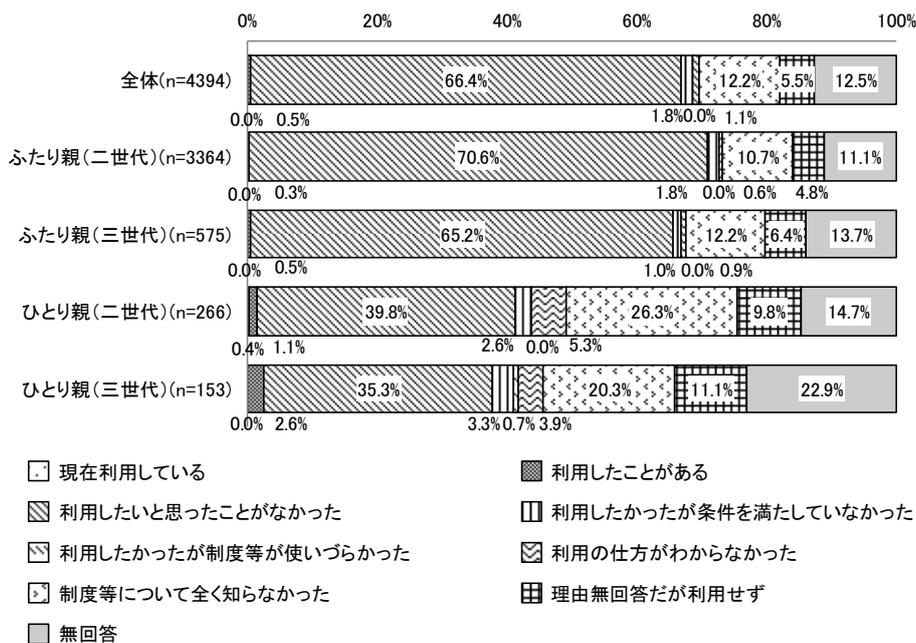
<中学生保護者> (検定不可)



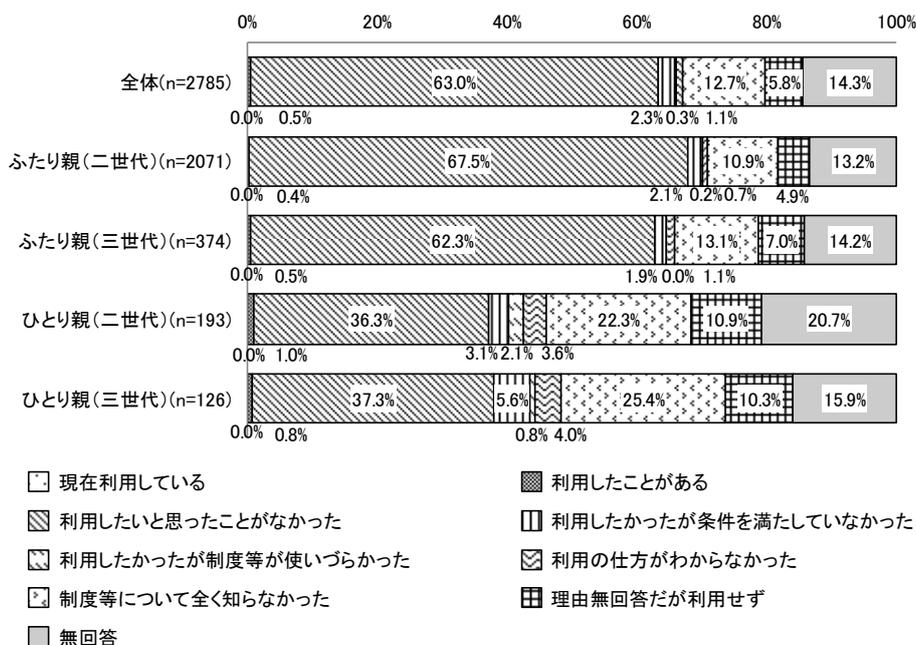
小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（70.6%）、ふたり親（三世帯）（65.2%）、ひとり親（二世帯）（39.8%）ひとり親（三世帯）（35.3%）の順に高い。

図表 229 【保護者】 Q56-7 利用状況\_生活福祉資金:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (検定不可)



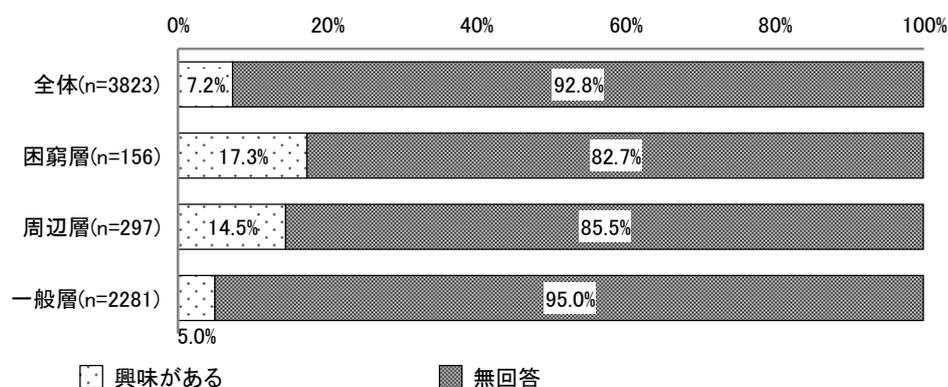
⑭【保護者】 Q56-7-1 利用したことはないが興味がある\_生活福祉資金

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.2%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（17.3%）、周辺層（14.5%）、一般層（5.0%）の順に高い。

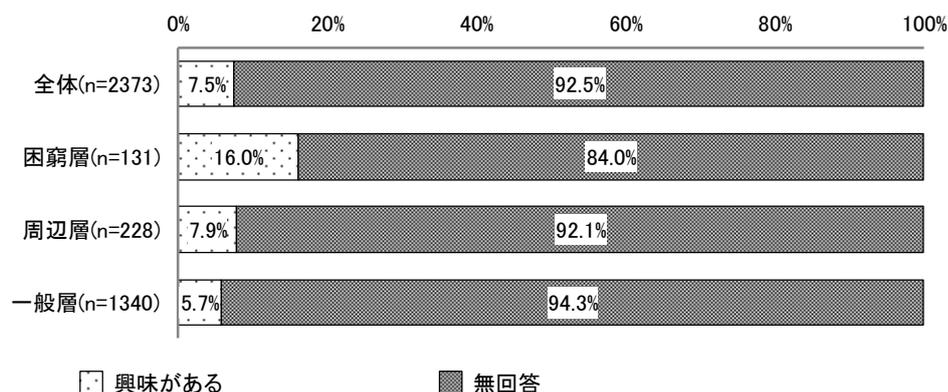
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.5%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（16.0%）、周辺層（7.9%）、一般層（5.7%）の順に高い。

図表 230 【保護者】 Q56-7-1 利用したことはないが興味がある\_生活福祉資金:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-7 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

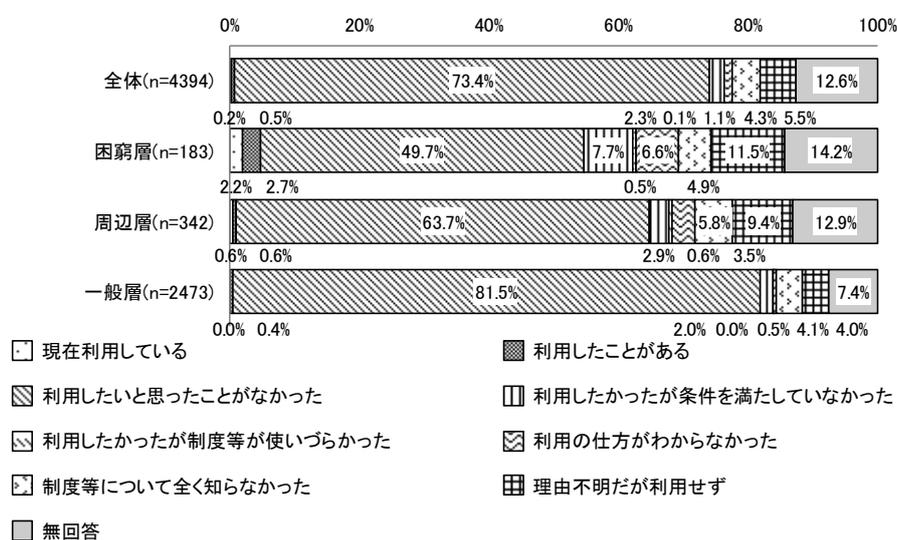
⑮【保護者】Q56-8 利用状況\_生活保護

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が73.4%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が5.5%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(81.5%)、周辺層(63.7%)、困窮層(49.7%)の順に高い。

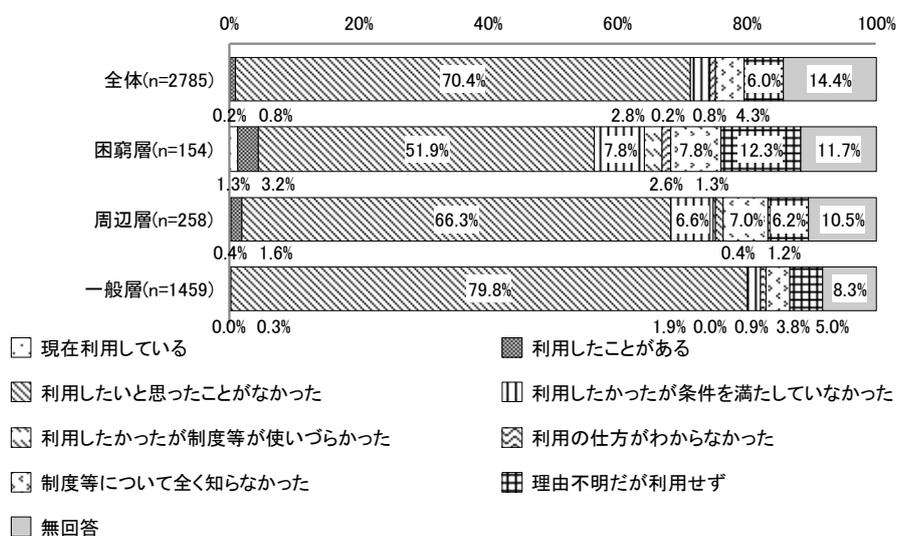
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が70.4%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が6.0%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(79.8%)、周辺層(66.3%)、困窮層(51.9%)の順に高い。

図表 231 【保護者】Q56-8 利用状況\_生活保護\_単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



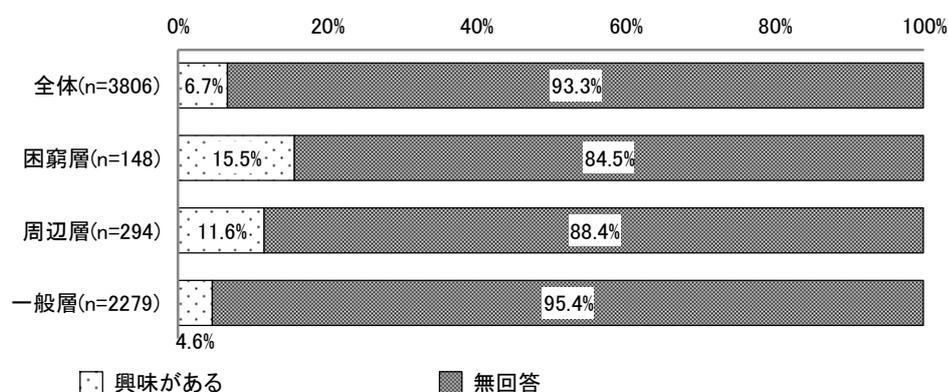
⑯【保護者】Q56-8-1 利用したことはないが興味がある\_生活保護

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が6.7%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（15.5%）、周辺層（11.6%）、一般層（4.6%）の順に高い。

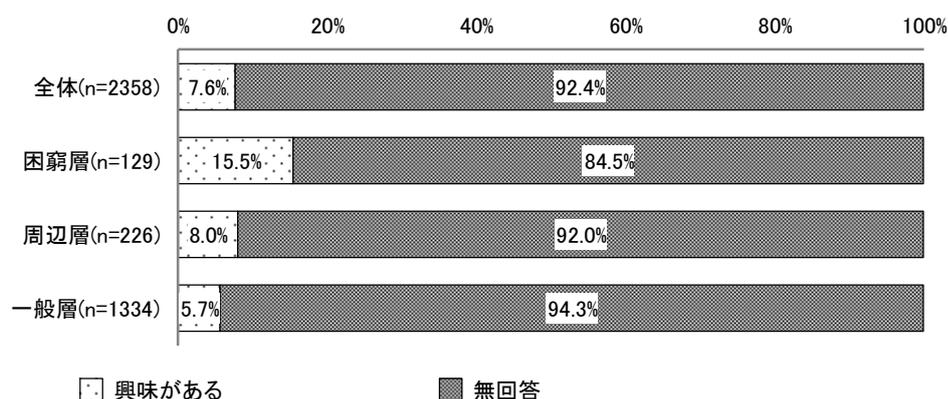
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が7.6%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（15.5%）、周辺層（8.0%）、一般層（5.7%）の順に高い。

図表 232 【保護者】Q56-8-1 利用したことはないが興味がある\_生活保護:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q56-8 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用したかったが制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

## 10. 子育て支援制度・相談機関の利用状況

### (1) 情報の受け取り方

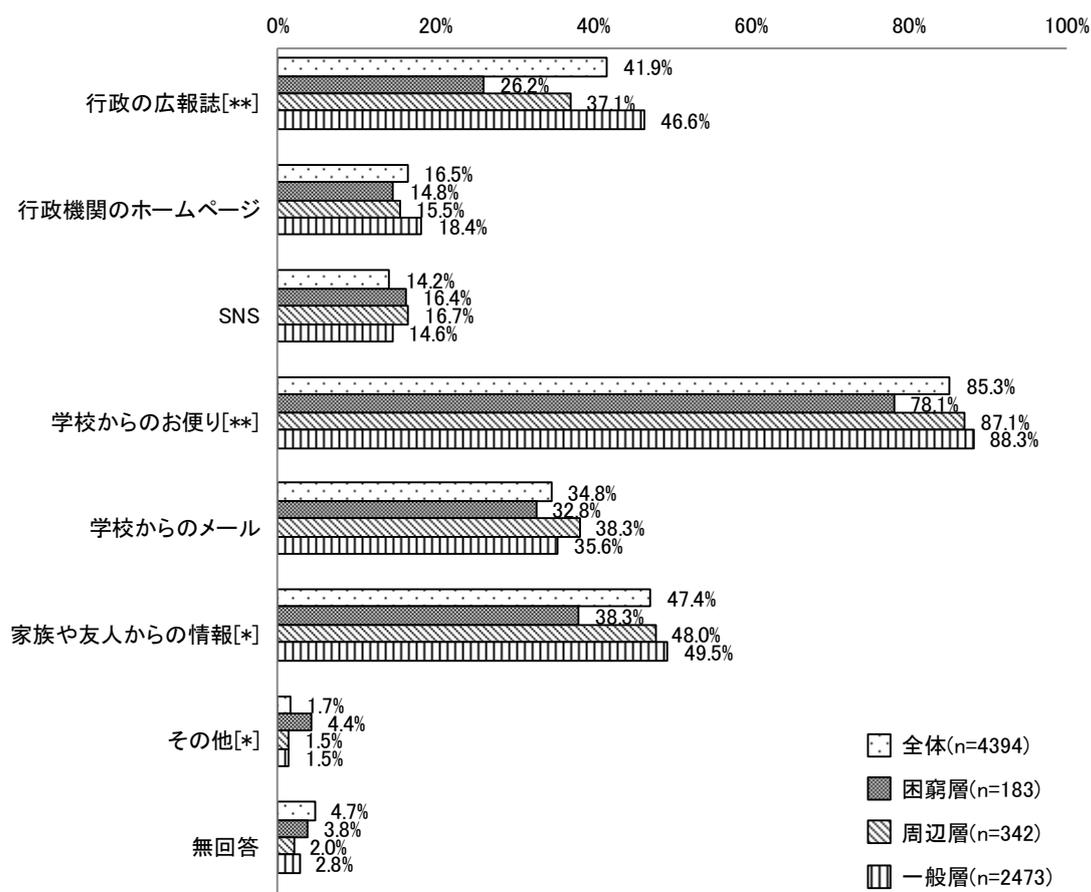
#### ①【保護者】Q54-1 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り方法\_現在

小学生保護者の「全体」では、「学校からのお便り」が85.3%でもっとも割合が高く、次いで「家族や友人からの情報」が47.4%となっている。生活困難度別にみると、「行政の広報誌」、「学校からのお便り」、「家族や友人からの情報」、「その他」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

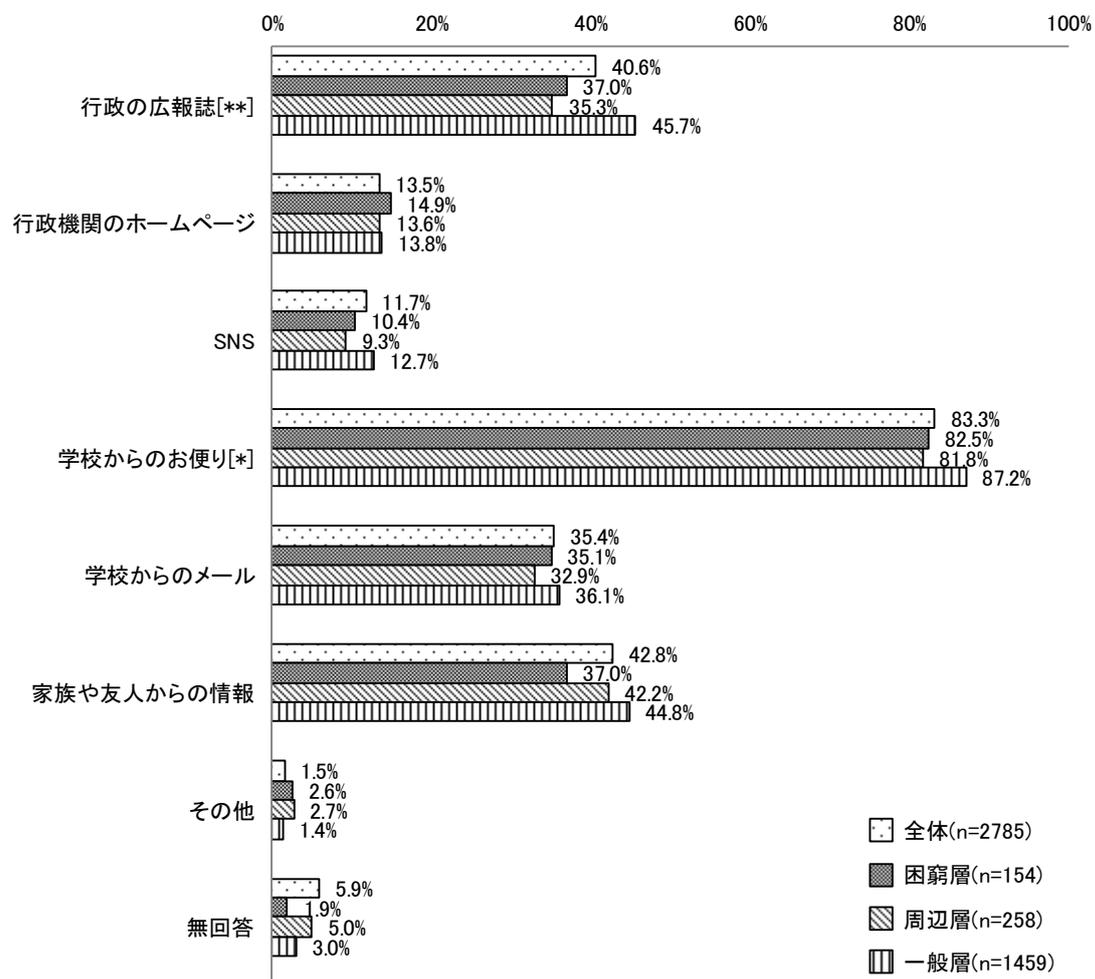
中学生保護者の「全体」では、「学校からのお便り」が83.3%でもっとも割合が高く、次いで「家族や友人からの情報」が42.8%となっている。生活困難度別にみると、「行政の広報誌」、「学校からのお便り」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 233 【保護者】Q54-1 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り方法\_現在:  
複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



<中学生保護者>



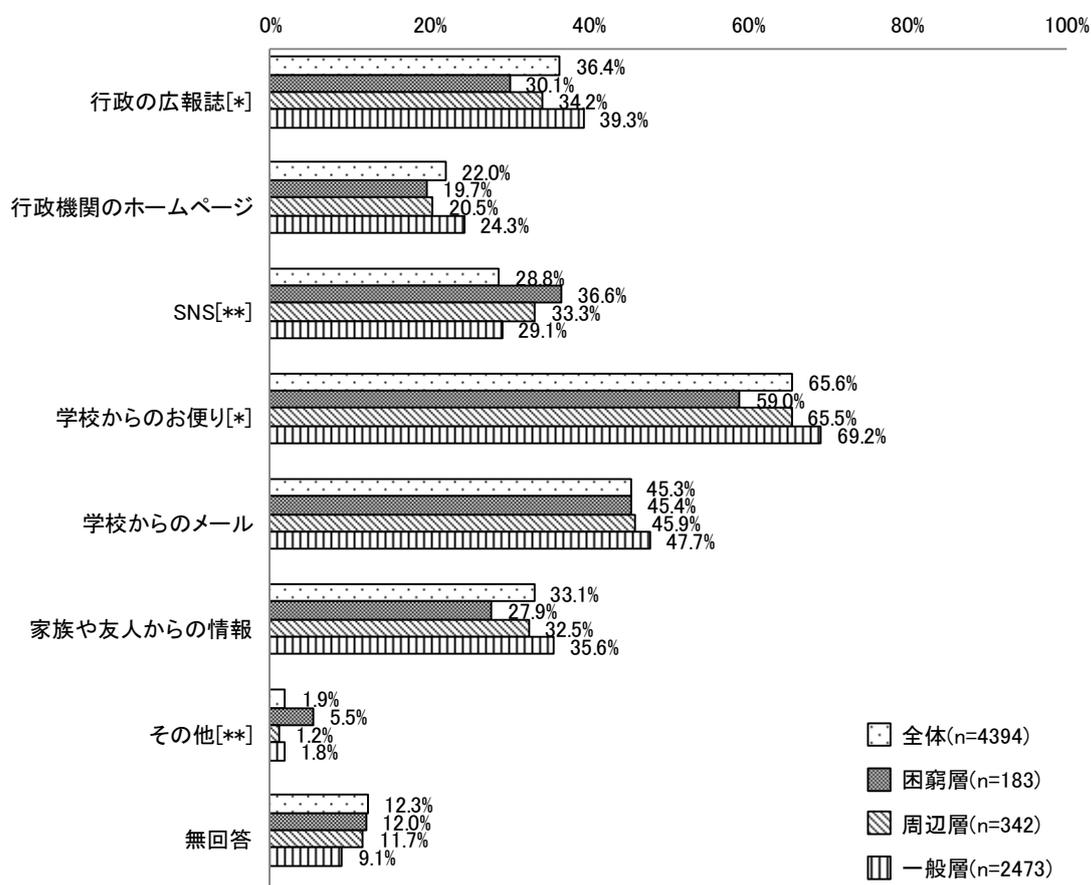
②【保護者】Q54-2 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り方法\_今後

小学生保護者の「全体」では、「学校からのお便り」が65.6%でもっとも割合が高く、次いで「学校からのメール」が45.3%となっている。生活困難度別にみると、「行政の広報誌」、「SNS」、「学校からのお便り」、「その他」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

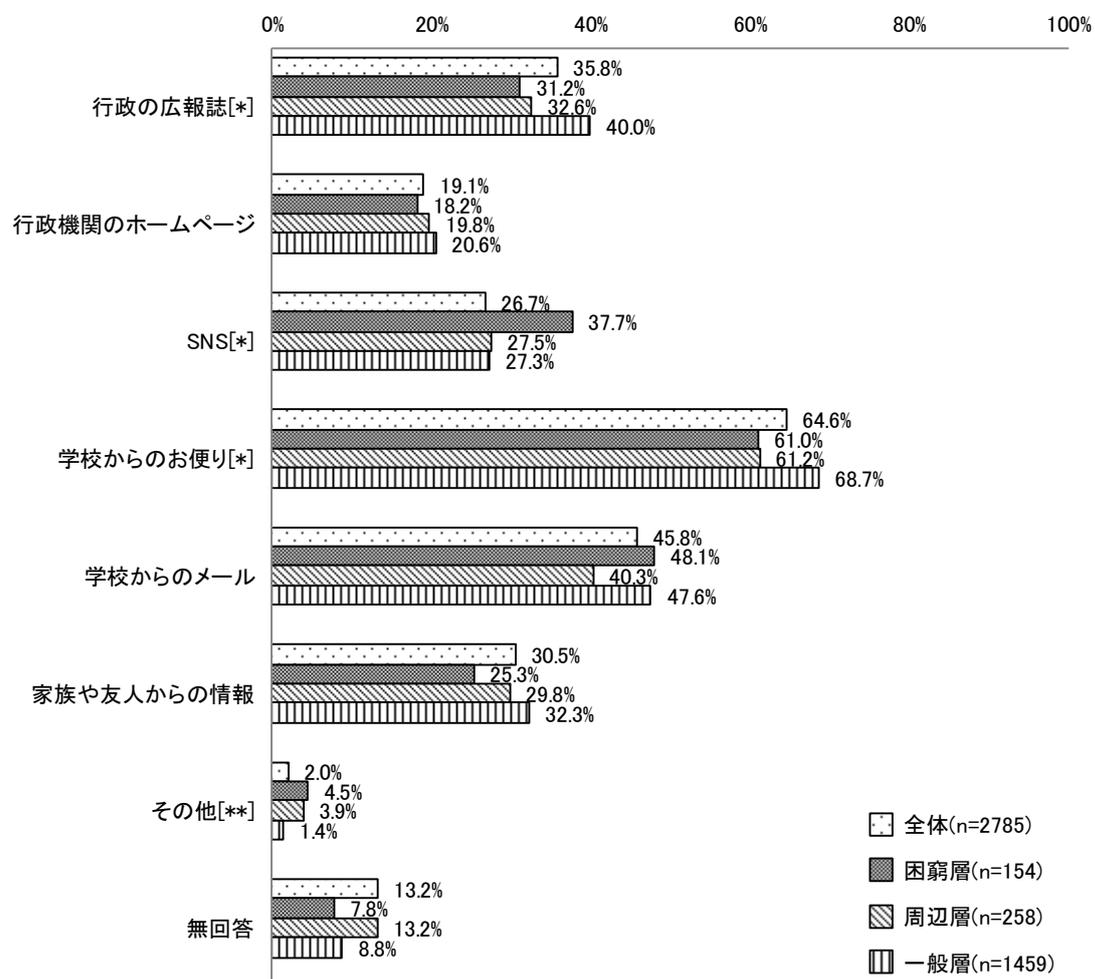
中学生保護者の「全体」では、「学校からのお便り」が64.6%でもっとも割合が高く、次いで「学校からのメール」が45.8%となっている。生活困難度別にみると、「行政の広報誌」、「SNS」、「学校からのお便り」、「その他」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 234 【保護者】Q54-2 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り方法\_今後：  
複数回答（生活困難度別）

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



## (2) 子育て支援制度の利用状況

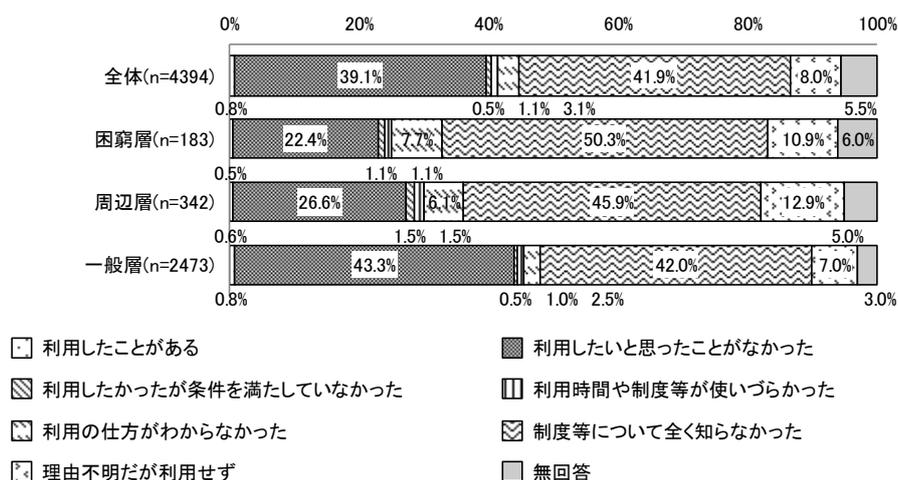
### ①【保護者】Q55-1 利用状況\_子育て短期支援事業

小学生保護者の「全体」では、「制度等について全く知らなかった」が41.9%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が39.1%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(43.3%)、周辺層(26.6%)、困窮層(22.4%)の順に高い。

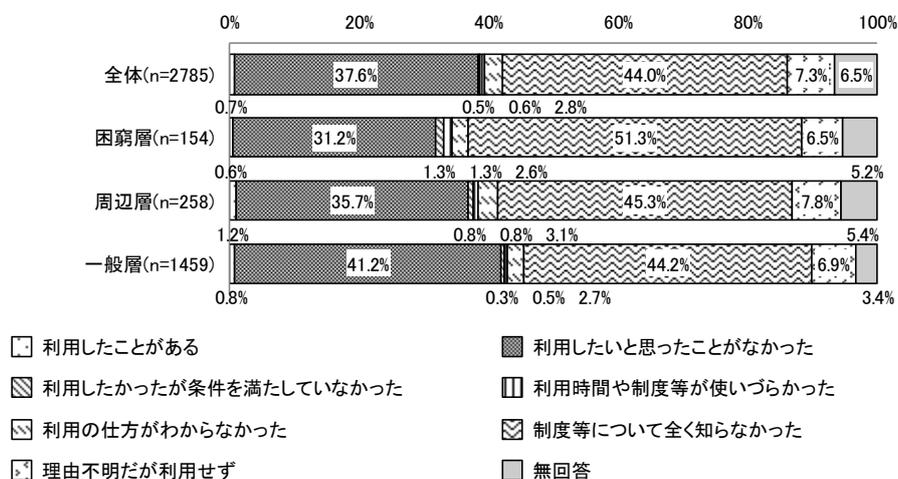
中学生保護者の「全体」では、「制度等について全く知らなかった」が44.0%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が37.6%となっている。生活困難度別にみると、統計的な有意差はみられない。

図表 235 【保護者】Q55-1 利用状況\_子育て短期支援事業:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



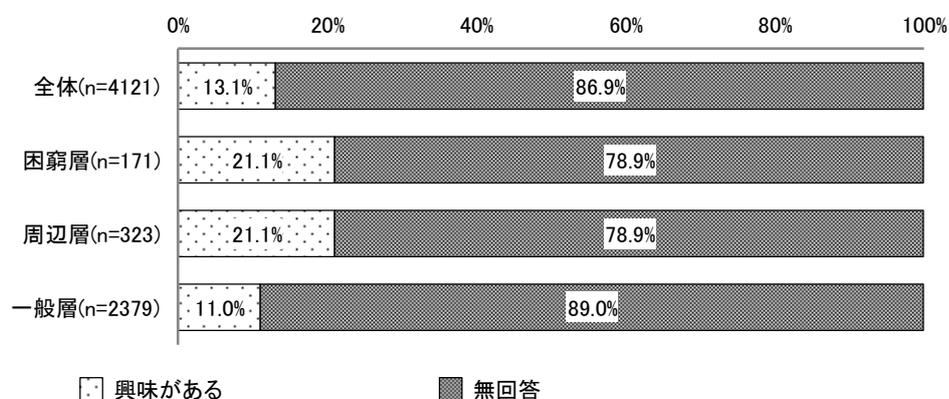
②【保護者】Q55-1-1 利用したことはないが興味がある\_子育て短期支援事業

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が13.1%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層および周辺層（21.1%）、一般層（11.0%）の順に高い。

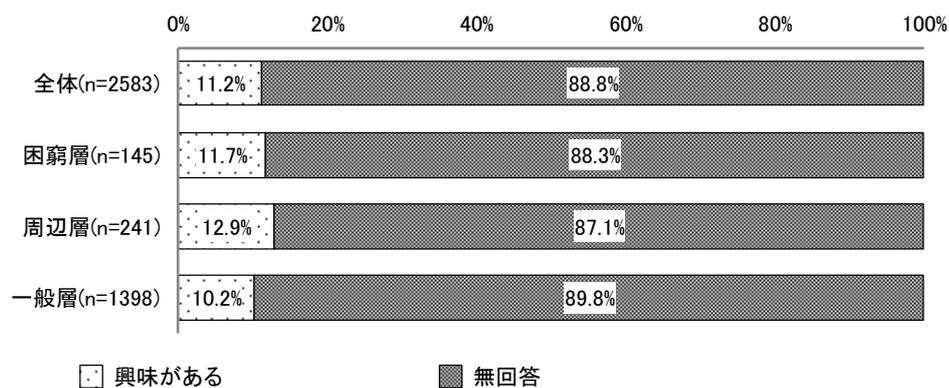
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が11.2%となっている。生活困難度別にみると、統計的な有意差はみられない。

図表 236 【保護者】Q55-1-1 利用したことはないが興味がある\_子育て短期支援事業：単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



※対象は Q55-1 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

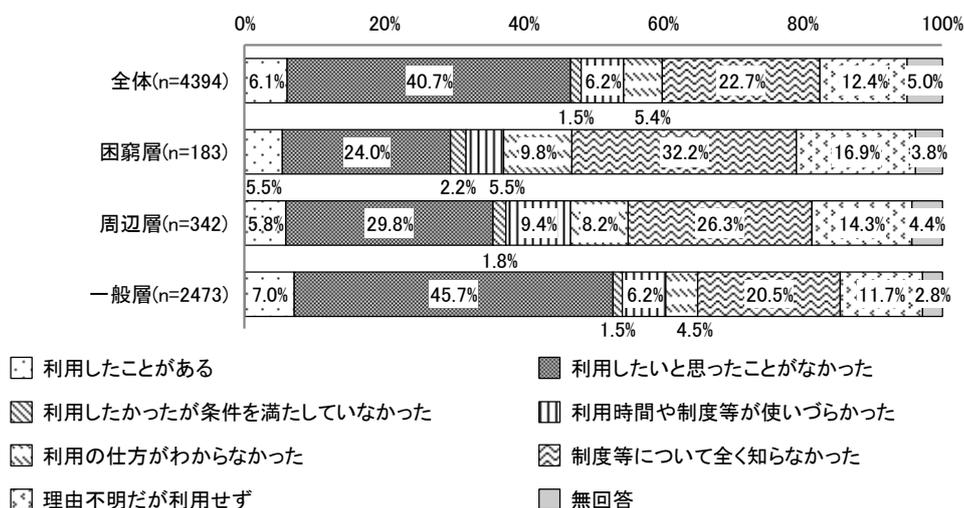
### ③【保護者】Q55-2 利用状況\_ファミリー・サポート・センター

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が40.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が22.7%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（45.7%）、周辺層（29.8%）、困窮層（24.0%）の順に高い。

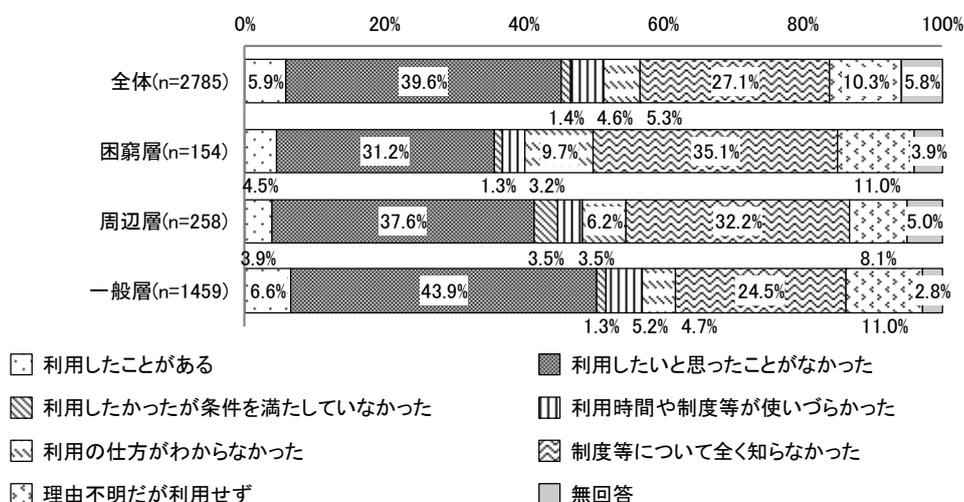
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が39.6%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が27.1%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（43.9%）、周辺層（37.6%）、困窮層（31.2%）の順に高い。

図表 237 【保護者】Q55-2 利用状況\_ファミリー・サポート・センター:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



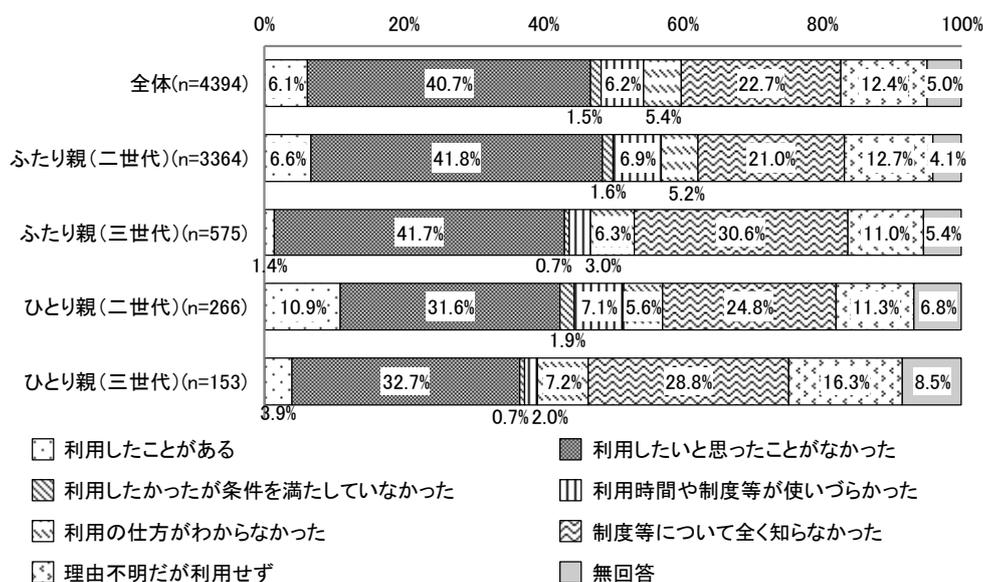
<中学生保護者> (p<.01)



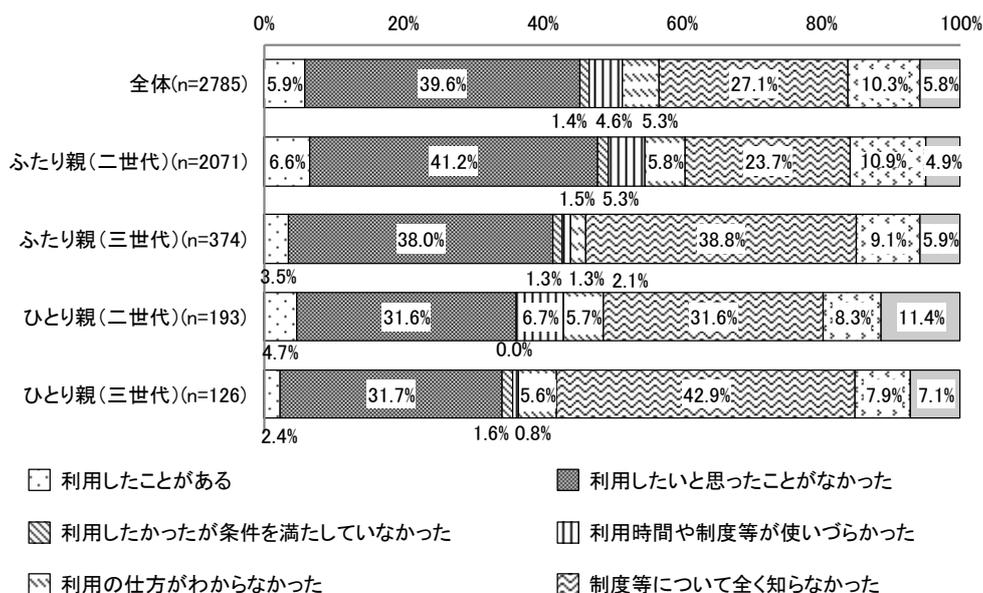
小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（41.8%）、ふたり親（三世帯）（41.7%）、ひとり親（三世帯）（32.7%）ひとり親（二世帯）（31.6%）の順に高い。

中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（41.2%）、ふたり親（三世帯）（38.0%）、ひとり親（三世帯）（31.7%）、ひとり親（二世帯）（31.6%）の順に高い。

図表 238 【保護者】Q55-2 利用状況\_ファミリー・サポート・センター:単数回答 (世帯タイプ別)  
 <小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



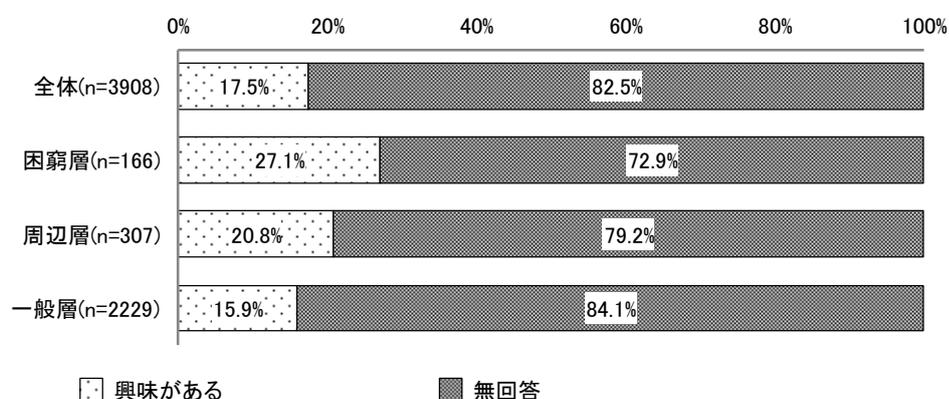
④【保護者】Q55-2-1 利用したことはないが興味がある\_ファミリー・サポート・センタ

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が17.5%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層(27.1%)、周辺層(20.8%)、一般層(15.9%)の順に高い。

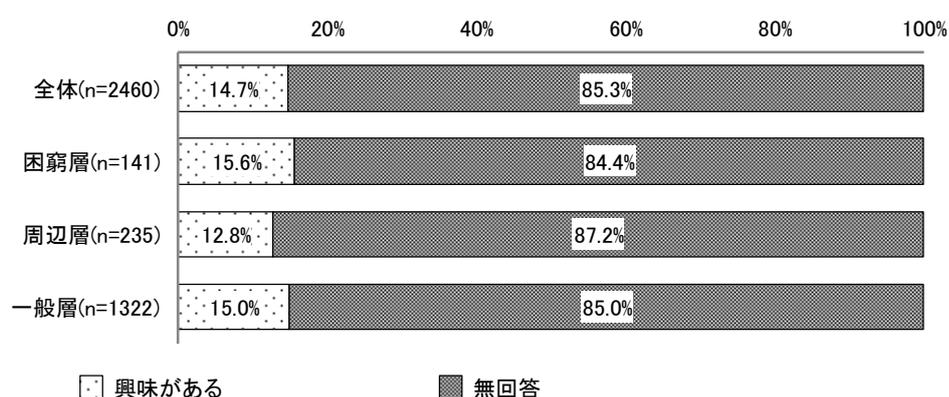
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が14.7%となっている。生活困難度別にみると、中学生保護者では統計的に有意な差はみられない。

図表 239 【保護者】Q55-2-1 利用したことはないが興味がある\_ファミリー・サポート・センター:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



※対象は Q55-2 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

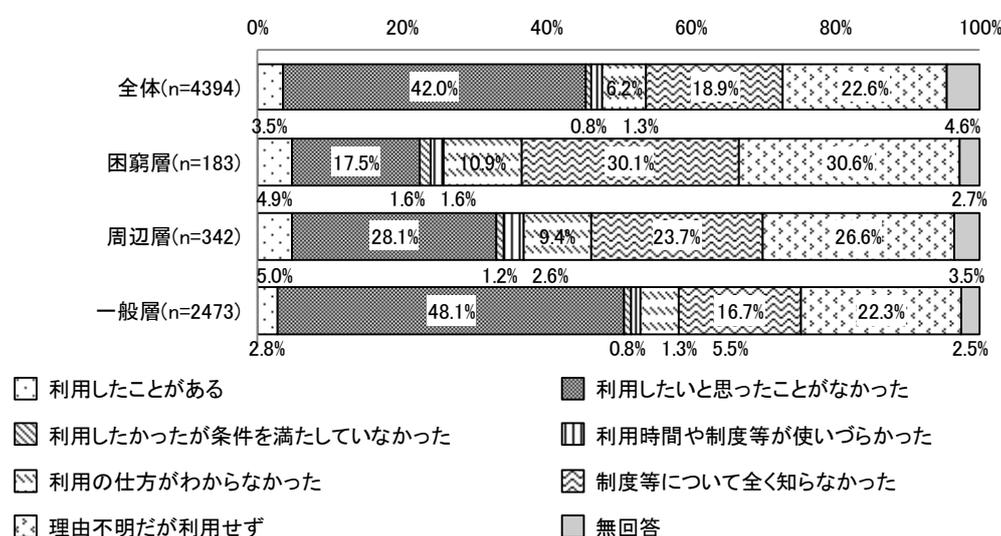
⑤【保護者】Q55-3 利用状況\_子ども食堂

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が42.0%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が22.6%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(48.1%)、周辺層(28.1%)、困窮層(17.5%)の順に高い。

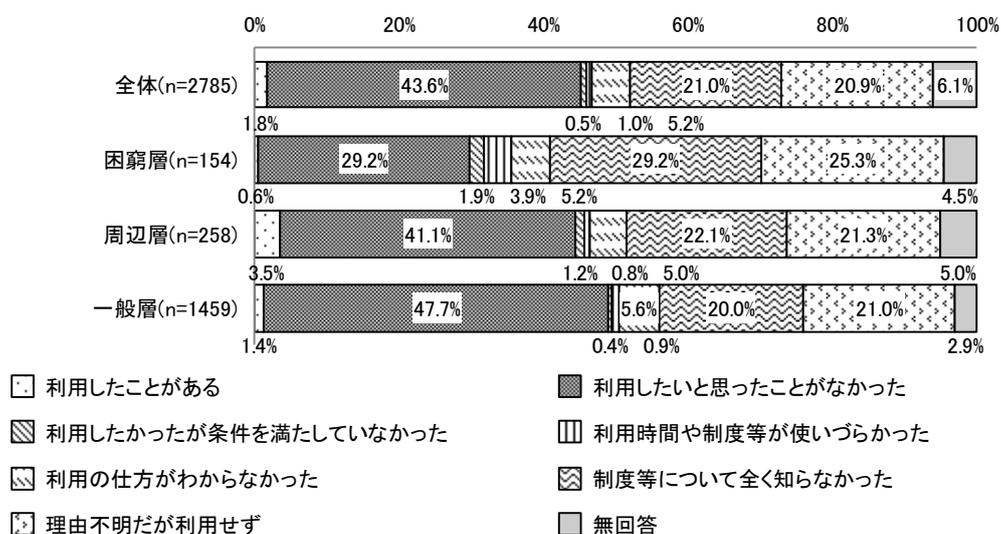
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が43.6%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が21.0%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(47.7%)、周辺層(41.1%)、困窮層(29.2%)の順に高い。

図表 240 【保護者】Q55-3 利用状況\_子ども食堂:単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

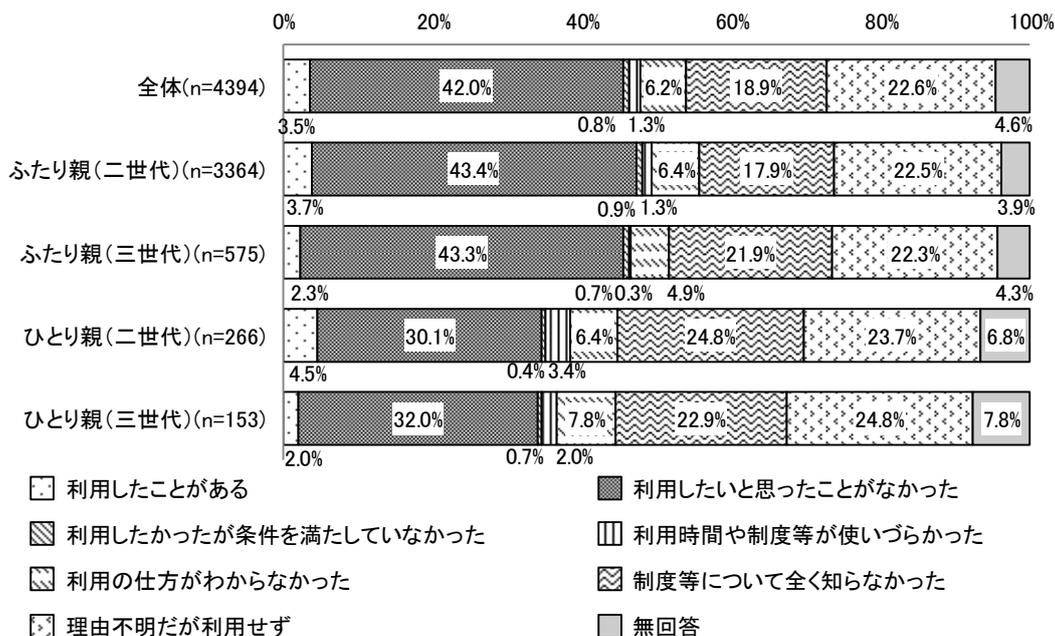


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（43.4%）、ふたり親（三世帯）（43.3%）、ひとり親（三世帯）（32.0%）ひとり親（二世帯）（30.1%）の順に高い。

中学生保護者では統計的に有意な差はみられない。

図表 241 【保護者】 Q55-3 利用状況\_子ども食堂:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



※中学生保護者は有意差なし

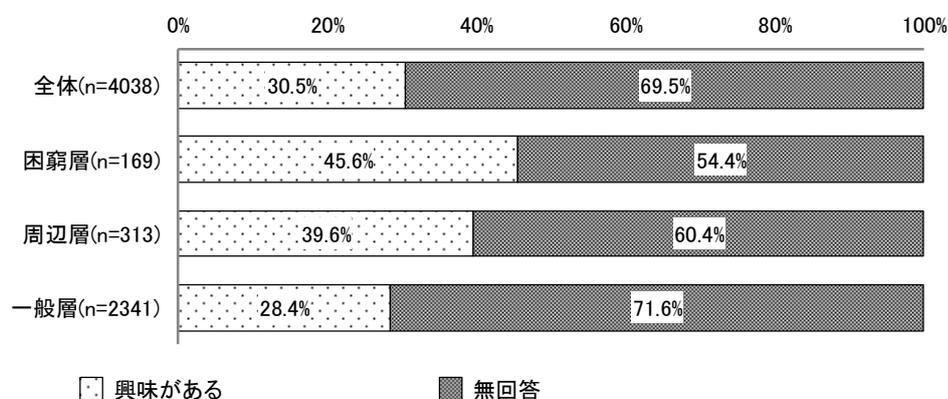
⑥【保護者】Q55-3-1 利用したことはないが興味がある\_子ども食堂

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が30.5%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層(45.6%)、周辺層(39.6%)、一般層(28.4%)の順に高い。

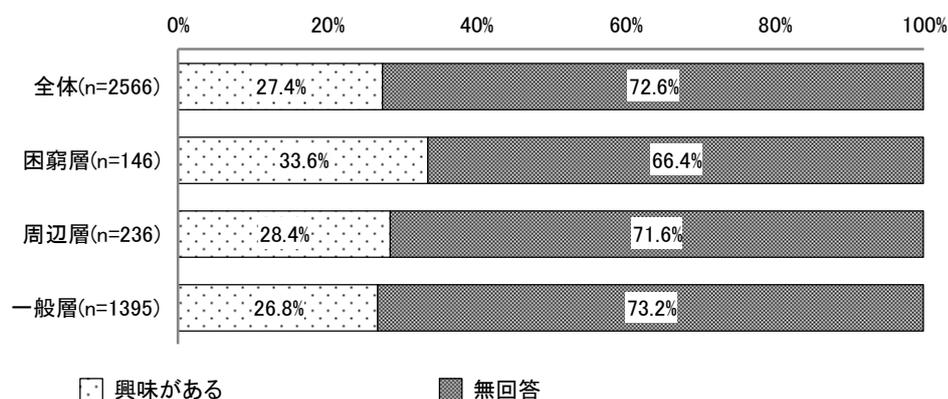
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が27.4%となっている。生活困難度別にみると、中学生保護者では統計的に有意な差はみられない。

図表 242 【保護者】Q55-3-1 利用したことはないが興味がある\_子ども食堂:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



※対象は Q55-3 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

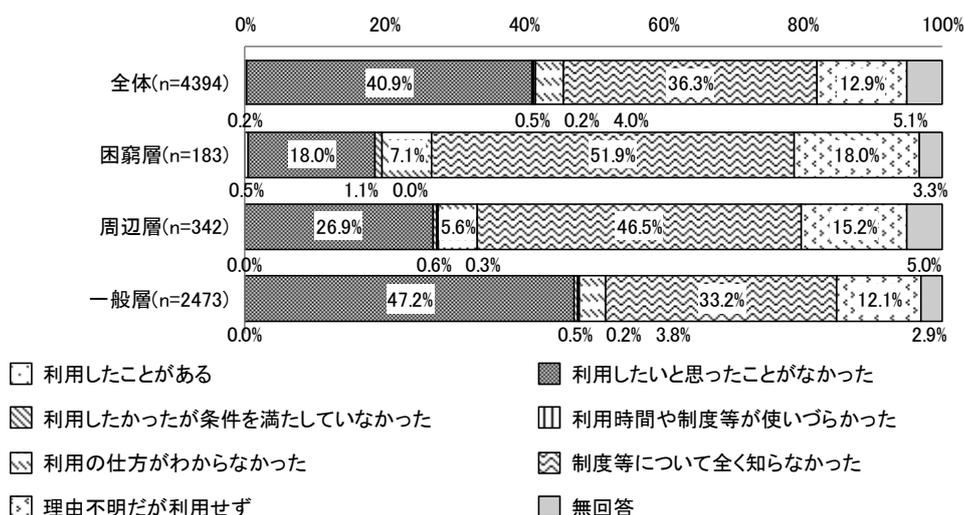
⑦【保護者】 Q55-4 利用状況\_フードバンクによる食料支援

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が40.9%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が36.3%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(47.2%)、周辺層(26.9%)、困窮層(18.0%)の順に高い。

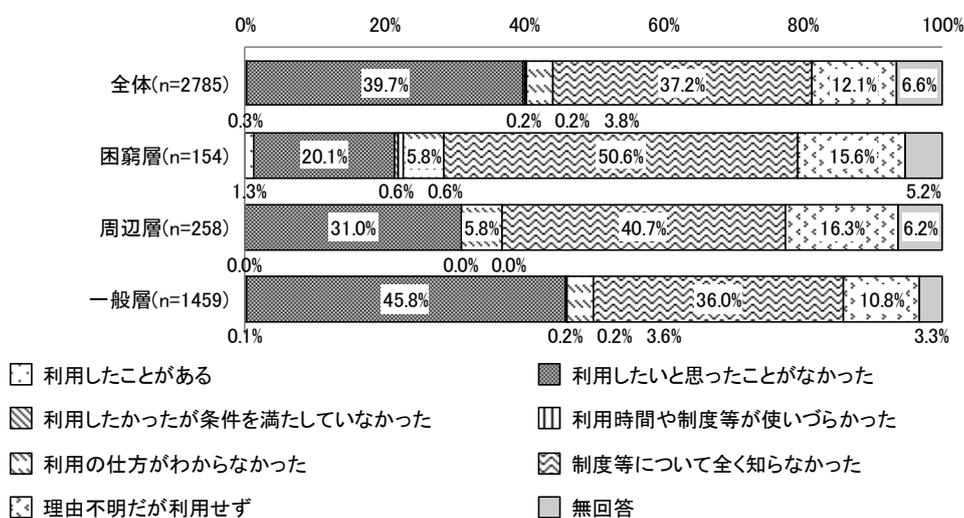
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が39.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が37.2%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(45.8%)、周辺層(31.0%)、困窮層(20.1%)の順に高い。

図表 243 【保護者】 Q55-4 利用状況\_フードバンクによる食料支援:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

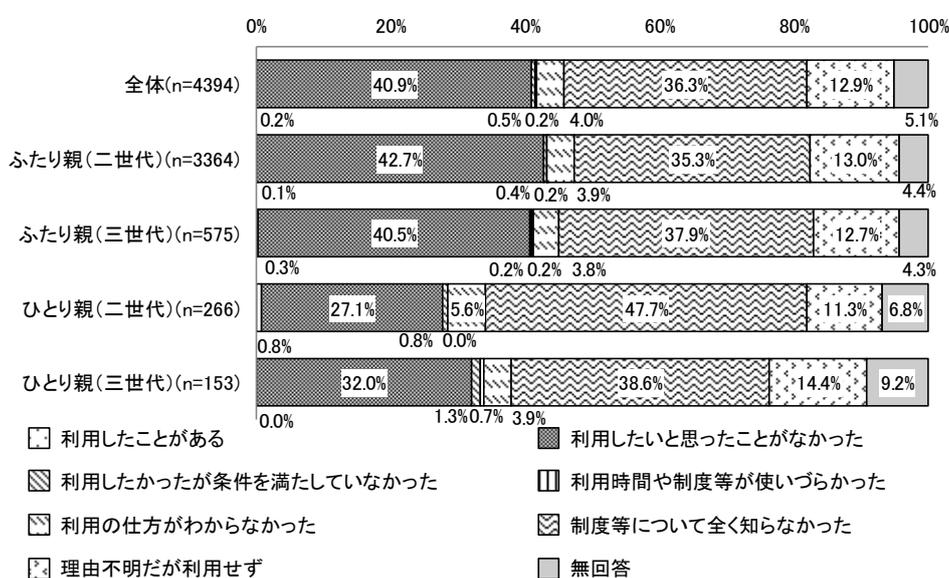


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（42.7%）、ふたり親（三世帯）（40.5%）、ひとり親（三世帯）（32.0%）ひとり親（二世帯）（27.1%）の順に高い。

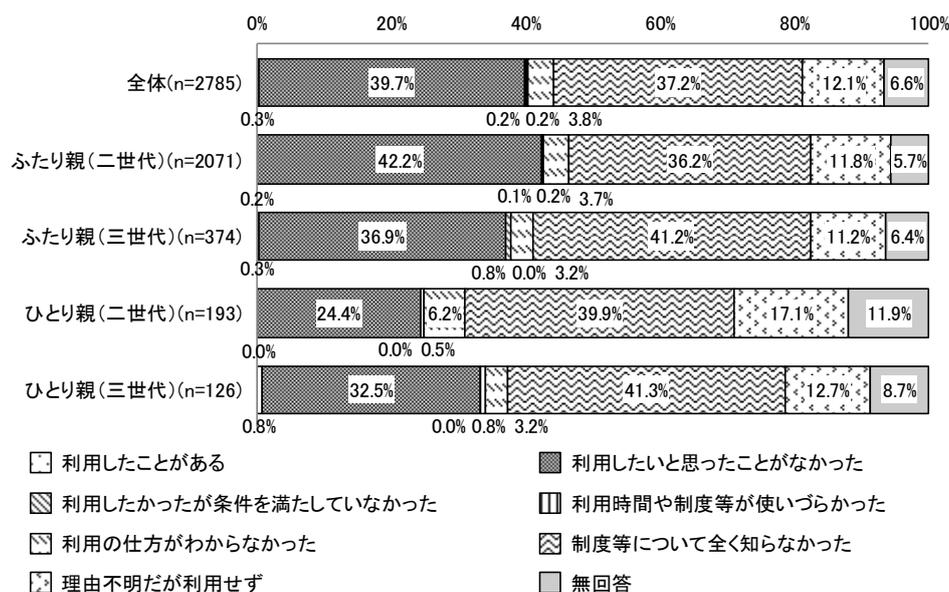
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（42.2%）、ふたり親（三世帯）（36.9%）、ひとり親（三世帯）（32.5%）ひとり親（二世帯）（24.4%）の順に高い。

図表 244 【保護者】 Q55-4 利用状況\_フードバンクによる食料支援:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



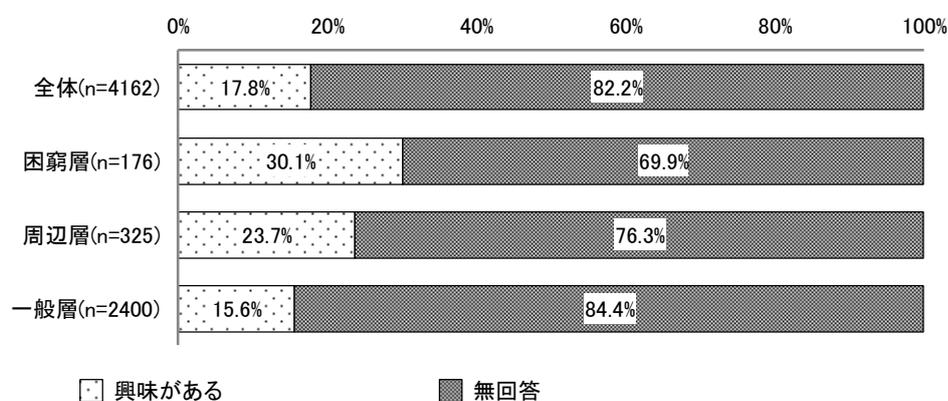
⑧【保護者】 Q55-4-1 利用したことはないが興味がある\_フードバンクによる食料支援

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が 17.8%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層 (30.1%)、周辺層 (23.7%)、一般層 (15.6%) の順に高い。

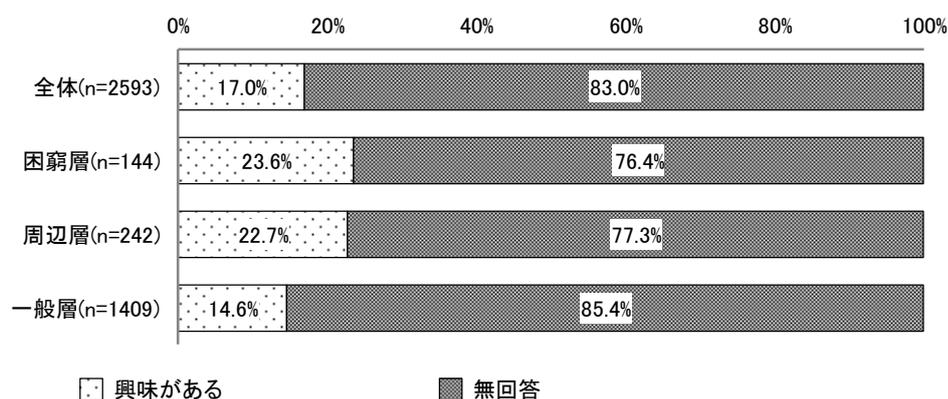
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が 17.0%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層 (23.6%)、周辺層 (22.7%)、一般層 (14.6%) の順に高い。

図表 245 【保護者】 Q55-4-1 利用したことはないが興味がある\_フードバンクによる食料支援:単数回答 (生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



※対象は Q55-4 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

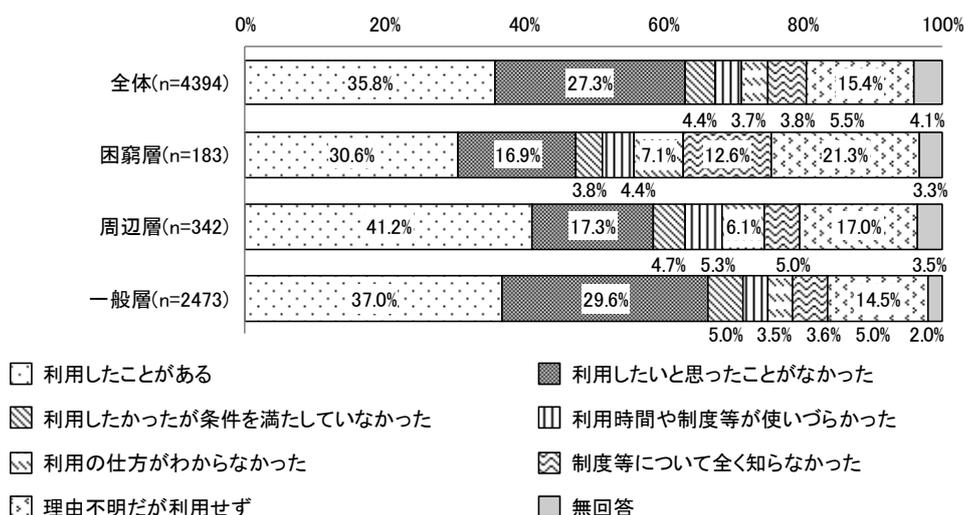
⑨【保護者】Q55-5 利用状況\_放課後に過ごせる居場所

小学生保護者の「全体」では、「利用したことがある」が 35.8%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が 27.3%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(29.6%)、周辺層(17.3%)、困窮層(16.9%)の順に高い。

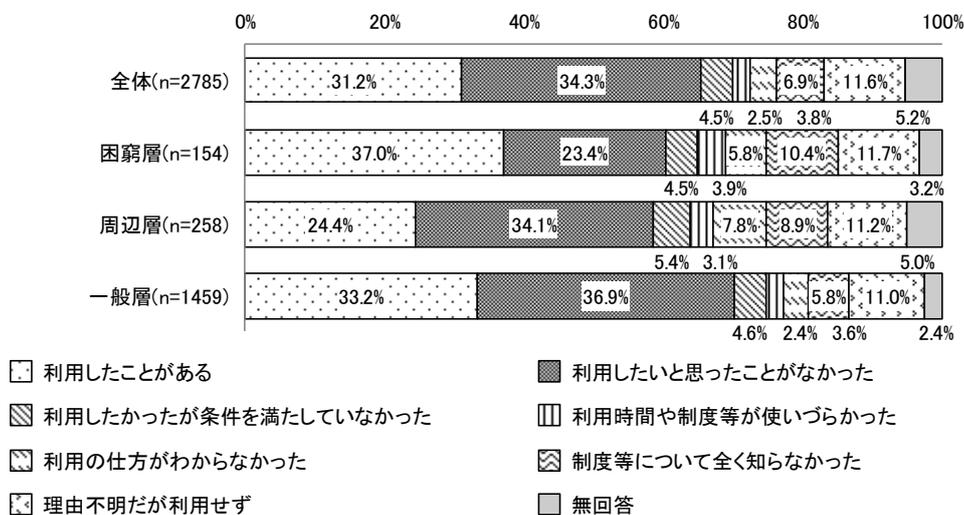
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 34.3%でもっとも割合が高く、次いで「利用したことがある」が 31.2%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(36.9%)、周辺層(34.1%)、困窮層(23.4%)の順に高い。

図表 246 【保護者】Q55-5 利用状況\_放課後に過ごせる居場所:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

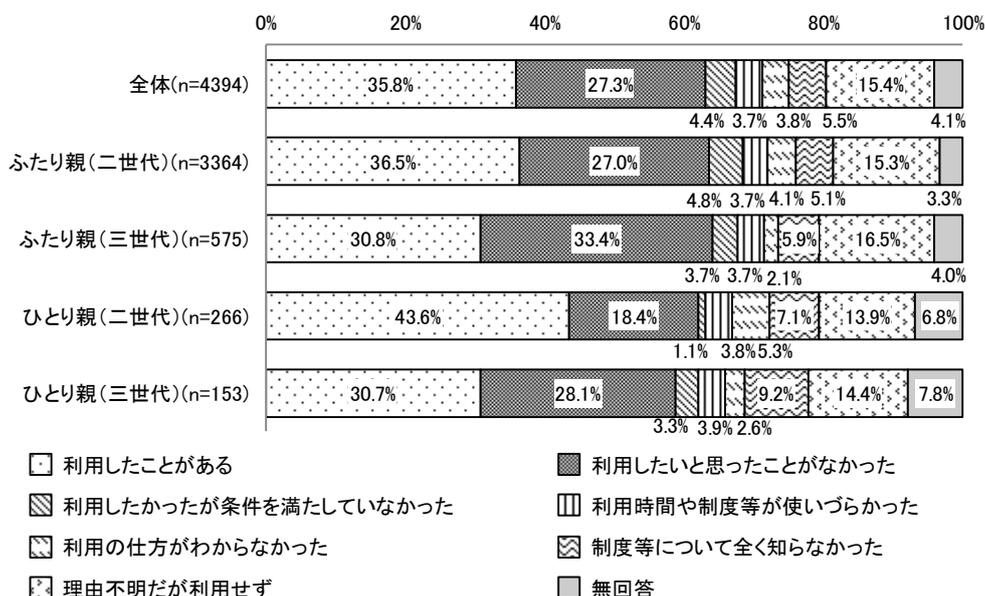


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（33.4%）、ひとり親（三世代）（28.1%）、ふたり親（二世代）（27.0%）ひとり親（二世代）（18.4%）の順に高い。

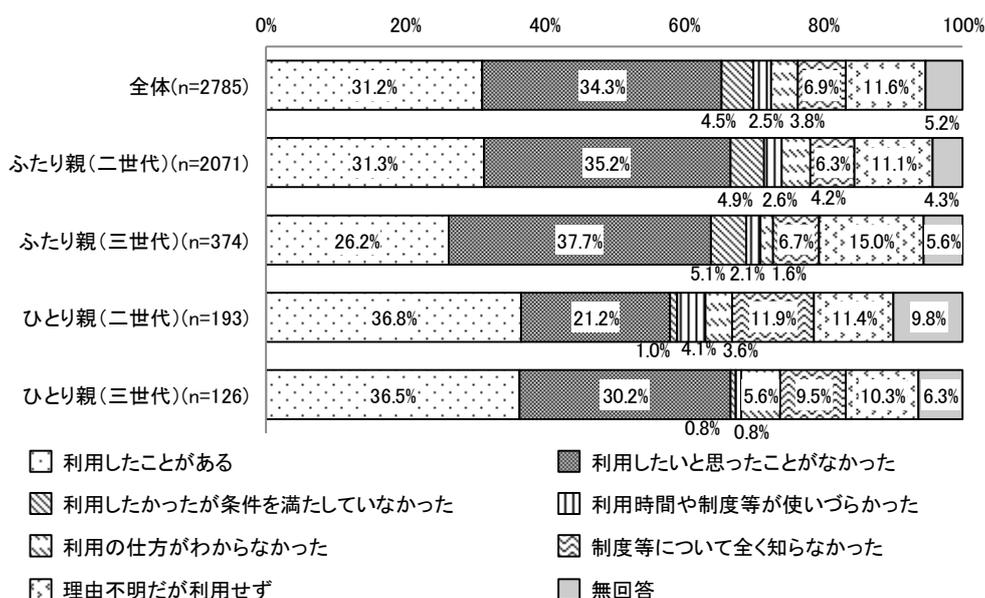
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（37.7%）、ふたり親（二世代）（35.2%）、ひとり親（三世代）（30.2%）ひとり親（二世代）（21.2%）の順に高い。

図表 247 【保護者】 Q55-5 利用状況\_放課後に過ごせる居場所:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



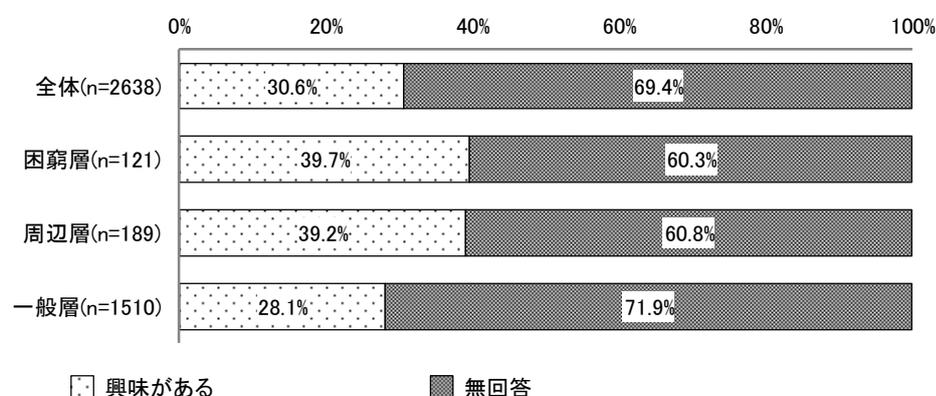
⑩【保護者】Q55-5-1 利用したことはないが興味がある\_放課後に過ごせる居場所

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が30.6%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層(39.7%)、周辺層(39.2%)、一般層(28.1%)の順に高い。

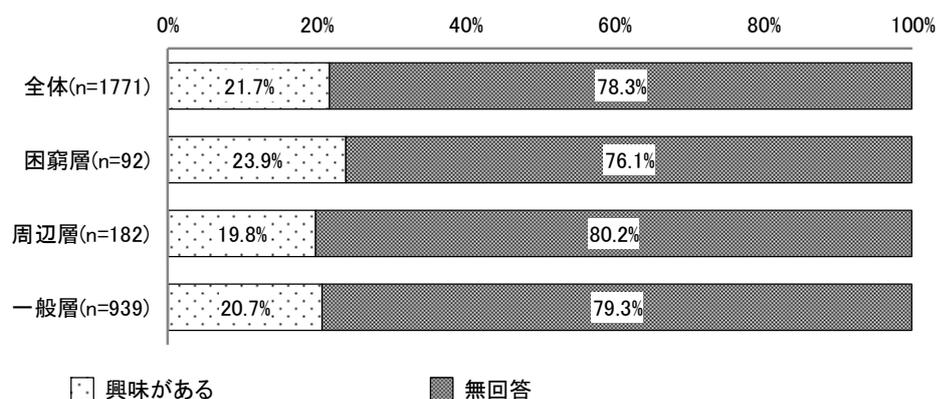
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が21.7%となっている。生活困難度別にみると、中学生保護者では統計的に有意な差はみられない。

図表 248 【保護者】Q55-5-1 利用したことはないが興味がある\_放課後に過ごせる居場所:単数回答(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



※対象は Q55-5 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

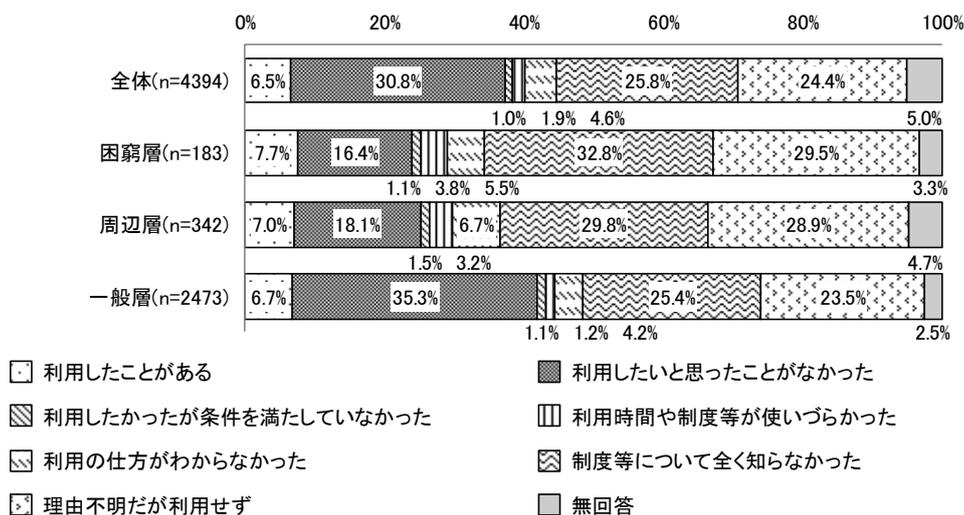
⑪【保護者】Q55-6 利用状況\_学校以外が実施する学習支援

小学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が30.8%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が25.8%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(35.3%)、周辺層(18.1%)、困窮層(16.4%)の順に高い。

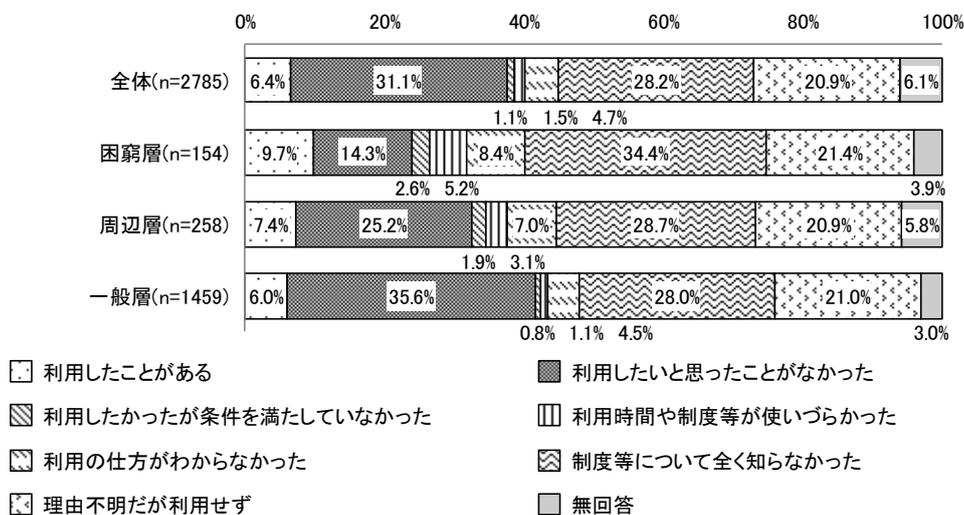
中学生保護者の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が31.1%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が28.2%となっている。生活困難度別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(35.6%)、周辺層(25.2%)、困窮層(14.3%)の順に高い。

図表 249 【保護者】Q55-6 利用状況\_学校以外が実施する学習支援:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

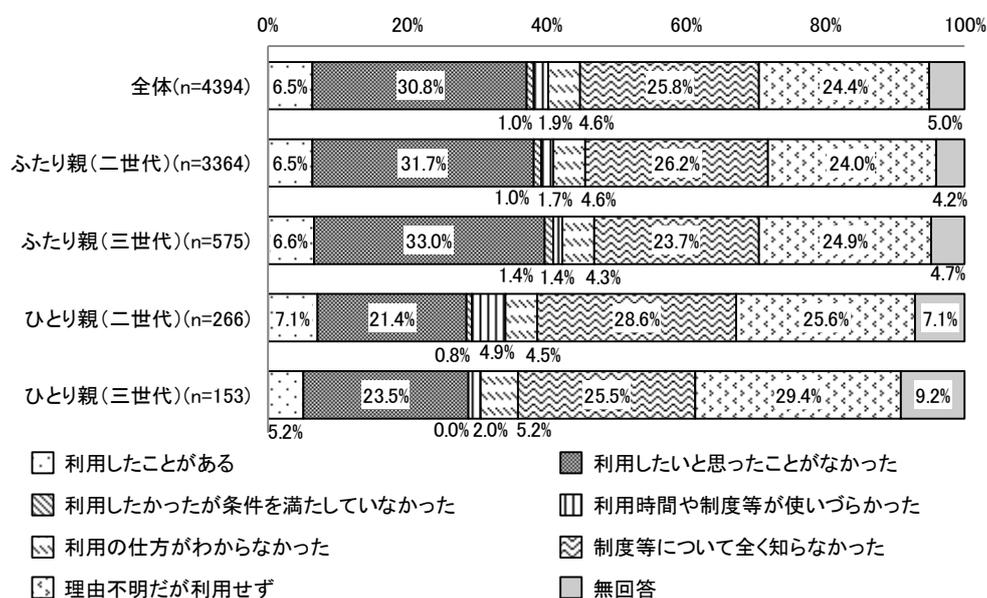


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（33.0%）、ふたり親（二世帯）（31.7%）、ひとり親（三世代）（23.5%）ひとり親（二世帯）（21.4%）の順に高い。

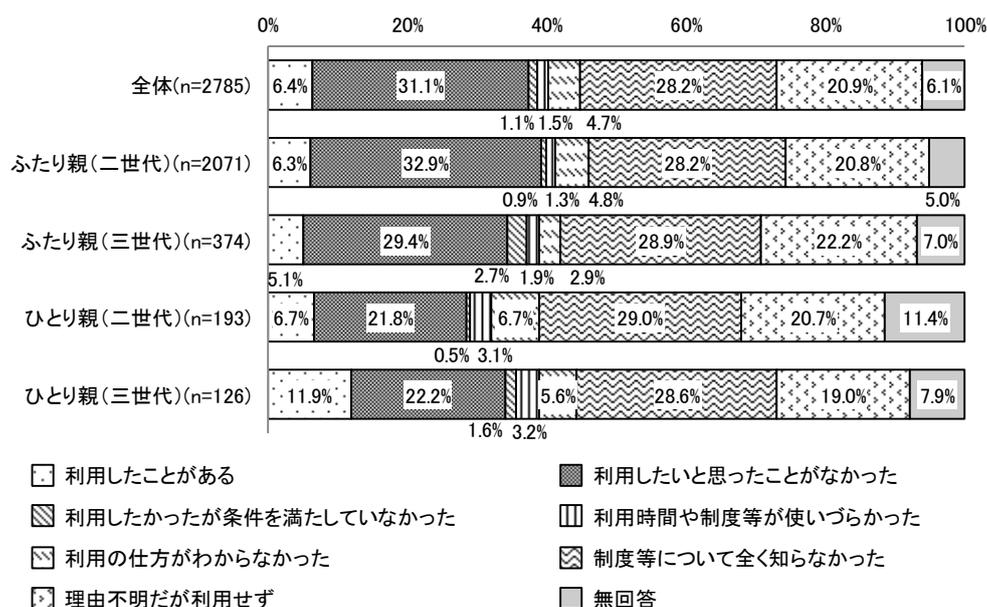
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「利用したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（32.9%）、ふたり親（三世代）（29.4%）、ひとり親（三世代）（22.2%）ひとり親（二世帯）（21.8%）の順に高い。

図表 250 【保護者】 Q55-6 利用状況\_学校以外が実施する学習支援:単数回答 (世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.05)



<中学生保護者> (p<.01)



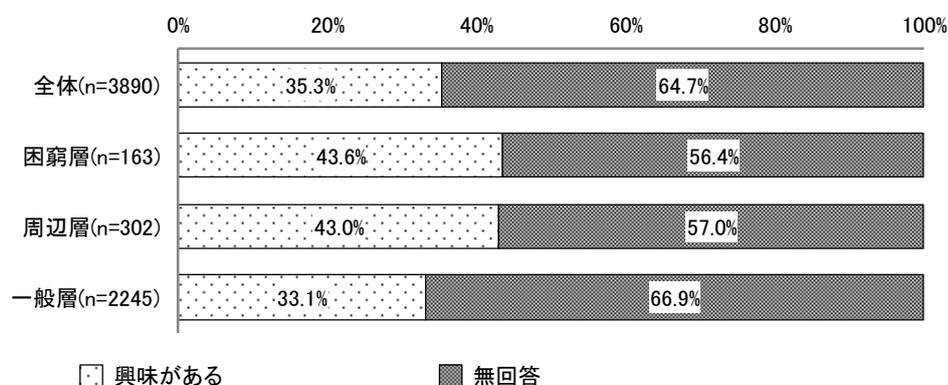
⑫【保護者】 Q55-6-1 利用したことはないが興味がある\_学校以外が実施する学習支援

小学生保護者の「全体」では、「興味がある」が 35.3%となっている。生活困難度別にみると、「興味がある」の割合は、困窮層（43.6%）、周辺層（43.0%）、一般層（33.1%）の順に高い。

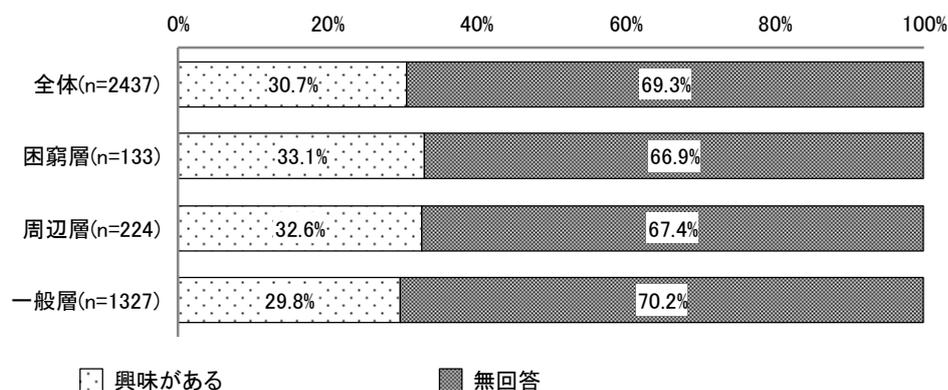
中学生保護者の「全体」では、「興味がある」が 30.7%となっている。生活困難度別にみると、中学生保護者では統計的に有意な差はみられない。

図表 251 【保護者】 Q55-6-1 利用したことはないが興味がある\_学校以外が実施する学習支援:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (有意差なし)



※対象は Q55-6 で「利用したいと思ったことがなかった」「利用したかったが条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」「理由不明だが利用せず」を興味がある者

### (3) 相談機関の利用状況

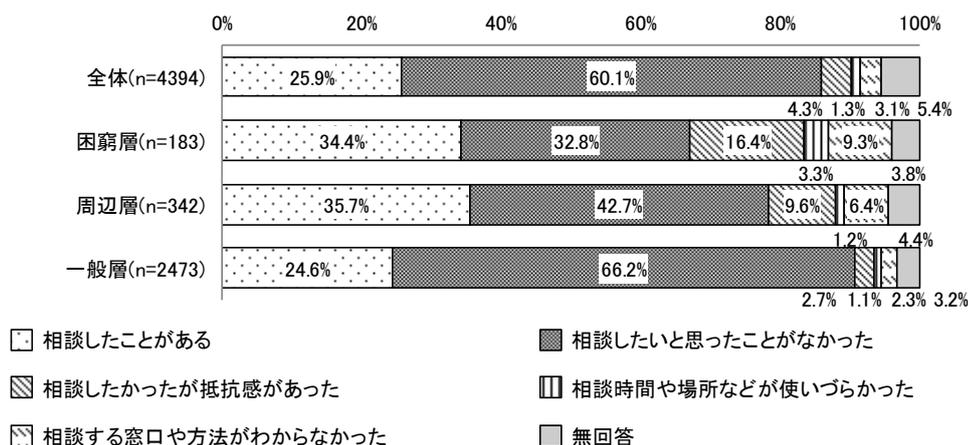
#### ①【保護者】Q57-1 相談経験\_市役所、町村役場の窓口

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が60.1%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が25.9%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(66.2%)、周辺層(42.7%)、困窮層(32.8%)の順に高い。

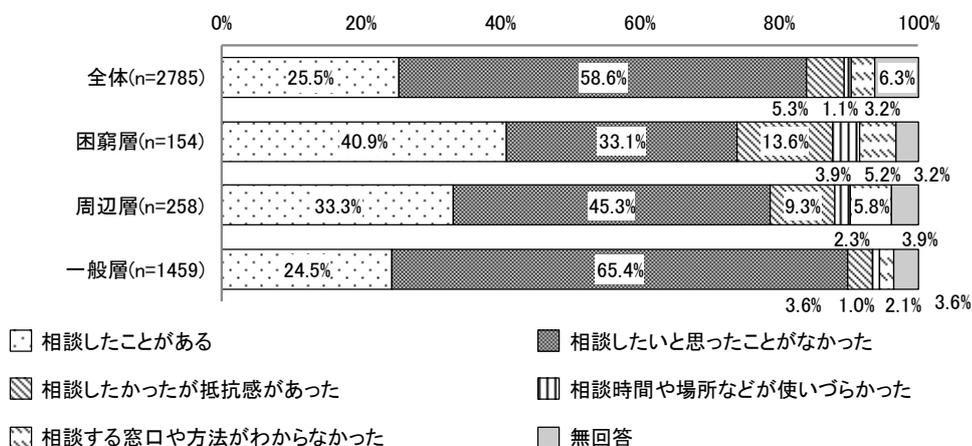
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が58.6%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が25.5%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(65.4%)、周辺層(45.3%)、困窮層(33.1%)の順に高い。

図表 252 【保護者】Q57-1 相談経験\_市役所、町村役場の窓口:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

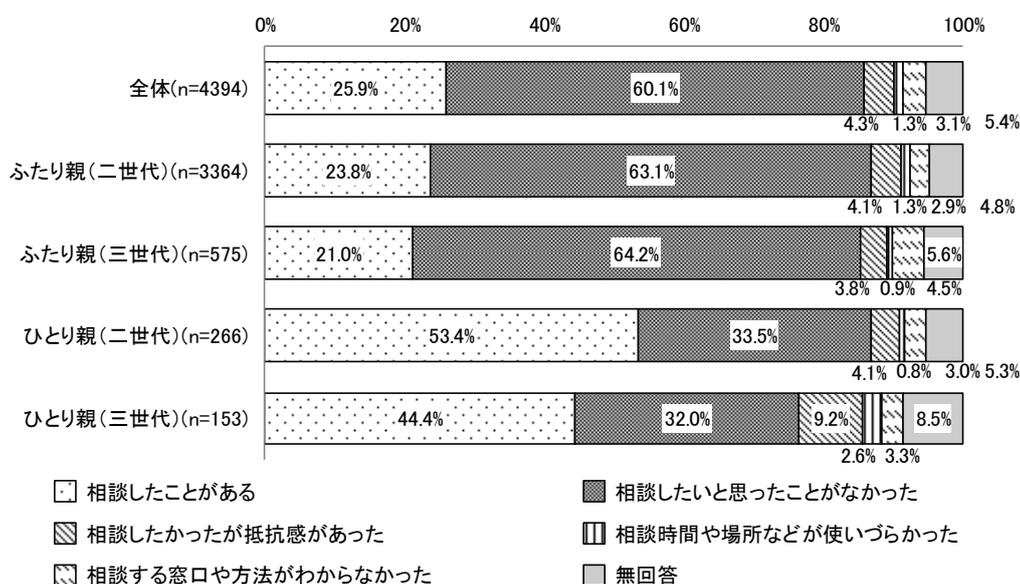


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（64.2%）、ふたり親（二世帯）（63.1%）、ひとり親（二世帯）（33.5%）ひとり親（三世代）（32.0%）の順に高い。

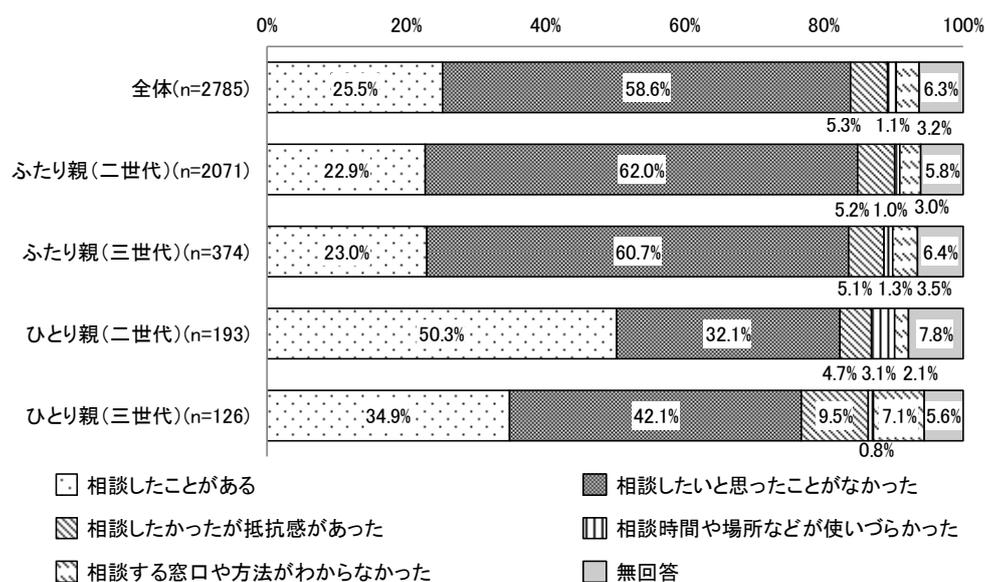
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（62.0%）、ふたり親（三世代）（60.7%）、ひとり親（三世代）（42.1%）ひとり親（二世帯）（32.1%）の順に高い。

図表 253 【保護者】Q57-1 相談経験\_市役所、町村役場の窓口:単数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



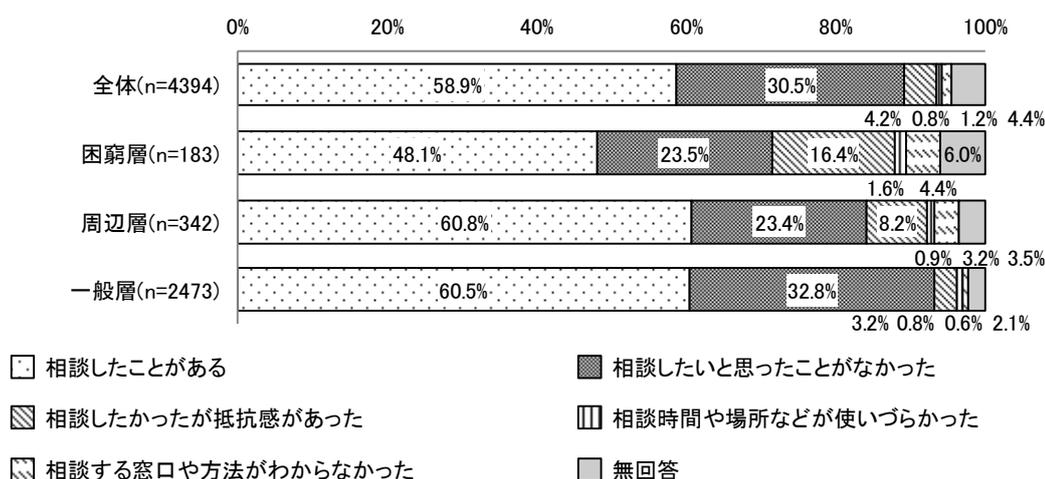
②【保護者】Q57-2 相談経験\_学校・保育所・幼稚園の先生

小学生保護者の「全体」では、「相談したことがある」が 58.9%でもっとも割合が高く、次いで「相談したいと思ったことがなかった」が 30.5%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(32.8%)、困窮層(23.5%)、周辺層(23.4%)の順に高い。

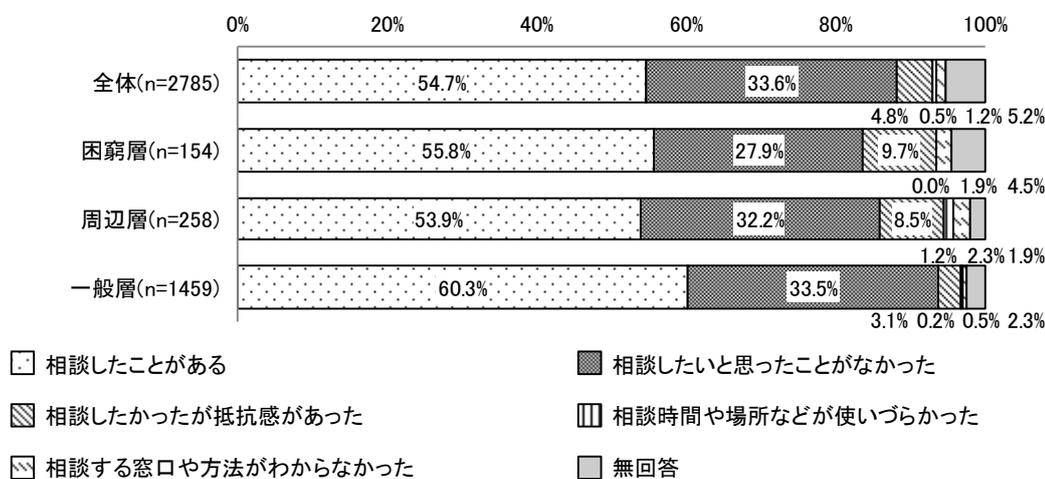
中学生保護者の「全体」では、「相談したことがある」が 54.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談したいと思ったことがなかった」が 33.6%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層(33.5%)、周辺層(32.2%)、困窮層(27.9%)の順に高い

図表 254 【保護者】Q57-2 相談経験\_学校・保育所・幼稚園の先生:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

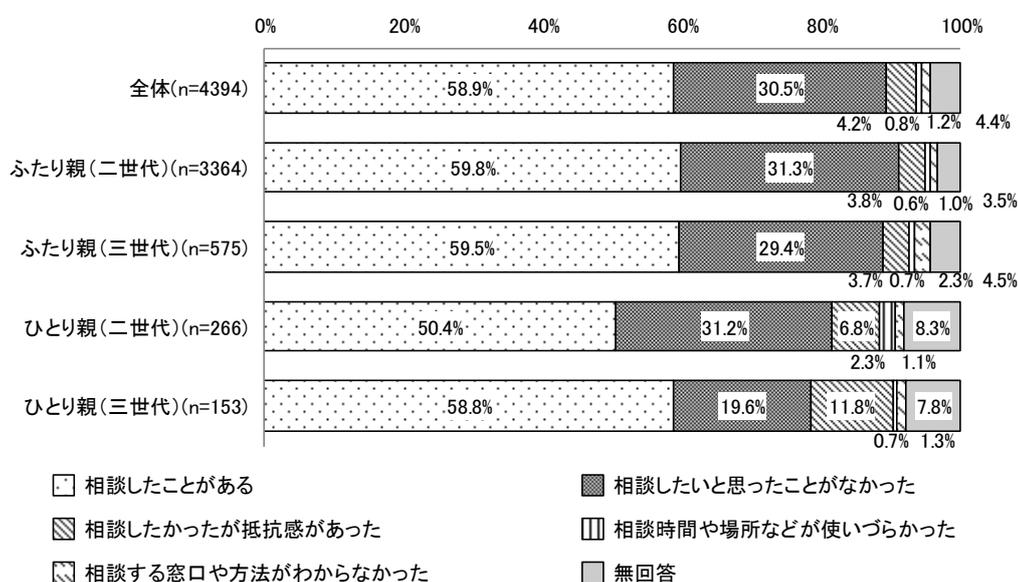


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したことがある」の割合は、ふたり親（二世帯）（59.8%）、ふたり親（三世帯）（59.5%）、ひとり親（三世帯）（58.8%）、ひとり親（二世帯）（50.4%）の順に高い。

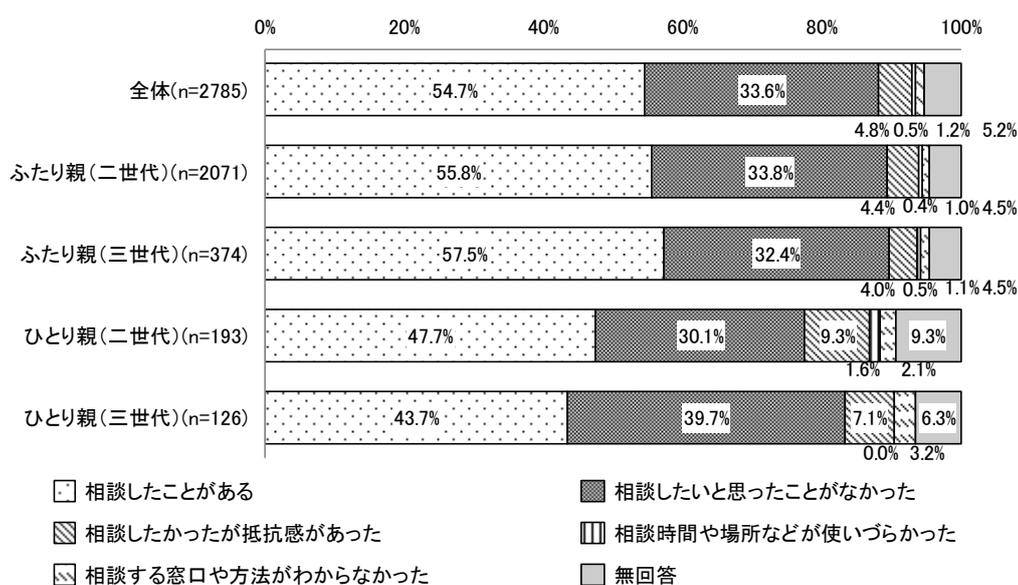
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したことがある」の割合は、ふたり親（三世帯）（57.5%）、ふたり親（二世帯）（55.8%）、ひとり親（二世帯）（47.7%）、ひとり親（三世帯）（43.7%）の順に高い。

図表 255 【保護者】Q57-2 相談経験\_学校・保育所・幼稚園の先生:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



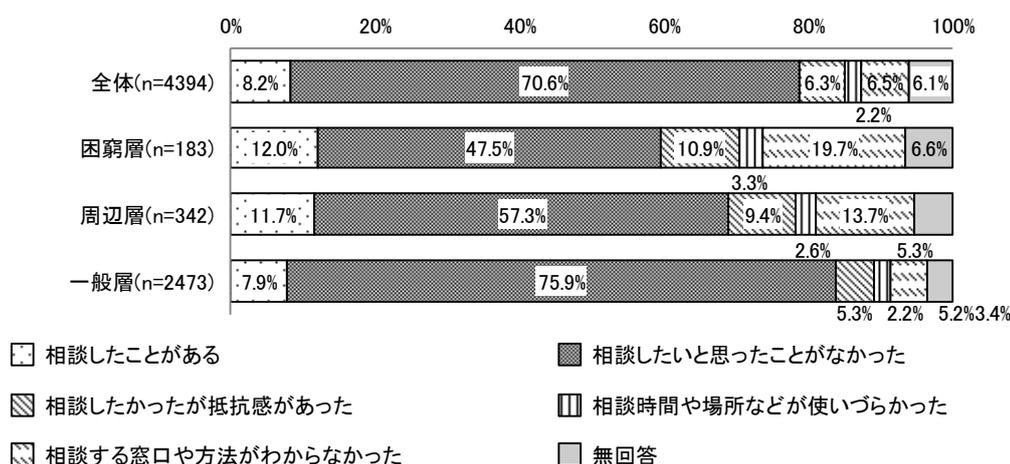
③【保護者】Q57-3 相談経験\_スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が70.6%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が8.2%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（75.9%）、周辺層（57.3%）、困窮層（47.5%）の順に高い。

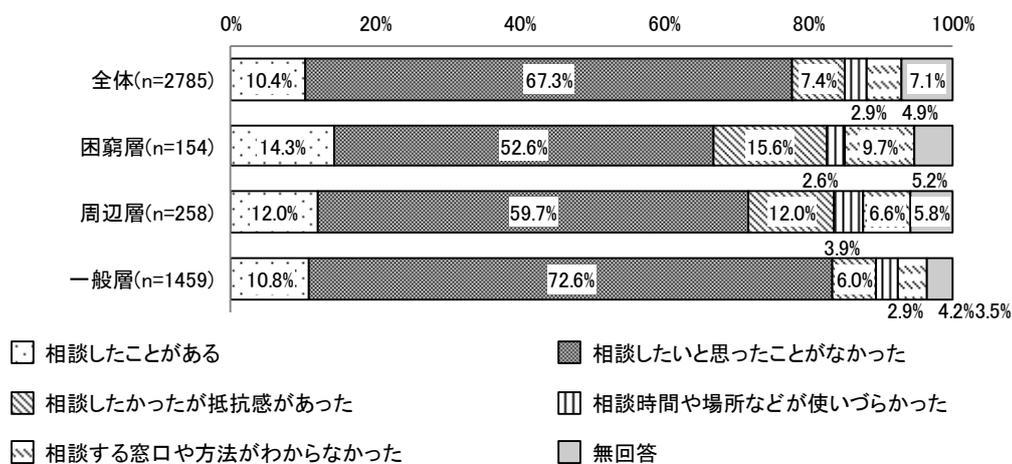
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が67.3%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が10.4%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（72.6%）、周辺層（59.7%）、困窮層（52.6%）の順に高い。

図表 256 【保護者】Q57-3 相談経験\_スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

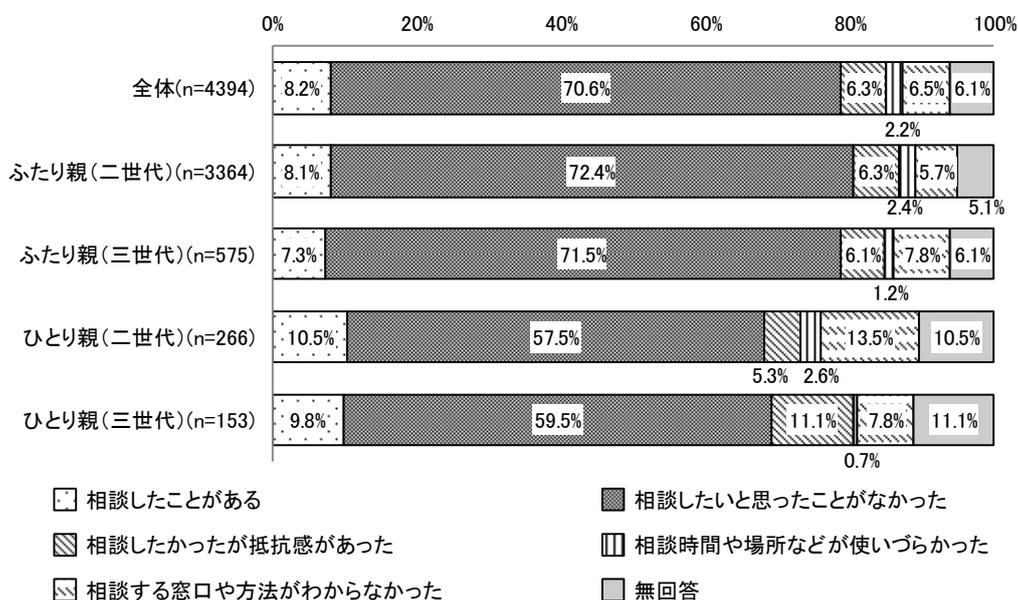


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（72.4%）、ふたり親（三世帯）（71.5%）、ひとり親（三世帯）（59.5%）ひとり親（二世帯）（57.5%）の順に高い。

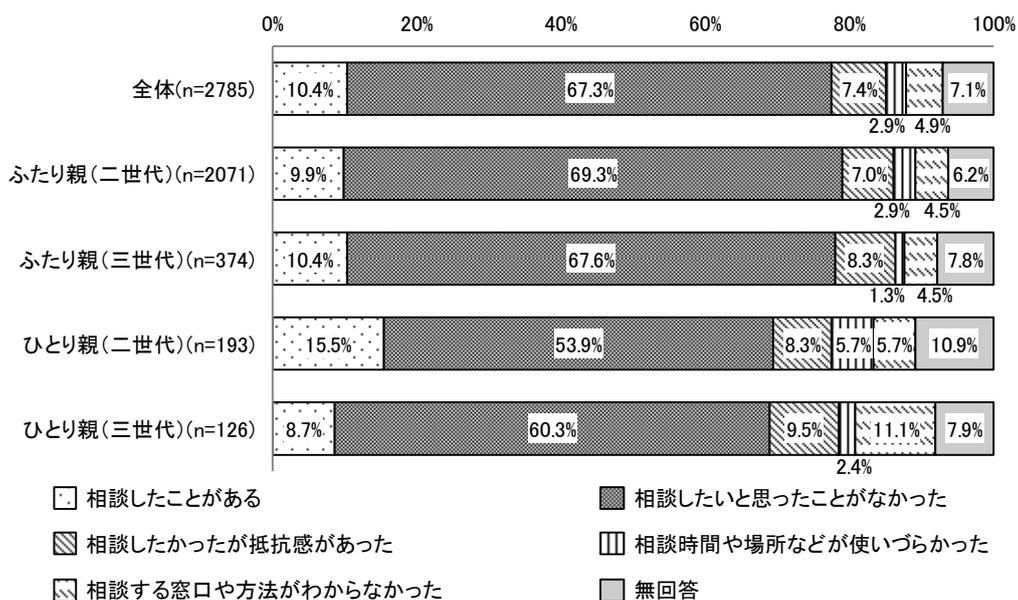
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（69.3%）、ふたり親（三世帯）（67.6%）、ひとり親（三世帯）（60.3%）、ひとり親（二世帯）（53.9%）の順に高い。

図表 257 【保護者】Q57-3 相談経験\_スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



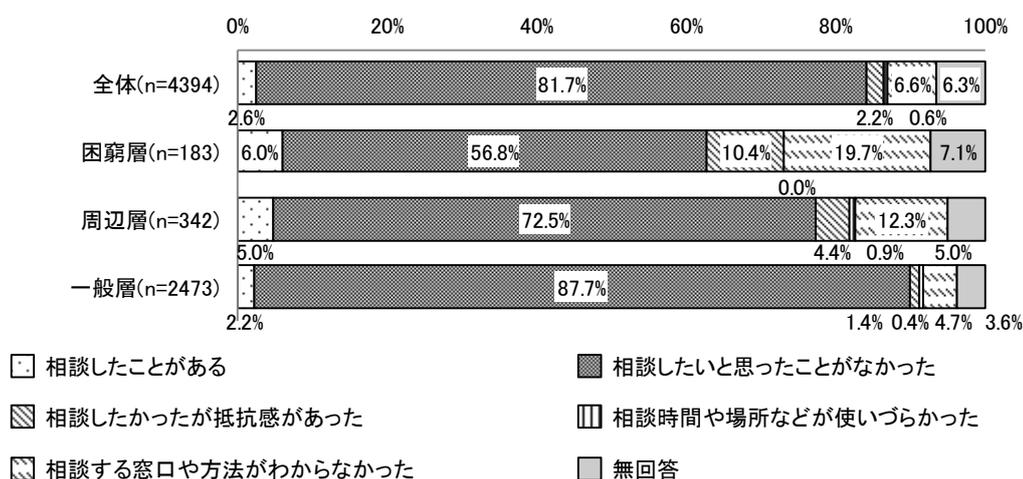
④【保護者】Q57-4 相談経験\_民生委員・児童委員

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が81.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が6.6%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（87.7%）、周辺層（72.5%）、困窮層（56.8%）の順に高い。

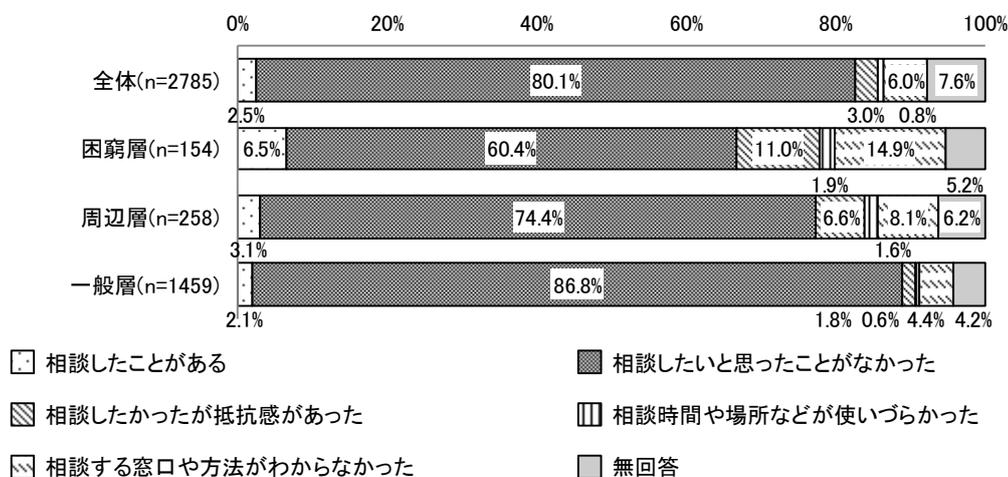
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が80.1%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が6.0%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（86.8%）、周辺層（74.4%）、困窮層（60.4%）の順に高い。

図表 258 【保護者】Q57-4 相談経験\_民生委員・児童委員:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

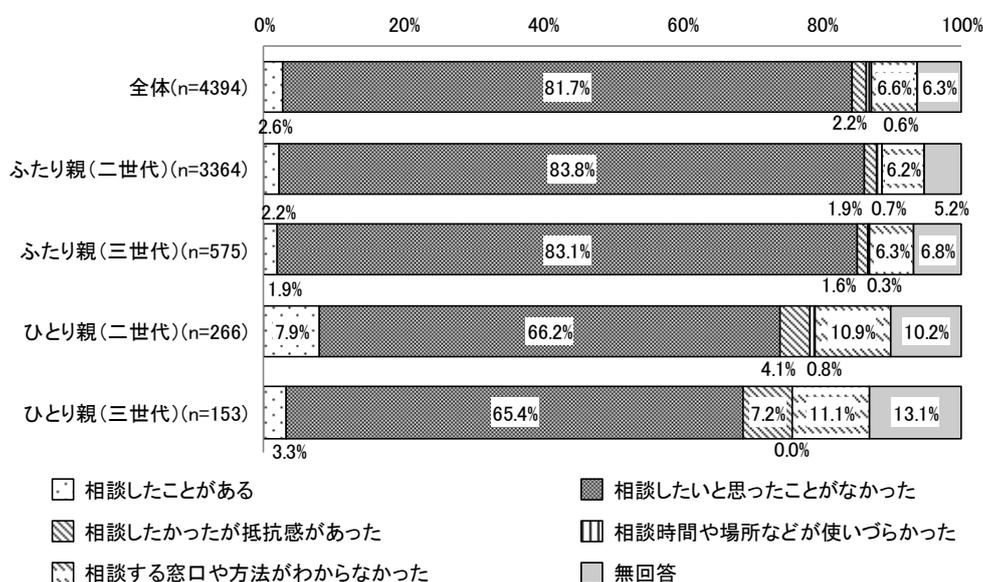


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（83.8%）、ふたり親（三世帯）（83.1%）、ひとり親（二世帯）（66.2%）、ひとり親（三世帯）（65.4%）の順に高い。

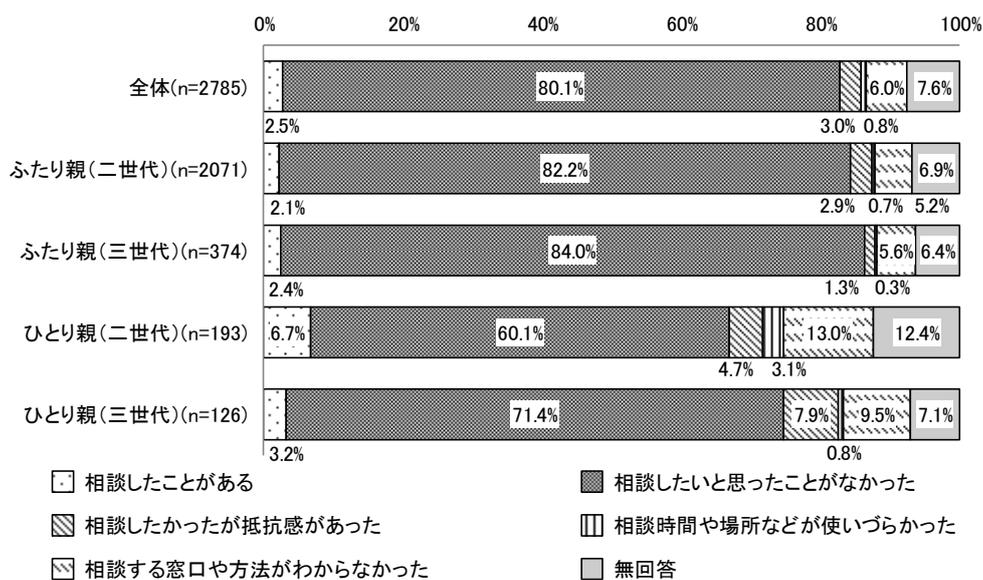
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世帯）（84.0%）、ふたり親（二世帯）（82.2%）、ひとり親（三世帯）（71.4%）、ひとり親（二世帯）（60.1%）の順に高い。

図表 259 【保護者】 Q57-4 相談経験\_民生委員・児童委員:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



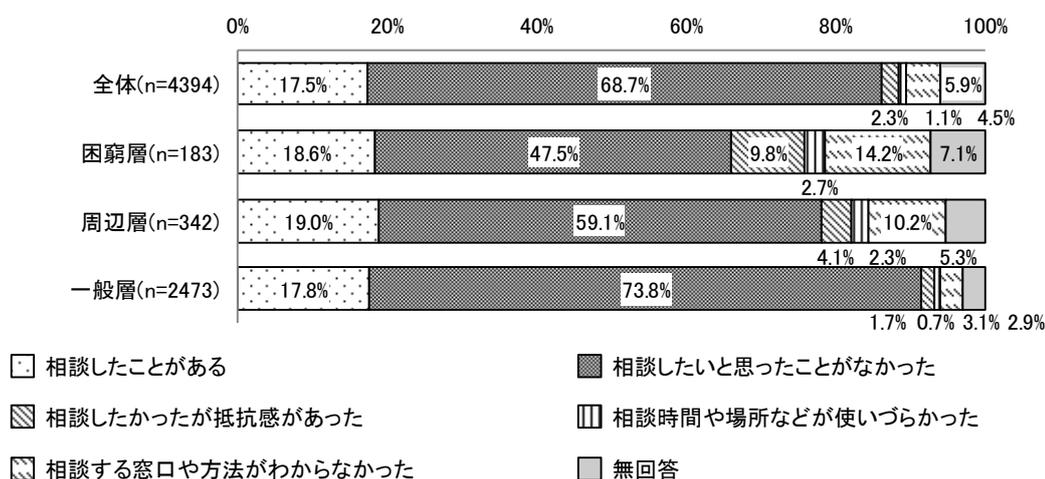
⑤【保護者】Q57-5 相談経験\_保健所

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が68.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が17.5%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（73.8%）、周辺層（59.1%）、困窮層（47.5%）の順に高い。

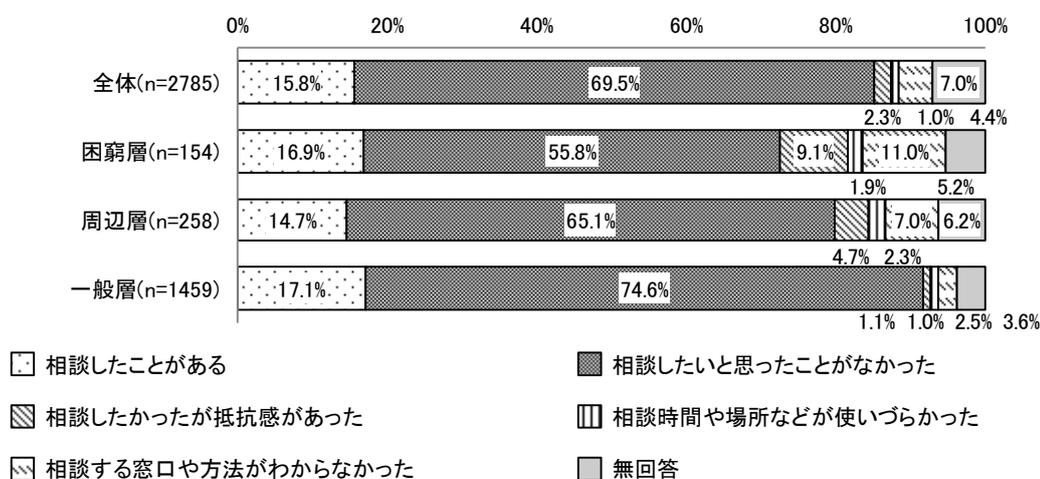
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が69.5%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が15.8%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（74.6%）、周辺層（65.1%）、困窮層（55.8%）の順に高い。

図表 260 【保護者】Q57-5 相談経験\_保健所:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

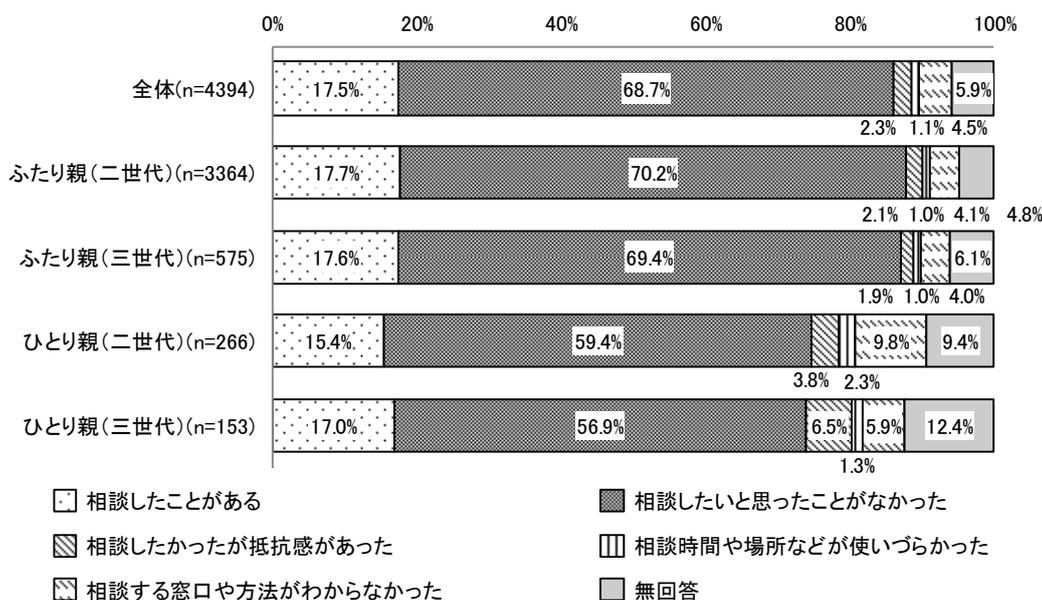


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思っただけでなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（70.2%）、ふたり親（三世帯）（69.4%）、ひとり親（二世帯）（59.4%）、ひとり親（三世帯）（56.9%）の順に高い。

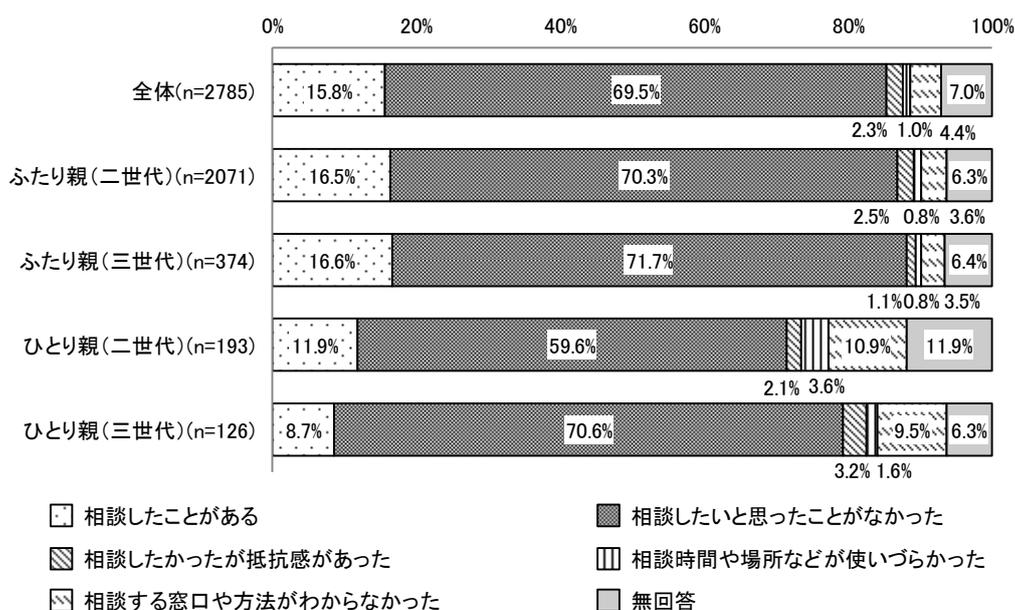
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思っただけでなかった」の割合は、ふたり親（三世帯）（71.7%）、ひとり親（三世帯）（70.6%）、ふたり親（二世帯）（70.3%）、ひとり親（二世帯）（59.6%）の順に高い。

図表 261 【保護者】Q57-5 相談経験\_保健所:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



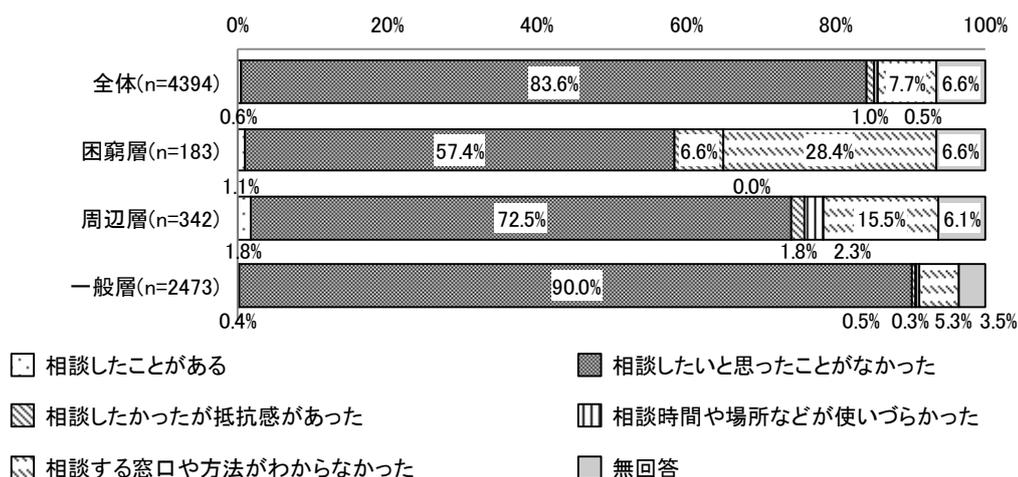
⑥【保護者】Q57-6 相談経験\_中核地域生活支援センター

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が83.6%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が7.7%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（90.0%）、周辺層（72.5%）、困窮層（57.4%）の順に高い。

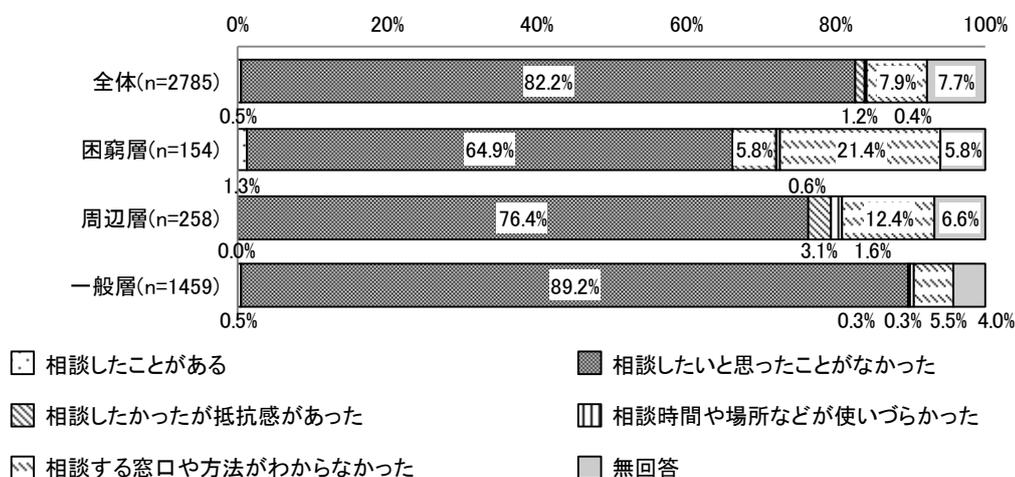
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が82.2%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が7.9%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（89.2%）、周辺層（76.4%）、困窮層（64.9%）の順に高い。

図表 262 【保護者】Q57-6 相談経験\_中核地域生活支援センター:単数回答  
(生活困難度別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

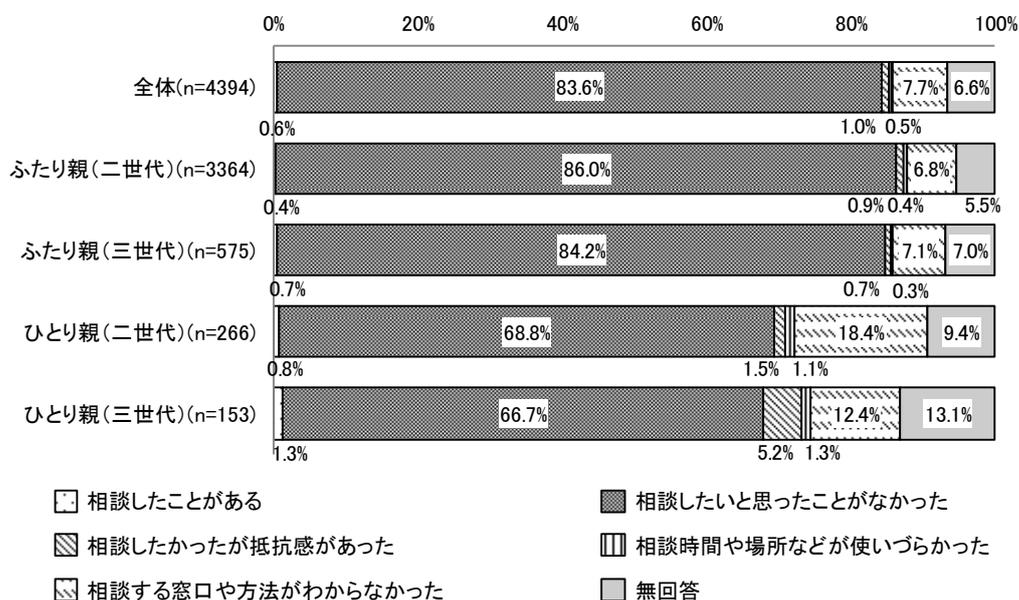


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思っただけでなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（86.0%）、ふたり親（三世帯）（84.2%）、ひとり親（二世帯）（68.8%）、ひとり親（三世帯）（66.7%）の順に高い。

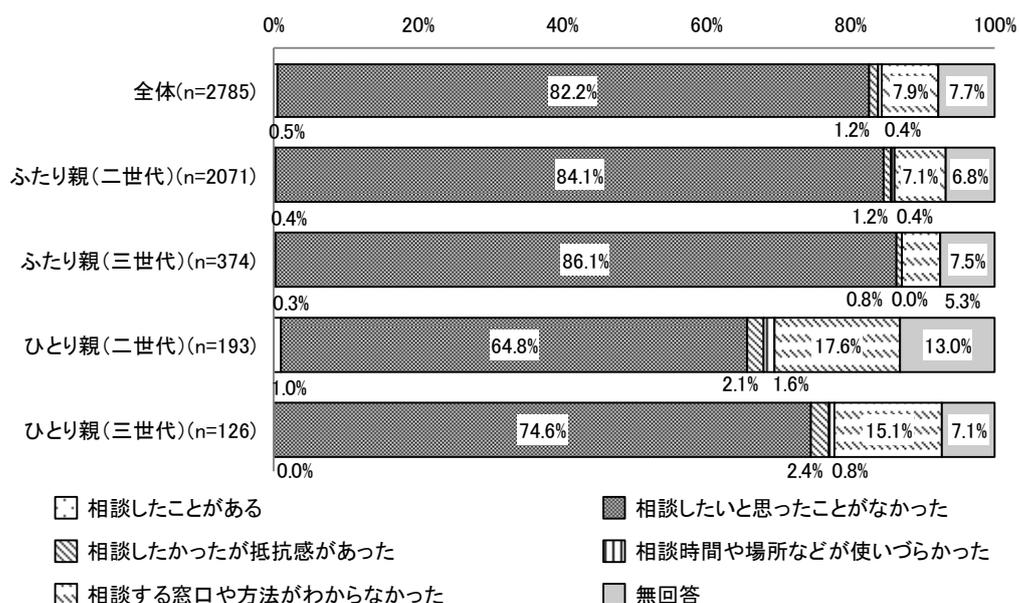
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思っただけでなかった」の割合は、ふたり親（三世帯）（86.1%）、ふたり親（二世帯）（84.1%）、ひとり親（三世帯）（74.6%）、ひとり親（二世帯）（64.8%）の順に高い。

図表 263 【保護者】Q57-6 相談経験\_中核地域生活支援センター:単数回答  
(世帯タイプ別)

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



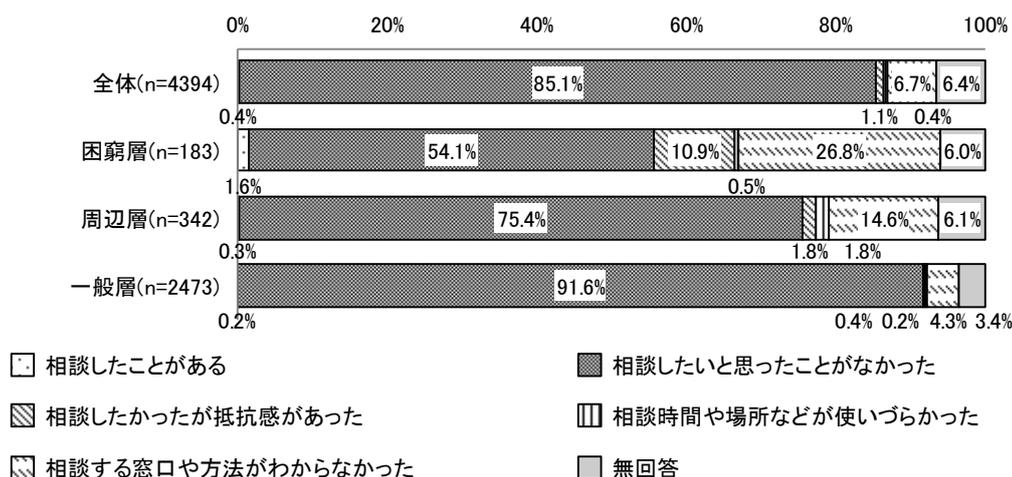
⑦【保護者】Q57-7 相談経験\_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が85.1%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が6.7%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（91.6%）、周辺層（75.4%）、困窮層（54.1%）の順に高い。

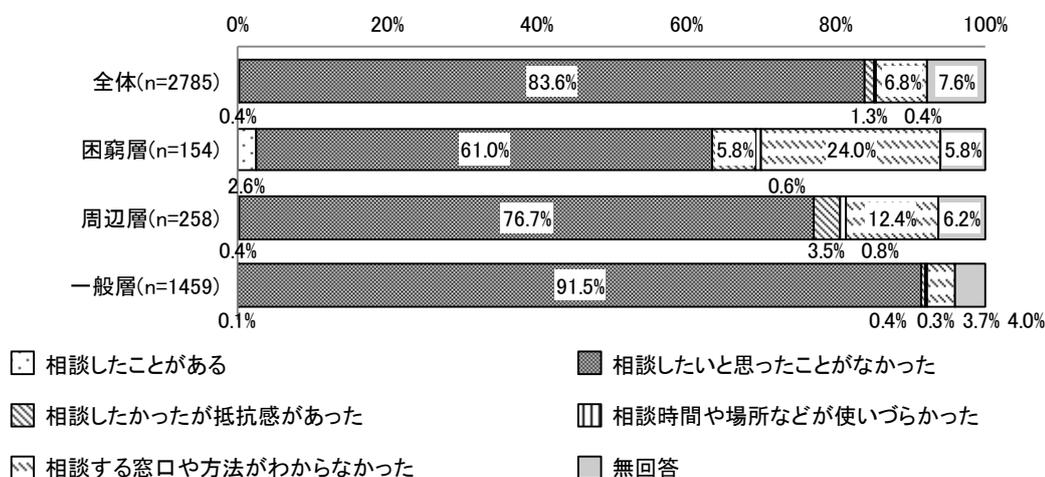
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が83.6%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が6.8%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（91.5%）、周辺層（76.7%）、困窮層（61.0%）の順に高い。

図表 264 【保護者】Q57-7 相談経験\_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口：  
単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

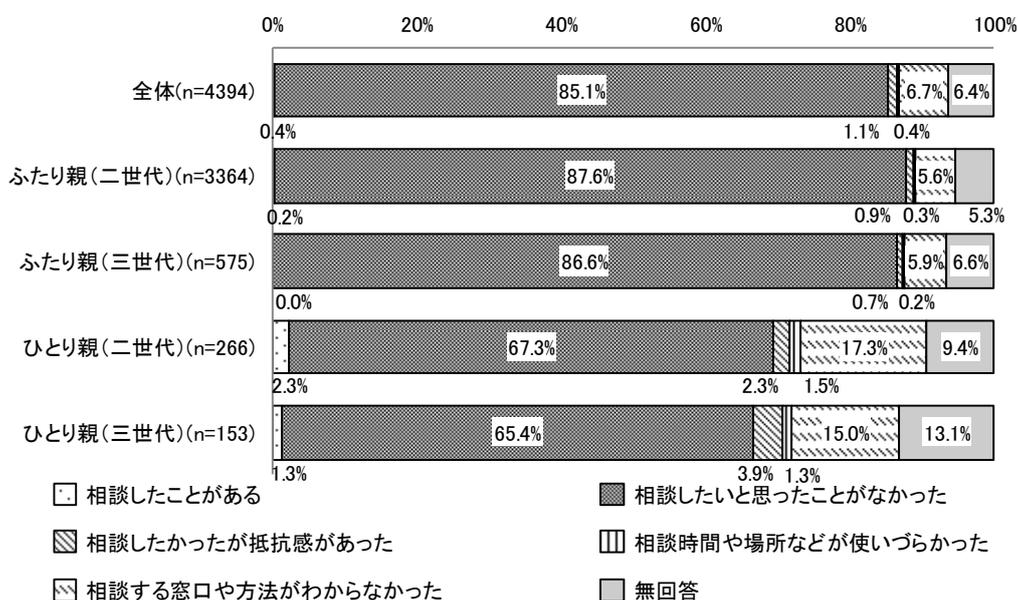


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（87.6%）、ふたり親（三世帯）（86.6%）、ひとり親（二世帯）（67.3%）、ひとり親（三世帯）（65.4%）の順に高い。

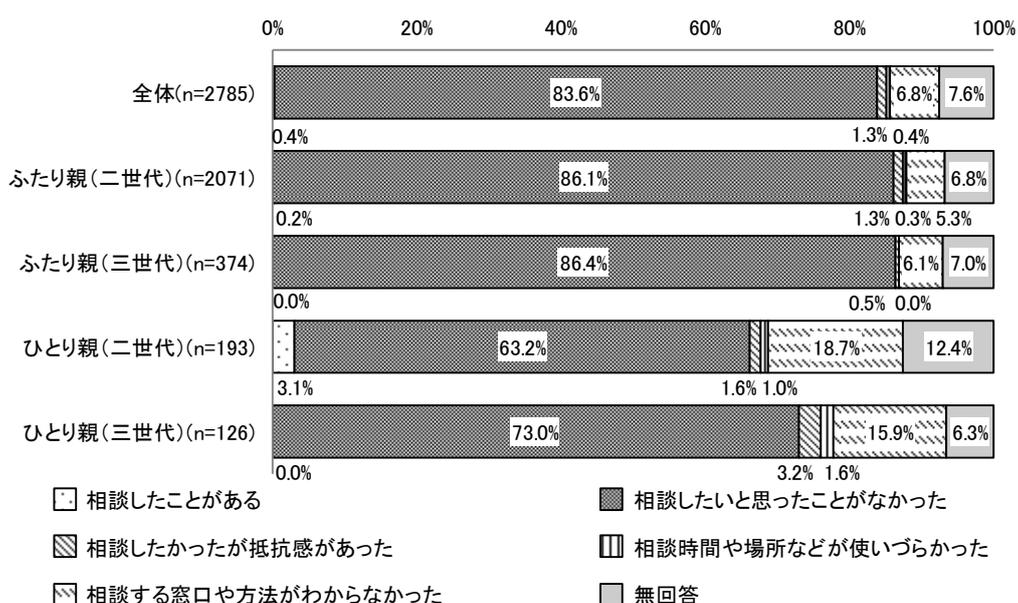
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世帯）（86.4%）、ふたり親（二世帯）（86.1%）、ひとり親（三世帯）（73.0%）、ひとり親（二世帯）（63.2%）の順に高い。

図表 265 【保護者】 Q57-7 相談経験\_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口：  
単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



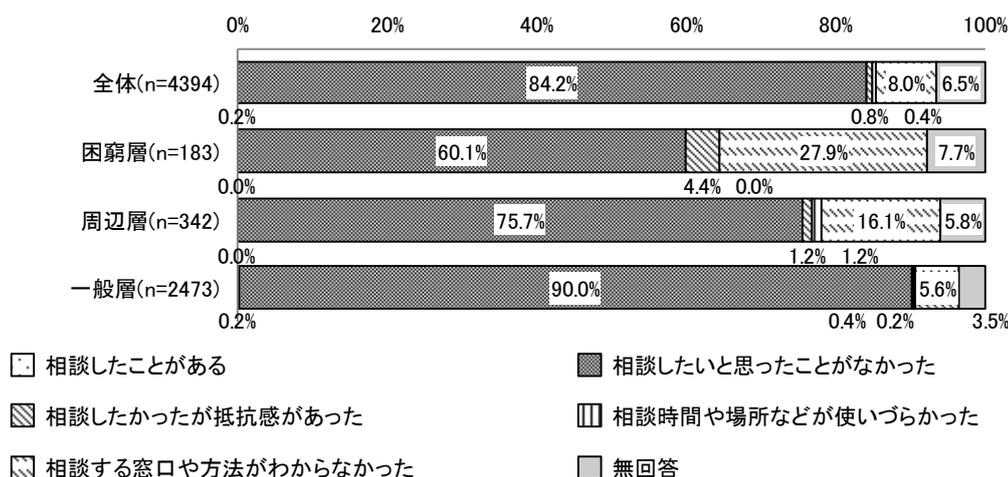
⑧【保護者】Q57-8 相談経験\_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が84.2%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が8.0%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（90.0%）、周辺層（75.7%）、困窮層（60.1%）の順に高い。

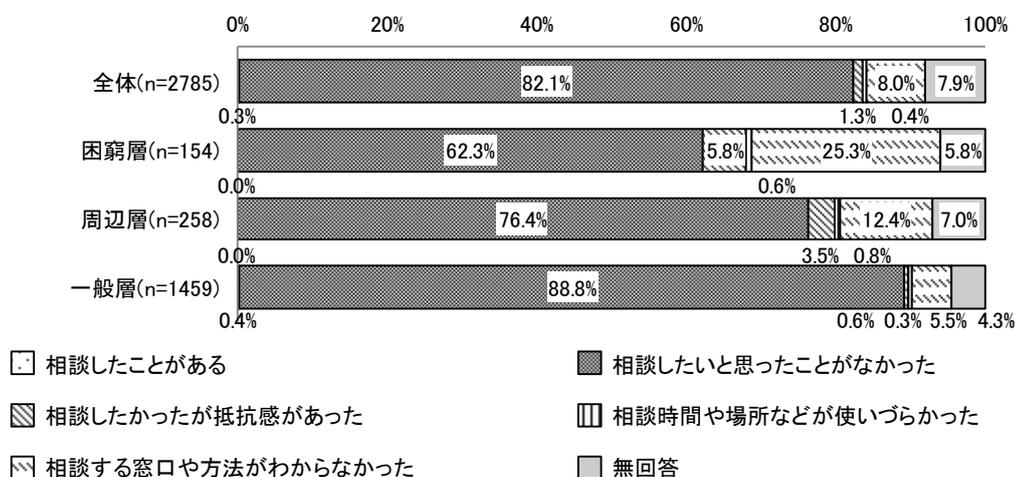
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が82.1%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が8.0%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（88.8%）、周辺層（76.4%）、困窮層（62.3%）の順に高い。

図表 266 【保護者】Q57-8 相談経験\_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

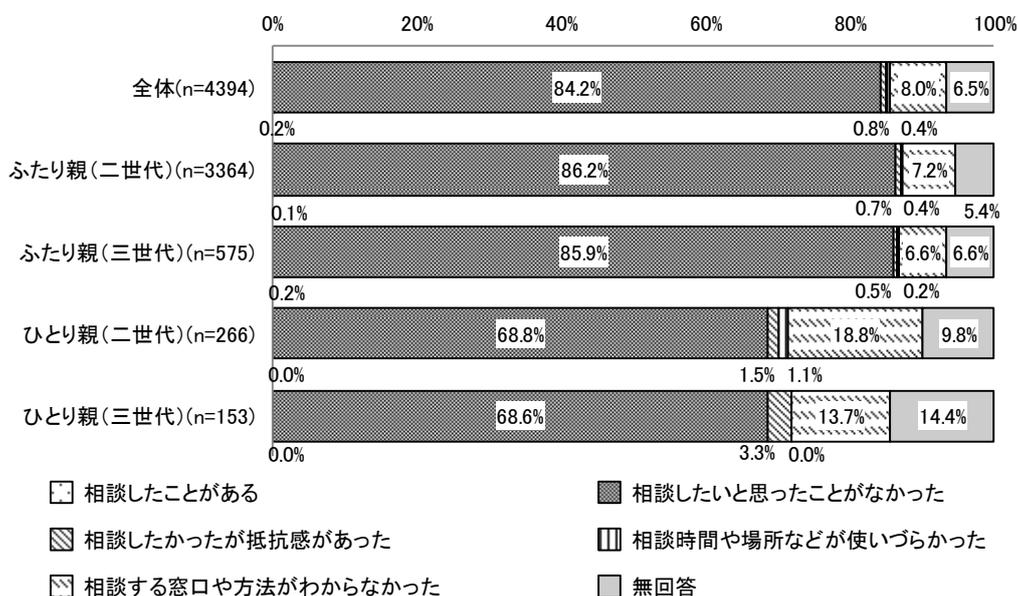


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（二世帯）（86.2%）、ふたり親（三世帯）（85.9%）、ひとり親（二世帯）（68.8%）、ひとり親（三世帯）（68.6%）の順に高い。

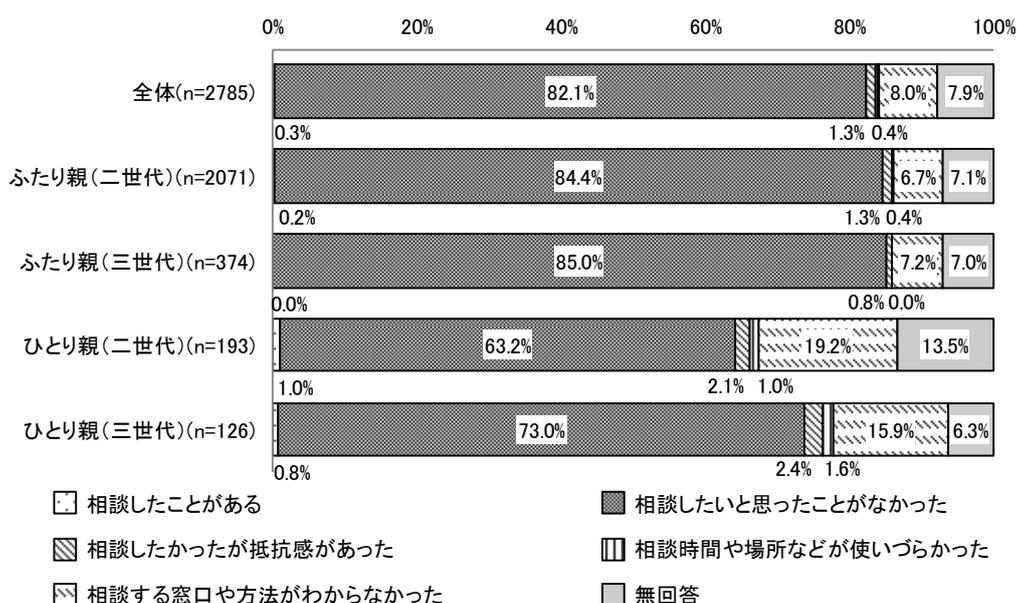
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世帯）（85.0%）、ふたり親（二世帯）（84.4%）、ひとり親（三世帯）（73.0%）、ひとり親（二世帯）（63.2%）の順に高い。

図表 267 【保護者】Q57-8 相談経験\_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」:単数回答（世帯タイプ別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



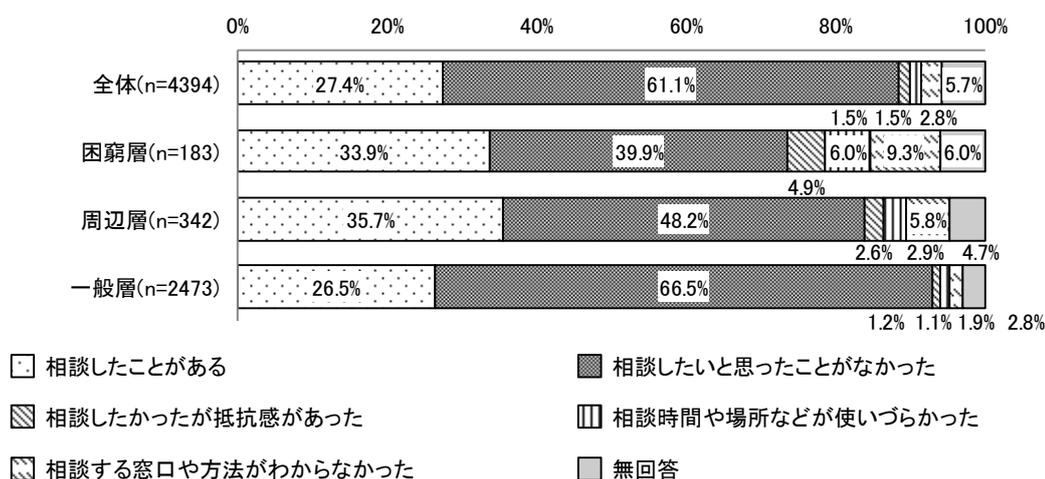
⑨【保護者】Q57-9 相談経験\_ハローワーク

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が61.1%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が27.4%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（66.5%）、周辺層（48.2%）、困窮層（39.9%）の順に高い。

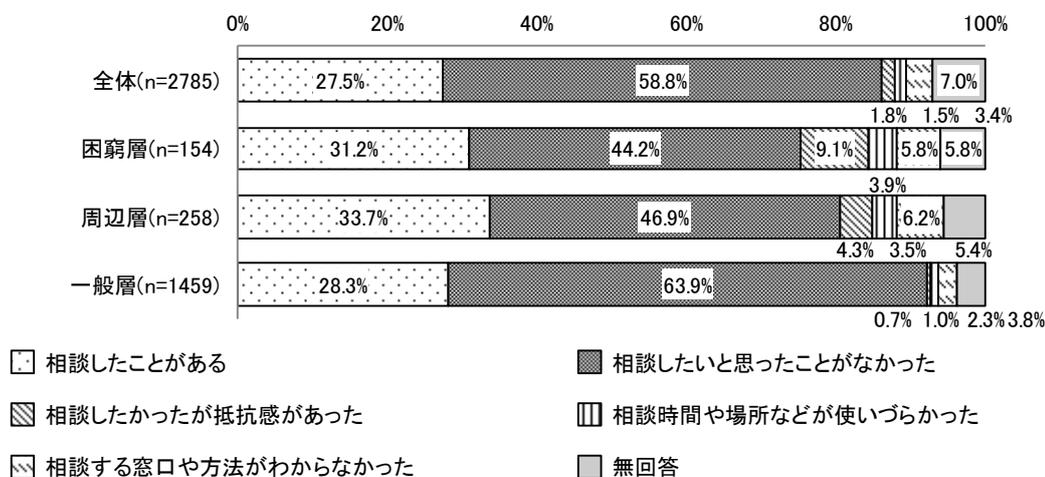
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が58.8%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が27.5%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（63.9%）、周辺層（46.9%）、困窮層（44.2%）の順に高い。

図表 268 【保護者】Q57-9 相談経験\_ハローワーク:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

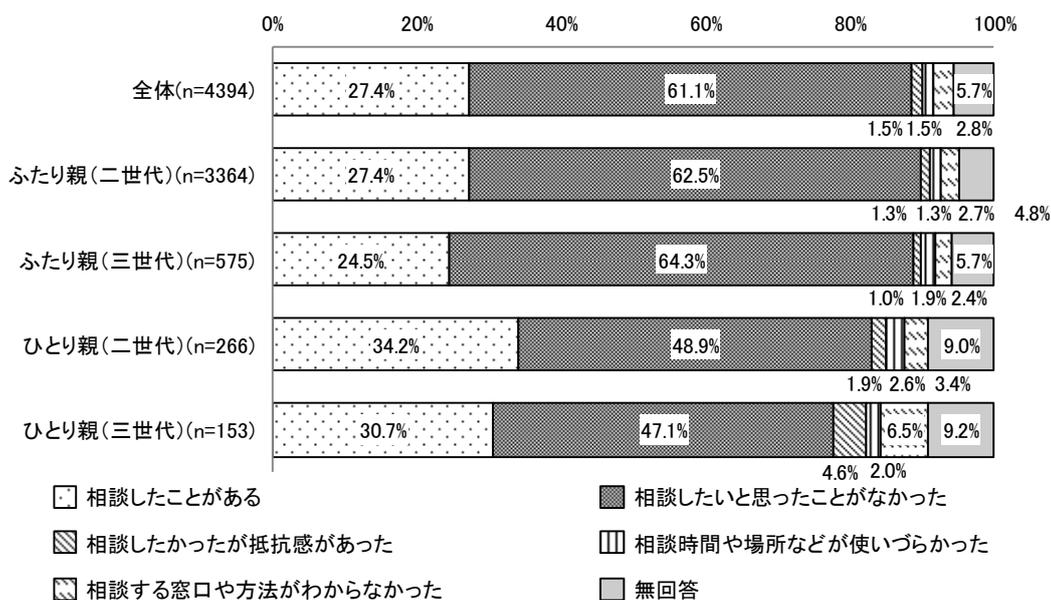


小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（64.3%）、ふたり親（二世帯）（62.5%）、ひとり親（二世帯）（48.9%）、ひとり親（三世代）（47.1%）の順に高い。

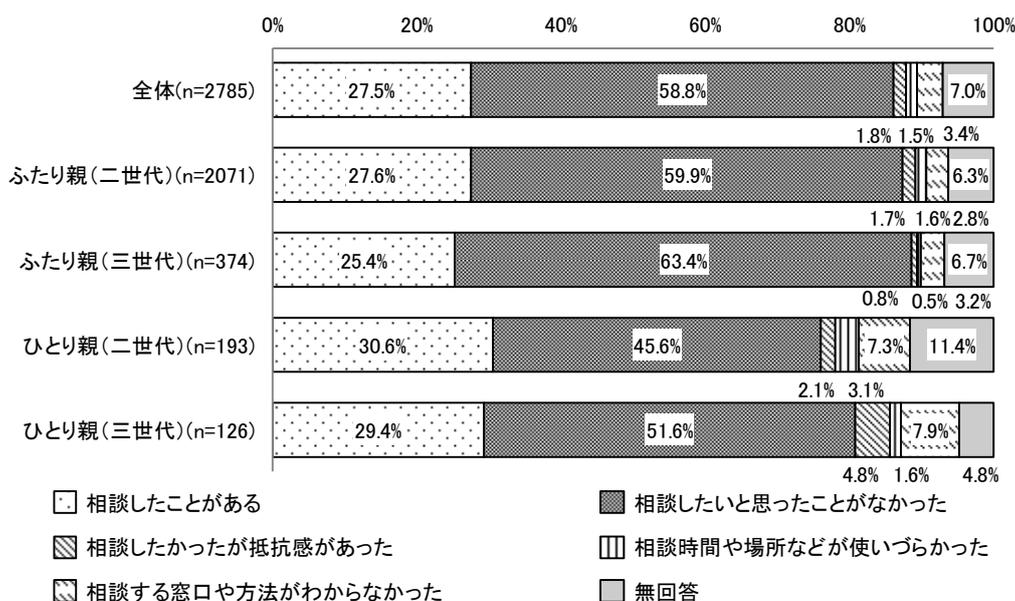
中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（63.4%）、ふたり親（二世帯）（59.9%）、ひとり親（三世代）（51.6%）、ひとり親（二世帯）（45.6%）の順に高い。

図表 269 【保護者】 Q57-9 相談経験\_ハローワーク:単数回答（世帯タイプ度別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



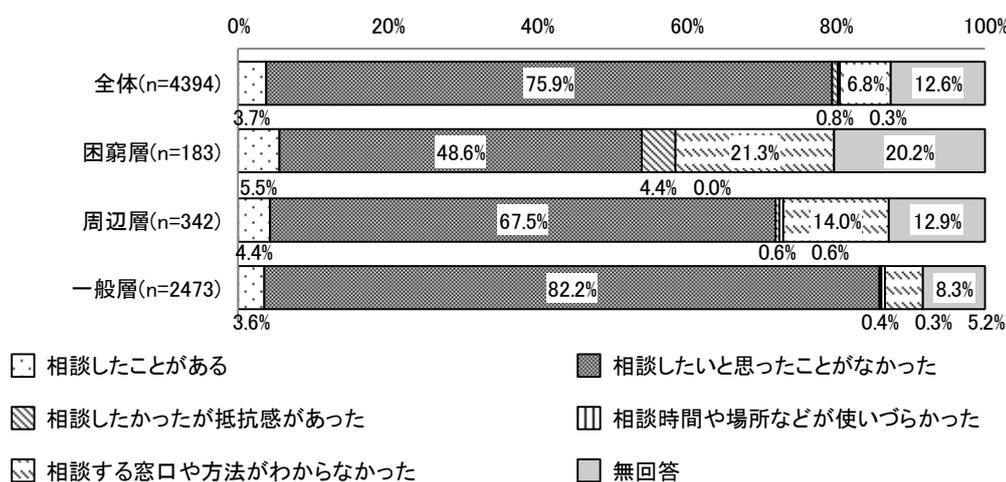
⑩【保護者】Q57-10 相談経験\_上記以外の公的機関

小学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が75.9%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が6.8%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（82.2%）、周辺層（67.5%）、困窮層（48.6%）の順に高い。

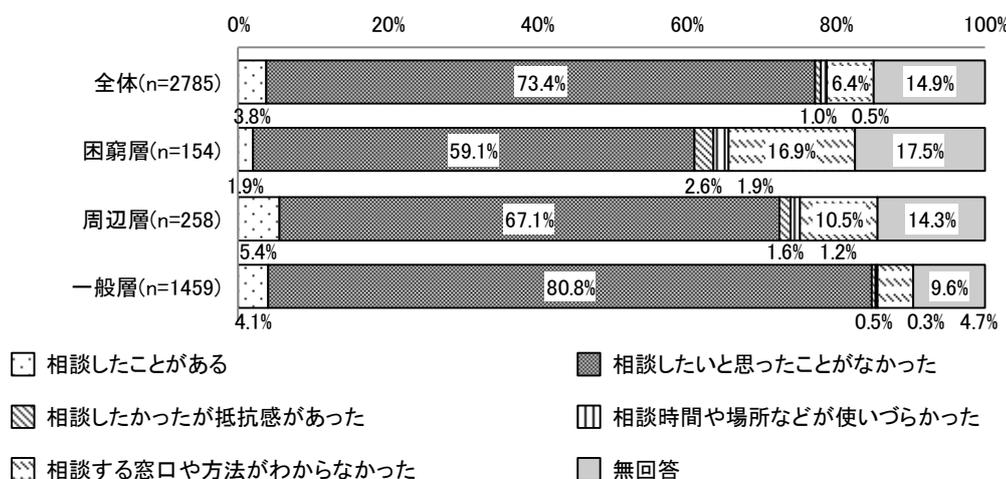
中学生保護者の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が73.4%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が6.4%となっている。生活困難度別にみると、「相談したいと思ったことがなかった」の割合は、一般層（80.8%）、周辺層（67.1%）、困窮層（59.1%）の順に高い。

図表 270 【保護者】Q57-10 相談経験\_上記以外の公的機関:単数回答（生活困難度別）

<小学生保護者> (p<.01)



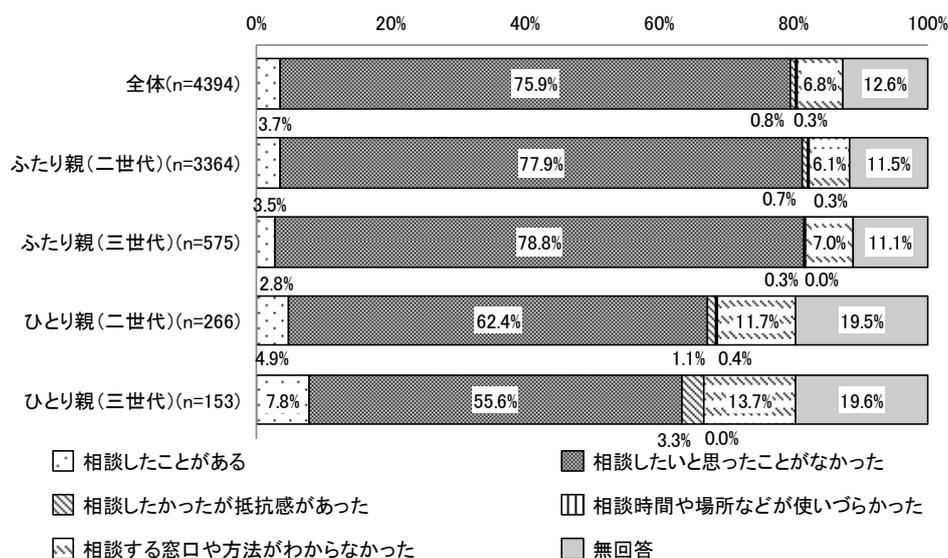
<中学生保護者> (p<.01)



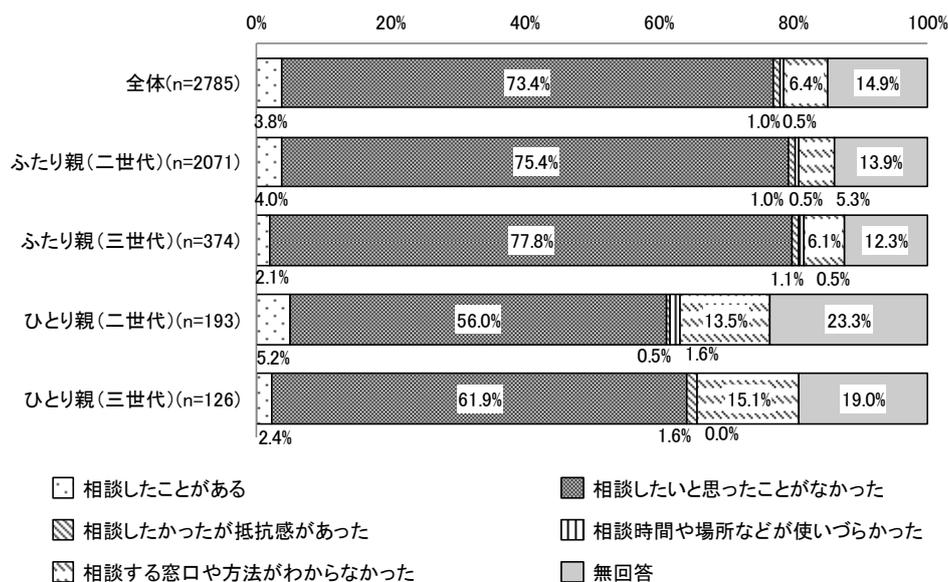
小学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思っただけでなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（78.8%）、ふたり親（二世帯）（77.9%）、ひとり親（二世帯）（62.4%）、ひとり親（三世代）（55.6%）の順に高い。

中学生保護者について、世帯タイプ別にみると、「相談したいと思っただけでなかった」の割合は、ふたり親（三世代）（77.8%）、ふたり親（二世帯）（75.4%）、ひとり親（三世代）（61.9%）、ひとり親（二世帯）（56.0%）の順に高い。

図表 271 【保護者】Q57-10 相談経験\_上記以外の公的機関:単数回答（世帯タイプ別）  
 <小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



### Ⅲ. テーマ別集計

以下では、テーマ別集計として、貧困継続状況、保護者国籍の2テーマについて分析を行った。

#### 1. 貧困の継続状況別分析

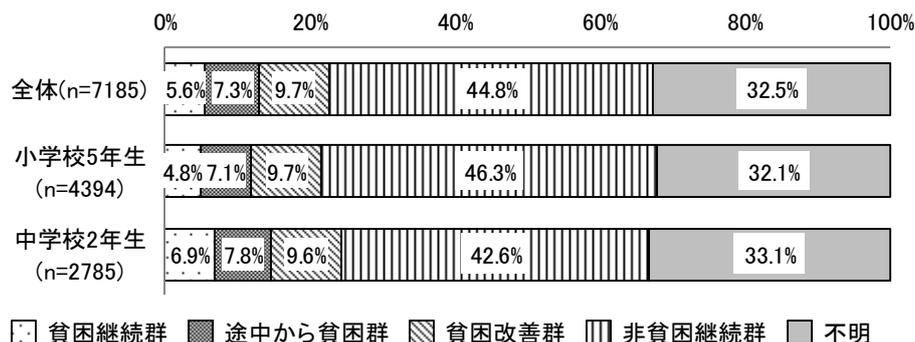
本節では、貧困の継続状況によって、保護者や子どもたちが置かれた状況や課題が異なるかどうかを分析した。

分析にあたっては、生活困難度および保護者票問 50「10年前の暮らし向き」をもとに、以下のとおり①貧困継続群／②途中から貧困群／③貧困改善群／④非貧困継続群の4区分を作成した。

		保問 50 10年前の暮らし向き	
		やや苦しかった・大変苦しかった	大変ゆとりがあった・ややゆとりがあった・普通
生活困難度	困窮層・周辺層	①貧困継続群	②途中から貧困群
	一般層	③貧困改善群	④非貧困継続群

学年別の貧困継続状況は以下のとおりである。

図表 272 【保護者】貧困継続状況:単数回答 (学年別)



(1) 保護者

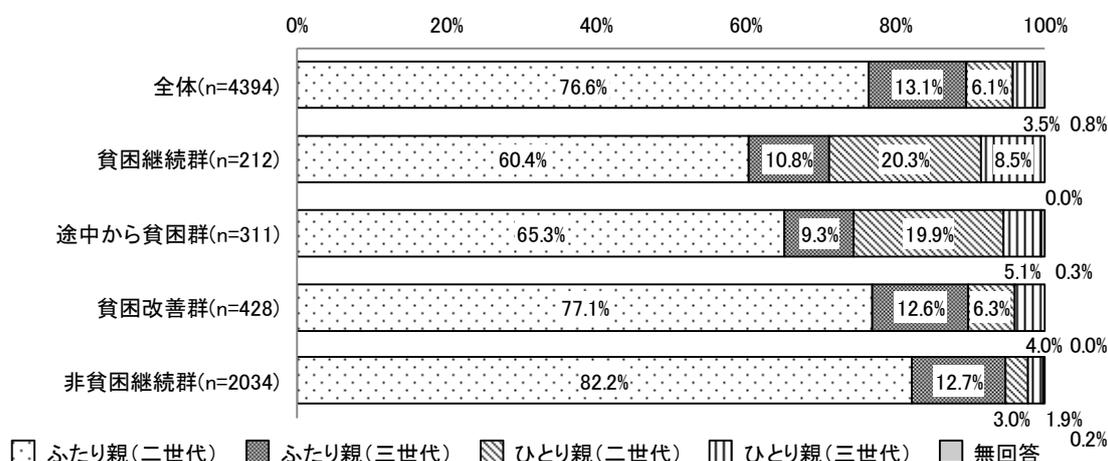
①【保護者】世帯タイプ

貧困継続状況別にみると、小学生保護者について、「ふたり親（二世帯）」の割合は、非貧困継続群（82.2%）、貧困改善群（77.1%）、途中から貧困群（65.3%）、貧困継続群（60.4%）の順に高い。

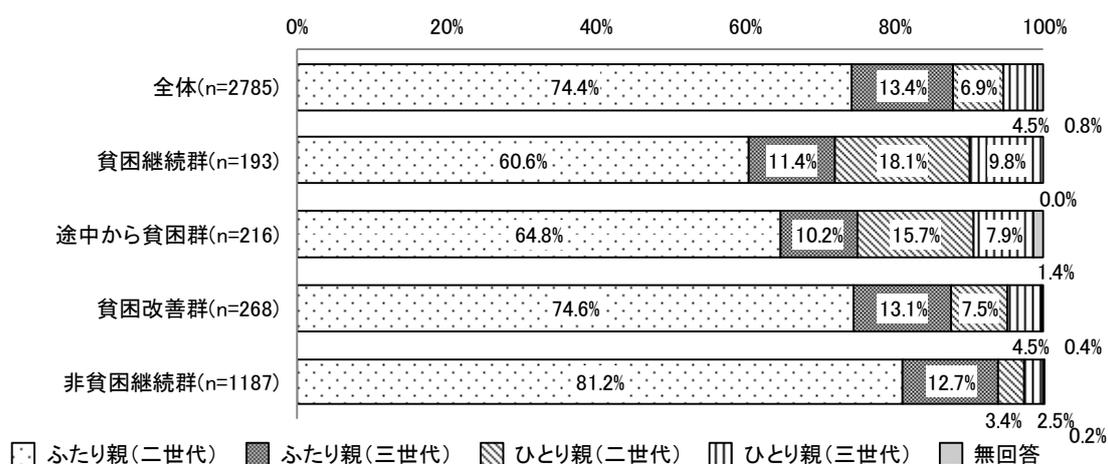
中学生保護者について、「ふたり親（二世帯）」の割合は、非貧困継続群（81.2%）、貧困改善群（74.6%）、途中から貧困群（64.8%）、貧困継続群（60.6%）の順に高い。

図表 273 【保護者】世帯タイプ:単数回答（貧困継続状況別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)

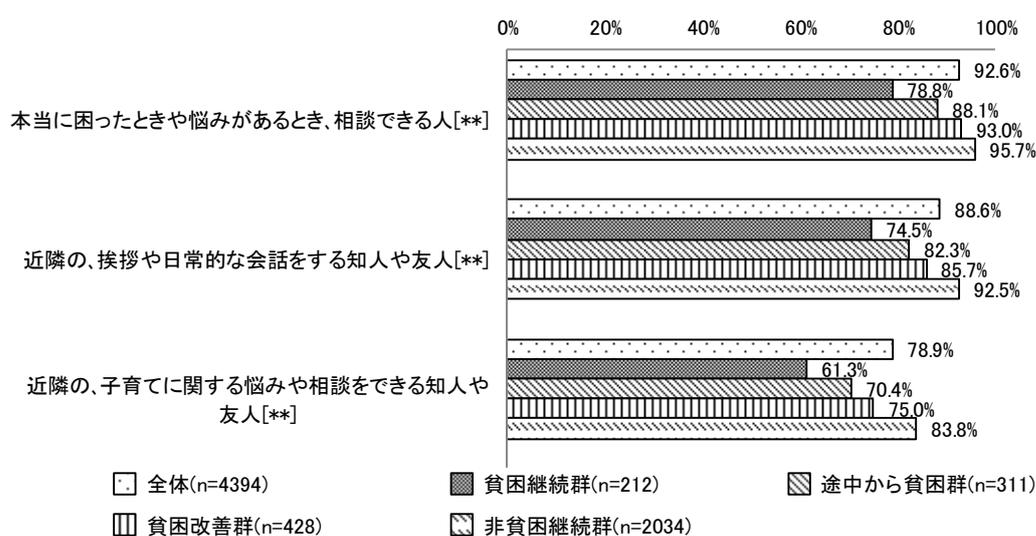


②【保護者】Q44～46 相談相手、知人・友人

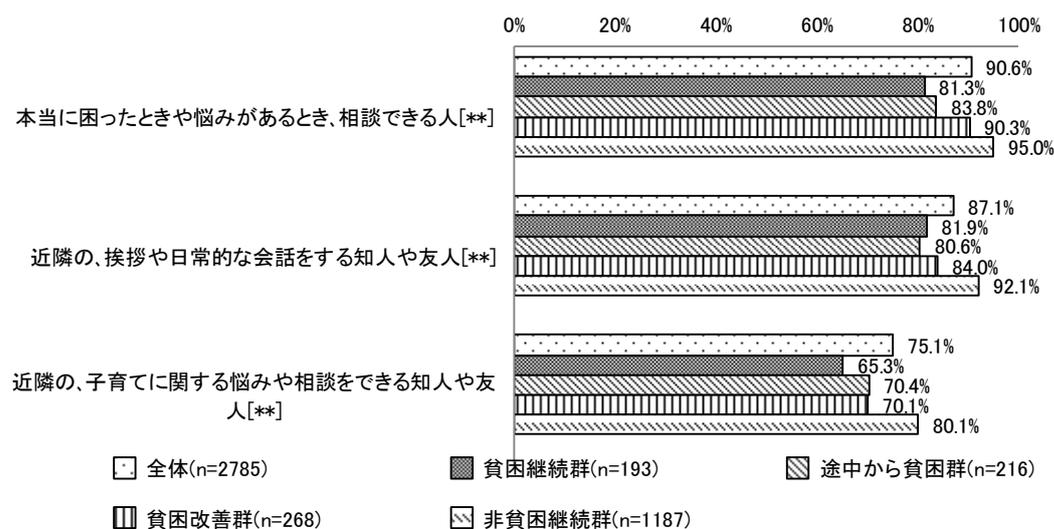
貧困継続状況別にみると、小学生保護者・中学生保護者のいずれも、「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人」、「近隣の、挨拶や日常的な会話をする知人や友人」、「近隣の、子育てに関する悩みを相談できる知人や友人」がいる割合について、統計的に有意な差がみられ、貧困継続群ほど低い。

図表 274 【保護者】Q44～46 相談相手、近隣の知人・友人\_「いる」の割合（貧困継続状況別）

<小学生保護者>



<中学生保護者>



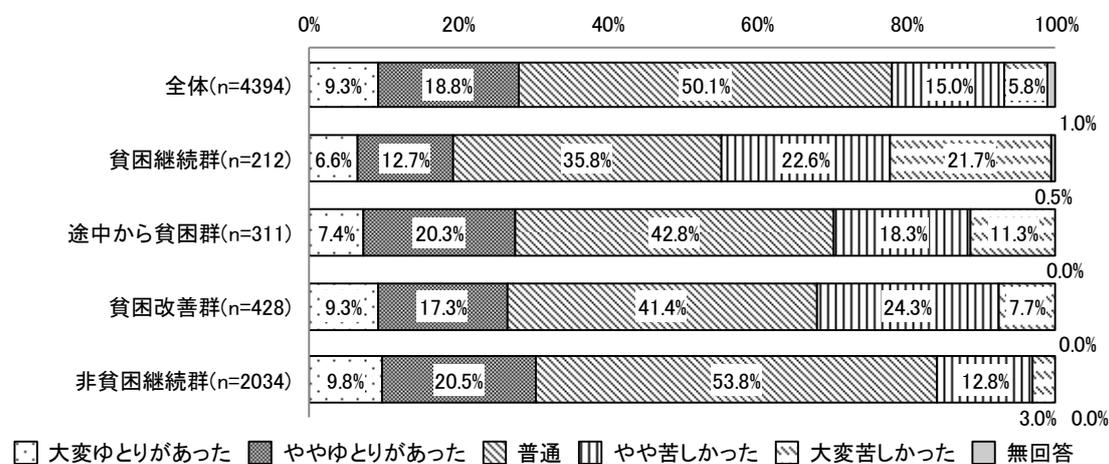
### ③【保護者】Q49 あなたが15歳の頃の家庭の暮らし向き

貧困継続状況別にみると、小学生保護者について、「大変苦しかった」の割合は、貧困継続群（21.7%）、途中から貧困群（11.3%）、貧困改善群（7.7%）、非貧困継続群（3.0%）の順に高い。

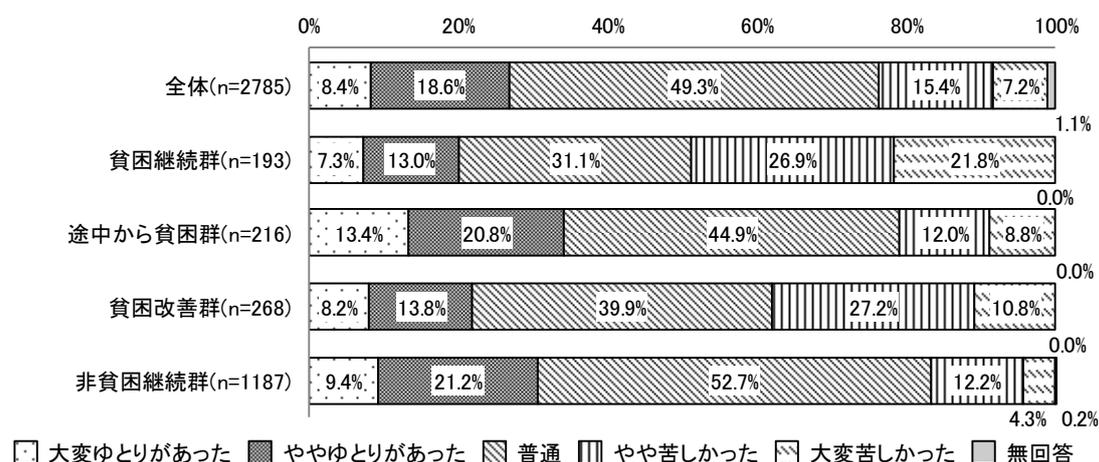
中学生保護者について、「大変苦しかった」の割合は、貧困継続群（21.8%）、貧困改善群（10.8%）、途中から貧困群（8.8%）、非貧困継続群（4.3%）の順に高い。

図表 275 【保護者】Q49 あなたが15歳の頃の家庭の暮らし向き:単数回答（貧困継続状況別）

<小学生保護者> (p<.01)



<中学生保護者> (p<.01)



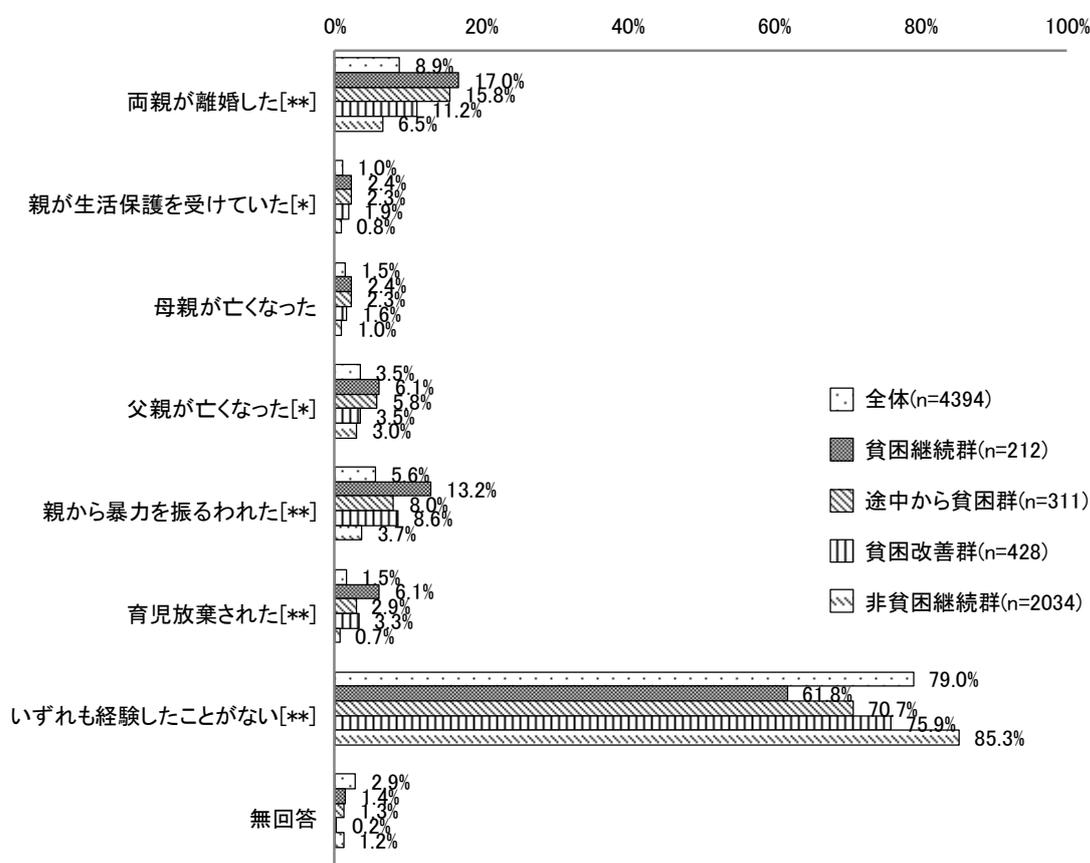
④【保護者】Q51 あなたが成人する前に体験したこと

貧困継続状況別にみると、小学生保護者について、「両親が離婚した」、「親が生活保護を受けていた」、「父親が亡くなった」、「親から暴力を振るわれた」、「育児放棄された」、「いずれも経験したことがない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

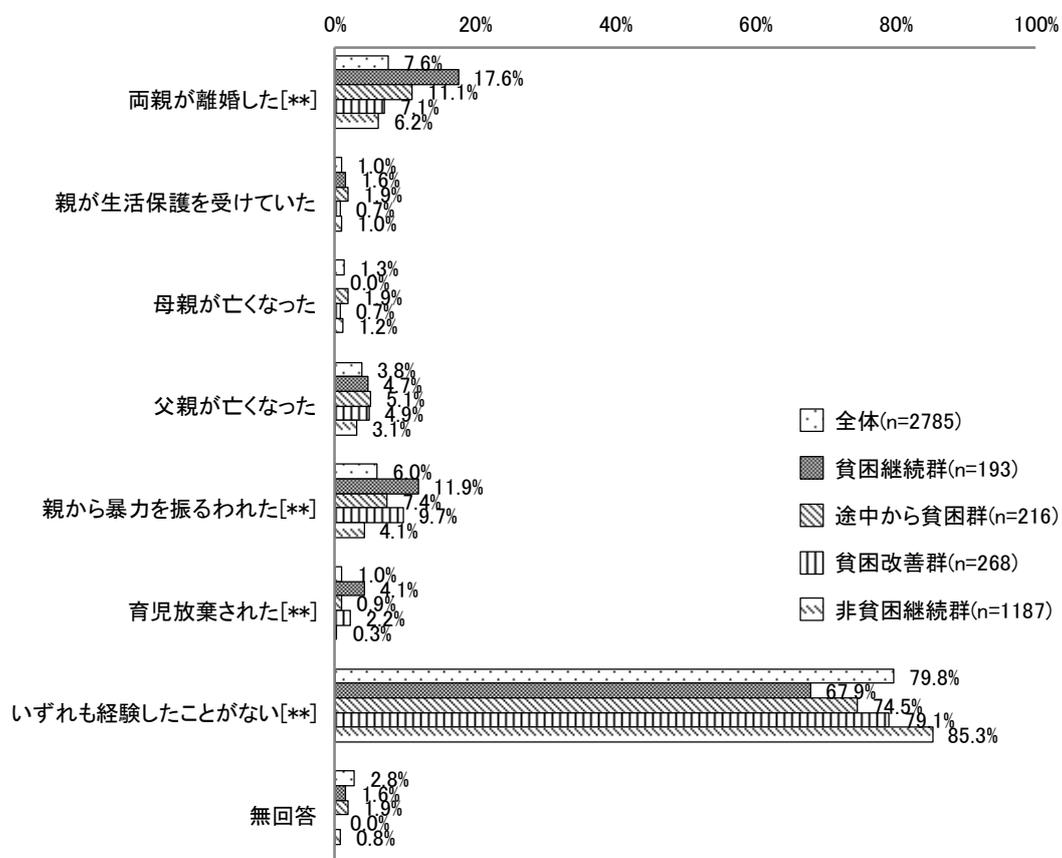
中学生保護者について、「両親が離婚した」、「親から暴力を振るわれた」、「育児放棄された」、「いずれも経験したことがない」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 276 【保護者】Q51 あなたが成人する前に体験したこと:複数回答 (貧困継続状況別)

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >

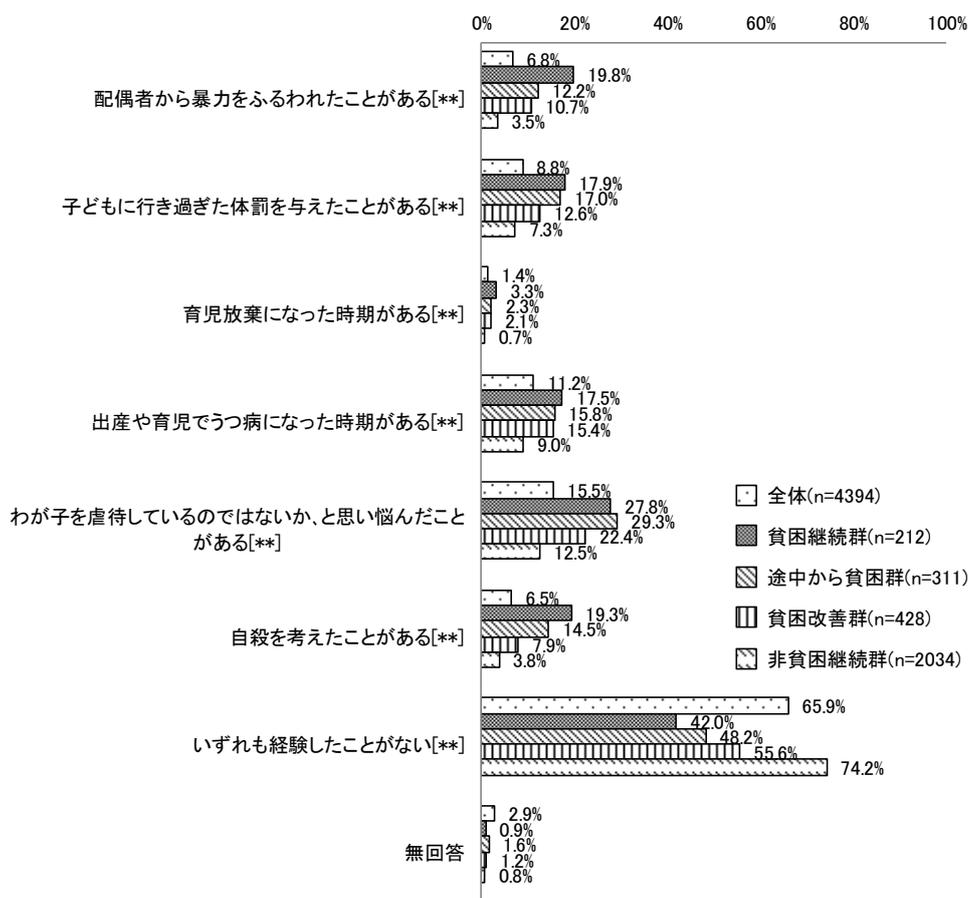


⑤【保護者】Q52 子どもをもってから経験したこと

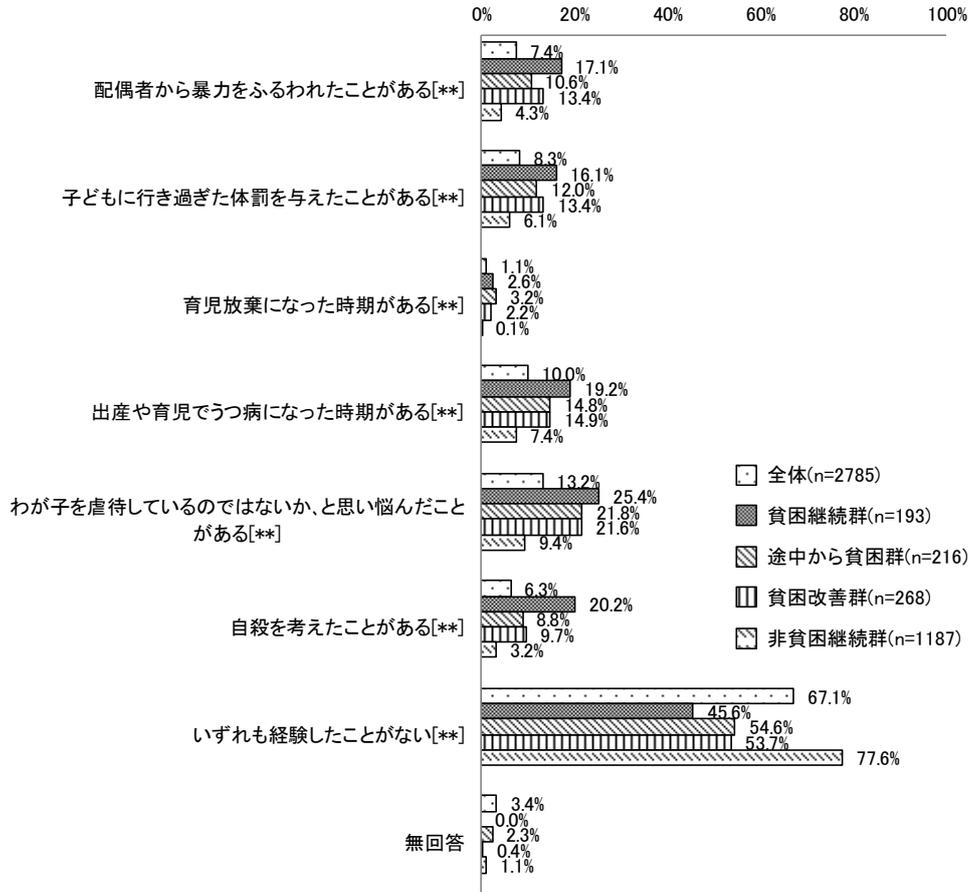
貧困継続状況別にみると、小学生・中学生保護者いずれも、すべての項目において統計的に有意な差がみられ、「いずれも経験したことがない」を除いて「貧困継続群」ほど高い割合となっている。

図表 277 【保護者】Q52 子どもをもってから経験したこと:複数回答(貧困継続状況別)

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >

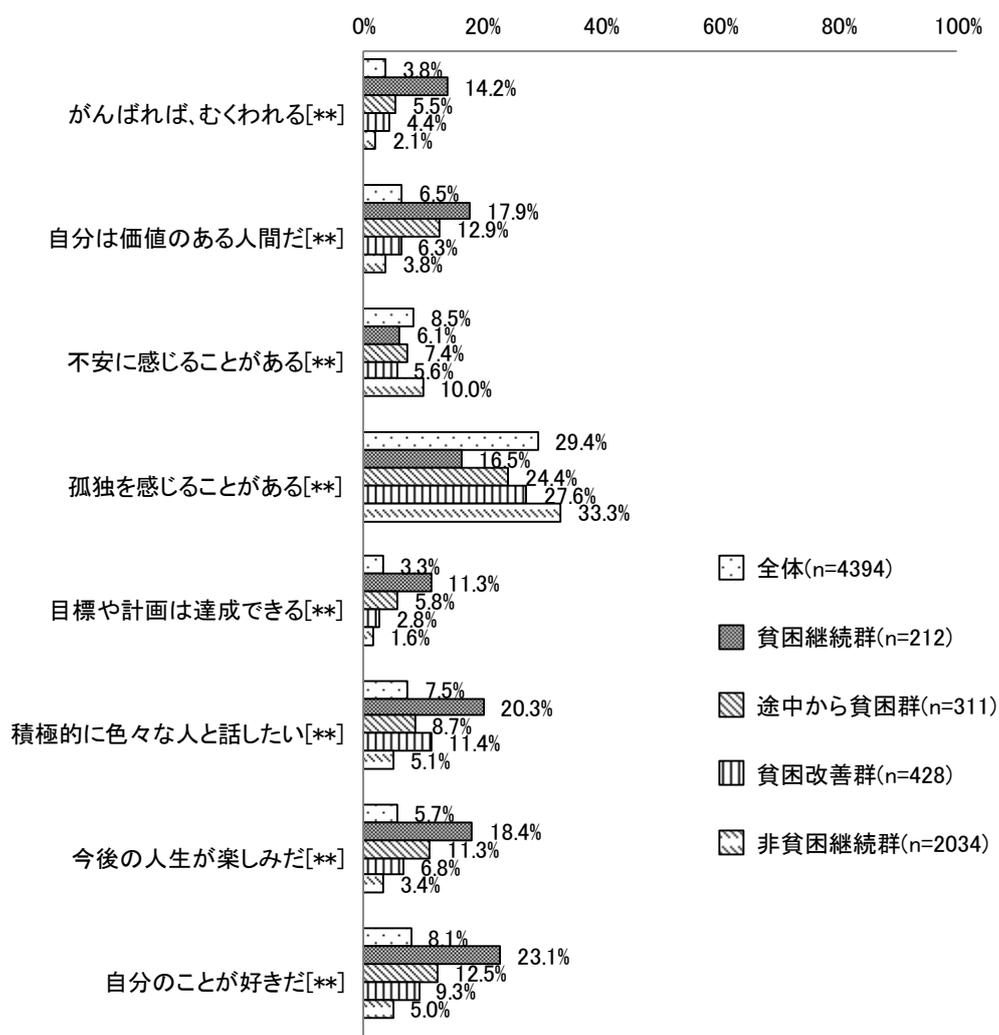


⑥【保護者】Q53 自己肯定感（「思わない」の割合）

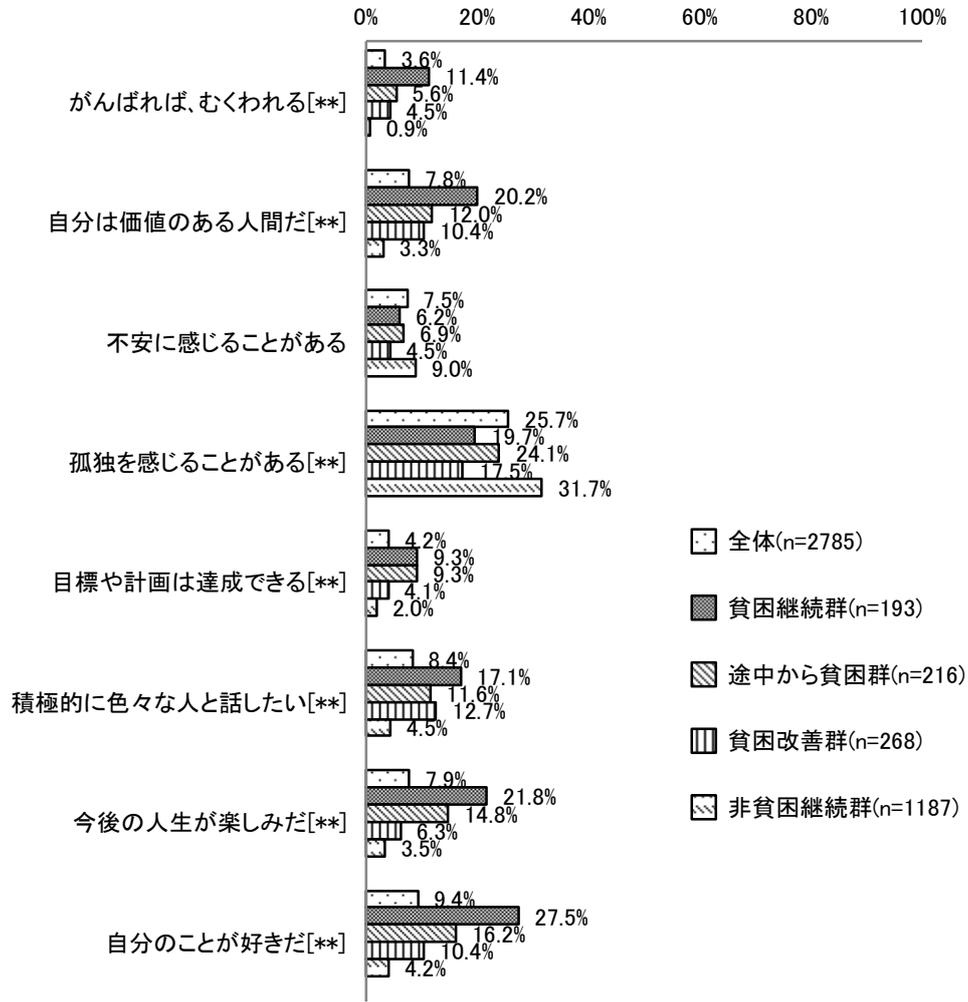
「思わない」と回答した割合について、貧困継続状況別にみると、小学生保護者では、すべての項目に関して統計的に有意な差がみられる。中学生保護者については、「不安に感じることがある」以外のすべての項目について有意な差がみられる。

図表 278 【保護者】Q53 自己肯定感\_「思わない」の割合（貧困継続状況別）

<小学生保護者>



< 中学生保護者 >



(2) 子ども

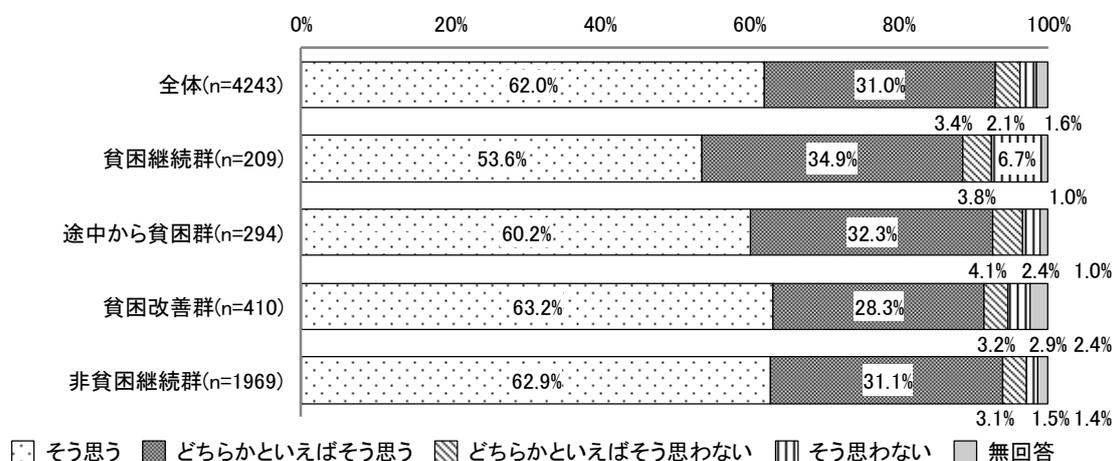
①【子ども】Q6 将来のために、今頑張りたいと思うか

貧困継続状況別にみると、小学生について、「そう思う」の割合は、貧困改善群(63.2%)、非貧困継続群(62.9%)、途中から貧困群(60.2%)、貧困継続群(53.6%)の順に高い。

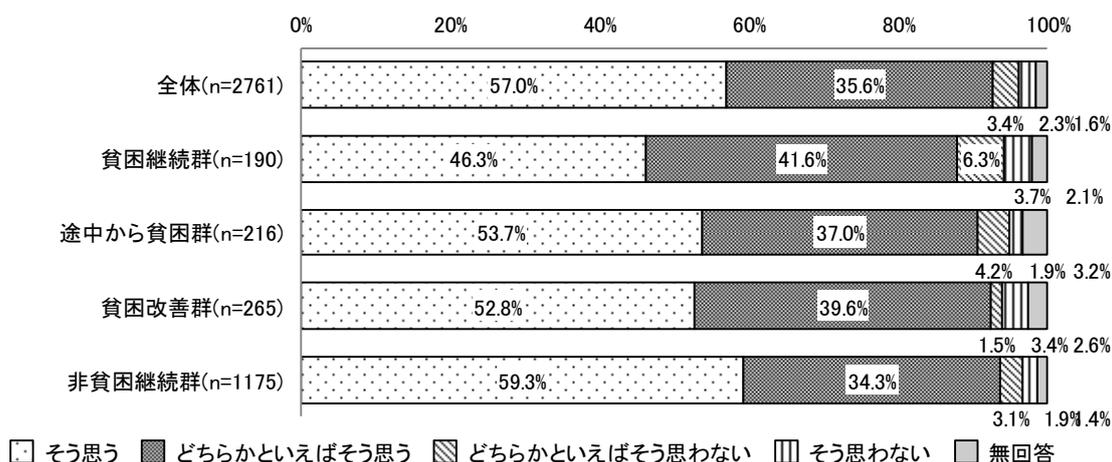
中学生について、「そう思う」の割合は、非貧困継続群(59.3%)、途中から貧困群(53.7%)、貧困改善群(52.8%)、貧困継続群(46.3%)の順に高い。

図表 279 【子ども】Q6 将来のために、今頑張りたいと思うか:単数回答(貧困継続状況別)

<小学生> (p<.01)



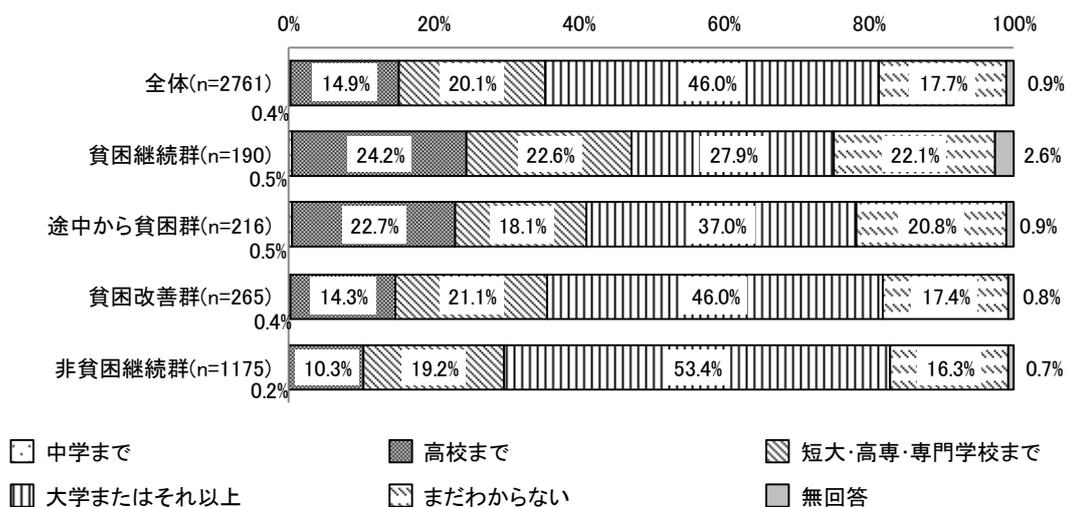
<中学生> (p<.01)



②【子ども】Q7 どの段階まで進学したいか

貧困継続状況別にみると、中学生について、「大学またはそれ以上」の割合は、非貧困継続群（53.4%）、貧困改善群（46.0%）、途中から貧困群（37.0%）、貧困継続群（27.9%）の順に高い。

図表 280 【子ども】Q7 どの段階まで進学したいか:単数回答（貧困継続状況別）  
 <中学生> (p<.01)



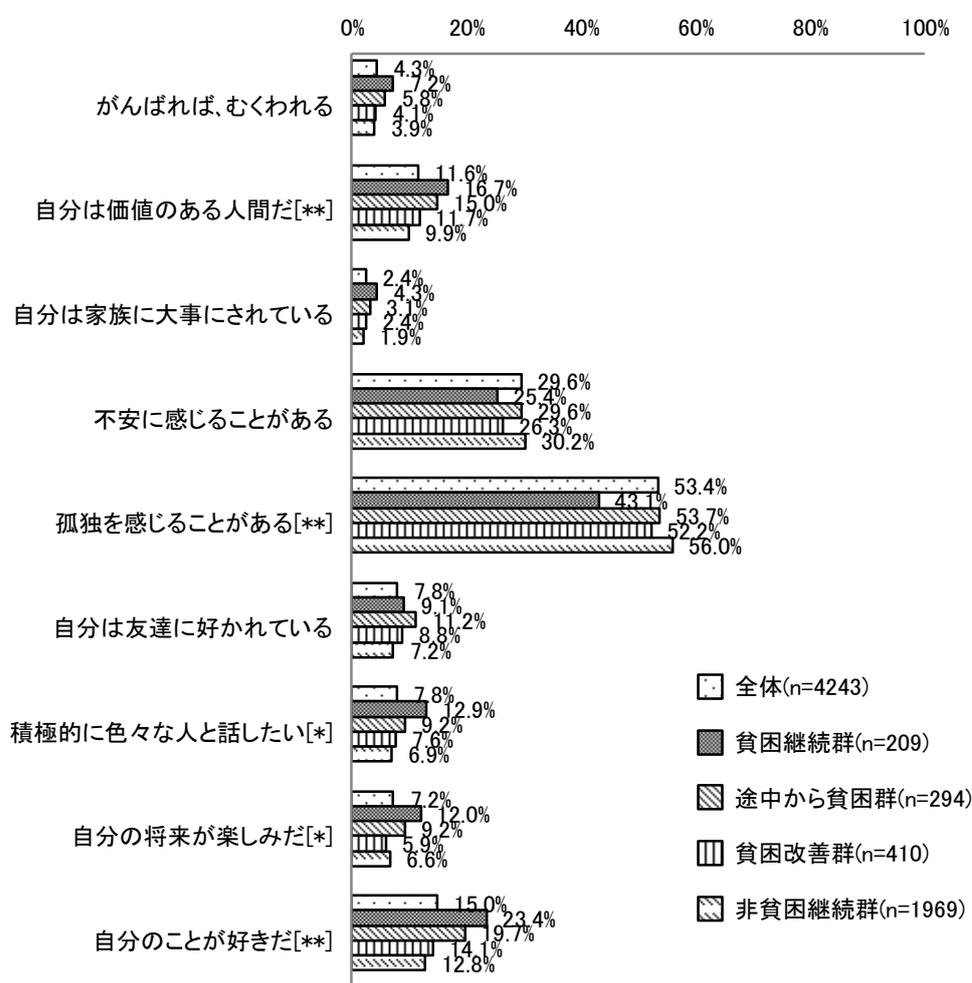
### ③【子ども】Q38 自己肯定感

「思わない」と回答した割合について、貧困継続状況別にみると、小学生では、「自分は価値のある人間だ」、「孤独を感じることもある」、「積極的に色々な人と話したい」、「自分の将来が楽しみだ」、「自分のことが好きだ」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

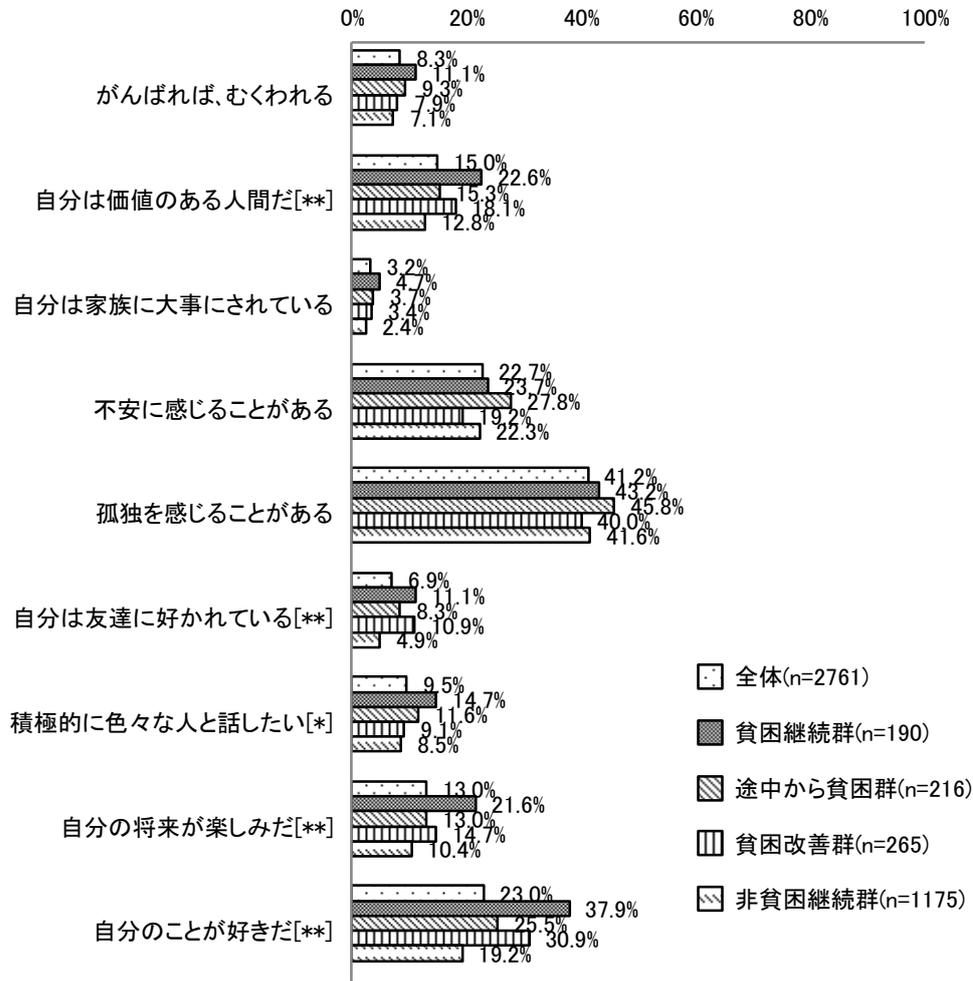
中学生では、「自分は価値のある人間だ」、「自分は友達に好かれている」、「積極的に色々な人と話したい」、「自分の将来が楽しみだ」、「自分のことが好きだ」の割合について、統計的に有意な差がみられる。

図表 281 【子ども】Q38 自己肯定感\_「思わない」の割合（貧困継続状況別）

<小学生>



<中学生>



### (3) 考察

- ここまで、貧困継続状況別に保護者・子どもの状況をみてきた。以下ではその結果を考察する。
- 保護者についてみると、貧困継続群においては、「ひとり親（二世代）」の割合が高く、困ったときに相談する相手や、近隣の友人・知人がいる割合が低い傾向がみられる。
- また、貧困継続群では他と比べて成人前に両親の離婚や親からの暴力を受けていたとする割合が高く、子どもを持つてからは配偶者から暴力を受けたり自殺を考えたことがある、とする割合も高くなっている。さらに、自己肯定感はすべての項目において貧困継続群ほど低い傾向がみられる。
- 子どもについてみると、貧困継続群では将来のために今がんばりたいと思う割合が低く、将来の進学希望も低い傾向がみられる。また、「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」と思わない割合が高い。
- これらより、貧困状況が継続しているほど、保護者自身がつらい経験をしているにもかかわらず、困ったときに相談する相手がおらず、悩みを抱え込んでしまっている可能性がうかがえる。貧困の初期段階の介入が必要であることはもちろんのこと、現在こうした厳しい状況におかれている保護者に対して、支援につなげるためのアウトリーチの取組が重要であると考えられる。

## 2. 保護者の国籍別分析

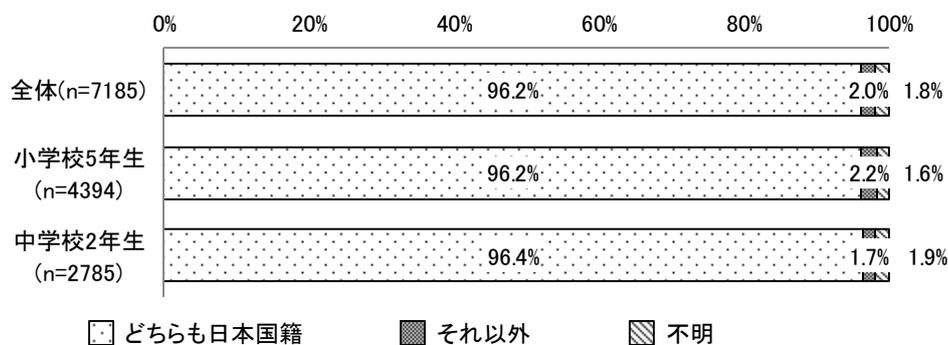
本節では、保護者の国籍によって、保護者や子どもたちが置かれた状況や課題が異なるかどうかを分析した。

分析にあたっては、保護者票問4「父親・母親の国籍」をもとに、以下のとおり①父母ともに日本国籍／それ以外の2区分を作成した。なお、ひとり親の場合は、同居している親の国籍が日本であれば「父母ともに日本国籍」、日本以外であれば「それ以外」に分類した。

		父親国籍	
		日本	日本以外
母親国籍	日本	①父母ともに日本国籍 (ひとり親の場合は同居親が日本国籍)	②それ以外
	日本以外	②それ以外	②それ以外

学年別の保護者国籍の状況は以下のとおりである。

図表 282 【保護者】保護者国籍:単数回答 (学年別)



上記のとおり、「それ以外」のサンプルが少ないため、以降の分析は学年をわけずに行っている。

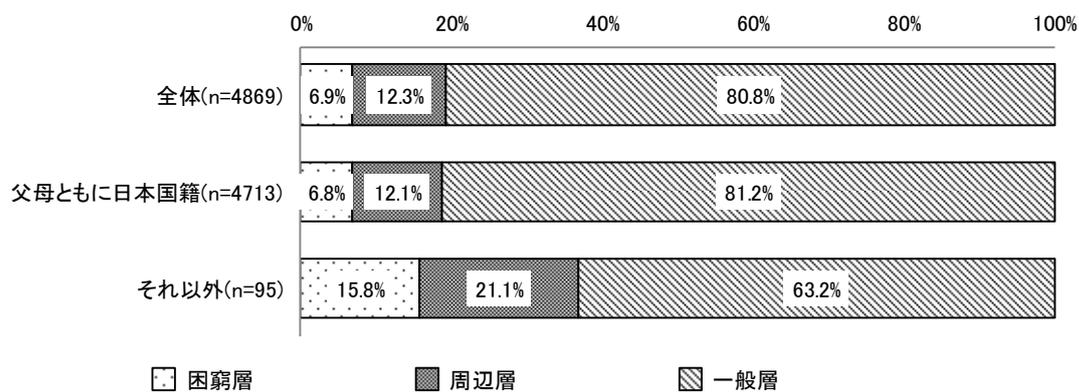
(1) 保護者

①【保護者】生活困難度

保護者国籍別にみると、「困窮層」の割合は、「父母ともに日本国籍」では6.8%であるのに対し、「それ以外」では15.8%となっている。

<保護者全体> (p<.01)

図表 283 【保護者】生活困難度:単数回答(保護者国籍別)

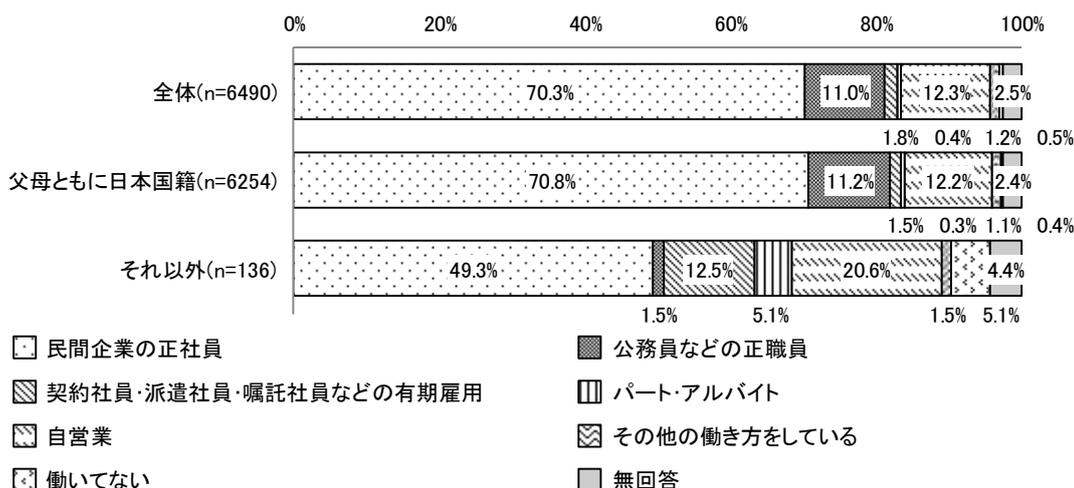


## ②【保護者】 Q13 父親\_現在の就業状況

保護者国籍別にみると、「契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用」の割合は、「父母ともに日本国籍」では1.5%であるのに対し、「それ以外」では12.5%となっている。

<保護者全体> (p<.01)

図表 284 【保護者】 Q13 父親\_現在の就業状況:単数回答 (保護者国籍別)



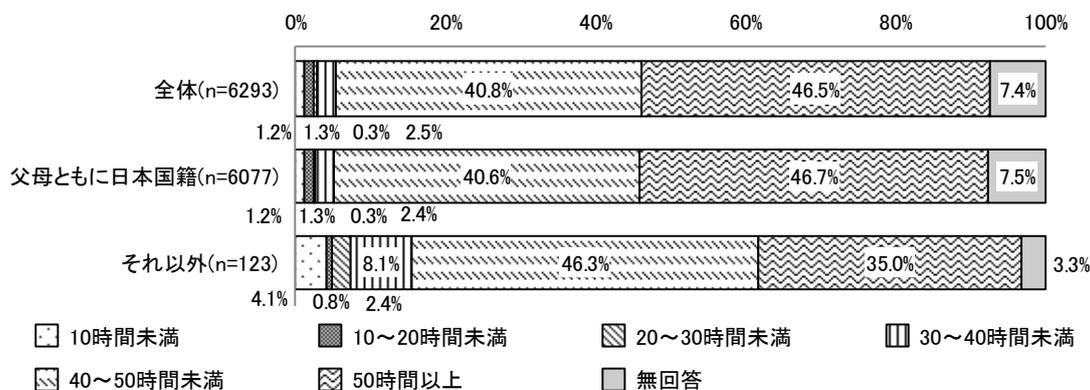
※対象は父親が同居している家庭

## ③【保護者】 Q14 父親\_一週間の平均労働時間

保護者国籍別にみると、「50 時間以上」の割合は、「父母ともに日本国籍」では 46.7%であるのに対し、「それ以外」では 35.0%となっており、全体的に「それ以外」において父親の労働時間が短い傾向がみられる。

図表 285 【保護者】 Q14 父親\_一週間の平均労働時間:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)



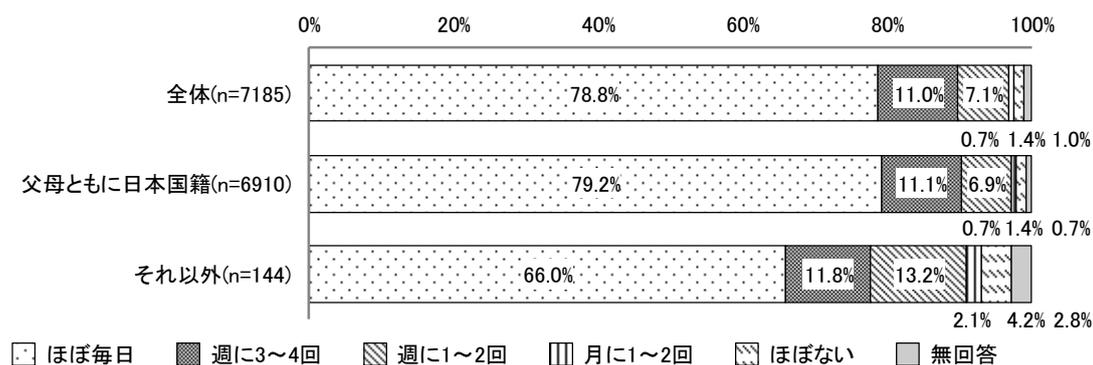
※対象は父親が働いている家庭

④【保護者】Q43-2 子どもとする頻度\_一緒に夕食をたべる

保護者国籍別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、「父母ともに日本国籍」では79.2%であるのに対し、「それ以外」では66.0%となっている。

図表 286 【保護者】Q43-2 子どもとする頻度\_一緒に夕食をたべる:単数回答(保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

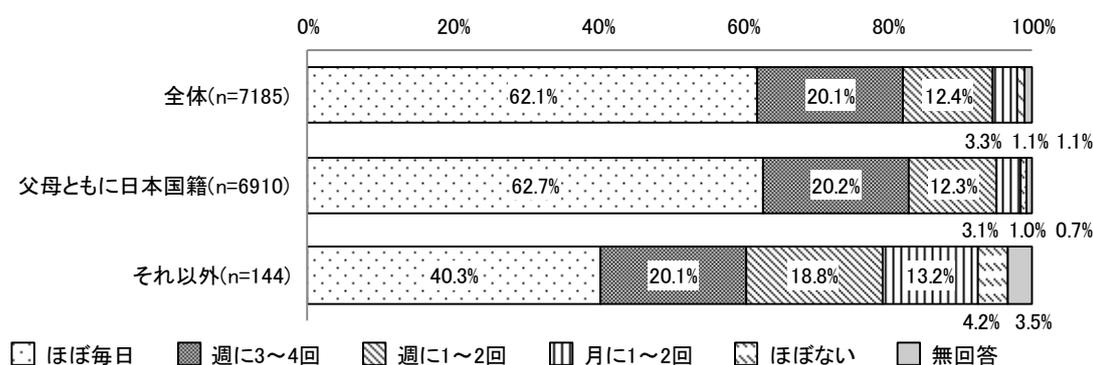


⑤【保護者】Q43-5 子どもとする頻度\_学校生活の話をする

保護者国籍別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、「父母ともに日本国籍」では62.7%であるのに対し、「それ以外」では40.3%となっている。また、「月に1~2回」の割合は「父母ともに日本国籍」では3.1%であるのに対し、「それ以外」では13.2%と約4倍に上る。

図表 287 【保護者】Q43-5 子どもとする頻度\_学校生活の話をする:単数回答(保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

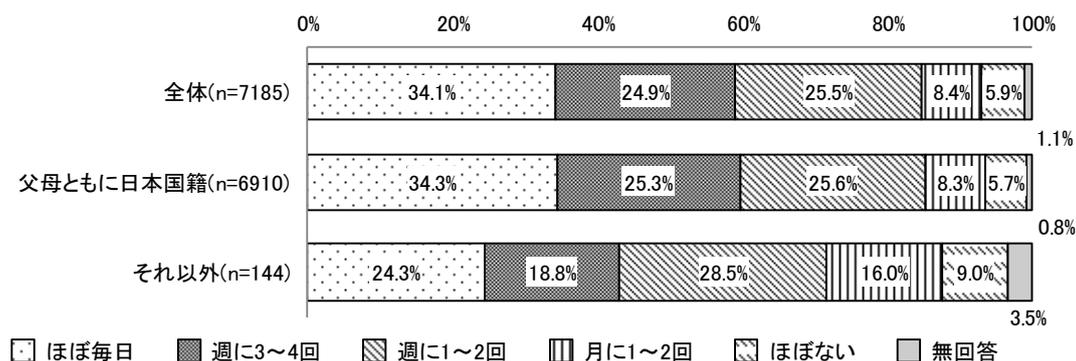


⑥【保護者】 Q43-6 子どもとする頻度\_ニュースなどの社会のできごとについて話す

保護者国籍別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、「父母ともに日本国籍」では 34.3%であるのに対し、「それ以外」では 24.3%となっている。

図表 288 【保護者】 Q43-6 子どもとする頻度\_ニュースなどの社会のできごとについて話す:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

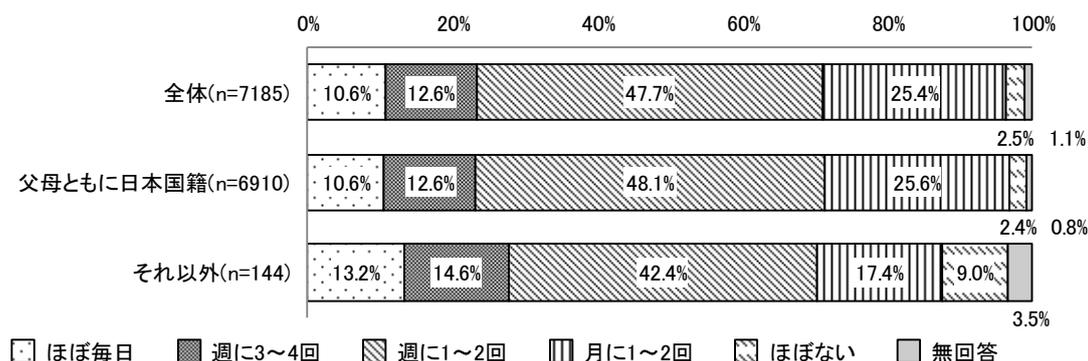


⑦【保護者】 Q43-8 子どもとする頻度\_一緒に外出する

保護者国籍別にみると、「ほぼない」の割合は、「父母ともに日本国籍」では 2.4%であるのに対し、「それ以外」では 9.0%となっている。

図表 289 【保護者】 Q43-8 子どもとする頻度\_一緒に外出する:単数回答 (保護者国籍別)

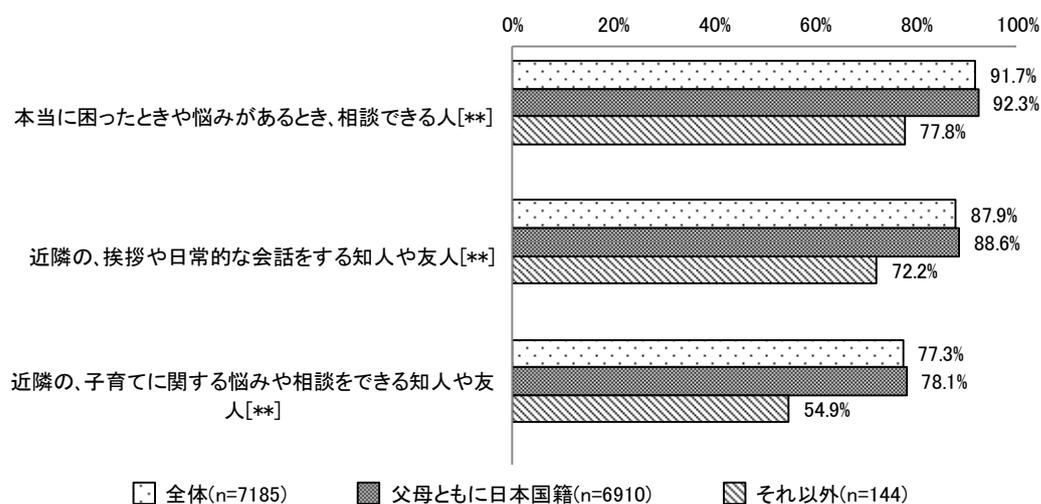
<保護者全体> (p<.01)



⑧【保護者】 Q44～46 相談できる人、知人・友人

保護者国籍別にみると、「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人」「近隣の、挨拶や日常的な会話をする知人や友人」「近隣の、子育てに関する悩みや相談をできる知人や友人」のいずれも統計的に有意な差がみられ、「父母ともに日本国籍」に比べて「それ以外」において「いる」とする割合が低い。特に、「近隣の、子育てに関する悩みや相談をできる知人や友人」については 23.2 ポイントの差がある。

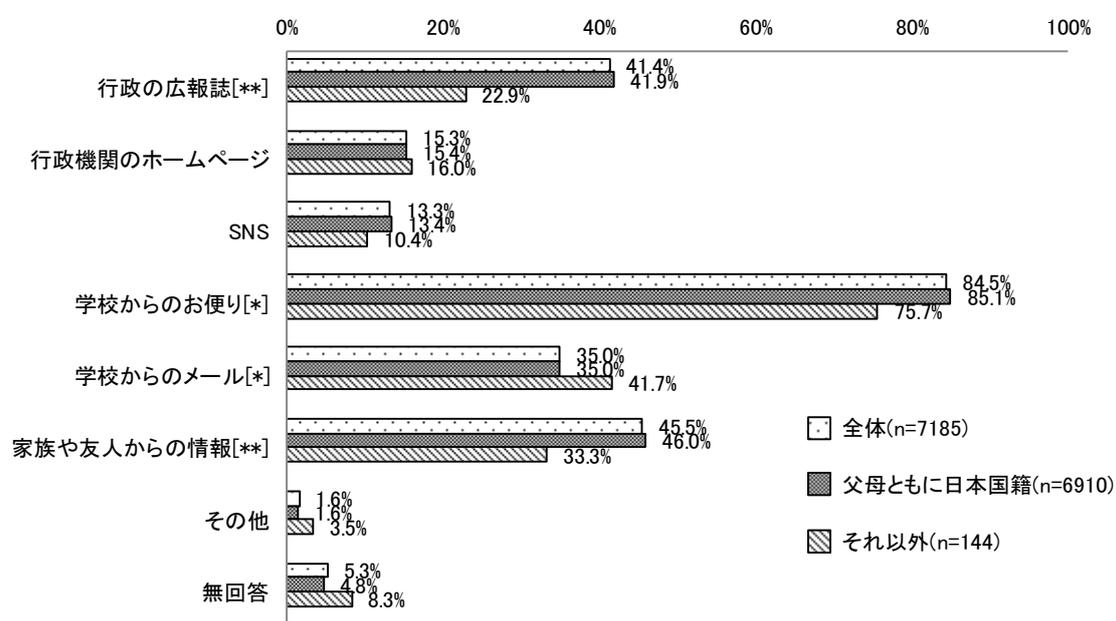
図表 290 【保護者】 Q44 本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいる:単数回答 (保護者国籍別)



⑨【保護者】Q54-1 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り方法\_現在

保護者国籍別にみると、「行政の広報誌」「学校からのお便り」「学校からのメール」「家族や友人からの情報」について統計的に有意な差がみられる。「行政の広報誌」「学校からのお便り」「家族や友人からの情報」は「父母ともに日本国籍」に比べて「それ以外」において情報を受け取っている割合が低い。一方、「学校からのメール」は「父母ともに日本国籍」に比べて「それ以外」において高い割合となっている。

図表 291 【保護者】Q54-1 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り方法\_現在:複数回答 (保護者国籍別)

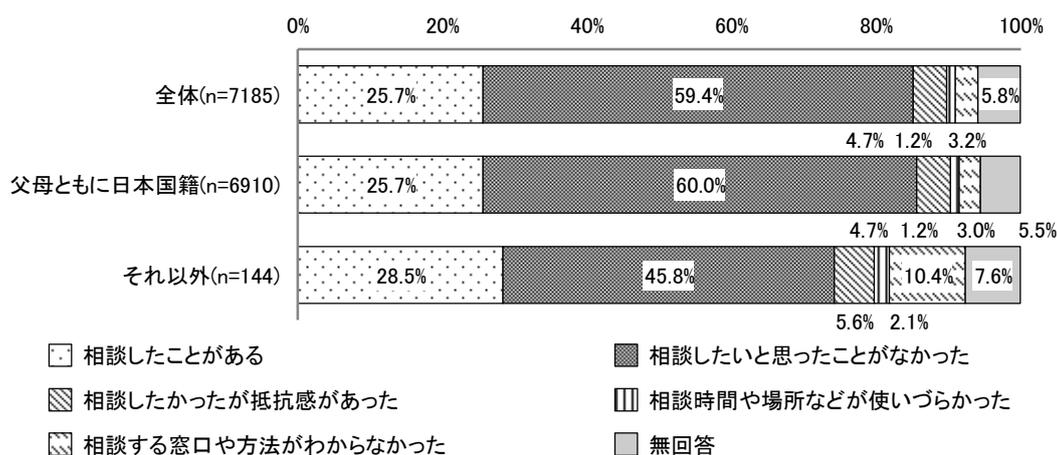


⑪【保護者】Q57-1 相談経験\_市役所、町村役場の窓口

保護者国籍別にみると、「父母ともに日本国籍」に比べて「それ以外」では、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が高い。

図表 292 【保護者】Q57-1 相談経験\_市役所、町村役場の窓口:単数回答（保護者国籍別）

<保護者全体> (p<.01)

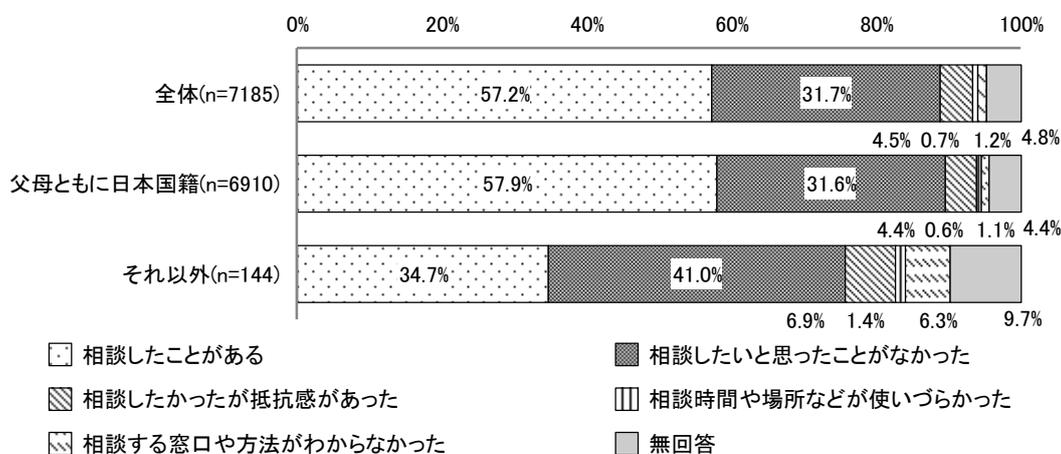


⑫【保護者】Q57-2 相談経験\_学校・保育所・幼稚園の先生

保護者国籍別にみると、「相談したことがある」の割合は、「父母ともに日本国籍」では57.9%であるのに対し、「それ以外」では34.7%と低くなっている。

図表 293 【保護者】Q57-2 相談経験\_学校・保育所・幼稚園の先生:単数回答（保護者国籍別）

<保護者全体> (p<.01)

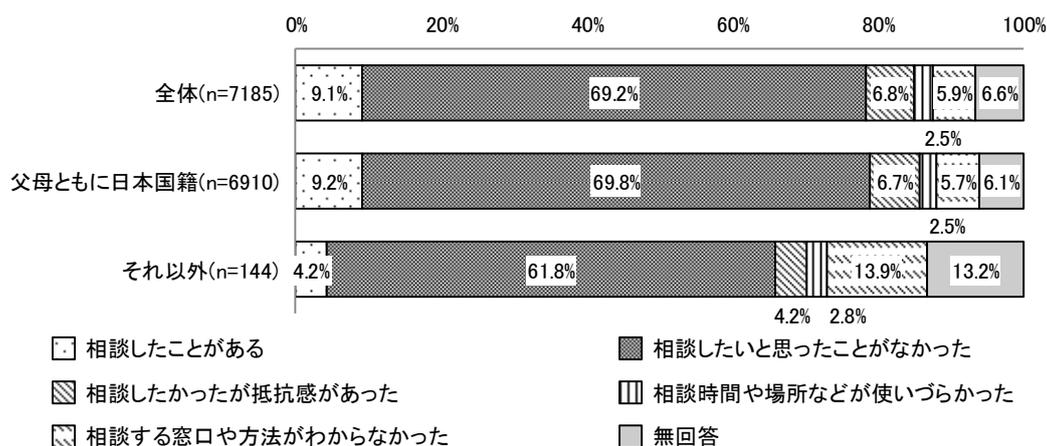


⑬【保護者】Q57-3 相談経験\_スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では5.7%であるのに対し、「それ以外」では13.9%と高くなっている。

図表 294 【保護者】Q57-3 相談経験\_スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

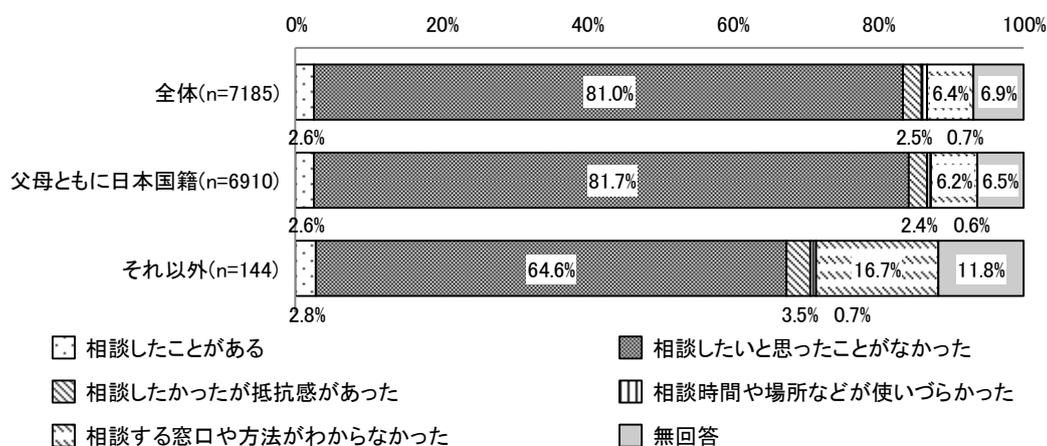


⑭【保護者】Q57-4 相談経験\_民生委員・児童委員

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では6.2%であるのに対し、「それ以外」では16.7%と高くなっている。

図表 295 【保護者】Q57-4 相談経験\_民生委員・児童委員:単数回答 (保護者国籍別)

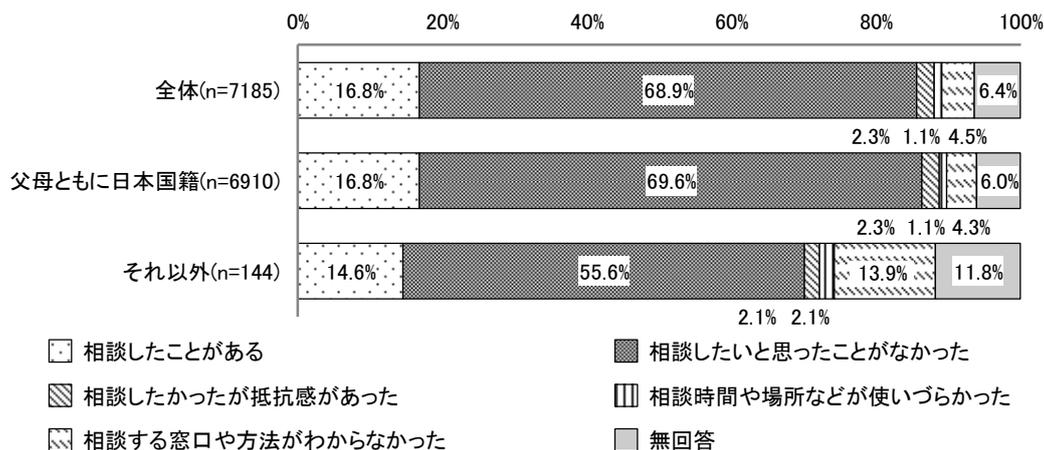
<保護者全体> (p<.01)



⑮【保護者】Q57-5 相談経験\_保健所

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では4.3%であるのに対し、「それ以外」では13.9%と高くなっている。

図表 296 【保護者】Q57-5 相談経験\_保健所:単数回答（保護者国籍別）  
 <保護者全体> (p<.01)

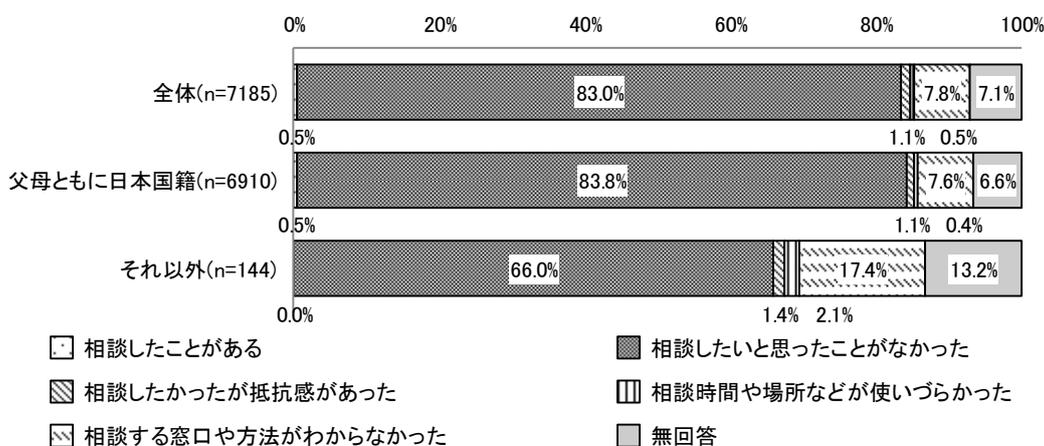


⑯【保護者】Q57-6 相談経験\_中核地域生活支援センター

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では7.6%であるのに対し、「それ以外」では17.4%と高くなっている。

図表 297 【保護者】Q57-6 相談経験\_中核地域生活支援センター:単数回答（保護者国籍別）

<保護者全体> (p<.01)

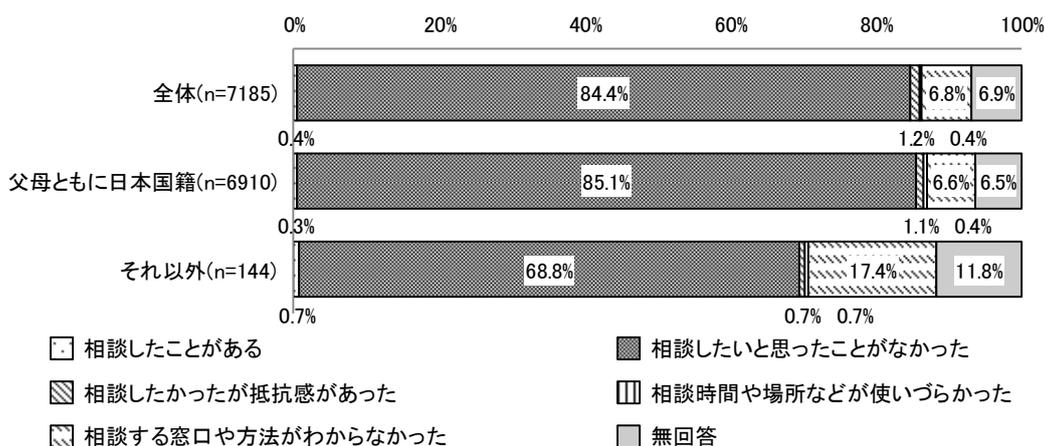


⑰【保護者】Q57-7 相談経験\_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では6.6%であるのに対し、「それ以外」では17.4%と高くなっている。

図表 298 【保護者】Q57-7 相談経験\_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

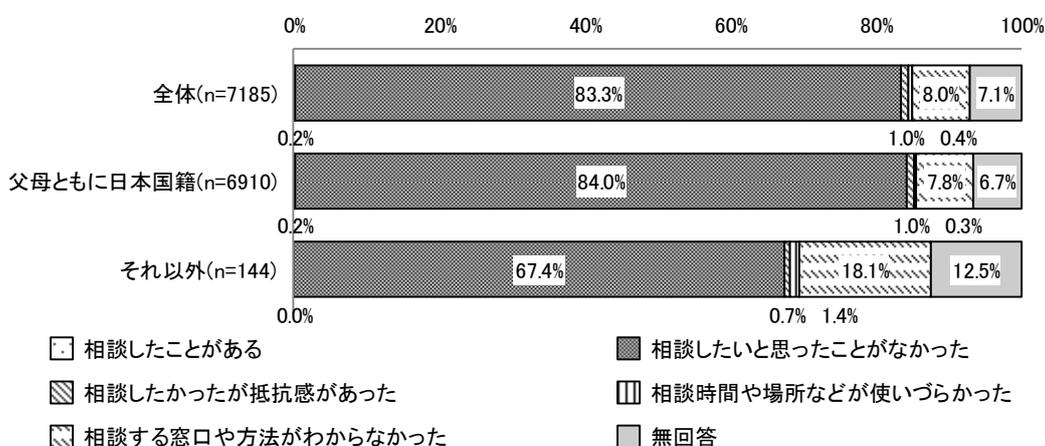


⑱【保護者】Q57-8 相談経験\_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では7.8%であるのに対し、「それ以外」では18.1%と高くなっている。

図表 299 【保護者】Q57-8 相談経験\_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

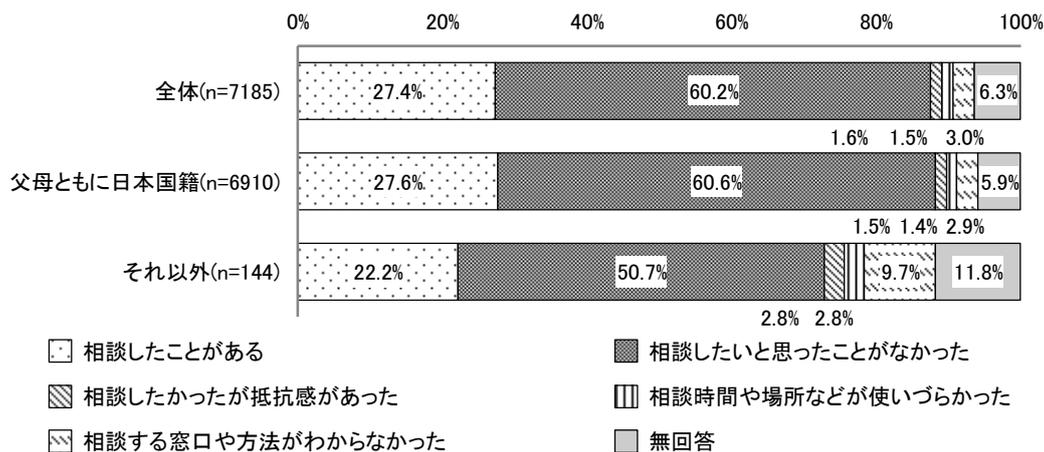


⑱【保護者】Q57-9 相談経験\_ハローワーク

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では2.9%であるのに対し、「それ以外」では9.7%と高くなっている。

図表 300 【保護者】Q57-9 相談経験\_ハローワーク:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

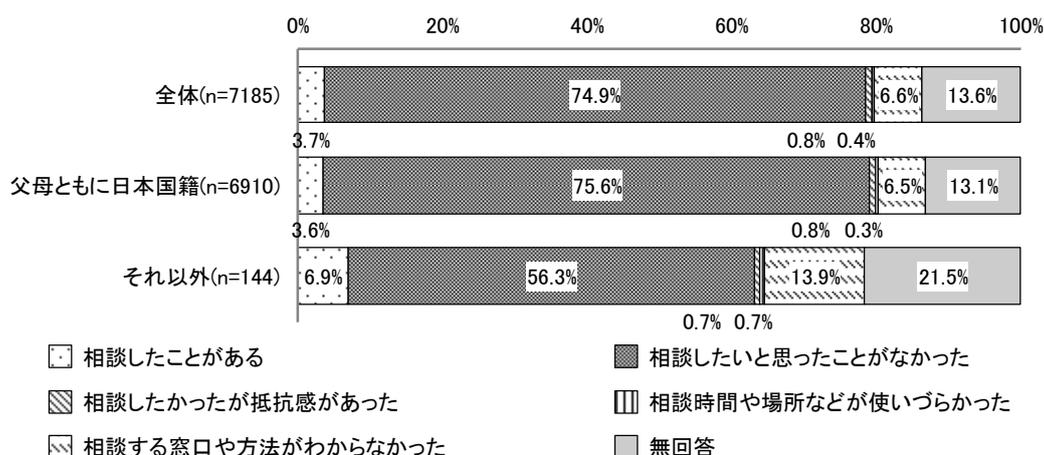


⑳【保護者】Q57-10 相談経験\_上記以外の公的機関

保護者国籍別にみると、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合は、「父母ともに日本国籍」では6.5%であるのに対し、「それ以外」では13.9%と高くなっている。

図表 301 【保護者】Q57-10 相談経験\_上記以外の公的機関:単数回答 (保護者国籍別)

<保護者全体> (p<.01)

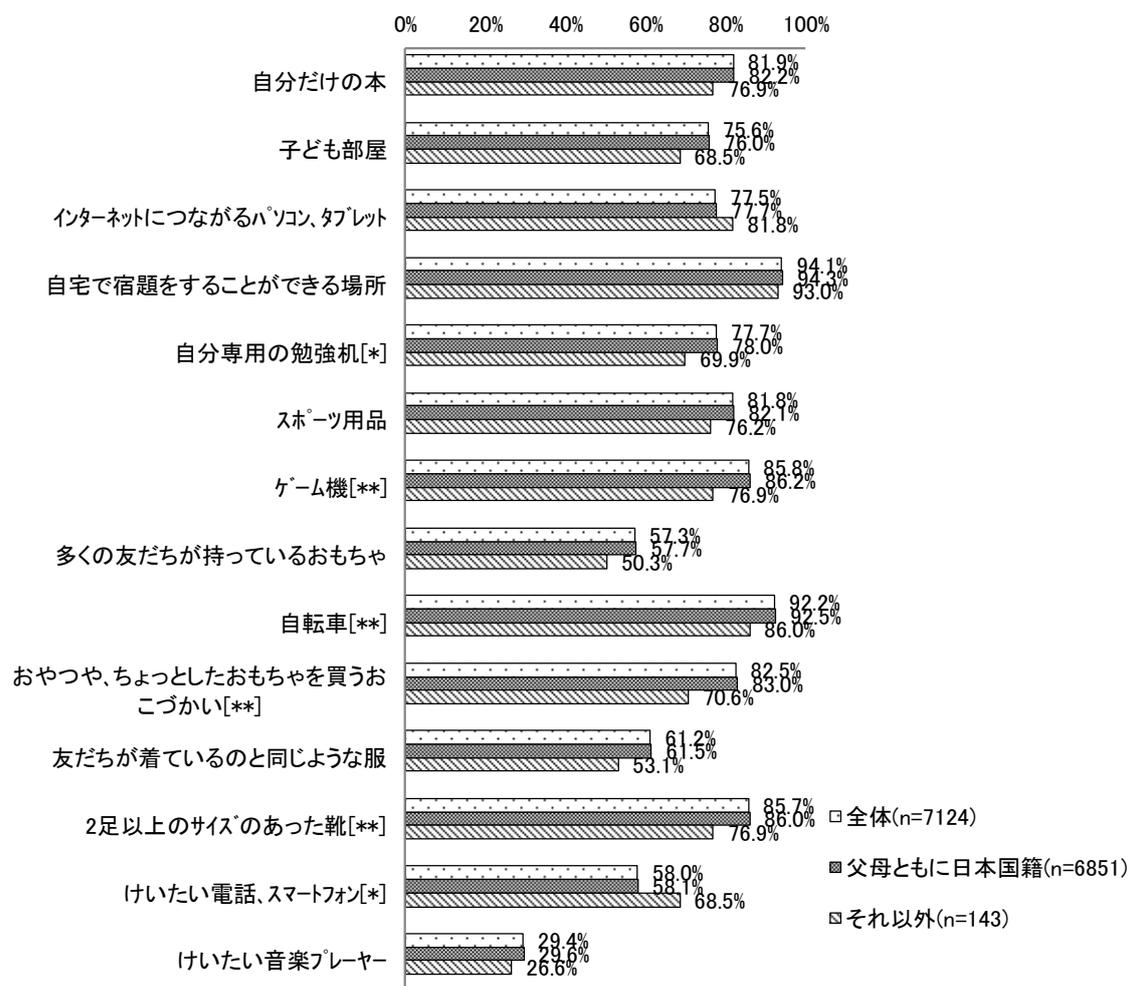


(2) 子ども

①【子ども】Q3 使用できるもの

保護者国籍別にみると、「自分専用の勉強机」「ゲーム機」「自転車」「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」「2足以上のサイズのあった靴」「けいたい電話、スマートフォン」について、統計的に有意な差がみられる。

図表 302 【子ども】Q3 使用できるもの\_「ある」の割合 (保護者国籍別)

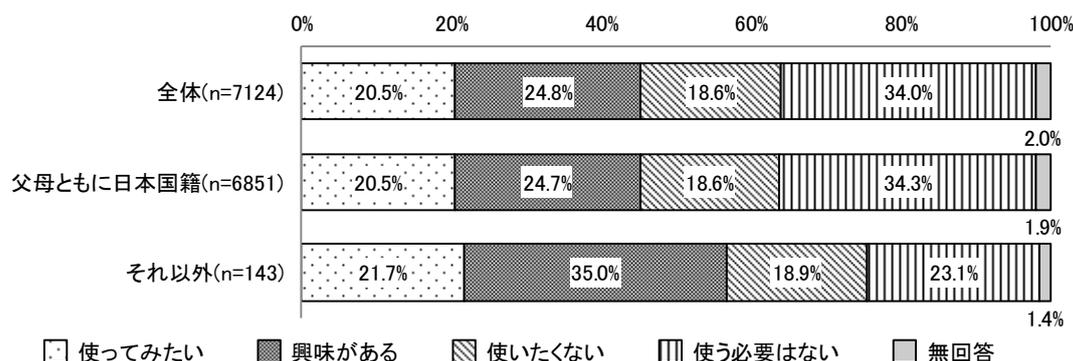


②【子ども】Q39-5 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所

保護者国籍別にみると、「興味がある」の割合は、「父母ともに日本国籍」では24.7%であるのに対し、「それ以外」では35.0%と高くなっている。

図表 303 【子ども】Q39-5 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所:単数回答 (保護者国籍別)

<小中学生全体> (p<.05)

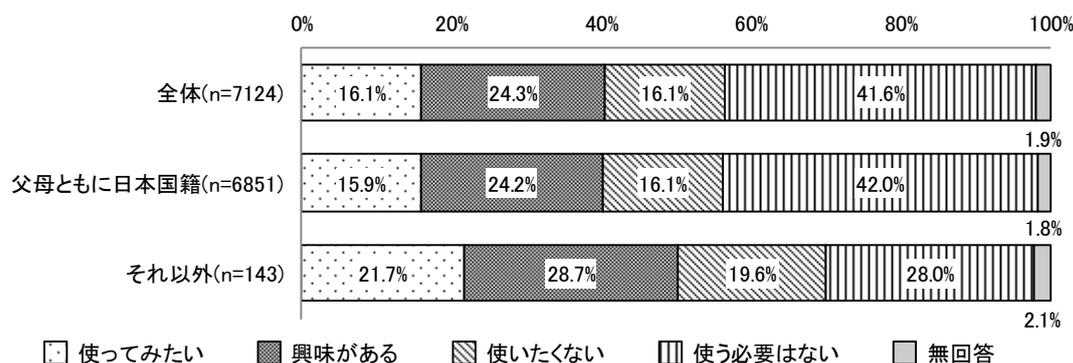


③【子ども】Q39-6 なんでも相談できる場所

保護者国籍別にみると、「使ってみたい」の割合は、「父母ともに日本国籍」では15.9%であるのに対し、「それ以外」では21.7%と高くなっている。

図表 304 【子ども】Q39-6 なんでも相談できる場所:単数回答 (保護者国籍別)

<小中学生全体> (p<.01)

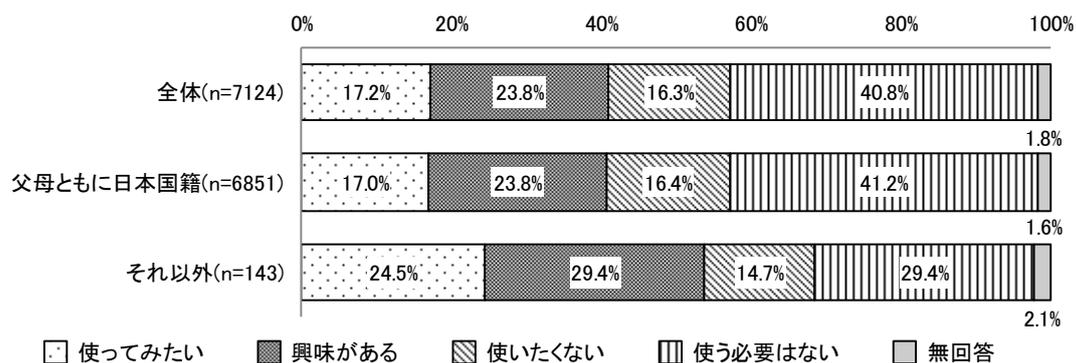


④【子ども】Q39-7 困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人

保護者国籍別にみると、「使ってみたい」の割合は、「父母ともに日本国籍」では17.0%であるのに対し、「それ以外」では24.5%と高くなっている。

図表 305 【子ども】Q39-7 困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人：  
単数回答（保護者国籍別）

<小中学生全体> (p<.01)



### (3) 考察

- ここまで、保護者の国籍別に保護者・子どもの状況をみてきた。以下ではその結果を考察する。
- 保護者についてみると、父母ともに日本国籍の家庭に比べ、それ以外の家庭では困窮層の割合が高く、父親が非正規雇用など不安定な就業状況におかれている傾向がみられる。
- 子どもとの過ごし方をみると、父母とも日本国籍の家庭に比べ、それ以外の家庭では、一緒に夕飯を食べる、学校生活や社会のできごとについて子どもと話す、一緒に外出するといった活動の頻度が低く、子どもとの関わりが少ないことが懸念される。
- また、相談相手の有無や各種機関等への相談経験をみると、父母とも日本国籍の家庭に比べてそれ以外の家庭では、相談できる相手がいる割合が低く、各種機関への相談割合も低い。各種機関については、「相談する方法や窓口がわからなかった」とする割合も高くなっている。
- こうしたことから、保護者に対しては言葉の壁等により相談先の情報が十分に届いていない可能性があるため、情報の伝え方に工夫をする必要がある。
- 保護者が情報を得ている手段として、父母ともに日本国籍の家庭に比べてそれ以外の家庭では「学校からのメール」を挙げている割合が高いことから、こうしたメールを翻訳するといった取組も有効であると考えられる。
- また、子どもの状況をみると、父母ともに日本国籍の家庭に比べてそれ以外の家庭では、全体的に使用できるものの割合が低い傾向がみられる。
- さらに、勉強を教えてくれる場所やなんでも相談できる場所、困ったときに自分のところまで来て相談に乗ってくれる人について使ってみたい、興味があるとする割合が高いことから、こうした外国にルーツを持つ子どもたちに対応した相談支援や学習支援について充実させていく必要があると考えられる。

## IV. 考察

以下では、これまでにみてきた調査結果についてテーマごとに概要を振り返るとともに、今後必要と考えられる施策等に関する考察を行う。

### 1. 子どもの学びの状況

#### (1) 結果概要

- 生活困難度別にみると、子ども部屋や自分専用の勉強机等、自宅での学習環境に関わる項目について、「ある」とする割合が一般層に比べて困窮層ほど低い。(図表 19)
- 学校の授業がわからないと感じる子どもの割合は、一般層では小学生 8.0%、中学生 15.3%であるのに対し、困窮層では小学生 22.9%、中学生 37.0%に上る(「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計)。また、学校の授業以外の勉強時間は、一般層に比べて困窮層ほど短い傾向がみられる。(図表 26、図表 32)
- 学習塾や家庭教師を利用していない子どもの割合は、小学生では一般層 55.0%に対して困窮層 75.3%、中学生では一般層 36.4%に対して困窮層 64.9%と大きな差がみられる。(図表 35)
- 将来の進学希望について、「大学またはそれ以上」と回答した中学生の割合は、一般層では 52.0%であるのに対し、困窮層では 24.5%にとどまる。また、将来子どもに受けさせたい教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した保護者の割合は、小中学生とも一般層では約 60%、困窮層では約 30~40%となっている。(図表 23、図表 37)
- 世帯タイプ別にみると、小学生において、勉強がわからないときに教えてもらう人として「親」を挙げる割合は、ふたり親世帯では約 80%程度であるのに対し、ひとり親世帯では約 65%となっている。(図表 29)
- クラスの中での成績について、「下のほう」と回答する割合は、小中学生ともふたり親世帯よりもひとり親世帯で高くなっている。(図表 31)

#### (2) 考察

- 困窮状況や世帯タイプによって自宅の学習環境や通塾状況、勉強を教えてくれる人の有無等に差がみられることから、自宅で学習できる場所が無い子どもや、勉強を教えてくれる人がいない子どもに対して学習をサポートする環境を地域に整備する必要があると考えられる。
- また、貧困を理由に進学を諦めることがないように、就学に関する経済的な支援制度の情報を早期に提供するなど、子どもが意欲的に学習できる環境を整備する必要がある。

## 2. 生活困窮の状況

### (1) 結果概要

- 住居の状況をみると、一般層に比べて困窮層では、「民間の賃貸住宅」に居住している割合が高い。また、部屋数が少なく部屋の広さが狭い傾向がみられる。世帯タイプ別では、ひとり親（二世帯）世帯において、「民間の賃貸住宅」の割合が約40%となっているのに対し、ふたり親世帯やひとり親（三世帯）世帯ではいずれも10%未満であり、大きな差がみられる。（図表 39～図表 44）
- 教育にかかる費用について、学校でかかる費用は生活困難度による差は大きくないが、学校外での費用については、一般層に比べて困窮層で低い。（図表 49、図表 51）
- 困窮層では、家族が必要とする食料を買えなかった経験が「よくあった」割合が約20%、衣類が買えなかった経験が「よくあった」割合が約35%にのぼる。また、経済的な理由により子どもが自宅で宿題をすることができる場所がないという割合も困窮層では小学生で22.4%、中学生で16.9%となっている。経済的な理由で子どもを学習塾に通わせられないという割合も、困窮層では60～70%となっている（図表 53、図表 55、図表 59、図表 63）。
- 世帯タイプ別では、ひとり親（二世帯）の世帯において、経済的な理由で支払いができなかった経験や、子どもにしてあげられなかった経験がある割合が高い傾向がみられる。また、現在の生活が「やや苦しい」「大変苦しい」とする割合は、ひとり親（二世帯）で約60%にのぼる。（図表 58、図表 62、図表 64）
- 10年前の生活が大変苦しいと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 70）
- 一方で、子どもの所有品をみると、小学生における「ゲーム機」や、小中学生における「けいたい電話・スマートフォン」など、所有率に困窮状況による有意な差がみられないものもある。（図表 19）

### (2) 考察

- 困窮状況により住居や物品の所有状況に差がみられ、子どもの学習や日常生活にも影響が出ていることが推測される。特に、食料や衣類といった日常生活に不可欠なものが買えなかった経験があるという家庭も一定数みられ、子どもの健康状態への影響が懸念される。
- 一方で、ゲーム機やスマートフォンなど、困窮状況による差がみられないものもあることから、所有しているものや外見だけでは判断できないことも留意が必要である。
- ふたり親世帯と比べてひとり親世帯（特に二世帯の世帯）では、経済的に困窮した状況に置かれている傾向がみられるため、優先的な支援が必要であると考えられる。
- 生活の困窮は長期に渡り継続している傾向があり、急に始まるものではないため、困窮の初期段階に気づき、適切な支援を早期に行う必要がある。

### 3. 子どもの生活の状況

#### (1) 結果概要

- ひとり親（二世帯）世帯の場合、小学生において平日の放課後にひとりであるという割合が他と比べて高い。（図表 79）
- ほっとできる居場所が無いと回答した子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 92-1）
- 1日にゲーム機で遊ぶ時間が2時間以上という割合は、一般層では小中学生とも約20%であるのに対し、困窮層では小学生で約40%、中学生で約30%となっている。（図表 95）
- 小学生について、平日はほぼ同じ時刻に起床していると回答した子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。また、午前0時以降に就寝すると回答した子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 106、図表 107）
- 平日に毎日朝ご飯を食べる割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。（図表 109）
- 野菜を毎日食べる子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、約20ポイントの差がある。また、世帯タイプ別ではひとり親（二世帯）世帯で他と比べて低い傾向がみられる。（図表 115、図表 116）
- 居場所の利用意向をみると、小学生では平日放課後や休日にいることができる場所を使ってみたいという割合が一般層に比べて困窮層ほど高い。世帯タイプ別では、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯で高い。（図表 127～図表 130）

#### (2) 考察

- 困窮層の子どもほど、食事や睡眠などの基本的な生活習慣において課題がみられることから、子どもの食事や睡眠など、生活習慣を整える支援が必要であるとともに、子どもが安心できる居場所の確保について検討する必要がある。
- また、ひとり親世帯（特に二世帯）の子どもは、平日の放課後にひとりで過ごしている割合が高く、平日放課後や休日に過ごせる場所を求めていることから、こうした層を対象とした支援が重要である。
- さらに、子どもへの食の支援や子供が安心できる居場所づくりに取り組んでいる多くの団体への支援の在り方についても検討する必要がある。

#### 4. 子ども及び保護者の健康・自己肯定感

##### (1) 結果概要

- 子どもの抑うつ状況をみると、一般層に比べて困窮層の方が抑うつ傾向にある子どもの割合が高い。(図表 138)
- 身体の症状は、特に中学生において、困窮層で「よく頭が痛くなる」と感じている子どもの割合が高い。(図表 139)
- 「自分は価値ある人間だ」「自分のことが好きだ」と思わない子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 140)
- 子どもを医療機関で受診させた方が良かったと思っただが、実際には受診させなかったことがあったと回答した保護者の割合は、一般層に比べて、困窮層の方が高く、理由としては医療保険の未加入や自己負担金の支払いが困難であることがあげられている。(図表 142、図表 143)
- 健康状態が良いと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 144)
- 健康診断やがん検診を定期的に受けていると回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、費用面を利用に挙げる割合が高い。(図表 152、図表 153)
- 「自分は価値ある人間だ」「自分のことが好きだ」と思わない保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 150)
- 貧困の継続状況別にみると、特に貧困継続群において、全体的に保護者の自己肯定感が低い傾向がみられる。子どもにおいても、保護者ほどの差ではないが、やはり貧困継続群において同様の傾向がみられる。(図表 278、図表 281)

##### (2) 考察

- 困窮層ほど、費用負担を理由として子どもの医療機関受診や保護者自身の健康診断等の受診を抑制する傾向がみられる。このことにより、健康状態の悪化が懸念され、医療費負担の増大や保護者が働けなくなるリスクが高まり、状況がより深刻になる可能性がある。
- また、保護者自身の自己肯定感が、困窮層においては低いことを踏まえると、子どもの自己肯定感が高められない家庭があることが推測される。特に、困窮状況が長く続いている家庭においてそうした傾向がみられることから、貧困初期段階での早期介入の重要性がうかがわれる。

## 5. 保護者と子ども・地域との関わり

### (1) 結果概要

- おうちの大人と一緒に朝食を食べる機会が「ほぼ毎日」と回答した子どもの割合は、一般層では小学生 64.2%、中学生 49.6%であるのに対し、困窮層では小学生 52.3%、中学生 33.8%となっており、困窮層ほど低い傾向がみられる。(図表 158)
- おうちの大人に勉強をみてもらう機会や、学校生活・ニュースなどの社会のできごとについて話をする機会が「ほぼない」と回答した子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 162、図表 166、図表 168)
- 本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる相手や、近隣で挨拶や日常会話をする知人・友人、子育てに関する悩みを相談できる知人・友人が「いる」と回答した保護者の割合は、いずれも一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 180)
- こうした相談相手がいる割合は、貧困が継続しているほど低い傾向がみられる。(図表 274)
- また、保護者の両方またはいずれかが外国籍の場合、両親ともに日本国籍の場合に比べて、子どもと食事をとったり話をしたりする頻度が低い。(図表 286～図表 289)
- こうした外国籍家庭は、悩みを相談できる相手や近隣の友人・知人が「いる」と回答する割合も低い。(図表 290)

### (2) 考察

- 困窮層の家庭は家族間のコミュニケーションや外部とのコミュニケーションが少なく、孤立している可能性がうかがわれる。相談できる相手がいない世帯は、困窮の初期段階にあっても周囲が気づかず見落とされてしまい、困窮の問題が雪だるま式に肥大化してしまう可能性があるため、相談支援体制の充実や相談窓口のより効果的な周知の方法を検討する必要がある。
- 子どもに対しても居場所支援等を通じて親以外の大人とのコミュニケーション機会を確保していくことが重要である。
- また、保護者が外国籍である場合、日本国籍の場合に比べて子どものとのコミュニケーションが少ない傾向がみられる。この背景には、外国籍保護者の多忙さだけでなく、親子間で日本語と母語の使用に差が生じ、コミュニケーションが難しくなっていることも一因として想定される。
- 加えて、外国籍の保護者の場合、相談相手や近隣の友人・知人がいないという割合も高いため、周囲からのサポートが得られないまま、親子のコミュニケーションが少なく子どもが孤立してしまうという可能性が懸念される。
- そのため、こうした外国籍家庭の保護者・子どもに対しても相談支援や居場所支援等をより充実させる必要がある。

## 6. 保護者のこれまでの経験

### (1) 結果概要

- 両親の最終学歴をみると、父母ともに「中学校卒業」または「高等学校卒業」という割合が一般層に比べて困窮層で高い。特に母親では、「中学校卒業」という割合が一般層では約1%程度であるのに対し、困窮層では約12~13%と大きな開きが見られる。(図表 182、図表 184)
- 15歳頃の暮らし向きが「やや苦しかった」「大変苦しかった」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い(図表 188)。
- 成人前の体験をみると、一般層に比べて困窮層では「両親が離婚した」という割合が高い。また、困窮層では「親から暴力を振るわれた」という割合も1割を超えている。(図表 189)
- 子どもを持つてからの経験として、「配偶者から暴力をふるわれたことがある」「子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層で高く、いずれも約20%となっている。また、特に小学生保護者の困窮層では「わが子を虐待しているのではないかと思悩んだことがある」という割合が約30%にのぼっている。(図表 191)
- 困窮層では「自殺を考えたことがある」という保護者の割合も一般層に比べて高く、約20%にのぼる。(図表 191)
- 貧困の継続状況別にみると、貧困継続群では、他に比べて成人前に両親の離婚や親からの暴力を経験している割合が高い。また、子どもを持つてからは配偶者に暴力をふるわれたり自殺を考えたことがあるとする割合が高くなっている。(図表 276、図表 277)

### (2) 考察

- 困窮家庭では、保護者自身が子ども時代に親からの暴力を受けたり経済的に困窮していたりと厳しい家庭環境にあり、一般家庭に比べると教育水準にも差が見られる。
- また、困窮している家庭ほど配偶者からの暴力や子どもへの暴力などが起きている傾向もみられることから、経済状況だけでなく、子どもの育つ環境そのものも負の連鎖が生じている可能性が示唆される。
- こうした負の連鎖を断ち切り、子どもが置かれた環境によらず夢や希望をもつことができるようにするためには、子どもだけでなく保護者に対する相談支援等を充実させることが必要であると考えられる。

## 7. 保護者の就労状況

### (1) 結果概要

- 父母ともに、正社員・正職員の保護者の割合は一般層に比べて困窮層の方が低い。(図表 193、図表 203)
- 早朝、夜勤、深夜勤務など平日の日中以外の勤務がある保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。(図表 199、図表 207)
- 中学生において、困窮層の父親は一般層に比べて平均労働時間が 20 時間未満の割合が高い。(図表 205)
- 世帯タイプ別にみると、ふたり親世帯に比べて母子世帯(母親がいるひとり親世帯)の場合、母親が正社員・正職員として働いている割合が高い。一方、母子世帯であっても、パート・アルバイトとして働いている割合は約 30~40%であり、収入が低い層も一定数みられる。(図表 194、図表 202)
- 母親の労働時間をみると、ふたり親世帯に比べて母子世帯では 40 時間以上の割合が半数以上を占めている。(図表 198)
- 一方、父親ではふたり親世帯と父子世帯とで就業状況に大きな差はみられず、いずれも正社員・正職員として働く割合が約 60~70%となっている。労働時間は、ふたり親世帯に比べると父子世帯で短い傾向にあるが、それでも 40 時間以上が 90%以上を占めている。(図表 204、図表 206)
- 世帯タイプ別に就業状況と生活困難度の関連をみると、母子世帯で母親が非正規雇用または自営業の場合、困窮層の割合が約 30%にのぼっている。また、母子世帯では母親が正規雇用であっても、困窮層の割合が約 15%と他に比べて高い。(図表 195)
- また、ふたり親で両親が共働きをしても、どちらも非正規雇用の場合は困窮層の割合が 14.3%となっている。どちらも正規雇用の場合は 2.2%にとどまる。(図表 196)

### (2) 考察

- 困窮層の場合、保護者の勤務時間帯が早朝や深夜など不規則である傾向がみられることから、子どもと過ごす時間を十分に確保することが難しくなっていることが推測される。職を得ることや収入を安定させることは重要であるが、そのことだけに留まらず、保護者が早朝勤務や深夜勤務をしても、子どもが健やかに育つような環境づくりが必要である。
- また、母子世帯の場合は父子世帯に比べて親が非正規雇用である割合が高く、世帯の困窮につながっていると考えられる。また、ふたり親世帯で共働きをしても、いずれも非正規雇用の場合は困窮層の割合が高くなっている。こうしたことから、非正規雇用で働く保護者に対する支援が必要であると考えられる。
- 母子世帯・父子世帯とも、一週間の労働時間が 40 時間を超えている割合が高く、父子世帯では 50 時間以上という割合も少なくないことから、子どもと過ごす時間の確保が懸念される。困窮層への支援と同様に、子どもの育つ環境への配慮が求められる。

## 8. 経済的支援制度の利用状況

### (1) 結果概要

- 就学援助費の利用状況をみると、「現在利用している」「利用したことがある」を合わせた割合は、困窮層で約 30%、周辺層で約 20%となっている。小学生保護者の困窮層では、「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」という割合がそれぞれ約 8%である。(図表 219)
- 生活福祉資金について「制度等について全く知らなかった」とする割合は、困窮層で約 20~30%となっている。(図表 228)
- また、ひとり親世帯における母子・父子・寡婦福祉資金の利用状況をみると、約 20%が「制度等について全く知らなかった」と回答している。(図表 226)

### (2) 考察

- 困窮層における就学援助費や生活福祉資金、ひとり親世帯における母子・父子・寡婦福祉資金など、現在または将来的に利用可能性があるにもかかわらず、制度を知らないという保護者が一定数存在している。
- こうしたことから、支援が必要なすべての家庭に必要な情報が提供できるよう、各支援制度の情報をわかりやすく伝える方法を検討するとともに、利用しやすい制度設計を検討していく必要がある。

## 9. 子育て支援制度・相談機関の利用状況

### (1) 結果概要

- 子どもに関する支援制度等の情報受け取り方法でもっとも割合の高いものは「学校からのお便り」であり、生活困難度によらず保護者の約 80～90%が挙げている（ただし、小学生保護者については困窮層においてやや低い）。（図表 233）
- 一方、「行政の広報誌」や「家族や友人」から情報を得ている割合は、一般層よりも困窮層の方が低い。（図表 233）
- 今後の情報の受け取り方法として、困窮層では一般層に比べて「SNS」を挙げる割合が高い。（図表 234）
- 保護者の両方またはいずれかが外国籍の場合は、どちらも日本国籍の場合に比べて「行政の広報誌」や「家族や友人」から情報を得ている割合が低い。「学校からのお便り」についても、どちらも日本国籍の場合は 85.1%であるのに対し、外国籍の場合は 75.7%とやや低い。（図表 291）
- 子育て支援制度・サービスの利用状況を見ると、いずれの制度においても「利用の仕方がわからなかった」「制度等について全く知らなかった」と回答する割合が、一般層に比べて困窮層で高い。（図表 235～図表 249）
- また、子育て支援制度・サービスの中で保護者が「利用したことはないが興味がある」と回答した割合がもっとも高いのは「学校以外が実施する学習支援」で、特に小学生保護者においては困窮層・周辺層で関心が高い傾向がみられる。（図表 251）
- 公的機関等の中で相談経験があると回答した割合がもっとも高いのは「学校・保育所・幼稚園の先生」であり、保護者全体の約 60%が相談したことがあると回答している。一方で、学校・保育所・幼稚園の先生に対して「相談したかったが抵抗感があった」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方で高くなっている。（図表 254）
- また、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーに対して「相談したかったが抵抗感があった」「相談時間や場所などが使いづらかった」「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した保護者の割合は一般層に比べて困窮層で高く、約 30%にのぼる。（図表 256）
- 保護者の両方またはいずれかが外国籍の場合、いずれの相談機関においても「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。また、学校・保育所・幼稚園の先生に相談したことがある割合は、どちらも日本国籍の場合 57.9%であるのに対し、外国籍の場合は 34.7%となっており、約 20 ポイントの差がみられる。（図表 292～図表 301）

## (2) 考察

- 子どもに関する支援制度等の情報の受け取り先や、相談する先としていずれも学校が中心となっているが、困窮層ほど学校への相談に対して抵抗感を感じ、相談できていない可能性がある。支援を求めている自分から声をあげられない保護者や子どもに気付き、早期に支援につなげる体制の整備が必要である。
- 各支援サービスの中で、利用したことはないが興味があるという回答が多いものについては、必要な人に支援が届いていない可能性があるため、提供しているサービスの過不足量や周知の方法について検討していく必要がある。
- また、保護者の両方またはいずれかが外国籍である場合、両方が日本国籍の家庭に比べると情報が届きづらく、相談したくても窓口や方法がわからないという課題を抱えている可能性が高い。こうした家庭に対しては、情報提供の方法や内容について配慮をする必要がある。



## ＜参考資料＞

小中学生用調査票

保護者用調査票

じったいちようさ  
子どもの生活実態調査  
ようし  
(子ども用のアンケート用紙)



小学生・中学生の皆さんへお願い

- ◆これは、皆さんの夢や悩み、生活状況などを調べるためのアンケートです。
- ◆このアンケートには、小学生や中学生のあなたが自分で書いてください。  
おうちの方に見せなくても大丈夫です。
- ◆名前は書かないでください。
- ◆答えたくない質問や、わからない場合には、答えなくてよいです。  
そのまま次の質問に進んでください。
- ◆全部書き終わったら、児童・生徒用と書かれた小さい封筒に入れて、テープ  
でとじてください。それをおうちの方のアンケートと一緒に、大きい封筒に  
入れて郵便で送ってください。
- ◆回答について、個人が特定されることはありません。また、調査の目的  
以外には使用しません。

この調査は、お住まいの市町村のご協力のもと、千葉県が実施して  
います。調査は、千葉県が三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)にお願い  
しています。

調査に関して聞きたいことなどがあれば、以下まで連絡してください。

お問い合わせ電話番号：043-223-2309

千葉県 健康福祉部健康福祉指導課 自立支援班

(9:00~12:00、13:00~17:00 土日・祝日をのぞく)

せいかつじったいちょうさ  
**子どもの生活実態調査（子ども用）**

問1 あなたはしょうがくせい小学生ですか、それともちゅうがくせい中学生ですか。（あてはまる番号1つに○）

- 1 小学生      2 中学生

問2 あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- 1 男子      2 女子

問3 あなたには自分が使うことができる、以下のものがありますか。

ある場合は「1 ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2 ほしい」、  
 いらないと思うものであれば「3 ほしくない」に○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）	1	2	3
B 子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）	1	2	3
C（自宅）でインターネットにつながるパソコン、タブレット	1	2	3
D 自宅で宿題をすることができる場所	1	2	3
E 自分専用の勉強機	1	2	3
F スポーツ用品（サッカーボールやラケットなど）	1	2	3
G ゲーム機	1	2	3
H 多くの友だちが持っているおもちゃ	1	2	3
I 自転車	1	2	3
J おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい	1	2	3
K 友だちが着ているのと同じような服	1	2	3
L 2足以上のサイズのあった靴	1	2	3
M けいたい電話、スマートフォン	1	2	3
N けいたい音楽プレイヤー	1	2	3

問4 あなたは、<sup>しょうらい</sup> 将来の<sup>ゆめ</sup> 夢や<sup>もくひょう</sup> 目標がありますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ある 2 ない

問5 将来の夢や目標が「2 ない」と答えた人におききます。  
「ない」と答えた理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 もうすべてに満足しているから 2 何も思いうかばないから  
3 夢や目標なんてかなわないと思うから 4 わからない

問6 将来のために、今頑張りたいと思いますか？(あてはまる番号1つに○)

- 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う  
3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

問7 【この質問は中学生だけが答えてください。小学生は問8に進んでください。】

あなたは、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- 1 中学まで 2 高校まで 3 短大・高専・専門学校まで  
4 大学またはそれ以上 5 まだわからない

問8 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 学校の友だち  
2 学校はいっしょではないが、近所に住んでいる友だち  
3 学校外のスポーツチームやクラブの友だち  
4 塾や習い事の友だち  
5 インターネット上(SNS上)の友だち  
6 その他の友だち  
7 とくに仲の良い友だちはいない

問9 あなたはふだん、<sup>たの</sup>楽しいことや<sup>かな</sup>悲しいこと、<sup>こま</sup>困っていることや<sup>なや</sup>悩みごとを、他の人に どれくらい話しますか。電話、メール、LINE も「話した」と考えて教えてください。

(それぞれ、<sup>ばんごう</sup>あてはまる番号 1 つに○)

	よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない
A 親	1	2	3	4
B <sup>きょうだいしまい</sup> 兄弟姉妹	1	2	3	4
C おじいちゃん、おばあちゃんなど	1	2	3	4
D 学校の先生、スクールカウンセラー	1	2	3	4
E <sup>ほうかごじどう</sup> 放課後児童クラブ(学童)、 <sup>がくどう</sup> 放課後子ども教室、 <sup>じどうかん</sup> 児童館・ <sup>かん</sup> こども館、 <sup>せいしょうねんかいかん</sup> 青少年会館の <sup>しよくいん</sup> 職員	1	2	3	4
F 学校の友だち	1	2	3	4
G <sup>いがい</sup> 学校以外の友だち	1	2	3	4
H その他の大人(地域のスポーツクラブの <sup>コーチ</sup> コーチ や <sup>じゆく</sup> 塾・ <sup>なら</sup> 習い事の <sup>ごと</sup> 先生など)	1	2	3	4

問10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。

(それぞれ、<sup>ばんごう</sup>あてはまる番号 1 つに○)

	よくあった	<sup>ときどき</sup> 時々あった	あまりなかった	なかった	わからない
A 学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
B <sup>いじょう</sup> 1か月以上学校を休んだ <sup>びょうき</sup> (病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
C いじめられた	1	2	3	4	5
D <sup>おそ</sup> 夜遅くまで子どもだけで <sup>す</sup> 過ごした	1	2	3	4	5

問11 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）は誰と過ごしますか。  
 一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

- 1 家族（お母さんやお父さん、兄弟姉妹、おじいちゃん・おばあちゃんなど）
- 2 放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館の職員
- 3 地域の居場所にいる人（無料で勉強を教えてくれるところや子ども食堂などの地域で同じ年頃の子どもが集まる場所）
- 4 その他の大人（近所の大人、塾や習い事の先生など）
- 5 学校の友だち
- 6 学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど）
- 7 ひとりである

問12 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）はどこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	毎日	週に 3～4日	週に 1～2日	全く すごさない
A 自分家	1	2	3	4
B 友だちの家	1	2	3	4
C 塾や習い事	1	2	3	4
D 放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館	1	2	3	4
E 学校の部活動	1	2	3	4
F D、E以外で、学校の図書館、教室、校庭	1	2	3	4
G 地域の居場所（無料で勉強を教えてくれるところや子ども食堂などの地域で同じ年頃の子どもが集まる場所）	1	2	3	4
H 学校外のスポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）	1	2	3	4
I 公園	1	2	3	4
J （学校外の）図書館	1	2	3	4
K ファストフード店、ショッピングモール ゲームセンター	1	2	3	4
L その他（具体的に）	1	2	3	4

問 13 上の問 12 の A～L の場所の中で、あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。 1つだけ選

んで、その記号をカッコの中に書いてください。

ほっとできる居場所がない場合は、「X ほっとできる居場所はない」に○をつけてください。

記号 ( ) X ほっとできる居場所はない

問 14 あなたは、休日(学校がお休みの日)は誰と過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。(あてはまる番号 1つに○)

- 1 家族(お母さんやお父さん、兄弟姉妹、おじいちゃん・おばあちゃんなど)
- 2 放課後児童クラブ(学童)、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館の職員
- 3 地域の居場所にいる人(無料で勉強をしてくれるところや子ども食堂などの地域で同じ年頃の子どもが集まる場所)
- 4 その他の大人(近所の大人、塾や習い事の先生など)
- 5 学校の友だち
- 6 学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
- 7 ひとりでいる

問 15 あなたは、休日(学校がお休みの日)、どこで過ごしますか。一番長く過ごす場所に○をつけてください。(あてはまる番号 1つに○)

- 1 自分の家
- 2 友だちの家
- 3 塾や習い事
- 4 放課後児童クラブ(学童)、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館など
- 5 地域の居場所(無料で勉強をしてくれるところや子ども食堂などの地域で同じ年頃の子どもが集まる場所)
- 6 学校の部活動
- 7 学校外のスポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)
- 8 公園
- 9 図書館
- 10 ファストフード店、ショッピングモールなど
- 11 ゲームセンター
- 12 その他(具体的に )

問16 あなたは、おうちの大人の人と次のようなことをどのくらいしていますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	ほぼない
A 一緒に朝食をたべますか <small>いっしょ ちょうしょく</small>	1	2	3	4	5
B 一緒に夕食をたべますか <small>いっしょ ゆうしょく</small>	1	2	3	4	5
C 勉強をみてもらいますか <small>べんきょう</small>	1	2	3	4	5
D 一緒に遊んだり体を動かしたりしますか <small>いっしょ あそ からだ うご</small>	1	2	3	4	5
E 学校生活の話をしてもらいますか <small>せいかつ はなし</small>	1	2	3	4	5
F ニュースなどの社会のできごとについて話しますか <small>しやかい はな</small>	1	2	3	4	5
G 一緒に料理をしますか <small>いっしょ りょうり</small>	1	2	3	4	5
H 一緒に外出しますか <small>いっしょ がいしゅつ</small> (散歩、買い物、外食 など) <small>さんぽ か もの がいしょく</small>	1	2	3	4	5

問17 あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日2時間以上 <small>いじょう</small>	毎日1~2時間	毎日1時間以下 <small>いか</small>	1週間に4~5日	1週間に2~3日	1週間に1日	しない
A ゲーム機で遊ぶ <small>き</small>	1	2	3	4	5	6	7
B テレビを見る	1	2	3	4	5	6	7
C インターネットを見る	1	2	3	4	5	6	7
D スマートフォン、けいたい電話でメールやLINEをする	1	2	3	4	5	6	7
E 室内でのほかの活動 (読書、室内遊びなど) <small>しつない</small>	1	2	3	4	5	6	7
F 公園で遊ぶ <small>あそ</small>	1	2	3	4	5	6	7
G 塾や習い事 <small>じゅく なら ごと</small>	1	2	3	4	5	6	7
H 家事(洗濯、掃除、料理など) <small>か じ せんたく そうじ りょうり</small>	1	2	3	4	5	6	7
I 兄弟姉妹のお世話 <small>きょうだいしまい せわ</small>	1	2	3	4	5	6	7
J おじいちゃん、おばあちゃんのお世話 <small>せわ</small>	1	2	3	4	5	6	7

問18 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。(あてはまる番号1つに○)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

※雑誌やマンガは、内容に関わらず、数にふくめないでください。

- 1 読まなかった      2 1冊      3 2～3冊  
4 4～7冊      5 8～11冊      6 12冊以上

問19 あなたは、平日(学校に行く日)は、ほぼ同じ時刻におきていますか。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 起きている      2 どちらかといえば、起きている  
3 あまり、起きていない      4 起きてない

問20 あなたは、平日(学校に行く日)は、だいたい何時に寝ていますか。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 午後9時より前      2 午後9時台      3 午後10時台  
4 午後11時台      5 午前0時台      6 午前1時よりあと

問21 あなたは、平日(学校に行く日)は、だいたい何時間くらい寝ていますか。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 6時間より短い      2 6時間～7時間      3 7時間～8時間  
4 8時間～9時間      5 9時間～10時間      6 10時間より長い

問22 あなたは、平日(学校に行く日)に毎日、朝ごはんを食べますか。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 いつも食べる(週に5日)      2 食べるほうが多い(週に3、4日)  
3 食べないほうが多い(週に1、2日)      4 いつも食べない

問23 問22で2、3、4のどれかに○をした方（平日に朝ごはんを「いつも食べる」<sup>いがい</sup>以外の方）におたずねします。あなたが朝食を食べない理由はなんですか。（あてはまる番号1つに○）

- 1 時間がない                      2 おなかがすいていない
- 3 用意されていない              4 わからない

問24 あなたは、平日（学校に行く日）に毎日、夕ごはんを食べますか。  
（あてはまる番号1つに○）

- 1 いつも食べる（週に5日）                      2 食べるほうが多い（週に3、4日）
- 3 食べないほうが多い（週に1、2日）              4 いつも食べない

問25 問24で2、3、4のどれかに○をした方（平日に夕ごはんを「いつも食べる」<sup>いがい</sup>以外の方）におたずねします。あなたが夕食を食べない理由はなんですか。（あてはまる番号1つに○）

- 1 時間がない                      2 おなかがすいていない
- 3 用意されていない              4 わからない

問26 あなたは、給食<sup>きゅうしょく</sup>をのぞいて、以下の食べ物をふだんどれくらい食べますか。  
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	毎日 食べる	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日以下	食べない
A やさい 野菜	1	2	3	4	5
B くだもの	1	2	3	4	5
C 肉か魚	1	2	3	4	5
D カップめん・インスタントめん	1	2	3	4	5
E コンビニのおにぎり・お弁当	1	2	3	4	5
F かし お菓子	1	2	3	4	5

問27 あなたは、現在の自分の健康状態についてどう感じていますか。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 よい    2 まあよい    3 ふつう    4 あまりよくない    5 よくない

問28 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまる場所に○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	いつもそうだ	ときどき そうだ	そんなことはない
A <sup>たの</sup> 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
B とてもよく <sup>ねむ</sup> 眠れる	1	2	3
C <sup>な</sup> 泣きたいような気がする	1	2	3
D <sup>あそ</sup> 遊びに出かけるのが好きだ	1	2	3
E <sup>に</sup> 逃げ出したいような気がする	1	2	3
F おなかが痛くなることもある	1	2	3
G 元気いっぱいだ	1	2	3
H <sup>しょくじ</sup> <sup>たの</sup> 食事が楽しい	1	2	3
I いじめられても自分で「やめて」と言える	1	2	3
J <sup>しかた</sup> 生きていても仕方がないと思う	1	2	3
K やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
L いつものように何をしてても楽しい	1	2	3
M 家族と話すのが好きだ	1	2	3
N <sup>ゆめ</sup> こわい夢を見る	1	2	3
O <sup>ひと</sup> 独りぼっちな気がする	1	2	3
P <sup>お</sup> <sup>こ</sup> 落ち込んでいてもすぐに元気になる	1	2	3
Q とても悲しい気がする	1	2	3
R とても <sup>たいくつ</sup> 退屈な気がする	1	2	3

問29 あなたは、自分の体で気になることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)  
ばんごう

1. よく頭がいたくなる	5. よくかぜをひく
2. 歯がいたい	6. よくかゆくなる
3. ものが見づらい	7. とくに気になることはない
4. 聞こえにくい	8. その他 (具体的に )

問30 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、もっとも近いものに○をつけてください。  
ばんごう  
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても 楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみ ではない
A 算数(数学)の授業	1	2	3	4
B 国語の授業	1	2	3	4
C 理科の授業	1	2	3	4
D 社会の授業	1	2	3	4
E 音楽の授業	1	2	3	4
F 図工・美術の授業	1	2	3	4
G 技術・家庭科の授業	1	2	3	4
H 体育の授業	1	2	3	4
I 英語の授業	1	2	3	4
J 先生に会うこと	1	2	3	4
K 友だちに会うこと	1	2	3	4
L <small>ぶかつどう</small> 学校の部活動・クラブ活動	1	2	3	4
M 休み時間	1	2	3	4
N <small>きゅうしょく</small> 給食(お弁当)	1	2	3	4

問31 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまる番号1つに○)<sup>ばんごう</sup>

- 1 いつもわかる                      2 だいたいわかる                      3 あまりわからない  
4 わからないことが多い              5 ほとんどわからない

問32 問31で3、4、5のどれかに○をした方(学校の授業が「いつもわかる」「だいたいわかる」<sup>いがい</sup>以外の方)におたずねします。

いつごろから、授業がわからないことが多くなりましたか。(あてはまる番号1つに○)<sup>ばんごう</sup>

- 1 小学1年生のころ      2 小学2年生のころ      3 小学3年生のころ  
4 小学4年生のころ      5 小学5年生のころ      6 小学6年生のころ  
7 中学1年生のころ      8 中学2年生になってから      9 わからない

問33 勉強<sup>べんきょう</sup>がわからないときは、誰<sup>だれ</sup>に教えてもらいますか。(あてはまる番号すべてに○)<sup>ばんごう</sup>

- 1 親                      2 親以外の家族(兄弟姉妹や、おじいちゃん、おばあちゃんなど)<sup>いがい きょうだいしまい</sup>  
3 学校の先生                      4 児童館・こども館、放課後児童クラブ(学童)などの先生<sup>じどうかん かん ほうかごじどう がくどう</sup>  
5 塾<sup>じゅく</sup>や習い事の先生                      6 その他の大人                      7 友だち  
8 教えてもらえる人がいない

問34 あなたの成績<sup>せいせき</sup>は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまる番号1つに○)<sup>ばんごう</sup>

- 1 上のほう                      2 やや上のほう                      3 真ん中のあたり  
4 やや下のほう                      5 下のほう                      6 わからない

問35 あなたは、ふだん(月～金曜日)学校の授業以外<sup>いがい</sup>にどれくらいの時間、勉強<sup>べんきょう</sup>をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。※塾<sup>じゅく</sup>などでの時間も含みます。

(あてはまる番号1つに○)<sup>ばんごう</sup>

- 1 まったくしない                      2 30分より少ない                      3 30分以上、1時間より少ない<sup>いじょう</sup>  
4 1時間以上、2時間より少ない<sup>いじょう</sup>                      5 2時間以上、3時間より少ない<sup>いじょう</sup>                      6 3時間以上<sup>いじょう</sup>

問36 あなたは、自宅じたくで以下の教材いか きょうざいを使つかっていますか。(あてはまる番号ばんごうすべてに○)

- 1 学校くばで配くばられるドリルなど      2 本屋ほんやで売うっているドリルや参考書さんこうしょ  
 3 通信教育つうしんきょういくの教材      4 1～3以外きょうざいの教材      5 使つかっていない

問37 あなたは、学習塾じゅくに通かったり、家庭教師かていきょうしに來きてもらったりしていますか。通かっている(來きてもらっている)場合、1週間に何日くらいですか。(あてはまる番号ばんごう1つに○)

- 1 通かって(來きてもらって)いない      2 週に1日      3 週に2日      4 週に3日  
 5 週に4日      6 週に5日      7 週に6日      8 毎日

問38 あなたの思おもいや気持きもちちについて、「1 とても思おもう」から「4 思おもわない」のもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号ばんごう1つに○)

	とても思 <small>おも</small> う	思 <small>おも</small> う	あまり思 <small>おも</small> わない	思 <small>おも</small> わない
A がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
B 自分 <small>かち</small> は価値のある人間だ	1	2	3	4
C 自分は家族に大事にされている	1	2	3	4
D 不安に感じることもある	1	2	3	4
E 孤独 <small>こどく</small> を感じることもある	1	2	3	4
F 自分は友達に好かれている	1	2	3	4
G 積極 <small>せっきよくてき</small> 的に色々な人と話したい	1	2	3	4
H 自分 <small>しょうらい</small> の将来が楽しみだ	1	2	3	4
I 自分のことが好きだ	1	2	3	4

問 39 あなたは、以下のような場所などがあれば使ってみたいと思いますか。

(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	使って みたい	きょうみ 興味が ある	使いたく ない	ひつよう 使う必要 はない
A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所	1	2	3	4
B (家以外で) 休日にいることができる場所	1	2	3	4
C 家の人がいないうち、夕ごはんをみんなで食べることができる場所	1	2	3	4
D 家で勉強できない時、 静かに勉強ができる場所	1	2	3	4
E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4
F (学校以外で) なんでも相談できる場所	1	2	3	4
G 困ったときに自分のところまで来て相談にのってくれる人	1	2	3	4

# 子どもの生活実態調査

## (保護者用のアンケート用紙)



### ご記入に当たってのご注意

- ◆アンケートには、このアンケート用紙が配付されたお子さんの保護者の方が、お答えください。※アンケートの中の「お子さん」とは、このアンケート用紙が配付されたお子さんのことを指します。
- ◆この調査は無記名です。お名前は書かないでください。
- ◆お答えになりたくない質問には、無回答のまま、次の質問にお進みください。
- ◆ご記入いただいたアンケート用紙は、保護者用と書かれた封筒に入れてテープでとじてください。それを、児童・生徒用の封筒と一緒に返送用の大きな封筒に入れて郵送してください。
- ◆ご回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。また、調査の目的以外には使用しません。

この調査は、お住まいの市町村のご協力のもと、千葉県が実施し、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)に委託しています。

調査に関するお問い合わせは、以下までお願いします。

お問い合わせ電話番号：043-223-2309

千葉県 健康福祉部健康福祉指導課 自立支援班

(9:00~12:00、13:00~17:00 土日・祝日を除く)



問8 お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 いる          2 いない

問9 お子さんのお母さまの現在の就業状況は、次のどれに最も近いですか。

※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合(離婚・死別)は、問13にお進みください。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 民間企業の正社員      2 公務員などの正職員  
3 契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用      4 パート・アルバイト  
5 自営業(家族従業者を含む)      6 その他の働き方をしている      7 働いてない

問10 問9で「1」～「6」を選んだ、お母さまがお仕事をされている方におうかがいします。お子さんのお母さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。

※複数のお仕事をされている場合は仕事時間を合算してください。

週に平均\_\_\_\_\_時間程度

問11 問9で「1」～「6」を選んだ、お母さまがお仕事をされている方におうかがいします。お母さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 早朝(5～8時)      2 夜勤(20時～22時)      3 深夜勤務(22時～5時)  
4 土曜出勤          5 日曜・祝日出勤          6 平日の日中以外の勤務はない  
7 その他(具体的に\_\_\_\_\_)

問12 問9で「1」～「6」を選んだ、お母さまがお仕事をされている方におうかがいします。昨年1年間(2018年1月～12月)を合計した、お子さんのお母さまのお仕事からの収入(税込)は、およそいくらですか。

※収入なしの場合には、0をご記入ください。

およそ\_\_\_\_\_万円程度

問13 お子さんのお父さまの現在の就業状況は、次のどれに最も近いですか。

※お子さんにお父さまがいらっしゃらない場合(離婚・死別)は、問17にお進みください。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 民間企業の正社員      2 公務員などの正職員  
3 契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用      4 パート・アルバイト  
5 自営業(家族従業者を含む)      6 その他の働き方をしている      7 働いてない

問 14 問 13 で「1」～「6」を選んだ、お父さまがお仕事をされている方におうかがいします。お子さんのお父さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。

※複数のお仕事をもっていらっしゃる場合は仕事時間を合算してください。

週に平均\_\_\_\_\_時間程度

問 15 問 13 で「1」～「6」を選んだ、お父さまがお仕事をされている方におうかがいします。お父さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 早朝（5～8時）    2 夜勤（20時～22時）    3 深夜勤務（22時～5時）  
4 土曜出勤            5 日曜・祝日出勤            6 平日の日中以外の勤務はない  
7 その他（具体的に\_\_\_\_\_）

問 16 問 13 で「1」～「6」を選んだ、お父さまがお仕事をされている方におうかがいします。昨年1年間（2018年1月～12月）を合計した、お子さんのお父さまのお仕事からの収入（税込）は、およそいくらですか。 ※収入なしの場合には、0をご記入ください。

およそ\_\_\_\_\_万円程度

問 17 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の1回あたりの支給額はいくらですか。(枠内に数字で回答してください)

※該当する収入がない場合には、0とご記入ください。

※兄弟姉妹等にかかわる手当等も含みます。

※「児童扶養手当」は、所得が一定水準以下のひとり親等世帯の支援のための補助金です。

	1回あたり金額
A 児童手当	円（4か月に1回支払われます）
B 児童扶養手当	円（4か月に1回支払われます）
C 特別児童扶養手当	円（4か月に1回支払われます）
D 年金（遺族年金、老齢年金など）	円（2か月に1回支払われます）
E 生活保護	円

問 18 問 17 で回答いただいた、公的年金と社会保障給付金以外の収入についてお聞きします。お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入（税込）はいくら ですか。（あてはまる番号 1 つに○）

※収入には、勤労収入（パート、アルバイトを含む）、事業収入（自営業等）、農業収入、不動産収入、利子・配当金、個人年金、仕送りや元配偶者からの養育費を含みますが、上記問 17 で回答いただいた、公的年金と社会保障給付金は除いてお考えください。

※複数の収入源がある場合（お父さまが勤労収入、お母さまに事業収入など）は、おおよその合算値（合計額）を教えてください。

- 1 収入はない（0円）      2 1～50万円未満      3 50～100万円未満  
 4 100～200万円未満      5 200～300万円未満      6 300～400万円未満  
 7 400～500万円未満      8 500～600万円未満      9 600～700万円未満  
 10 700～800万円未満      11 800～900万円未満      12 900万円以上

問 19 現在お住まいの住居の形態は、次のどれが最もよくあてはまりますか。

（あてはまる番号 1 つに○）

- 1 持ち家      2 民間の賃貸住宅      3 県営・市営の住宅  
 4 都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅      5 社宅、官舎      6 その他

問 20 お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数（玄関やふろ等は含めない）を教えてください。また、それらの部屋の広さの合計を教えてください。

部屋数 \_\_\_\_\_ 室      部屋の広さの合計 \_\_\_\_\_ 平方メートル  
 （1坪=3.3平方メートル、2畳=3.3平方メートル）

問 21 1か月あたりの住居費負担はいくらですか。持ち家の場合は住宅ローン返済額、賃貸の場合は家賃および共益費・管理費を教えてください。（枠内に数字で回答してください）

A 持ち家（1か月あたりの住宅ローン返済額）	円
B 賃貸住宅（家賃+共益費・管理費）	円

問 22 このアンケート用紙が配付されたお子さんについて、次の費用は毎月おおよそいくら かかっていますか。平均的な額を教えてください。（枠内に数字で回答してください）

A 学校でかかる費用（教材費、修学旅行費、給食費など）	約	円
B 学校外でかかる教育費（塾、習い事など）	約	円

問23 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料や衣類を買えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A 食料	1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
B 衣類	1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった

問24 過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Hのサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あった	なかった	該当しない (払う必要がない)
A 電話料金	1	2	3
B 電気料金	1	2	3
C ガス料金	1	2	3
D 水道料金	1	2	3
E 家賃	1	2	3
F 住宅ローン	1	2	3
G 公的医療保険	1	2	3
H その他の債務	1	2	3

問25 次のもののうち、経済的理由のためあなたの世帯にないものはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- 1 子どもの年齢に合った本
- 2 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
- 3 子どもが自宅で宿題をすることができる場所
- 4 洗濯機
- 5 炊飯器
- 6 掃除機
- 7 暖房機器
- 8 冷房機器
- 9 電子レンジ
- 10 電話(固定電話・携帯電話を含む)
- 11 インターネットにつながるパソコン
- 12 新聞の定期購読(インターネット含む)
- 13 世帯専用のお風呂
- 14 世帯人数分のベッドまたは布団
- 15 急な出費のための貯金(5万円以上)
- 16 あてはまるものはない

問26 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 大変ゆとりがある      2 ややゆとりがある      3 普通  
4 やや苦しい              5 大変苦しい

問27 あなた(回答者)の健康状態はどうですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 よい      2 まあよい      3 ふつう      4 あまりよくない      5 よくない

問28 お子さんの健康状態はどうですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 よい      2 まあよい      3 ふつう      4 あまりよくない      5 よくない

問29 次のA~Fの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
A 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
B 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
C そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
D 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
E 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
F 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問30 あなたは、自分の体で気になることはありますか。(あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号すべてに○)

1. よく頭がいたくなる	5. よくかぜをひく
2. 歯がいたい	6. よくかゆくなる
3. ものが見づらい	7. とくに気になることはない
4. 聞こえにくい	8. その他
	(具体的に )



問37 あなたは、平日（お子さんの学校のある日）毎日、朝ごはんを食べますか。

（あてはまる番号1つに○）

- 1 いつも食べる（週に5日）                      2 食べるほうが多い（週に3、4日）  
3 食べないほうが多い（週に1、2日）      4 いつも食べない

問38 お子さんがこれまでに通ったことのある保育・教育機関等をすべてお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

- 1 認可保育所              2 無認可の保育施設              3 認定こども園  
4 家庭福祉員（保育ママ）    5 幼稚園（国立）    6 幼稚園（公立）    7 幼稚園（私立）  
8 小学校（国立）              9 小学校（公立）              10 小学校（私立）

問39 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

- 1 中学まで    2 高校まで    3 短大・高専・専門学校まで  
4 大学またはそれ以上    5 まだわからない

問40 あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。（あてはまる番号1つに○）

- 1 よくする    2 たまにする    3 あまりしない    4 これまで特にしたことがない

問41 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

（それぞれ、あてはまる番号一つに○）

	している	していない	
		したくない (方針でない)	経済的に できない
A 毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる	1	2	3
D 学習塾に通わせる（家庭教師、通信教育を含む）	1	2	3
E お誕生日のお祝いをする	1	2	3
F 1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2	3
G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3
H 子どもの学校行事などへ親が参加する	1	2	3

問42 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ある	ない		
		金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で
A 海水浴に行く	1	2	3	4
B 博物館・科学館・美術館などに行く	1	2	3	4
C キャンプやバーベキューに行く	1	2	3	4
D スポーツ観戦や劇場に行く	1	2	3	4
E 遊園地やテーマパークに行く	1	2	3	4

問43 あなたは、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	ほぼない
A 一緒に朝食をたべる	1	2	3	4	5
B 一緒に夕食をたべる	1	2	3	4	5
C 勉強をみてあげる	1	2	3	4	5
D 一緒に遊んだり体を動かしたりする	1	2	3	4	5
E 学校生活の話をする	1	2	3	4	5
F ニュースなどの社会のできごとについて話す	1	2	3	4	5
G 一緒に料理をする	1	2	3	4	5
H 一緒に外出する(散歩、買い物、外食など)	1	2	3	4	5



問 49 あなたが 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号 1 つに○)

- 1 大変ゆとりがあった      2 ややゆとりがあった      3 普通  
4 やや苦しかった      5 大変苦しかった

問 50 今から 10 年前の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号 1 つに○)

- 1 大変ゆとりがあった      2 ややゆとりがあった      3 普通  
4 やや苦しかった      5 大変苦しかった

問 51 あなたは、成人する前に以下のような体験をしたことがありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- 1 両親が離婚した      2 親が生活保護を受けていた  
3 母親が亡くなった      4 父親が亡くなった  
5 親から暴力を振るわれた      6 育児放棄（ネグレクト）された  
7 1～6 のいずれも経験したことがない

問 52 あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- 1 (元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある  
2 子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある  
3 育児放棄になった時期がある  
4 出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある  
5 わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある  
6 自殺を考えたことがある  
7 1～6 のいずれも経験したことがない

問 53 あなたの思いや気持ちについて、「1 とても思う」から「4 思わない」のもっとも 近いものに ○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても思う	思う	あまり 思 わ ない	思わない
A がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
B 自分は価値のある人間だ	1	2	3	4
C 不安に感じることもある	1	2	3	4
D 孤独を感じることもある	1	2	3	4
E 目標や計画は達成できる	1	2	3	4
F 積極的に色々な人と話したい	1	2	3	4
G 今後の人生が楽しみだ	1	2	3	4
H 自分のことが好きだ	1	2	3	4

問 54 あなたは、子どもに関する支援制度等の情報をどういう方法で受け取っていますか。  
また今後、受け取りたいですか。(それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

現在の受け取り方法	今後、受け取りたい方法
1 行政の広報誌	1 行政の広報誌
2 行政機関のホームページ	2 行政機関のホームページ
3 SNS (LINE、ツイッター、アプリなど)	3 SNS (LINE、ツイッター、アプリなど)
4 学校からのお便り (紙のもの)	4 学校からのお便り (紙のもの)
5 学校からのメール	5 学校からのメール
6 家族や友人からの情報	6 家族や友人からの情報
7 その他 (具体的に )	7 その他 (具体的に )

問 55 このアンケート用紙が配付されたお子さんに関して、以下の A～F の民間も含めた取り組みについて、これまでに利用したことがありますか。ある場合は「1」に○をつけてください。利用したことがない場合は、「2」～「6」のうち、その理由に最も近いものにそれぞれ○をつけてください。  
また、利用したことはないが、利用について興味がある場合は「7」に○をつけてください。

	利用したことがある	利用したことがない					利用したことはないが 興味がある
		利用したいと思 ったことが なかった	利用したか つたが条件 を満たして いなかった	利用時間や 制度等が使 いづらかった	利用の仕方が わからなかつ た	制度等につ いて知らな かつた	
【記載例】 <制度等について知らなかったために利用していないが、利用に興味がある場合>							
A 子育て短期支援事業（ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7
A 子育て短期支援事業（ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7
B ファミリー・サポート・センター	1	2	3	4	5	6	7
C 子ども食堂	1	2	3	4	5	6	7
D フードバンクによる食料支援	1	2	3	4	5	6	7
E 放課後に過ごせる居場所 （放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館）	1	2	3	4	5	6	7
F 学校以外が実施する学習支援	1	2	3	4	5	6	7

<制度の説明>

A 子育て短期支援事業 （ショートステイ）	入院、出産、介護、仕事などで、一時的にお子さんの養育にお困りのとき、児童福祉施設で子どもを預かる制度
B ファミリー・サポート・センター	育児のお手伝いをしてほしい方（利用会員）と育児のお手伝いをしたい方（提供会員）の両者を登録して、援助活動により仕事と育児の両立や、子育てする家庭にゆとりを持っていただけるよう支援する制度
C 子ども食堂	子どもたちの食の支援、居場所の支援等を目的に、民間団体などが無料または格安で食事を提供している場所
D フードバンク	まだ食べられるにもかかわらず処分されてしまう食品を、NPOなどが食品メーカー等から引き取って、福祉施設や支援を必要とする人へ無料で提供する活動

問56 あなたのご家庭では、以下の公的扶助、支援制度等を利用したことがありますか。

利用したことがない場合は、「3」～「7」のうち、その理由に最も近いものにそれぞれ ○をつけてください。

また、利用したことはないが、利用について興味がある場合は「8」に○をつけてください。

	現在利用している	利用したことがある	利用したことがない					利用したことはないが興味がある
			利用したいと思ったことがなかった （そもそも制度等の対象外であった）	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度等が使いづらかった	利用したかったが利用の仕方がわからなかった	全く知らなかった	
A 児童手当	1	2	3	4	5	6	7	8
B 児童扶養手当	1	2	3	4	5	6	7	8
C 特別児童扶養手当	1	2	3	4	5	6	7	8
D 就学援助費	1	2	3	4	5	6	7	8
E ひとり親家庭等医療費等助成	1	2	3	4	5	6	7	8
F 母子・父子・寡婦福祉資金	1	2	3	4	5	6	7	8
G 生活福祉資金	1	2	3	4	5	6	7	8
H 生活保護	1	2	3	4	5	6	7	8

<制度の説明>

A 児童手当	中学校卒業までの児童を養育している方が、日本国内に住所を有している場合に支給される手当
B 児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の支援のために支給される手当
C 特別児童扶養手当	精神又は身体に重度又は中度の障害を有するため、日常生活において介護を必要とする20歳未満の児童を育てている家庭に支給される手当
D 就学援助費	小・中学校に就学させるのに経済的理由でお困りの方に対して、学用品費、給食費などを援助する制度
E ひとり親家庭等医療費助成	所得が一定水準以下のひとり親世帯の医療費に対する助成
F 母子・父子・寡婦福祉資金	母子家庭、父子家庭、寡婦の経済的自立を支援するための貸付
G 生活福祉資金	所得が一定水準以下の世帯等を対象とした低利または無利子の資金貸付。窓口は市町村の社会福祉協議会
H 生活保護	病気や失業などのため、生活費や医療費に困り、ほかに方法がないときに援助が受けられる制度

問57 あなたは、これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか。

相談したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	相談したことがある	相談したことがない			
		相談したいと思った ことがなかった	抵抗感があった 相談しなかったが	相談時間や場所など が使いづらかった	相談する窓口や方法 がわからなかった
A 市役所、町村役場の窓口	1	2	3	4	5
B 学校・保育所・幼稚園の先生	1	2	3	4	5
C スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	1	2	3	4	5
D 民生委員・児童委員	1	2	3	4	5
E 保健所（健康福祉センター）	1	2	3	4	5
F 中核地域生活支援センター	1	2	3	4	5
G 生活困窮者自立支援制度に 基づ く相談窓口	1	2	3	4	5
H 千葉県子ども・若者総合相談 センタ ー「ライトハウスちば」	1	2	3	4	5
I ハローワーク	1	2	3	4	5
J 上記以外の公的機関	1	2	3	4	5

問58 あなたが今、困っていることや悩み事がありましたら、ご自由にお書きください。